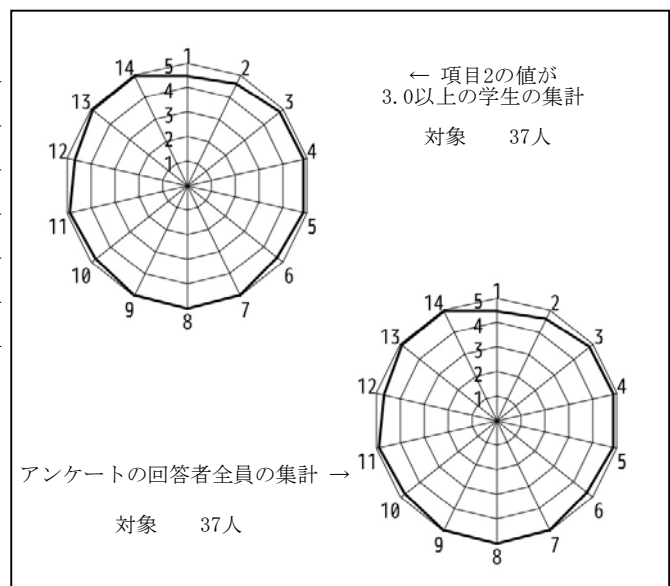


2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	歴史と文明
授業コード	46B10-001
教員名	山田 望
教員コード	000211
登録人数	56
回答数	37
回答率	66.1%
休講回数	2 回
補講回数	1 回

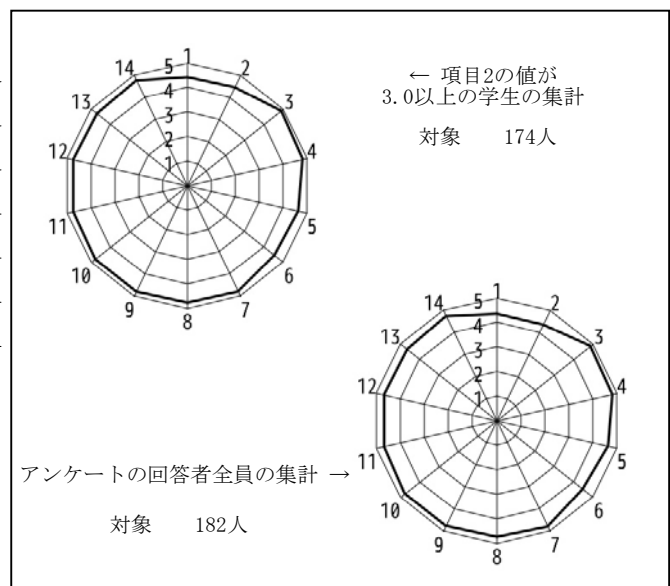


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数56名の授業で、回答者数37名、回答率は66%であった。複数回、抜き打ちで出欠を取ったが、出席者数もほぼ37名程度だったため、回答率としては若干低い数値ではあるが、そもそも授業に出席している学生数自体がこの程度の出席率であったということになる。出席率、ならびに回答率を次年度からはもう少しあげる工夫が求められる。回答の内容としては、すべての項目で総合政策学科科目平均値を上回っており、最も重要な学生の満足度を図る項目の設問13については、学科科目平均値が4.59のところ私の授業では4.92、設問14についても、学科科目平均値がこれも4.59のところ4.95という非常に高い値を記録しており、この点で、本科目の目標到達度に関しては申し分ない結果であったと言える。他の項目ほとんどについても、0.20~0.30ほど学科科目平均値よりも上回っており、また自由記述欄の学生の記述内容も、きわめて高い肯定的評価が多数であった。特筆に値する数値としては、設問8教員の声や音声機器の音が良く聞き取れたか？という設問に対して、全員が最高点をつけ、5.00という数値であったのは、私にとっても初めての経験であった。他方、設問2の予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか、との問いに対して、4.62というかなり低い数値だったので、次回からは学生たちが主体的に授業に参加できるような工夫が必要だと感じた。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会学概論
授業コード	46D07-001
教員名	狭間 諒多朗
教員コード	104124
登録人数	399
回答数	182
回答率	45.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

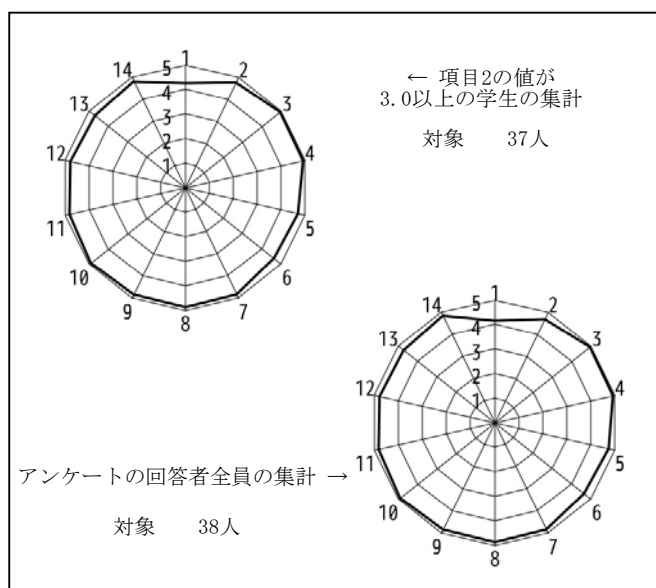
本授業では「①わたしたちの身近な問題を、社会学の視点から考察し、批判的に捉える力を身につける」「②課題を通して、事象について適切な根拠づけや理屈だて（論証）ができるようになる」「③総合政策学部ディプロマポリシーの公共政策の専門的知識やスキルを駆使して、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力をつけることができるようになる」の3つの到達目標を掲げている。①については、家族や労働、教育といった様々なトピックについて社会学的な見方を紹介し、②については、各トピックについての統計データなども見せながら解説することを心掛け、③については、政策立案における社会学の必要性を解説した。毎回のリアクションペーパーから、いずれの観点についても、受講生はきちんと理解できていたと考えている。

「学生による授業評価」の評価をみると、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。特に、項目番号4の平均値が4.81と高い評価を得ており、毎回適切な授業を行うことができたと考えている。また、項目番号7の平均値が4.78と高い評価を得ており、こちらの熱意伝わった結果だと思われる。これらのポイントが全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.73）。

一方で、自由回答をみると、私語が多かったという苦情が寄せられている。400人という大人数の講義で、完全に私語を注意するのは難しいと感じたが、今後は、何らかの工夫をしていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語I1
授業コード 46F01-001
教員名 O' CONNELL, Sean
教員コード 100448
登録人数 42
回答数 38
回答率 90.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

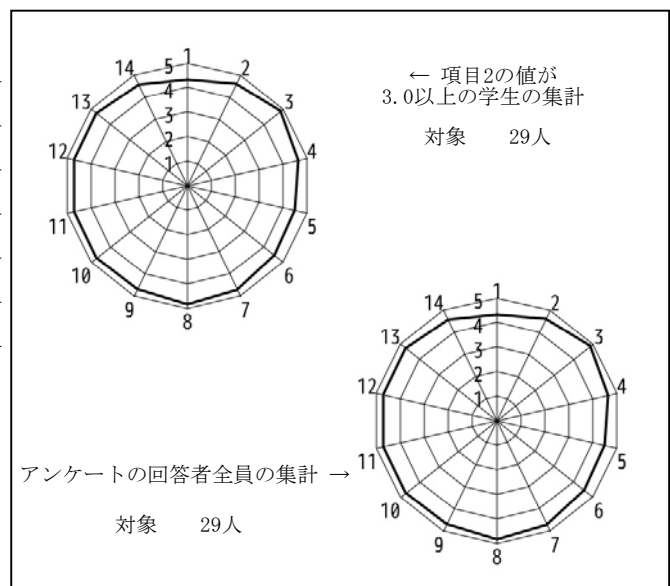
The goals set for this class focused on: (1) increasing knowledge in English of international and public policy issues in Japan, (2) enhancing English production skills through student-centred activities such as discussions and presentations, and (3) deepening intercultural understanding through comparisons with overseas international and public policy issues. Overall, all three goals were achieved to a more than satisfactory level due to the positive participation of the students.

Looking at the overall evaluation data, the average score of 4.82 would suggest that the students were highly satisfied with the way in which the course was designed and delivered. In terms of individual comments, many students expressed gratitude toward being allowed to utilise their English skills through in-class activities (reading, writing and discussions) as well as being able to polish their presentation skills (design and delivery).

In terms of improvements for the future, some students commented on making handouts available for each class via WebClass and other students suggested individual presentation evaluations by students with feedback given to each presenter. Both of these suggestions are invaluable and I will endeavour to implement them from Q3 onward.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	総合政策中国語I1
授業コード	46F04-001
教員名	原田 直枝
教員コード	018754
登録人数	30
回答数	29
回答率	96.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

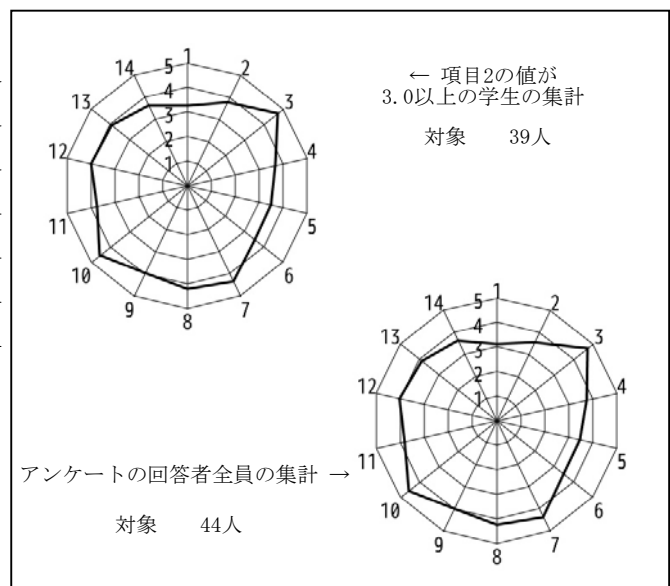


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目は開講当初、1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる、2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する、3. 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる、の3つの目標を設定した。本科目はこの後、Q3、Q4に開講される継続科目と合せて、最終的にこれらの目標に到達することを見込んでおり、その導入・準備相当の到達はできているように見ている（各回授業取組み、小テスト成果、期末試験などによる）。
- ②現代中国の諸事情に関する初歩的話題について、具体的に理解が可能となるよう、地図を含む画像、映像資料を昨年度までよりも数点多く取り入れて授業で提示したことは、学生たちにもある程度好評であったようで嬉しい（項目15の自由記述回答による）。
- ③中国とその社会に関する基本的な情報にできるだけ多く触れてもらうための教材を、1クォーター7回の授業で少しでも多くこなすことを優先したことから、授業進度が少し早めになり、また、繰り返しの練習の時間をとりにくかった。このことについて、物足りないと思う学生もいる（項目16の自由記述回答による）ので、バランスよく授業を構成できるよう今後の課題としたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	行政学
授業コード	46K01-001
教員名	茂木 康俊
教員コード	104802
登録人数	76
回答数	44
回答率	57.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

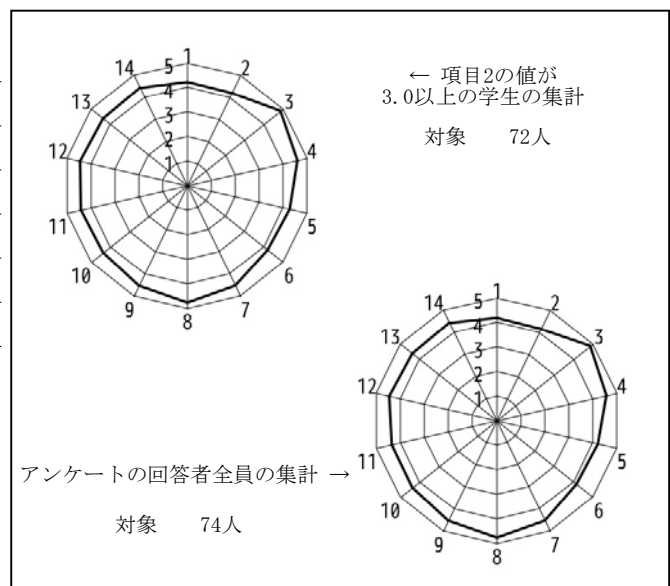


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、到達目標として次の4点を挙げている。1. 行政の制度や機能について考えるための基礎的な知識を理解できるようになる。2. 行政学・政治学上の理論や概念枠組みに関して知識を深め、行政の制度が理解できるようになる。3. 講義内レポートや期末試験を通して、身につけた知識を活用し表現できるようになる。4. 総合政策学部ディプロマポリシー記載の、公共政策の専門的知識やスキルを駆使して、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力をつけることができるようになる。まず総合満足度に当たる質問14の平均値は3.61であり、良好であると言える。次に、個別質問項目を見ると問3や問10が4.5を超える平均値であり、目標1と目標2に掲げている知識習得の前提となる学習環境に関して良好に保たれていることが理解できる。自由記述回答を見てみると、「説明が具体的で分かりやすかった。」などとわかりやすさを高く評価するコメントが見られる（項目15）。改善すべき点に関する項目17については、スライドそのものを配布して欲しいという希望が見られる。今年度については、Wordファイルで配付資料を用意し、空欄補充で受講生の関心を高めることをねらった。学習効果の観点から配布方法については再検討し、よりよい授業運営を今後も目指していきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	財政学
授業コード	46K02-001
教員名	澁谷 英樹
教員コード	151974
登録人数	207
回答数	74
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

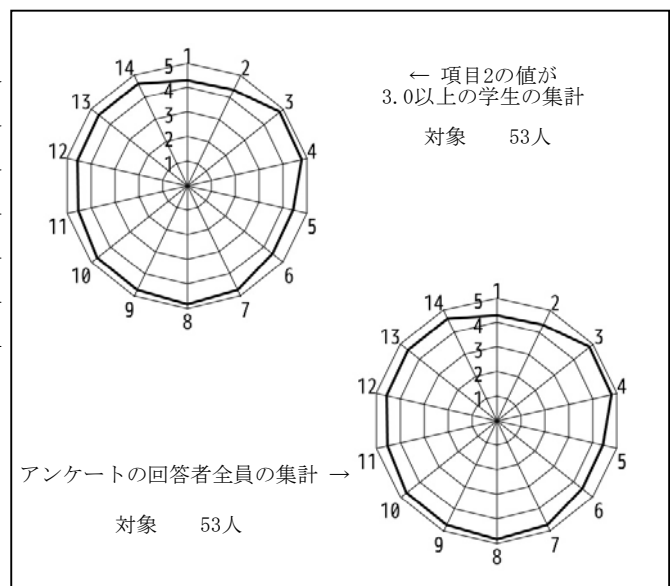
本講義では、前年度の同科目に比較して、大きく運営方法の改善をはかった。その第一は、授業途中に5分間の小休憩を設けたことにある。これは、以前より私は内容を詰め込みがちである反省を抱えており、学生からの要望を契機として取り入れたものである。第二に、出席方法をリアクションペーパーに改めた。これは、公平性を徹底するためと熱心な参加を奨励するためである。

このリアクションペーパーの採用により、レジュメ以外の話題が広がった。出席方法が煩雑となった点は反省すべきだが、学生の反応はおしなべて好評であった。とりわけ、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」が4点台となっていることには、私の狙いとしてきたものが現れている。ただし、自由記述にもあったように、非経済学部の学生にとって難しい設問があった点は、私も自覚するところである。とはいえ、文章の書き方について述べることができた点は、自由記述でも好評であった。文章を直接指導することには、少なからず需要があるように思われる。

一方、この改善により講義内容が過剰となり、レジュメも分量が多すぎると思われる。また、授業の進行も、おそらく非経済学部の学生にとって速すぎると思われる。したがって、来年度は内容を再整理し、蛇足な部分は削減しなければならないだろう。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	現代企業論
授業コード	46K03-001
教員名	金綱 基志
教員コード	102923
登録人数	147
回答数	53
回答率	36.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

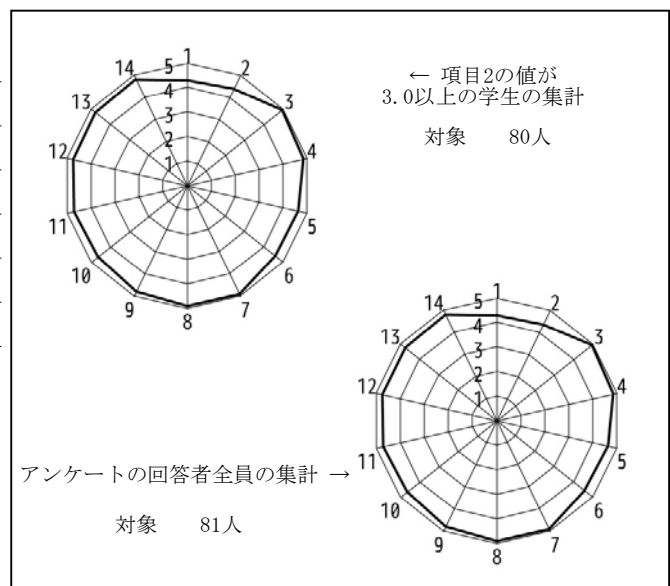


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の全体としての満足度を問う設問14の平均値は4.62であり、全体平均、総合政策学科の平均を上回っている。講義の進行速度を問う設問4の平均値は4.79、姿勢の誠実さや真剣さを問う設問7の平均値は4.74、資料を効果的に使うことを問う設問9の平均値は4.72で高い評価となっている。自由記述欄を見ると、講義の初めに前回の復習を行っていること、エクササイズを取り入れて学生との双方向のやり取りを行っていること、スライドが分かりやすいこと、説明が分かりやすいことなどが評価されていた。自主的な学習を促すための工夫を問う設問11、課題に対する事前・事後指導を問う設問12の評価が他に比べるとやや低かった。自主的な学習や、課題の事前・事後指導については、レポートについての解説を行うなどの工夫を検討していきたい。また、講義で扱うデータなどは最新のものにしていくなど、最新の情報を盛り込んだ講義とするように努力していきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境行政論
授業コード	46M02-001
教員名	石川 良文
教員コード	100650
登録人数	158
回答数	81
回答率	51.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初は全ての設問で大学平均を超えていること、また全体的な評価については4.5を超えることを目標としていたが、どの目標も達成し特に設問14の全体としての満足度は4.80と極めて高い評価であった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

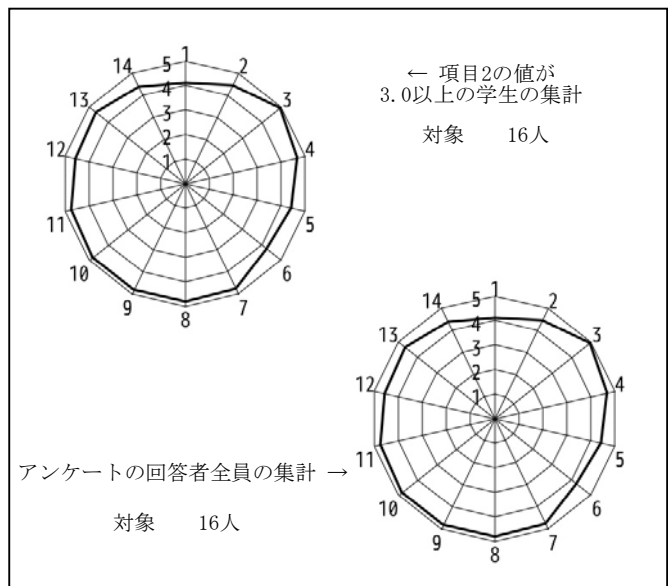
全ての設問で大学平均を超えているが、中でも「授業の開始と終了の時間」「担当教員の授業に取り組む姿勢」「教員の声や音声機器の音」は4.9を超えており授業運営がうまくいっていることがアンケートの結果から分かった。また、「この授業の到達目標を理解」「授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については大学全体平均値を大きく上回っており、学科科目として設定した目標を達成できた。自由意見でも授業の運営、授業内容、授業方法についてよかったと回答した学生が多く、本授業は適切に実施されたと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

特に大きな改善点はないが、「予習復習など主体的な授業参加」の評価が4.33と低かったため、予習や復習をすることを強く言うと共に、予習復習用の参考図書などを紹介するようにする。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境社会学
授業コード	46M03-001
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	41
回答数	16
回答率	39.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



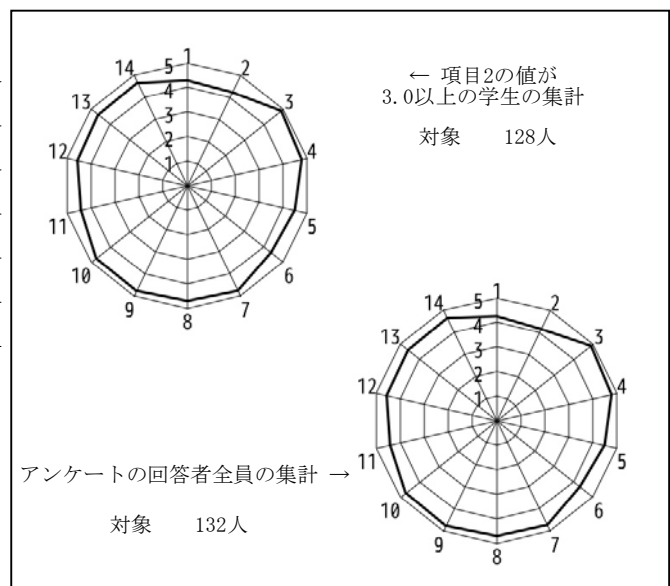
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業全体を通して回答してもらいたいとの思いから、学生には基本的に最終回での回答を求めた。回答率が低めであるが、回答者の回答は総じてかなり肯定的であった。問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」については、授業時間帯以外の質問は実際にはあまり受けなかったが、Webclassのメッセージ機能を利用するように毎回授業の最後にアナウンスをしていたことも、「機会が十分に設けられている」との評価が4.5を超える結果になった可能性があると考えている。ほかの担当科目でも継続しようと考えている。

問1の「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」が今回の授業評価項目では最も低い4.13であったが、問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」や問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」の評価が問1よりも高かった。学生にとって、この科目を受けてよかったと思っているのであれば、担当者としてもうれしいことである。

2024年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人的資源管理論
授業コード	46N05-001
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	309
回答数	132
回答率	42.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、経営学の視点から、組織（＝経営者など）は労働者である「ヒト」をいかに捉え、活用してきたのかを「労働・人間観」の変遷を通じて学んだ上で、経営組織（＝企業）における人的資源管理の体系と機能に関して理解することを目的とした。

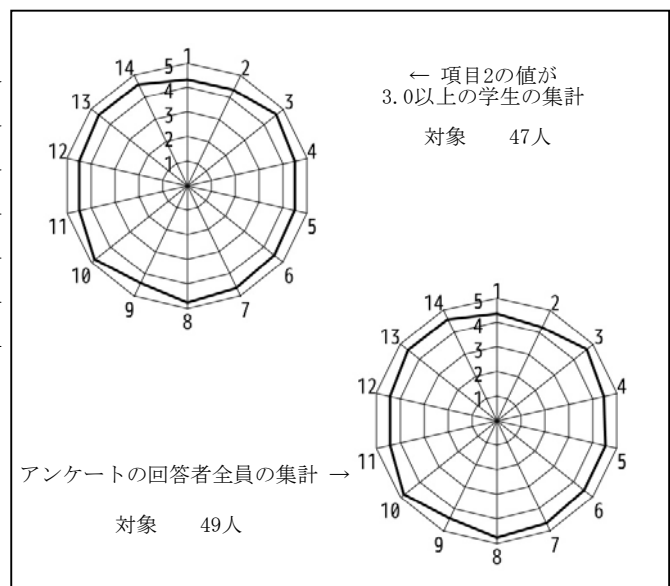
今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.64である。本科目は2020年度に授業評価対象となったが、その際にはオンライン授業であったため、対面授業であった2018年度（4.65）と比較しても、安定して高い肯定的評価が得られている。ただ、主体的な学習に関する項目（設問2）は、他の項目と比べやや低い値4.14（2018年度値：4.11）であり、今後、講義内容の枠組みを変更し、トピックスごとに課題を設定するなど、学生の主体的な学習を促すことへの検討を継続していく。

また、自由記述では主に「分かりやすい説明と解説」、「資料（レジュメ・スライド）が良い」、「将来に役立つ」の3点による肯定的なコメントが多く寄せられた。また、「授業の内容が面白い」や「参加するのが楽しみだった」というコメントはこちらの励みにもなる。その一方で、「後ろの席での私語が気になる」とするコメントが数件寄せられた。私語については逐次注意はしてきたが、教室の後方1/3に学生が密集する傾向があったため、ちょっとした私語が気になったのかもしれない。今後は座席の密集度を見つつ、適切な指示をしていきたい。

以上の点を踏まえ、今後もスライドやプリントなどの授業資料と運用の改善を進めると共に、学生が社会に出ると直面するであろう問題を人的資源の立場から取り上げ、具体的事例を用いつつ興味や関心を高めつつ学習できる授業内容および授業への参加を促す構成へと改善を図りたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際政治経済論
授業コード 46N09-001
教員名 小尾 美千代
教員コード 102453
登録人数 114
回答数 49
回答率 43.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

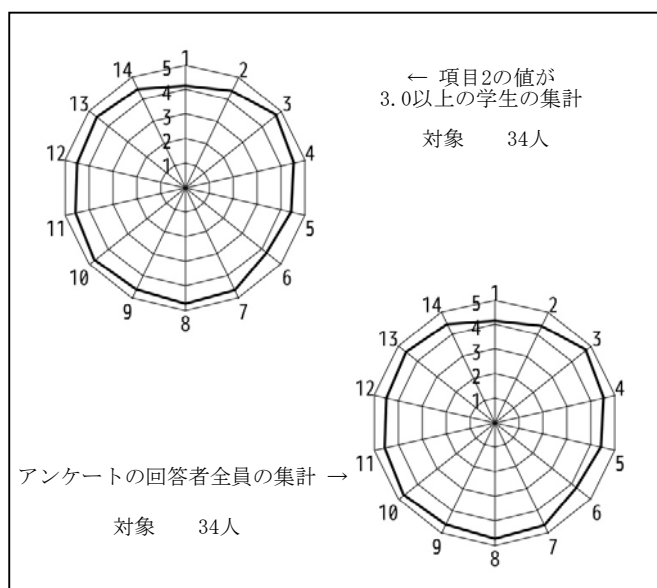
この授業では、1) 国際政治経済学の概念や理論について理解できるようになること、2) 第二次世界大戦後から現在までの経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治の相互関係について理解できるようになること、さらに、3) 総合政策学部ディプロマポリシーの、国際政策の専門的知識を駆使して、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力をつけることができるようになること、を目標とした。履修登録者114名のうち、回答者は49名で、そのうち質問項目2の値が3.0以上の学生は47名でした。ご協力ありがとうございました。

授業評価としては、授業の到達目標に関する項目6は4.55で昨年度より+0.17でしたが、新しい知識や理解に関する項目13は4.61で昨年度より-0.15でした。昨年度の回答数が30名以下でしたのでその影響もあるかもしれませんが、受講生の皆さんが新しい知識を習得したり、理解を深められるように努力していきたいと思います。

頂いたコメントでは穴埋め式のレジュメが好評でしたので、継続させたいと思います。また、私語への対応も評価する声が複数寄せられましたので、引き続き授業中の環境に気を配りつつ授業を運営していきたいと思います。授業で最近のニュースに触れていることについても日常生活との関連付けの点から評価する声がありましたので、この点についても意識して、受講生の皆さんの関心を引き出せるように努力していきたいと思います。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地球環境論
授業コード	46N20-001
教員名	藤本 潔
教員コード	100100
登録人数	95
回答数	34
回答率	35.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

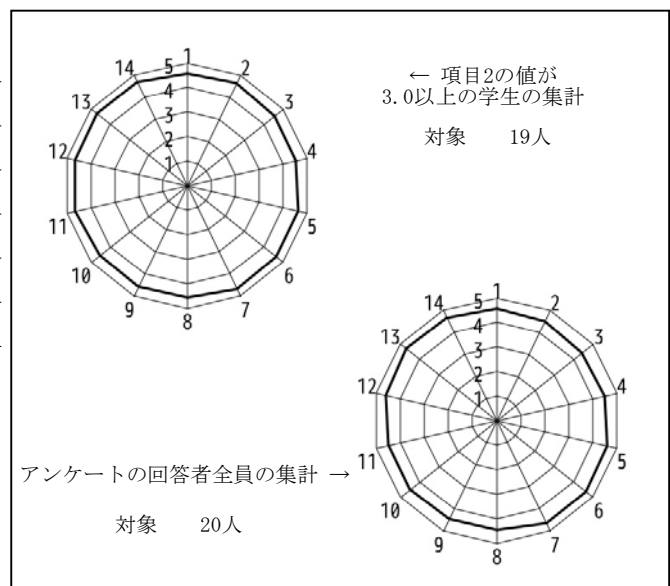


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の授業評価は2年ぶりに実施された。項目3～14の平均値は4.56で、直近5回の値（2022年4.44、2021年4.66、2019年4.20、2018年4.40、2017年4.60）と比べると、その平均値（4.46）をやや上回る結果となった。対面授業が再開された2022年度は、設問12の値が2021年度（オンライン授業）の4.84から4.34に低下したが、今年度は4.50にやや持ち直した。オンライン授業時にはチャットで気軽に質問する学生が多かったが、対面授業では途端に質問する学生が減少する。そこで、今年は授業の最初にリアクションペーパーやレポート課題についての振り返りや解説の時間を毎回確保し知識の定着を図ったことが、この設問に対する評価の向上に結び付いたものと考えられる。この点については、自由記述の良かった点・評価できることに複数の学生が記載していたことから確認できる。設問6の「授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか」との問いに対しては4.26と相対的に低い値となっていることから、来年度以降は講義の内容と授業の到達目標との関係をより分かり易く説明するなど、この点を改善させるための方策を考えたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 地域研究論
授業コード 46N22-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 72
回答数 20
回答率 27.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

事前に準備した項目については過不足なく達成できた。ただ、常に変化する現状についてもその都度言及する必要がある、全体のバランス調整については今後検討課題がある。具体的には、構造的な話について理解させたいが、その構造の中で現在進行形の現状をどのように落とし込んでいくのか、について検討する必要がある。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

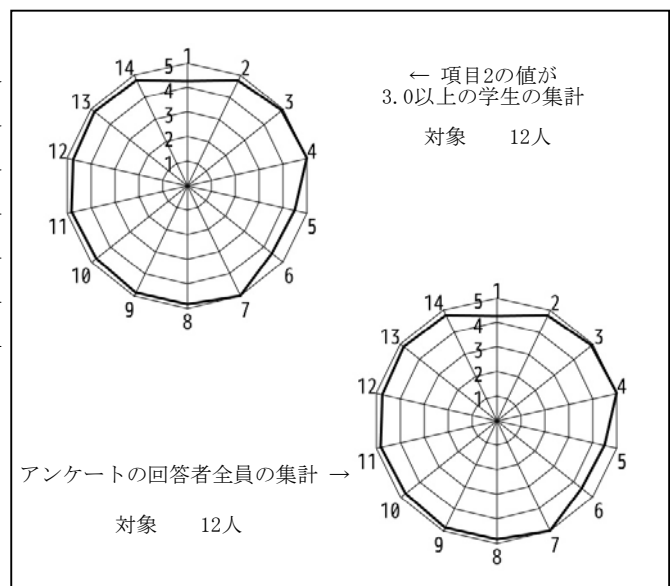
期末試験の結果から、目標としたところには一定程度達成したと思われるので、自己点検として合格の評価はできると思う。ただ、やはり試験結果から、ポイントとなるところが微妙に理解されていなかったところが散見されたことから、まだ十分とは言えず、改善の余地はあるかと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

構造的な部分の講義よりも、私個人の経験を踏まえた話に興味を持つ学生が多かったが、単に私の経験談を披瀝するに終わってしまっては意味がない。したがって、自分の経験談からいかに普遍化し、それを構造的な理解につなげるか、については引き続き検討する必要があると考えている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語I6
授業コード	46F01-006
教員名	Jean Claude AHWENG
教員コード	104148
登録人数	40
回答数	12
回答率	30.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were for the students to: (1) undertake independent research and think about the assigned policy related topics; (2) convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research. A good learning environment and teacher-student communication prevailed during the semester.

Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments.

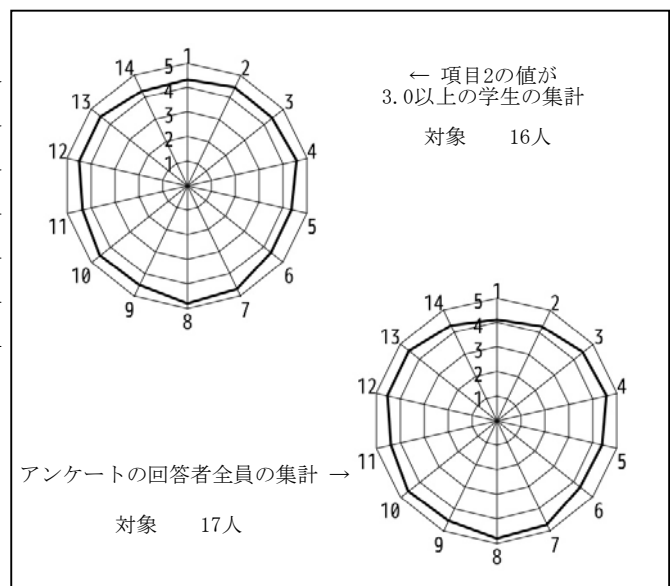
The students found the assigned topics to be interesting and thought provoking, and took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports. Based on feedbacks from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English.

The teacher concludes, therefore, that the course attained its goals. In the future, the content of the course will be updated to include recent important developments in world affairs, such as the Russia-Ukraine war and the Israel-Palestine conflict.

(223 words)

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アジア政治社会論
授業コード 46L02-001
教員名 一谷 和郎
教員コード 102392
登録人数 59
回答数 17
回答率 28.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

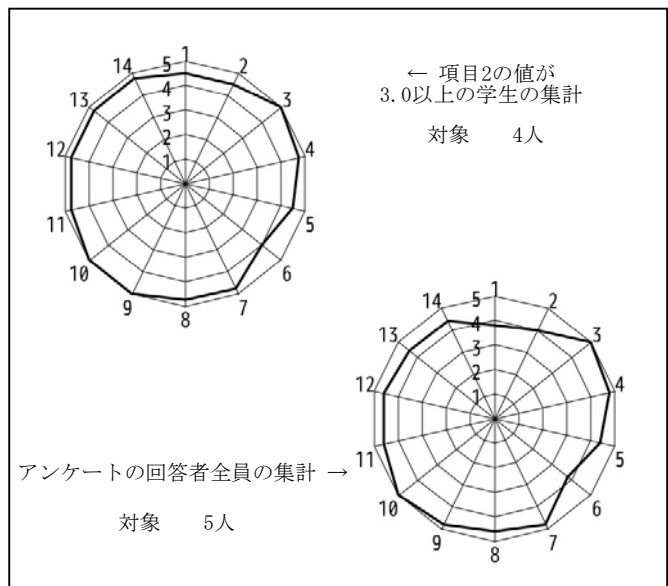


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定した目標と到達程度について、3つの目標（1：アジアの政治と社会に対する問題意識を形成するために必要な政治学の提起する問題を理解できるようになる。2：中国を中心とするアジアの政治と社会の歴史的変遷について説明できるようになる。3：現代中国で起こる様々な政治および社会現象の歴史的背景について自分の考えを記述できるようになる）についてはおおよそ達成することができた。その一方で最後に掲げた目標（総合政策学部のディプロマ・ポリシーにおける、国際政策に関する専門的知識やスキルを駆使することにより、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力を身につけられるようになる）については十分に達成することができなかった。
- ②担当科目に関する自己点検・評価として、開講主体別平均値データで比較すると若干下回る項目が多いということを認識することができた。自由記述では、海外事情や政治への関心が高まった、レジュメが見やすい、授業の雰囲気が良いといった記述がある一方で、縦書きの板書が見にくいという記述があった。
- ③次年度では、板書の仕方やリアクションペーパーの提出方法について改善すべき点があると考えている。また、授業目標4にそった授業内容を展開できるように、次年度に向け準備を整えるつもりである。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境会計論
授業コード	46N13-001
教員名	東田 明
教員コード	101591
登録人数	24
回答数	5
回答率	20.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

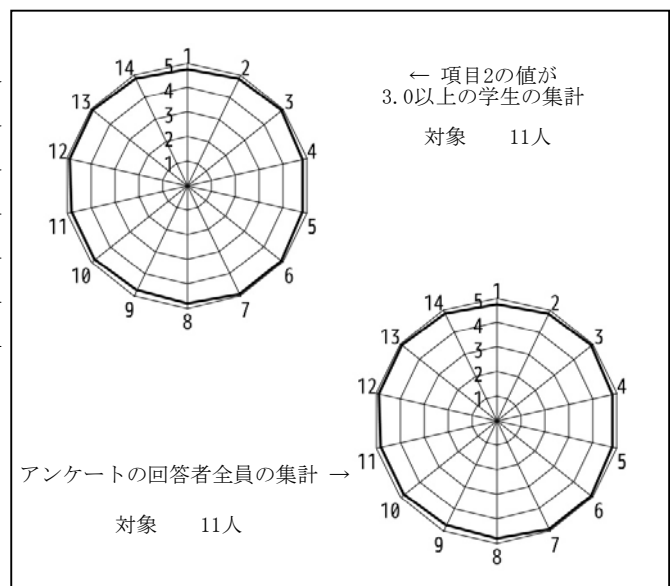


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の目標は、①企業に対して環境・社会的課題への対応を求める制度の要請の理解、②社会から要請される環境・社会的課題を企業内に取り込み、またステイクホルダーに説明する際に会計が果たす役割を理解することであった。受講者が少なかったので、アンケートの回答数も少ないが、概ね良い評価を得ており、目標を果たせたのではないかと思う。授業の中でもできるだけ具体的な企業の事例を扱うようにしたので、そうしたことも含めて多くの学生が環境経営・会計について興味を持ってもらえたのであれば良かった。板書を学生がノートに記入する時間が短いといったコメントもあったので、今まで以上に学生の理解や行動に目配せをしながら授業を進めていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(総合)1
授業コード 11L16-001
教員名 山口 和代
教員コード 049726
登録人数 12
回答数 11
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

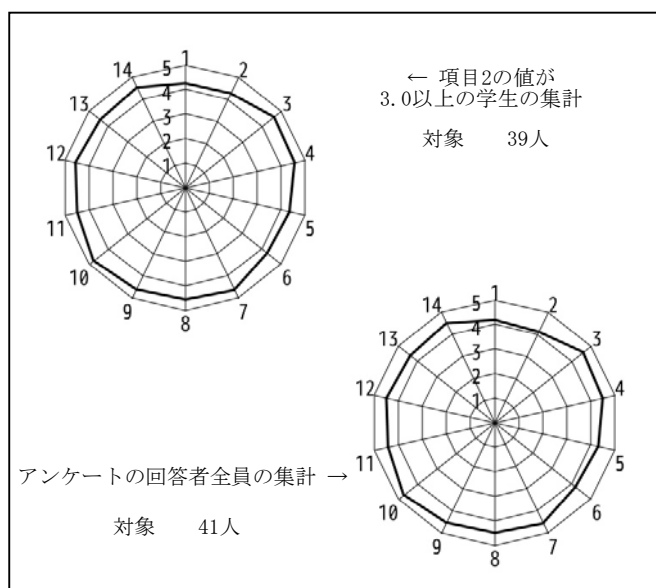


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は日本語Ⅱまでの授業で学んだことを総合し、学部の講義の基礎となる知識と技術を習得することを目標とした。学生による授業評価の設問への回答結果の平均値は、4.73から4.91という結果であった。学生たちが授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかという項目と、この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じたかという項目に関しては4.91という平均値が出ていたことから、授業の意味を理解してくれたと感じられた。自由記述欄の回答には幅広い知識が得られ、むずかしい内容にもかかわらず理解しやすかった、日本の社会問題がよくわかってきたといった肯定的な回答があった。授業で改善すべき点や授業環境に関するコメントはなかった。これらの結果から、学生たちが授業の目標を理解し、真摯に授業に取り組んだことが伺われ、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。この授業では、授業時間以外に課題発表に関する相談を受けることも多かった。課題発表の時には、1人1人がフィードバックをきちんと受けたいという学生からの要望もあり、時間の許す限り対応するよう心掛けた。中には授業課題をこなす力が不足している学生もいるため、学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう配慮しつつ、今後も学生が積極的に授業に参加し、自主的に勉強に取り組むための手助けをしていきたいと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	国際政治学B
授業コード	44B48-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	180
回答数	41
回答率	22.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は法学部の共通教育科目です。履修者は180人位でした。Q1に開講した国際政治学Aを引き続き、現代国際政治の諸課題を講義形式で紹介する授業です。アンケートの回答を見ると学生の満足を感じますが、回答率をどう評価する問題があると思います。つまり、180人中回答者は41名だけです。ただ、この学生は常に出席し、真面目に授業を受けた人であり、この学生は授業の方式とと内容を満足したのは自分も満足するtンです。

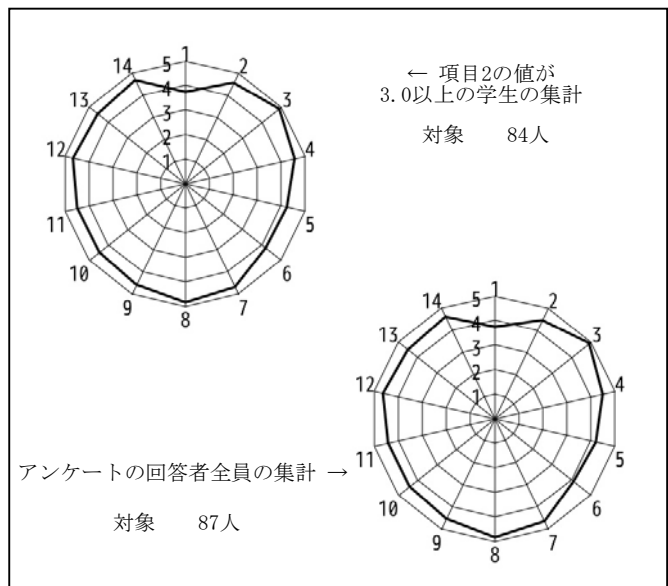
以上の点について、Q2の2週目に教務課の都合で教室はB22からDB1に代わりました。そこで出席がだいぶ減少しました。

将来、一部の課題の改正と新しい課題の導入を考えています。

以上

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	マクロ経済学
授業コード	46D02-001
教員名	水落 正明
教員コード	102745
登録人数	193
回答数	87
回答率	45.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

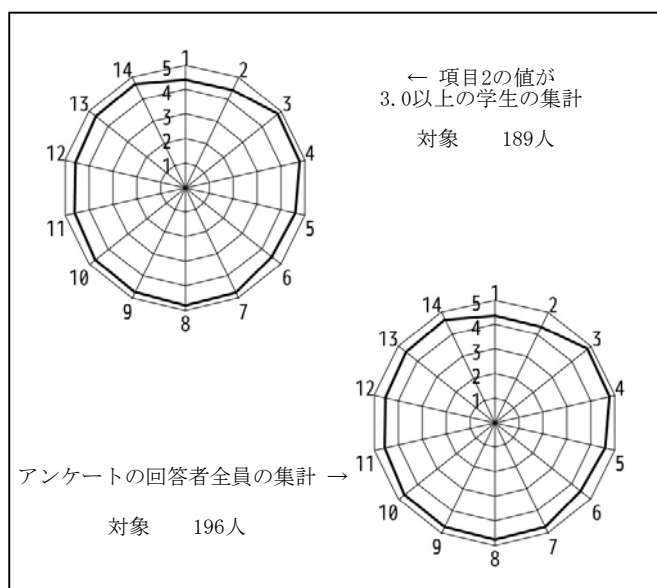


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、経済主体の相互メカニズムについて、理論的考察を通して理解することであったが、各項目の評価から判断して、概ね授業の目標を達成したと考える。授業に対する総合的な満足度（設問14）は4.60と、総合政策学科平均4.55をやや上回り、全学の同規模の登録者数121～240名の平均4.43も、上回る結果となっている。マクロ経済学は、数式（連立方程式等）を使いながら経済システムについて勉強する内容であり、数学が不得手の総合政策学部を中心とした学生にとってはかなり難しい講義の一つであるが比較的良い評価となった印象である。今年度のマクロ経済学は例年使用している教科書が改訂中だったため、スライド資料のみによる授業となった。教科書がない分、学習しづらい面もあったかもしれないが、授業評価は下がっていない。例年、数回の実施だった授業時間最後のミニテストをほぼ毎回に増やし、次の授業で丁寧に解説したことで、理解度が高まったことが考えられる。自由記述を見る限り、課題の多さは学生の理解の助けとなったようである。ただし、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」がまだやや低い。数学的な理解は一朝一夕ではいけないが、授業時間外の課題を充実させることで、より理解度を高めていけるよう環境整備をする必要がある。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人権政策論
授業コード	46K06-001
教員名	三輪 まどか
教員コード	102263
登録人数	484
回答数	196
回答率	40.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



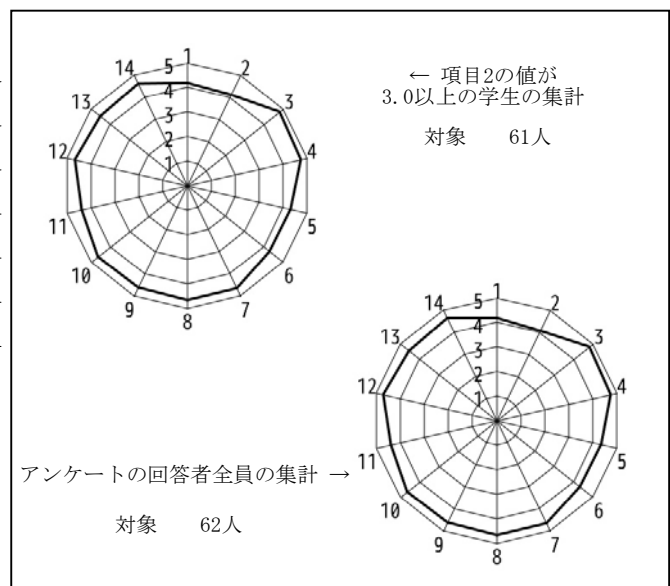
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、現代社会における法的な課題を発見し、その解決を見つけることを目指したが、提出された課題を見る限り、多くの学生がそれに到達したと思われる。さらに、設問6を見ると4.48点（学部平均4.34点）設問13を見ると4.61点（学部平均4.54点）といずれもよく、学生の到達度や知識欲や理解の深まりを見て取れる。自由記述を見ても、身近な問題、社会で問題になっている事柄を扱い、興味をもって取り組んでくれる学生の皆さんの意見を見て取ることができた。これらはひとえに、真摯に授業に取り組み、真剣に考えることができた履修生の皆さんの取り組みによるところが大きい。この場を借りて、御礼を申しあげたい。

一方で、改善点については、「マイクの音量が大きい」というものがあった。その場で指摘してくれれば対応可能であるので、その場で言っていたきたい。また、私語対応について、注意をしても私語を止めない学生がいたこと、大きな声で注意することに動揺してしまったという意見があった。私語については授業のはじめに「授業に真摯に取り組みたい学生を邪魔する行為はやめてほしい」と学生に伝えているが、守らない学生がいたことが大変残念である。また、やんわり注意しても私語をやめないということなので、多少の大きな声はできればお許しいただきたい。いずれにせよ、私語によって他の学生の邪魔をする学生がいたことは大変残念であり、そのような学生は受講を控えていただきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際法概論
授業コード 46L06-001
教員名 山田 哲也
教員コード 100839
登録人数 134
回答数 62
回答率 46.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

項目13、14を見る限り、目標には到達していたと判断できる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

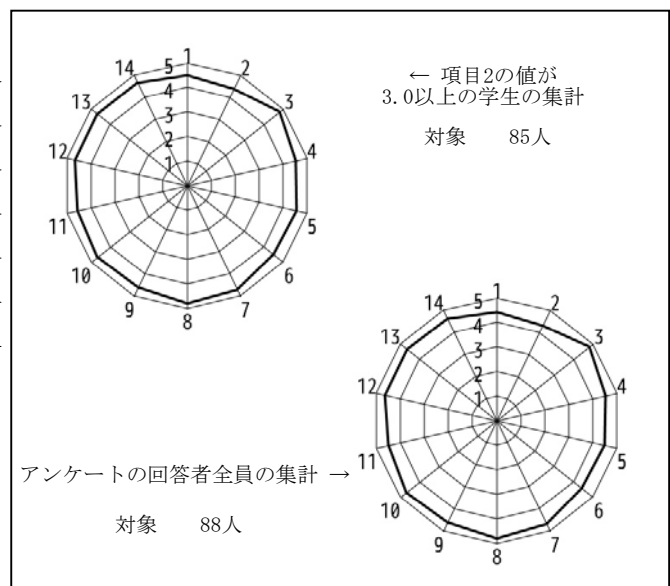
昨年度以来、Live Qというオンラインで質疑応答ができるチャット形式のアプリを用い、講義中はその内容を投影して学生（匿名可）からの質問を全員で共有している。これによって質問へのハードルが低くなると共に、自分と同じような疑問・思っても見なかった視点を学生同士で共有することができるため、今回、特に好評だった。また、投稿に対して「いいね！」を付けることができるので、二者択一のアンケートも実施でき、単調な講義の流れを変えることができる。国際法の入門部分は一方的な講義になりがちなので、このアプリのさらなる活用を図りたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

「出席を取るべきである」という学生の意見があった。出席点目当ての学生が増えることを考えると、授業全体の方針を再検討する必要があるかもしれない。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	経済政策論
授業コード	46M04-001
教員名	鶴見 哲也
教員コード	102265
登録人数	264
回答数	88
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

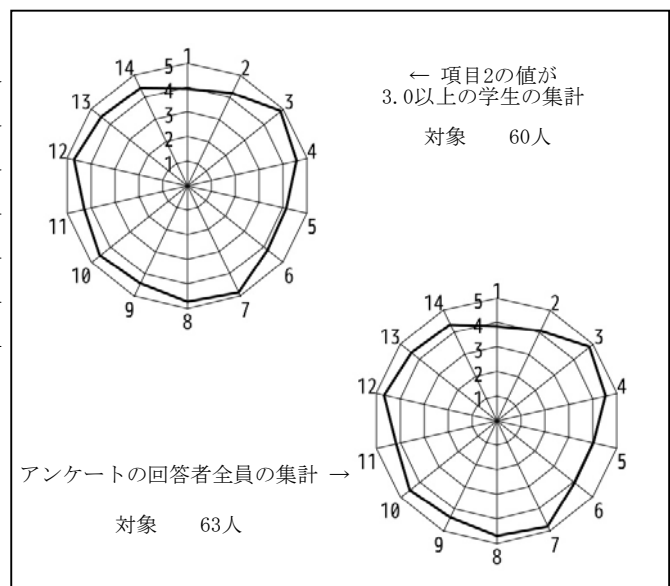


授業評価結果を踏まえた点検・評価

提出されたレポートの内容や授業評価での反応より、授業内容に興味を持つことができた学生が多くみられ、また、授業内容の理解度もおおむね良好であり、開講当初に設定した目標は達成できたと考えている。設問1-14の平均値が同受講者数帯で 4.47、設問3-14の平均値が同受講者数帯で 4.51であったのに対して、前者が4.59、後者が4.63という評価が得られ、平均を超える評価を得ることができ、学生からの反応は良好であったと理解している。加えて、自由記述欄には授業の内容について具体的な事例をもとに説明を行ったことで興味を持った、あるいは面白かったという感想が多くみられ、最新の具体的な事例をもとに抽象的な内容を説明した成果が良好な形で得られたと考えている。今後も新聞記事や最新の研究動向、自分自身の研究成果、政府や事態帯の報告書などをもとに、具体的な形で政策の在り方を考える基礎を伝えていくことができると考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	政治行動論
授業コード	46N08-001
教員名	野口 博史
教員コード	100473
登録人数	180
回答数	63
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、体系論にもとづいた政治現象の法則およびその説明方法を目的としているが、受講者180人・定期試験受験者170人、このうち単位取得者160人、AおよびA+付与者81人であり、本講義の目的は果たし得たと考えている。本年度は、昨年度と比較してもAおよびA+付与者の比率が2割程度高く、講義要旨の改訂・授業の進めかたについてなどの改善の結果であると思われる。

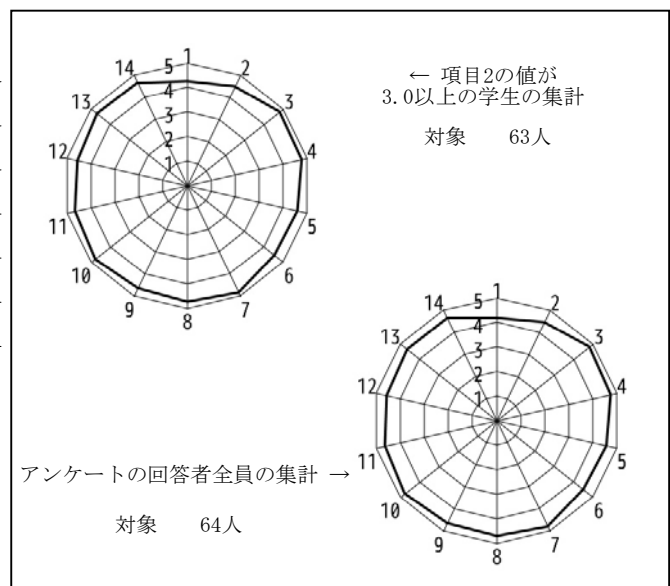
受講者あたりの授業評価回答数も約3割と、昨年度より5割程度多かったが、反面で、集計値は項目1から14の平均で0.15、項目3から14の平均で0.13低下しているが、自由記述欄をみると、改善点と肯定的評価の比率が昨年度より約3割高くなっており、受講者と講義者のコミュニケーションが増大した結果なのではとも想像している。

自由記述欄における改善提案のうち、半数の4点は、従前から長期的課題としてきた早口の問題であり、板書と説明のバランスをとることによって問題の改善に努めたものの、この方針は、かならずしも問題解決における適切な方法ではないとも思われる。

この問題については、長期的課題であり、現時点で明確な解決策を求めるのではなく、むしろ講義要旨における工夫など、迂遠的方法の探索をこころみつつ改善に努めてゆきべきかと思慮している。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	政治変動論
授業コード	46N10-001
教員名	星野 昌裕
教員コード	101897
登録人数	229
回答数	64
回答率	27.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

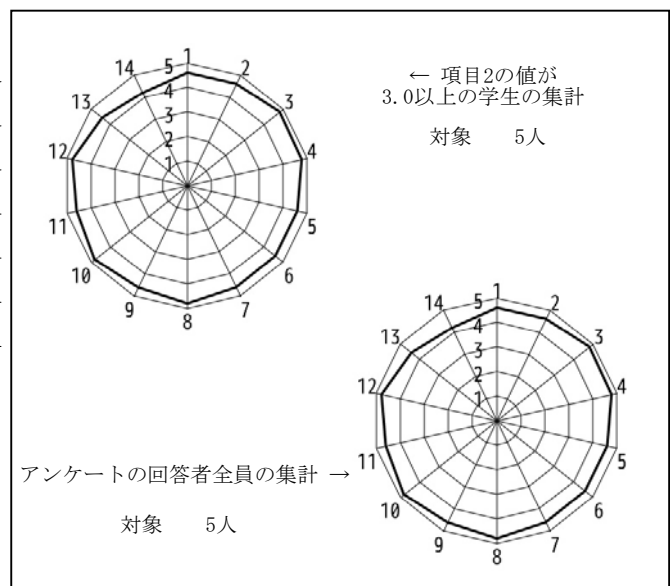
本授業では、東アジアの政治変動を理解するのに必要な政治学の基本概念を説明したうえで、中国の一党支配体制の形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、権威主義体制下における民族問題等を講義した。これらを通じて、地域研究の分析手法、政治学概念の理論と現実、東アジアで依然として大きなプレゼンスを占める「社会主義」体制の理論と現実、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。

授業評価をみると、履修前にこの授業への興味を問う設問1では4.20と決して高い数字ではなかったが、授業の到達目標に向けて力がついてきているかを問う設問6が4.50、新しい知識や理解の深まりを問う設問13が4.64、全体としての授業の満足度を問う設問14が4.63となっていることから、履修者が本講義を通じて、政治学や東アジア地域研究に対する興味を深めることができたことを示しており、開講当初の目標を十分に達成できたと考えられる。

授業の進め方としては、事前にレジュメを配布したうえで、ホワイトボードとパワーポイントを使う講義形式を採用したが、今回割り当てられた教室では、ホワイトボードとパワーポイントが同時利用しにくい構造であった。自由記述でも、画像や動画の利用が好評であったことから、次年度以降も、教室の形態にあわせた授業運営を試みたい。今年度も一定の回答時間を確保したが回答率が低調であった。次年度の大きな改善点と認識している。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境科学
授業コード	46N24-001
教員名	大八木 英夫
教員コード	104123
登録人数	27
回答数	5
回答率	18.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

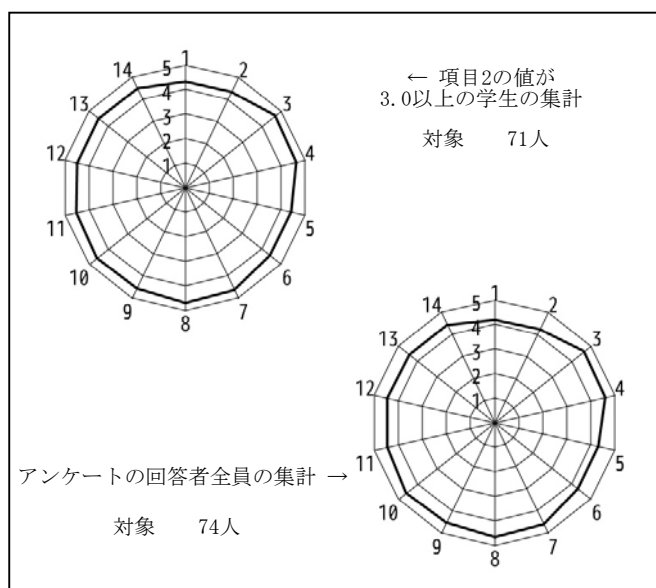
本授業では、環境科学に関する各専門分野の知識を横断し、自然環境と人間との関わりを科学的に探究し、現代社会で生じている地球環境問題についての理解を修得させ、多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れつつ、日本だけでなく世界の各地の情報を提供し、また、実際に身近なもので体感できる実験を用いて学生の意欲を引き出すことに努めた。

アンケート結果からは、2023年度に比べて主体性を持たせられたことが評価された。また、概ね学生からの対応は良好で、特に、「（学生の）積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」についての評価はよい。一方、全体的な満足度に関する評価が若干低下した評価であった。特に、理解の浸透むけてより一層の改善を試みる。

今後に向けては、気候変動などの時事ニュースは常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、環境科学の基本論理の講義を介して、環境・防災などについて自分で考える能力を身につけさせることをさらなる目標としたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学
授業コード	46N27-001
教員名	佐藤 創
教員コード	103882
登録人数	215
回答数	74
回答率	34.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



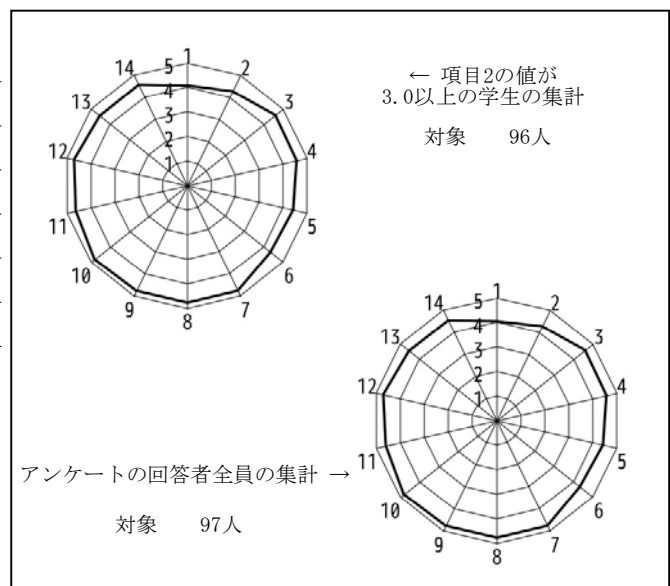
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均は4.47、項目3から14の平均は4.51であり、いずれも科目登録者数別集計の（121～240）の平均値をやや上回っている。なお、回答数は74で受講登録者総数のおよそ4割であり、最後の授業でアナウンスしたが、やや少ない。

本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせつつ授業を進める方法を採用した。おおよそ1時間ごとにリキャップの時間をいれ、また全部が7回、理解の確認のための問題をPORTAを通じて提示して解かせ、次の時間に復習を兼ねて解説した。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を高めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境思想論
授業コード	46N28-001
教員名	太田 和彦
教員コード	104469
登録人数	281
回答数	97
回答率	34.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度

「環境思想論」では、環境正義に関する理解と、それらに基づく思考力を養うことを目標としていた。アンケート結果(*)からは、この目標はかなりの程度達成できたと考えられる。

* 項目13「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じる」 (4.54)

* 項目14「全体として授業に満足した」 (4.54)

②総合的な自己点検・評価

全体的に高評価(*)を得ていることがわかり、安心した。

* 項目7「教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ」 (4.76)

* 項目9「教員の授業進行の適切さ」 (4.75)

* 項目10「授業の妨げになる行為への適切な対処」 (4.80)

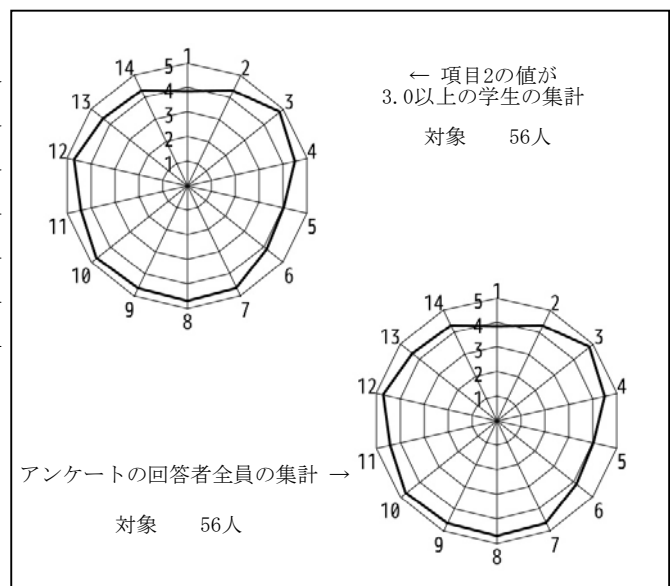
自由記述からは、詳細な講義資料と参考文献の提供、リアクションペーパーへり応答を通じた双方向的なコミュニケーション、録画した講義動画の提供が特に好評を得ているため、継続したい。一方で、講義資料の文章量の多さについては、リーディングのトレーニングを兼ねている旨を説明したい。

③改善点、今後の抱負、方針など

講義資料について。各回の資料に目次を追加することで、より見やすく、参照しやすくなることはコメントのとおりなので、その形式にしたいと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	哲学総論
授業コード	46D11-001
教員名	中島 靖次
教員コード	000246
登録人数	185
回答数	56
回答率	30.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

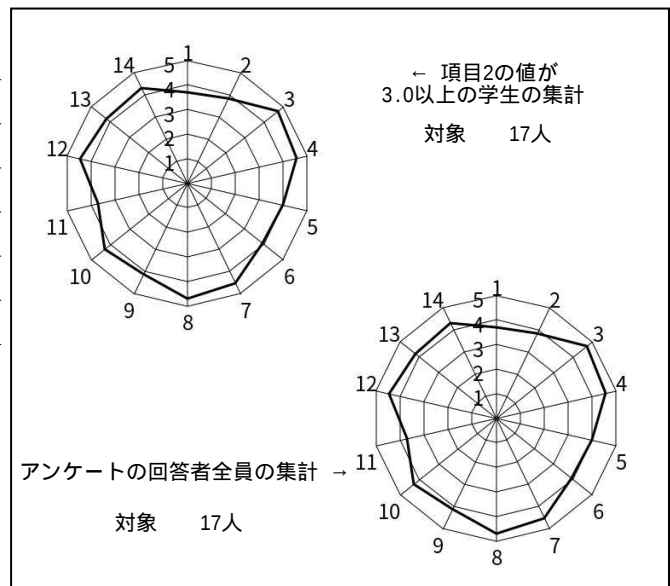


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標と到達度については、最終レポートを見た限りにおいては、全体的にはなかなか難しい成果だったと言わざるを得ない。そもそもなぜか出席率が悪かったということもあって、授業の性質上連続的に聴かない場合、それまでとのつながりの中での主題の理解が追いつかなくなり、それが悪循環的に聴くモチベーションを下げていってしまったのではないかと思う。こちらとしては、そういうことにならないために、この授業と総合政策学部の理念とが、いかにリンクしているかをあらかじめ示しておいた。この授業は、総合政策学部において、教職科目の一つという役割を持っている授業であるため、一般教養的な側面も持たねばならないことが、この授業に対する興味・関心をそぐことがないようにするためである。それは、哲学史という本筋に加え、もう一つの柱として文明論的視点を設定して、その視点から、西欧哲学と日本の思想との根本的差異を引き出し、理解することで、今後の世界を生きることを意味を問いつづける、そうした姿勢を身につけることを目標とした。冒頭に、目標を十分に達成することは難しかったと書いたが、しかし、レポートによっては、上記のようなこちらの伝えたかった内容を、きわめて的確に本質的に理解したうえで、自分の考えを述べるどころまで展開できているものも少なくなく、その意味では、大いにこちらの目標は達成したと言えるのではないかと思う。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジアとの出会いⅢ
授業コード	13B02-003
教員名	野口 博史
教員コード	100473
登録人数	32
回答数	17
回答率	53.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、東・東南アジア地域5カ国において近現代に生起した政治的事件の比較事例検討を通じて、ヨーロッパ政治との相違、長所と短所を比較しつつ、地域統合をふくむ将来的課題を展望することを目的としている。

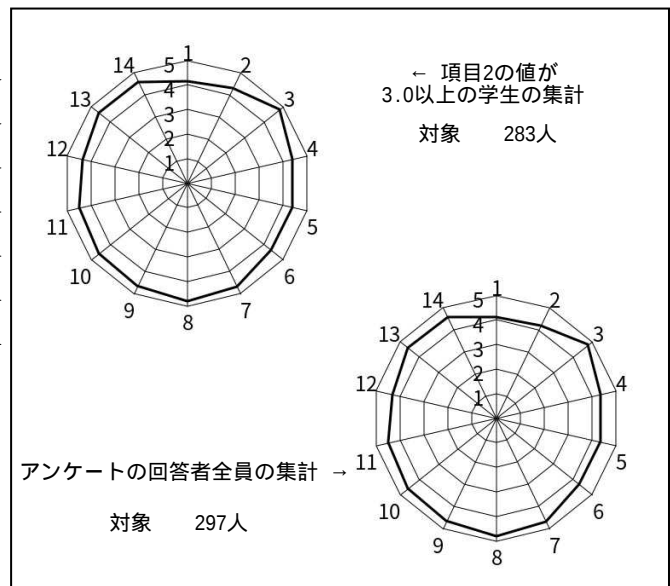
定期試験受験者26人中、単位取得者23人、うち14人は優れた成績をおさめており、本講義の目的は、基本的には達成されたと考えている。

授業評価の統計数値は、前回この講義の授業評価がおこなわれた2021年度と類似性が高く、設問14の平均値が3点台に下落した19年度以降進めた講義内容などの刷新に効果があったことを示しているようだ。

ただし、前回と比較して設問11の平均点が3.71点と、これのみ顕著に下落していることが問題と思われる。この点は、予習に関する指示内容が、各国の政治史に関する基礎事項の把握であるため、やや「歴史の授業」のように感じられたためとも思われる。自由記述欄における改善点の指摘は1件であったが、これも、講義内容がやや難解であるとのことも踏まえると、授業において、学生が事前にもっている知識について、なんらかの確認をおこなうとよいのではないかと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会システムと環境2
授業コード	13D06-002
教員名	鶴見 哲也
教員コード	102265
登録人数	495
回答数	297
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

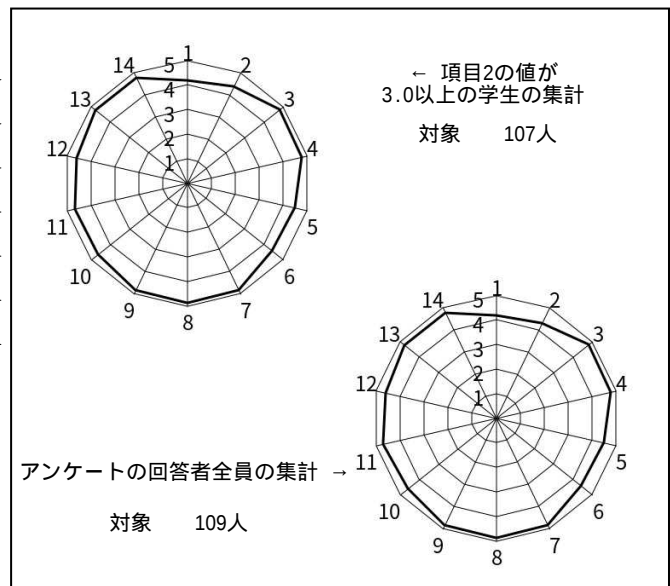


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標について、授業中に実施した小レポートおよび期末レポートにおいて、具体的事例を使って説明する課題を課し、おおむね良好な理解と説明ができるようになったと考える。数値データについては、項目3から項目14の平均が4.55であり、科目登録者数241名以上における平均値(4.47)を上回る評価を得ることができた。特に、この科目はG30教室において実施し、登録者数も500名程度であったことを考えると、多人数講義としては良好な数値を得ることができたと考えている。特に、自由記述にもあるが、毎回の授業のリアクションペーパーを毎回次の授業で紹介し、復習に加えて、理解が不十分なところを補っていったことは理解度向上につながったと考えている。また、新聞や映像、写真など具体的事例を豊富に使用したことが理解につながったというコメントが多く、今後もこの方針で具体的な例を基に抽象的な学問的概念や社会課題を説明する努力を続けたいと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文明論概論1
授業コード	46A01-001
教員名	山田 望
教員コード	000211
登録人数	160
回答数	109
回答率	68.1%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

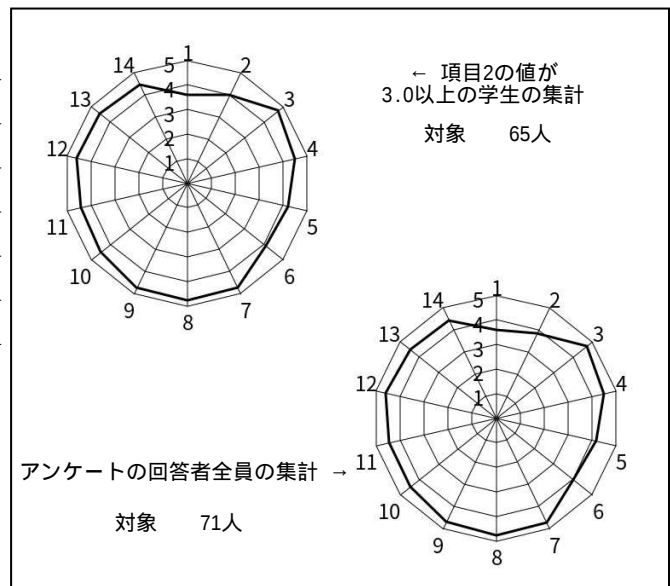


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について：設問の5と6が、これに関連する評価であるが、設問5は、総合政策学科科目の平均値が4.29に対して、私の本科目は4.50、設問6については、学科の平均値が4.24に対して、私の本科目は4.41と、それぞれ0.31、0.17上回っていたので、ほぼ目標に到達していたものと考えられる。数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検評価：数値データについては、すべての設問について、総合政策学科科目を上回っており、特に、設問13のこの授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったかとの問いに対して、学科平均値が4.47に対して、私の本科目は4.71と0.24上回っており、設問14の全体として、あなたはこの授業に満足しましたか、との問いに対しては、学科平均値が4.54に対して、私の本科目については4.61と、0.07上回っていたので、満足度としても十分な値を示していることがうかがえる。また、自由記述欄には、スライドや動画が用いられていることで非常にわかりやすかった、話が面白くて引き込まれた、といった肯定的評価が圧倒的に多く、十分に高い満足度を得られてことがうかがえる。強いて言えば、「教室が暑かった」との指摘があったので、室温の管理を少し見直す必要があろうと感じている。以上

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文明論概論2
授業コード	46A01-002
教員名	太田 和彦
教員コード	104469
登録人数	151
回答数	71
回答率	47.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標到達度について：

授業アンケートの結果から、「この授業の到達目標を理解することができましたか」（4.18点）、「到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」（4.04点）という評価が得られた。これらの数値は決して低くはないが、他の評価項目と比較するとやや低い。一方で「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じる」（4.48点）という項目が比較的高いことから、学生の実質的な学びは確保できていると判断できる。特に自由記述からは「文明論について今まで学ぶ機会がなかったため、知ることができ有意義だった」という声が複数見られ、文明に関する基礎的な理解という当初の目標は概ね達成できたと考えられる。

総合的な自己点検・評価：

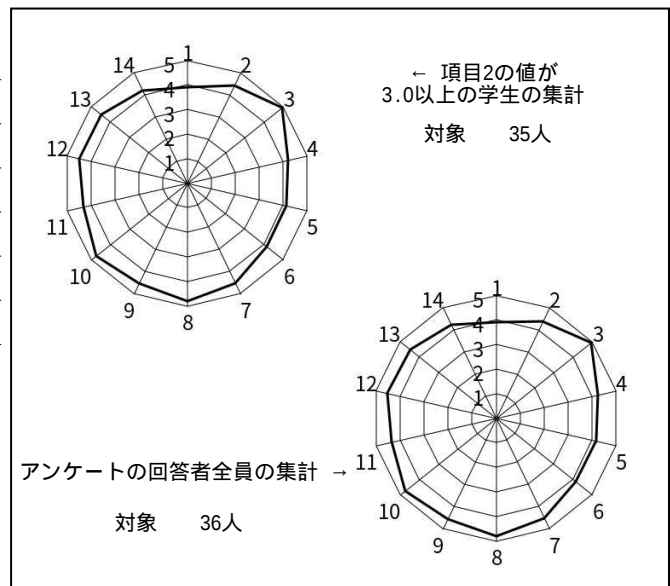
講義アーカイブの提供は肯定的な評価を多く得た。また、毎回の質問フィードバックについても、「丁寧に答えていて理解が深まった」という評価がある一方で、「本題よりもフィードバックに比重が傾きすぎ」という指摘もあった。ゲスト講演の実施は「興味深かった」という評価を得ており、効果的な取り組みだったと判断できる。全体的な満足度（4.41点）が高いことから、授業運営は概ね成功したと評価できる。

次期に向けての改善点と方針：

- ・ 質問フィードバックの効率化を図り、本題との時間配分を最適化する。具体的には、よくある質問をまとめて回答したり、オンライン上でのQ&A共有の仕組みを検討する。
- ・ 授業の到達目標をより明確に示し、各回の講義内容との関連性を意識的に説明することで、目標達成度の向上を目指す。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ミクロ経済学
授業コード	46D03-001
教員名	佐藤 創
教員コード	103882
登録人数	73
回答数	36
回答率	49.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

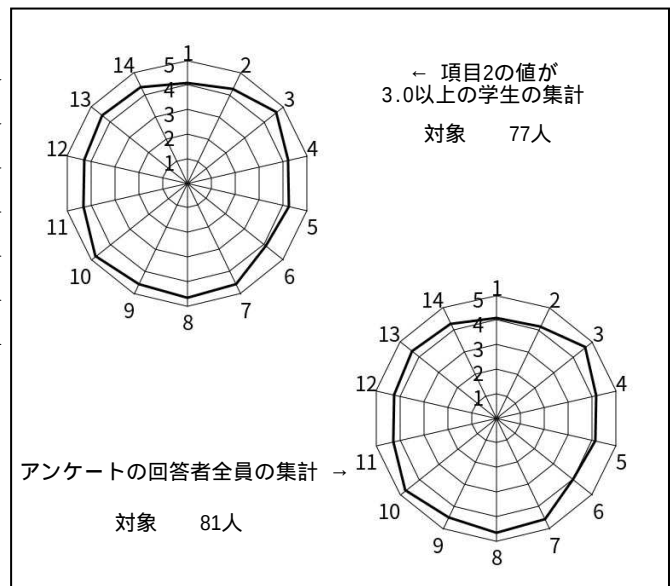
開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均は4.43、項目3から14の平均は4.48であり、いずれも科目登録者数別集計の（61～120）の平均値とほぼ同じである。なお、回答数は36でおよそ5割であり、最後の授業でアナウンスしたが、やや少ない。

本授業ではレジューメを事前にアップロードし、そのレジューメのなかで穴埋めをさせつつ授業を進める方法を採用した。とくに図表を多用したが、みやすくなるように工夫した。さらに、おおよそ1時間ごとに、理解の確認のための問題をPORTAを通じて提示して、その場で正当率などを表示しながら、解説した。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。

引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を高めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係論
授業コード	46D06-001
教員名	小尾 美千代
教員コード	102453
登録人数	254
回答数	81
回答率	31.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



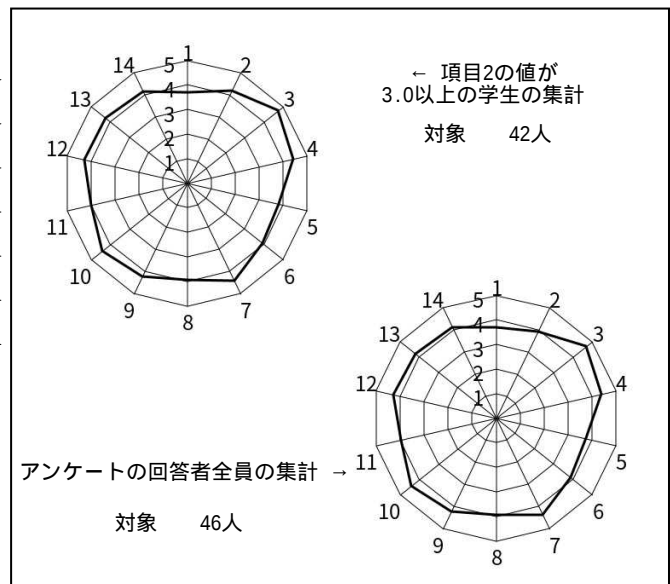
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、(1) 国際関係論および国際政治学の基礎的概念や理論を理解していること、(2) 国際関係の変遷や現代の国際情勢を理解していること、(3) 総合政策学部DPの、「国際政策に特化した専門的知識を駆使することにより、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力をつける」こと、の3点を到達目標とした。履修登録者の84%が単位を修得できたので、上記の到達目標は概ね達成されたものと思われる。

アンケートの回答者は81人で、項目1～14の平均値は4.34（前年度4.41）、3～14の平均値は4.38（同4.44）と、昨年度より下がってしまった。項目1（履修前の興味）が4.07や項目6（到達目標の力がついているか）が4.00と学部の平均よりも低いことと関係しているかもしれない。自由記述欄には私語への対応を評価する声が多かった。大教室で上段のドアが開放されてしまい難しいところはあるが、今後も同様に対応していきたい。また、国際系科目に苦手意識を持っていたという学生の「単位がなくても受講してよかったと思うほど受講満足度が高い」との回答は大変印象的であった。また、動画資料は好評であり引き続き実施していきたい。この科目は1年次生の履修者が多いので、国際問題への興味や関心を喚起できるような授業になるように工夫していきたい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代国家論
授業コード	46D12-001
教員名	茂木 康俊
教員コード	104802
登録人数	58
回答数	46
回答率	79.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標としては、次の点をシラバスで挙げた。

1. 行政や政治の機能について考えるための基礎的な知識を習得し、国家行政の制度や機能を理解できるようになる。
2. 行政学・政治学上の理論や概念枠組みに関して知識を深め、行政の制度が理解できるようになる。
3. 講義内レポートや期末試験を通して、身につけた知識を活用し表現できるようになる。
4. 総合政策学部ディプロマポリシー記載の、公共政策の専門的知識やスキルを駆使し

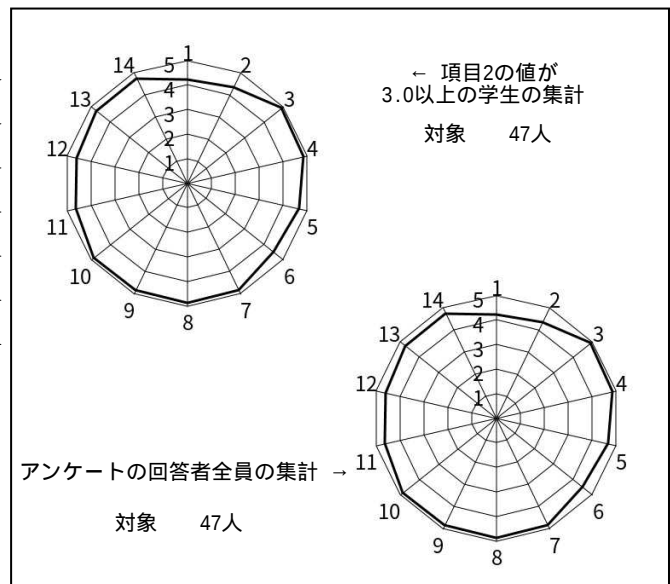
て、複合的な問題の解決に向けた具体的な政策を立案できる力をつけることがで

きるようになる。

1年生以上の選択必修科目ということもあり、知識の習得を主な目標に挙げ、その上でその知識を活用し政策立案につながる能力を涵養することが目指されている。その観点からは、質問項目9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」が4.22と比較的良好だったことが確認でき、本年度の授業進行方法が適切だったことが窺える。自由記述の回答を見ると、「たくさんの知識を得られた。」や動画教材の提供による復習のしやすさに着目するものが複数見られる。一方で、問17の授業環境については、教室のハンディマイクが「バリバリする」という指摘があり、この教室はハンドマイクがなく、音響環境が劣っていて、授業中に音が割れることが何度かあった。教員も学生も気になっているので、何かの折にこのマイクの問題は該当部署に上申したい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学概論
授業コード	46D13-001
教員名	金網 基志
教員コード	102923
登録人数	147
回答数	47
回答率	32.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

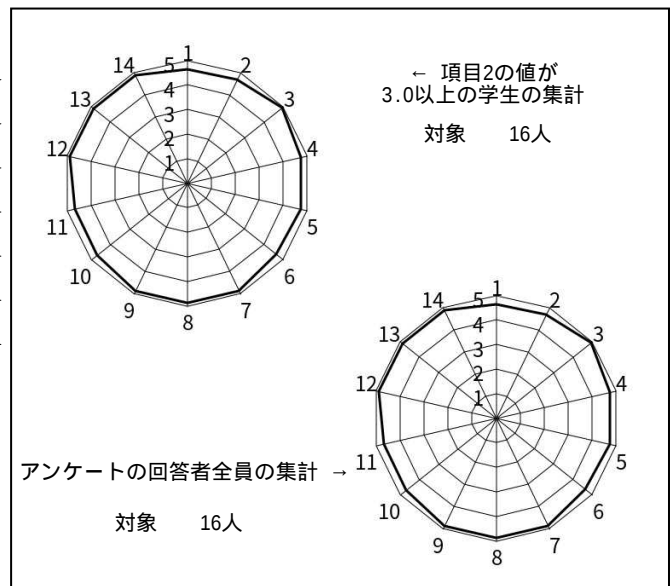


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の総合的な満足度を示す設問14の平均値は4.72で、全体平均4.44、総合政策学科平均4.49、登録者数別平均4.39を上回っている。項目3から項目14の平均は4.76であり、この値も全体平均、総合政策学科平均、登録者数別平均を上回っている。設問3、設問4、設問7、設問8、設問9、設問10の値は4.8を上回っており、高い評価を得ている。やや評価が低いのが、設問6の到達目標の理解度であるが、これは到達目標が何かを十分に伝えられていないことが要因の一つと考えられる。こうした到達目標の理解度を深める工夫をしていきたい。自由記述欄の回答は、適切な速度で授業を進めるため理解しやすい、毎回授業の始めに前回の授業の復習を行っていた点がよい、具体例を多く出してくれたのが助かった、エクササイズで考えを深めることができたなどがあり、評価できるポイントが記述されていた。前回の授業の復習やエクササイズの実践などは、今後も続けていきたいと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策中国語Ⅱ2
授業コード	46F05-002
教員名	原田 直枝
教員コード	018754
登録人数	29
回答数	16
回答率	55.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



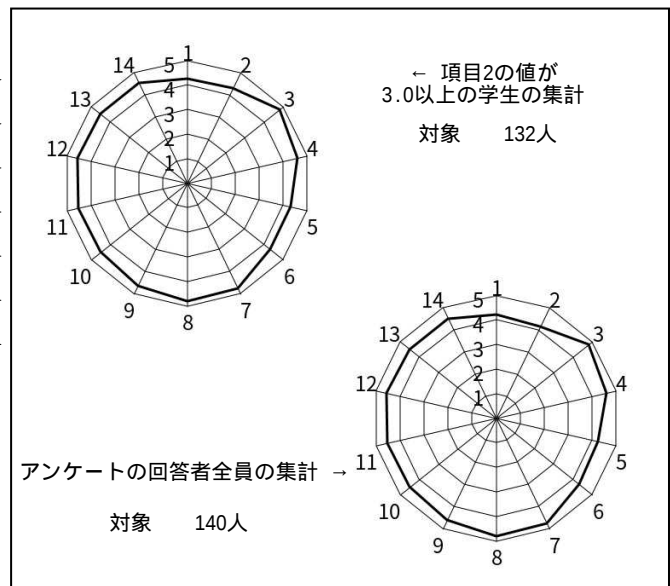
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた4つの目標のうち「1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。」「2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。」の2つに関しては、評価項目6と13で学生側にも一定の達成感が得られていると見られる。「3. 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。」は、実施した期末試験の結果が全体として高水準であることから、一定の達成ができていると見られる。「4. 総合政策学部のディプロマポリシー2「多種多様な人々が、違いを認め合いながら共存、協働できるようになるための新たな文明論的価値を創造しつつ、積極的に問題解決に取り組む力」3「多角的視点にたち、社会科学の幅広い基礎知識や分析方法、フィールドワークの技法などを身につけることにより、複合的な問題の諸要因を総合的に分析・整理し、問題解決への糸口や手がかりを発見する力」を身につけている。」は、授業中の学生同士の練習への取り組み、的を射た質問など、そうした積極的な力が認められるのではないかと。

自由記述項目16に1件の記述があり、学生によっては、授業の進度を「ハイペース」で、もっと余裕のある授業運営をと受けとめているという情報を得た。確かに今クォーターは授業評価入力のための時間をたっぷりとることが困難で、課外でもよいので入力をと受講生に依頼したという事実もあり、今後、過密でない授業計画を組む工夫をしていく必要があると思う。これを、本授業評価を受けての 今後の改善点としたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	都市環境論
授業コード	46N21-001
教員名	石川 良文
教員コード	100650
登録人数	299
回答数	140
回答率	46.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業評価の結果は概ね良好であり、数値分析を含む難しい内容でも学生の理解が進むような授業運営ができた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

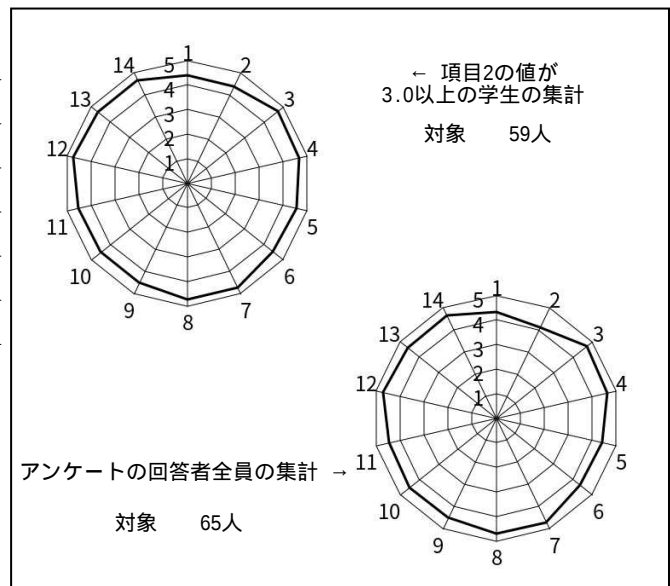
「全体としての満足度」は4.5と高く、特に「授業開始終了時間」「授業に取り組む姿勢」「声・音声の聞き取りやすさ」「学生の学習意欲の引き出し」において開講主体の平均値をはるかに上回る特に高い評価だった。一方で、「到達目標の理解」「私語・遅刻などの行為に対する対処」は開講主体の平均値よりやや低く、特に自由意見にもあるように私語に対する対応が十分でなかったとの評価だった。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

各質問項目および総合的な満足度を見る限り概ね授業の運営に問題ないと思われるが、席の後ろの方で私語があったようでありその対応が十分でなかったことは反省すべき点である。ただ、B11の大きな部屋であったので最後部でそのようなことがあったと知らなかったため、授業中に私語がないか確認するようにしたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際機構論
授業コード	46N29-001
教員名	山田 哲也
教員コード	100839
登録人数	219
回答数	65
回答率	29.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

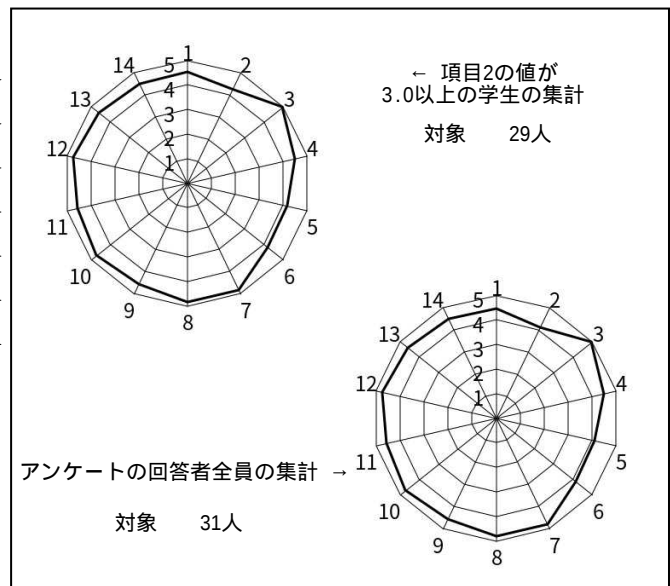
昨年度に比べて教科書1章分、時間が足りなくなった。大教室であったため、ゆっくり目に話したことが原因と思われる。その分、目標として設定した内容までは到達できなかった。

項目1～14の平均が4.53、項目3～14の平均が4.59なので、学生はおおむね満足したと思われる。自由記述からもそれが伺われる。チャットのようなアプリを介して、学生からの質問やこちらからの問いかけを入力できるようにしているので、大教室であっても双方向的な講義となった。講義の途中で5分程度の休憩時間を取るようになっているが、これも好評である。また、板書の代わりにパワーポイントの白地のスライドに適宜、文字情報を入れる形式にしたが、「進度が早すぎる」という指摘が1件あった。これについては、今後、修正したい。

教科書は指定してあるので、今後は予習・復習のポイントを可視化し、講義準備・試験対策として学生に作業をさせることも考えたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計学
授業コード	46D08-001
教員名	梅田 守彦
教員コード	103893
登録人数	40
回答数	31
回答率	77.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

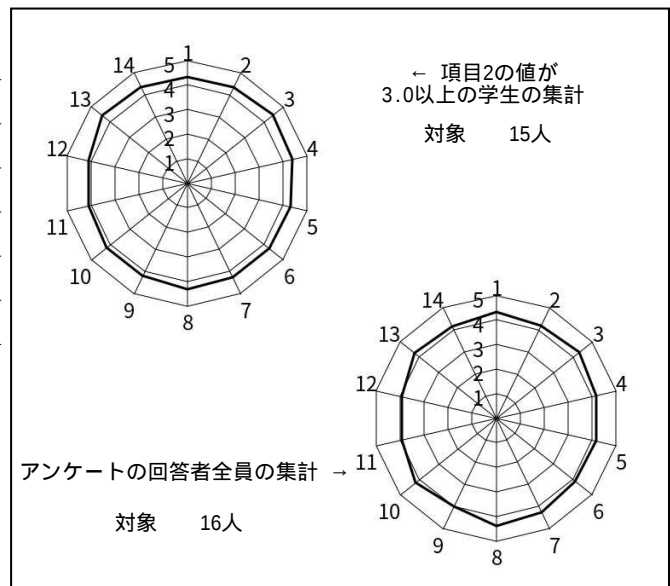
項目別にみれば「5.到達目標を理解することができた」「6.到達目標に向けて力がついてきていると思う」の2つがいくらか低い数値となりましたが、全体的に見れば好意的な評価をいただけたのではないかと思います。

自由記述欄のコメントに関して言えば、ウェブクラスに復習用の動画をアップしたことや、グループで話し合いをするために時間を随時設けたことなどが評価されたようです。しかし、分かりやすいという評価もある一方で、内容が難しく理解するのが非常に困難であった、早いから追いつけない、といった指摘も見られます。受講者によって理解の度合いはまちまちになるのは仕方ないことですから、それを補うために短い動画を各回2～3本ほどアップしたつもりですが、多くの受講生に等しく満足してもらうようにすることはなかなか難しいですね。

ですが、次年度は少しでも状況を改善するために、講義内容の見直しなどに努めるようにいたします。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近現代史
授業コード	46D10-001
教員名	柳澤 幾美
教員コード	101592
登録人数	66
回答数	16
回答率	24.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

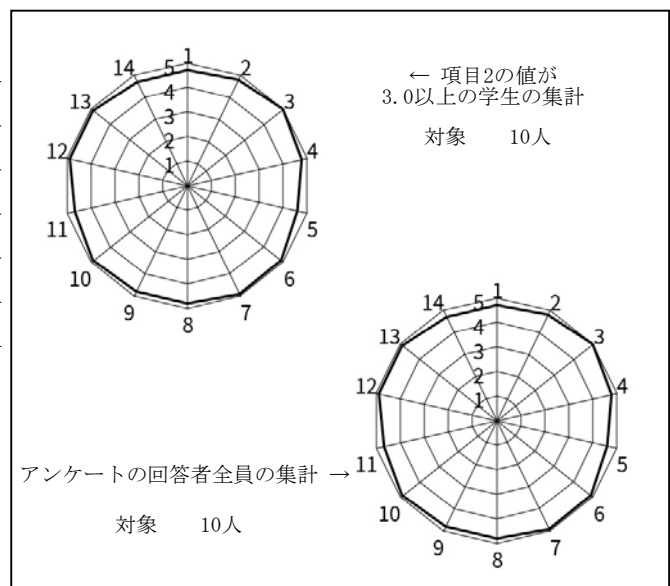
開講当初の目標として、学生の積極的な関与を促すため、毎回リアクション・ペーパーをを課した。次回授業で優れたコメントを紹介し、重要な質問には回答することで、回を重ねるごとに内容が充実していった。

数値データでは、「学生の意欲を引き出す工夫」と「質問や相談の機会」の項目がやや低めだった。リアクション・ペーパーだけでは不十分だった可能性があり、改善を検討したい。一方、自由記載では「アメリカ人と日本人両面から歴史を考察できた」「題材が面白かった」「歴史の流れではなく影響を与えた人々に焦点を当てた授業だった」「ビデオ視聴が多く理解が深まった」など、授業の主旨が伝わったことがうかがえる。

改善点として、「教授の専門分野の話が多すぎる」「リアクション・ペーパーの意見を否定する」などの指摘があった。しかし、専門内容を講義することは必然であり、リアクション・ペーパーについても明らかな誤解や間違いは訂正したが、意見を完全に否定したつもりはない。なお、ビデオの音声の悪さは事前にしっかり調整したい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本語III(総合)2
授業コード	11L16-002
教員名	山口 和代
教員コード	049726
登録人数	10
回答数	10
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

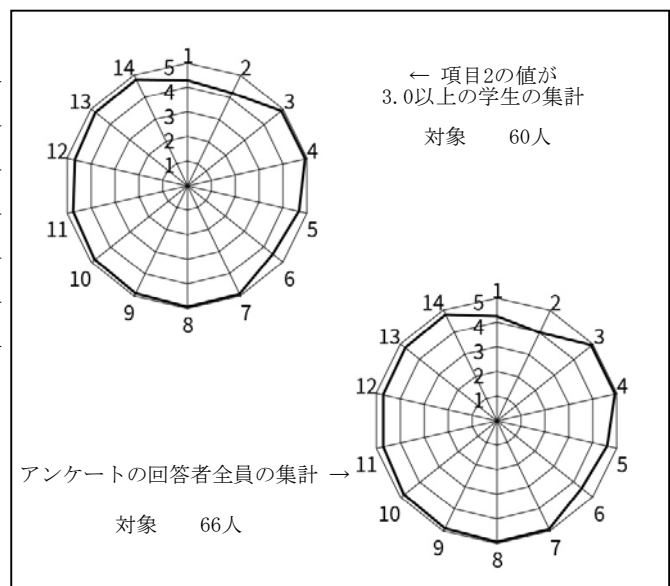


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は日本語Ⅱまでの授業で学んだことを総合し、学部の講義の基礎となる知識と技術を習得することを目標とした。学生による授業評価の設問への回答結果の平均値は、4.70から5.00という結果であった。学生たちが授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかという項目と、この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じたかという項目に関しては4.90という平均値が出ており、また学生の理解度に配慮し、教科書、課題などを効果的に使って適切に授業を進めたという内容の項目が4.80という平均値であったことから、授業の意味を理解してくれたと感じられた。自由記述欄の回答には、世界で話題になっている内容を勉強できた、いろいろなことを学んで役に立つといった肯定的な回答があった。授業で改善すべき点や授業環境に関するコメントはなかった。これらの結果から、学生たちが授業の目標を理解し、真摯に授業に取り組んだことが伺われ、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。この授業では、授業時間以外に課題発表に関する相談を受けることも多かった。課題発表の時には、1人1人がフィードバックをきちんと受けたいという学生からの要望もあり、時間の許す限り対応するよう心掛けたが、これが質問や相談の機会が十分に設けられていたかという項目の平均値4.90になったのではないと思う。中には授業課題をこなす力が不足している学生もいるため、学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう配慮しつつ、今後も学生が積極的に授業に参加し、自主的に勉強に取り組むための手助けをしていきたいと考えている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相4
授業コード	13C04-004
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	132
回答数	66
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

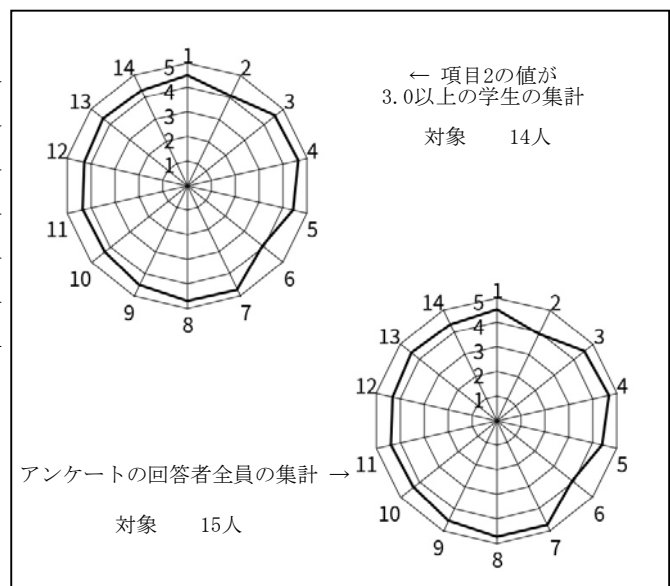
本授業は、「リーダーシップ」という概念に焦点を当て、前半ではリーダーシップに関する一連の研究の流れを理解し、各時代の社会背景についても理解を深める。そして後半では、変わりゆく現代社会における新たなリーダーシップのあり方を紹介しつつ、現代社会が直面している、または直面するであろう課題や問題への理解を深めることを目的とし実施した。

今回の結果では、設問3～設問14の平均値は4.78（前回値4.71、前々回値4.64）、全体的評価（設問1～設問18）の平均値も4.69（前回値4.65、前々回値4.58）であり、全体および学際科目の平均値を踏まえても肯定的な評価が得られたといえる。自由記述欄では全体として「分かりやすかった、楽しかった」というコメントが多く、特に「スライド資料とレジュメ資料の2種類が準備されていて使い易く、分かり易い」、「講義資料がアップロードされており復習に便利」、「授業ないでの考える機会により興味が増した」など授業運営面に関する肯定的なコメントが多く寄せられた。さらに、設問13（新しい知識の習得や理解の促進）と設問14（授業全体満足）が共に4.7以上であることも踏まえると、本授業の目的は達成できたといえよう。

その一方、自主的な学習に関する項目（設問2）の平均値は3.98（前回値4.03、前々回値3.82）と項目全体で見ると最も低い値である。WebClassの様々な機能を利用し、自主的な学習を促すような授業運営の在り方や仕組みを考えていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相5
授業コード 13C04-005
教員名 前田 洋枝
教員コード 102264
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



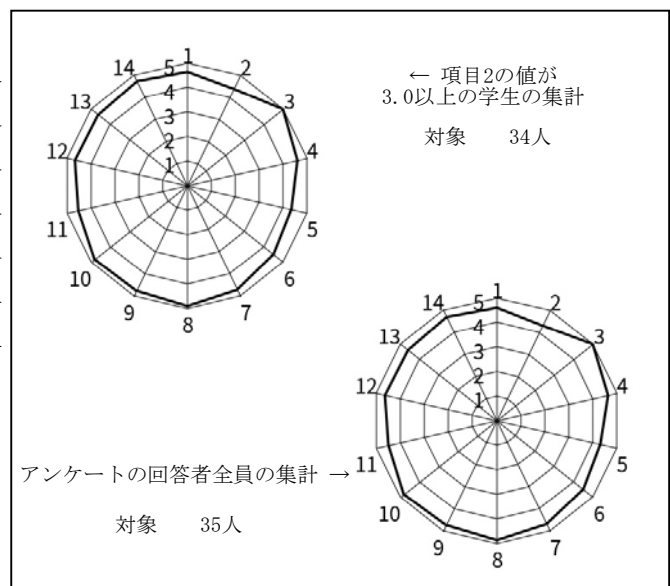
授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで掲げた到達目標は「1. 自己・内集団と他者・他集団の理解や、自己と他者・外集団の関係を巡る社会的問題の解決の検討の鍵となる社会心理学の概念(自己開示・自己呈示、原因帰属、内集団びいきなど)について理解する」と「2. リスクを巡る人々の認知・行動の特徴やリスク・コミュニケーションの特徴と課題について理解する。」の2点であった。定期試験での得点やコメント課題、授業で実施したゲーミングの記録・感想からは多くの学生はこの到達目標を達成できていたと考える。

授業評価アンケートの項目の平均点は4.5以上のものが6つあり、中でも「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」という質問に対する平均点が最も高い4.73点であったのは、うれしく思った。自由記述においてもこの授業の良かった点、評価できることとして「他者との意見交換をしつつ学習を深めていけること。」「体験授業を通して、集団の心理を肌で感じる事ができた点。」「ゲームがとても楽しかった。」「説明が丁寧であった。」「体験型の授業があったこと。」とあり、ゲーミングの体験を通して授業内容の理解を深めることや説明の丁寧さに対して学生が肯定的にとらえていると言えた。今後もより良い内容にしていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データサイエンス入門3
授業コード	13E12-003
教員名	水落 正明
教員コード	102745
登録人数	49
回答数	35
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の目標は、データ・AIの基本特性（可能性と限界、留意点）を正しく理解したうえで、実際にデータを活用するための基本的な技能を習得することであった。各項目の評価から判断して、概ね授業の目標を達成したと考える。例えば、授業に対する総合的な満足度（設問14）は4.69と、学際科目の平均4.61をやや上回り、全学の同規模の登録者数31～60名の平均4.51も、上回る結果となっている。この科目は、今年度から始まった科目で、データに触れたことのない学生を対象に、Excelを使いながら、データ分析方法を習得することを目的としている。統計的な手法の理解や実践は、学生にとってはかなり難しい講義の一つであるが比較的良い評価となった印象である。レポートを複数回行うなどやや負荷の高い講義であったが、丁寧なフィードバックを行ったおかげか、自由記述を見ても、取り組みがよいのある講義になったようだ。例えば「Excelを使いながら実践するのが身につけているのが分かって面白かった。」などの意見があった。ただし、最終レポートが講義の内容に比して困難だったようで、入門レベルの講義と実践のバランスをうまくとっていくことが今後の課題になると考える。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会学総論
授業コード	44A14-001
教員名	狭間 諒多朗
教員コード	104124
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

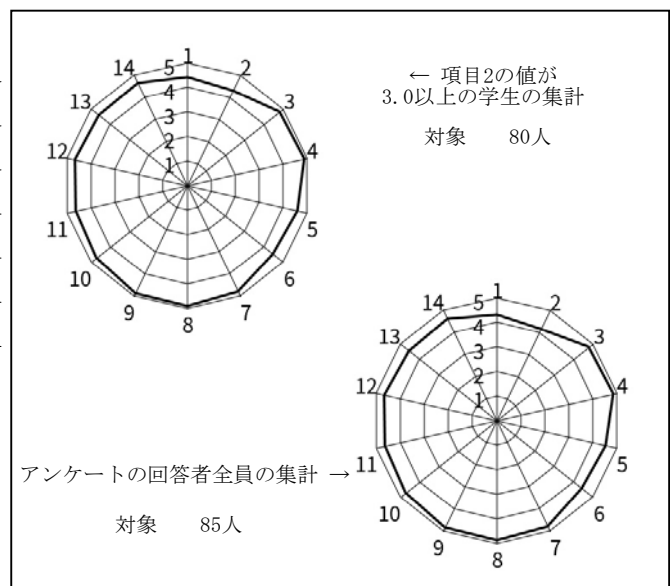
本授業では「①わたしたちの身近な問題を、社会学の視点から考察し、批判的に捉える力を身につける」「②課題を通して、事象について適切な根拠づけや理屈だて（論証）ができるようになる」の2つの到達目標を掲げている。①については、家族や労働、教育といった様々なトピックについて社会的な見方を紹介し、②については、各トピックについての統計データなども見せながら解説することを心掛けて解説した。毎回のリアクションペーパーから、いずれの観点についても、受講生はきちんと理解できていたと考えている。

「学生による授業評価」の評価をみると、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。特に、項目番号12の平均値が4.75と高い評価を得ており、毎回適切な授業を行うことができたと考えている。また、項目番号13の平均値も4.75と高い評価を得ている。本講義は法学部の学生に、普段あまり学ぶ機会のない社会学の知見を紹介することに意義がある講義である。多くの受講生が「新たな知識を身につけられた」と感じているということは、この意義が十分果たされたことを意味していると考えている。これらのポイントが全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.5）。

本講義は来年度以降、総合政策学科科目『社会学概論』の乗り入れ科目となるため、本年度のアンケート結果を活かしつつ、新たな開講形態に向けて準備を進めたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会保障法
授業コード	44C24-001
教員名	三輪 まどか
教員コード	102263
登録人数	264
回答数	85
回答率	32.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、日本の社会保障法の構造とその役割を理解したうえで、法的な観点からの問題解決やリーガルマインドの醸成、多様性の理解を身につけることを目的としている。この点、定期試験の解答を概観すると、おおむねその目標が達せられたと理解している。

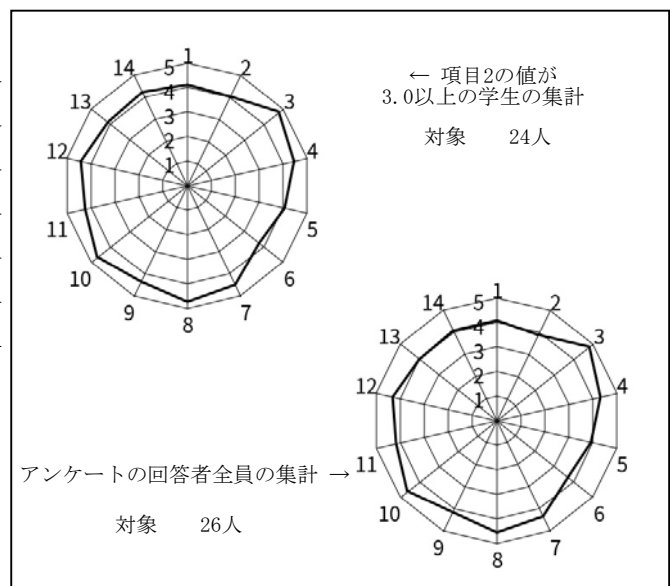
これらを踏まえた上で、数値データを見てみると、全体としての満足度（設問14）は4.62、項目3から14の平均値は4.70と、おおむねよい評価をいただけたものと推察する。この点で、当方の熱意が伝わったことと、それを受け取る学生の真摯な授業への向き合う姿勢の相乗効果が得られたものと思われる。

自由記述を見てみると、レジュメの見やすさ、講義の声の聞き取りやすさ（体調不良により、声がうまく出なかったこともあった）、説明のわかりやすさについての評価をいただく一方で、改善点については特に指摘がなかった。とはいえ、大人数の授業の割に回答数が少なく、およそ30%程度にとどまったことは反省点である。アンケートの案内回数を増やす、Webclassにて注意喚起するなどの工夫が必要である。

来年度は、この授業を担当しないため、次学期の方針についてここでは詳述しないが、次に担当する場合には、よりブラッシュアップした講義を心がけたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境と文明
授業コード	46B04-001
教員名	大八木 英夫
教員コード	104123
登録人数	74
回答数	26
回答率	35.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

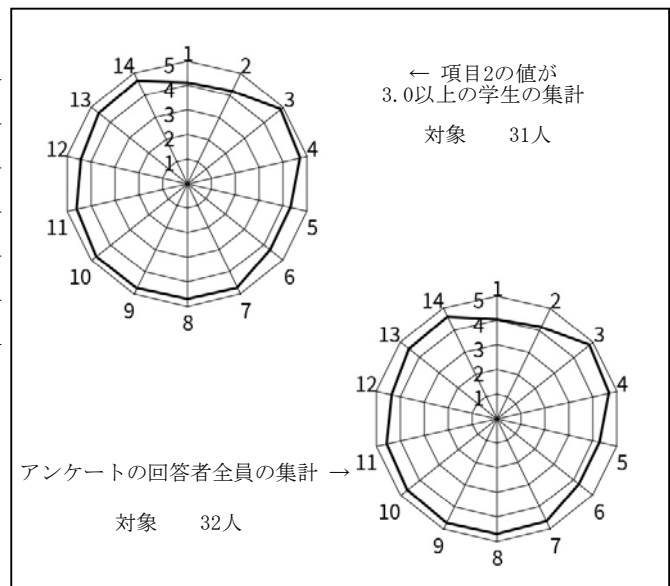
本授業では、環境と文明に関する各専門分野の知識を横断し、世界の文明とその背景にある自然環境と密接なかかわり、その関係性について理解を深め、人が自然と共存し持続可能な発展についての授業を展開させた。

目標と到達の程度については、人類が築いてきた文明と自然環境との関係にスポットを当て総合的に環境と文明のかかわりについて、確認テスト通じて理解度が高まった。一方、現在の世代の要求を満たすような社会について考察について、環境問題や災害・防災を自分で考える能力の点から、授業中の反応や確認テストから今後の課題となると感じる場面があった。

アンケート結果からは、2023年度に比べて進行速度や構成について引き続き評価された。また、概ね学生からの対応は良好で、特に、「（学生の）積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」についての評価はよい。これは、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れつつ、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた結果、その満足度が高まったものと思われる。しかし、講義との関連性について工夫をさらに進める。今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、文明論について自分で考える能力を身につけさせることをさらなる目標としたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境地理学
授業コード	46D14-001
教員名	藤本 潔
教員コード	100100
登録人数	90
回答数	32
回答率	35.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

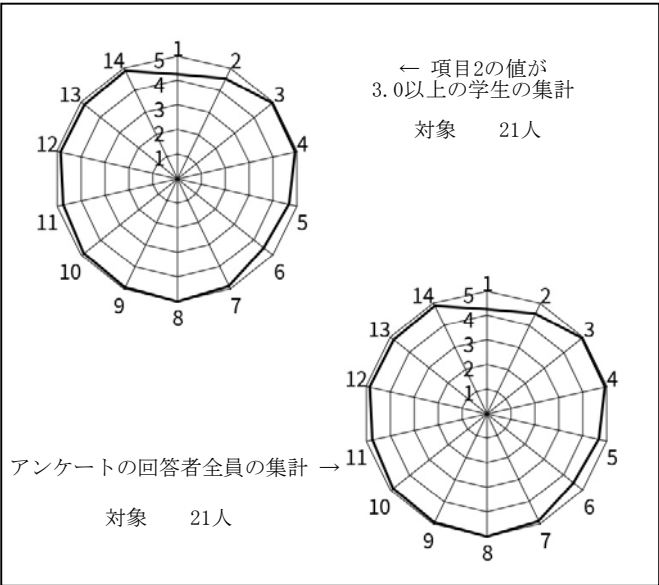


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は2017度から新たに開講した科目であり、これまでの5回の授業評価の結果を踏まえ、いくつかの改善を試みた結果、項目3-14の平均が2017年度4.15、2018年度4.30、2019年度4.48、2021年度4.50と徐々に向上し、2022年度は4.48と停滞したものの、今年度は4.57とこれまでの評価の中で最も高い値が得られた。ただし、2022年度までは200名を超える登録があったが、2023年度以降は同時限に1年生が主に受講する選択必修科目が開講されたことに伴い、受講生が90名程度に減少したため、よりきめ細かい指導ができるようになったことも影響していると思われる。各項目の値に注目すると、2021年度まで項目5（到達目標の理解）と項目6（到達目標に対する力がついたか）が相対的に低い傾向にあったため、初回授業で到達目標について説明すると共に、各回の授業でも到達目標との関係を意識しつつ講義を行ったところ、項目5は2021年の4.19から4.28へ、項目6は4.09から4.28に向上した。定期試験では到達目標に達しているか否かを判断するための記述式問題を1題出題したところ、76%の学生がその水準に達していることが確認された。前回の授業評価では、リアクションペーパーやレポートの負担の割に授業参加度（30%）が低い点を指摘する学生もいたが、今回はそのような指摘もなかったことから、学生の到達度を適切に把握するためにも定期試験70%、授業参加度30%で評価することとしたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語III2
授業コード	46F03-002
教員名	O' CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	43
回答数	21
回答率	48.8%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



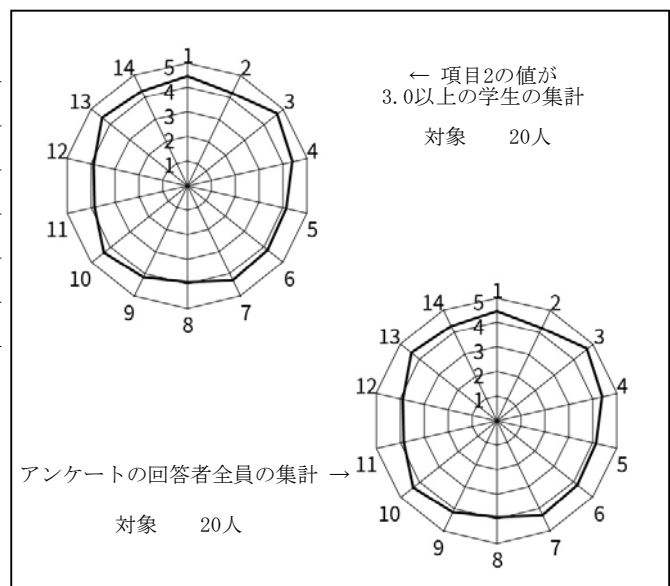
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The English for Policy Studies class was run over one quarter and aimed at giving students an opportunity to enhance their English production skills (speaking, listening, reading and writing) as well as stimulate their thoughts about policy related news in Japan. Overall, these goals were satisfactorily achieved by providing students the chance to use their English by creating and delivering presentations related to international and public policy as well as writing written summaries on recent news.

Looking at the overall average score of 4.7, it is safe to say that the students were pleased with the way the class was delivered and managed. Many of the students responded by mentioning that they enjoyed the class content and felt positively changed by the tasks given. There also seemed to be a heightened consciousness regarding the importance of polishing their presentation skills, which was pleasing to see. One student commented that some of the language was a little rough at times, but as some of the content was dealing with raw, authentic content and objective opinions, at times that couldn't be avoided. However, in future classes I will endeavour to monitor the language covered and how students respond so as to ensure it is a comfortable learning environment for all.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 対外政策論
授業コード 46L03-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 98
回答数 20
回答率 20.4%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

基本的にシラバス通り行うことができたが、Q4の期間に、講義対象となる韓国で尹錫悦大統領による非常戒厳宣布とその後の弾劾訴追関連について解説する必要が出たため当初の講義内容を圧縮する必要があった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

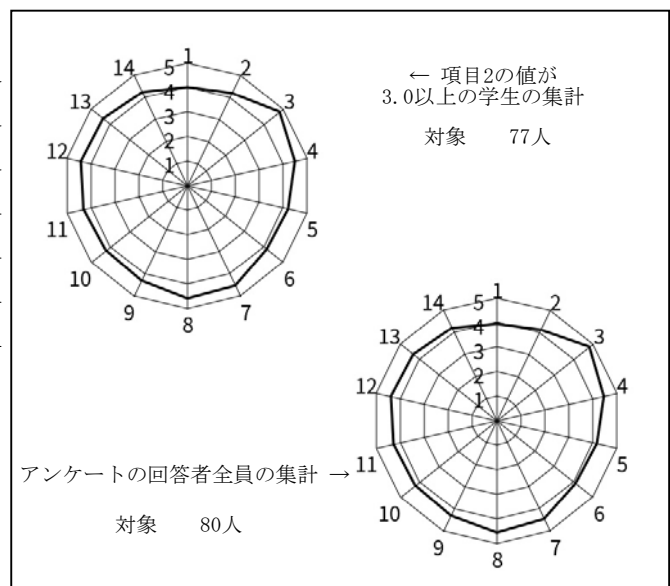
上記のような状況のため、学生にとっては多少混乱があったかと思う。進行形の状況についてもう少しわかりやすく説明することはできなかったと反省している。研究対象での極めて大きな政治変動に直面し、私自身が興奮していたこともあり、学生からするとその意味の大きさを理解できなかったかも知れない。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本講義の正確から考えて、次年度はトランプ政権のアジア政策も明らかになり、韓国の政局、北朝鮮の動向を前提として日本の対外姿勢がどうなるのか、というまさに進行形で発生する事象についての理解および意義付けをうまく伝えられるよう心がけようと思う。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地域経済論
授業コード	46N06-001
教員名	澁谷 英樹
教員コード	151974
登録人数	298
回答数	80
回答率	26.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、受講者数が300名を超えていたため運営の難しさを感じた。授業中盤、出席率が低下する予兆を感じたため、静粛よりも賑やかさを演出した。これについて、アンケートには私語を注意しないことに言及するものがあった。これは、冬季に出席率が下がりやすく、インフルエンザの流行もあったため、規律よりも出席のしやすさを重視した結果であり、やむを得ず採った方針である。この影響により若干停滞し、到達の程度は前年よりも悪かった。ただし、アンケートの結果は設問1を除いて4点を超えており、結果としてはむしろ良好であった。つまり、雰囲気作りに徹し、アンケートの結果もまさにそのとおりである。

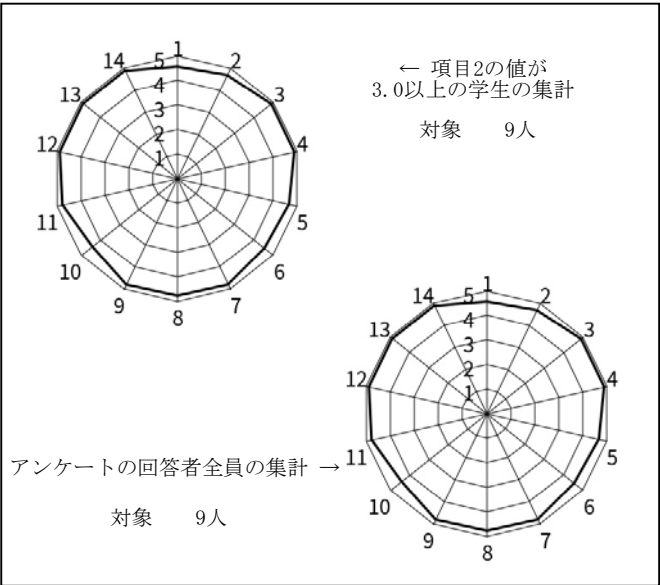
ただし、解説が間延びしているとの指摘があった。私の授業は300ページを超える資料を準備しており、これ以上の力のこもった論調は学生間の学力差を考慮するとあまり得策でないように思われるが、より詳しい議論を望む声は歓迎すべきところである。これは授業が停滞した影響を指摘した意見と感じられ、私も反省すべき点と認識している。

なお、アンケートでは時間を超過しているとの指摘が1件あった。これもそのとおりであるが、単純な時間調整のミスである。なお、私は休講なく厳密に時間ちょうどまで授業を運営しているため、ときに誤ることはあることをご理解いただきたい。

次年度は、レポートに切り替わり、macユーザーが使用できないツール（これは国が配布しているものであった）を切り替えなど学生の要望を取り入れるものの、かなり多くの学生が履修する科目となっているため、コントロールの難しい点が多くなってきている。また、B31教室は、電源が無く上階であるため不利な環境である。これを指摘する声があったものの、教員には対処できそうもない。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	開発政治論
授業コード	46N11-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

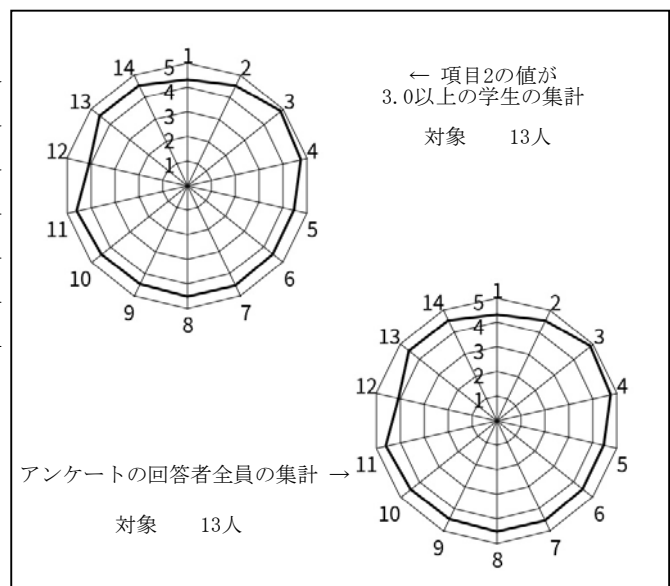
This course is a lecture-based course focused on issues of political and economic development since World War II in the countries of Africa, Asia, and Latin America. The course is divided into two parts. The first is a survey of major development approaches from the 1950s to the present. The second part requires students to select a country in which economic development has not occurred according to historical expectations and to analyze the reasons why that country has not performed as well as others.

Overall, the students who responded were happy with the course and its content. There were no negative written comments. Unfortunately, less than half of the students enrolled responded to the evaluation, so one cannot be too careful in reading the results.

I will continue to teach this class as I have done in the past.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III1
授業コード 46F03-001
教員名 Jean Claude AHWENG
教員コード 104148
登録人数 41
回答数 13
回答率 31.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

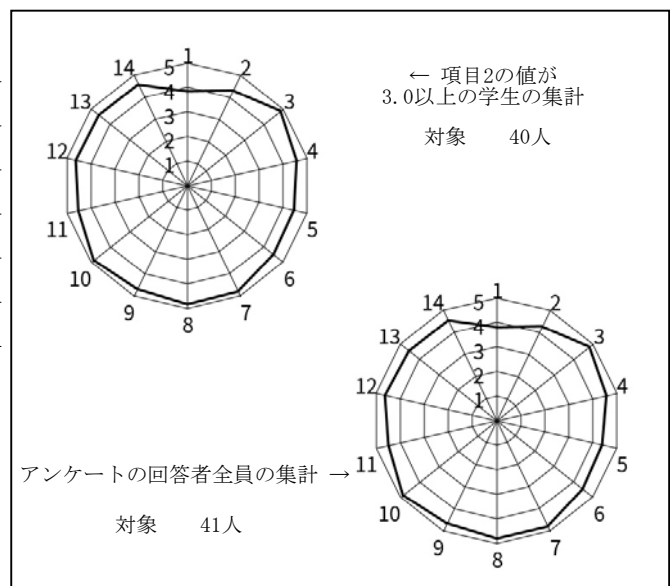


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of this course were for the students to: (1) Be able to understand articles-videos in English on major international issues; (2) Be able to summarize what they have learned in English; (3) Be able to express their thoughts and opinions about what they have learned in English. On average, based on the weekly assignments that the students submitted, the teacher can conclude that, despite the fact that the study materials were at native English levels and quite specialized, the students performed very well and the above three main objectives have been achieved. Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course, allowing the students to know exactly what they were expected to do and why, thus motivating the students to focus on the assignments. Despite the topics being quite challenging, the students found the assigned topics to be important and thought provoking, and took the assignments very seriously, gave much thoughts about the assigned topics and wrote good reports. Based on feedbacks from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they learned a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. In the future, the content of the course will be updated to include the latest important developments in world affairs, such as developments in the Russia-Ukraine war, Israel-Palestine conflict and BRICs.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	環境と法
授業コード	46M05-001
教員名	岩崎 恭彦
教員コード	102072
登録人数	87
回答数	41
回答率	47.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

南山大学総合政策学部において担当した「環境と法」の科目では、授業の方針として、法学を必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生の皆さんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずる上で、次の点に注意を払ってきました。

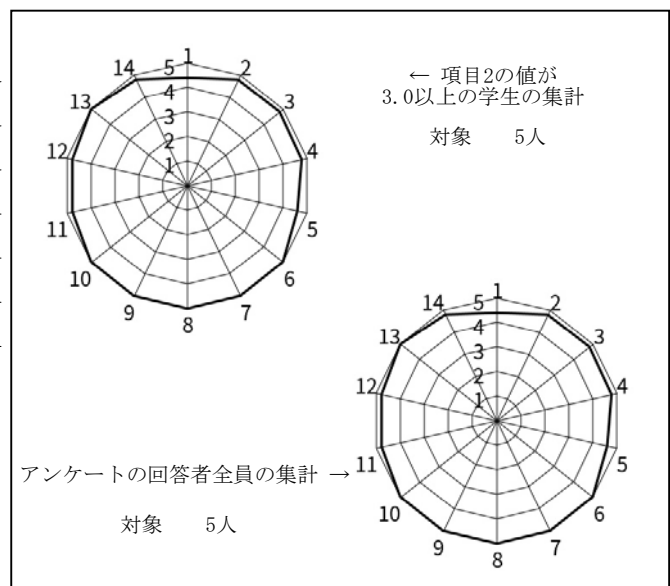
すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストなどの資料をパワーポイントで作成したスライド上で共有して学修内容をビジュアル面からも捉えられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しました。また、法学関係科目の未履修者に配慮して、法令集を作成・配付して実際の法令・条文を参照し、かつ、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけました。これらの点に対しては、今回のアンケートでも多くの方々に評価していただけたと感じています。

他方、自由記述欄では、口頭説明事項の難易度や速度、資料の配付方法等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても適宜対応を図り、更なる授業改善を心がけようと思っています。

ところで、本年度をもって、「環境と法」の出講に一区切りを付けることになりました。これまで受講してくださった皆さんに心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	公会計論
授業コード	46N15-001
教員名	曾場 七恵
教員コード	151236
登録人数	20
回答数	5
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では前半に講義、後半に学生の演習形式で進行した。公会計は国や地方自治体の行財政の動向に着目するため、各テーマの論点を説明した後に、インターネットを用いて政府の公表資料を検索し各テーマに関する課題に取り組んでもらった。

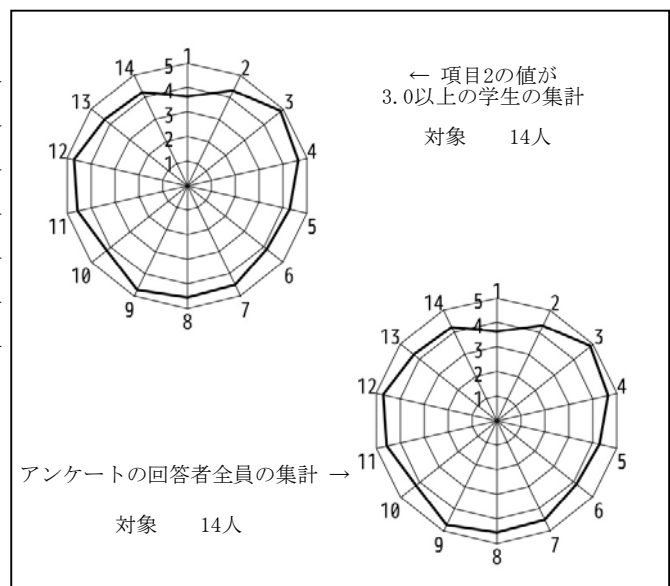
シラバスに掲載した本授業の目標の中に、「行政の説明責任の意義を公的資料を読み込み、自身の意見を発言できるようになる」とことと、「公会計に関連する数値データをもとに国や地方自治体の財政状況を分析できるようになる」ことを掲げた。学生自身の生活に関わりのある行政サービスを調べ、それにいくらの財源を必要とするのか、サービスの質や財源は十分なものであるか、このような情報は容易に入手可能な社会になっていることを伝えた。現代の日本が抱える財政問題を知ること、納税する意味を考える機会を提供できたのではないかと感じている。実際、毎回の授業では小レポートを課し、その中でテーマに関する感想と自身の意見を述べてもらったが、教員が想像する以上に真剣に書く問題に向かってくれた。

②今年度は開講曜日を変更したところ履修者数が上級生のみ、少人数での授業となったため、学生と意思疎通を図りながら進めることができなかった。昨年度のようなコンセン不足による困難も避けることができた。その結果として、授業中に学生側の不具合にすぐに対応する環境が整っていたことから、全体的に高評価を得られたと考える。また、授業初期にはこの授業内容に特に関心がなかった学生が、解説や課題に触れる中で公会計、財政に関心を抱いてくれたと見受けられる評価を受けたことを喜ばしく感じている。

③公会計の抱く課題は、税や借金というお金の金額だけを見つめても解決するものではない。国や地方自治体の財政の現状と問題を多角的視野から理解する必要があり、本学部で学ぶ意義を実感してもらえるような授業を展開できるよう努力する所存である。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-028
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	40
回答数	14
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

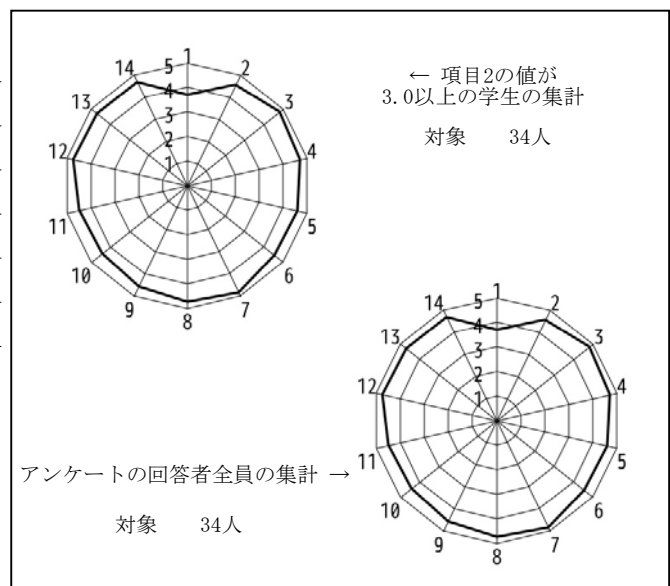


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は情報ネットワークの適切な利用に関して、e-learningによる自主学習とレポートのピアレビュー、および対面でのグループ学習によって理解を深める科目である。新型コロナウイルス感染症への対応も終了し、授業の運営についてはコロナ以前と同等になったが、コロナを機に進めたWebClassの活用や動画作成による発表については実施を継続している。学生同士のコミュニケーションも活発に行われており、予定通りの授業を実施することができた。学生の授業への積極的な参加という目標はおおむね達成できたと考える。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.40、項目3~14の平均が4.48であり、情報科目全体の集計結果よりわずかに低い値であった。個別の項目では項目1が3.64であったが、その他は設問6の4.14が最も低い値であり、全体として高い評価が得られたと考える。自由記述欄では授業がわかりやすかった、スムーズに進んだという評価がある一方で、メンバーがグループ学習に非協力的で、本授業の形式に不満を述べる意見もあった。
3. 割り当てられたグループのメンバーがディスカッションや発表準備に協力的でない場合、一部のメンバーに負担がかかり、授業に不満を抱えてしまうという問題は自由記述欄に記入した学生以外にも存在する可能性がある。近年はコロナ禍で中高生の期間、対面でのグループ学習を経験していない学生も多いと思われる。今後はそのような学生を早期に発見し対応できるように心がけたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]4 [遠隔授業]
授業コード	10C01-030
教員名	杉原 桂太
教員コード	101115
登録人数	40
回答数	34
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

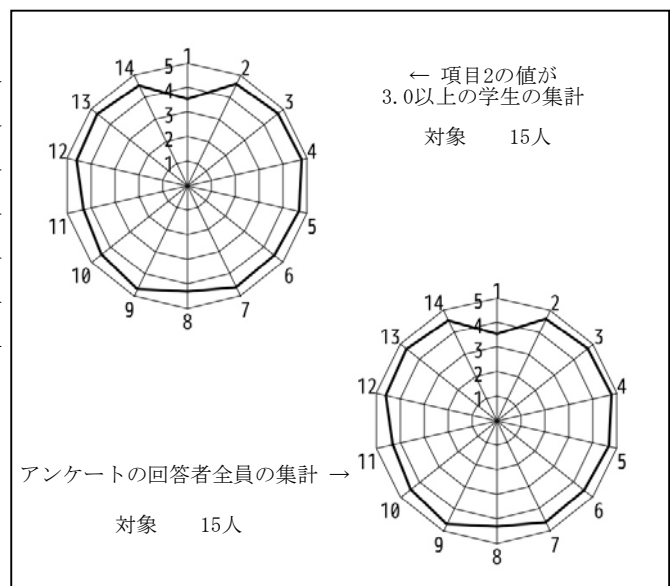
本授業では、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。項目（1-14）では多くの項目で4点台の評価が得られたが、3点台もあった。設問1（3.71）から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。自由記述からは、設問15について、「質問の時間が設けられていて充実していた。また、ベストワン賞などを設け学生に意欲的に発表をさせようとしていてよかった」、「仲間と交流し考えてひとつの発表を作り上げていくのは大変だったが、楽しくもあった。話し合いをしっかりとってくれる」などの評価がある一方で、項目16では、「スライドをスクリーンで見るときに明かりを消すなどしてほしい」、「もう少し質問がしやすい環境を作ったほうがいいと思った」という記述があった。これら項目16については、今後の授業では十分に留意したい。

設問項目14（4.68）は一定の値とはなっているが、さらなる向上につながるように常に留意していく必要がある。

以上を踏まえ、目標の達成のためには改善点が必要であることが分かる。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]8 [遠隔授業]
授業コード	10C01-034
教員名	横森 励士
教員コード	101114
登録人数	43
回答数	15
回答率	34.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度から情報倫理の授業を担当するようになり、今年はQ1にも担当が増えて年2コマ×（1度に2クラス）＝4クラス分の担当を持つようになった。

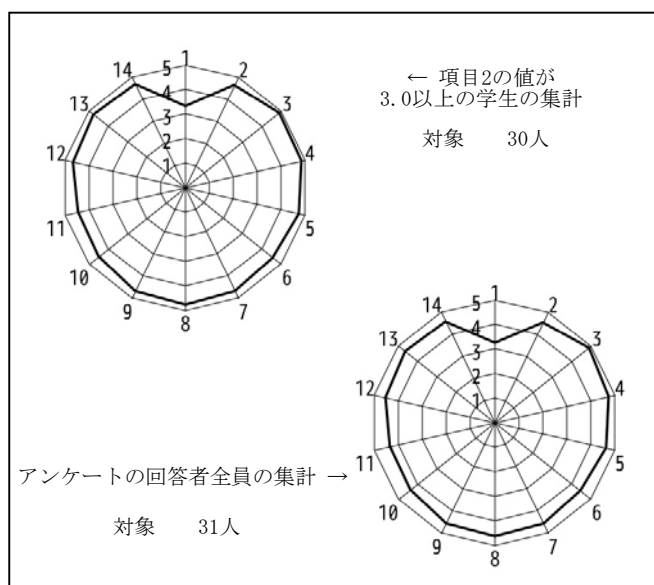
あらかじめ授業のフォーマットは決まっているので、開講当初に設定していた目標と考えられる情報倫理についてのスタンスとしては、個人的には進行役に徹して、余計なことはせずに、時間をディスカッションや発表の時間にできるだけ割くことを心掛けた。

基本的に学生主体で取り組んでもらう科目と認識しているので、やってほしいことを提示して、どう決めるかは学生に最大限任せており、そういう意味でのストレスは少なかったと思う。学生の評価も平均 4.5 と高い数字で、情報倫理について理解しながら楽しく学べたのではないだろうか。

ポジティブな意見をまとめると、みんなで学んだことを全員で共有でき、自分の意見を発言する機会もあり、主体的に学ぶことができ、レポートの書き方や発表の練習にもなり、eラーニングと対面授業を通して内容の理解が深められたという、1年生の最初でやるには十分有意義な内容であったと思う。今後もまだ担当が残っており、来年度以降も担当はあると思われるので、このスタンスは崩さずに、学生の意欲を削がないような運営をしたいと考えている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[G]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-058
教員名	蜂巢 吉成
教員コード	019448
登録人数	39
回答数	31
回答率	79.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度初めて情報倫理の授業を担当した。授業は情報倫理に関する教材をe-learningで学ぶオンライン授業と情報倫理に関してグループでディスカッションを行なって発表する対面授業で構成される。対面授業は指定された題材についてグループでディスカッションしてプレゼンテーションの準備をする回とプレゼンテーション動画を発表する回の2回を組して行う。全学必修の共通教育科目であり、講義資料などが既に丁寧に作例されており、それに従って授業を行った。

設問1は3.26と高くない値で、受講前はこの授業に興味・関心・期待がなかったようであるが、その他の質問は4点以上、特に設問13や14も4.5点以上だったので、学生は積極的に授業に取り組み、好評だったようである。学生の情報倫理に対する意識も向上したと考えている。

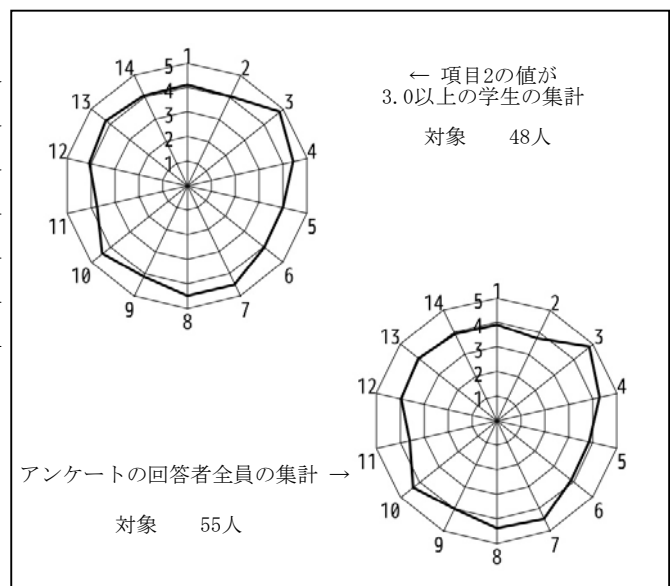
対面授業のディスカッション回では題材について簡単に説明した後、グループに自由にディスカッションさせた。この授業にはTAが1名採用されているが、TAが学生からの質問などに適切に対応してくれており、授業の運営に大いに役に立った。TAの学生に感謝したい。発表会では学生の動画発表、学生同士の質疑応答の後、発表について一言コメントするようにした。

自由記述欄ではグループワークやe-learningについて評価する意見が多かったが、プレゼンテーション用の動画を作る期間が短かったなどの意見もあった。

来年はこれらの意見も参考に授業を行っていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア開発技術I
授業コード 54A11-001
教員名 沢田 篤史
教員コード 101413
登録人数 198
回答数 55
回答率 27.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1-1) 開講当初の目標：ソフトウェア開発技術（ソフトウェア工学）の基礎概念について学生が理解し、説明できるようになることを目標とした。また、ソフトウェア開発方法論の代表例である構造化手法、オブジェクト指向開発手法について、学生が新しい問題に対して適用できるようになることを目標とした。

(1-2) 到達の程度：ソフトウェア開発技術に関する基礎概念については、丁寧な説明と復習問題の充実を心掛けた結果、定着したものと考えている。一方で、方法論の適用については必ずしも十分でない部分があることが、自由記述などからうかがい知れる。

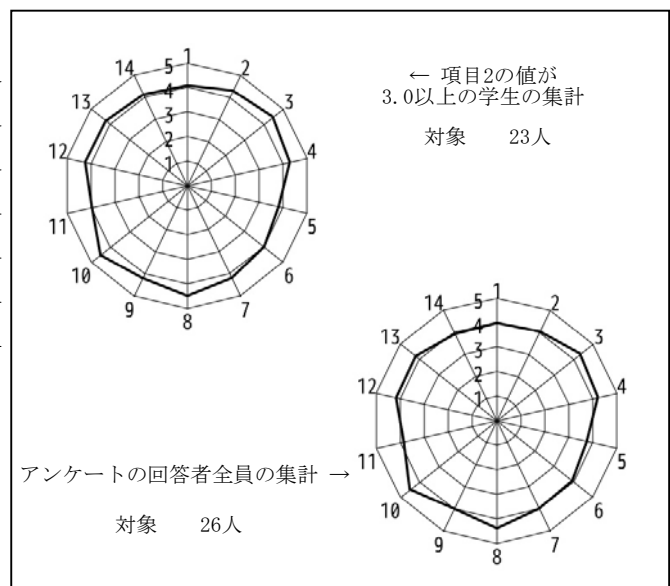
(2) 数値データ・自由記述を踏まえた自己点検・評価：自由記述からは極端に否定的な（評判の悪い）反応は見られなかった。数値データに意味があるかどうかは不明だが、これも取り立てて悪い反応は少なかった。よって、回答結果から見える範囲においては、この授業はおおむね良好に進行できたと考えている。一方で、開発方法論の実践については具体例の充実を求める声が自由記述に見られた。この点についてはさらなる工夫の余地があるといっている。動画の提供を求める記述があった。単なる定期試験対策のための動画提供については否定的である。一方、この分野についてさらなる学習のための見直しや自分の理解を定着する必要性を感じた見直しを目的とするものであるならば、撮影・録音をしておいて定期試験終了後に公開することを検討しても良いかも知れない。

(3) 次クォータ・学期以降に向けての改善点と今後の抱負・方針

前項にも書いたことだが、方法論の適用について学生が具体的なイメージができるような解説を心掛けていきたい。動画の公開についても検討課題としたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング言語
授業コード 54B02-001
教員名 野呂 昌満
教員コード 016477
登録人数 173
回答数 26
回答率 15.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



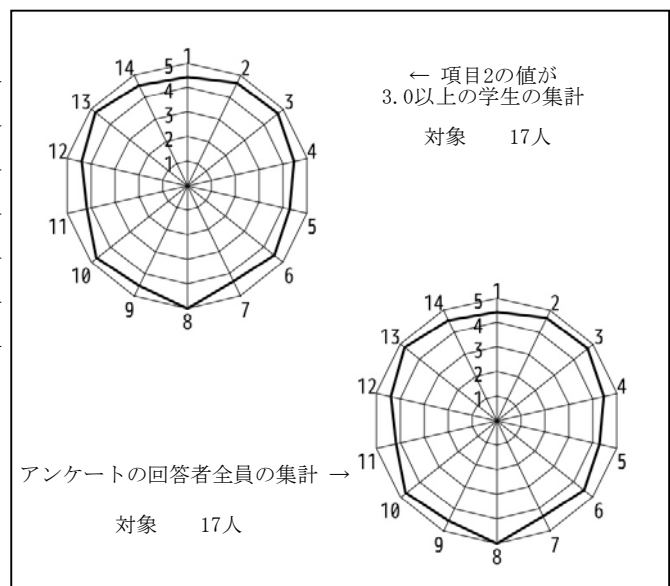
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：シラバス記述の通りの目標がレポートを評価してほぼ達成できていることが確認できた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：自らの記憶では過去最高の評価(4点代)を受けたと考える。例年との違いを強いてあげるのであれば、講義内容を厳選し、重要事項を幾度も確認する、という姿勢で講義を組み立てたことである。しかし、設問20および21に関しては設問内容を学期冒頭に伝えただけであったので、このような結果となっている。この点は反省すべきである。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：すべての講義において内容を厳選することを行うべきと考える。学生の質も変化してきているので、いたずらに要求水準の維持だけを念頭に置くのではなく、それに合わせた対応はやむなしとすべきであろう。

レポートを採点していて気づいたのは、生成AIによるものと思われる回答がなかった点である。Chat GPTに代表される生成AIの現時点でのものは、推論過程を論理的に記述する能力は人のそれとは比較するべくもない程度である。現在の生成AIの仕組みでは、現本学3年生の知的水準には、遠い未来においても到達可能ではないと推測できる。ここに、生成AIを使った不正に対する対処法の鍵があると思う。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む2
授業コード	13E07-002
教員名	佐々木 美裕
教員コード	019463
登録人数	57
回答数	17
回答率	29.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

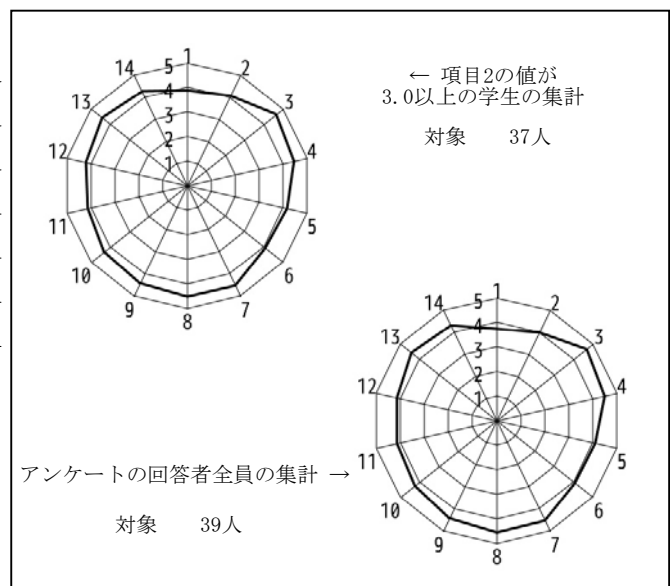


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 最適化の考え方や数理モデルの作り方に興味を持ち、主体的に問題解決に取り組む環境を整えることを目標とした。そのために、初回授業において具体的な目標を3段階に分けて説明し、この授業における目標を各自で立ててもらった。これにより、各自が目標をもって授業に臨める環境を整えた。また、昨年度までは任意提出としていた中間レポートを配点10点として最終課題の進捗を報告させ、早めに最終課題に取り組む環境を整えた。回答数は少ないものの、設問2では90%以上の学生が4または5と回答し、設問13では80%以上の学生が5と回答しており、多くの学生が興味と目標をもって受講したのではないかなと思う。昨年度と比較すると評価はやや悪くなっているが、全体の平均値も4.5以上であり、おおむね目標は達成できたと考えている。
- ② 自由記述には「学生の様子を見て授業を進めていた」「説明が丁寧であった」「Excelが使えるようになった」「習ったことが実践できているかを確認する工夫があった」といった内容のコメントが複数あった。Excelの使い方を教える授業ではないが、副次的効果があったことはよかったと思う。回答数が少ないので断言はできないが、おおむね満足度の高い授業ができたと判断している。
- ③ 受講者の自習をサポートする体制を強化し、最後まで目標を見失うことなく学ぶことができる授業運営をしていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	幾何学概論
授業コード	55B03-001
教員名	小市 俊悟
教員コード	101691
登録人数	166
回答数	39
回答率	23.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

この授業では、幾何学的対象の中でも情報化社会となって、その重要性が最も高くなったとも言えるグラフについて、その定義から始めて、実社会の問題を解決するために、数理モデル化も経由して、どのように利用されているかを学ぶことが目標となっている。自由記述回答にもあったが、途中3回ほど練習問題に取り組む回を設けたり、授業動画を公開することにして復習できる環境を用意したことが良い結果となり、おおむね目標は達成できたのではないと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

設問1, 2に対する数値が相対的に低く、学生のモチベーションの低さを少し心配するところはあるが、全体としては良い評価であると考え。ただし、例年のこととは言え、設問19, 20, 21について他に比べて顕著に低い。これは、理解度について自己評価することの難しさもあると思うが、上がることを期待したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

授業動画については、アンケートを取り、復習に利用したいとの声が大きかったので、公開することにしたが、授業期間中は、決して閲覧数は多いものではなかった。学生には自分の回答に責任をもってもらいたいところではあった。有効に活用してくれた学生もいるようなので、悩ましいところではあるが、継続するかはまた来年度考える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 確率モデルとシミュレーション

授業コード 55B06-001

教員名 三浦 英俊

教員コード 102259

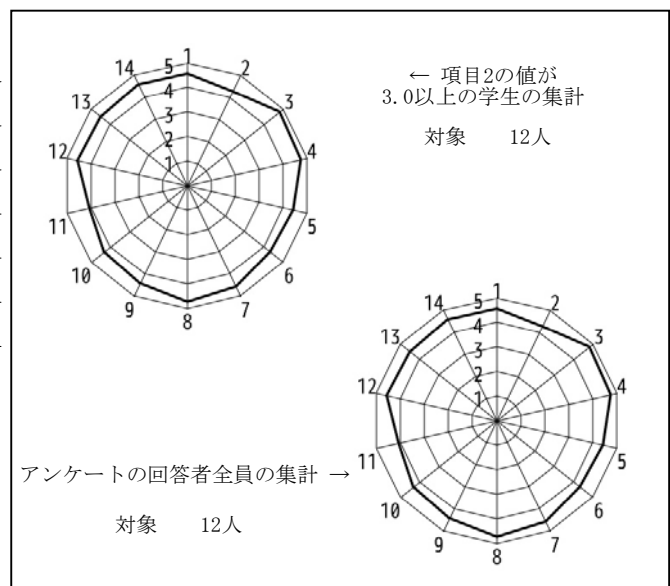
登録人数 32

回答数 12

回答率 37.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

到達目標は以下のように設定していた。

1. シミュレーションの基本（モンテカルロ法、乱数の使い方、等）を知っている。
2. シミュレーションを用いた問題解決の手順を理解している。
3. マルコフモデルについて理解している。
4. 確率モデルを用いたビッグデータの解析の手法の基本について理解している。

項目5, 6の数値から見て、おおむね学生は到達できていたようだ。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

ほとんど毎回課題を課していたが、自由回答に「課題がちょうどいい難易度だったこと。」

の回答があるなど、課題の活用について学生が理解してくれたと感じた。

今年度は、珍しいことだが、項目16の自由回答が一つもなかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

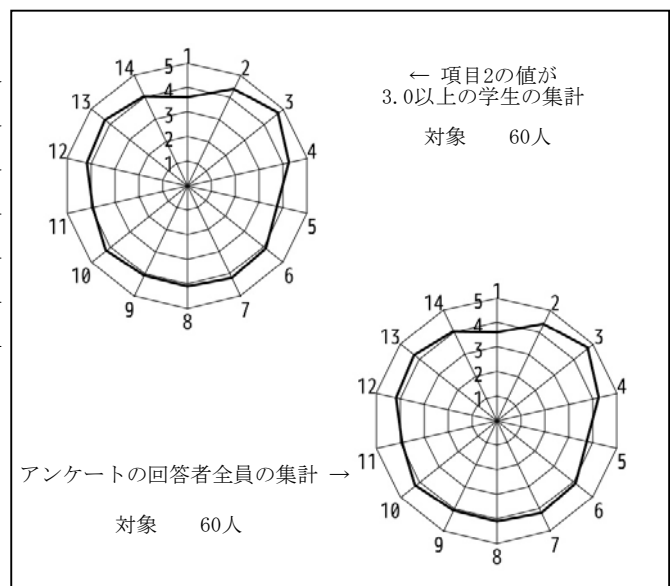
取り扱う内容が多岐にわたっており、また、実践的な技術に重点を置いて授業を構成しているため、背景となる理論は軽く触れるだけとなっている内容が多いので、整理したうえで理論的・数学的な内容を積み増したい。

c言語を用いる課題をpythonに切り替えたい。グラフを描画するgnuplotというソフトウェアを使用してきたが、いちいち学生がインストール手間がある。

pythonであれば、プログラミング、結果の確認およびグラフの描画が円滑に行える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	微積分学III[TC]1
授業コード	56A03-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	163
回答数	60
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・ 授業目標

本授業の目的は微積分学I, IIを引き継ぎ微積分学のより高度な学習をすることである。WebClassで13回の課題を出し、授業内の演習時間と時間外学習で取り組んでもらっている。

・ 目標達成度

単位を修得できた学生は大半（2クラスでFが9人）であったが、昨年と比べるとFが少し増えた。2クラスでのアンバランスがひどく同じ授業、同じ試験なのにこの差があるのは入学者の質の違いかと思われる。

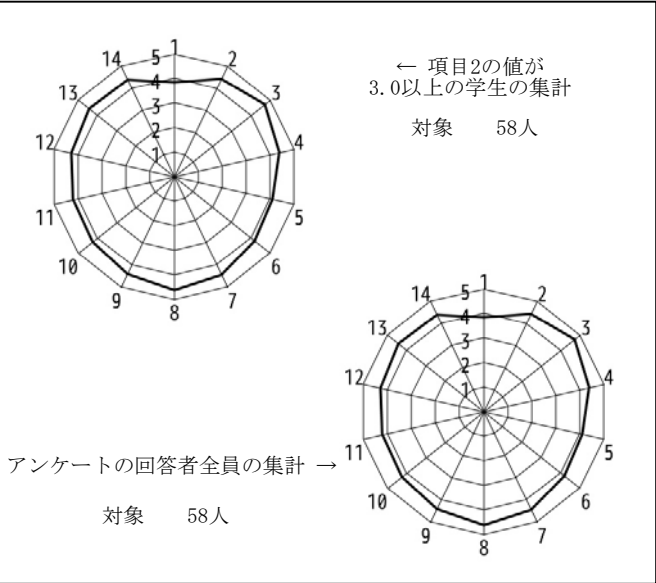
・ 授業評価

本年度の回答数は60で、一時期より増える傾向にあった。回答率と授業評価には関連があるため、2019年から行っている第2問が4以上の学生の傾向と全体との比較を行うことで注意すべき設問を選定した。

4以上の学生の平均は設問8、3、7以外で上がっていた。これらの質問は過去とは全く異なった番号となった。この3つの質問とも参加度に関係なく客観的に評価できるものと考えられるが、符号がマイナスということは参加度が低い学生ほど教員の態度を評価しているということになる。逆にその他の項目は参加度の高い学生ほどしっかり評価しており、概ね授業が良好であったと言える。自由記述では不満も見られるが、評価している学生もあり、数値的には改善が必要な項目はほとんどない結果となった。自由記述にあるようにヒントの出し方に工夫をした点がよかったと考えられる。今後もさらなる工夫を行いたい。

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	微積分学III[TM]1
授業コード	57A03-001
教員名	塩濱 敬之
教員コード	104524
登録人数	153
回答数	58
回答率	37.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 開講当初に設定していた目標と到達の程度は以下のとおりである

1. 常微分方程式を知っている。
2. 2変数の微分に関する基本的な計算ができる。
3. 2変数の微分の応用を知っている。
4. 2変数の積分に関する基本的な計算ができる。

・これらを達成することで、数学（微積分学）に関する技術適用能力の基礎を身につけることができる。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について

設問項目5, 6, 7の回答から、概ね授業の目標に到達していると考える。

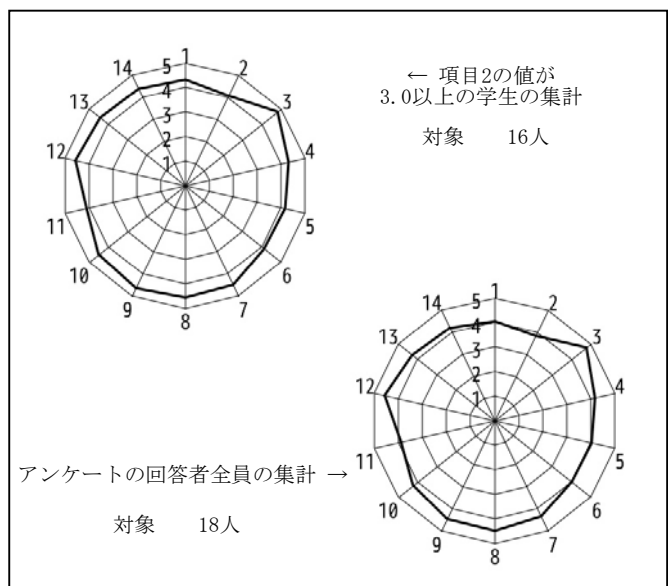
3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて

コロナ感染やインフルエンザ等の欠席連絡を多数受けた。欠席者へのフォローについては十分な対応ができていないと思う。

一方、欠席者へのフォローをどの程度行うべきかも議論が必要かもしれない。出席している学生への対応を優先すべきだと思うが、授業後の資料や演習課題の復習などを充実させたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	電子通信工学
授業コード	56B03-001
教員名	藤原 正浩
教員コード	104753
登録人数	129
回答数	18
回答率	14.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

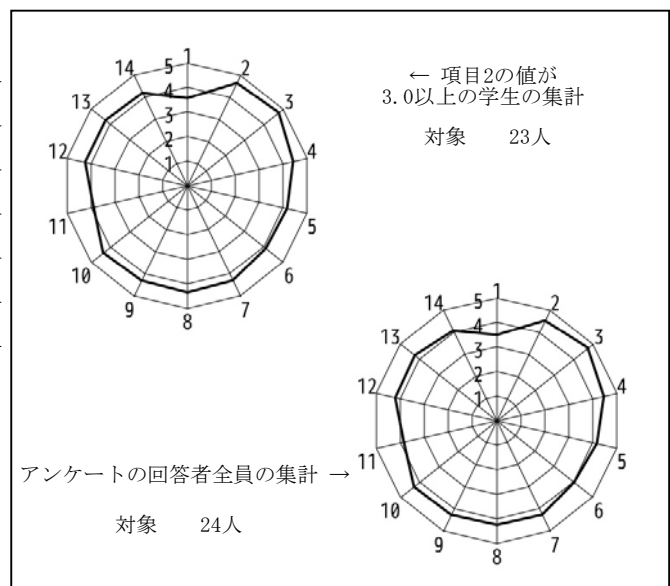


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は、受講学生がセンサ素子や電子回路・信号処理による信号の扱い方に関する基礎的な知識を習得することである。提出レポート及び定期試験結果から、過半数の学生がその目標に到達したといえる。
- ②アンケート結果の数値データおよび自由記述等を踏まえて、授業の本質的な内容のみでなく「何のためにその内容を学ぶか」という点も説明したことで、ある程度のモチベーション向上になったと考えられる。また、講義資料や講義動画をすべてオンラインでアクセスできるようにし、学生が自分のペースで復習できるようにしたことは、内容の理解に有効だったと考えられる。
- ③次クォーター以降に向けて、学生の理解度を確認する頻度を上げることを考えている。本科目は必要な情報がすべてオンラインでアクセスできるため、学生が自分のペースで学習を進めることができる一方、自身での時間管理が不得手な学生は定期試験前の極端な短期間で学習していることが推察される。そのような時間配分では目標到達度が低くなり、また長期的な知識習得についても問題があるため、理解度確認により教員が時間配分をある程度制御することが考えられる。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[E]6 [遠隔授業]
授業コード	10C01-032
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	44
回答数	24
回答率	54.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



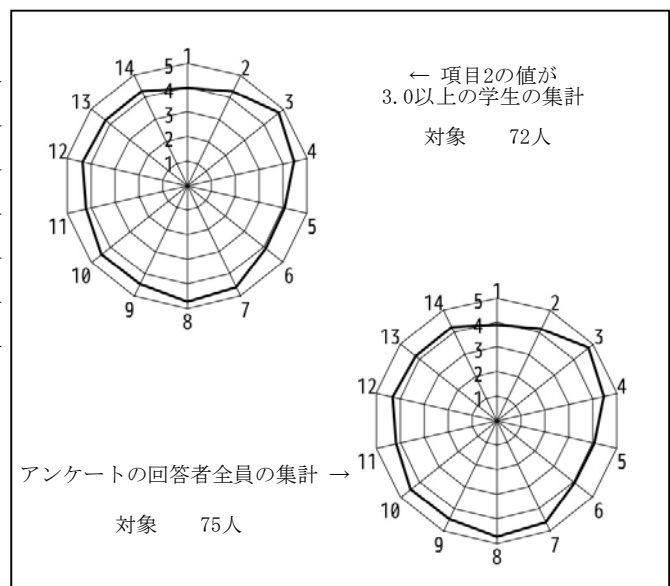
授業評価結果を踏まえた点検・評価

各項目の傾向についてはほぼ例年と同様である。評価の平均値は（授業評価に関連が薄いと思われる1を除けば）4以上がほとんどである。ただし設問11の点数が他と比べて低くなってしまった。長年同じ授業をやっているのに、少し慣れが出てきているのかもしれないのが反省点である。また授業時間中に2回は授業評価アナウンスし回答時間を設けたはずであるが、回答率が低すぎるのには驚いた。全体として、毎年同じことをやっているにもかかわらず、学生の反応パターンが少し変化しているような気がする。

グループ分けについては学生番号順であり、男女比が考慮されない。今回、男女比が（1:4）になってしまうグループが生じているのを見て少し懸念があったが、やはりこのことに対する不満があった。またこのクラスではないが、グループ内で孤立しているとの訴えもあり対応しなければいけなかった。最近になってこのような、「グループになった限りは割り切って課題を一緒にこなす」という作業ができない学生が増えているのではないかと感じる。学生番号順以外に適切なグループ分けの方法は思いつかないので、今後は割り切って作業することの大切さを強調して授業運営をやっていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	物理学基礎2
授業コード	50A29-002
教員名	大石 泰章
教員コード	101405
登録人数	161
回答数	75
回答率	46.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○当初の目標と到達の程度

当初計画していた内容はすべて講義できた。高校レベルの内容から始めて、大学らしい進んだ内容まで、無理なく構成できていると考える。

○数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

ほとんどの設問で4点以上であり、数理的な内容の授業としては満足できる水準と考える。

評価できる点（設問15）には、「説明・資料が丁寧／わかりやすい（11件）」「白板での計算が有用だった（4件）」「公式の背景・しくみがわかった（3件）」などとあり、一定の評価が得られていると考える。

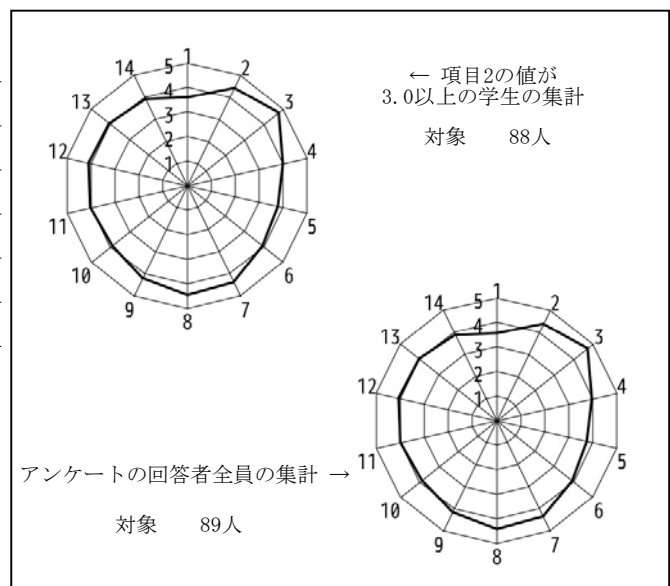
一方で改善すべき点（設問16）には、「問題演習を増やしてほしい（3件）」「提出課題も評価に入れてほしい（2件）」などとあった。特に気になったのは「配布資料に計算過程が書いてあるのに、同じ計算を板書する必要はないのでは」という記述である。板書するときには、配布資料に書いていない式変形の考え方や狙いなどを詳しく話している。数理技術の習得のためには、そうした部分が大切と思うので、今後も今のやり方を続けるつもりである。

○今後の改善点、抱負、方針など

昨年は例年になく厳しい評価で驚いたが、今年は例年どおりの評価に戻った。少し安心したが、緊張感を維持して授業に臨みたいと思う。

2024年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学III(TM)1
授業コード 57A06-001
教員名 坂本 登
教員コード 102293
登録人数 161
回答数 89
回答率 55.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：

期末試験を採点した感想では、年々学生の到達程度が下がってきている。中間試験を2度行って問題を解く時間を増やすよう努めているが、一部の低位層学生には十分な効果が出ているとは言えない。1年次までの線形代数学は計算重視であるが、本講義では論理（証明）も重視している。期末試験では、上位層学生が論理構成を理解していることがわかり、心強く感じた。低位層と高位層の差が拡大していることに危惧を覚える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

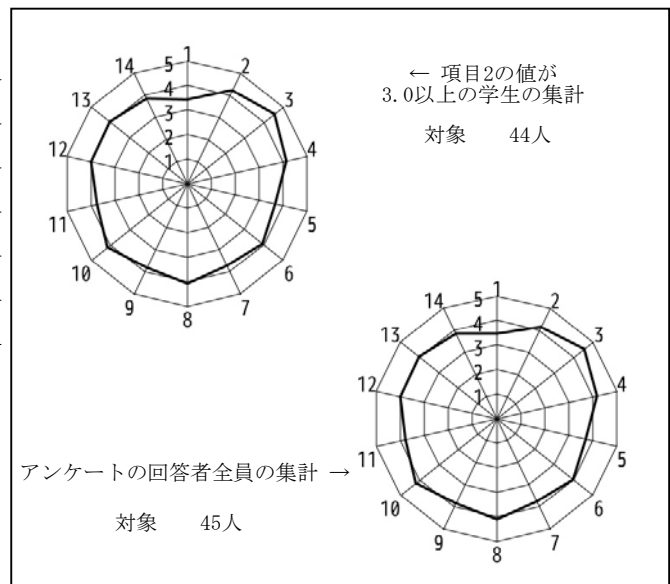
授業アンケートを見ると、目標への到達度や授業全体への満足度はおおむね良好であると考えている。中間試験を行うことに肯定的な意見が多い。また視聴記録を見ると、講義の録画ビデオは明らかに復習に役立っている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：

中間試験と講義ビデオの公開は続けていく。中間試験について、評価全体に対する割合が不明瞭であるとの指摘があったので、次年度は改善したい。また、中間試験の難易度と分量を変更する必要があるであろう。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	統計学概論2
授業コード	50A30-002
教員名	白石 高章
教員コード	102104
登録人数	159
回答数	45
回答率	28.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

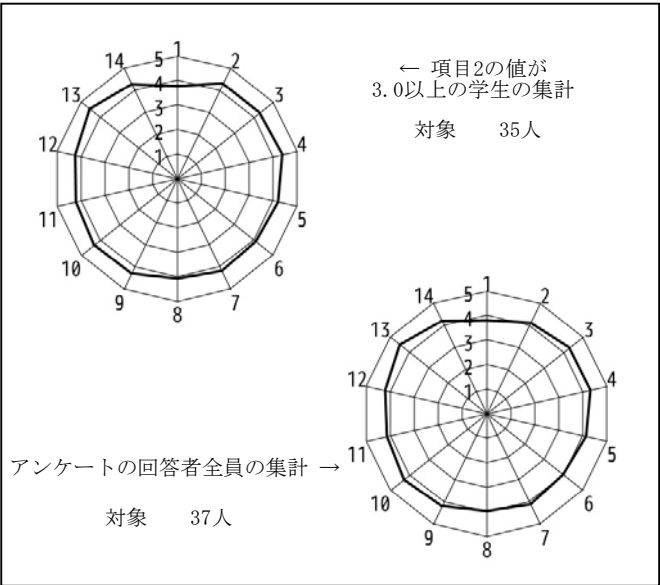


授業評価結果を踏まえた点検・評価

白石のテキストと講義ノートを使って講義した。学生が、統計の科目として最初に受ける授業であるので、その基礎が身に付くように数理の講義を行った。具体的には、記述統計、確率の基礎理論、微積分によるモーメント、多変量解析の基礎のための行列を説明した。その他の補足部分は、pdfファイルにし、白石のホームページからも見るようにし、授業前に配布した。また、授業で行ったテキストのページを公表した。授業終了20分前に高等学校の数学の内容も含め演習問題を与え、解かせ質問に応じ、その日の23時までに学生に演習の解答をレポートとしてWebClassに提出させた。レポートとして提出後、高校の知識でできるもの以外は、問題の解答を解説した。予備校のような解法テクニックを要求する学生が多くみられそのような教育を良しとする学生評価があったが、大学の教育では、解法テクニックを覚えることが良いことではなく、自らが考え問題を解決する能力を身に着けさせることが重要である。この理由により、解法のテクニックを覚えさせる教育は行わなかった。目標通りこなし期末試験結果も良かった。自己点検の評価として、良でよいと思う。今後ゼミ以外の講義はないため、次クォーター・学期以降に向けての改善点はありません。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	微積分学II[TD]
授業コード	55A02-001
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	76
回答数	37
回答率	48.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

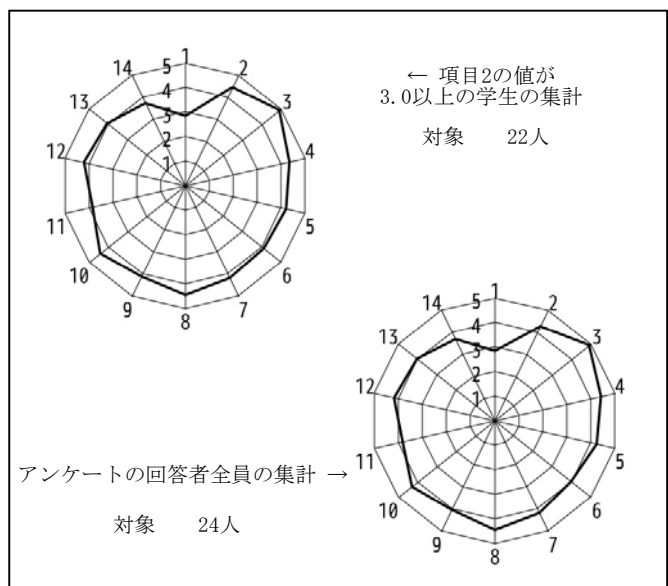


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第1クォーターの「微積分学I」に引き続き、微積分学の初歩について学習する入門的な授業である。奇数回授業、偶数回演習と交互に行い、授業も、おおむね1時間を講義に、残り30分を学生が演習問題を解く時間にあてている。積分が中心で、基礎的な微分方程式の解法や広義積分が主な内容である。2年次の「統計学概論」での応用を意図して、最後に、確率変数や正規分布を紹介している。本年度から、教科書は「考える力をつけるための微積分教科書（増補版）」（学術図書出版社，2024年）を使用し、内容は昨年までより、やや高度になっている。そのことが学生たちに「しっかり勉強しないとイケない」という意識をもたせたらしく、全体的に昨年度よりも成績は良く、不合格者も少なかった。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-036
教員名	宮澤 元
教員コード	019422
登録人数	35
回答数	24
回答率	68.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

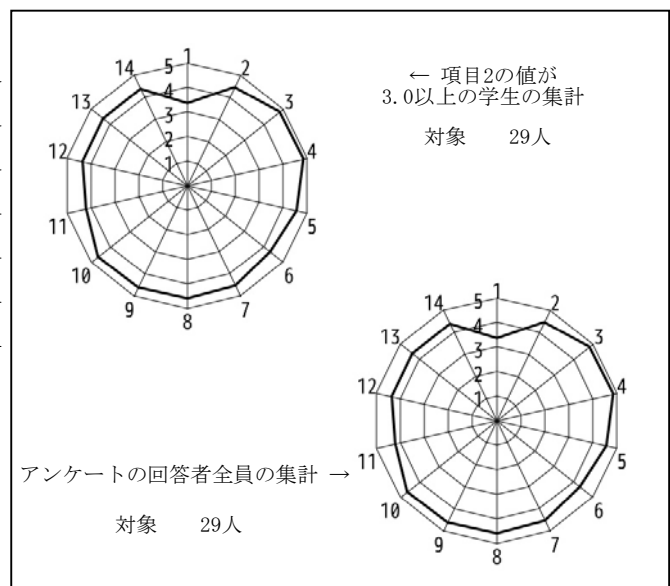
情報ネットワークを安全かつ有効に利用するためのモラル、関連する法律、自衛策、さらに、それらの理解に必要な最低限の技術的事項について、講義およびe-learning、グループディスカッション、発表を通じて理解を深めることを目標とした。多くの項目が4点台だったが、設問14が 3.67 とやや低く、目標が十分達成できたとは言えない。

設問13の結果から科目で目標とする知識・技術は十分伝わったと考える。自由記述でも情報倫理について学んだり理解できたことを評価する意見があった。グループワークに対する肯定的な評価も多く、座学だけでは得られない経験をしてもらえたようだ。改善意見としてレポートの書き方が分からないという指摘があり、ガイダンス等での説明を増やしたい。また、進度やグループディスカッションの時間の余裕に関する意見もあった。対面授業ではできるだけディスカッションの時間を取るように心がけていたが、十分ではなかったのかもしれない。今後は授業進行の改善についても検討したい。

3年目の担当で慣れてはきたものの、アクティブラーニング形式の授業運営にはいまだに難しさを感じている。グループディスカッションで議論が低調なグループを中心に声をかけるようにしてはみたが、うまく介入できているような手応えはあまりない。今後は、学生に最終的な発表成果物を意識した議論を主体的に行う手助けができるよう心がけたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[HC・B]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-040
教員名	藤井 勝之
教員コード	101244
登録人数	40
回答数	29
回答率	72.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

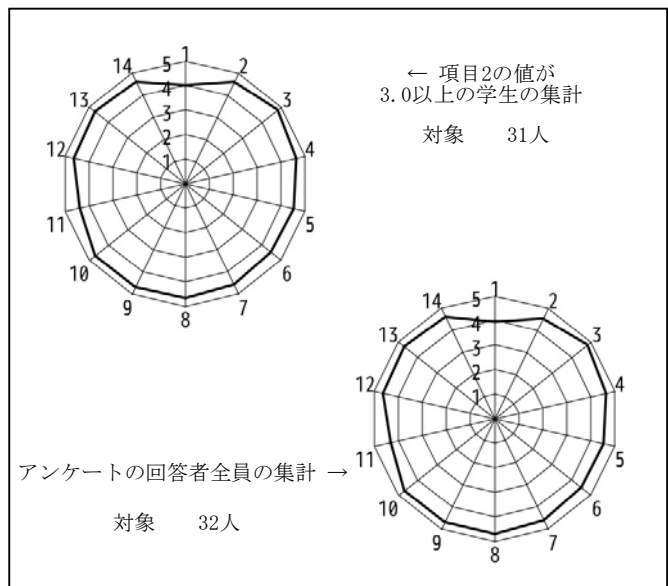
受講生が情報倫理の欠如によって様々なトラブルに巻き込まれないよう、指導を行った。開講主体別平均値と比較を行ったところ、ほぼ平均的な値であった。

開講主体別平均値/当科目の値、平均回答数30.5/29、設問1-14の平均値
4.41/4.44、設問3-14の平均値4.48/4.53、設問1：3.55/3.34、設問2：
4.47/4.45、設問3：4.85/4.83、設問4：4.55/4.86、設問5：4.47/4.59、設問6
：4.29/4.34、設問7：4.53/4.52、設問8：4.62/4.59、設問9：4.45/4.62、設
問10：4.55/4.66、設問11：4.25/4.21、設問12：4.45/4.38、設問13：
4.43/4.38、設問14：4.26/4.38

設問1-14の平均値、設問3-14の平均値ともに僅かに上回る授業評価を得た。設問8の評価が平均より小さいのは、課題提出された動画の録音レベルが小さいことに起因すると思われる。スマホで動画を撮る場合の音量に注意するよう来年は指導したい。設問12は質問の機会を十分設けていたにも関わらず、教員やTAに特に質問はなかった。こちらから何か質問はありませんか？と受講生一人ひとり回って話しかけてあげれば良いのかも知れない。受講生たちをよく見て、十分なバランス感覚を持って講義したい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[T]6 [遠隔授業]
授業コード	10C01-056
教員名	栞原 寛明
教員コード	103522
登録人数	42
回答数	32
回答率	76.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



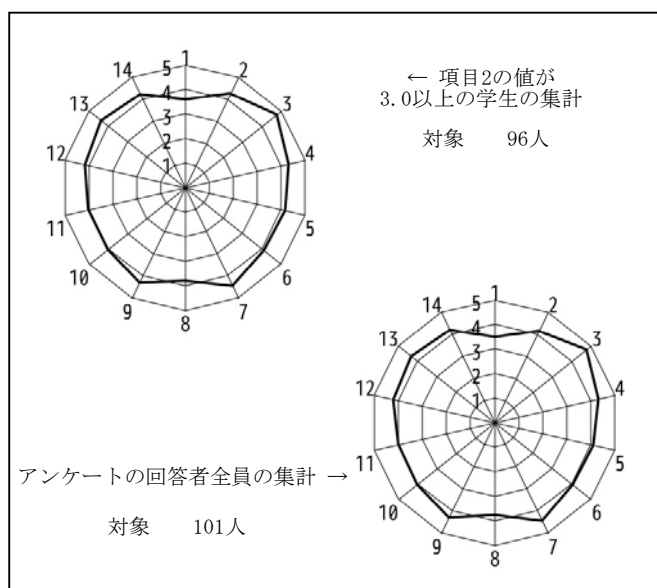
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、授業に積極的に取り組んだ受講生は、到達目標をおおよそ達成できたとみなしてよい。

本科目はe-learningと対面授業を組み合わせで実施した。e-learningでの学習内容について理解度を確認する課題、レポートのピアレビュー、指定課題に対するグループ発表、を通して理解を深めた。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマについて十分に理解できたと思われる。一方、少なくない受講生がe-learning教材に十分取り組んでいないことは残念である。e-learning教材は対面授業の基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューとグループ活動に十分な時間を確保した。発表内容の検討から発表動画の作成までの進め方は各グループの自主性に任せたが、成果物を見る限り問題なくグループ活動ができたと思われる。情報通信技術の進化や社会の変化は継続しており、今後も最新の話題や出来事を取り上げていくことが重要である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 論理と集合2
授業コード 50A26-002
教員名 佐々木 克巳
教員コード 018051
登録人数 206
回答数 101
回答率 49.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

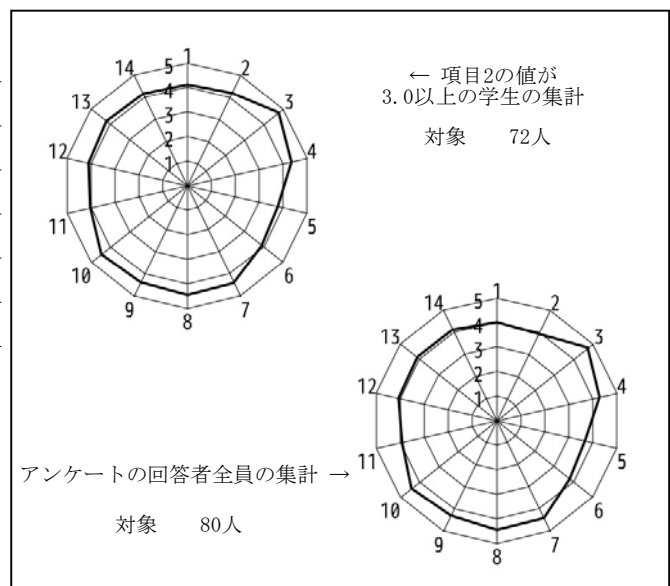
[目標] この授業の目標は、数学で用いられている基礎的な概念を正しく理解し、適切に利用できることである。運営面では、昨年度に引き続き、講義資料の事前配布、その資料に基づく解説を主とした進行、試験形式の中間課題の実施、課題の答案における誤答などの解説を継続した。質問時間と練習問題を解く時間については、授業時間外で対応を基本とした。

[評価] 設問3～14の平均は4.21(昨年度4.37)で例年より低めであった。設問15には、[目標]で述べた、説明・解説・配布資料の丁寧さやわかりやすさ、中間課題の実施、授業の進度、内容の満足度についてコメントがあり、[目標]で述べたことが反映されたと考える。昨年と比べ、とくに、説明のわかりやすさについてのコメントが多かった。質問への対応にもコメントがあり、今年度の方法でも一定の効果があったと考える。一方、設問16には、教員の声の聞き取りにくさについてのコメントが8件あり、昨年度より一定程度増えている。教室後方の私語へのコメントが複数あること、設問8(3.78)が他と比べて低いことなどから、教室後方で私語の影響があると考えられる。教室S23(昨年B11)の影響もあるだろう。理工学部独自の設問では、設問21と設問22では、45%以上が3または4を選択しており、達成度が確認できる。

[今後の計画] 冒頭で述べた運営方針はうまくいっていると考えられるが、今後も検討していきたい。また、設問16にあった教員の声などについては、教室後方の私語に、教室に応じて対応することも含め、検討していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	通信ネットワーク基礎2
授業コード	50A31-002
教員名	奥村 康行
教員コード	101219
登録人数	157
回答数	80
回答率	51.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

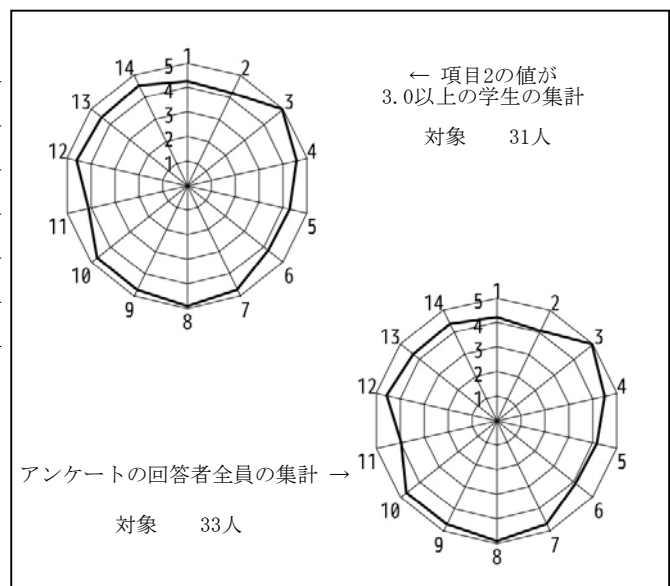


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 約80%の受講者が目標を達成した。
3. 担当科目についての授業評価： 評定値は学部科目平均より少し良いレベルだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、ホワイトボードの文字が見にくい(5)，板書を減らして配布資料にあらかじめ内容を書いておいてほしい(1)，ホワイトボードの文字が大きすぎる(1)，ホワイトボードの書き間違いがあり修正される(2)，通信システムの構成と動作を表現する数式の対応関係がわかりにくかった(2)，であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、配布資料が充実していた(3)，課題の解説が適切(8)、説明がわかりやすい(8)、進度が適切(1)、聞きやすい(2)、ホワイトボードが見やすい(5)，私語への対応がしっかりしていた(3)などだった。
4. 次年度の改善方針： 今年度でこの講義の担当でなくなるが、数式の説明についていけなかったという指摘が複数あったので、そこは改善点である。なお、使用した教室(S23)が縦長教室で座席後方の天井が低く人口密度も高いので温度が高すぎるという指摘が3件あった(寒いという意見もあった)。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	データベース
授業コード	56B05-001
教員名	石原 靖哲
教員コード	103810
登録人数	205
回答数	33
回答率	16.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

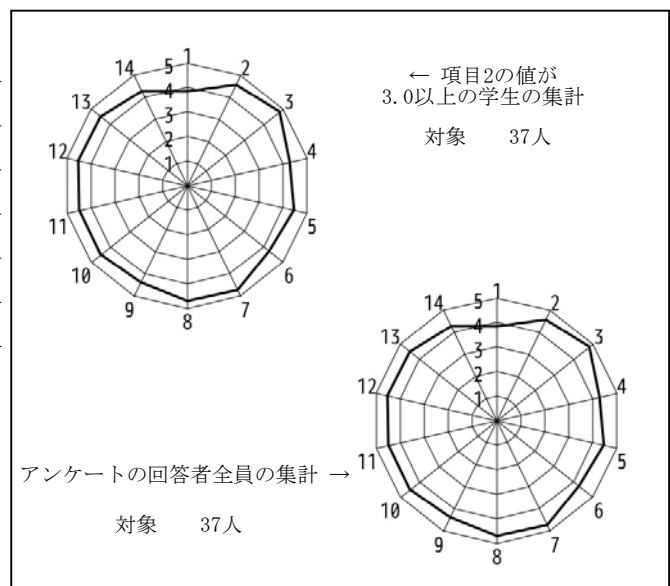


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この科目を担当するのは今年度で2度目であり，昨年度よりも余裕をもって準備に取り組み，わかりやすい授業にしたいと考えていた．しかし結果的には，時間的な余裕がなく，昨年度の授業内容をなぞるのが精いっぱいであり，この科目が対象とする「データベース」の面白さを今年度も十分に伝えきれなかったと感じている．
- ②自由記述でもらったコメントとしては，「説明がわかりやすかった」「授業の動画のアップロードがありがたかった」「ミニレポート課題で定期的に復習ができたのがよかった」など，実施方法に関しては受講生にとって満足度の高い授業ができたと考えている．一方，「授業がおもしろかった」「授業内容に興味をもった」といったコメントはなかった．教えている内容がやや理論寄りなので，現実世界とのリンクをもう少し強調していかななくてはならないと反省している．
- ③昨年度と同様に，シラバスに記載した到達目標に対応したミニレポート課題を計4回出題することで，学生が自主的に考え理解を深めることを促した．また，一方的に講義を行うだけでなく，貸与PC上でデータベースシステムを動かすことも経験させた．これらは来年度も継続していく考えである．また，来年度からは14コマになるため，授業計画の見直しが必須となる．この機会に，学部学生にとってより興味深い授業ができるよう，内容を考えていきたい．

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[T]2 [遠隔授業]
授業コード 10C01-052
教員名 張 漢明
教員コード 049627
登録人数 42
回答数 37
回答率 88.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

■開講当初に設定していた目標と到達程度について

以下の観点について概ね達成することができた。

- ・インターネットによる通信とコンピュータの発展に伴う「情報」の取り扱いについて理解する。
- ・インターネット上のコミュニケーションの特性やセキュリティの概念を通じて、社会的な意義と自分の行動に社会的責任が伴うことを理解する。
- ・ピアレビューやグループワークの議論を通して、自分の意見を相手に伝えたり、手の意見を受け入れることにより、自分の意見を客観的に評価することの大切さと難しさを理解する。

■総合的な自己点検・評価

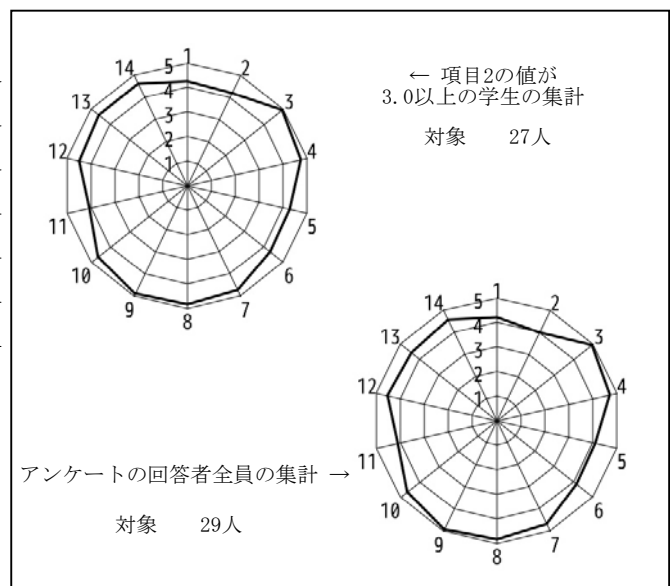
- ・グループワークの具体的な目標とスケジュールを提示して、掲示板を用いてグループおよびグループ間の情報を共有することによるコミュニケーションが、状況把握と議論の促進に有用であった。

■改善点、今後の抱負、方針

- ・アンケート内容の結果から、発表に対して質問をすることがしにくい、という意見が見受けられた。同時に、質疑応答で発表内容の理解が深まったという意見もあった。質問を強要することを改善すべきである、という意見もあった。自発的に質問を促すことができるように工夫する必要がある。
- ・グループの内容をファイルで記述して共有する方法を提供することを工夫したい。ファイルを共有してコメントのやりたりができるようにしたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	機械・材料力学
授業コード	57B05-001
教員名	稲垣 伸吉
教員コード	104255
登録人数	155
回答数	29
回答率	18.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

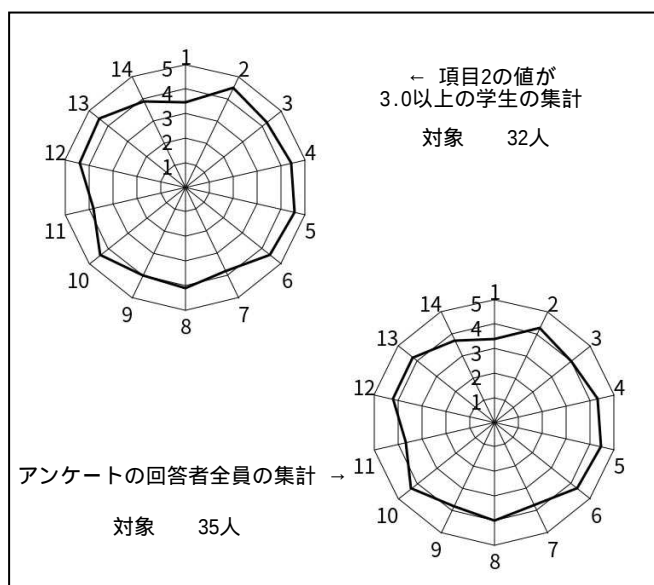


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初の目標は、機械システム工学の基礎となる材料力学について理論を学び、かつ演習問題を通して実際に問題を解ける所までを身につけることである。また材料力学と機械力学との関連についての相互理解を発展的な目標とした。材料力学は機械工学の技術者が身につけるべき基礎力学の一つであるにも関わらず、機械システム工学科の学生だけでなく他学科の多くの学生も受講した。そのため、受講生の理解力に幅があると考えられるが、レポート課題の取り組みの状況を見て、概ね、教科書を見ながら問題を解けるレベルには到達したと考えられる。
- ②設問1～14の平均点が4.49であり、学生に授業内容への興味を持たせ続けながら十分な教育ができたと考えられる。自由記述には、毎回の授業では復習するためのレポート課題として演習問題を課し、次回の授業で演習問題を解説する形で授業を進めた点を評価する声があった。また、webclassを活用した資料の配付やレポート提出も評価された。一方で、授業中に解説する例題が発展的過ぎ、また用意した資料全ての説明ができなかったことが書かれており、授業内容の調整が今後必要である。
- ③本アンケートや期末テスト、レポート課題の結果を基に、次クォーターにおいては授業内容の見直しを行う。特に授業内で解説する例題を見直し、授業の進め方を改善する。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[HA・HP]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-010
教員名	横森 励士
教員コード	101114
登録人数	40
回答数	35
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

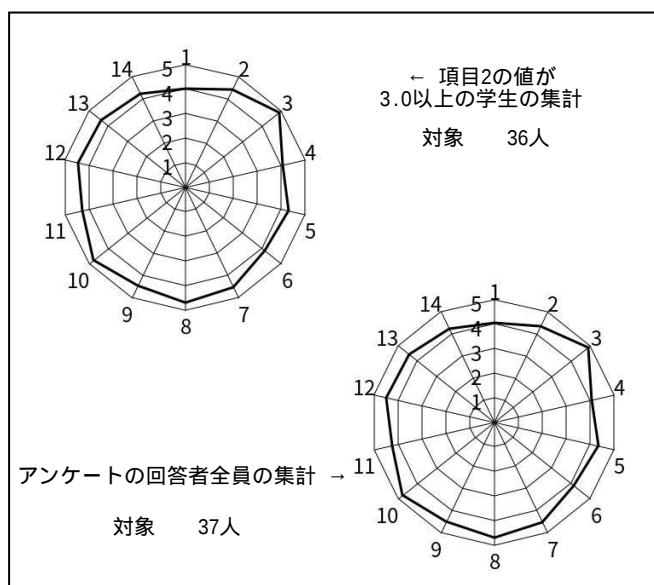
基本的に、この授業に関しては、半分为Eラーニング、半分为Eラーニングの結果を発表につなげるための対面授業として構成されている。
なので対面授業における講師というよりは、進行のための司会という側面が大きく、
学生が発表の取りまとめをするために、必要なことを邪魔にならないように淡々と進めていったという感じである。

授業評価もそんなに低くもなく、ますますの高さであったことは、そのあたりの進行に不満があまりなかったのであろうと思われる。
個別の意見として、作るまでの期間が短くあわただしかったという意見があったが、そのあたりは授業の日程との兼ね合いで、
どうしても短くならざるを得ないときもあったということを理解してほしい。

情報倫理は共通教育科目の1年生を対象とした授業で、私自身は年間で春学期、秋学期を通じて数クラスを担当している。
基本的に全体のスキームがあり、それを大きく逸脱するわけにはいかないところもあるので、
来年度以降も、進行のための司会に徹する形で運営していくことを心掛けたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と情報技術 / Globalization and Information Technology
授業コード	48D04-001
教員名	杉原 桂太
教員コード	101115
登録人数	112
回答数	37
回答率	33.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

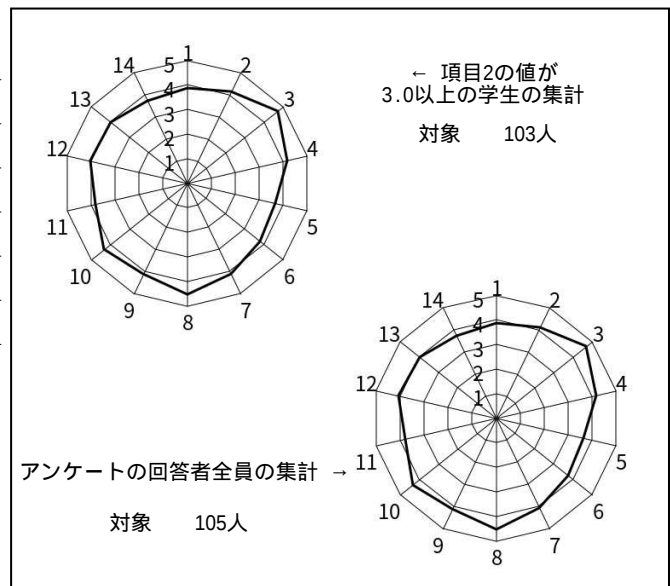
本授業は、各回において教員が課題を提示し、受講者がテキストから解答を作成し、教員が解説を行う授業方法を採用した科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が授業内容をより理解できるようになることが目標となった。項目(1-14)の各項目で4点台の評価が得られた。自由記述からは、設問15について、「授業内で英語の文献を読むことができるのは、とてもいい機会だったし勉強になった。内容もとても納得いくものであり、わかりやすく、興味深かった。」などの評価がある一方で、項目16では、「英語の文章から日本語に訳すのは、意外と時間がかかるので、答えを行った後、次の質問に進むまでもう少し時間を取って欲しいです。」という記述があった。項目16については、今後の授業では十分に留意したい。加えて、予習の充実化を図るように受講者に促したい。

設問項目14(4.22)は一定の値とはなっているが、さらなる向上につながるように常に留意していく必要がある。

以上を踏まえ、目標の達成のためには改善点が必要であることが分かる。すなわち、授業方法自体は機能しているといえるが、授業の進行速度をより受講しやすくし、受講者の理解を深める必要があると考えられる。そのため今年度得られた結果を活かし、来年度以降のこの科目においても、課題とそれへの解答、解説を通じてこの科目の目標が効果的に実現できる授業を目指したい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ソフトウェア工学基礎
授業コード	54A08-001
教員名	吉田 敦
教員コード	101920
登録人数	250
回答数	105
回答率	42.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

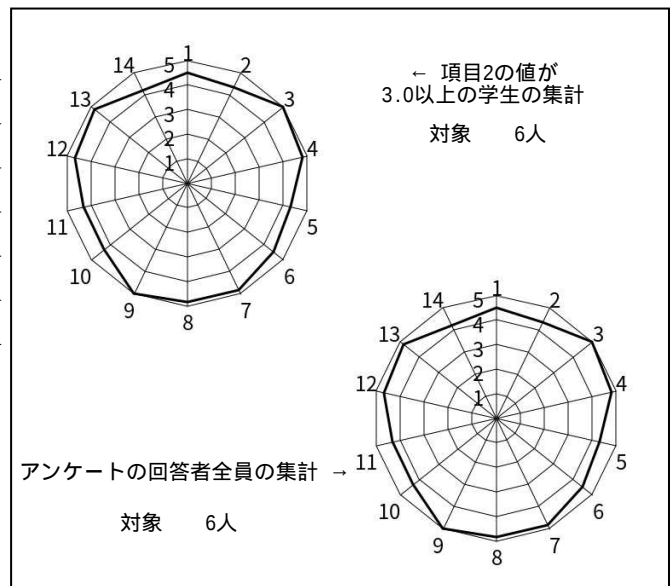


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度の目標は時間外学習にきちんと取り組ませることであった。授業の時間外学習のための課題は、WebClass で出題し、復習と予習の問題をそれぞれ出した。クォータ制では次の授業までの時間が短かく、学生には大変だったようである。一部の学生からはバイトや課外活動があるから大変であることや単位を取るのが目的なのに課題が多いといったことを汚い表現で書いたコメントをもらった。勉学に取り組む姿勢に問題がある学生からのコメントではあるが、そういった学生も取り組んだという意味では目的は達成できたと言える。数値データ的には例年通りであり、特に問題となることはなかった。今年度の反省点は2つある。1つは課題のフィードバックがうまくできなかったことである。課題はすぐに採点して、学生にフィードバックを返すようにしていたが、第3クォータには別の授業があることや、役職の関係の仕事もあり、採点の時間がすぐには取れず、フィードバックのタイミングを逸したことが多かった。これについては、もう一つの授業を別のクォータに移動させることができたので、来年度はもう少し余裕をもって取り組めるはずである。もう1点は、課題に誤字等の誤りが多かった点である。毎年、同じような課題を課しているが、毎年、見直しをしており、その見直しの際に誤りを混入させていた。この点も来年度は時間に余裕ができたので、もう少し慎重に確認するようにする。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む1
授業コード	13E07-001
教員名	松田 眞一
教員コード	017566
登録人数	23
回答数	6
回答率	26.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は身近な情報についてその見方を深め、情報に基づく考察ができる力を培うことである。その目標達成のため、全部で7回のカード実験を伴う演習のレポートを課した。単位を修得した学生はX,Sを除いた受講生18名中16名であり、合格率は昨年より低い89%となった。X3名、S2名は例年より多少のミスマッチがあったと言える。A+となった学生は0名で去年より大幅に減った。レポートは熱心であったが、定期試験が悪かった。

・授業評価

回答率は例年の半分以下の3割程度であった。アンケートに答える時間を設けたが、あまり活用されなかった。設問3から14において全学平均を下回った項目は3つになった。

設問14の全体の満足度評価が下回ったが、1名授業が冗長だと自由記述した学生の評価が影響している。それなら簡単だったのかということ誰もA+を取れておらず決して簡単だったわけではないと考えられる。何でも時短に走る風潮が出ているのかもしれない。設問10は演習中に議論もするためその影響も受けているのだろう。この設問はよくこういった感じの結果になる。設問11は情報提供を利用していないのにそのように感じるのは不思議なことである。WebClassなのでアクセス状況が分かるが、18人とはいえ誰もアクセスしていないページすらあった。定期試験が悪かったのもこういった準備不足が原因だろう。

・次年度に向けた改善点

学生の質が変わってきていると感じる。この授業はもう30年ぐらい行なっているが、年々学生の興味は薄れ、難しいことを拒否するようになってきている。手を変え、品を変え調整してきたが、受講者数も減少の一途で対策が取りづらくなっている。次年度は取りやすいかと思われる時間帯に移行するが、結果はどうか。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	代数系入門
授業コード	55B11-001
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	24
回答数	2
回答率	8.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

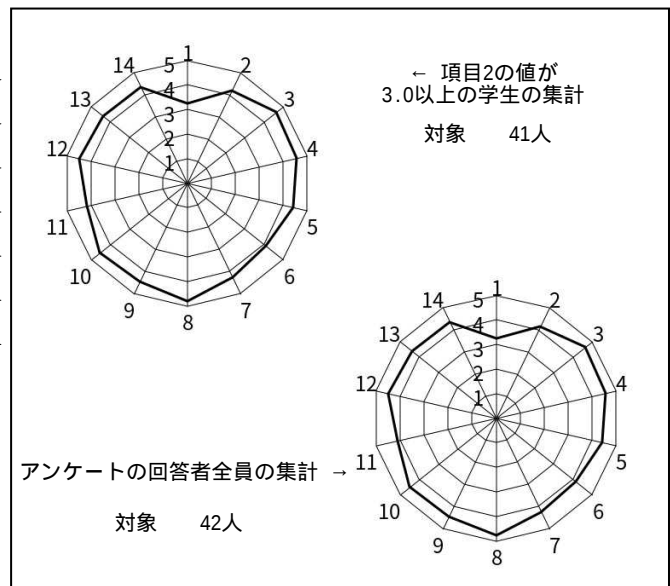
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「代数系入門」という科目名であるが、群、環、体といった現代的な抽象代数学の内容は、最後に、定義を紹介する程度で、現代数学の基礎であるカントルの集合論やデデキンやペアノに始まるよる自然数の公理的定義などの説明に多くの時間を割いている。これは、本科目が教職の必修科目であり、中学校や高等学校の教員になるためには、そうした現代数学の素養を身につけることが有益であると考えられるためである。一方、応用分野に興味がある学生を念頭に、整数論の応用として、RSA暗号の紹介も行っている。

毎時間、授業の終わりに、時間内レポートを課して、授業内容の理解の確認を行っている。提出されたレポートは、次の授業時間に寸評をつけて返却している。本年度は、履修者が減り（単位の取りにくい科目であることが広く知られるようになったためと思われる）、レポート問題の解説なども、例年よりも、ていねいに対応できたためか、多くの学生が優良な成績で単位を取得した。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[HJ・P]6 [遠隔授業]
授業コード	10C01-006
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	50
回答数	42
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



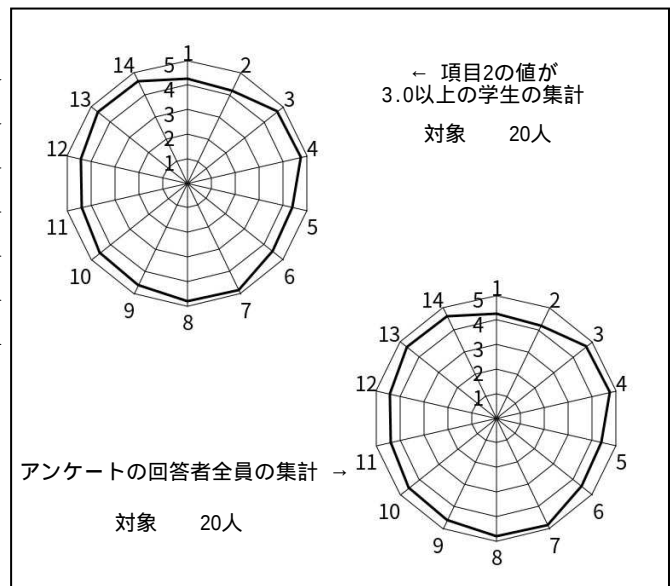
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出し、授業に積極的に取り組んだ受講生は、到達目標をおおよそ達成できたとみなしてよい。

本科目はe-learningと対面授業を組み合わせで実施した。e-learningでの学習内容について理解度を確認する課題、レポートのピアレビュー、指定課題に対するグループ発表、を通して理解を深めた。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は各テーマについて十分に理解できたと思われる。一方、e-learning教材に十分取り組んでいない受講生がかなり多いことは残念である。e-learning教材は対面授業の基礎となるため必ず取り組んでほしい。対面授業では、レポートのピアレビューとグループ活動に十分な時間を確保した上で、発表内容の検討から発表動画の作成までの進め方は各グループの自主性に任せた。成果物を見る限り問題なくグループ活動ができたと思われる。情報通信技術の進化や社会の変化は継続しており、今後も最新の話題や出来事を取り上げる必要がある。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報社会の構造2
授業コード	13E06-002
教員名	藤井 勝之
教員コード	101244
登録人数	29
回答数	20
回答率	69.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

一般教養科目であるため、情報の専門知識を有していない受講者を想定して講義を行った。変化の激しい時代であるからこそ、変化することのない原理原則を学生のうちに学んでおく重要性を繰り返し伝えた。また、日本のDX化が進まない構造的な原因や、電子情報通信学会の記事に触れてもらうレポート課題を課すなど、日本の将来を支えていく文系学生に理系の視座も併せ持ってもらえるよう、長期的な視点で教育を行った。資源を有していない我が国が発展するためには、文系学生の「一般教養としての科学」に対する理解が必要不可欠だからである。一学習者に過ぎない講義担当者がどれだけ上記の意図を実現できたかは知り得る術もないが、受講生達が数十年後に大きく成長していることを願っている。

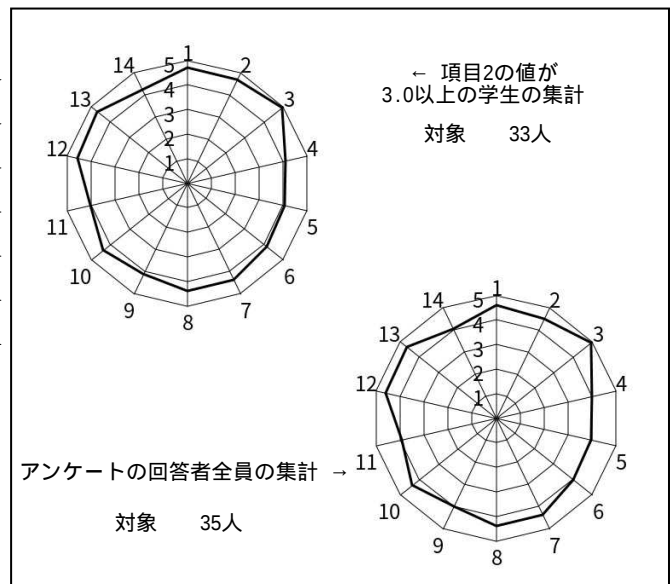
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

自由記述欄を以下に抜粋する。分かりやすい学習映像を用いることで、難しい内容の理解がしやすくなった（同様7件）。理解が難しい内容や複雑な内容の際は講義資料が添付されておりそれに沿って進める流れだったので理解しやすかった。文系の科目ではあまり学習することが出来ないコンピューターの学習ができる点。先生がおっしゃっていた「不変的な物事を学ぶ大切さ」を授業を通して実感しました。学生が理解しやすいような教材の選定や、進行速度で非常にわかりやすかった。情報社会で生活していくために必要な知識ばかりで役に立った。文系の学生に配慮して授業を行っていただけたこと。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
講義担当者の総合力が試される科目であり、正直しんどいが、自由記述欄のコメントを読んで歩みを続けようと思った。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング基礎[TC]1
授業コード 50A27-003
教員名 横山 哲郎
教員コード 101934
登録人数 68
回答数 35
回答率 51.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

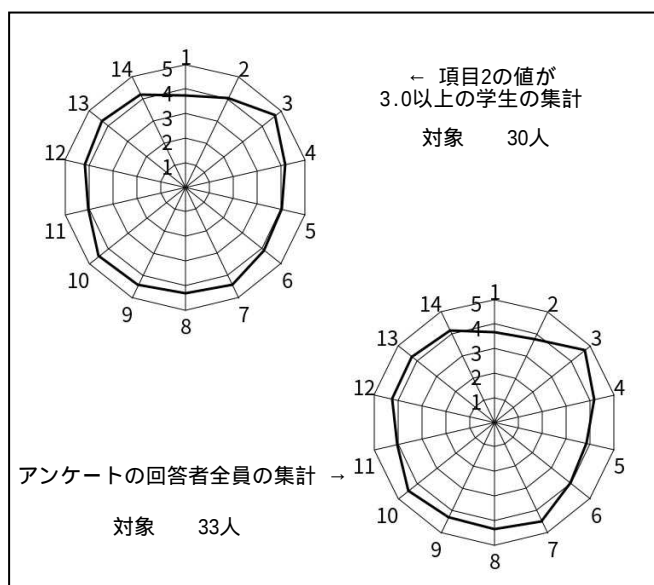
本科目では、プログラミング言語の構文や意味を理解してプログラムを実際に組み立てられる方法を知ることを目標に含んでいる。本年度の中間試験および定期試験のできは良かった。「プログラムがコンピュータ内で実行出来るようになるまでの過程を知っている。」という到達目標に対応する試験問題も出題してその達成度を確認できた。

設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の平均がかなり高くなっていた。また、昨年度に最も低かった設問10「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていなかったか。」はここ数年のうちで最も高かった。今年度は、板書中心ではなく、スライドを中心にする講義にすることとなった。スライドとテキストの順番が違っていった困難さやスライドの中身の指摘があった。習熟度の差が激しく、演習や実習を早く終わらせてしまう学生と、時間が足らずに終わらない学生の差が大きい。講義資料、実習資料に加えて、講義スライドの配付をして欲しいという意見は複数あった。後半の授業進行速度を下げた欲しい、特に後半の授業が分かりにくかったようで解説をして欲しいという要望があった。また、板書方法、教室のコンセント数や室温についてのコメントもあった。スマホやLINE、私語を注意していることに対して肯定する意見があることを見ると、授業環境を教員が主導して作っていくことを求める声があるものと認識した。

定期試験を持ち込み不可に変更した年でできが悪くならないか心配であったが、採点した感じではできはむしろ良かったように思える。実習は単位を取得した学生はほぼ毎回出席しているのに対して、講義の出席率は回を重ねる毎に低下して学期末のころには半数程度の出席であった。質問をしたり、補習授業を受けられたりするコマを用意しているが、参加者は毎回10名程度であり、より多くの学生に出席をしてもらうような取り組みを継続して考えたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	電子工学基礎
授業コード	56A07-001
教員名	藤原 正浩
教員コード	104753
登録人数	194
回答数	33
回答率	17.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

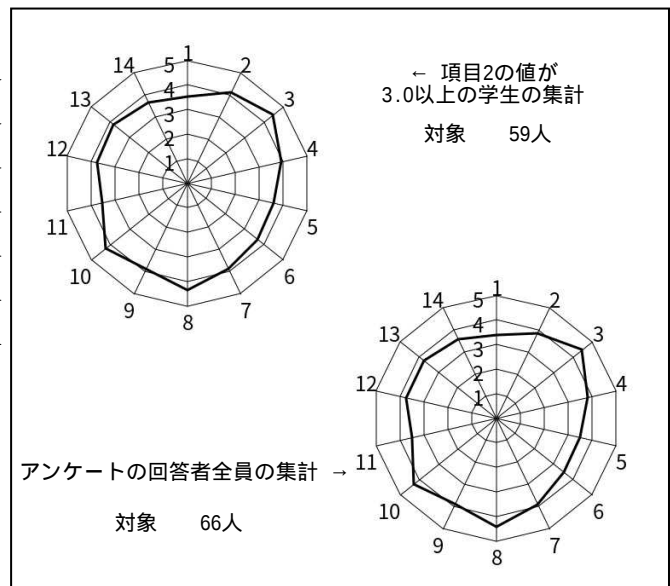
開講当初に設定していた目標は、受講学生が電気・電子回路の解析に関する基本的な計算ができ、基礎的な電子回路の設計と応用に関する知識を習得することである。小テストや定期試験結果から、過半数の学生がその目標に到達したといえる。

アンケート結果の数値データおよび自由記述等を踏まえて、全講義動画をサーバにアップロードしていることが、復習に役立っているとして評価が高かった。また、口頭説明の構成やスピード、声量なども、数年前に比べポジティブに評価された。

次クォーター以降に向けて、「（授業でやる）問題量をもっと設けてほしい」との記述があったため、何らかの方法で演習問題を増やし掲示することを検討する。授業時間内で解くことは厳しいが、学生の自習に役立つと考える。一方、「スライドにもっと詳しく書いてほしい」という記述もあったが、講義はあくまでも口頭説明がメインであってスライド資料は補助資料であり、さらに本講義は教科書も指定しているため、スライド資料の拡充は不要と考える。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報通信システム
授業コード	56A08-001
教員名	梅比良 正弘
教員コード	104425
登録人数	183
回答数	66
回答率	36.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標の内容については、ネットワークの計算問題の演習も含め、講義をすることができた。内容は難しかったが、わかりやすかったという意見が多く、よくないという意見の中にわかりにくいという意見は見られなかった。

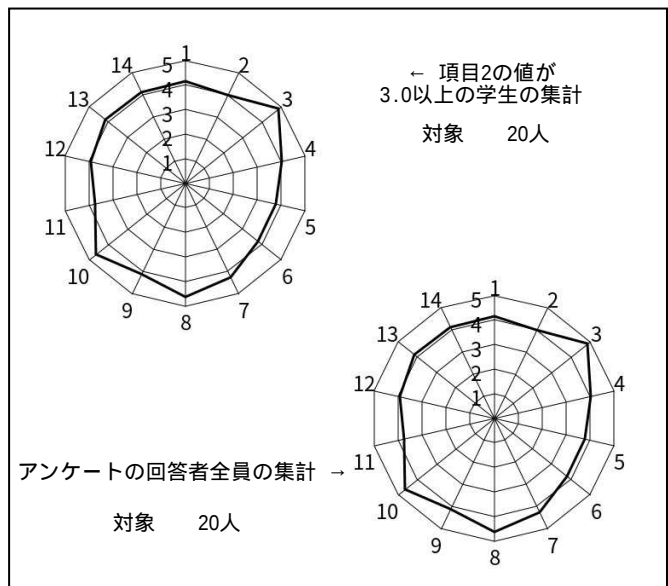
アンケート回答数は、授業中に時間をとったにもかかわらず、受講学生の1/3程度である。

情報通信システムは内容が広範囲にわたるため、アンケートでは「どこが大事なかわからない」という意見が少なからずあった。基本的には基礎的な内容で、重要度は変わらない旨を最初に伝えるべきかもしれない。なお、昨年の意見と試験結果、他の科目との重複を考慮して、昨年より内容を削減しており、これ以上削減は難しいと思われる。また、計算問題は、中間テストとほぼ同じ内容を期末試験に出題したが、勉強している学生としていない学生の差が大きかった。計算問題は、宿題を課して自己採点でやらせることも一案であろう。私は今年度で退縮であるので、次年度担当する教員に内容の見直し、演習問題のやり方について検討いただければと思う。

なお、今年は、1週間学会出張のため休講が2回になり、補講を2回実施したが、他の授業と被っている学生は数名であったにもかかわらず、出席率が極めて低かった。これなら、補講をおこなわず、リモートで授業をした方が良いでしょうと思われるが、大学からは出張を理由としたリモートの授業が基本的に禁止されているので、他大学では学会出張時のリモート授業を認めているところも多く、再検討すべきと考える。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	クラウド基盤と仮想化技術
授業コード	56B07-001
教員名	宮澤 元
教員コード	019422
登録人数	33
回答数	20
回答率	60.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度】

仮想化技術を中心とするクラウドコンピューティング基盤の構築に必要な技術について理解を深めることを目標とした。設問13・14は4点台であるが、設問19・20は3点台前半であり、目標を達成しきれなかった。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

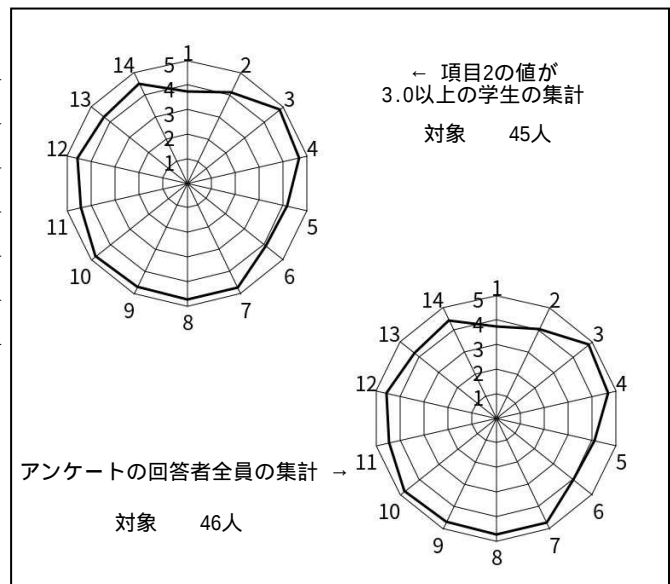
設問19以降を除けば、多くの項目で3点台後半から4点台の評価となっている。昨年度初開講の科目だが、2年目になって授業運営に慣れてきたことが影響していると思う。一方、自由記述では講義資料の多さや読みづらさの指摘があり、さらに改善すべきだろう。また、これも指摘があったが、実際のクラウド基盤の技術に触れる実習の時間を十分確保できなかった。アクティブラーニングの一環として、このような時間を設ける予定であったが、授業の進行上、うまく時間を取ることができなかった。肯定的な評価としては、質問対応を評価する意見が複数あった。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針】

アクティブラーニングの更なる導入に向けて学習項目と授業計画の整理に引き続き取り組む。関連して、講義資料の改善も更に進めたい。具体的には、授業中に用いるスライドについては見やすさ・わかりやすさを重視するとともに、詳細な内容を記したレジュメのようなものを用意することを検討する。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	制御工学基礎
授業コード	57A07-001
教員名	大石 泰章
教員コード	101405
登録人数	188
回答数	46
回答率	24.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○ 当初の目標と到達の程度

当初計画していた内容はすべて講義できた．昨年に引き続き，進んだ内容や問題演習を増やして授業を行い，充実した内容になったと思う．

○ 数値データおよび自由記述をふまえた自己点検・評価

数値評価は，設問2から設問14まで4点を超えており，数理的な内容の授業としては申し分ないと考える．一方，設問1の評価が低いのは残念である．2025年度からは設置審のしびりが解け，シラバスが自由に書ける．興味を引くような記載を心がけたい．

評価できる点（設問15）には，「解説が丁寧だった（7件）」「例題を解く時間があつた（5件）」「声が大きくて聞き取りやすかった（3件）」などあり，学生のニーズに合った授業ができていると考える．スライドを使うことで授業が早く進み過ぎているのではないかという心配があり，数式の変形などは意識的にホワイトボードを併用して説明したが，これが評価されて1番目のコメントにつながったものと思われる．

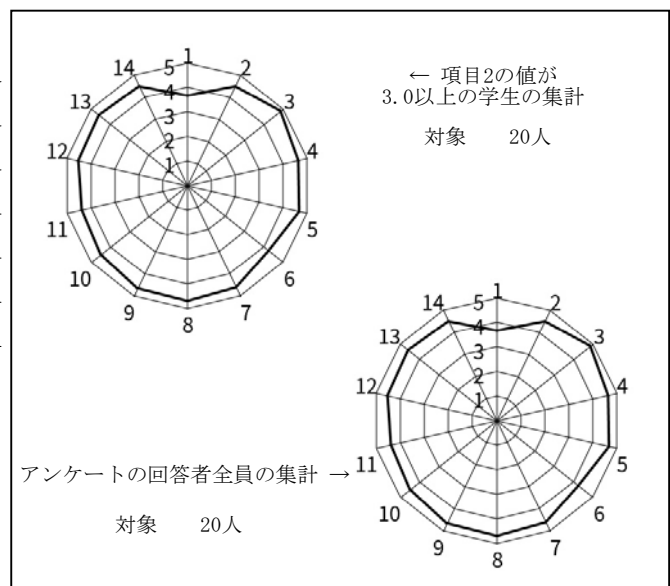
改善すべき点（設問16）には，「例題を増やしてほしい」「簡単な問題なら板書はいらない」とあつた．項目によって例題の多いところと少ないところがあるので，バランスを見直すことで対応したい．

○ 今後の改善点，抱負，方針など

授業の終わりの3分の1の部分が抽象度が高く，多くの学生にとって理解が難しいと思う．説明の工夫や，例題の追加などによりわかりやすくする工夫をしたい．

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FB・FF・FG]6 [遠隔授業]
授業コード	10C01-020
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	34
回答数	20
回答率	58.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

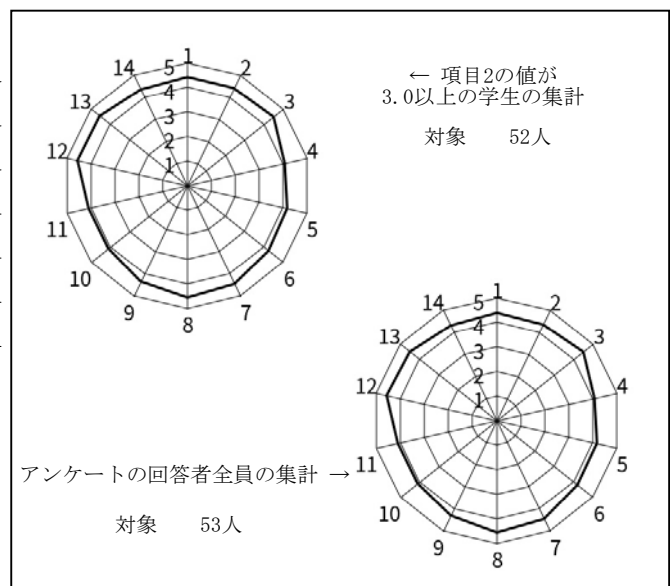


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は南山大学に入学した全ての学生に対して情報ネットワークの適切な利用方法を理解させることと、e-learningやグループ学習を組み合わせたアクティブラーニング形式により自主的な学習能力を身につけさせることを目標としている。対面授業では学生同士の積極的なコミュニケーションが確認され、e-learningのテストやレポートも大半の学生がきちんと取り組んでおり、本科目の目標はおおむね達成できたと考える。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.51、項目3~14の平均が4.58であり、情報科目全体の集計結果よりわずかに高い値であった。個別の項目では設問1が3.65と4を下回る結果であったが、他は設問6の4.25が最低の値で、全体としては高評価が得られたと考える。これは第1クォータに他クラスで実施した授業評価の結果とほぼ同等であり、情報倫理という科目に対する評価はおおむね同様の傾向をもつと考えられる。自由記述欄ではインターネット利用で必要な知識を得られた、グループでの取り組みが良かった等の積極的な評価があり、本科目は多くの学生に好評を得ていたと思われる。ただ、授業参加に消極的な学生がいるグループでは授業形態に対して不満を述べる場合もあった。
3. 情報倫理という授業の目的やグループ学習の意義は学生に理解されていると思うが、グループに非協力的なメンバーがいる場合の対策はいまだに十分とは言えない。次年度ではグループ学習に対する個人の貢献度を評価し、積極的な授業参加を促すような方策を導入したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[TC]
授業コード 50A28-003
教員名 名倉 正剛
教員コード 103899
登録人数 71
回答数 53
回答率 74.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初には、次の点を到達目標にしていた。

1. プログラミング言語の持つ種々の基本機能を使ってプログラムを組み立てる方法を知っている。
2. 関数を積み重ねて大きなプログラムを構成することの意義と方法を知っている。
3. 高水準プログラミング言語の基本的な文法とその意味を理解している。
4. 手続き、関数、データ構造を理解して、プログラミングに使用できる。
5. アルゴリズムの意味を理解しており、簡単なアルゴリズム（整列）のプログラムを作成することができる。
6. 計測・制御、シミュレーションなどの応用について、基礎的な数値計算プログラムを作成できる。

講義と実習において、これらの内容を丁寧に行ったつもりであり、その結果として設問6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。）において、4.21 という点で現れてきていると考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

①の一方で、設問21において「プログラミング技術」について理解しているかを問うたのですが、あまり点数が高いとは言えない。自由記述において、「Q3 のスピードが速い（おそらくプログラミング基礎）」であったり、講義の出席率の低さを問題に上げている学生もいた。プログラミング基礎、応用を含めたのカリキュラムの見直しが必要である。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	卒業研究IV
授業コード	54A22-004
教員名	佐伯 元司
教員コード	100223
登録人数	7
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、卒業論文執筆の最終段階として行われ、シラバスに挙げられている4つの到達目標のうち、特に論理的な説明能力、文章校正能力、質問への的確な回答能力に育成に重点をおいて指導した。6つの研究テーマにつき、学生の希望により割り当て、対面式にて、全体では進捗報告の発表、質疑応答や議論を行い、個別では進捗状況に応じて適宜指導を行っていった。学生同士の質問や議論は当初はそれほどなかったが、授業が進むにつれて徐々に増えてきた。論点を提示したり、学生を指名したりするなどの工夫を行っていった。4つの達成目標の能力を養うため、積極的に学会論文執筆、学会発表を学生に勧めたが、1名しか行わなかった。学会発表を経験した学生はやはりそれらの能力の向上が他の学生と比べて著しかった。もっと積極的に学会発表の経験を他の学生にも積ませるべきであったと思っている。これにより実践の場を通した能力の育成が行えると考えている。与えられたテーマの重要性の理解、十分な文献調査と現状からの問題認識、問題の解決能力、計画立案能力、専門分野の十分な知識については、授業中の進捗報告、質疑応答から概ね達成できた。なお、すでに学会発表を行った1名はより完成度の高い論文執筆を行い、3月の学会で発表予定であり、さらに論理的説明能力や回答能力、論理的思考能力の向上が期待される。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	卒業研究IV
授業コード	54A22-008
教員名	井上 克郎
教員コード	047811
登録人数	6
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度は、コードクローンに関する研究を3テーマ、SBOMに関するテーマを1つ、6人の学生に対して行った。

当初、最終目標を示すとともに、毎週の課題を与えて、少しずつ進捗があるように配慮した。

ほぼ1年間を通じて、それらの積み重ねにより、プログラムの作成、データ収集、評価、論文の作成、発表スライドの作成などを行った。

卒論の発表は、それぞれ問題なく行った。また、論文本体やその要旨も期限内に提出できた。

それぞれ、進捗の度合いの差はあったが、当初の目標に達することができ、卒業論文として、内容、形式とも一定水準に達したと評価できる。

今後は、毎回の進捗が可視化できるような指標の導入、学生がそれを見て、自分の進捗を理解できるような方法の導入が望ましいと思われます。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Webアプリケーション開発実習
授業コード	54B09-001
教員名	蜂巢 吉成
教員コード	019448
登録人数	12
回答数	4
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、3年生を対象とした実習科目である。以前は必修科目であったが、改組に伴うカリキュラム変更により選択科目となった。受講生は12名(必修科目となる再履修生は3名)と少人数である。なお、情報の教職課程では必修科目である。

まず最初に、貸与PCにWebサーバ（Apache）をインストール・設定し、Webページを作成する。

その後、PHPを利用したサーバサイドプログラムを作成する。

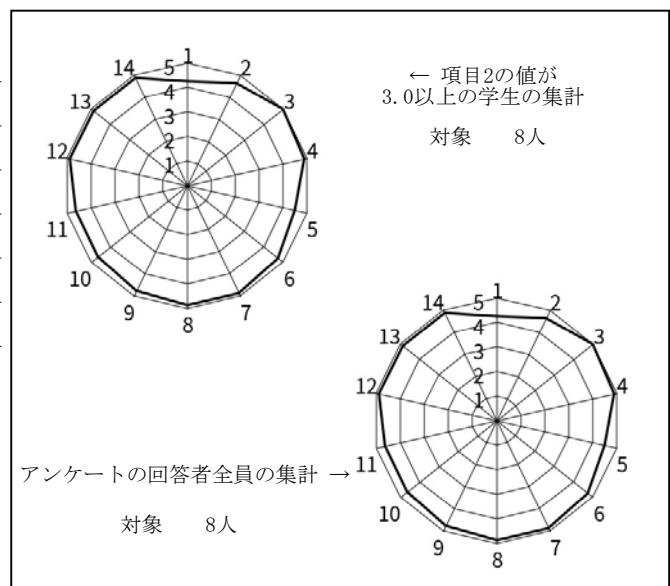
最終的には、MVCアプリケーションフレームワークであるFuelPHPとデータベース（MySQL）をインストールし、簡単なWebアプリケーションとしてブログシステムを構築する。

FuelPHPは、決められた手順に従えば問題なく動作するが、通常とは異なる操作を行ったり、手順を少し誤ったりすると、エラーメッセージが分かりにくく、修正が難しいことがある。本科目は少人数なので、そのような問題が発生した場合でも比較的スムーズに対応できたと考える。

なお、FuelPHPは長らくバージョンアップが行われておらず、現在の環境への対応が難しくなりつつある。来年度は、別のフレームワークの導入を含め、授業内容の見直しを検討したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報1
授業コード 13E09-001
教員名 三浦 英俊
教員コード 102259
登録人数 23
回答数 8
回答率 34.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

以下の3つを設定していた。

1. ORが実社会でどのようにつかわれているか、いくつかの例を知っている。
2. ORの基本的な手法について理解している。
3. 実社会の様々な問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを理解している。

それぞれについて、授業中に教科書を使いながら取り組む問題の説明、問題を解くための数理モデルの説明、数理モデルを使った解き方の説明、さらに得られた解の解釈について講義を行った。初回を除き毎回課題を出し、ウェブクラスを用いて採点結果を通知し、通知後の授業で課題の解説を行った。採点結果から到達目標に到達できていることを確認した。専門外の学生にも理解が容易となるように心がけて授業を行ったねらいが学生たちに伝わった様子は自由記述欄から確認できた。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

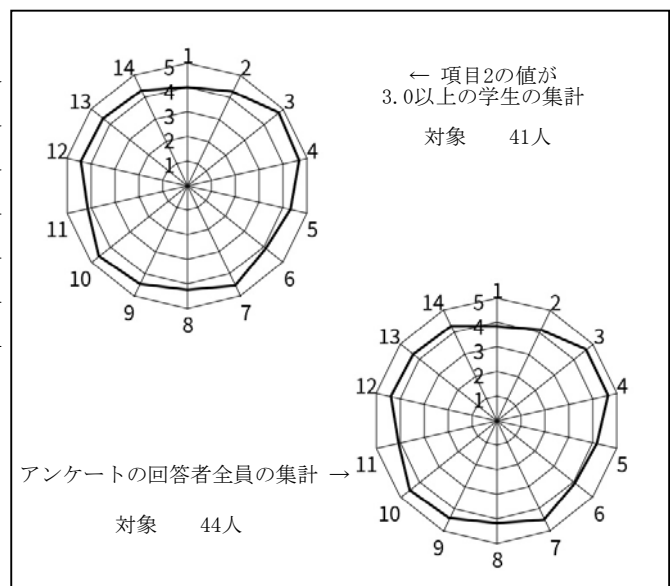
この授業は2015年度以来10年目となり、講義内容を毎年改善しつつ進めてきたことが効果を奏して、多くの学生により評価がもらえるようになったと感じているが、受講者数が今年は少なかったことが残念であった。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

生成AIを用いて演習の答案を作成したことが推測されるような怪しい答案があった。これは演習を課している意図が理解できていないためであり、答えも間違っている。学生が演習の目的を理解できるように、来年度厳しく対応したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	文化と情報4<国際科目群>
授業コード	13E09-901
教員名	鈴木 敦夫
教員コード	016469
登録人数	116
回答数	44
回答率	37.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

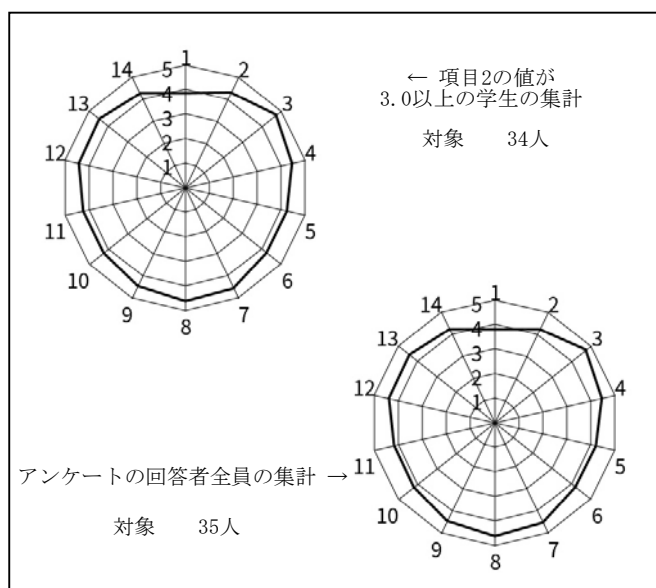


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①英語でオペレーションズ・リサーチの紹介をすることが目標だったが、アンケート結果から目標はほぼ達成されたと考えられる。
- ②出席率が悪かった。受講者には講義に出席してくれるように勧めたが、毎回の出席者は10人不足だった。毎回の講義で復習テストを課していたが、それは半数程度の学生が解答していたので、講義の内容は、自分たちでWEBクラス上に上げてある資料を読んで理解していたのだと思われる。項目1以外の回答の平均が4を超えているのは、そのように考えられる根拠である。成績はまだわからないが、おそらく、このアンケートに回答してくれている30名ほどの学生が合格点をとるのではないかとと思われる。コロナ禍以降、特に学生の出席率が低くなっているようである。これに対しては、例えば、この講義などは、オンデマンドで受講し、3、4回のリモートでの質問時間を設けるなどすることで、学生の学習を助けることになるのではないかとと思う。
- ③この講義は今年が最後である。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II[TS]1
授業コード 54A05-001
教員名 塩濱 敬之
教員コード 104524
登録人数 88
回答数 35
回答率 39.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

線形代数IIの目標と到達の程度は次のように設定した。

1. 逆行列を計算することができる。
2. ベクトルの一次独立性と一次従属性を理解している。
3. ベクトル空間を説明できる。
4. ベクトル空間に関する基本的概念（基底や次元など）を理解している。
・これらを達成することで、数学（線形代数学）に関する技術適用能力の基礎を身につけることができる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

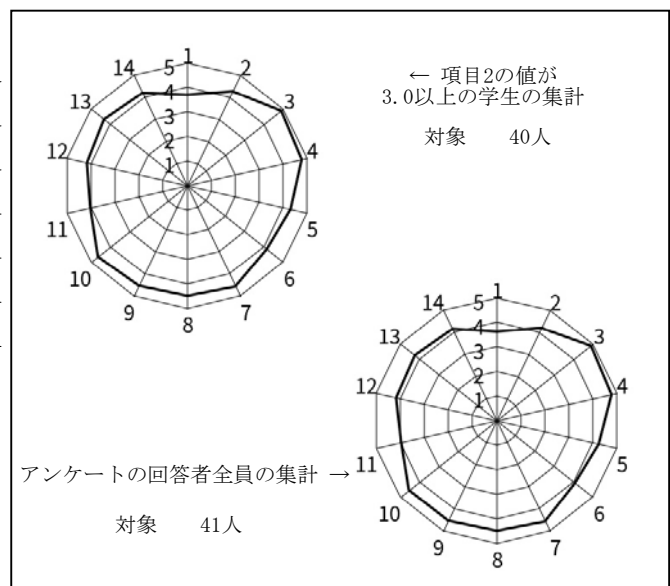
授業評価の数値データおよび自由記述等から、上記目標を概ね達成できているのではと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度から15回授業から14回になるため、定期試験に向けた復習の時間が減る。そのため試験成績に影響が出るかもしれない。そのことに気をつけながら演習回に学生に伝えたいと思う。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II[TD]1
授業コード 55A05-001
教員名 小市 俊悟
教員コード 101691
登録人数 88
回答数 41
回答率 46.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

線形代数学IIの具体的な目標はシラバスの通りであり、それについては、成績に鑑みれば、およそ達成できたと考える。一方で、線形代数学IIのような授業を通じて経験してもらいたいことに、定義や定理などの積み重ねにより理論ができていくという数学的な体系化がある。これに関連して、定期試験で、単に定義を問うような問題を出題したが、全員が正解とはならなかった。これが意味することは、「学ぶということ」が「計算できるようになること」になっており、本質的な論理を追うということが十分にできていない、ということでもあると思う。このような点は、依然として課題として残る。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

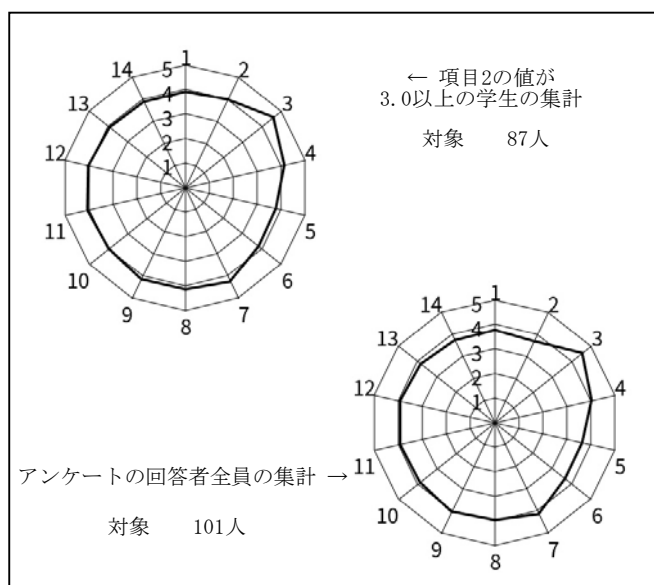
概ね良い評価を得たと考える。自由記述も好意的なものが中心である。演習中にスマホを利用することを禁止したが、それについて集中できる環境が得られたという評価もあったので、当たり前と思う一方で、ある意味、注意されることを求めているとも考えるので、継続したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

学生の理解が不十分であると感じたところについては、毎年、演習問題を追加するなど、改善を続けている。一方、①で述べたような課題については、なかなか難しく、いまだに十分とも考えていないので、良い方法を検討したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	機械学習の数理
授業コード	55A09-001
教員名	河野 浩之
教員コード	048595
登録人数	252
回答数	101
回答率	40.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

改組後、3度目の講義であり、昨年度からデータ更新を行った資料とした。昨年同様の資料構成で、閲覧上の問題は生じなかった。今年度も小テストの解説資料を別途用意した。このことが、良かった点として記述されたと思われる。

また、本科目が、数理・データサイエンス・AI教育プログラムであることを踏まえて WebClassの演習問題を解き、かつ、翌週の講義で解説する形式とした。加えて、レポート課題に関する演習も授業中に実施することで、レポート提出率も向上したと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

登録者数が増加したが（今年度252名登録、昨年度209名、一昨年度185名登録）、小テスト（平均170名程度）やレポート提出者数（224名）から判断すると、履修しない学生が10%程度いたと思われる。

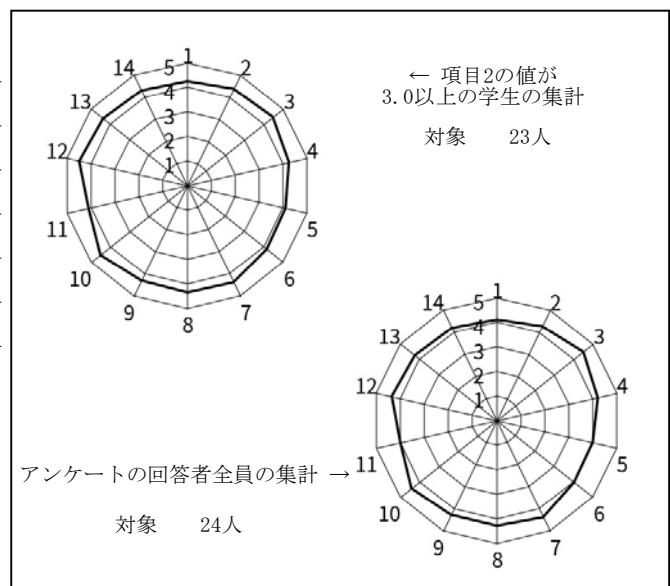
なお、昨年度の困った点として、レポート期限延長を行う必要がある提出率であったが、今年度は、期限延長を行う必要がない程度の提出率であった。（初回のレポート評価の説明は例年通り行った。加えて、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に伴い、第9回授業時演習でレポート課題説明と第15回の解説を行った）

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年度同様の履修登録者数の増加傾向と演習解答率・レポート提出率が続く場合、履修中止制度の利用をアナウンスしたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	数理最適化
授業コード	55B02-001
教員名	佐々木 美裕
教員コード	019463
登録人数	116
回答数	24
回答率	20.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

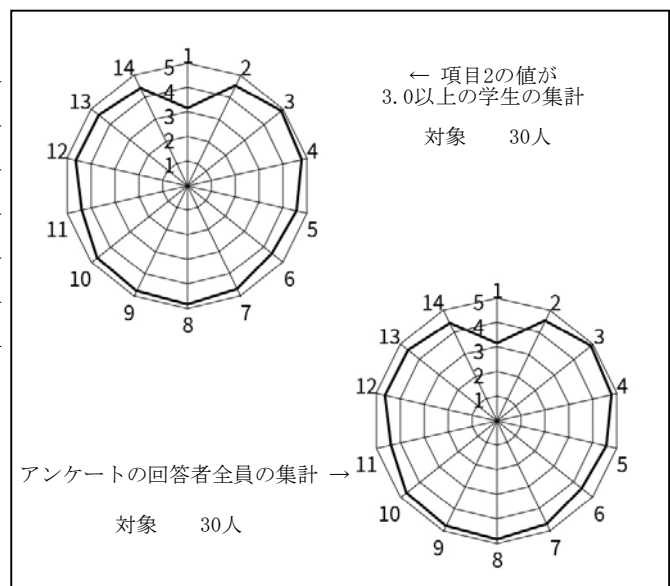


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業で何を学ぶのか、明確な目的を持って受講し、毎回の授業内容を確実に理解して積み上げ、学習効果を上げることを目標とした。そのため、初回の授業において、この授業の到達目標および各到達目標の到達度の評価方法について詳しく説明した。また、到達目標と到達度に関連する資料はWebClassでも公開し、いつでも確認できるようにした。関連する設問5の平均値は4.0であり、昨年の4.22よりも低い結果となった。授業内容の確認を目的としたクイズ形式の小レポート(8回実施)、手書きの中間レポートを実施したが、昨年同様、提出率は低かった。さらに、定期試験過去問題の解説および練習問題の解答の一部をWebClassで公開したが、利用者は多くなかった。以上により、目標を達成したとは言いがたい。
- ② 項目の平均値は昨年の4.3よりわずかに低く4.2であった。自由記述には、質問時間が十分あったこと、過去問や自習用の問題提供があったことに対する複数の肯定的な記述があった一方で、講義資料に詳しい説明がない、という記述も1件あった。昨年は設問20の平均値が2.61であったが、今年は3.08となったことから、少なくとも一部の学生にとっては、効果的な学習ができたと考えている。
- ③ 自習課題を期限付きで任意提出させた結果、一部の学生は毎回のように提出した。自習課題に関する質問も増えたので、この方法は継続したい。課題の解答はまだ一部しか作成していないので、解答を作成し、自習の環境を整えていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FB・FF・FG]2 [遠隔授業]
授業コード	10C01-016
教員名	石原 靖哲
教員コード	103810
登録人数	40
回答数	30
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

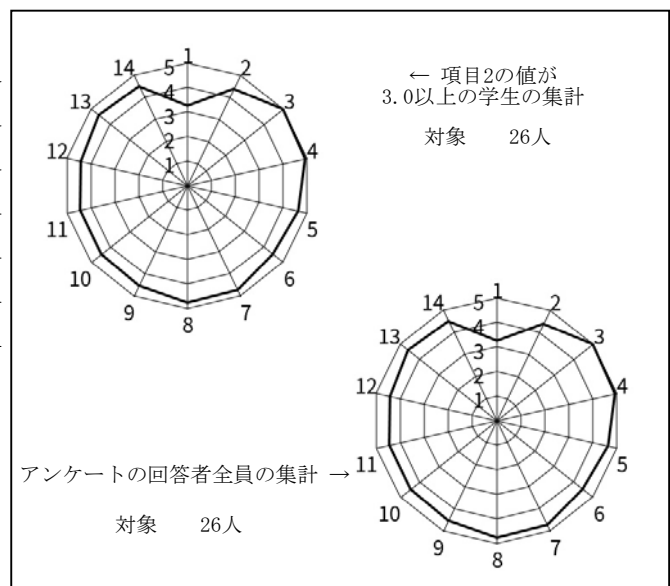


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今年度初めて担当する科目であり、過去にもこの内容の科目を担当したことはなかったため、事前に桑原先生の授業を参観した。授業内容については教材が十分に用意されていることがわかったため、複雑な授業スケジュールや提出物締切を受講生にきちんと理解させることや、受講生のモチベーションを向上・維持させることを主な目標に据えた。結果としては、それらの目標はクリアできたと考えている。その理由としては、実質的な受講者の全員が提出物の締切を一定程度以上守れたことや、すべてのグループが教員やTAからのコメントを真摯に反映させて、回を追うごとに質の高い発表動画を作成していたことが挙げられる。特に、e-learning教材動画として売り物になりそうなくらい、非常に完成度の高い発表動画を毎回作成したグループもあった。
- ②数値データは1以外の全項目で4.40以上の値であった。改善の余地があると考えられるのは、項目11である。初めての担当科目ということもあり、受講生のディスカッションの見回り・補助はTAに頼っていた。その分、受講生への指導や情報提供が少ないと受け取られたのではないかと考えられる。
- ③上で述べた項目11に関し、今回担当して様子がよくわかったので、来年度以降はTAと一緒にディスカッションの見回り・補助を行いたいと考えている。また、2番目の発表課題については、授業時間中に思いついて、急遽自身のクレジットカード不正利用被害の話をしたのだが、他の課題についてもそのような情報提供をできるよう、準備をしておきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[FB・FF・FG]3 [遠隔授業]
授業コード	10C01-017
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	39
回答数	26
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

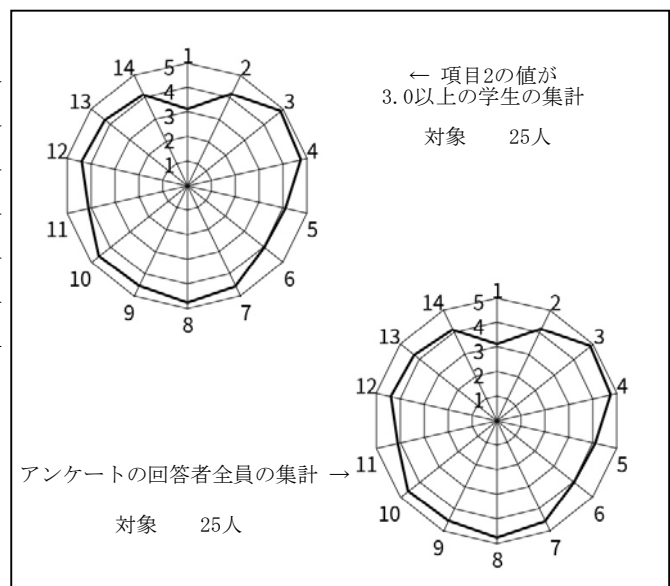
全体的に高い評価を得ており、特に「授業時間の厳守（5.00）」や「授業の構成と進行速度の適切さ（4.92）」は高評価であった。これは安定した授業運営がであったことを示している。また、「担当教員の誠実さ（4.73）」や「学習意欲を引き出す指導（4.46）」も好意的に評価された。一方、「授業前の関心度（3.23）」は他の項目と比べてやや低いが、毎年ながらこれはなんともしがたい。

自由記述の回答から、特にグループワークが学生にとって有意義であったことが分かる。グループで協力しながら発表を完成させることで、協働する力を養えたという意見が多く寄せられた。また、動画制作やスライド作成の経験を通じて、情報を分かりやすく整理する力が身についたとの声もあった。さらに、レポートの相互評価を行うことで、他の人の意見や文章の書き方を学ぶ機会となった点も好評であった。

今後の改善点としては、質問や相談の機会をさらに充実させることも重要である。何らかの方法により、学生がより気軽に相談できる環境を整えることが求められる。さらに、グループワークの進行をよりスムーズにするために、役割分担の明確化やフィードバックの仕組みを強化することも検討したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FS・FA]2 [遠隔授業]
授業コード 10C01-024
教員名 本田 晋也
教員コード 104254
登録人数 27
回答数 25
回答率 92.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた目標である，情報ネットワークや知的財産権に関して理解するという点についてはおおよそ達成できたと感じている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

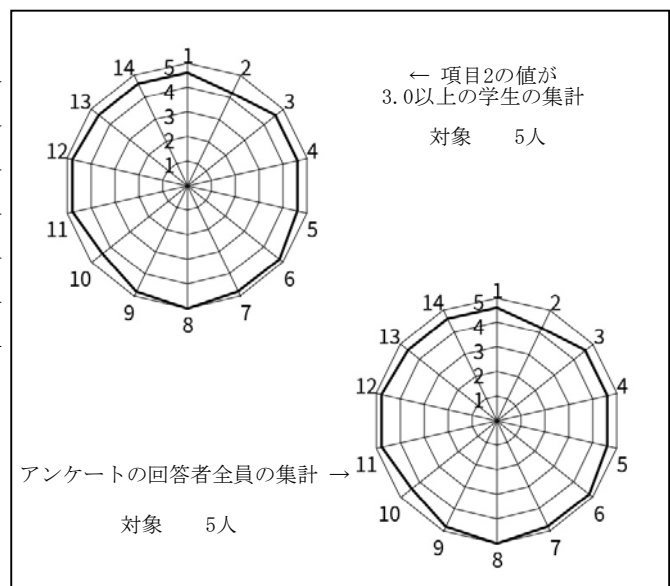
概ね学生の満足度は高いと見受けられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

質疑応答において，スマートフォンを使っている学生が多いため，来年度は質疑応答は使用を禁止する。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械5<国際科目群>
授業コード 13E04-901
教員名 潮 俊光
教員コード 104870
登録人数 6
回答数 5
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について

開講当初に設定していた目標は、ダイナミカルシステムについて理解し、数理的手法を使ってダイナミカルシステムを解析・設計できるようになることである。学生からの質問の時間と学生との議論の時間を十分にとったので、ダイナミカルシステムの応用に関する一部の内容を紹介することができなかったが、この目標に到達することができた。

②について

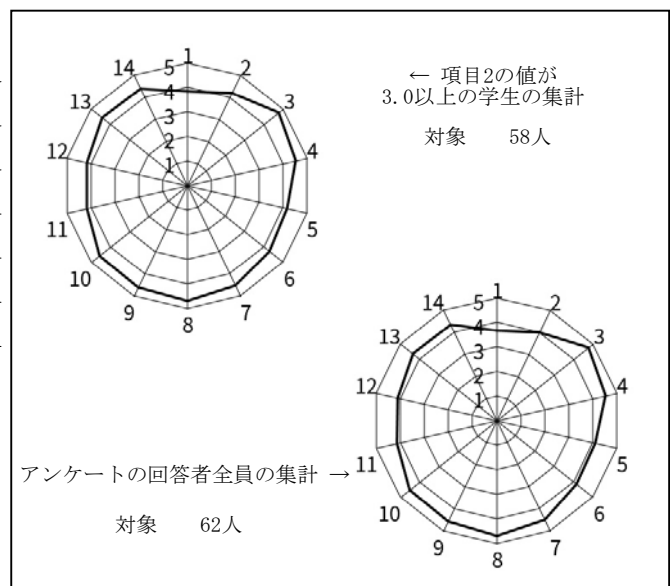
2項目を除き4.6点以上の平均点になっていたので、学生の満足度は高いと考える。特に自由記述で、質問時間を多くとったことが評価されていたので、今後も質問時間を十分に取り、学生とのコミュニケーションを大事に授業を行いたい。

③について

今年から担当する授業であり、試行錯誤をした点があったので、次年度はその点を考慮して、授業内容を整理し、改善し、ダイナミカルシステムについての理解がより深まるような授業としたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	応用解析学[TD]
授業コード	55B01-001
教員名	杉本 謙二
教員コード	104614
登録人数	106
回答数	62
回答率	58.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

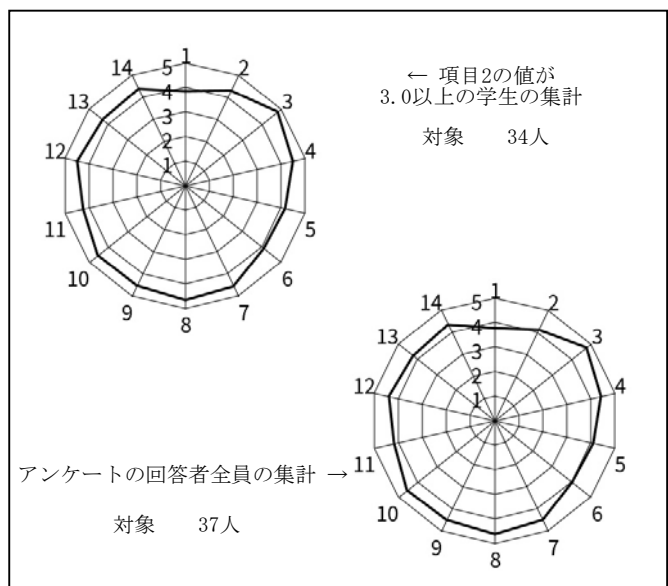


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①複素積分の計算は十分な時間を取って丁寧に説明した。複素数列の極限や複素関数の連続性については解析学に特有の考え方やセンスを伝えることができたものと考えている。基礎的な事項を入念に身につけさせることを心掛けたため、応用については教科書の後半部分がやや駆け足になってしまった。②授業評価集計を見ると、項目1から14の平均が4.32、項目3から14の平均が4.40であった。過去の私の集計は、本学着任時の22年度（同じ応用解析学）がそれぞれ4.03と4.08、23年度（別の科目）がそれぞれ4.15と4.23であった。年を追うごとに評価値が上がっており、手応えを感じる。実際、自由回答の記述もおおむね好意的であり、特にMinutes Paperと呼んでいる毎回の小テストについて「いつもみてくれてありがとう」とのコメントまであった。週2回の講義のたびに全員のテスト結果をチェックして次回に返却するのは正直、大変だったが、学生へのフィードバックが機能しているようで満足している。③本科目は学生の反応も良く、内容やレベルは理工学部にとって適切であるので、今後もこの調子で進めたい。時間が許せば、身につけた知識がどのように応用されるかの展望を紹介するようにしたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	機械工学基礎
授業コード	57A09-001
教員名	中島 明
教員コード	103140
登録人数	140
回答数	37
回答率	26.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は4単元「線形代数」「微分方程式」「古典力学」「振動工学」で構成されており、前半3つが復習、最後1つが本題となっている。

昨年度まではレポートのみで評価していたが剽窃が氾濫したため、復習単元はレポート、本題は試験を課すことで勉強を促した。

試験は出来が良く不合格は1名のみであったが、模擬試験問題とその解説を動画で公開したので当然の結果と言える。

レポートはやはり複写が散見されたが、理解できていなければ試験で苦戦するため、試験の出来から逆説的にある程度は本来の意義を果たしたと思われる。

評価は概ね4以上であり「真面目に受講した学生」にとっては好評であったと考えて良い。

自由記載欄では、復習単元と本題との繋がり、他の授業との関連、説明の分かりやすさ、課題の適切さ、などが評価されており、授業設計で意図したポイントが伝わったり効果を上げていることは素直に嬉しいものである。

講義動画は忙しさにかまけて公開が遅れたため、希望した学生には申し訳なかった。

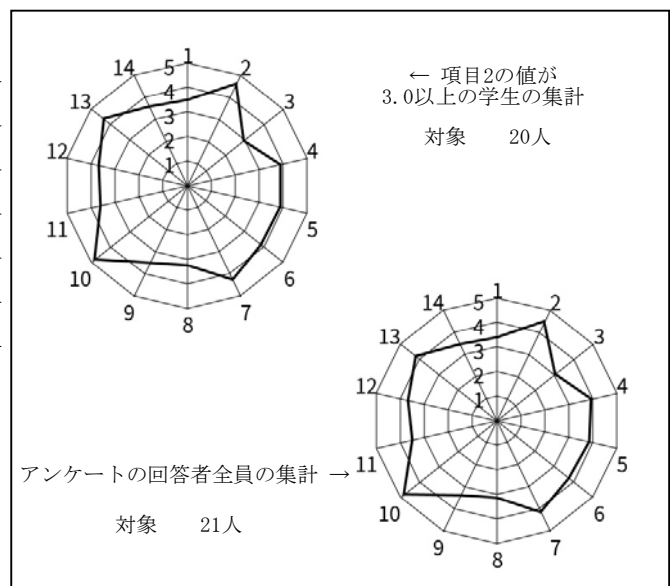
しかし、講義登録者は140名だが出席者は20～40名程度であり、これまでと同様の傾向が見られた。

出席確認については、そのみを目的とする学生は授業中に私語で他の学生の受講を邪魔する傾向にあるため、見送った。

教員は静かな環境で授業を運営でき、真面目な学生は授業に集中でき、怠惰な学生は惰眠と道楽を貪ることができ、三方良しであろう。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 計測工学
授業コード 57B02-001
教員名 陳 幹
教員コード 100770
登録人数 30
回答数 21
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

講義概要に記載した到達目標のすべてに到達した。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

評価項目 3 が低い。講義では板書することの意味を説明し、それを徹底させた。学生のノートを取る能力は教員の想定よりも有意に低く、毎回の講義が予定よりも長引くこととなった。そのために、ほぼ毎回講義時間は守られていない。評価項目 3 はそれを正しく表している。自由記述欄16でも明示的にそれが指摘されている。

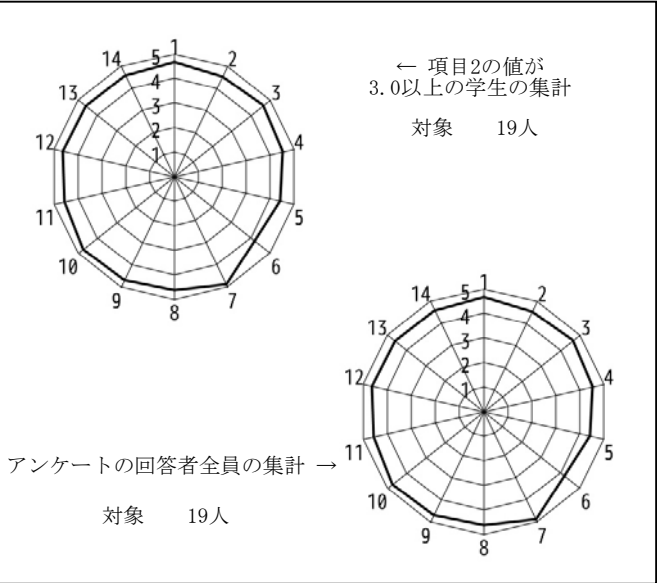
自由記述欄16では他にも、音声が聞こえない、レポート提出期間の少なさ(講義当日 9.10㍻切)、講義資料が配布されないことへの不満がみてとれる。講義室の前半分はほぼ空席だったので、音声が聞こえないという指摘には対応不要と考える。レポート提出期間については次回講義の前日までに提出するよう指示したが、それを理解せずに講義当日の提出可能時間の短さ(9.00-9.10)だけを取り出しており、こちらも対応する必要はない。講義資料は配布することのデメリットのほうが多いと考えるが、この講義に限らず、学生は講義資料が配布される講義がよい講義と考えているようだ。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義時間が守られないのはよくないので、次年度はこれをどうにかしたい。具体的には講義の最後に行っていた講義内演習の時間を短くし、講義終了のブザーになったタイミングで課題を回収する。講義資料については、教科書を用意し、それを購入することを徹底させる。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G] 4
授業コード	11A01-035
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

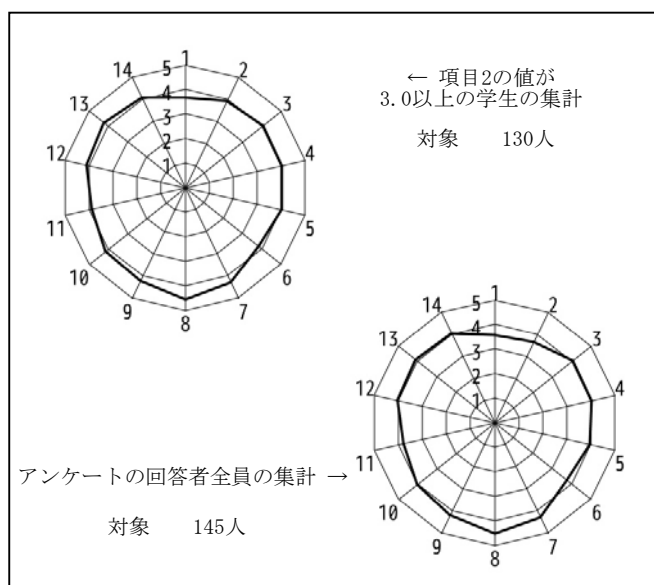


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with the course in terms of the syllabus objectives- which were met in full, and with regard to the knowledge acquired. Updated materials and a revised methodology were employed throughout both this and the following quarter. For some students the goals of the class seemed to be unclear, as was a perception of improvement towards these goals. The goals were clearly presented in the syllabus, and in an additional print and overview provided at the start of Q1, but the instructor will now provide a clearer explanation of course goals in all OC classes at the beginning of all quarters to ensure students have no doubt about the aims of the course. Comments on students' performance and possible areas for improvement were communicated in individual interviews at the end of both quarters. Where appropriate, additional activities and materials will be introduced or extended as requested by additional (anonymous) comments. Overall, students were lively, good-humoured and informed and participated actively in all class activities and assignment completion. They were a pleasure to work with.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	南山大学の軌跡
授業コード	12B15-001
教員名	永井 英治
教員コード	018861
登録人数	261
回答数	145
回答率	55.6%
休講回数	6 回
補講回数	6 回

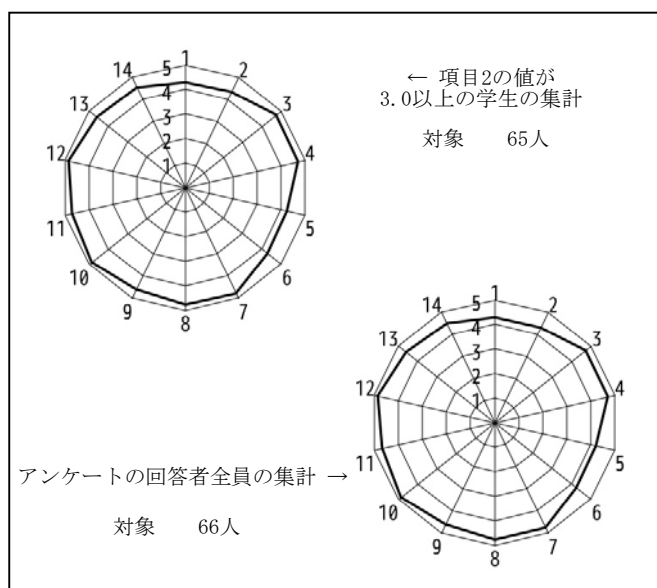


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度の「南山大学の軌跡」では、まず南山大学の過去について事実を可能な限り正確に知ることに努めた。そのうえで、大学の歴史を諸学問の発展の基盤と理解したり、自校史教育の目的について考えたりするややメタな課題を提示した。これは以前の「南山大学の軌跡」に比べれば、やや目標値を下げている。回答1・2の数値が以前より高かったこと、事由記述に目を通すと南山大学の過去について受講生は一定の関心を持っていることがわかる。これに対して、自校史教育の目的については講義でかなり示唆したのであるが、試験で解答に及んだ事例は少なかった。事実を理解することと事実の連関を評価することの差異についてかなり指摘したのであるが、逆効果になってしまったのであろうか。そのほか、レーダーチャートがやや小ぶりながら真円に近い円となっているのは、回答者130名の数が結果した平均値の姿であろう。試験回答者はその倍近くいたので、この平均値に現れない受講生がかなりある。日頃の授業に参加しない彼らにも素材は渡っているので、理解のレベルの嵩上げを図ってほしい。そのためには、授業に出席することが一番なのであるが。今後は、事実の理解におも力点を置きながら、評価の問題について受講生の思考を誘導することを多く試みたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	心理言語学1
授業コード	31E18-001
教員名	村杉 恵子
教員コード	019034
登録人数	119
回答数	66
回答率	55.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初（シラバス）に設定していた目標と到達度については、期末試験や授業評価の内容に基づくと、おおむね達成されたと判断される。

② 全体的に数値として4.6前後であることから大きな問題はなかったと思われる。

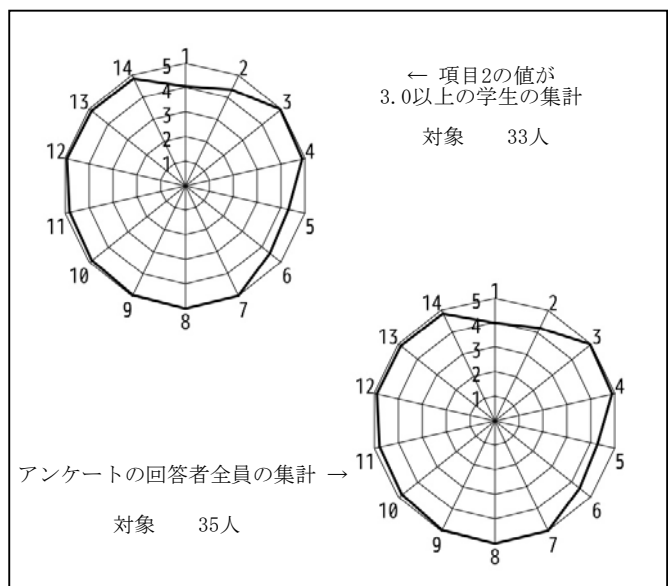
記述には、問題点として「大教室だったので仕方ないが、パソコンを開きながら授業と関係のないものを閲覧したり後ろの方で私語をする学生がいたのが気になった。その対処として動画視聴中のパソコンの使用中止の指示があったが、私は授業メモをパソコンでとっていたので少し困った。」というものがあつた。実際、イヤホンをつけて野球中継を見ていたり、Youtubeを見たりしている学生の行為をやめさせてほしいという希望があり、ノートを手でとるように勧めたが、パソコンを使いたい学生もいたようで対応が難しい。

一方、よかった点として、映像を交えたことが理解度を高めたとする記述が多かった。また「人数がかなり多かったのにも関わらず、一人一人が授業に参加しているという意識をもたせるよう、度々先生から生徒に対してアクションがあったのがよかった。」とか「先生が優しい」という類いのコメントも少なくなかった。

③ 今学期も多人数にもかかわらず静粛でまじめに取り組む学生に恵まれ、授業しやすい環境を学生に助けてもらえたように思う。また多人数でオフィスアワーのみでは対応しきれないことから、授業開始30分前（昼休み）に教室に入り、学生の質問に答えたり一緒に考えたりしたことが評価されているようであり、今後もこの試みは続けていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	政治学A / Political Science A
授業コード	48C26-001
教員名	山岸 敬和
教員コード	101411
登録人数	48
回答数	35
回答率	72.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度Q1に開講された「政治学A / Political Science A」（学科科目）は、アメリカ合衆国の政治構造、その歴史的発展について学ぶ。その中でも特に、連邦政府、州政府、市民社会、個人との間でどのように権力関係を変化させてきたのかという点に焦点をあてる。講義を中心とする科目であるが、より多くのアクティブラーニング活動を取り入れた科目である。

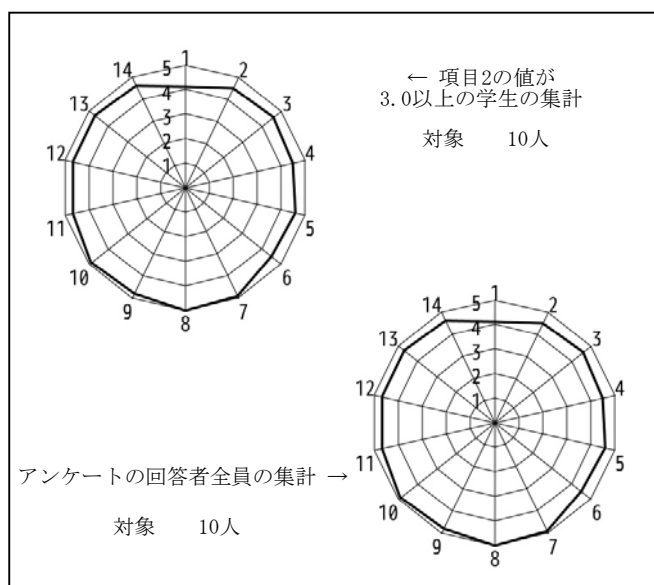
この科目では、主にアメリカをケースとして、その歴史的な発展過程を追いながら、民主主義のあり方を考えるという目標が設定されていた。またクラス内で活発なディスカッションを行い能動的な学びを促進することも目標であった。授業内での議論の内容を見るとかなりレベルが高いところまで達成されたと思われる。そのようなことから、授業評価において「設問3～14の平均値」が4.81（学科平均4.58）、「設問1～14の平均値」が4.70（学科平均4.51）となった。

今回のクラスで特に気をつけたのは、学生ができるだけ知的レベルが高い議論を行うこと、そして何よりも議論の楽しさを学ぶようにしたことである。講義に関連し、なおかつ学生が身近に感じるようなディスカッションクエストを設定し、毎回ランダムにグループ編成を行い、学科や学年を超えて意見交換ができるようにした。自由記述欄でのコメントを読んでも、こちらの狙いがかなりの程度達成されたと考える。

反省点としては、一人の学生が指摘してくれたように、授業で指定したテキストの章と、毎回の講義の内容とが少しくずれていたことがあったことである。テキストの内容をそのまま講義するような授業ではないということを冒頭に伝えてはいたが、次回からはもう少しテキストの位置付けを学生に説明しておこうと考える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)<国際科目群>
授業コード	48E07-901
教員名	森山 幹弘
教員コード	100090
登録人数	12
回答数	10
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

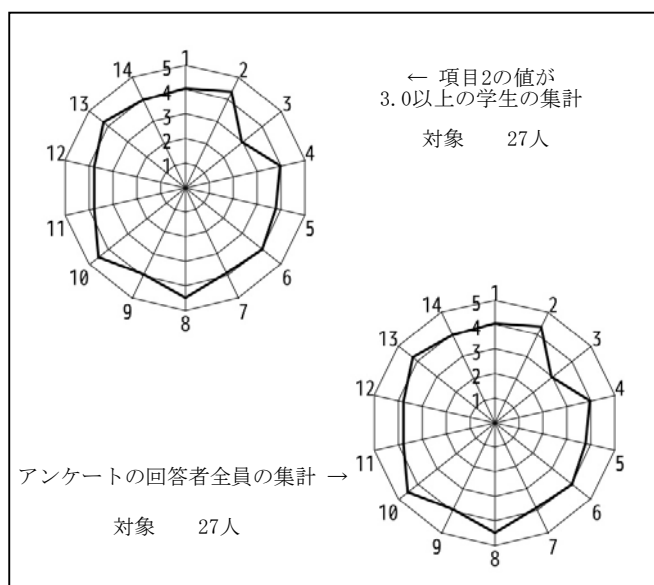


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと考えられる。今年度の受講者の人数は例年と比較して5分の1位になったが、意欲のある学生がほとんどであり、また過半数以上が留学生もしくは第一言語を日本語としない学生であったため、国際科目群に指定されているこの科目を質の高いレベルで提供できたと考えられる。受講者の自由記述からも、ディスカッションを通じて深い学びが得られたことが窺われた。
- ②数値データについて見ると、例年の数値よりも高く、その理由を受講者の数が少なかったことと、ほとんどの受講者が欠席することなく積極的に学んでいたことに求められるかもしれない。自由記述からは、内容は難しかったが、教員の解説とグループの仲間の助けによって内容の理解が進んだという意見があった。アクティブラーニングの手法が効果的に機能している運営であったと考えられる。
- ③次年度以降の授業の実施における改善点としては、受講生がより関心を持てるトピックを取り上げること、さらに多くの例を示すことによって理解を促す工夫をしていきたい。また、開講時期についてももう少し多くの学生が選択するようなクォーターを検討したい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと開発 / Sustainability and Development
授業コード	48G03-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	84
回答数	27
回答率	32.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

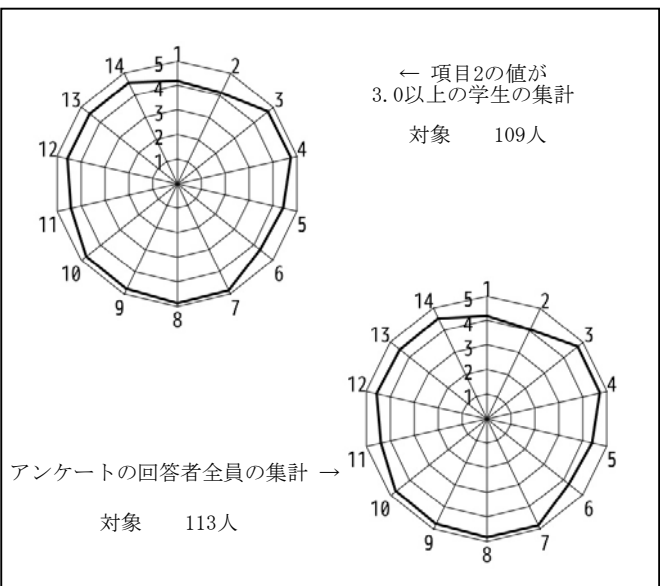
項目1から14の平均値が3.99、3から14の平均値が3.95という結果は担当者の毎年の経験に比較すればやや低いですが、まずまず目標は達成できたと考える。自由記述を見ても「板書が見やすかった、説明が明確だった」という肯定的な評価が目立ったのは良かったといえる。また授業時間中に時間が足りずに説明不足になりそうと思われた論点を、その都度課題としてWebclassで提出させた。回数がかなり多くなったがこれは理解を助けるのに役立ったという記述が多かった。

ただ意外なことに、この授業では例年前半でYoutubeなどの動画を見せていてそれがいつも高く評価されるのだが、今年はその点に言及する評価がなかった。他方で、今回の受講生では授業中の立ち歩きや私語が多い者が目立ち、可能な限り注意はしたがやはり「授業中に気が散った」という記述が目立った。こればかりは一朝一夕に解決できるものではないがこれからこうした状況がさらに悪化する可能性も考慮して対応を考えたい。またいつものことだが回答数が27名と少なかったが、これは常時出席していた学生数に比べて半数を上回ると思われる。といっても少しでも回答数を上げる工夫はこれからも必要と思われる。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

サステナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues

科目名	es
授業コード	48G04-001
教員名	塩寺 さとみ
教員コード	104489
登録人数	237
回答数	113
回答率	47.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

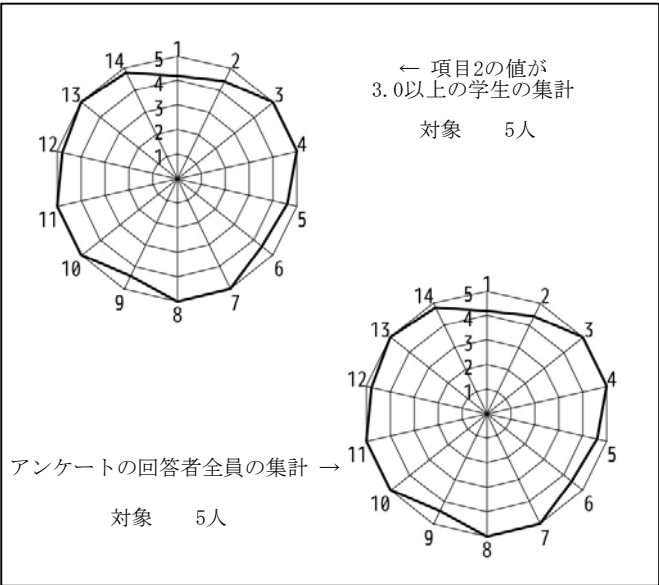
本授業は国際問題における地球環境問題の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。

1. 地球環境問題の発生要因とその影響について列挙し、内容を説明することができる。
2. 地球環境問題に関する様々な資料を読解し、整理することができる。
3. 基礎的な知識を用いて地球環境問題の解決策について議論できる。
4. 授業内容について自主学習により自ら理解を深め、レポートを作成できる。

本授業評価において、到達目標の理解（設問5）は4～5評価が89%台であった。昨年度より1%下がったが、5評価の割合が54%と高く、また、自由回答の問15・16からも高い学習効果が伺えた。また、今年度は国際教養学部以外の総合政策学部、外国語学部などの学生が過半数を占めており、全体の受講者数も増加した。その結果、地球環境問題に関する知識や、アクティブラーニングの習熟度に大きなばらつきが見られ、さらに、英語の動画や外国人講師によるZoom授業については、日本語での解説に対する要望が見受けられた。英語に関しては学生の努力によるものと考えているため、来年度以降もこのままの体制で行う予定である。一方、昨今の情勢を反映して初等・中等教育において環境問題について扱う機会が増え、学生の知識も向上しているように感じている。そこで、授業内容に関しては、今後は基礎的な内容に加えてより踏み込んだ体系的な内容を扱っていく予定である。本授業では、環境問題に関するトピックに各2回分を割り当てており、2回目の授業ではグループディスカッションの時間を設けている。このディスカッションに関しては、主体的に授業に参加できる、という前向きな意見が得られた。また、初年度から引き続き行っている「授業内容に関連した最新ニュースの紹介」と「授業内での復習と質問への回答」についても好評であった。今後も常に最新の情報を取り入れた授業を行っていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Communication7
授業コード	48A10-007
教員名	SELTMAN, Zen
教員コード	104672
登録人数	14
回答数	5
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. There a multiple goals set for this course, but the two I place the greatest emphasis on are:

- 1) Developing students' confidence in English language communication.
- 2) Encouraging students to think more deeply about not just domestic but also international issues that affect their lives and the society they live in.

I would like to think that I was able to achieve both goals. This year, I even invited a guest speaker from the ASEAN-Japan Centre to bridge the gap between knowledge and practice (something which I hope helped with the second goal).

2. Overall, I think I did very well. Based on the feedback, I may need to incorporate more student-friendly materials, since some of the videos/websites I provided utilized complex vocabulary that not all students could follow.

3. I believe I should place greater consideration into how AI is shaping the current class environment, particularly with regard to written assignments. Perhaps I should assign more interactive assignments that require more personalized or contextual input.

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy1
授業コード	48A11-001
教員名	FRENCH, Gary
教員コード	046912
登録人数	13
回答数	3
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set out at the beginning of the term, using active learning and the practical session style, based on a CLIL approach and emphasizes active learning that aims to continue developing students' literacy skills as well as writing a research report (secondary research), along with various other short writing tasks and doing intensive reading practice and develop critical thinking and analytical skills were appropriate for the level of the students, and they were able to produce good research and theses papers and well as utilizing the SDG articles as a supplemental materials for the class. I was able to adjust course materials to match the level and high motivation of the students. In the next quarter, I would devote more time to the revisions conducted for the research papers as well as require more library research to gain more well rounded papers.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy3
授業コード	48A11-003
教員名	ANG Donna
教員コード	104319
登録人数	21
回答数	3
回答率	14.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

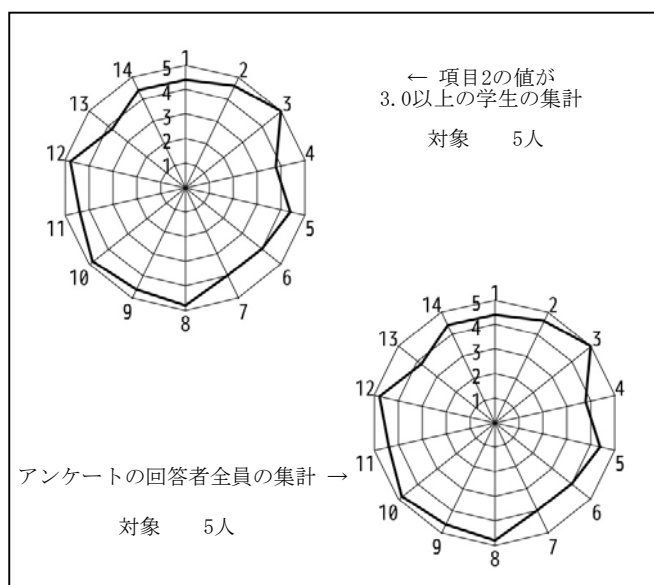
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The students are writing a secondary research paper for the first time, and it scares them. My goal at the beginning was to reassure them that by doing it in a step-by-step guided process, they can produce an output that they didn't imagine they could. I designed the course in a way that they can follow the steps through examples and immediate feedback. From the results of their paper, I think most of the students were able to write a good paper, with the exception of those who could not be bothered to submit drafts and in the end had to resort to an AI assisted paper.
2. The result of the numerical data has not been compiled. As I understood it, it was because less than 4 answered? I actually do not know the timing of telling them to answer the survey or how. I received that kind of information when I first taught at Nanzan but I don't receive it anymore so I'm a bit lost. There was one comment, however, that got through, and it says that the student is glad that the feedback is substantial. I will continue to make substantial feedback in the future.
3. For next year, I want to continue with the step-by-step guidance and thorough feedback, but with an additional lecture on how to use AI in a way that helps, rather than prevents them from achieving their writing goals and undermining their skills.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy5
授業コード	48A11-005
教員名	MIWA, Ramona
教員コード	104421
登録人数	21
回答数	5
回答率	23.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

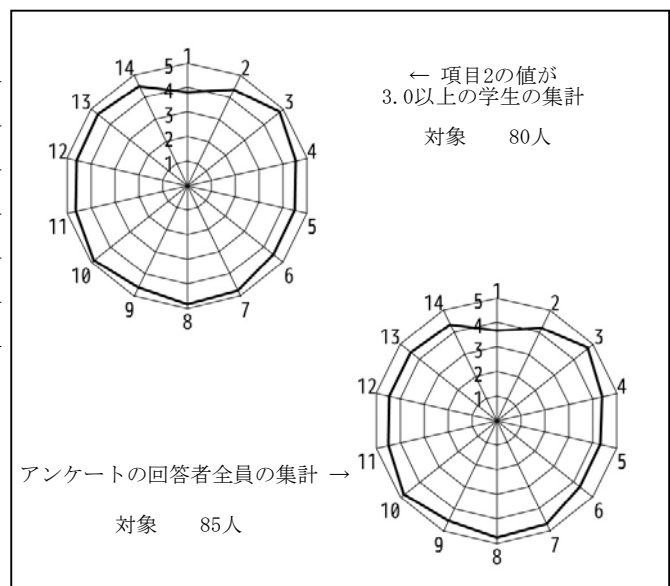


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。このクラスの主な目標は、持続可能な開発目標（SDGs）に関連するトピックを探求することでした。それに加えて、生徒たちは、読解力、要約力、批判的思考力を向上させ、知識を広げるために設計された複数の短い読解課題に取り組み、英語でのディスカッションを行いました。すべての読解課題を無事に終えることができましたが、教師として、他のスキルに比べて要約力があまり重視されなかったことに気づきました。そのため、次のコースでは要約力の向上にもっと力を入れたいと考えています。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。質問を確認したところ、1から5の評価で「3」の点数がいくつかありました。この結果には満足しておらず、問題点を改善する予定です。今回のコースは初めてのライティングに焦点を当てた授業だったため、私にとっても教えるのは挑戦的でした。しかし、同時に、授業の準備を通して私自身も多くのことを学んだと感じています。このコースと学生たちの優しさのおかげで、新しい知識やスキルを得ることができました。コース自体は、特にSDGsに焦点を当てた点で、よく構成されていたと考えています。このテーマにより、私たちは普段見過ごしがちな世界の課題について学ぶことができました。個人的には満足していますが、次回のコースでは、より個別の読解を取り入れ、学生にさらに多くの情報を提供する予定です。また、学生が学習に対して積極的に取り組み、クラスで主体的に参加し、学習過程により深く関与するように、さらに多くの情報を提供していきたいと考えています。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。私の目標は、学生にコースの主題についてさらに深い理解を提供することであり、そのための方法を模索しています。前回のコースで、語彙力が多くの学生にとって課題であることに気づいたので、今後は語彙力の向上により力を入れたいと考えています。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	教育・文化における人間の尊厳3
授業コード	10D07-003
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	149
回答数	85
回答率	57.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は以下のものであった。

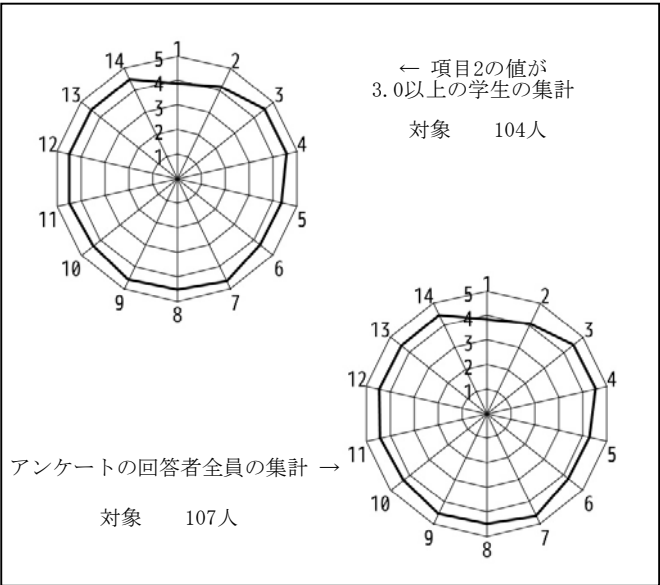
1. 溢れる情報の中で、真偽を見分ける観察力と判断力を育てる。
2. グローバリゼーションの真の意味を理解している。
3. 様々な「争い」の原因を分析し、かけがえのない「平和」という価値観についての考察を深めている。

学生の定期的なリフレクションペーパー、質問や最終レポートを通してこれら3つの目標は到達されたと言える。教員として特に喜ばしい点は、今まで遠い国で起きている紛争は自分には関係がないと思っていた学生が意識を変えて、同じ人類の一員として他の人たちの苦しみへ目を向ける必要性に気づいたことである。

改善すべき点：コンピューターの裏に隠れ、スマホで遊んでしまう悪い習性をどのように正せるか。またコロナウィルスの後遺症として、授業を頻繁にかつ簡単に欠席してしまうことが増えたと思える。大学で学べることは幸せであり、また権利であり義務でもある。この「学ぶチャンス」をどのように理解してもらうか。もう1点は、講義を履修する際に、自分の都合に合わせてではなく、シラバスをきちんと読み、学びたい、内容を深めたいという理由で選択してもらうこと。これが私のチャレンジ的な課題です。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳5
授業コード	10D08-005
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	188
回答数	107
回答率	56.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



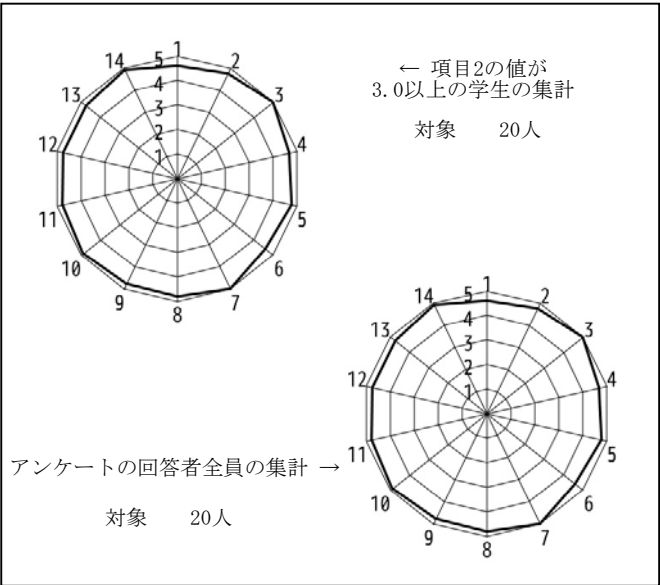
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course “Human Dignity and Ethnic Issues” provided a comprehensive exploration of fundamental concepts related to human rights, social justice, and the complexities surrounding ethnic diversity. The course content was well-supported by a range of engaging resources, including reading materials that delved deeper into the theoretical frameworks, and videos that brought real-world examples and lived experiences to life. Additionally, the twenty-question multiple-choice homework assignment allowed students to assess their understanding of key concepts and apply critical thinking to the issues discussed in class.

I am pleased to hear that many students found the course beneficial and that the material resonated with their academic and personal growth. Their feedback highlights both the strengths and areas for potential improvement. As we move toward the next academic year, I will carefully consider the constructive points raised by the students, particularly those concerning course delivery and the depth of certain topics. These insights will help ensure that the course continues to evolve, providing even greater value in promoting awareness of human dignity and addressing ethnic issues with sensitivity and critical reflection. I look forward to incorporating these suggestions into a more dynamic and impactful learning experience.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G 13
授業コード	11A02-034
教員名	DEACON, Bradley
教員コード	046920
登録人数	21
回答数	20
回答率	95.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

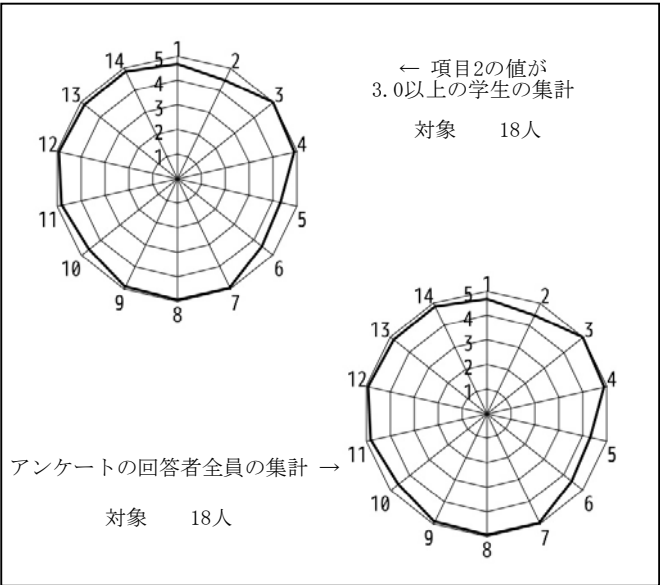


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were to provide students with opportunities to develop their oral and aural English fluency and accuracy skills in order to communicate effectively and appropriately on a diverse range of academic topics. Additionally, students were introduced to skills in order to collaborate with others through a diverse range of mediums such as discussion, presentation, and debate. From the student feedback it was clear that they found the course to be a practical and positive experience. It was particularly gratifying to read their comments, which suggested that they feel more motivated to continue to learn in the future. I would like to cultivate a similar community with the next OC classes in Q3 and Q4 and hope that they will learn to collaborate and interact with one another just as effectively as the groups in Q1 and Q2 did.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]5
授業コード	11A02-036
教員名	BURCH, Alfred Rue
教員コード	104829
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

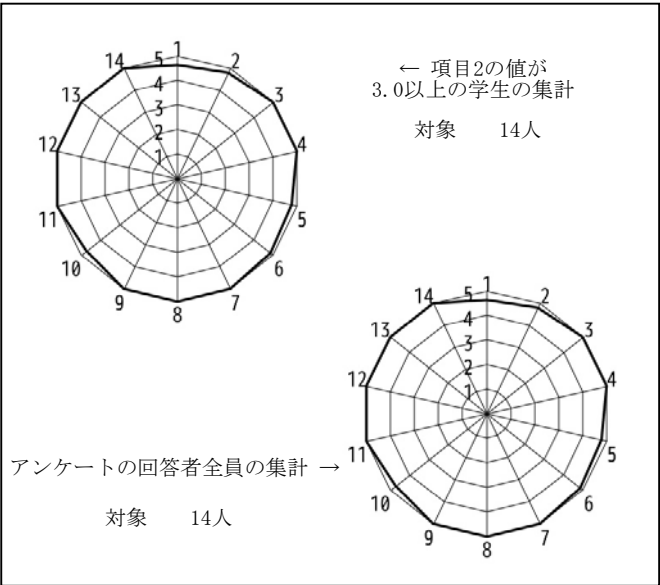


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The goals were well achieved by the majority of the students. Their presentations showed depth and their continued development in terms of critical thinking skills.
- 2) The class went as planned. This group was reasonably easy to keep on track, and they communicated with me about difficulties or concerns they had.
- 3) I always design and teach courses in order to be responsive to the students' needs. I will continue to do so. I am more concerned about my 3Q/4Q course, as it is not clear that they have received similar instruction from the part-time teacher in 1Q/2Q. As such, I may need to do a great deal of remedial work.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]1
授業コード	11A06-032
教員名	MILES, Richard
教員コード	101363
登録人数	14
回答数	14
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

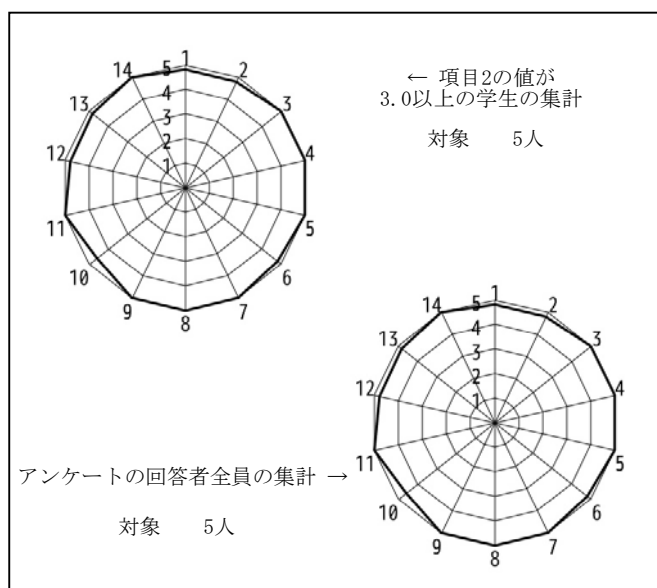
I am very pleased with the evaluations for this course and with how everything went. This course is usually challenging to teach, due to the student's high level of English and their varied backgrounds (different cultural backgrounds and ages). However, the students were very positive regarding the comments and scores they gave the course. This English Literacy course was designed specifically to help students become more independent writers and to be able to edit their work. This will assist them to be more autonomous when they write essays during their studies abroad next year or for their graduation thesis after that. Students answered with perfect scores for questions #13 and #14, indicating they felt they had acquired new knowledge and were extremely satisfied with the course.

The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students. I was pleased that the students felt comfortable approaching me for feedback and consultations. A few students indicated they had not been as proactive as they could be (question #2), but this is to be expected in their first few months of university. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as the student's level of English varied considerably.

For next year, I intend to focus more on developing the students' reading skills.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際教養日本語I
授業コード 11L19-001
教員名 北村 雅則
教員コード 100212
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

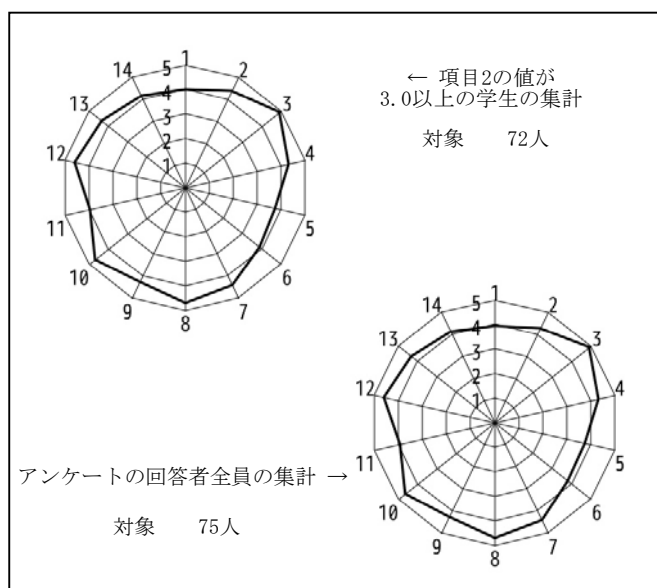


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、国際教養学部の留学生（1年生）向けに開講している日本語科目である。到達目標として、1. 日本語の文章を読み、当該分野の理解に必要な中級レベルの語彙を理解できる、2. 読解した文章に使用されている文法表現を理解できる、3. 書き言葉のスタイルを理解し、適切な文章構成・語彙・文法を用いた小レポートを作成できる、4. 授業に参加する上で必要な日本語表現を使用できる、5. 授業テーマに関するディスカッションに参加し、自分の考えを説明できる、6. 1～5を総合し、他者との相互理解を促進するための外国語としての日本語力、および、コミュニケーション能力を高めることができる、の6点を設定している。今年度の留学生は、入学当初よりJLPTのN2レベルをクリアしており、想定よりも高いレベルにあるため、上記の6点の到達目標についても、より高いレベルで達成できていると思われる。評価結果についても、少人数クラスということもあり、良好な結果を得た。しかし、授業というものは教員だけが作るものではなく、少人数クラスになればなるほど、学生と教員の共同成果物でもある。そういった意味から捉えると、学生自身にとっても参加する意義を感じてくれた授業だったと考える。次学期に向けては、想定よりも高いレベルにある留学生を、さらに高いレベルに導くためにも、シラバス内容を現実に即したものに改変し、彼らのアカデミックな日本語力を高められる授業を展開していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	言語論B / Linguistics B
授業コード	48C23-001
教員名	勝 慎将
教員コード	104656
登録人数	108
回答数	75
回答率	69.4%
休講回数	3 回
補講回数	3 回

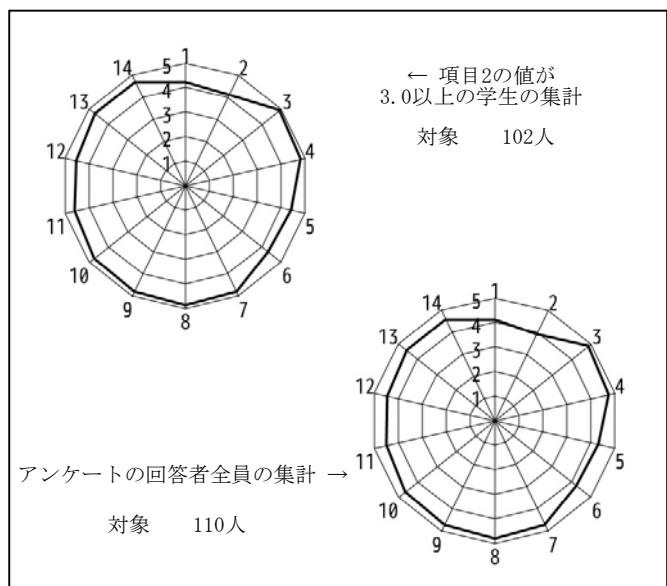


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本科目の到達目標は以下の二つであった。1. 人間言語を成り立たせるしくみについて理解する。2. 各分野における基礎的な概念を理解し、それらを用いて言語現象の分析ができるようになる。このうち、1はテキストの内容理解や、毎授業後のリアクションペーパーを見る限り、こちらが期待していた程度には言語現象に関する知識をつけられたと感じた。2に関しては、1を踏まえた上で、実際にその知識を利用できることが要求されるが、試験を見る限り、それができている学生は約1/4というところであった。来年度は、授業内で実践的な演習の機会を増やし、知識を利用できるレベルまで学生に力をつけさせたい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：数値データに関しては、項目1から14の平均は4.28、項目3から14の平均は4.31とまずまずの数値であった。自由記述に関して、毎回の授業の始めに前回のリアクションペーパーへの返答の時間を長く取っていたが、それは好評であった。改善点としては、講義形式であったため、知識の定着が難しいといった内容が寄せられた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：教員側も学生としても、もう少し演習の時間が必要であったと感じたので、授業内の演習の時間をより多く儲けたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	歴史学B / History B
授業コード	48C25-001
教員名	南 祐三
教員コード	104786
登録人数	216
回答数	110
回答率	50.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

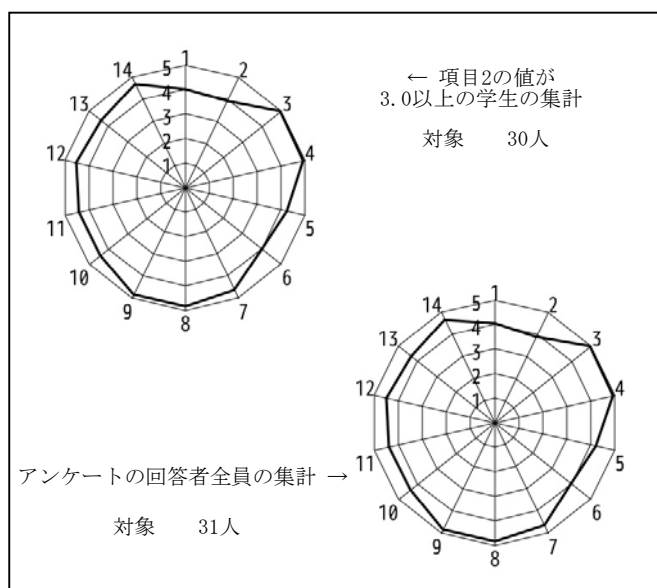


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスを作成した時点で想定した目標と到達地点について、少なくとも授業を行う側の視点からいえばほぼ達成できたと考える。毎回の進捗度は適切で、当初用意していた内容を十分に扱うことができた。問題は、履修生の側がどれほど理解することができたかという点だが、期末レポートの結果をみる限り、これについても概ねこちらが意図していた程度には理解してくれたことがわかる。
- ②設問の1と2を除き、3～12の項目はすべて学部 of 平均値以上であり、満足のいく結果となった。自由記述にある「有意義だった」「面白かった」「わかりやすかった」という回答を率直に喜びたい。平均値以下だった設問1は、履修生の事前の興味の問題であるが、これが比較的低いにもかかわらず、授業の内容に関しては高い評価を得たことは、授業をつうじて歴史学への関心や理解をより深めてくれたことを示唆していると考えられる。
- ③自由記述回答からは、教材として利用した映像資料が好評だったことが窺える。こうした補助資料の有効的な活用を今後も続けていきたい。今回平均値以下だった予習・復習に関する設問2に関しては、改善の余地があるだろう。具体的な対策としては、こちらから具体的な予習・復習の方法を示すというやり方が考えられる。ただし、これはやりすぎると学ぶ側の主体性を損ねることにものりかねないので、注意が必要だと思っている。総じてこの授業は、こちらがやりたいことと履修生の満足具合がマッチした、うまくいっている授業だと考えられるので、来年度も引き続き「受けてみたらとてもおもしろくて有意義だった」と思ってもらえる授業づくりに励んでいきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	倫理学 / Ethics
授業コード	48C30-001
教員名	神崎 宣次
教員コード	103280
登録人数	117
回答数	31
回答率	26.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

今年度は参照するテキストを新しく設定した上で全体の構成を見直した。講義で扱う内容についてはおおよそ予定通り進行できたが、テキストのうち利用したのは7割程度になったので、来年度に向けて再調整が必要と考える。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

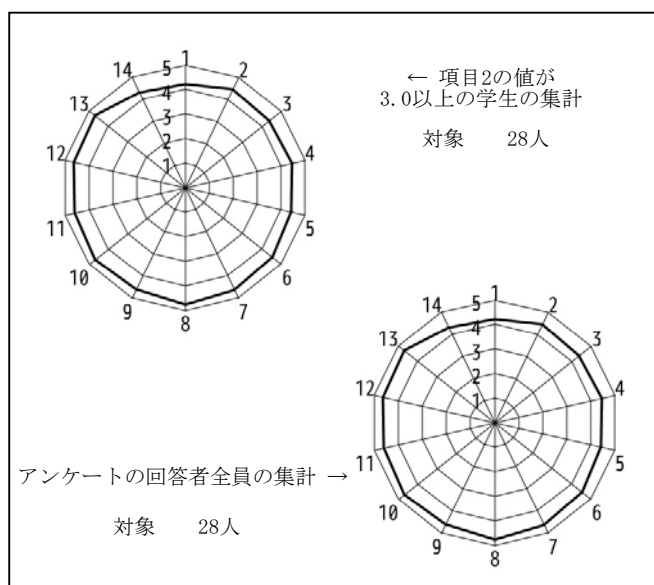
今回の回答結果から、予習復習に関しては何らかの対応が必要であるかもしれない。一つの対応としては、理解確認のための小テストを現在よりも回答のための負荷の高いものにすることが考えられる。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

小テストと期末レポートの成績評価における割合を現在は6:4としているが、これについては再考の余地があると考えている。また小テストにするか、それともリスponsペーパーのような記述式による課題にするかについても、来年度に向けて検討する予定である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と国際関係 / Globalization and International Relations
授業コード	48E03-001
教員名	吉田 信
教員コード	104481
登録人数	88
回答数	28
回答率	31.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

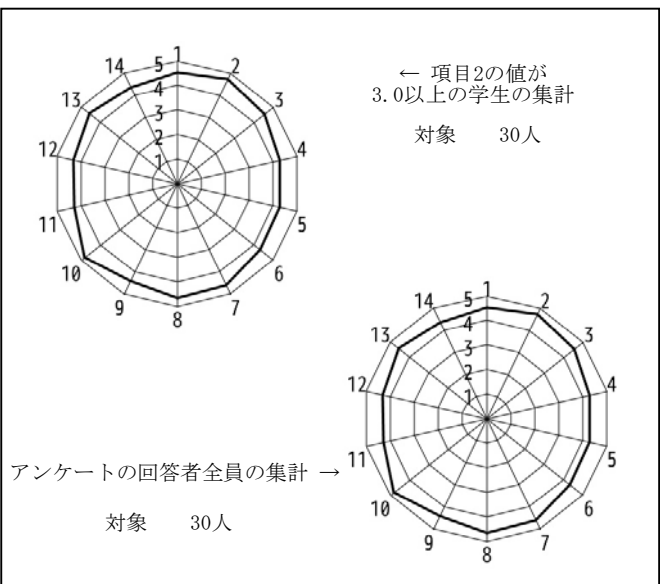


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今期の講義は2回分の振替が発生したこともあり、当初想定していた目標と到達にやや変更が生じた。
- ②アンケートの結果は平均と大きく離れていないため、一定の水準は維持できたものと理解している。
- ③改善点として以下を指摘できる
 - ・アンケート回収率：アンケートの記入について最終授業で時間を確保したにもかかわらず回収結果が少ない。
 - ・リアクションペーパーの時間確保：虚偽の出席登録を行う学生が数名散見され、それを防ぐために授業内でリアクションペーパーを数回書かせる試みを行ったところ学生から改善の要望が寄せられた。虚偽の出席を防止する適切な手段は次年度以降の検討課題としたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies F (Economic Studies)
授業コード	48E11-001
教員名	平岩 恵里子
教員コード	100953
登録人数	41
回答数	30
回答率	73.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

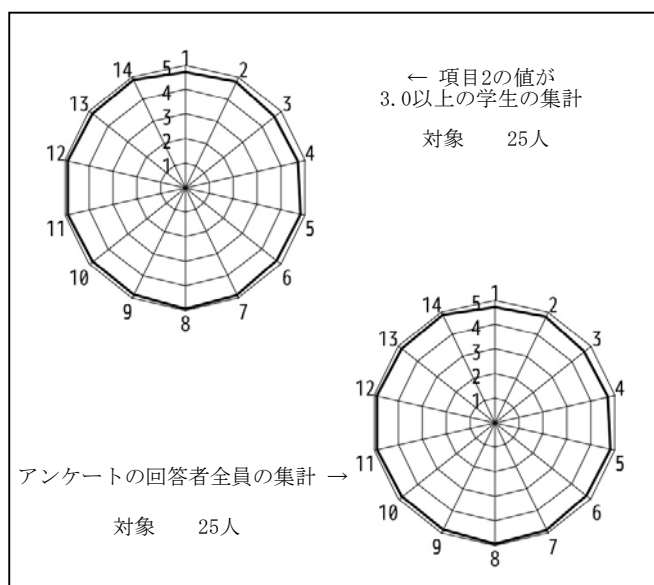


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 講義目標（グローバル進展に伴う人の移動の背景を多面的に理解する）は到達できたと感じている。
- ② まずもって、講義の進め方や試験の実施方法についてのコメントを多くもらった。学生を混乱させてしまったことを自分の力量不足であると感じている。これは反省すべきで、今後の戒めにしたい。また、講義中の携帯利用について、憶測やステレオタイプの的な注意の仕方を反省。余裕を持って対応したいと思いつつ、つい。
- ③ こうした評価に心が折れ、そのたびに学生とのコミュニケーションの取り方を何とかしようと今もって悩む。学生との間に誤解を生まないような説明と、学生に何を求めているのか、について、心折れずに果敢に働きかけていくこと。厳しい中にも学生に心を寄せる。かなりハードルが高い。自分の実力と個性ではかなり難しいと思いつつ、いやいや、自分なりに、自分の専門分野を学ぶ楽しさを知ってもらおうと努力すればよい、と、思いはすれど。ただ、指摘してくれた学生には感謝しないと。肯定・否定、どちらの評価であれ、書いてくれる、ということはそれだけ関心が高かった、ということと理解しよう。「無視」「無関心」が一番つらいので。十数年前、初めて教壇に立ち、初めて授業評価を受けた時、否定的なコメントが多かったことに対し、当時の勤務校の学長が「これまでの授業評価はコメントが少なかった。だから、むしろ関心があったという証拠で、なにくそ、と思わせたことが評価できる」と伝えてくれたことがあった。ポジティブに考えて進もう。そうだ。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies D (Political Studies)
授業コード	48G16-001
教員名	林 徳仁
教員コード	104615
登録人数	49
回答数	25
回答率	51.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

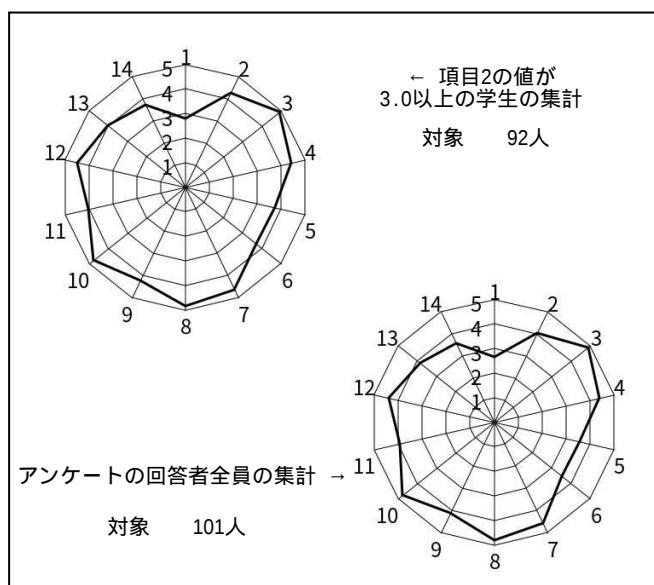


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は、現代の移民や主要な民族的、国家的、あるいは人種的マイノリティを対象に、多文化主義の性質や言説を議論することを目的としていた。各授業後に提出されたグループ発表および期末レポートを総合的に評価した結果、学生は多文化主義に対する理解を深め、その視点や考え方を習得したことが確認できた。また、多文化主義が日本の日常生活においてどのように現れているかを解明することができたと判断しており、当初設定した目標を達成できたと評価している。
- ②全項目平均は4.81、項目3から18の平均は4.82であり、国際教養学部科目の平均（それぞれ4.47、4.52）より、やや高い評価を得ている。自由記述の回答からは、「主体的に参加する事が出来た」、「丁寧な指導」、「アクティブに学ぶことができた」といった肯定的なコメントが記されていた。ただし、一部の学生からは課題の量や難易度に対する意見が見受けられたため、次回以降の改善点として考慮する必要がある。
- ③本授業では、映像や写真、対話形式の導入など、授業内での工夫により学生の参加意識を高めることができた。今後は、ケーススタディの内容をさらに多様化させ、より多角的な視点から移民の課題に取り組めるようにする。また、学生の自主的な学習支援を強化し、自主学習のためのリソースやサポート体制を整えることで、学生がさらに深く学べる環境を提供することを目指していきたいと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[G]
授業コード	10A51-019
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	137
回答数	101
回答率	73.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

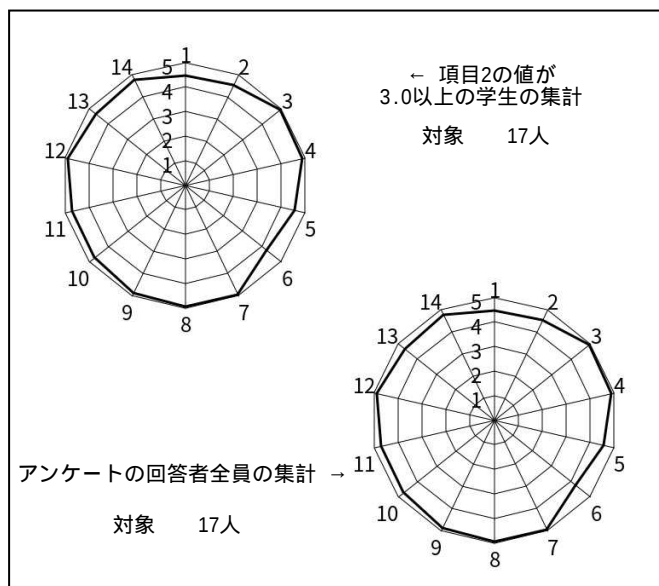


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標である 1.「キリスト教の神観を理解している」2.「キリスト教は人間の尊厳を目指す人間学であることを理解している」3.「キリスト教の中心は兄弟愛であることを理解している」に関して、到達したと言えます。特に第3に関しては、最終レポートの中で、学生の多くがキリスト教に対して抱いていた固いイメージから解放され、ナザレのイエスの教えとその生き方はアガペと憐れみ、そして赦しに基づくことを発見し、すべての文化に相応しいものであると書き残しました。設問項目とレーダーチャートの分析においては、二つの項目の平均値の中で最も数値が低かったのは、項目番号1.「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」(2.66)と、項目番号6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(3.54)でした。言い換えると、カトリック大学が基づく「キリスト教」の思想に興味がなかったと推測できます。ここで教員は、学生自らが希望し入学した大学の教育理念を客観的に知り学ぶことの意義を学生たちに問いかけ、さらに説明を施す必要があると思います。項目2については、大学での勉学に対する情熱が足りないとも考察できますが、この点においても教員は学生たちに対し、大学は単なる単位獲得の場所ではなく、新たな知識を得てより豊かな社会を建設するための4年間であることを伝え続ける必要があると感じます。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]4
授業コード 11A07-035
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied with the evaluations for this course, as the students were very positive regarding the comments and scores they gave. This English Literacy course was designed specifically to help students become more independent writers and to be able to edit their own work.

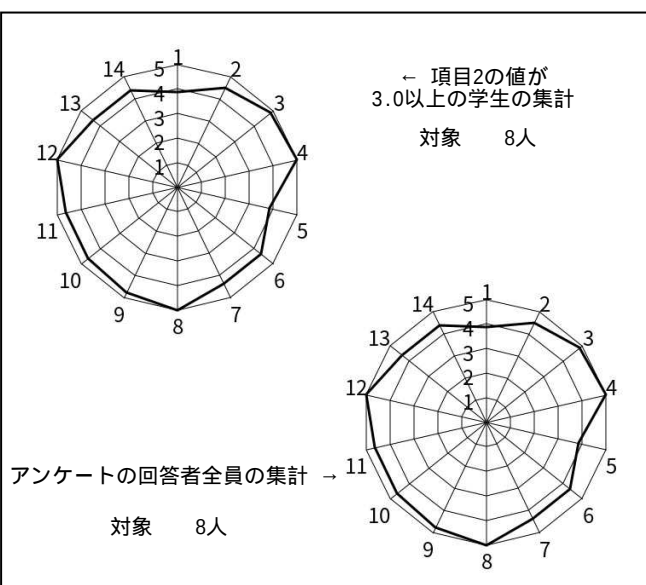
This will assist them to be more autonomous when they write essays during their studies abroad next year or for their graduation thesis after that. Students answered with high scores for questions #13 and #14, indicating they felt they had acquired new knowledge and were extremely satisfied with the course.

The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the interaction and discussion time I had provided them. I was pleased that the students felt comfortable approaching me for feedback and consultations. A few students indicated they had not been as proactive as they could be (question #2), but this is to be expected in their first year of university in a required class. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing, as the student's level of English varied considerably.

For next quarter, I intend to focus more on developing the students' reading skills. I also need to make sure students are more aware of their progress as the score for question 6 was lower than other scores.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学B3<国際科目群>
授業コード	12C05-901
教員名	山岸 敬和
教員コード	101411
登録人数	8
回答数	8
回答率	100.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2024年度Q3に開講された「政治学B<国際科目群>」(基盤科目)は、外国人留学生別科のModern Japan Programの科目「Exploring Japan」と乗り合いで行われた。外国人留学生と南山学生の比率は2体1であった。

科目の内容としては、市民社会の問題について理解し、その問題がなぜ起こったのか、そして問題解決の可能性について議論を行った。また最終課題として、グループプロジェクトを発表することを設定した。この科目では、主に日本をケースとして、その政治と社会の関係性に注目しながら、市民社会の問題点を理解し、問題解決のための意見を述べる。そして、それを英語での議論を通じて行うという目標が設定されていた。英語の文献を読み、キャンパス内での聞き取り調査を含んだプロジェクトを進める等、能動的な学びを促進することも目標であった。

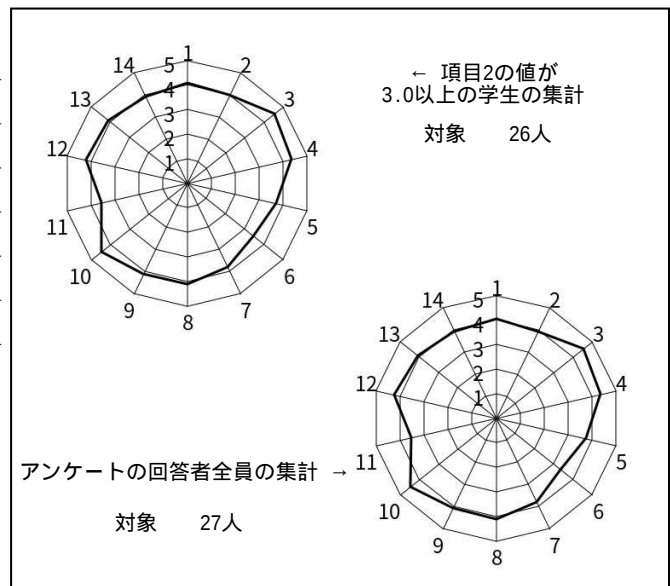
授業評価において「設問3~14の平均値」が4.60(基盤科目平均4.56)、「設問1~14の平均値」が4.54(基盤科目平均4.51)となった。同じカテゴリーの科目と比べるとほぼ平均的な数字だったが、授業内での議論や発表の内容を見るとかなりレベルが高いところまで達成されたと思われる。

今回のクラスで特に気をつけたのは、学生ができるだけ知的レベルが高い議論を行うこと、そして何よりも議論の楽しさを学ぶようにしたことである。自由記述欄でのコメントを読んでも、こちらの狙いがかなりの程度達成されたと考える。

反省点としては、一人の学生が自由記述欄で指摘してくれたように、政治学との関連性について十分に説明できていなかった点である。特に政治に強い関心を持つ学生が集まっているクラスではないことを念頭に、もう少し丁寧に説明することを今後心がけたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは1
授業コード	13E02-001
教員名	勝 慎将
教員コード	104656
登録人数	35
回答数	27
回答率	77.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

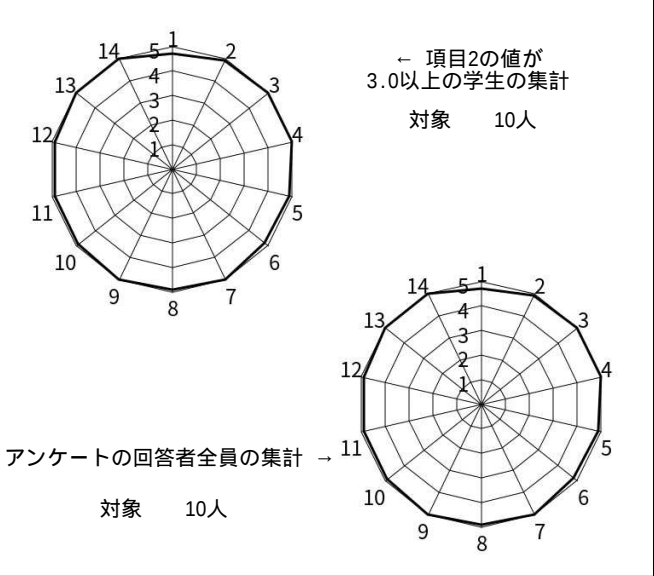


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、音韻・形態・統語・意味・語用・文理解等の分野を幅広く学び、人間言語の諸特性やその現象への理解を深めることをテーマとし、言語学の様々な分野における基本的な知識の理解ができるようになることを目標としていた。学生が興味のあるトピックを中心に様々な言語現象を紹介でき、概ね目標は達成できたと考える。授業の始めにリアクションペーパーへの返答の時間を多く設けたが、それは学生達にとって好評であったため、次年度も続けていこうと思う。授業の内容に関しては、最も身近な言語である日本語についても分からないことがたくさんあることへの驚きや、日本語以外の普段触れない他言語についての現象等が学生の興味をそそるものであったと感じたため、次年度以降もその二点に主に着目してより内容を充実させたい。主にリアクションペーパーを通じて学生の疑問をその場で解消することに努めたが、自由記述において一件「難しすぎた」とのコメントがあった。大講義の形式ではあるが、次年度は、より学生とのインタラクションを図りたい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society D2 < 国際科目群 >
授業コード	31C04-902
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	25
回答数	10
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

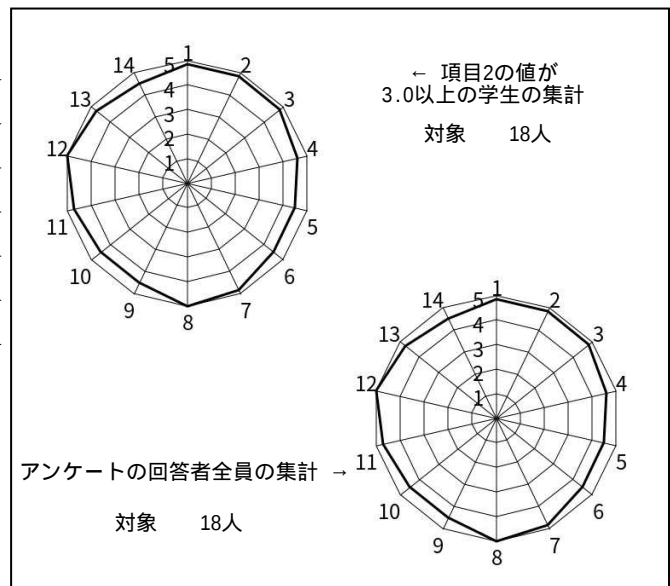


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with the course in terms of the syllabus, the knowledge acquired and the materials and teaching methods used throughout the semester. The objectives for this subject as presented in the course outline were met in full. Students were given reading and writing assignments related to a two-module set of course requirements. Weekly assignments consisted primarily of preparing analyses of readings and documentaries related to the topic under discussion. Students were graded on how assiduously these had been completed and on an end-of-quarter report. In response to Question 1, a few students initially did not consider the content presented in the course outline to be particularly motivating, but the generally acceptable scores for the remaining answers appear to suggest that the materials and course content were sufficiently inspiring. The instructor will aim to provide a more satisfactory learning experience in all areas covered by this survey, and will carry out a mid-semester survey so that he may be able to better resolve issues such as those mentioned above. Where appropriate, additional activities and materials will be introduced or extended as requested by additional (anonymous) comments in an additionally questionnaire. Overall, students were lively, good-humoured and informed and participated actively in all class activities and assignment completion. They were a pleasure to work with.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Topics in GLS B2
授業コード	48A49-002
教員名	林 徳仁
教員コード	104615
登録人数	25
回答数	18
回答率	72.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業は、人の国際移動に関する国際社会学の基礎を英語文献から理解することを目標として開講された。毎回、人のダイナミックな移動による社会的影響に関連する英語の専門書籍や論文を読み、グループディスカッションを実施した。その後、リスポンスペーパーや期末レポートの内容を評価した結果、授業終了頃には多くの受講生が国際的な視点から人移動を理解し、社会経済の動向に関心を持つようになった。この結果を反映させると、開講当初に設定した目標は大約達成されたと考えられる。

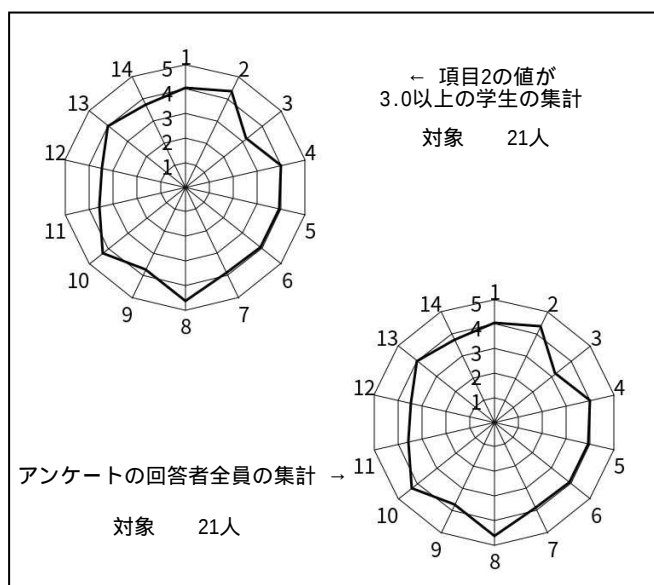
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

受講生はこの到達目標を明確に理解し(4.50)、主体的に授業に参加し(4.83)、新しい知識を得ることができた実感している(4.72)。全項目の平均は4.71、項目3から18の平均は4.69となり、英語文献を活用した専門教育としては一定の成果が見られる。自由記述の回答には「主体的な参加」や「適切な指導」などがある一方、一部の学生から課題の量や難易度に対する指摘もあったため、改善点として検討すべきである。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など英語資料を主に用いる授業であったため、学生同士の議論の方向性や共通誤解を一致させるための時間調整が必要だった。次年度は日本語訳を適切に入れ、学生の需要に応じた授業構成や運営の改善を実施していく。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics
授業コード	48E04-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	47
回答数	21
回答率	44.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

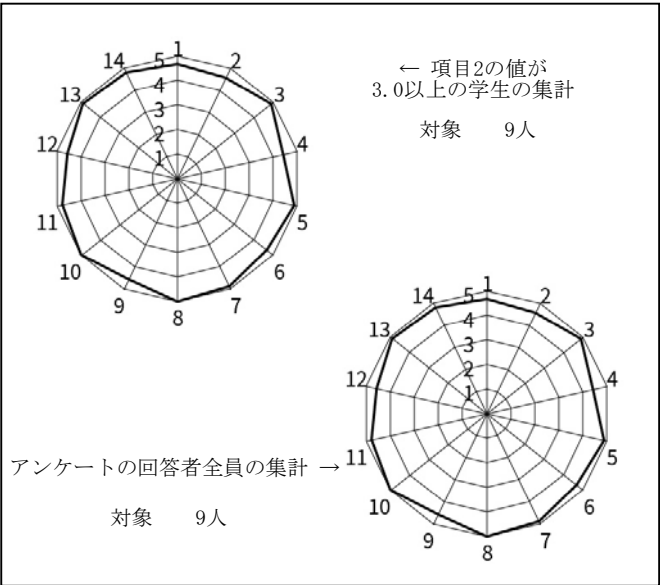
全体の平均値が3.91なのはほぼ例年と同じだった。授業中に貸した宿題や定期試験を見る限り、（全員とはいかないが）半数以上の学生が授業内容を十分に理解してくれていた。

経済学の理論的内容を扱う授業なので学生の関心を引くのが最も難しい点だが、自由記述では震度がゆっくりなので考える時間が十分にあったという記述があったのは喜ばしいといえるだろう。ほぼ2回に1回のペースで授業中に説明した点、あるいは次に説明する予定の点を宿題にしてWebClassで提出させていたので、まじめに提出してくれた学生は授業内容を十分理解してくれていたと思われる。その割には項目12がやや評価が低いのは判断が難しいが、来年度もこうした授業の進め方は維持するのが良いと考えている。

回答率の低さはいつものことだが、今回は授業中に時間をとって回答するように促したにも拘らず回答数は21人だった。この点は改善すべき点として、来年度からも検討を続けたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[G]1
授業コード	11A08-032
教員名	BURCH, Alfred Rue
教員コード	104829
登録人数	14
回答数	9
回答率	64.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The majority of the students met or exceed the goals as they were set out at the beginning of the course. Roughly 1/3 of the students went well beyond expectations and pushed their skills based upon their own motivation and interests. Most of the rest met expectations, and showed strong improvement in their writing skills.

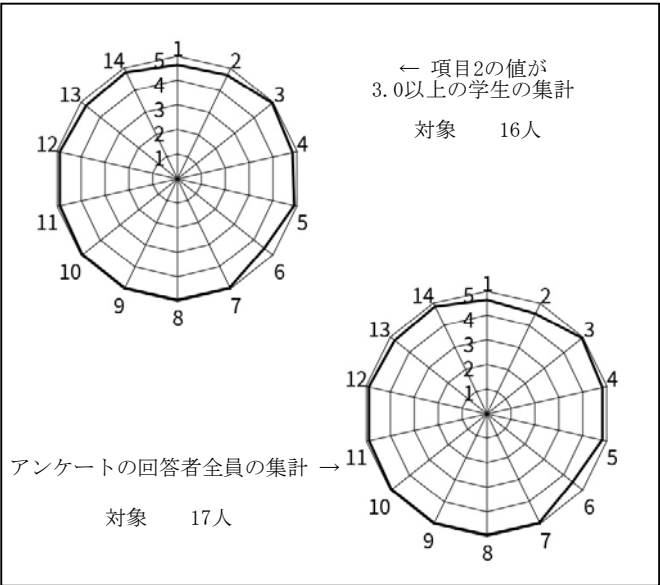
(2) As I am very strict about following directions (especially regarding feedback: if a student does not incorporate or address it, they get a 0), one particular student expressed frustration (Questions 4 and 12?). However, even that student did wonderfully in class.

This was the first time for me to teach the G1 group, and overall, I feel it went reasonably well, given their reputation as being potentially difficult to teach.

(3) As I'm not likely to teach this course for the next couple of years, this is challenging to be specific about. My biggest concern is how to emphasize the important of *writing-for-thinking*, so that students see the value of writing their own work in their own words rather than relying heavily on AI. I did not find this to be a major issue with this class, but in the coming years it is likely to be a greater concern.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[G]6
授業コード	11A08-037
教員名	DEACON, Bradley
教員コード	046920
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

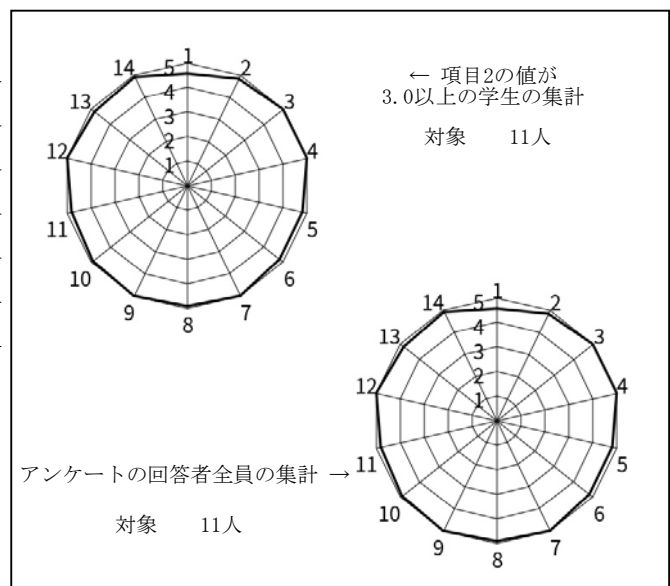
The main goals of this course were met as students in this course made a concerted effort to improve their fluency and accuracy as writers in the English language. They also spent considerable time reading in English to write their final papers. Other goals in line with the syllabus were met.

I was pleased to see that students felt a sense of progress in the course. Ample opportunities were given to help students to interact with one another and the instructor in order to expand their knowledge and communication skills. They met these opportunities with enthusiasm and diligence.

In the future, I would like to devise more ways to encourage students to read more outside of class time. This seems to be a challenge for teachers in other classes, as well, since students reportedly are not reading enough to make greater strides in their language skills. Since many students have a self-professed interest to go abroad, where stronger English skills are often necessary, it is important to give them opportunities inside and outside of class to cultivate their skills.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]7
授業コード 11A08-038
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 23
回答数 11
回答率 47.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

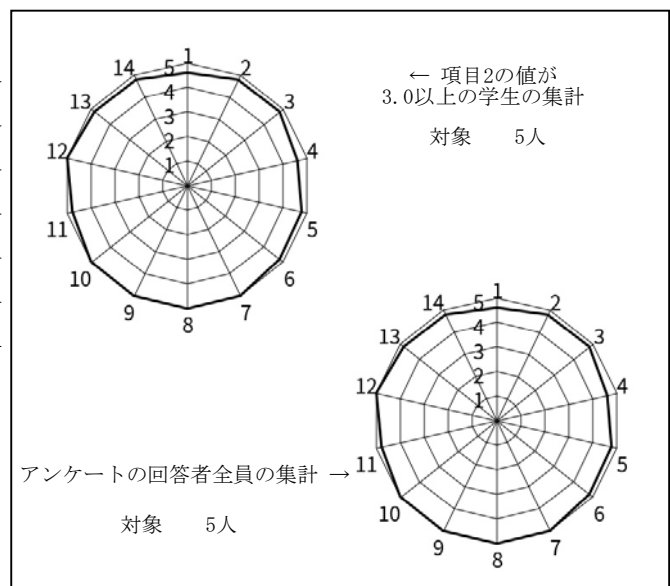
このクラスでは論説文や物語文を読み、4つの異なる形式に基づいた英語作文能力を養成する。Q1ならびにQ2は別の教員が担当し、私は同クラスをQ3とQ4の「後半」二学期間を担当した。私の担当した二学期間には、論説文や物語文形式によるエッセイについて、講義による指導以外に、学生同士がコメントしあう試みや、全員に共通する改善点を指摘しつつ日本語の作文との比較による指導や、参考文献の書き方指導、内容についての知識の深淵化についても試みた。提出された各エッセイ最終版についてコメントを行い、また自由に直接質問をするように促し、たくさんの質問を得た。

学部教授会にて、授業内で学生に授業評価させるようにという指示があったため、そのようにしたが、全員からの解答はのぞめなかったようである。結果としては、項目1の当初の受講前の授業への期待度は4.5程度であったのに比して、今学期の成果としては良い結果であるといえるかもしれない。全員が十分満足した(5)と判断される項目は3, 4, 7, 12のみで、他項目については、ほぼ4.8程度の評価であった。

教室に設置されたPCの調子が悪い時もあったが、視聴覚室がすぐに修理にきてくださり、授業に支障が出なかったことにも心から感謝している。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国際教養日本語II
授業コード 11L20-001
教員名 北村 雅則
教員コード 100212
登録人数 5
回答数 5
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

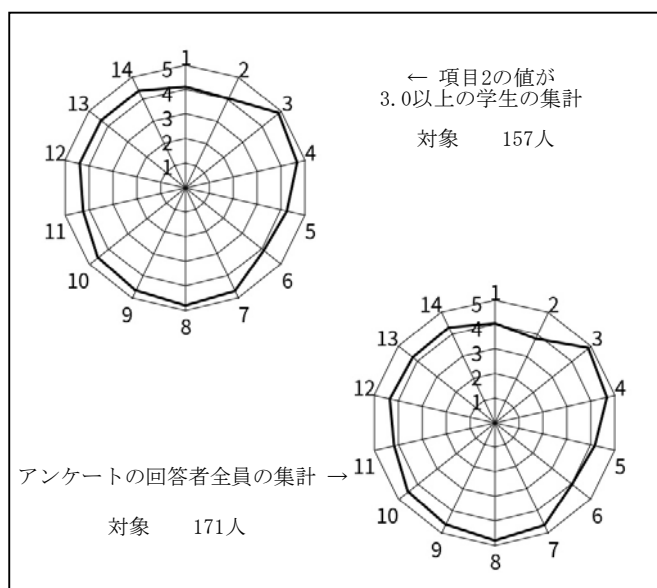


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、留学生を対象とする日本語であるが、「1. 上級レベルの文章を読み、語彙・文法・表現を理解できる」、「2. 読解した文章に使用されている文法表現を理解できる」、「3. 書き言葉のスタイルを理解し、適切な文章構成・語彙・文法を用いたレポートを作成できる」、「4. ディスカッションに必要な適切な口語表現を使用できる」、「5. 1～4を総合し、他者との相互理解を促進するための外国語としての日本語、および、コミュニケーション能力を高めることができる」の5つを到達目標としている。今年度、受講生である留学生の日本語レベルが非常に高く、また、授業に参加する態度も非常に良好であったため、設定した到達目標は高いレベルで達成できたと考える。それがアンケート結果にも反映されていると仮定すると、授業で教員が一方的に教えるのではなく、学生側も主体的に学ぶことができたこと、また、それをサポートするような授業運営ができたことがこの結果につながったと考える。次年度に向けても学生に寄り添った方法で授業を運営していきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	西洋史B
授業コード	12B08-001
教員名	南 祐三
教員コード	104786
登録人数	263
回答数	171
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

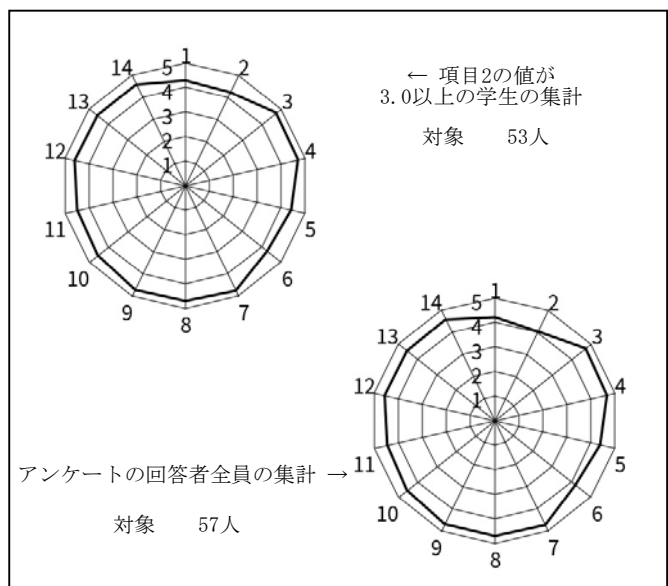


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①期末に実施したレポート課題をみるかぎり、受講生は開講当初に設定した到達目標を概ねクリアしていると判断できる。つまり、19世紀から20世紀初頭に至るヨーロッパを中心とした国際関係を理解したうえで、「現代史」の起点となった第一次世界大戦の歴史的意義を説明できている。
- ②アンケートのいずれの項目も概ね共通基盤科目の平均値に到達しており、満足できる結果となった。また自由記述において、内容理解の助けとなるべく用意した視覚資料（パワーポイントのスライド）に関して、「とても見やすい」「詳しくてわかりやすい」といった好意的な評価が多く確認できる。授業準備の段階でかなり時間をかけて資料を充実させたつもりだったので、こうした反応は率直に嬉しい。むしろ詳細に用意しすぎて、時間の都合上授業時間内に触れることのできなかったデータなどもあるので、その辺りの整理が今後が必要になるだろう。
- ③上記のこと以外の今後の改善点としては、第二次世界大戦の扱い方が挙げられる。本科目の目的は、二つの世界大戦の歴史的な位置づけやその意義を考えることあるが、近年の研究状況に鑑みて、第一次世界大戦の説明にかなりの比重を置いている。しかし、第二次世界大戦の話をもっと聞きたいと感じている受講生もいることが予測されるため（アンケートでそういった要望はなかったが）、もう少しバランスよく両大戦を取り上げられるよう、話の組み立てを改善することが必要になるだろう。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生命と倫理問題4
授業コード 13A03-004
教員名 神崎 宣次
教員コード 103280
登録人数 268
回答数 57
回答率 21.3%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

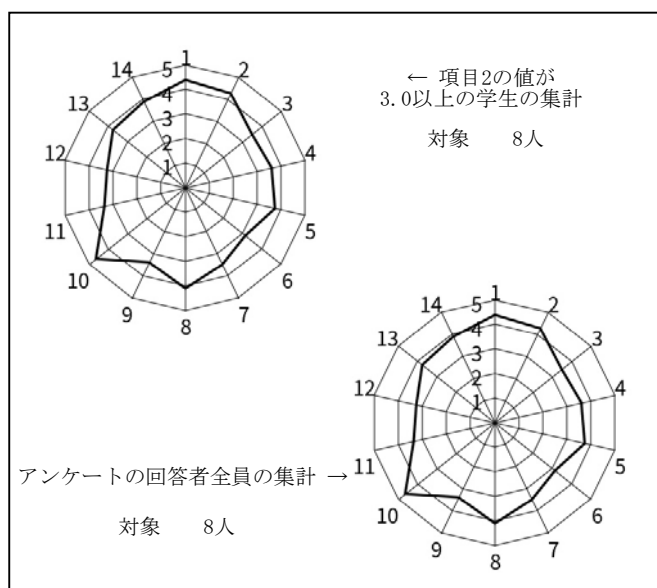


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
これについてはおおよそ達成できたと考えている。
- 2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
これについても大きな問題はないと考えている。
- 3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述にある、私語への対応が遅くなった点については、教室の構造上講義している側には聞こえにくいという理由もあったが、これは改善が必要な点と考える。
今年度の取り組みとしては、レポートの形式面に対する要求事項を一層細かく指示することによって提出物の質の改善を図った。これによって合格したレポートについては明らかに質が向上したといえるが、その反面、従来から提出物の質が一貫して低い一部の学部の合格率が更に低いものとなった。これに関してはそれらの学部の初年次教育の問題であり、共通教育の一科目としては対応しきれない部分がある。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	図書館基礎特論
授業コード	15P14-001
教員名	永井 英治
教員コード	018861
登録人数	9
回答数	8
回答率	88.9%
休講回数	9 回
補講回数	9 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業直前に緊急入院するなどの事情で休講が増えてしまい、補講を多用せざるを得なかった。そのため、他の授業と重なる受講生が出てしまったのはたいへん申し訳ない。しかし、自由記述にあった、資料が用意できない、2コマ連続は疲れるなどの異議には、資料枚数をきっちり用意していたこと、1コマの終わりに休憩時間を入れていたことを以て反論としたい。

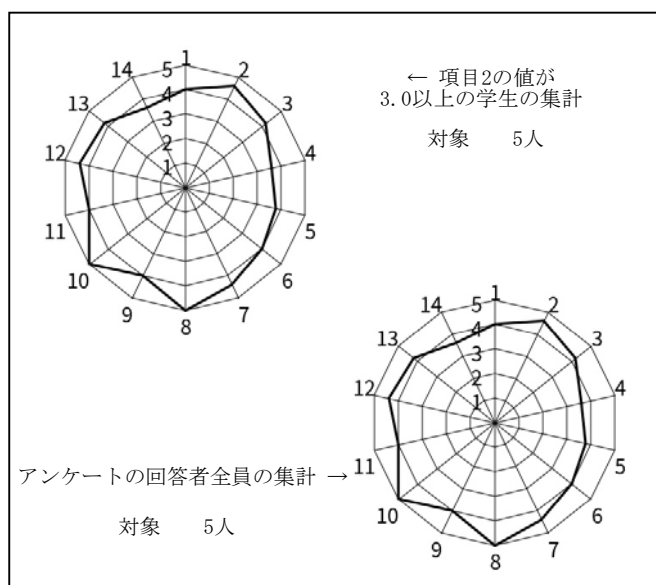
他の授業との重複については、現時点ではどうすることもできないが、授業内容に係る基礎的な知識が必ずしも獲得できていない事態については、資格課程のカリキュラム設定の問題でもあるので、改善を希望したい。

今回の調査では、受講生が授業に関心を持って臨んでおり、これは新鮮な発見である。資格課程の科目に対して、資格取得のモチベーションが働いているものと推測される。そうであればなおのこと授業内容の組み立てを考えなければならない、新しい学説と定義の解説、どちらかと言えば応用問題に力点をおいた授業を行なった、今少し、基礎的な解説を重視しなければならない。また、図書館セミナールームで開講している利点を積極的に利用したいと考える。モデルとなる現場の中で授業しているのであるから。これまでも図書館が行っている展示などをみておくように言っていたが、授業の中で取り上げ、実際に見に行くことがあってもよいと考える。

総じて、今後の改善は、授業の進行である。受講生の動きを見ながら、改善していきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	GLS中級インドネシア語III
授業コード	48A47-001
教員名	森山 幹弘
教員コード	100090
登録人数	6
回答数	5
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

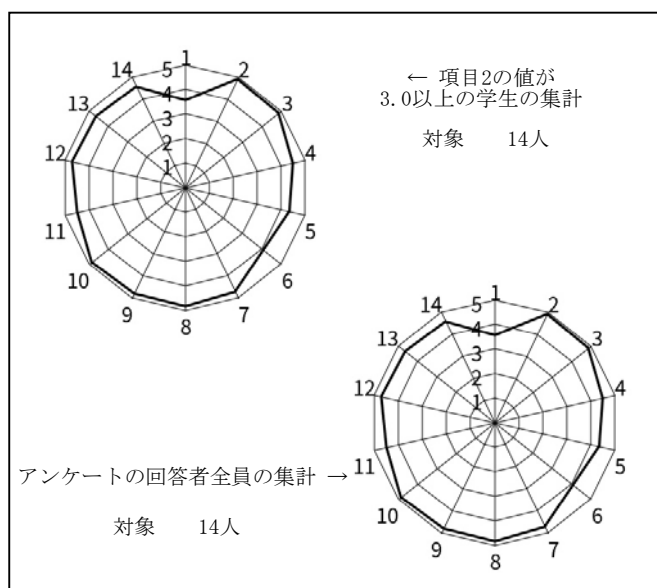


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目の当初設定していた目標と到達については、概ね達成できたと思われる。目標としてインドネシア語の文法知識を活用してインドネシア語の文章を読むことができるとしていたので、Q3からQ4の前半にかけて文法の復習を行った上で、この科目の後半では一般向けにインドネシア語で書かれた日本に関するエッセイを輪読した。受講者は6名であったが、全ての受講者がしっかりと予習をし、文の構造を分析し、文法的な理解をした上で、日本語に訳すことができた。授業評価を見ると、13番の項目「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」において、自己評価として平均値が4.20となっており、ほとんどの学生がインドネシア語の能力を身につけたと考えていることがわかる。一方、②本科目に関する総合的な評価については、14番の項目「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」が、3.60と低いのは、学生が控えめな評価をしているのか、授業の運営方法に不満があったからではないかと推測される。③全ての受講者を満足させることは難しいとしても、今後の授業の運営においては、受講者の様子を丁寧に観察し、やる気を引き出せる工夫と努力をしていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 Topics in GLS C1
授業コード 48A50-001
教員名 塩寺 さとみ
教員コード 104489
登録人数 21
回答数 14
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業のねらいは国際教養学科で扱われる専門分野の内容を英語で学ぶ力、とりわけ専門的・学術的内容の著書や論文を読む力を養うことである。本授業では特に地球環境および生態学に関する内容を扱った。到達目標は以下の4点である。

By taking the course, students will be able to:

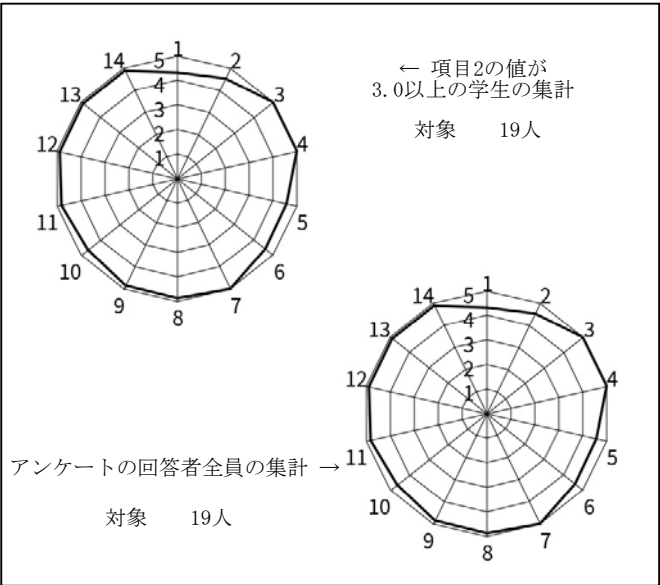
1. attain a functional level of literacy in reading academic articles and books
2. increase academic vocabulary and terminologies
3. build the academic foundation in English to prepare for future learning and research
4. become familiar with conceptual frameworks related to the selected discipline

本授業評価において、「到達目標の理解（設問5）」は4~5評価が93%、「到達目標の達成（設問6）」は79%台であった。本授業は、これまで詳しく学んだことのない専門分野について英語で精読を行うという非常に挑戦的なものである。教材には米国の大学で使用されている教科書を使用している。このため、授業の到達目標については十分に理解されていたものの、高校において理科の基礎科目しか履修していない国際教養学科の学生にとっては、教科書の内容理解に苦労する様子がみられた。このため、「到達目標の達成」の項目が低くなったと考えられる。しかし、毎回、十分な質問の時間を取り、何らかの形で全員に発表させるなどの工夫を行ったため、学生の英文読解技術の向上、および地球環境や生態学についての理解を深めることができ、全体的にみると学習の効果を挙げることはできたと考えている（項目15の回答参照）。

来年度は教科書の内容を補完するための配布資料や映像資料を工夫することで学生の授業理解度を挙げていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Topics in GLS C2
授業コード	48A50-002
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	25
回答数	19
回答率	76.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

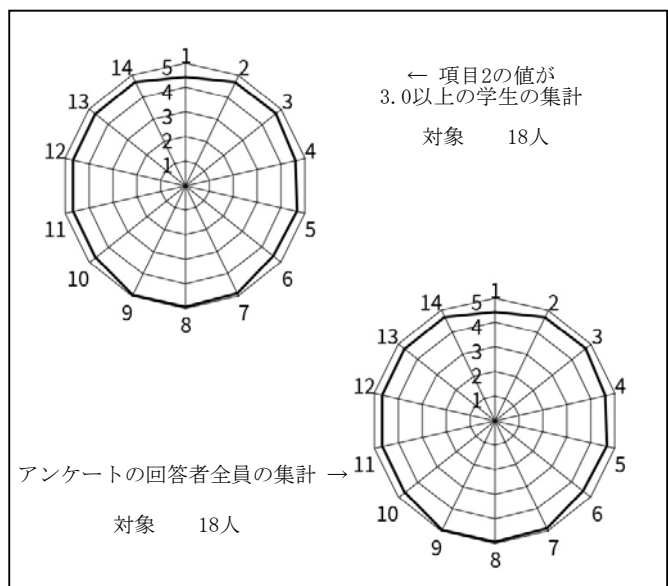
This course, Topics in Global Liberal Studies, explores the intricate relationships between humans and nature from both anthropological and sustainability perspectives. By integrating theoretical frameworks with diverse field materials, the course provides students with a deeper understanding of pressing global issues, particularly climate change and environmental degradation. Throughout the lectures, students demonstrated strong engagement, actively participating in discussions and critically analyzing key concepts.

It was particularly gratifying to observe, from Students' feedback, how they benefited from the course, as reflected not only in their mid-term and final reports but also in the depth of discussions that emerged during class sessions. Their ability to critically engage with the material reinforced the relevance of this interdisciplinary approach to studying environmental challenges. At the same time, some students offered insightful critiques that I will take into account to refine and enhance the course structure for the next academic year.

Beyond its impact on students, the course also proved intellectually enriching for my own research endeavors. It reinforced my ongoing investigations into cotton cultivation and water resource management, offering fresh perspectives and comparative insights. Additionally, the course discussions provided valuable conceptual tools to further develop my parallel research on shifting cultivation practices in the hinterland of the Democratic Republic of Congo. These insights will contribute to my forthcoming articles, set to be published in the next issues of ACADEMIA.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Topics in GLS C3
授業コード	48A50-003
教員名	森泉 哲
教員コード	100542
登録人数	23
回答数	18
回答率	78.3%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

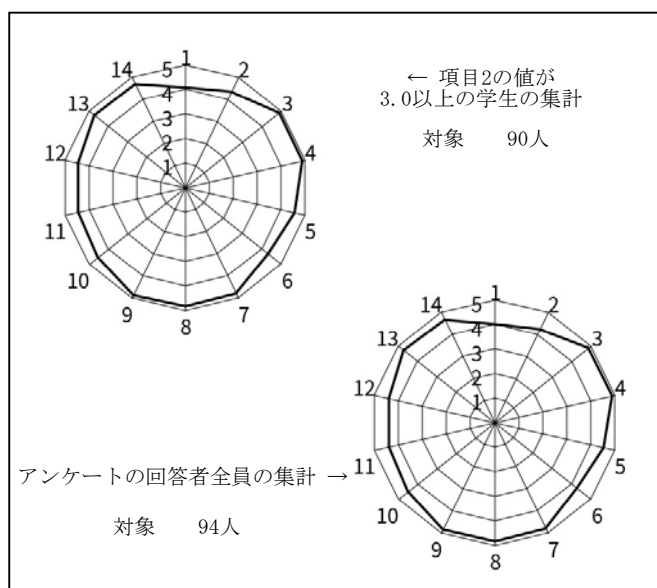
本授業は、英語で本学科の専門分野の内容を学ぶ力、特に論文を読み、ディスカッションを行う力を養成することを目的とした。そのため、授業担当者の専門領域である社会心理学の入門テキストを使用し、受講者が主要な理論や概念を発表し、ディスカッションをファシリテートする形式で授業を実施した。

授業評価の結果を見ると、授業内容、計画、形式のいずれも高く評価され、受講者にとって学びの多い授業であったことがうかがえる。特に、私自身にとっても初めての試みであったため、教科書や内容の難易度が過度に高くないよう配慮したが、適切に受け止められていたことに安堵した。

自由記述のコメントには、発表やファシリテーションを通じて授業内容の理解を深める適切な助言がなされていたという肯定的な評価があった一方で、発表に対する介入が過度であり、発表者が困る場面もあったという指摘も見られた。発表の際に、どのタイミングで、どのようにコメントを行うかについては、受講者全体の学習の促進という観点からより慎重に配慮し、授業運営の改善に努めていきたい。このためには、教員が先回りをせず、相互の理解を確認する、また、グループ発表の準備段階において、教員との事前相談の時間を必ず確保するなど、学問分野の知識をより深めるための工夫も今後取り入れていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	シティズンシップ論 / Citizenship
授業コード	48B09-001
教員名	大竹 弘二
教員コード	101968
登録人数	160
回答数	94
回答率	58.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



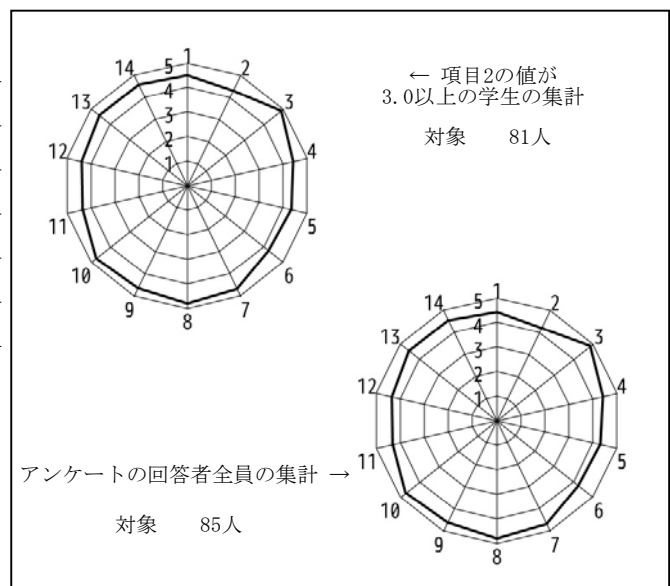
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、貧困問題、移民・難民問題、ジェンダー問題といった社会問題についての基礎知識を身に付け、それについて自分なりの意見を持ってもらうことを授業目標としているが、毎回のようにそのつどの授業テーマに関連した問いを提示し、リスポンスペーパーで回答してもらったところ、各テーマについてそれなりに真剣に考えようとする学生たちの姿勢が見られたので、授業目標はおおむね達成されたと思われる。一部に相変わらず生成AIを利用したと思われる回答も見られたが、あらかじめ厳重に注意しておいた結果、昨年度よりは減ったように思う。今年度の履修者は出席率も比較的良好、興味を持って真面目に授業に参加してくれたという印象である。

ただし、150名を超える国際教養学部1年次生全員が受講する多人数の必修科目であるがゆえの授業のやりにくさは例年通りである。大人数講義ゆえに、学生からの質問等を受け付ける時間や、リスポンスペーパーの意見に応答する時間がそれほど取れず、授業があまり双方向的にならなかったという点は、依然として反省材料である。教員の側の一方的な講義になりがちなのは、授業内容をいささか詰め込みすぎているということも原因だと思われるので、もう少し解説の情報量を減らしたうえで、学生が考え、意見をまとめる時間を増やすなど、授業のやり方に工夫が必要であろう。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法A
授業コード	44B09-001
教員名	榎本 雅記
教員コード	103094
登録人数	175
回答数	85
回答率	48.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

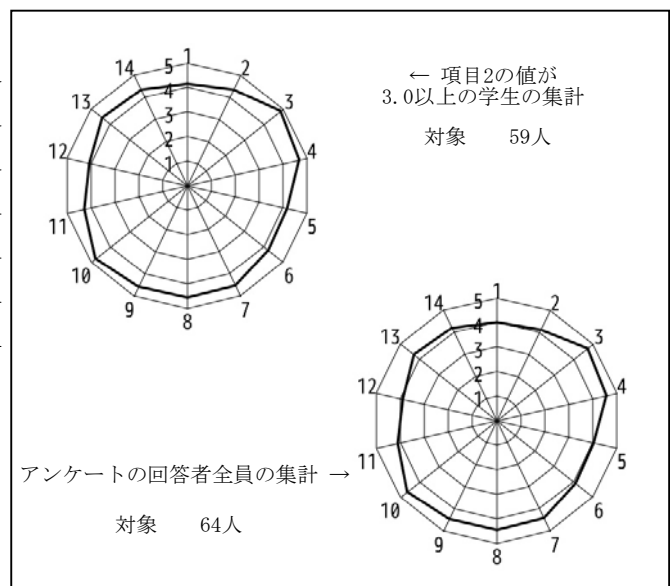


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標はほぼ達成できたものと考えている。②全体として、ほぼ満足のいく数値が出ており、授業に大きな問題はなかったことが確認でき、安堵している。もっとも、開講主体別（法学部）の平均値を下回っている質問項目があり、なお改善の余地がある。具体的には、質問項目2（予習・復習）、4（授業構成・進行速度）、6（達成感）、11（学習意欲促進）の各項目で、平均値を若干下回っている。③②に記述した問題点のうち、授業進度に関しては、自由記述にも授業の途中から進度が速くなったのでは、との指摘もあり、次回講義では留意したい。また、学習意欲促進の項目で平均値を下回っている点については、心当たりがある。というのは、前回までは授業開始後5～10分程度、授業への関心を高めることを目的として時事問題について解説していたが、これについては肯定的評価と否定的評価が相半ばする自由記述があった。そのため、今回は実験的に、一切の時事問題解説を止めてみた。そのことが影響しているのではないかと推察する。次回から、時事問題解説を復活するかどうかは要検討事項である。その他、自由記述でレジュメ等の印刷配布を要望する意見が複数あったが、今回から完全オンライン配布に切り替えたことに対する反応である。これらの受講生の要望に応えることはできないが、しばらくはオンライン配布を続ける予定である。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	行政救済法（基礎）
授業コード	44F06-001
教員名	榑原 秀訓
教員コード	100548
登録人数	245
回答数	64
回答率	26.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

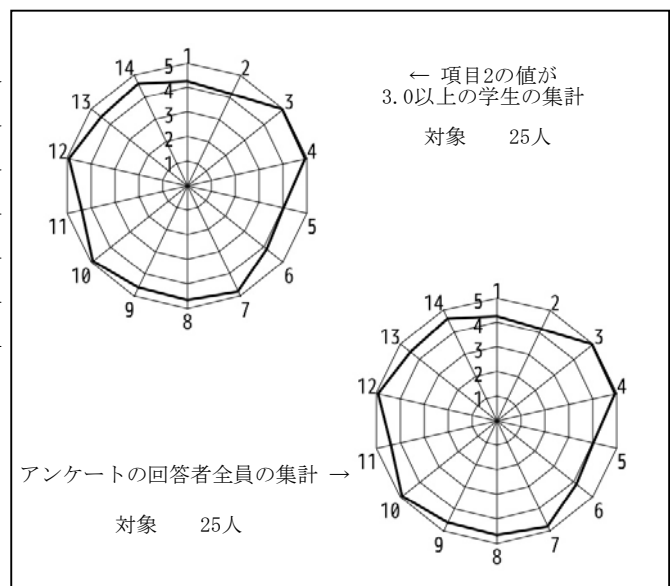


授業評価結果を踏まえた点検・評価

ここ数年は、行政救済法（応用）が対象であったので、若干異なる科目になるが、設問についてはこれとの比較をする（括弧内が昨年度の「応用」の数値）。回答数は64であり、229という履修登録者数の30%弱であり、かなり少ない。本科目の目的は、行政救済法（応用）ほどではないが、公務員試験などの受験や、法務研究科や法学研究科への進学を考える学生を中心に行っていると考える。回答者は、もともと勉強意欲が高い者が少なくないと思われる。例年、比較的点数が低かった設問「到達目標に向けて力がついた」が4.11（4.13）、設問「質問や相談の機会」が3.91（3.96）、設問「適切な指導や情報提供」も4.11（4.13）と昨年度の「応用」よりは低い、全体としてほぼ同様といったところかと思う。全体の満足度は、4.20（4.35）であり、同様の傾向だと思う。自由記載を確認すると、レジュメに説明する判例を掲載していることから、それを評価するものが幾つかあった。他方、「授業中の私語に対して、慎むように促す等の対応がなされなかった」という意見があるが、受講生も少なくないことから、正直あまり認識できていなかった。レジュメには授業中静かにということを書いているが、効き目がないということであろうか。今後気がついたらもちろん注意していきたいと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	担保法
授業コード	44B92-001
教員名	深川 裕佳
教員コード	104089
登録人数	35
回答数	25
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本講義では民法第2編「物権」（条文では175条から398条の22まで）のうち、講学上、担保物権としてまとめられる分野（295条以降）について、判例・学説を踏まえながら、その基礎理論および制度内容を理解し、具体的な事例問題を解決できるようになることを目的としたものであり、これに沿って、以下の能力を養うことを到達目標として設定した。「1. 各制度の概要を理解し、具体的な例を挙げて、それを説明することができる。2. 用語の意味を理解し、具体的な例に即して、それを説明することができる。3. 適切な条文を適用して、具体的な事例問題を解決することができる。4. 判例および学説を踏まえて、自己の見解を述べることができる。」
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：受講生は、おおむね、この授業の到達目標を理解することができ（回答平均値4.04）、受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をし（回答平均値4.16）、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じたようである（回答平均値4.48）。これはひとえに受講生の努力によるものであるが、自由記述を参考にすると、レジュメの事前公開、講義内での確認テストの実施と解説が自習に役立ったようである。全体的には、本講義について、受講生のおおむね満足が得られたようである（回答平均値4.60）。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：本講義において上記のように学生の満足が得られたのは、事前に提示するレジュメと学びを復習するための確認問題を利用して受講生自身が努力した結果であると思われ、今後も、受講生の自習をサポートできるような資料を補充していきたいと考えている。また、自由記述回答中に、講義で取り上げた事案の概要等の説明が早く感じたという意見があったので、より丁寧な説明を心掛けたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	外書講読AII（英語）
授業コード	44K06-001
教員名	永江 亘
教員コード	103861
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、米国会社法において、重要な地位を占めるRevlon判決について、持ち回りで講義を行った。実際の判例通読に先立ち、米国会社法におけるデラウェア州法の地位や、我が国との判例の位置付けの違いなどの基礎的な違いを明らかにした上で、米国判例における本判決の位置付けを示して、基礎的な前提を置いて講義を実施した。

近年のAI等の記述向上により、学生の学習環境におけるAI使用については、賛否ある部分であるが、本講義では敢えてAI等の使用を禁止せずに、自由に技術を用いながら、判決内容の意味の理解に重点をおいて講義を行った。すなわち、文献の英語をそのままAI等の翻訳に委ねた場合、実際には当人の理解できない部分も少なくなく、当該部分を原文に照らしながら検討す鷺池宇、いわばAI当技術をヒントとして活用しながら、よりよい理解のための学習を提案した。そうすると、学生の心理的な負担感は減り、リソース投下が集中的になったことから、全体の理解が向上した。とりわけ、学生にとって、必ずしもAI等の技術を用いた翻訳に委ねるだけでは、理解のしがたい部分について、仮説的に学生が翻訳を提示し、その内容について議論・解説し、その過程で背景知識などを示す点もあり、これらが学生からの好評を得ている要因と考えられる。

また、自由記述からは米国判例を扱うということも学生にとって新鮮であったことが伺われ、有意義な講義と受け止められた点は、今後のテーマ設定にとっても好材料といえる。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	外書講読AII（英語）
授業コード	44K06-004
教員名	今泉 邦子
教員コード	019505
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

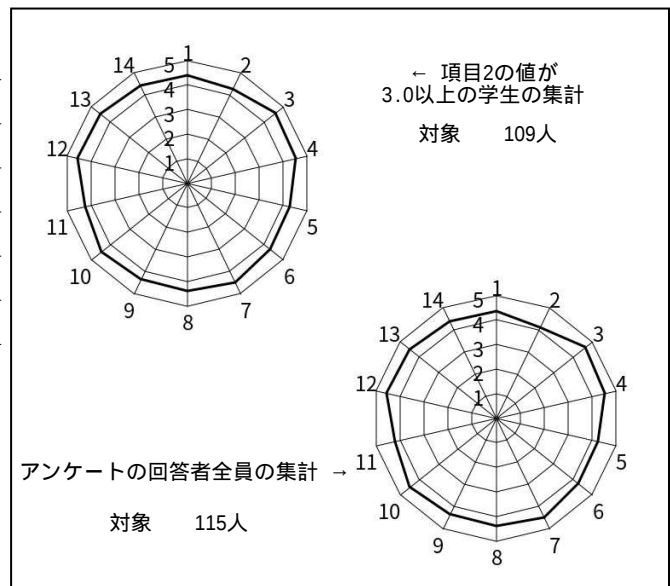
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当外書講読AIIの目標は、次の2点としていました。(1)アメリカの社会的企業法の分野の法律英語の単語、表現を修得する。(2)アメリカの社会的企業法の概要を理解する。
- ②授業評価アンケートを実施いたしましたが、アンケートの回答数が5を下回ったために、アンケート項目ごとの数値を統計として成立していません。3件の回答のみを確認したところ、受講者は当外書講読AIIの内容をおおよそ満足していると判断できます。アメリカの社会的企業法を理解する助けになる情報として、アメリカの株式会社法および連邦証券法についての解説等をしたことに、興味を持った受講者がいたことがわかりました。海外では、日本とは違う法が適用されることを理解してもらえてよかったと思います。また、課題のレポートを、外国文献を自ら収集分析して作成提出した者がおり、小規模の授業ながら、受講者が興味を広げるきっかけになったと思います。
- ③文献の和訳にとどまらず、周辺情報を提供する外書講読の授業にしたいと思っています。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑法各論B
授業コード	44B91-001
教員名	末道 康之
教員コード	100587
登録人数	250
回答数	115
回答率	46.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

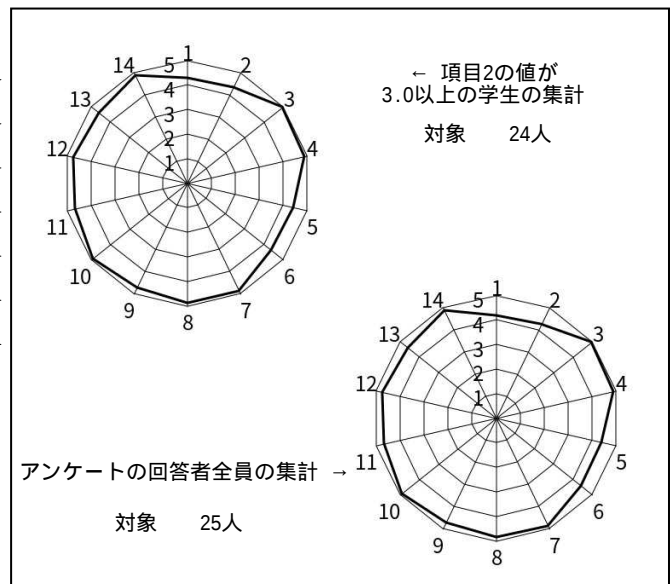
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、想定の通り実現したと考える。

項目1～14の平均値は4.4，項目3～14の平均値は4.42であった。5点満点の9割に近い評価を得ていることから、学生からは一定の評価を得たと考える。自由記述について、データで配付した講義案に従って授業を実施した点がりやすいという評価を得たこと、司法試験等の問題で出題されやすい論点については詳細に説明した点等が評価されていたこと、質問の時間を設けたこと等、学生から高く評価されていたことがあげられる。来年度以降も、講義案の内容をアップデートすることで学生が利用しやすく、内容も充実させたものになりたいと考える。ホワイトボードの記述が読みにくいという指摘は例年あるが、最近の学生は写真に撮っているようなので特段問題があるわけではないと考えるが、学生の意見は考慮したい。

来年度に向けて、さらに学生がわかりやすい授業を実現するために、改善できる範囲で対応したい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法C
授業コード	44C13-001
教員名	石田 秀博
教員コード	101939
登録人数	54
回答数	25
回答率	46.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



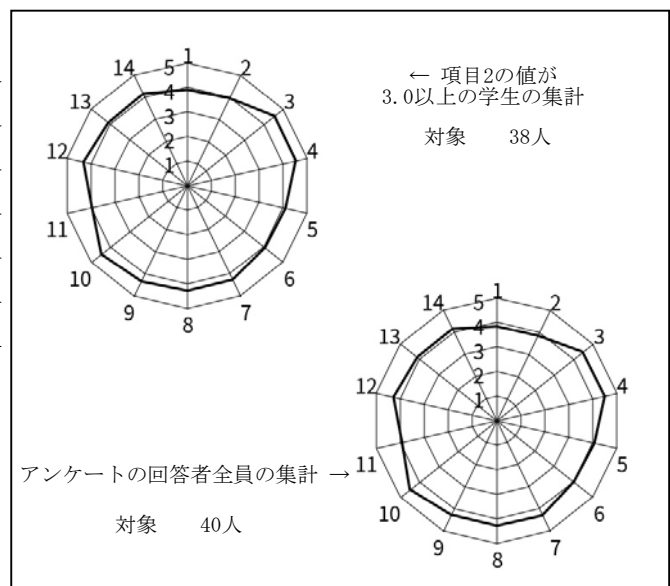
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均4.67、項目3から14の平均4.74、授業満足度（設問項目14）4.88という結果であった。また、自由記述欄の記述においても、「進行速度がちょうど良い」、「学生の反応を見て授業を進めていた」、「レジュメが分かりやすかった」（2名）、「説明が分かりやすかった」（7名）、「分かりやすく、楽しかった」、「設例があり、復習に役立った」、「設例の解答の仕方や解答のポイントの解説が参考になった」など講義について好意的な評価が多かった。また、改善点に対する意見はなかった。なお、講義環境についても「授業を受けやすい環境だった」との意見があった。以上の結果から、到達目標（1．民事訴訟における複数請求訴訟の体系・概要を理解することができる。2．上訴・再審制度の概要について理解することができる。3．簡易裁判所の手続、略式訴訟手続について、その概要を理解することができる。4．上記各分野における、重要論点について、解決方法を論理的に考察することができる。）は達成できたものと考えている。また、受講生の受講態度も非常によく、大変講義がやりやすかった点について、受講生にお礼を述べたい。

次年度以降も、科目内容が難解な内容を多く含むため、今年度同様、レジュメの内容を精査するとともに、学生の反応を踏まえ、わかりやすく丁寧な講義を行って行きたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報法
授業コード	44C08-001
教員名	實原 隆志
教員コード	104772
登録人数	200
回答数	40
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

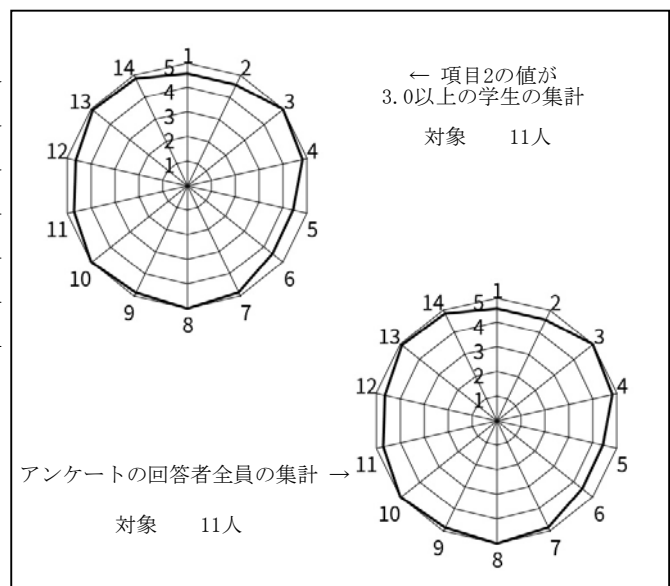
この講義では、情報法分野での基本的事項を理解できるようになることを目標とし、具体的な内容としては、表現の自由、情報公開・個人情報保護制度、放送・通信・インターネット法に関する基本的事項を扱った。また、社会における様々な事件を解決する前提となる一般理論・知識を理解できるようになることも目標とした。講義は当初の予定通り行うことができ、講義内容としては事前に告知していたものからして妥当であったと考えている。他方、定期試験における成績は芳しくなかった。日ごろの講義を欠席するものが多く、また、出席していても話を聞いていない、メモを取らない様子の学生が多いことから、成績評価としては妥当であったと考えている。

数値データや自由記述の内容からすると、受講生からしても適正な内容にできたのではないと思われる。自由記述欄における否定的な意見として書かれていたのは、雑談をしてほしい、メモを取りたくないといった趣旨のものであり、参考にする必要はないと思われる。

今後、本講義を行う場合には、講義内容をふまえて、それぞれの内容を定期試験において出題する場合には、どのような文章となるのかを具体的に示すことで、より試験の準備がしやすいよう試みようと考えている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	倒産法
授業コード	44C22-001
教員名	小原 将照
教員コード	102897
登録人数	62
回答数	11
回答率	17.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標は、達成できたと考える。例年に比して登録者数が増えていたが、70%ほどが常に出席している状況であった。その割に、アンケートへの回答数が少ない点が問題である。

データから考えると、学生の授業満足度は高いと考える。倒産法という先端展開科目に属する教科であり、学生にとって学習内容が高度であるものの、十分な理解度に到達できたことは、これまでの授業評価アンケートを踏まえた授業改善の成果と考える。また、理解度が高い点については、授業中も受講生から感じていたことであり、履修者の成績分布（履修時点でのGPA）データなどとリンクさせることができれば、よりその原因を考察できるものとする。

今後については、次の2点について留意したい。1つは、法改正や実務の進展を踏まえて、常に授業内容を検証することである。10年1日のような講義はすでに過去のものであり、毎年バージョンアップが必要な現代において不断的努力を続けていきたいと考える。もう1つは、ここ数年の課題としている法律専門科目におけるアクティブラーニングの実践である。手探り状態で導入はしているものの、いまだ満足いく内容は実現できておらず、まだまだ研究していかなければならないと考えている。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	アドバンスト演習D
授業コード	44C28-005
教員名	平林 美紀
教員コード	100773
登録人数	22
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学部3、4年生合同の演習であるこの授業では、到達目標として、（１）判例や学説を分析し、理解し、場合によっては、批判する能力を身に付けていること、そして、（２）民法の事例問題を解くだけでなく、解説をし、さらには独自の問題を作ることができることを掲げた。参加者には各自、指定された民法の分野（債権総論と契約法）の分野からテーマを選定した上で、重要判例を踏まえた作問をし、解説をおこなってもらった。いずれの報告も一定の水準に達していたことから、それぞれにおいて開講当初に設定した目標を到達できたと思われる。

4年生はこれで卒業となるが、現在の3年生には、新4年生として引き続き次年度も演習の登録を継続してもらうことができるので、今年度、自身が受けた改善点の指摘や、他の参加者に対する指摘等を踏まえ、目標の到達の度合いをさらに深めさせたいと考えている。各自の特性に応じた指導をしていきたい。

また、次年度には新3年生を迎える予定である。各自の特性を早めに見極め、効果的な指導に繋げていきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	司法特修講義II
授業コード	44N02-001
教員名	北川 ひろみ
教員コード	101017
登録人数	12
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、当職の授業に限っては、ほぼ予定通りの授業を展開したと考えている。但し、授業前の学生の到達度合いが正確に把握できていないことから、当職の授業のレベルが学生にとってどの程度であったか、そのために学生の理解度がどの程度であったかについては不分明なところがある。授業における学生の反応からすると、取り上げた問題が若干難しかった可能性が否定できないものの、司法試験のレベルを実感してもらおうという意味では、若干難しいレベルの問題を取り扱うことのほうが有益であると考えている。次年度以降においても、基本的には本年度と同様の授業を展開する予定であるが、仮に若干難しいと感じる問題であっても、学生がより主体的にとりくむことができるよう、参考文献の提示のほか、予め考え方をまとめておいてもらう、レポートの報告をしてもらう、学生間で意見交換をしてもらう、といった工夫をすることを検討したい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	司法特修講義II
授業コード	44N02-001
教員名	久志本 修一
教員コード	101928
登録人数	12
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初設定した目標は、第1に法曹の魅力・意義を伝え、第2に法的思考（リーガルマインド）の考え方を説明し、第3に法律文書の書き方の基礎を説明することであったが、第1の目標である法曹の魅力・意義は十分に伝えることができたと考える。第2の法的思考については1年生ではま十分に理解して消化しきれない可能性は残るが、一応の説明はできた。第3の法律文書の書き方のポイントはしっかりと説明できた。
- ②学生の受講態度はまじめで、真剣に受講していたので、法曹への動機づけの一助にはなったと考える。
- ③第3の法律文書の書き方のポイントについては、一通りの説明をしたものの、本来ならば、もっと時間をかけて丁寧に説明してもよい内容であったが、全体的に説明を行うか、もっと内容を絞り込んで説明するかは、見直しを検討したい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 司法特修講義II
授業コード 44N02-001
教員名 杉浦 徳宏
教員コード 104634
登録人数 12
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

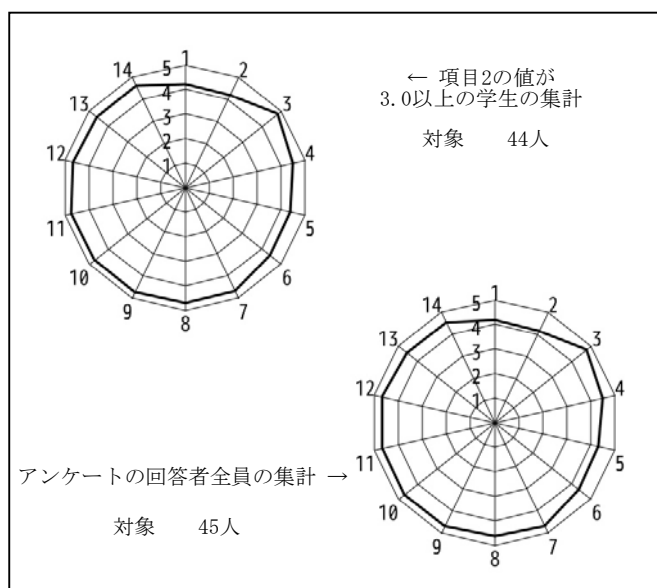
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

司法特修コース 1 年生向けの講義であるが、私たち実務家教員は法曹としての仕事や体験を語ることで法曹のイメージを抱いていただくことが求められていると考えた。そこで、私は自己紹介を兼ねて司法試験受験から合格、司法研修所、裁判官任官、転勤 1 1 回（京都地裁→名古屋家裁→那覇地裁沖縄支部→東京地裁→法務省→札幌高裁→札幌地裁→広島法務局→大阪高裁→大阪地裁→大阪法務局→大阪高裁）の詳細、担当した事件（オーム真理教、山一証券破産事件等）などを話した。さらに全員が法曹に進むわけではなく、公務員を目指す者も多いときいたので、公務員としての心得として末広厳太郎「役人学三則」を現代風にアレンジして紹介した。興味深く聴いてくれたので、一定の効果はあったと思われる。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 学校教育制度論2
授業コード 15A19-002
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 58
回答数 45
回答率 77.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

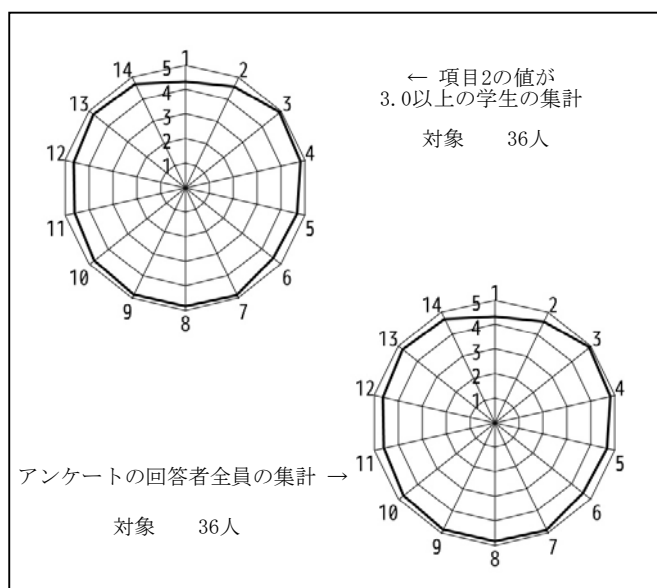
本授業において目標としている、日本の教育制度に関する基礎的理解について、毎回の小テストにおいて確認し、また教育制度上の課題について自らの意見を述べるができる、という点についても、毎回のリアクションペーパーと最終レポートにおいて確認した。結果、概ねこれらの目標をクリアすることができていると思料する。

数値データについては特に問題と考える点はないが、目標の達成や力量の形成についてのフィードバックが必ずしも十分ではなく、学生が学んだ手応えを十分に掴めていないかもしれない。また、学生の意見や質問についてのフィードバックは毎回の授業冒頭に行っており、これについては自由記述欄において「良かったこと」として評価されている。一方でそれに時間を費やし過ぎているとの指摘も多くあることから、改善の余地がある。

以上を踏まえて、次クォーターに向けては、①フィードバックの時間をなるべく限定しつつ、②学生がどのようなことを学んでいるかをこちらから明示すること、③小テストについても触れるなどして知識面でのフィードバックについても実施し、学生が自らの学習状況について客観的に確認できる時間を確保することとしたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	教育相談2
授業コード	15A22-002
教員名	大塚 弥生
教員コード	000065
登録人数	65
回答数	36
回答率	55.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

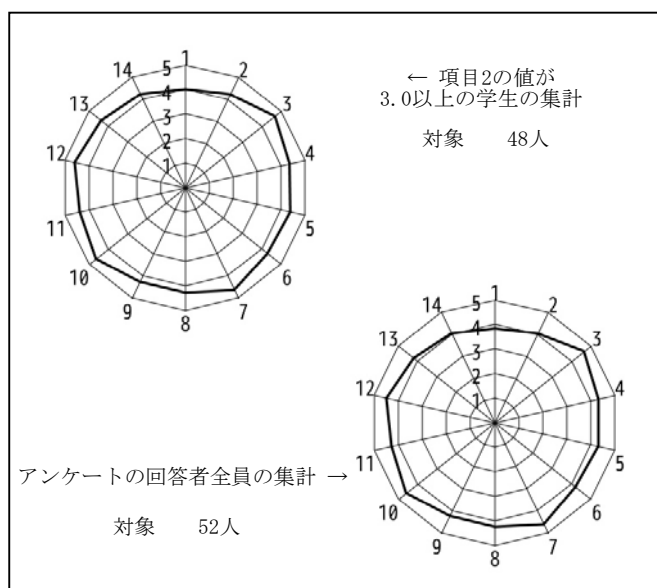
本講義は教職課程の必修科目であり、教員として教育相談を行うための姿勢を身につけることを目的としている。単に教育相談についての知識を得るだけでなく、カウンセリングマインドを持って他者と関わるための自己理解や他者理解をしていくことがねらいとなっている。そのため、講義においてはアクティブ・ラーニングを取り入れ、複数の実習やグループ活動を行ってきた。

数値データの結果では、項目1（授業前の興味）が4.33であったのに対し、項目6（到達目標に対して力がついてきているか）が4.61、項目13（新しい知識の獲得・理解の深まり）が4.78と、ともに増加していること、項目14（全体の満足度）が4.69であることから、本講義のねらいは達成されたものと考えられる。

また自由記述においても、グループ活動やジャーナルのまとめがあったことなどへの肯定的評価が多く、学生が主体的に取り組む活動を評価している記述が多くみられたことから、次回においても、引き続きこの方法を継続していきたいと考える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	特別支援教育論
授業コード	15A23-001
教員名	小川 純子
教員コード	105030
登録人数	96
回答数	52
回答率	54.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

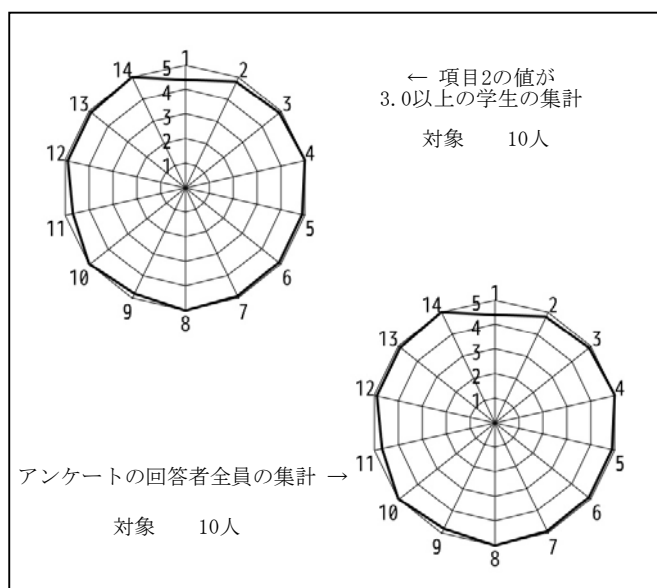
本授業を急遽担当することとなり、準備不足は否めない。目標の1と2「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、教育課程や支援の方法を理解している。」については、到達できたと考えられる。が、「3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。」については、取り上げることが時間的に難しかった。

数値評価については、設問1が3.83の評価であったが、設問7が4.60の高評価であったことに救われた感がある。設問1以外の評価は4以上であった。また、設問17の自由記述に「生きていくうえで知っておくべき、理解しておくべきことを知ることができるだけでなく、視野が広まった点」「障がいをもった生徒がどんな学校生活を送っているのかを知ることができ、そのなかで先生の実体験を伝えていただいたため、実践的な学習になった。」などの意見があり、自分自身が次に繋げていく力をもらった。

設問16の自由記述には、「授業が7回と少なく、毎回の内容が多すぎる点。」「先生がどのようにウェブクラスを使いたいたかがよく分からなかったこと」など、出席や課題の提出についての意見があった。使ったことがない授業支援システムだったので、学生に迷惑をかけた点は反省している。7回の授業であるため、内容を精選しないといけないという思いと、他の授業では触れることの少ない「特別支援教育」について、きちんと丁寧に伝えていきたいという思いが混ざり合っている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	書道
授業コード	15E01-001
教員名	岡野 央
教員コード	101227
登録人数	24
回答数	10
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

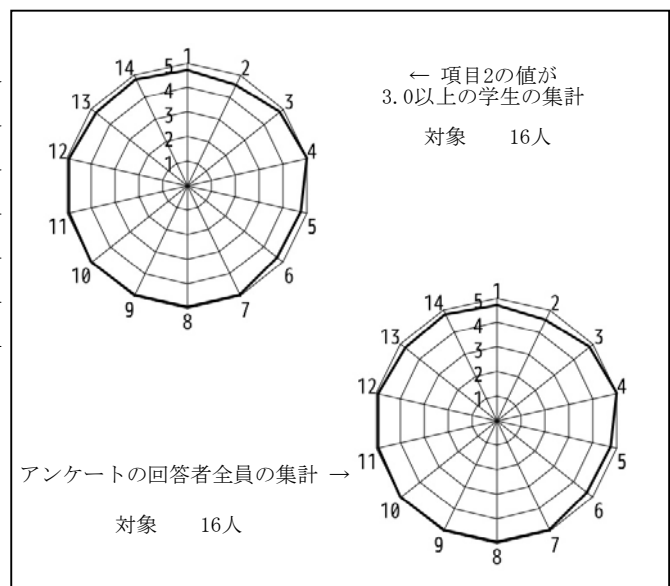


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度も書道 第1クォーターの授業では、「日常生活における書のあり方」として中国唐代の書の古典の中から楷書、行書の書体を中心に臨書の学習を行った。まず最初は楷書の基本となる欧陽詢の九成宮醴泉銘の臨書から「臨書三法」の形臨・意臨・背臨を踏まえ楮遂良の雁塔聖教序を学習した。次に行書では王羲之の蘭亭叙を学習し、臨書から倣書へと展開します。そしてこの授業の目的達成に掲げた蘭亭叙の書体を基に自選による四字熟語を色紙作品に書き上げた。受講生は自作の色紙作品を手に満足した表情が見られた。その作品をそれぞれの自宅に飾り、日常生活の中で身近に『書』を感じる環境を作るというこの授業の目的が達成されたと思う。また第2クォーターの授業では、世界最古の文字と言われる篆書と隸書の筆法についての学習に取り組みました。文字の変遷と篆書の結体の構成に取り組み、筆順の成り立ちについての理解も深めた。また清代の呉讓之の作品の中から二文字の熟語を選文し、色紙に書き上げた作品に自から刻した落款印を押印して完成させた。受講生は自作の色紙作品の出来栄えに満足した表情が見られ、この授業の達成感を味わっていた。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 教職入門5
授業コード 15A02-005
教員名 笹尾 幸夫
教員コード 103858
登録人数 17
回答数 16
回答率 94.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

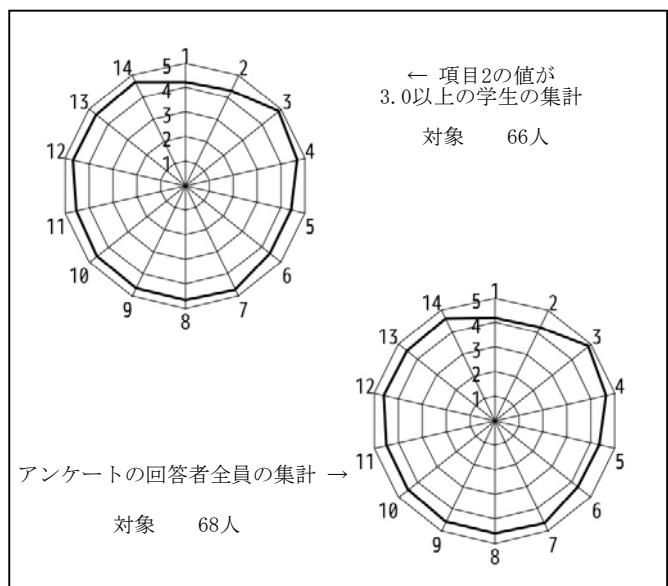


授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の最初に受講する講座であり、教員の職務の特徴や内容、教員のかかえている諸問題を理解させるため、自分自身が経験した高等学校における具体的な事例を交えながら授業を構成したことが学生にとって分かりやすかったようである。また、講義の後半は、学生が昨今の教育に関わる諸問題について2～4人のグループでプロジェクト発表に取り組んだが、この点も学生には好評であった。各項目の評価は4.5～5.0であり、どの項目も高い評価であった。来年度に向けた改善点としては、グループ討議の時間が比較的短くなってしまったので、この時間を確保できるよう説明する内容を精選していきたい。ただし、来年度、教職入門5は受講者が17名と少ないため、時間帯が代わり担当者も代わるため、同じ内容で実施している教職入門4でこの点を生かしていく。また、教職課程を受講する学生が以前と比べて少なくなっているため、教職入門を受講した学生が一人でも多く教員免許を取得し、教員となるよう教職のやりがいについても伝えていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 学校教育心理学1
授業コード 15A05-001
教員名 宇田 光
教員コード 100494
登録人数 99
回答数 68
回答率 68.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、「児童生徒の発達と学習の過程」に関して考え、理解することがねらいである。今回からは1年生以上に対象の学年が広がっており、履修登録者数は100名であった。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。

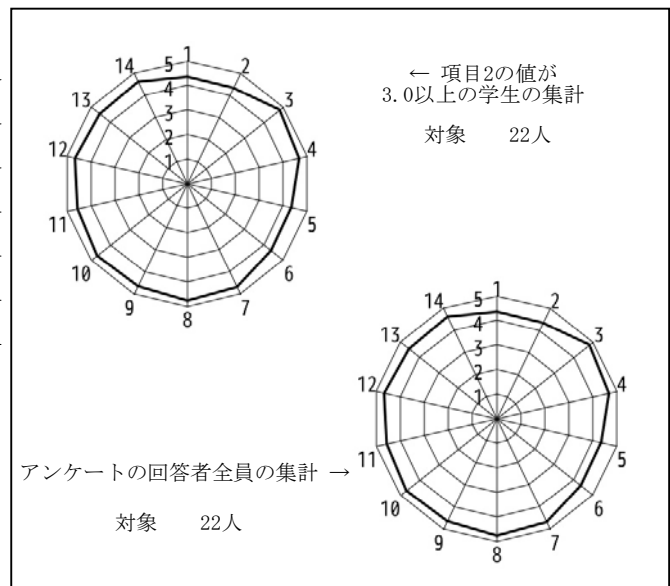
今回の回答数は68件である。まず集計結果の概要をみると、満足度を示す設問14の平均値は4.62、設問3から14の平均値も4.57となっている。まずまず満足であるという回答を得ている。

個別の自由記述では、（a）良かった点として一部を挙げると、「毎回の当日レポートでその日に学んだことを、アウトプットできて、頭の中を整理して授業を終えることができた。」「映像などを取り入れていたところ。」「自分で考える時間があること」「グループワークを通して初対面の人とも交流を深めることができた。」など。

改善を要する点として、「内容が難しい時に最初のレポートを書く時間に何もできない時があった」「授業中、とても私語が多く授業の妨げになる生徒に対して注意をしないのが気になった。」など。私語への対処など、十分に対応できていない面もあった。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 学校教育概論2<2年生以上>
授業コード 15A18-002
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 23
回答数 22
回答率 95.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標と到達度および総合的な自己点検・評価

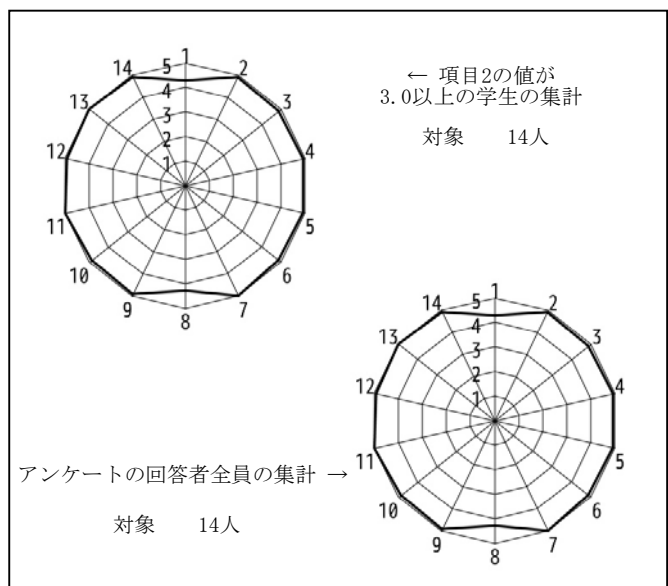
授業目標について、設問13：4.55であり、自由記述では「教育の歴史を、時代背景や社会の変化から学ぶことができた」「社会と教育の関係を身近な例などを提示しており、とても学びを深めることができています」というように十分に達成できたと考えられる。教育方法について、設問4：4.68、設問7：4.68、設問11：4.49、設問12：4.68であり、自由記述でも「定期的に出題される小テストを通して、授業内容をこまめに復習することができた。授業内容のみならず、履修カルテなど教職課程全体に関わるアナウンスもあった」「学生に発言を求めながら授業を展開していた」「授業でビデオを使ったことや、話し合いが多くあった」など、小テスト、ディスカッション、視聴覚教材の活用、グループ・ワークなど、アクティブラーニングの手法を取り入れたことが効果的であった。

2. 今後の改善点・抱負・方針

設問14：4.59であったことから、大きな課題はないと考えている。課題や配布資料はウェブクラスに掲載し、印刷してくるかPC・タブレットを持参するよう求めているが、何も持たずに参加する学生が見られた。自由記述にも、「毎回プリントがほしい」「欠席時の板書内容が知りたい」「グループが同じだったので席を指定」して変えてほしいといった受け身的な要望がみられる。教育実習に向けて、より自主的・自発的に行動できる学生の育成に向けて工夫したい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 道徳教育指導論1
授業コード 15A07-001
教員名 藤井 基貴
教員コード 101236
登録人数 38
回答数 14
回答率 36.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

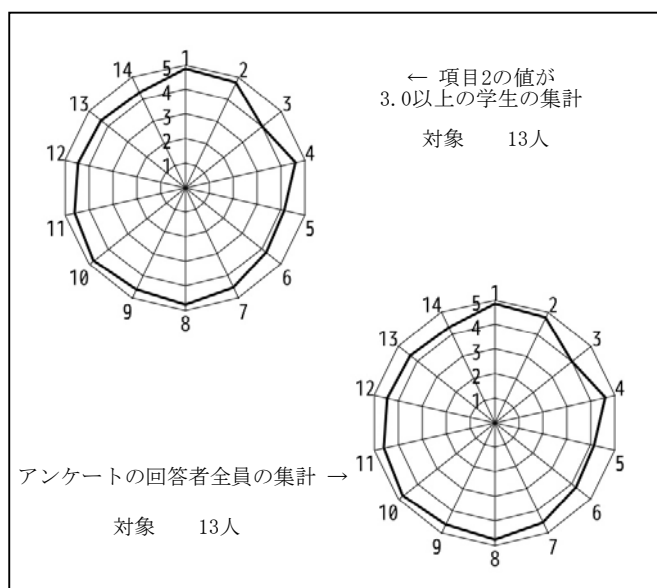


授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程を担う授業の一つであることから、受講生のみなさんが教職への興味関心を引き出せるように工夫するとともに、道徳教育の理論と実践に関わる基礎知識を習得してもらうことを目指して授業を設計した。受講生へのアンケート調査及び自由記述から概ねその目的は達成されたと判断している。数値データも概ね良好であった。また、教員採用試験や教職大学院に関する情報提供も受講生にとって大いに有益であったようである。今後も授業の質の維持につとめるとともに、引き続きメールなどで個別的な相談にも応じたいと考えている。また授業の序盤などでWEB CLASSを十分に活用できていなかったのがあったので来年度は利活用につとめたい。あわせて最終課題の方法についても試験とするか、レポートとするか再検討してみたいと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科指導法A2
授業コード 15B45-002
教員名 成田 健之介
教員コード 101555
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

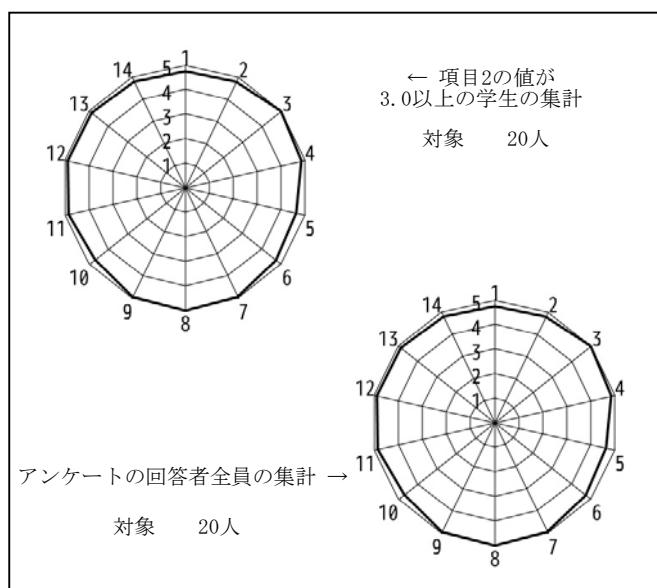


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、講義や演習、模擬授業等を通して、社会科、地歴科の歴史や学習指導要領に定める基本的な目標及び内容や教材研究と方法、「令和の日本型学校教育」の基礎を理解するとともに、模擬授業を通して中学校社会科・高等学校地歴科における実践的な授業力の基礎を養うことを目標にしている。平均値の数値データからは、項目1から項目14の平均が4.51、項目3から項目14の平均が4.46、さらに項目14の「全体としての満足度」は4.31、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」については、4.62であった。全体としては概ね目的は達成することができた。しかし、一部の学生の評価が、その他の学生の評価に対して極端に低いのが気になった。この学生についての自由記述を見ると、「模擬授業のあとの全体でのフィードバックで厳しい批評が出ることもあり、先生や先輩からの評価は頂きたいですが、もう少し伝え方や言葉遣いには配慮してほしい」とか「授業中、生徒との会話をあまりにも重視しすぎている」という意見が書かれており個別的な配慮の必要性を感じた。一方で、「地歴科目で必要な、知識を身に付けけたうえでそこから発問し、生徒がより考えられるような時間をとることを目的とした指導法を教えてくれて、非常に評価できる。また、生徒目線の授業を一番大切にしていた点で非常に尊敬できた」、「社会科の指導法のみならず、ジグソー型学習などの教育方法についても理解が深まった。過去の先輩の模擬授業の映像を見たことで、実際の授業のイメージを掴むことができた」、「先生がとても親身で、雰囲気アットホームな感じのリラックスして授業を受けることができ、学びたいことがちゃんと学べるような授業内容だった」という意見も見られた。授業実践力の習得のためには、模擬授業を冷静に評価し、改善すべき課題を適確に指摘することは重要であると思う。しかし、最近は課題を指摘されることで落ち込む傾向の学生も見られるため、模擬授業等の評価の趣旨が理解できるような指導の必要性を痛感している。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 国語科指導法B
授業コード 15B54-001
教員名 上野 裕章
教員コード 103859
登録人数 25
回答数 20
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

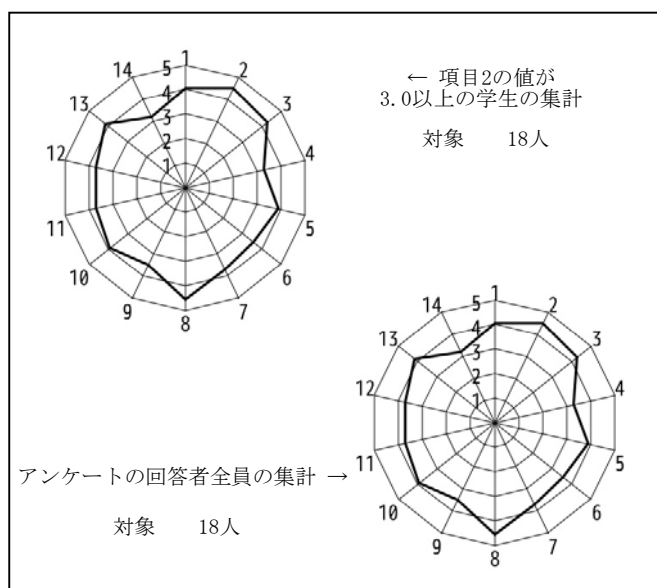


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 到達目標に対する自己評価 目標を2点設定した。①高等学校学習指導要領を踏まえ、具体的な指導場面を想定した学習指導案を作成することができる。②模擬授業とその相互評価を通して、授業の工夫改善を行い、授業設計の向上に取り組むことができる。学生はそれぞれ模擬授業を工夫して行った。音読、板書、発問とその受け答え、パワーポイントの活用等、各自の個性もよく表れた授業であった。学習指導案は、基本的内容を踏まえ、さらに言語活動に工夫が見られた。すべての学生が2つの目標を達成できた。2 学生の教員評価について 平均が4.85であった。前回の4.93を下回ったのは残念であった。5の到達目標の理解が最も低く4.65であった。毎時間、繰り返し話す必要があると感じた。次に低いのが、10の授業の妨げに対する指導で4.70であった。これまでは、出席表に各自で記入するようにしていた。今年は欠席が多く、「3分の1を超えなければよい」という意識を持つ学生が増えた。遅刻や中抜けする生徒も複数いて、1時間目の最初と2時間目の最後の2回点呼し出席の確認をするようにした。3 今後の方針 一方的な講義にならないよう、話し合いや発表する機会を多く設定し、考えさせる授業をしていきたい。欠席・遅刻しないように学生の意識改善をしていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語科指導法A
授業コード	15B57-001
教員名	中川 右也
教員コード	104931
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

目標には大半の学生が到達できた。知識及び技能に関しては、小テストなどを実施して達成することができたが、模擬授業に時間を費やすことが多くできず、そのために、準備不足や十分な実践力が身に付けられなかったことから、理論と実践の割合を少し調整する必要性があると感じた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

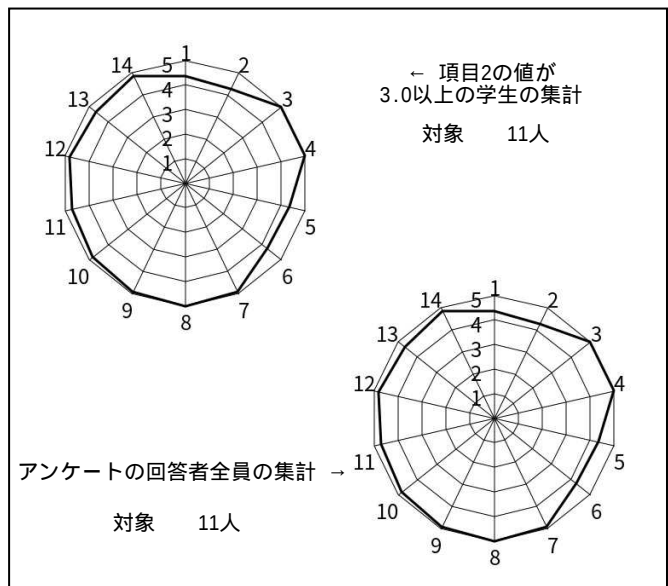
毎回の課題が多いため、負担をかけていたが、その負担を少しでも軽減できるように、詳細な内容を時間に余裕をもってあらかじめ提示すべきであった。専門的な知識が身に付けられていたものの、実践力の面でアンケート記述から問題があった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次回以降、受講生が多い場合には、実践の時間を多くさけるように工夫を凝らし、グループの構成人数を少なくしたい。また、評価基準に関して、丁寧に説明をして、理解しやすいよう試みたい。さらに、授業展開に関しては時間に余裕を持ち、理解や定着が可能な速さで進められるようにした。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育心理学2<2年生以上>
授業コード	15A05-002
教員名	大塚 弥生
教員コード	000065
登録人数	23
回答数	11
回答率	47.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

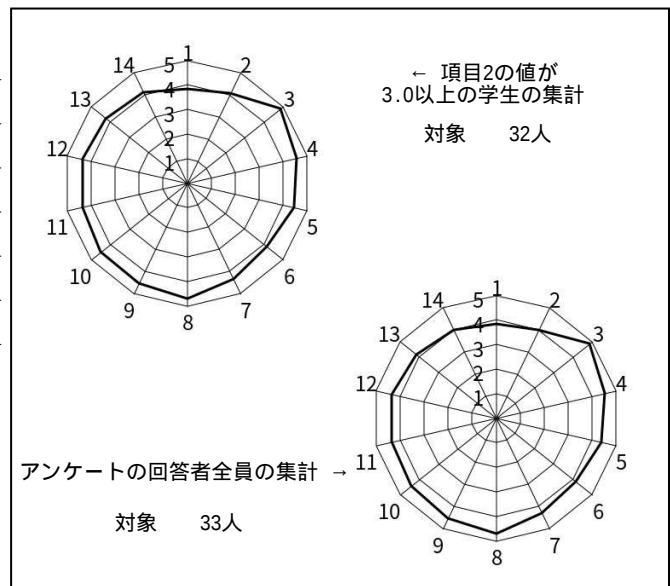
本授業は教職課程における必修科目であり、児童・生徒の心身の発達および学習の過程についての基礎的な知識を学び、理解することを目標としている。設問13（新しい知識の獲得や理解）の値が4.64であり、設問14（授業全体の満足度）の値が4.82であったことから、目標は十分に到達できたものと考えられる。

設問3（授業の開始と終了時間）、設問4（授業の構成や進行速度）、設問8（教員の声の聞き取り）の値はどれも5.0であり、設問7（教員の姿勢や態度）の値は4.91、設問9（授業の進め方の適切さ）の値も4.91、設問12（質問や相談の機会の有無）の値が4.82であったことから、本授業の進行について十分な評価が得られたと言えよう。自由記述においても、授業方法についての良かった点として、教科書以外にDVD等を用いたことや、グループ討議を行ったことなどが挙げられている。

本授業の担当は今年度限りで終了するが、Q4においてもこれまでと同様に進めていきたいと考える。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育方法論（ICT活用を含む）3
授業コード	15A24-003
教員名	市川 哲
教員コード	104946
登録人数	47
回答数	33
回答率	70.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。率直に申し上げて、当初の時点での目標は概ね到達できたと考えている。もちろん十分とは考えてはおらず、次回はより高い目標を設定してそれを超えていく必要がある。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について。まず数値データについては、率直に申し上げて全体的に想像通りの得点だった。満足度の得点が4.0点だったことについては、力不足・準備不足を痛感している。自由記述の良かった点については想像以上の評価をもらえたが、自由記述の改善点については自覚のある点が多く、改善点を的確に指摘してもらったと考えている。

本授業の次のQからは指摘された点の修正に取り組み始めている。言い訳だが、本授業はQ3時に個人的に初めて担当する授業であったことと、さらにBRDというアクティブラーニングの手法を本授業で新たに取り入れたものの、中途半端に導入したためか授業進行がやや円滑でない部分があった。学生たちからはその点を自由記述で指摘されたが、この点については既に改善に取り組み始めており、既に改善されつつある。南山大学の他の授業の評価得点の高さに大いに刺激を受けた。そのため、本授業において今後もBRDなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が将来教員になったときに役立つ授業を今後も模索していきたいと考えている。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・公民科指導法B1
授業コード	15B51-001
教員名	成田 健之介
教員コード	101555
登録人数	10
回答数	3
回答率	30.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、中学校社会科公民的分野と高等学校公民科における「主体的・対話的で深い学び」を促すために必要な授業実践力を高め、学校現場での授業実践ビデオの視聴や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッション等によって、社会科・公民科における授業力を高めることを目標にしている。

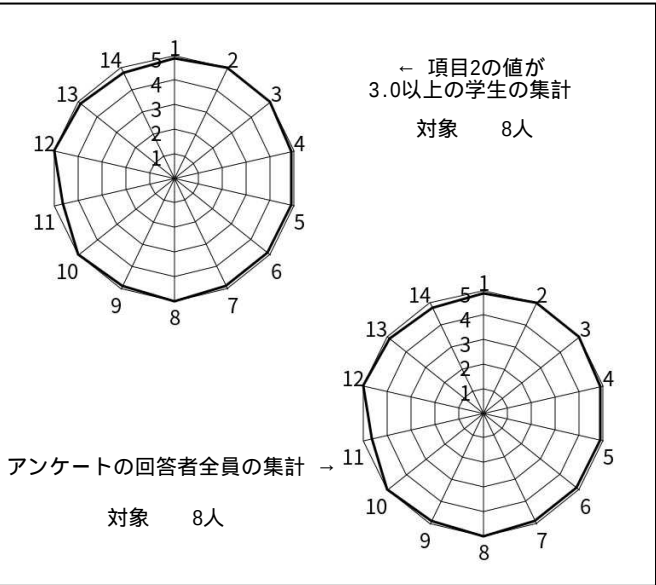
前半では、今後の日本の人口の減少化傾向、Society5.0、AIやシンギュラリティ、教育のDX等についての公民科教育への影響について考察してきた。さらにVUCAな時代やOECDのEducation2023、Learning Compasssなどの現行学習指導要領や2030年の新学習指導要領改訂の背景について話題を提供しディスカッションを進めた。また、玉置崇先生や春日井市立小中学校等のリーディングDX指定校の動画コンテンツを活用し、学校教育現場での対話型授業の分析と導入場面の意義、ICTの活用についての学修を進めた。後半は、履修する学生全員に25分～30分間の模擬授業を課し、授業構想、学習指導案細案の作成及び実際の模擬授業と事後検討を中心とした実践的な学修を実施した。

学生評価については、少人数の受講者の上、授業評価提出者が4名以下であったためレーダーチャートや各項目の評価値が算出されていないので、Excelファイルのデータを基にして、基本的な項目だけ算出した。設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」の平均値が4.67、設問14「授業全体としての満足感」の平均値は4.67、設問3～設問14の平均値は4.61であり、提出者については概ね目的は達成することができた。

自由記述の回答では、「熱心に指導してくださる」という記述が見られ、模擬授業を取り入れ実践的な教科指導力の育成を目指した本講義が、この先の教育実習や実際の教育現場で実践的な力として生かされることを期待したい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国語科指導法C
授業コード	15B55-001
教員名	上野 裕章
教員コード	103859
登録人数	12
回答数	8
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

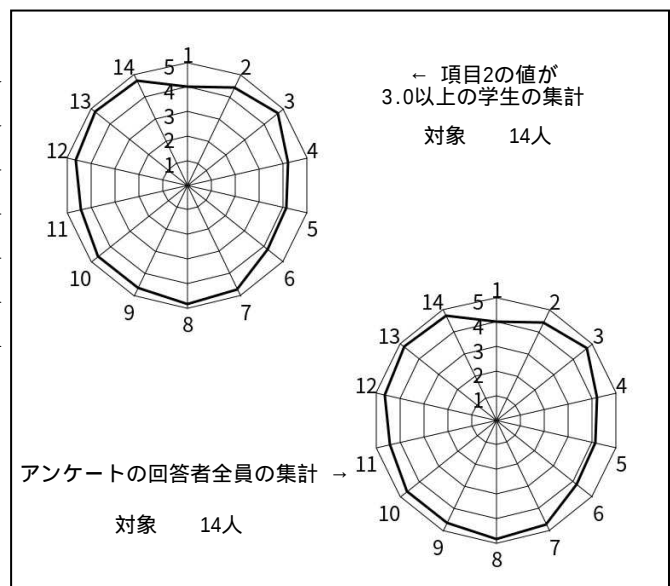
講座の目標は次の3点である。1 中学校国語科の学習指導要領の目標、主な内容、全体構造を理解している。2 国語教育の現状と工夫改善の取組を理解してい。3 これらの点を踏まえ、授業実施の基礎・基本を身に付けている。調査結果を見ると概ね到達していると考ええる。

授業評価の平均は4.89であった。5.0の項目は「2主体的に授業に参加、努力」、「3時間を守る」、「7教員の声の聞き取り」、「8私語等の対処」、「12質問や相談の設定」であった。最も低い評価は「11学習意欲を引き出すための適切な指導」の4.63であった。この項目が5.0でなければいけない。今回、学生の要望があり、模擬授業を設定したところ、グループで工夫を凝らしとても良い授業をしてくれた。また、グループ討議の回数を増やした。調査の「良かった点」に、「模擬授業をするなどの実践的な学習ができた点」、「学生同士で話し合う場面も多く、一方的な授業でなかった点」という記述があった。

今後も、教員の一方的な講義にならないように模擬授業や話し合い、発表の機会を設けて、主体性を育む授業をしていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語科指導法D
授業コード	15B60-001
教員名	内田 政一
教員コード	104932
登録人数	23
回答数	14
回答率	60.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

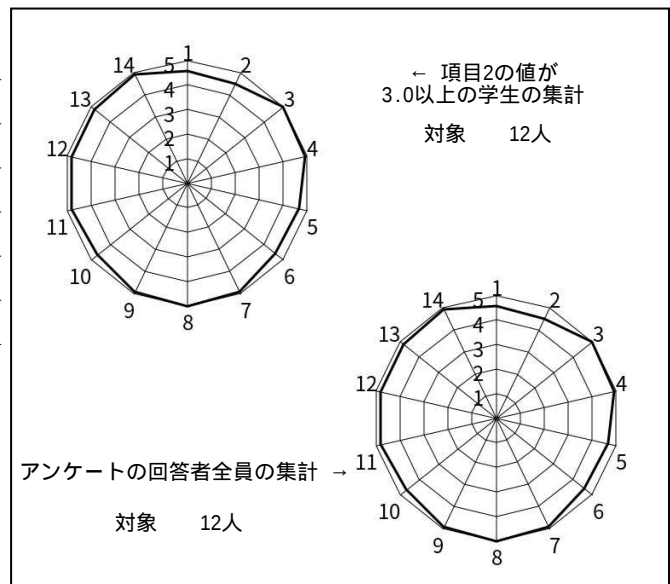


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、1) 開講時のシラバス通りに、ほぼ達成できたと思われる。2) しかしながら、自分自身のコメント表を含め、英語使用のウエイトを上げる、また模擬講義等の導入など、実践面をさらに加えることも必要かと感じた。3) 2時間連続という特異性から、今後は、さらに学習者のコメントを分析し、さらに教材研究に努力を重ねていきたいと考える。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A2
授業コード	31B04-002
教員名	中川 右也
教員コード	104931
登録人数	12
回答数	12
回答率	100.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

リスニングのスキル向上を目指し、メカニズムを理解しながら、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中南米の国々の文化や歴史を講義を通して学ぶことを目標に設定しました。さらに付け加えて、World Englishesや世界の文化を学ぶことで英語力を高め、グローバルに活躍できる人材になるための資質・能力を身につけることを開講当初の目標としました。

総合的な自己点検・評価に関して、多面的・多角的に評価した結果、これらの目標は大方、達成していたと思われます。その根拠として、具体的には、評価項目に関して以下の達成率を得ました：

議論参加：74%

課題：92%

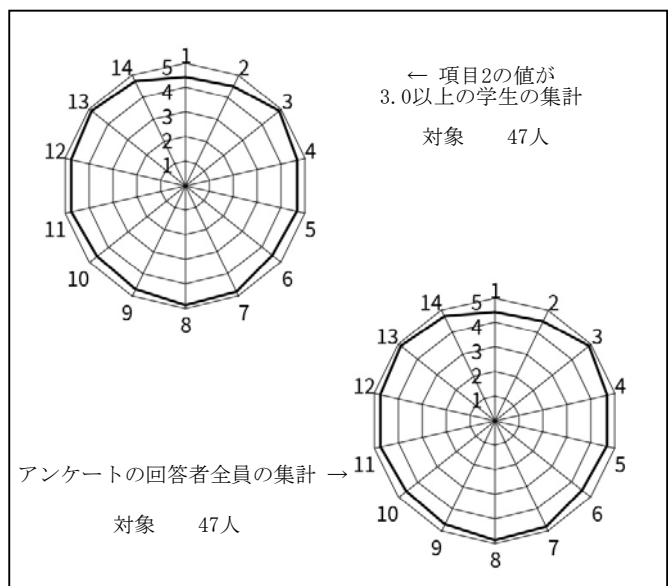
小テスト：73%

試験：91%

今後の課題として、議論参加において意見を述べない学生が少数存在していたため、そうした学生に対する支援をさらに強化する必要があると考えます。また、定期試験の達成率が高いものの、日頃の学習の成果を測定する小テストの達成率が相対的に低かったため、授業時間外での学習を促進する取り組みを今後も丁寧に続けていきたいと考えています。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 教職入門2
授業コード 15A02-002
教員名 宇田 光
教員コード 100494
登録人数 52
回答数 47
回答率 90.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

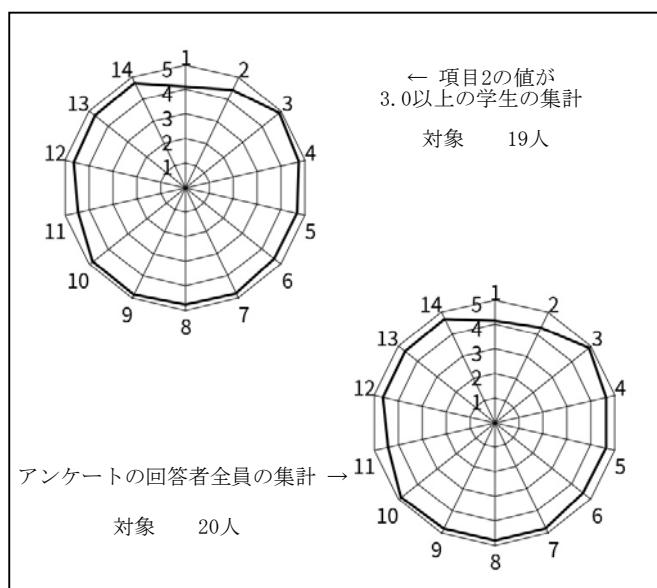


授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目である。主に1年生を対象としており、履修登録者数は52名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目1から14までの平均値は4.70、満足度を示す設問14の平均値は4.72で、まずまず満足であるという回答を得た。個別の自由記述では（a）良かった点として、「授業に対する熱意を感じた」「課題に対して自分の意見を考える時間が設けられている点」「教員として働くために必要な具体的な知識を得られたこと」「学生同士が話合う時間を多く取ってくれたこと」など。また、BRD方式については、「レポート作成と、友達と先生からの添削があるところ」「生徒自身が一回考える時間を設けた後に解説が用いられているという授業構成がよかった」などのコメントがあった。さらに、授業中のスマホ等の情報機器利用は、デメリットが多いと考えて原則禁止としたが、意外に批判の声はなく、「スマホを使わないことで集中できた点」との記述も見られた。一方、（b）改善すべき点については、「スライドの進行が早く、メモを写しきれない時がありました」「全体的に説明不足で、授業の初めは何をすればよいのかわからないことが多くあった」「喋っている生徒は注意してください」「教科書を有効活用して欲しい。使わないなら書いたくない」など、考えさせられるコメントが多数あった。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	学校カリキュラム論2
授業コード	15A06-002
教員名	米津 直希
教員コード	104277
登録人数	42
回答数	20
回答率	47.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

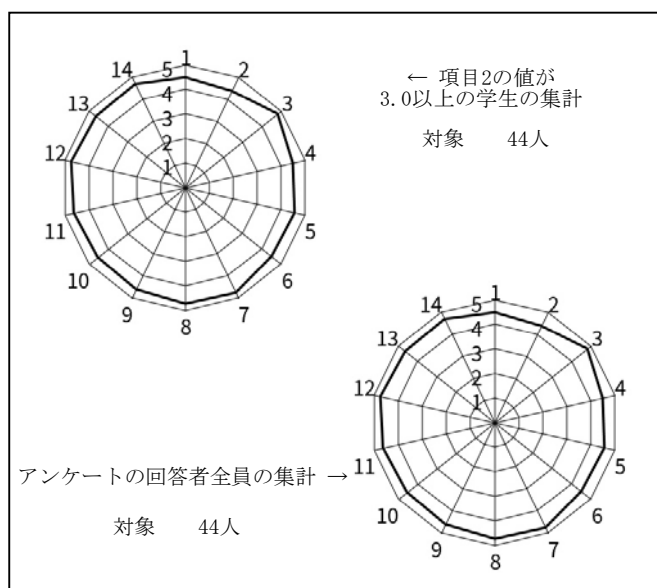
本授業の目標に対して、到達の程度は例年とさほど変わらない数値であり、特に問題ないレベルである。

本授業は知識の定着よりも、現在の教育課程を取り巻く問題についての投げかけと、それに対する受講生の応答を重視している。毎回の授業の大まかな内容確認テストは実施しているが、必ずしも知識の修得が数値的に明示されない。そのため、実際に学生が修得している知識とそれに対する意見・知見の深まりについては実感されにくいことは問題だと感じている。そうしたことがアンケートの数値に表れている。情報提供については方法を改善し、自作のwebサイトを作成・更新した。授業で扱ったもの、扱いきれなかったものを随時提供し、授業でも何度か紹介したが、アクセスは多くない。なるべく自主性に任せたいが、もう少し課題を出す必要があるかもしれない。授業参加度を測るために提出を求めている授業の感想について、こうした情報にアクセスすることを条件付けるなど、学生が各種情報にアクセスすることを促したい。

本学が教員養成を主たる目的としていないことから、教職科目においてあまりに重い課題を科すことは、担当者としては想定していない。ただ、より関心を持つことができるように学習を促すことは重要だと考えている。ディスカッション形式の授業をもっと取り入れたり、現代の教育課題について直接的に考える内容を増やすなどして、問題意識を育てられるように授業を設計したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 学校教育概論4
授業コード 15A18-004
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 51
回答数 44
回答率 86.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標と到達度および総合的な自己点検・評価

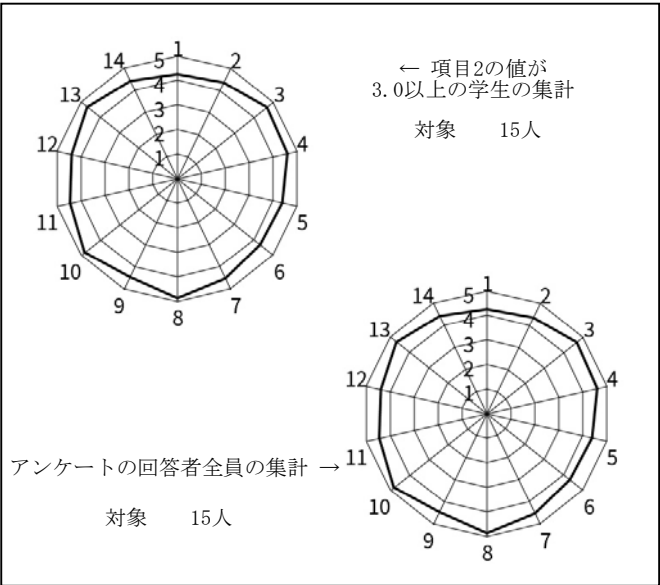
授業目標について、設問13：4.66であり、自由記述では「学校教育に関しての知識を歴史的背景を交えながら解説していただいたことで、より直線的に流れを理解することができてとても良かった／紙媒体だけでなく映像や解説の動画を利用した解説は視覚的にもとても分かりやすく、より深く理解するためにとっても有用だった／キャリアのための講義であったので、自分が今まで受けたどの講義よりも、自分のことを改めて考えたり、小論文の書き方や、より教員になるためまでの過程を知るきっかけにもなった」とあり、目標を十分に達成できたと考えられる。本年度より、履修年次が2年次から1年次に変更されたため、集中力を高めるようグループワークやブレイクを入れたり、上級生の教職履修者を招いたりして、教職課程の履修方法や大学での学び方などを含めて授業を行った。「教職課程の履修や今後の予定などを知れる点が良かった／先輩方の講話が実施され、とても参考になる話を聞いた点も良かった／授業を受ける中で、さまざまな情報を入手できる点が良いと思った。」「適度にブレイクがあったり、ディスカッションがあって理解が深まりやすかった」というコメントがみられたように、初年次にふさわしい内容にできたと思われる。教育方法について、設問4：4.52、設問7：4.75、設問11：4.64、設問12：4.75であったことから、効果的に実施できたと考えている。

2. 今後の改善点・抱負・方針

配布資料の一部はウェブクラスに掲載しているため、PC・タブレット持参を求めているが、「毎回プリントがほしい」コメントが複数みられた。学校現場では一人一台タブレットが普及している現状を踏まえ、教育実習に向けてICT利用の重要性を伝えてきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法1
授業コード	15A20-001
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	28
回答数	15
回答率	53.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

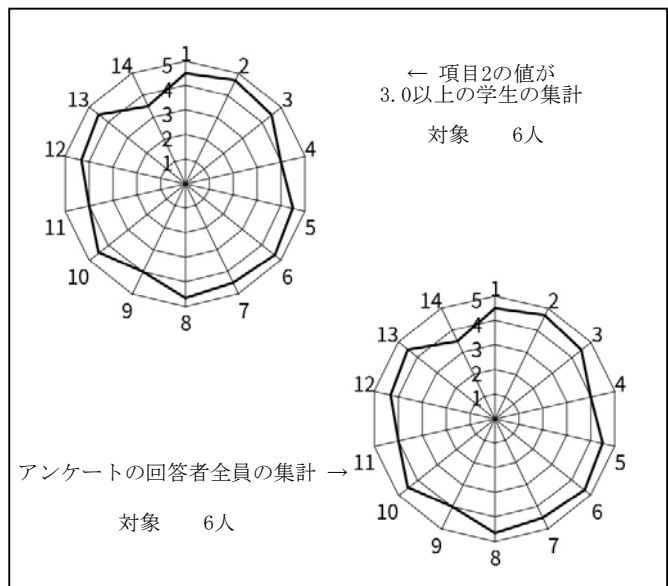


授業評価結果を踏まえた点検・評価

特別活動の指導内容としては、学級担任として必要となる学級経営に多くの時間を割いて指導し、概ね目標を達成することができたと考える。授業評価は全ての項目で4.2以上であり、全体の平均は4.5であった。昨年とほぼ同様の授業展開であったが、昨年より若干、評価は良かった。教員の職業が他と比較して恵まれている点を説明したり、授業の最後にリアクション・ペーパーに教員としてどのように対応するかを書かせたりする点が良かったようである。ただし、最後の授業時間内に、この評価を実施するように指導したが、欠席者が4名いたにもかかわらず、15名しか解答していないことが残念である。なお、学生に対する評価においては、今回、レポート課題を軽減し、授業参加度の割合を増やしたが、授業欠席の平均が昨年の1.3時間から1.8時間に増加したため、＋A評価やA評価の学生が減少し、B評価やC評価の学生が増加する結果となった。この授業では、例年、教員採用試験に関することも指導しているため、授業を大切にしよう指導していきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 数学科指導法A
授業コード 15B80-001
教員名 飯島 康之
教員コード 104632
登録人数 21
回答数 6
回答率 28.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

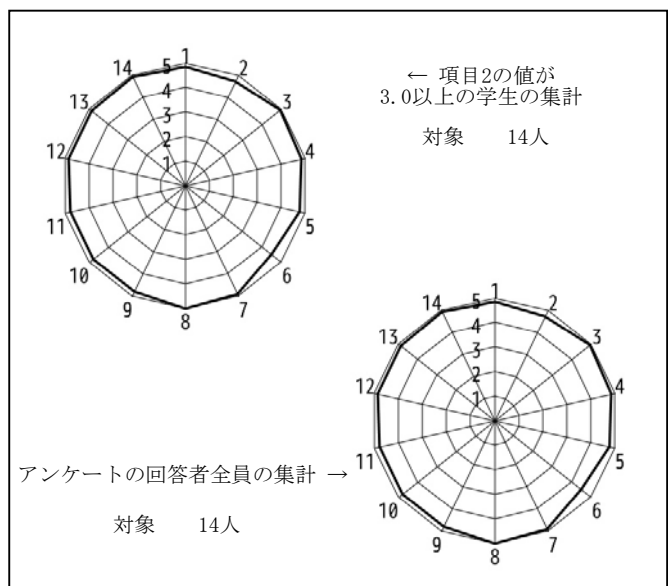


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1)「学習指導案作成、模擬授業の実践、振り返りの繰り返しにより、具体的な授業場面を想定した授業を設計できる。」という当初の目標に対して、多くの学生においてその目標をかなりクリアすることができた。
- (2) 模擬授業の実施は、教師役、生徒役それぞれの難しさがある。特に「数学的内容を解説すればいい」だけでなく、生徒の発言や活動を生かすための考え方やそのような教授行動を行うことは簡単ではない。そもそも、「解説だけをすればいいのではない」ということをきちんと理解する点で困難点があることもある。多くの学生はそれをすぐに認識できても、一定数の学生にとってはそれを認識することは簡単とは限らず、模擬授業の途中でいったん停止してそれを解説したり改善の方向性を指示するという指導方法が適していない学生もいた。
- 学生数が比較的少ないせいもあり、そのあたりの問題点の認識・共有やその改善の仕方については授業の中でも議論でき、理解を深めることができたと認識しているが、今後、これらの点に関する配慮は続けていきたいと考えている。
- (3) 模擬授業を繰り返しながら教授活動についての理解を深めていくという方法は、基本的には学生に適しているので、学生との議論も増やしながら、そのノウハウを高めていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触8<国際科目群>
授業コード 13A02-951
教員名 藤掛 千絵
教員コード 104116
登録人数 19
回答数 14
回答率 73.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

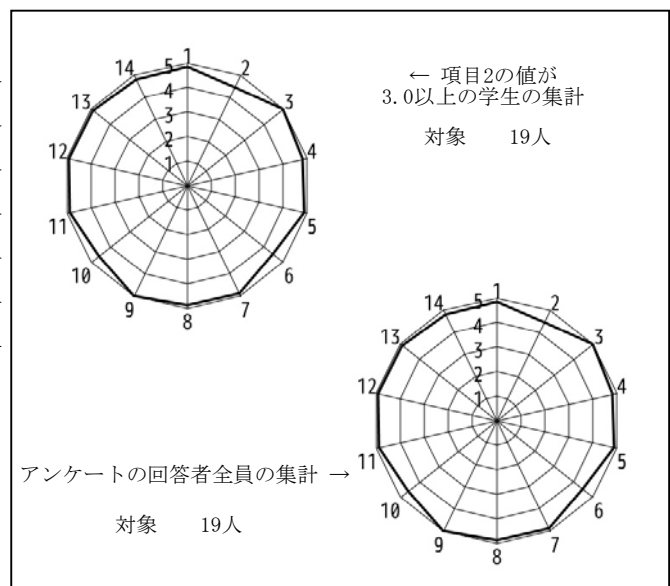


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標到達度については、概ね達成したとを感じるが、水曜1・2限連続の授業形態だと、提供したマテリアルを学生が理解し考える時間が少なく、どうしても詰め込み式のようになりがちで、消化不良になっているのではないかと感じる。その点においては、予定していたほどに学生は目標に到達していないのではないかと考えている。学生からの評価は概ね良いようであり、今後もアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れた授業を継続していきたいと考えている。また、水曜1・2限の形態を継続するのであれば、授業内での教員からのインプットの量を調整しながら、授業外での課題と授業時間内での取り組みの接続を、慎重に検討する必要があると感じている。今後は、扱うテーマをもう少し簡素化・細分化し、一つ一つのトピックについて深く議論をするような、量より質に重きを置いた形で到達目標を立てられたらと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解5
授業コード 13C01-005
教員名 佐藤 幸代
教員コード 102850
登録人数 19
回答数 19
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

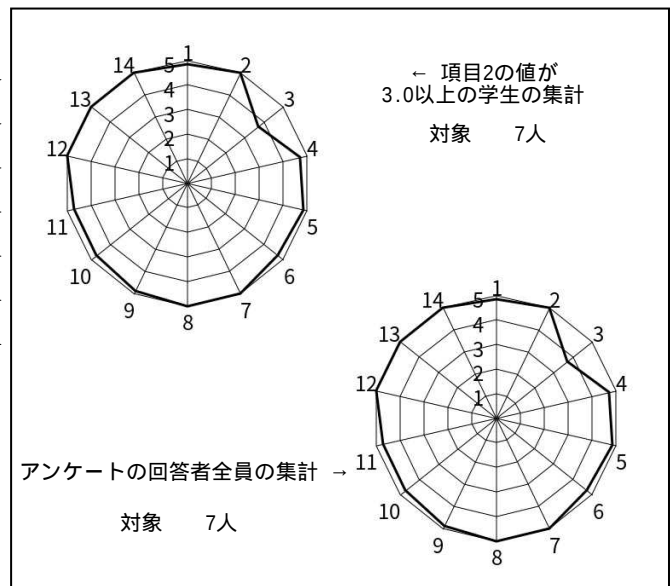


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、産学連携PBL型の授業を国際共修環境で実施した。開講当初に設定していた目標と到達の程度について、シラバスの記載に沿って全履修生（CJS生含む）に調査した。結果は、「地元の醸造文化の理解は深まったか」→とても深まった＋深まった＝100%、「プロジェクトは楽しく取り組めたか」→とても楽しかった＋楽しかった＝100%、「多様な価値観を理解しようと努めたか」→とても努力した＋努力した＝100%、「建設的な意見を述べられたか」→とてもできた＋できた＝90%であった。よって、履修生は授業の目標を理解し、それらに概ね到達できたと考えている。一方、本学の授業評価からは、設問10に対する評価が低い事が分かる。私語やスマホを触る暇のない授業ではあったが、遅刻してくる学生はおり、その学生に向けて注意をしなかった点についての指摘と考えられる。また、自由記述による改善点として、「留学生がもっと多くいると思った」「一つのチームは全員1年生になっていた」等の声が届いた。これらをふまえて来期の授業では、①遅刻や欠席者に対して、他者に迷惑を掛ける行為であることを指摘し、②留学生が沢山履修すると誤解させないようにシラバスに記述し、③チーム分けの際は学年にも配慮することとする。本講義は国際共修という環境上、言語の運用方法も含め、心理的安全性の高いクラス運営を心がけた。来年度もこの方針は引き継ぎ、幅広い学生に国際性の涵養を目指したい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL A
授業コード	14F01-001
教員名	佐藤 幸代
教員コード	102850
登録人数	7
回答数	7
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標と到達の程度にたいして、十分な成果を収めることができた。少人数で行うPBL COIL型授業という特色を生かし、学生が主体的に学びを進めるアクティブラーニング形式の授業を展開したことが功を奏したと思われる。学生の評価では、履修した学生全員が「予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力」をし、最終的に全員が「この授業を通して、新しい知識を得て、理解が深まった」ことが表れていた。グローバル化が叫ばれる社会において外国人留学生の就職が困難であるなんて本当だろうか？という思いでこの授業に臨んだところ、根深い社会問題があることに気づいた学生が大半を占めた。「今後、この問題をアイデアピッチの場などで公にしていく必要がある」、「自分が企業の人事に入ったらしっかり中にも外にも発信していきたい」等という学生の言葉からは、この授業を企画した側としても、狙いを超えた成果を得たと感じている。一方で、議論が白熱し、授業時間終了後も議論が継続することが複数回あった。そのようなときは次週の授業を短縮するなどの工夫はしたものの、それでも授業時間を超えていたことは否めない。講義タイプの授業ではなく、学習者主体の授業であるため、ある程度仕方がないことではあるが、議論に加わることは義務ではないことを適宜発信し、早く帰りたい学生が帰りやすいように、努める必要があると考える。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際産官学連携PBL D

授業コード 14F04-001

教員名 藤掛 千絵

教員コード 104116

登録人数 13

回答数 4

回答率 30.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

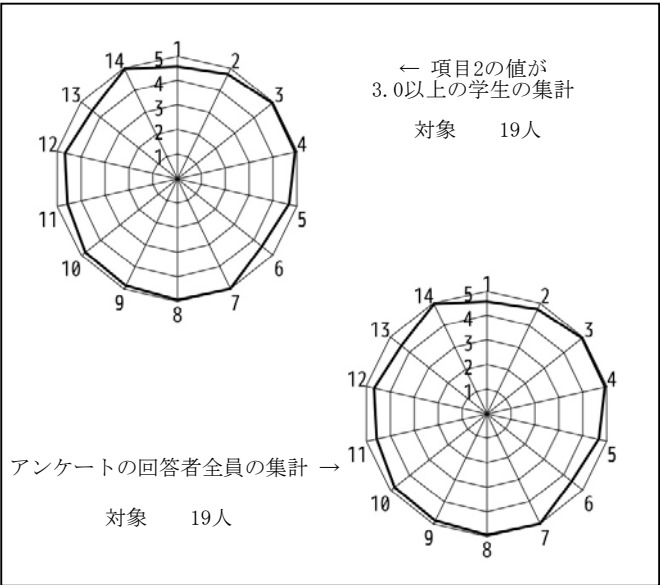
グループワークでプロジェクトを進めていく授業のため、学生たちは、建設的な話し合いをしながら共同学習をするというプロセスを経験し成果物を出すことができた。またCOILの手法を用いた授業のため、多文化共生・異文化理解の力を養うことができた。最終発表では課題に対する理解や解決策を提示することができたことで、問題発見・解決力を養うことができた。

グループの中にはモチベーションの高さの異なる学生がおり、不満を感じる学生もいた。そのような学生の意欲を引き出すための授業改善は今後の課題でもある。ただ、授業の最後に他者評価を提出させることとしており、それが成績に反映される仕組みをとっている。それについては今後も続けていきたいし、授業の中で、他者評価について説明する機会を増やすことも検討したい。

最終成果発表（最終授業）では、時間内に収まらなかったことにより、十分なフィードバックをおこなうことができなかった。次年度は人数によって、最終発表の形式を調整し、発表するだけでなく意見交換の時間も十分確保したいと思っている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 1
授業コード	11A01-008
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	22
回答数	19
回答率	86.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

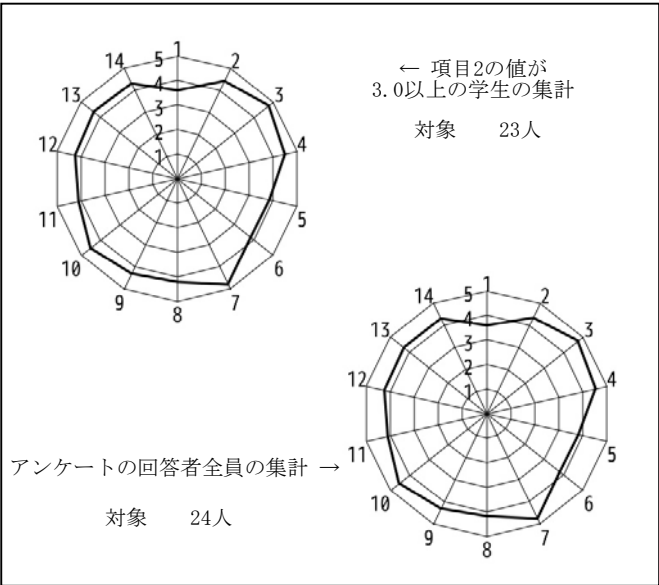


授業評価結果を踏まえた点検・評価

At the commencement of the quarter, our primary objective was to acquaint students with the diverse educational resources that would be utilized throughout the course. This objective was successfully achieved, as students learned to be proficient in employing both digital and analog resources. Given the course's emphasis on oral communication, we facilitated numerous group tasks, enabling students to engage in English conversation activities with their peers. This approach not only proved to be enjoyable for many students but also served as a catalyst for enhancing their speaking skills. Looking forward, we plan to introduce additional activities designed to promote the use of English as a communicative tool. Furthermore, students will be assigned more vocabulary tasks to bolster their ability to participate in academic discussions in English. As part of our learning objectives, will also focus on enhancing students' presentation skills.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 7
授業コード	11A01-014
教員名	TAKEUCHI, Rebecca
教員コード	104947
登録人数	26
回答数	24
回答率	92.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

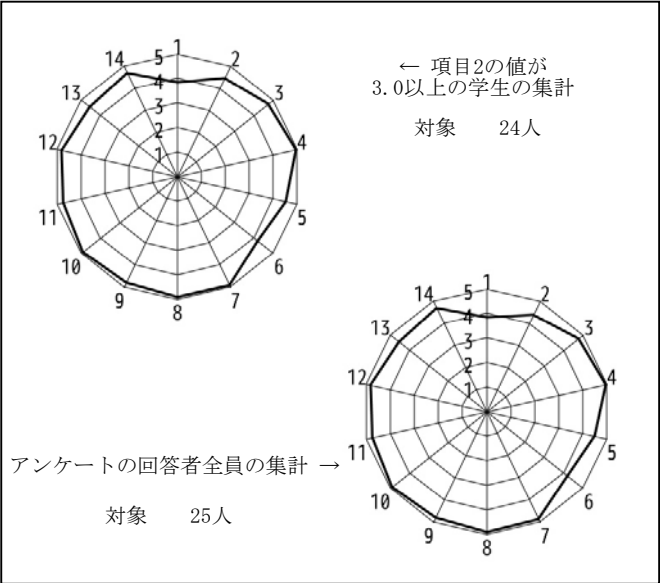


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①As planned for this quarter, we learned about communication and presentation structure as well as note-taking skills and outlining. With these foundations, we will be able to do more presentations and group activities in the upcoming quarters, so mastery of these skills has been the main focus. Due to student needs, several lessons had to be modified to review the content, which was noted in Lesson 1 as a possibility if the needs of the students warranted it.
- ②While there were some minor issues with various platform integrations, I feel we overcame the issues and found ways to ensure the next quarters will go rather smoothly. I will actually carry out more assessments in class rather than relying on homework or online quizzes. To save class time for more interaction and guided listening or watching activities, we will rely more on Flip for our presentation and feedback tasks.
- ③I was rather pleased with the progress and growth the students exhibited. We will continue using TEDTalks and other communication examples to help us model our own. Our next quarters will include interviews, team presentations, manuscript reading, and other real world experiences to motivate students.

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[B] 8
授業コード	11A01-015
教員名	TROY, Henry
教員コード	104616
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

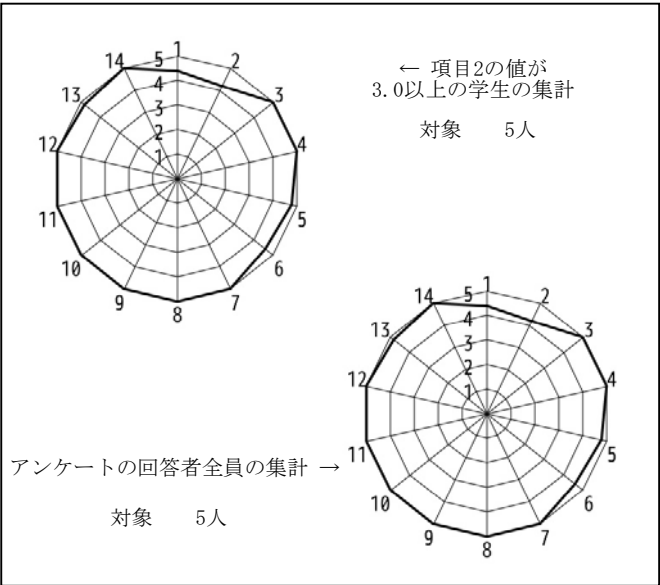


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) This quite a low level class, so the main goals are to help them with basic speaking, listening, presentation and vocabulary skills. In general, these goals are being achieved, although of course the level of progress varies from student to student.
- (2) I am pleased with the responses from the class. Clearly their relatively low scores in answer to question 1 show they were not all looking forward to the class beforehand, but the other feedback and comments are very positive. I am particularly pleased that several pointed to the class atmosphere as a good point, as I always want my class to be positive and conducive to learning.
- (3) I will endeavour to make every student in the class reach their potential. This class has a few students who are clearly uninterested in English study, so motivating them is a challenge I intend to take on.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 6
授業コード	11A01-025
教員名	LOTT, Danielle
教員コード	103593
登録人数	25
回答数	5
回答率	20.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

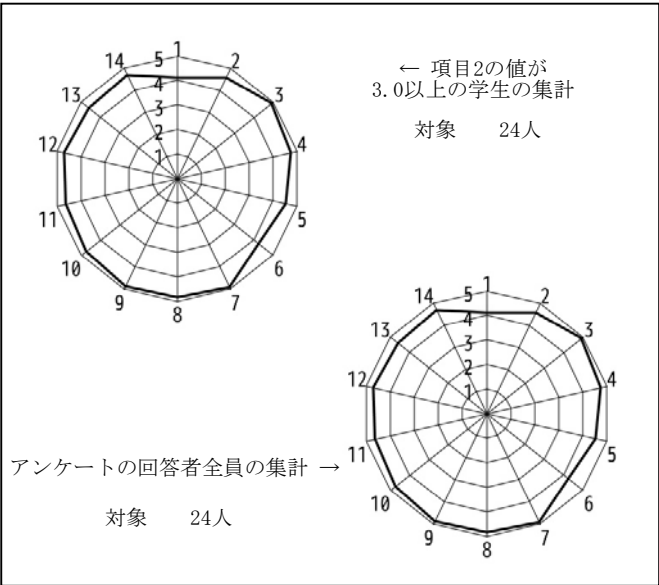


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. My goals were to teach communicatively, incorporate simple games, and to scale back assessment. I also wanted to improve my approach to disciplinary issues like chatting and tardiness. I disciplined studies more quickly and directly if any issues arose.
2. I was happy with the numerical data. As for the comments, students mentioned that my speaking was easy to understand, and that they were happy to have many opportunities to talk to each other in English. Overall, I received very positive numerical scores and comments, so according to these numbers, I feel that the course was a success. However, only five students responded. I need data from all of the students in the class to be sure. In the future I will devote more class time to work on the course evaluation.
3. In the future I'll continue what I have done so far. Also, tardiness is still a problem. In the first quarter students did great, but they got lazy towards the end of the quarter as my rapport with them improved. I want to find more ways to tackle tardiness without damaging rapport between myself and the students. I also want to start Q3 with a grammar refresher to tackle issues I saw in their final presentations.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 9
授業コード	11A01-028
教員名	DAVANZO, Christopher
教員コード	101653
登録人数	24
回答数	24
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

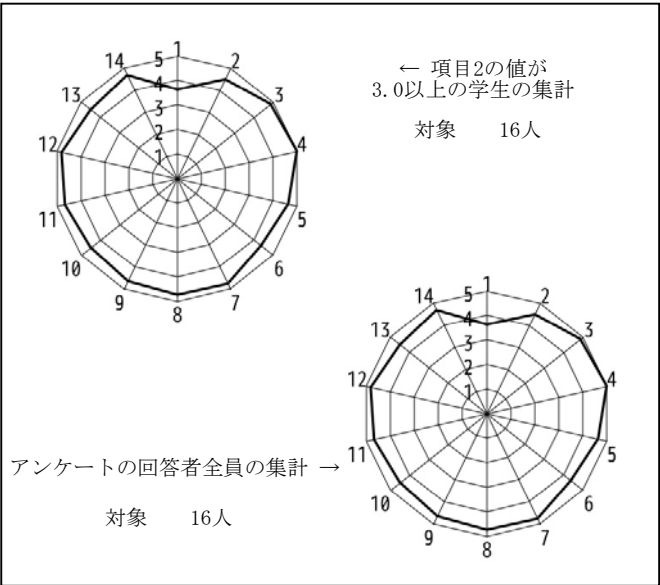


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results of the course evaluations showed that most of the students had a high level of satisfaction with the course overall, and with the instructor. All of the students composed a written reflection as part of their final report, and the majority of them expressed the feeling that they had made tangible progress in their ability to communicate in spoken English. Over the years I have made the course and the students' activities more systematic, and these steps seem to be effective based on these student evaluations, the students' final reports, my own interactions and observations of the students, and most importantly, during their interview tests. I have centered the class activities around two simple core principles: practice and building meaningful vocabulary. The students have a short vocabulary quiz every class, which incrementally covers the most spoken 2000 words in English. In addition we have regular vocabulary review activities to reinforce their learning. During Quarter 2, will provide them an active practice environment so that they are able to start, maintain, and finish conversations in a smooth and natural manner. I will also introduce specific topics for them to practice together, with the aim of having smooth timed conversations with one another.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T]
授業コード	11A09-057
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	21
回答数	16
回答率	76.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

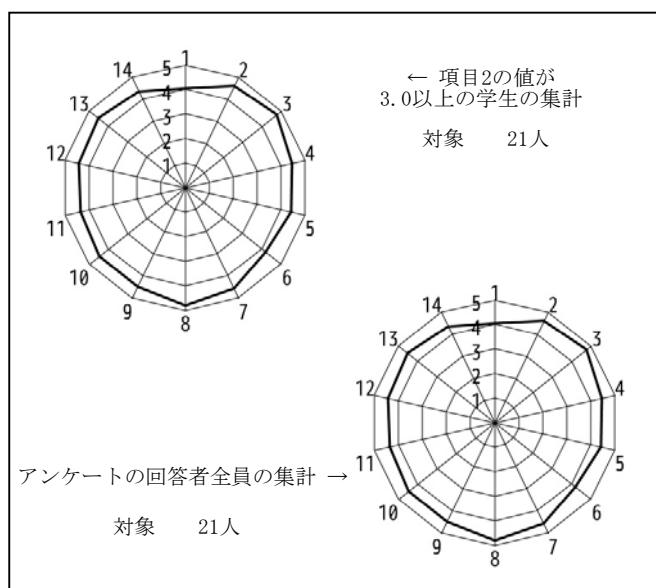


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The syllabus stated these main goals: creating a language community; improving pronunciation. As the survey results show, students enjoyed talking with each other in groups in English, which indicates the creation of a language community. Students' pronunciation were individually checked and corrected, leading to the attainment of the second goal. According to the data, the lowest value related to students' interest in English communication, item 1. But according to item 4, which received a unanimous 5, as well as high marks for items 11, 13, and 14, this lack of interest was addressed by the class. The comments also validate this point. The next lowest value comes from item 6, but this is a self-evaluation question for students. Item 10, valued at 4.5, might be a signal for further consideration, but it might stem from varying rates of task completion among groups during group work: there are periods of time spent waiting for the slowest groups to finish. The other two items valued at 4.5 are self-evaluation questions. For quarter 2, the plan is to build upon the foundations of the language community established in quarter 1.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全・T>7
授業コード 11A23-007
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この授業は全学向け選択科目で、高度な英語の読解力を身につけることが目標である。適切に内容を理解する力とアカデミックな語彙を増やすことを目指した。「到達目標の理解」は4.32、「到達目標の達成」は4.09だった。達成度の自己評価が厳しめであったようだが、最終成績からは、8割程度の学生がおおむね目標に達したと判断される。

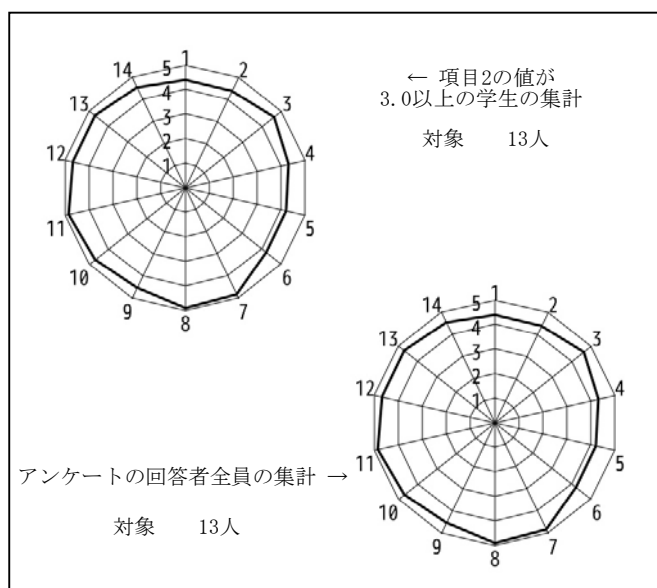
② 項目1から14の平均が4.47、3から14の平均が4.49、項目13「知識・理解の深まり」が4.52、項目14「全体としての満足度」が4.33となり、数値的には学生にとってある程度以上満足できる授業となったようである。項目1「授業への興味」が4.05で今回の評価で最低の数値であったが、項目2「主体的な学習」は4.62であり、さほど期待せずに登録したが、講義が始まってからは予習や課題に真面目に取り組み、成果も感じられたということと思われる。

自由記述では、良かった点として、テキストのテーマである現代美術について深く学べた、ビデオや画像の資料が興味深かった、テキスト内容の解説が充実していた、グループワークが負担感の少ない実施方法だった、プレゼンテーションやライティング課題で力がついた、があげられた。

③ 自由記述の課題点としては、テキストの英文の文法説明が不足していたことを2名があげていた。比較的理解が容易な構文が多かったため、エッセイのテーマである個々の美術作品の理解につながる近現代史や社会問題の解説に多く時間をあて、英文の疑問点については質問を受ける形にした。質問が出ず、内容理解のエクササイズもほぼ出来ていたため楽観し過ぎていたようである。他に、授業時間内の学生の解答が不正解の場合やグループワークへの消極性に対して報告者の対応が嫌な印象を与えたというものが各1名からあった。初めての指摘であり、報告者の教員としての感覚が時代に合わなくなっている可能性も意識した対応を心掛けたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I<J・P>
授業コード 11B01-009
教員名 DARMON, Christophe Mitchito
教員コード 104948
登録人数 30
回答数 13
回答率 43.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

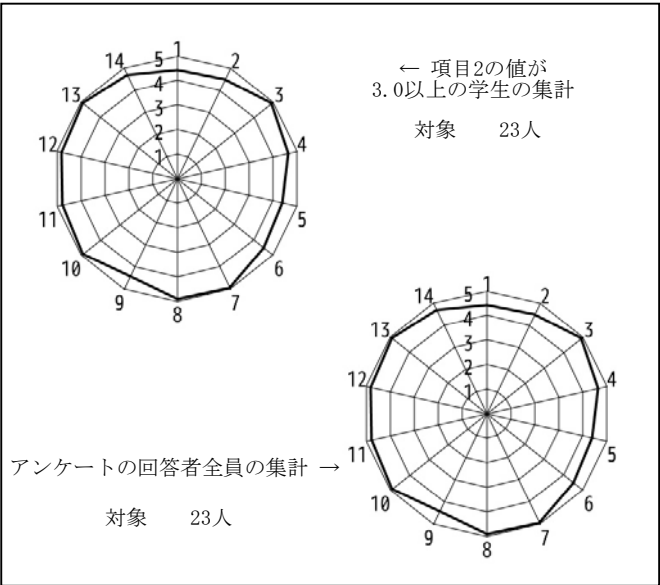
(1) フランス語Iの目標として、教科書の第1課から第6課まで進むことがフランス語科の教員内で決められていた。その点に関しては目標を果たせたと思われる。ただ、個人的にはフランス語のコミュニケーション能力を高めることを目指していたが、授業内の時間の管理及び教科書の内容を踏まえて新たな会話の練習を導入することが難しかったため、この目標は完全に果たしていないと思われる。

(2) 今回の評価に関しては「できるだけフランス語を使っている」及び「言語学や歴史的情報を加えている」ことが評価されたため、今後もそのような点に力を入れていきたいと思う。ただ、一人の学生が文法の練習問題を増やしてほしいようですので、今後は文法の練習問題も新たに加えようを思っている。

(3) 授業の改善のため、今後は会話の練習と文法の練習を増やしていこうと考えている。また、フランス語を使う量も増やし、文化的及び言語的な知識も積極的に導入しようと思う。

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語I<J・P>2
授業コード	11C01-010
教員名	KOISEGG, Karl
教員コード	103972
登録人数	30
回答数	23
回答率	76.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



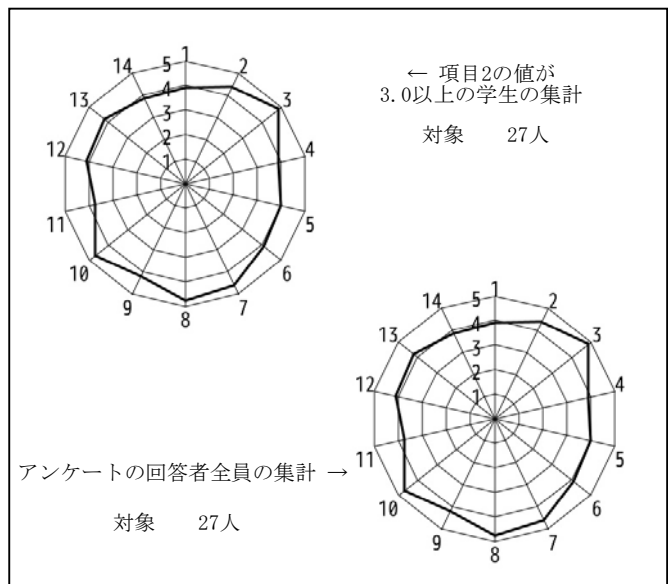
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Generally, I believe that my lessons were received positively by most of the students. Starting from April 2024, we were using a new textbook, so it was quite challenging from a teaching perspective. I've tried to adjust the pace of the, so that students could follow the content of it. Since the answers of the exercises in the text cannot be displayed on the monitor, I always let students give the answers, so that everyone can follow and understand the answers. One student mentioned that he/she sometimes couldn't understand the right answers, so I will make sure to be more clear about it.

From Q2 I will try to keep teaching enthusiastically and will try to scaffold the activities in the textbook, so that everyone can follow. Furthermore, I will create more worksheets to summarize the content in the text better and give students the opportunity to use German in class more.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国語V<H (Q2海外プログラム参加者用)・F>
授業コード	11F05-003
教員名	黄 沈黙
教員コード	104975
登録人数	29
回答数	27
回答率	93.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は次の二つです。1. 常用単語900語を習得している。2. 上記1の語彙量に相応するレベルの運用力を身につけている。

学生に予習として新出単語を書き写すという宿題を出していました。授業中も単語の発音を一つ一つ確認していました。単語のピンイン（発音）だけではなく、簡体字の書き方、そして意味この三つを全部把握しないといけません。単語の具体的な使い方に関しては、文法を詳しく説明することによって学生に理解していただき、また文章を作成する練習などを通じてその使い方への理解の定着を図りました。小テストと定期試験の答えを見ると、多くの学生は単語を習得できていると思われます。ほとんどの学生がまじめに授業内容の勉強に取り組みました。

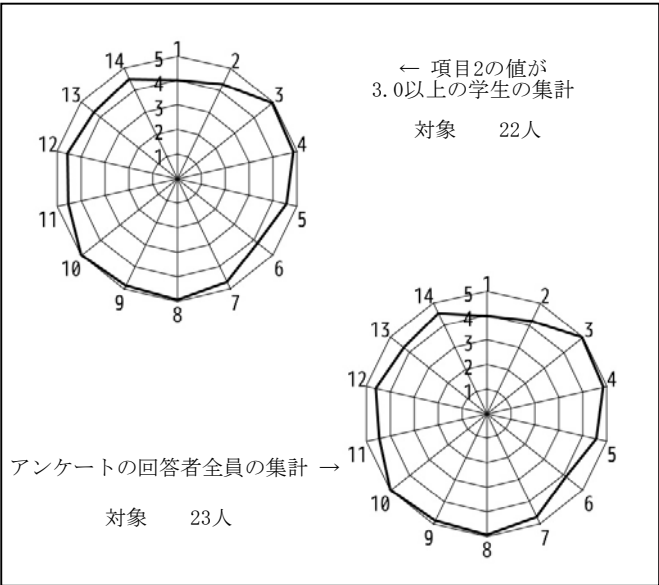
授業では学生にペアを組んで会話発表していただきました。授業中に中国語の発音を練習する機会は多くあったと思います。そのため、最初より大多数の学生は発音においてより正確に中国語を発音できるようになっていると思います。

中級中国語の授業ですので、テキストには比較的複雑な文も多くありました。課ごとにPPTを作成して、それを使って文法をできるだけわかりやすく説明するよう工夫しました。

改善点について、学生が授業中答え間違えられたとき、もっとやさしく指導できるように心掛けたいと思います。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 2
授業コード	11A01-021
教員名	岩城 奈巳
教員コード	049601
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

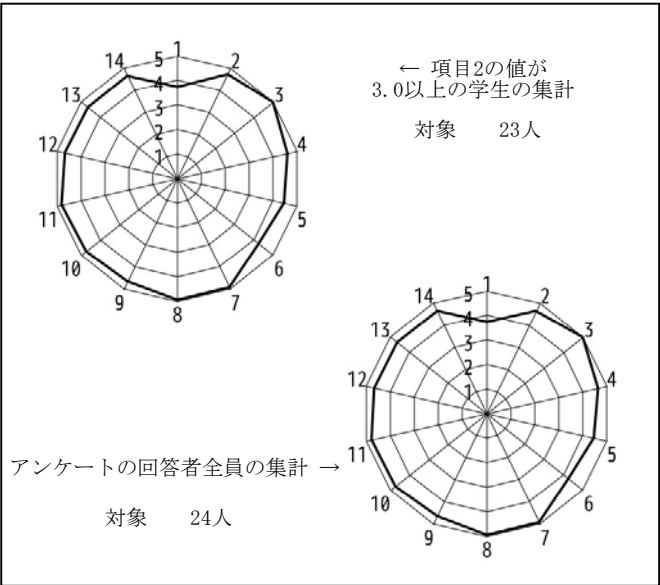


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートは各項目とも平均以上の点数であり、総合的に満足度の高い授業内容だったと感じる。授業では、開始直後に教科書のテーマを紹介し、授業内での目標を説明し、授業終了間際に目標の達成度の確認などをおこないながら指導した。この結果もアンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業は2-3名から構成するグループディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が参加して発言しなければならないように工夫した。自由記述欄では、1) 日常生活で役立つ英語表現を学ぶことができ、洋楽のリスニングを通して楽しく英語を学ぶことができた、2) リスニングの音源を聞き取れるようになるまで何度も流してくれた、3) 分かりやすく、主体的に取り組める点、4) リスニングが多く、実用的な英語の力がついていく感じがする（原文ママ）などのコメントがあった。また、サブの教材として取り入れているTOEICについてもコメントが多く、継続して学習したいコメントもあるため今後の授業でも取り入れていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 3
授業コード	11A01-022
教員名	ADRIANOWICZ, Zbigniew
教員コード	103868
登録人数	24
回答数	24
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



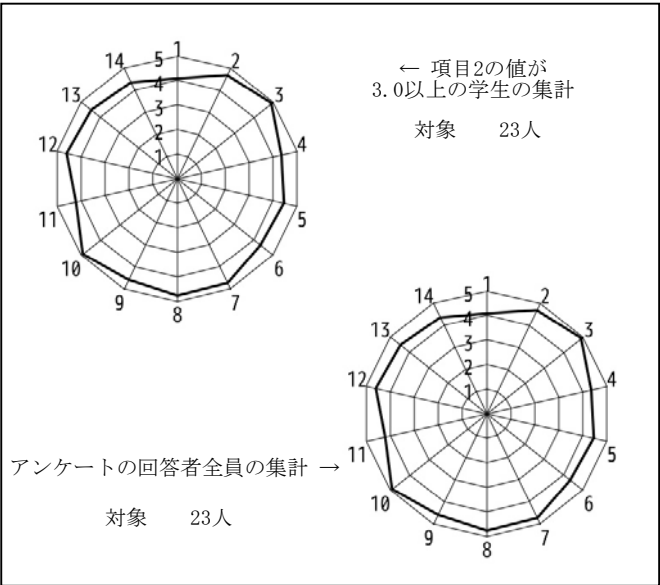
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the class is to give the students a chance to express themselves in English in an uninterrupted manner. Individual or pair presentations give the students a chance to concentrate on their own presentation. Finally, a structured debate, where each student has a specific role, gives them a chance to be able to hear and answer the statements of other people. Most students are becoming used to the presentations, and their English abilities are visibly improving. Pair and team work also gives them appropriate stimulation, making their own preparations more interesting, and giving them a chance to create good relationships with classmates.

In the following quarters, I intend to continue the class format. With practice, students are becoming more and more comfortable both with presentations and with expressing themselves in English, giving them more confidence that they can successfully use the language as their own tool in their future, professional lives.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]
	4
授業コード	11A01-023
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

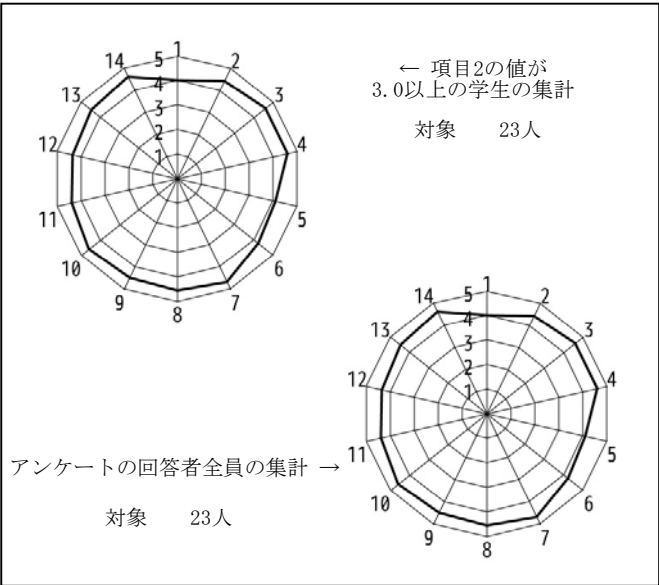


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students graded this course very highly. I tried to be as clear as I could be in giving instructions, periodically asking students to pair up or get into groups to discuss whether and to what extent they could understand the English I orally presented, and if not, to ask questions. In previous quarters students commented that they much appreciated these times out to gather what I had said, and to check with classmates on their understanding of the instructions. I am also very satisfied with this technique, as simply asking the class as a whole if they understand and then moving on does not work, as students in such a situation will very very rarely speak up.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P] 10
授業コード	11A01-029
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	25
回答数	23
回答率	92.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Most students showed a high level of motivation and participated actively so that the goals of this class were generally met.

This class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, proper usage of idioms, develop effective reading strategies, explore both intensive and extensive reading and to develop advanced vocabulary through the serious study of Greek and Latin prefixes, suffixes and roots.

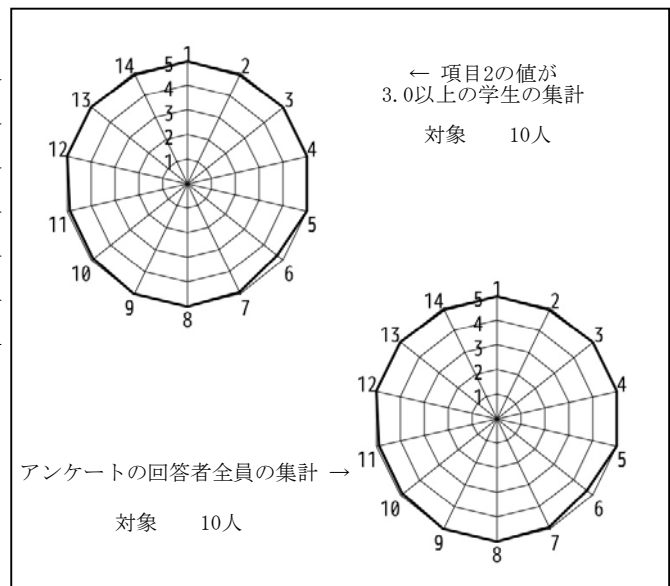
The oral communication portion of this class was centered around various short plays and original writings by these students. These plays and original writings proved once again to be very popular and quite entertaining, while at the same time holding sure educational value.

The extensive reading materials from the school library were chosen by the instructor, with a 2 page list of approved classic novels for the students to enjoy reading and become a bit familiar with the great books of literature in the English language, as well as some known worldwide in translation, for example, Jules Verne, Alexandre Dumas and Leo Tolstoy.

Overall, The class was very pleasant to teach, very challenging and very worthwhile. I look forward to the activities of this class in the coming next two quarters.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[G] 7
授業コード	11A01-038
教員名	高野 洋子
教員コード	104147
登録人数	22
回答数	10
回答率	45.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

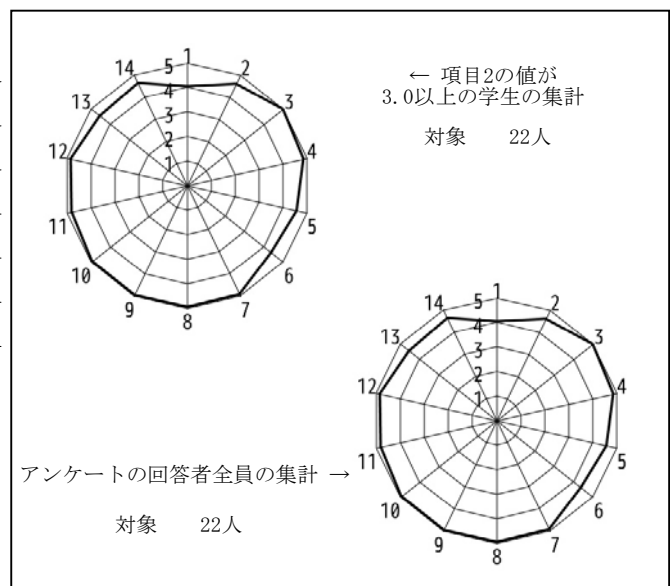
対話能力を伸ばすためのクラス活動を多くした結果、生徒たちがお互いを尊重して議論することに積極的になった。特に緊張していた学生は、トピックに関する質問をすることに、だんだん慣れてきて英語を話す緊張がなくなってきた様子が手に取れるようだった。具体的には、対話を始めてからTOPICを広げて話せる学生が増えてきた。日本人が外国語を話す際に感じる躊躇や、気まずい沈黙をを少しでも減らすために CONVERSATION STRATEGY

を指導した。この結果 学生たちは戸惑うことが減り、会話相手に聞き直したり、自分の意見を積極的に話すようになった。自己評価としては語学力が優れた学生ばかりだったので教科書に沿った授業を中心に発展した事項についても考えてもらった。特にグループ発表ではGENDER について意識調査やほかの国と日本を比較して問題点を自分たちの視点で深く掘り下げて意見を述べる機会を増やした。

また、香港の大学生とGenderについての問題点を議論する為、電子掲示板を紹介して、全ての学生に討論する為の質問を掲載してもらった。結果、教材のテーマをより、自身のことに結びつけて、批判的思考が進んだ。このような学生の個人能力をひきだす授業を実施できたことは高く評価できると思う。次期に指導する抱負は、学習自体に困っている学生に、学ぶ意欲、喜びを教えていきたい。意思が強い学生だけではなく、弱い学生もいると想定できるのでそちらのほうを支援できれば、全体での学習効果がでると思う。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]4
授業コード 11A05-023
教員名 都築 千絵
教員コード 103924
登録人数 24
回答数 22
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

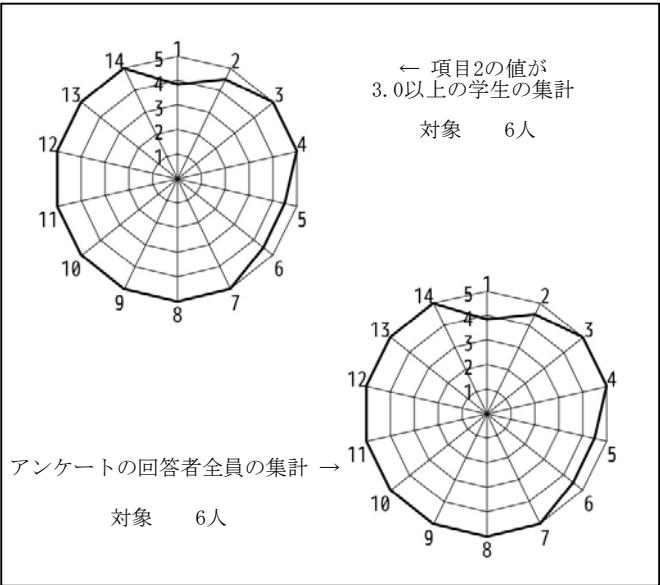


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は通年必修英語科目で、英語の読み書きの向上を目指した。読む方は多読、精読、速読をしてリーディング力を向上させること、書く方はEmailの書き方、パラグラフの構成を学び、パラグラフで英文を書けることを目標とした。両方とも、学生はQ1の目標を到達できた。
- 平均値は、各項目で外国語科目の平均値を越えており、項目3以降では、1、2を選択した学生が皆無で良かった。3を選択した学生が、項目4と項目6で一人ずついた。項目4で3を選択した学生は、良い点として「日本語でも解説を付け加えてくれるところ」と書いており、少し内容が難しく進行速度が速すぎると感じたかもしれない。項目6で3を選択した学生は、「Textbookはあまり好きでなかった」と書いているが、関連は不明である。項目6は平均値が一番低いので、到達目標への意識付けは今後も忘れずに行いたい。
- 今学期、多読の量を計るサイトMReaderを使った宿題の請負いを申し出る者が話題になったが、自由記述で嫌いだったことにMReaderを挙げたのは1人で、良かった点として8人が挙げている。「MReaderの課題があることで、初めて英語の本を読むことができた。英語の本を読む楽しさをわかったので良かった」など大事なツールになっていることがわかる記述があった。最後に、今後も授業の設定目標到達に向けて、楽しい授業を提供していきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]6
授業コード	11A05-025
教員名	BONDOC, Jeffree
教員コード	103469
登録人数	25
回答数	6
回答率	24.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



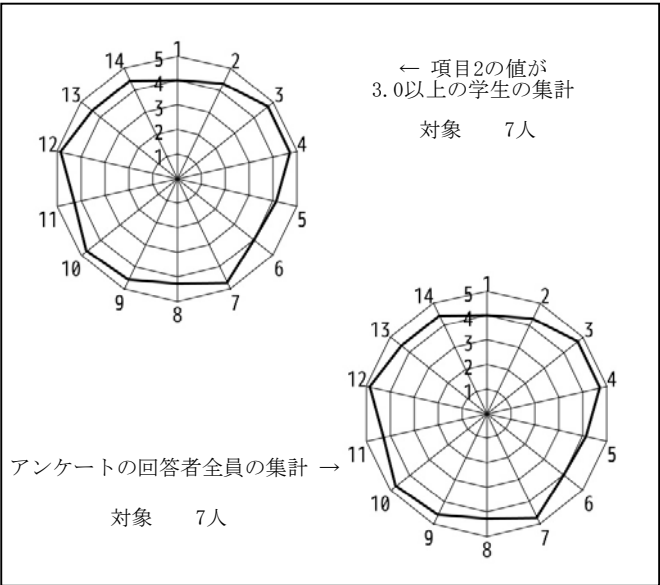
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The classes with P6 went very well this year. I am using a different textbook than last year. It was a challenge getting used to the new material. Some of my explanations weren't as clear as I hoped. I will try to prepare more next quarter. Also, there were no answers to the questions in the textbook, so I had to prepare much more before the class. Sometimes I didn't seem confident with my answers. This may confuse the students if I do not prepare well.

The class as a whole were great. They were motivated and tried very hard with all the activities in class and weekly homework. I followed the textbook closely, but changed some of it to reflect my teaching style and interests. The students seemed to like it. They were engaged throughout the lesson. I would like to change some of the things I did not the reading component. It became a little 'samey'. I should do more varied activities in class, and some for the homework. I will plan for it next quarter.

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]8
授業コード	11A05-027
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	25
回答数	7
回答率	28.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

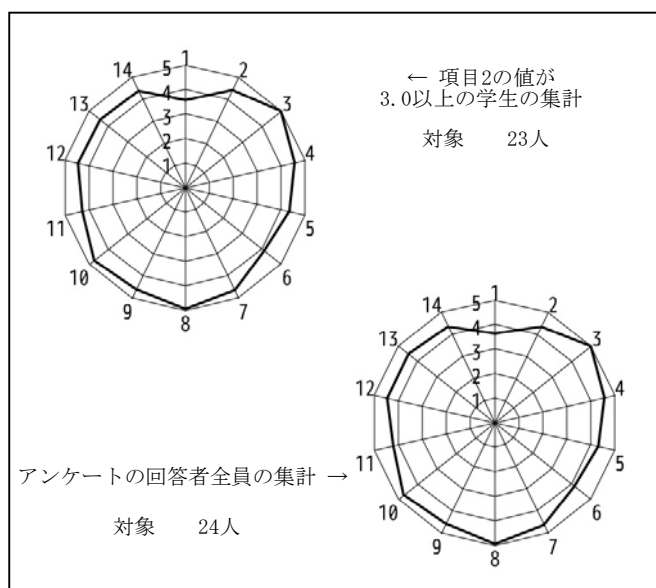


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The evaluations this semester did not seem to offer much in the way of clear criticisms or recommendations for improvement as many scores had little variation from student to student or question to question. From more informal feedback, the class seems to be going well, though a bit more focus on the writing might be appreciated by some of the more vocal students.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]10
授業コード 11A05-029
教員名 橋爪 真理
教員コード 104272
登録人数 25
回答数 24
回答率 96.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスはグループ学習を中心とし、クラス内で英語を発話する緊張感を軽減できるよう授業を展開していきました。そのため、学友と交流し楽しく学習ができたようですが、他者に依存してしまう傾向も見られ、個人と集団活動のバランスを改善していく必要を感じました。

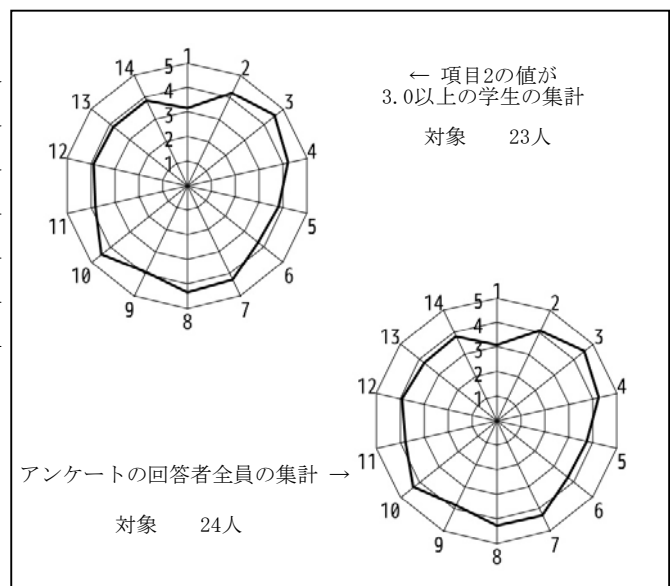
授業ではTOEIC受験を奨励し、英語学習への動機を高め、授業資料、授業形態も工夫したことはある程度効果があったようですが、今後もより良きものを提供していこうと考えています。

目標を“英文を読む、書くスキル習得”と設定し、適宜小目標を提示し授業展開を行いました。Q1においては、リーディング領域で基本的な技巧を教え、図書館の多くの様々な英語本を読む機会を設け英文に親しみより早く深く読む能力を伸ばせるように授業展開を行いました。ライティング領域では、英文での論文様式の基礎的な理解と習得を目指して実践し、正しい英文様式を使って英語論文を書くことができるようステップを設定して取り組みました。また、学習した成果を発表する機会を設け、その都度評価しながらスキルの習得度合いを学生自ら理解できるように配慮しました。

今後のクォーターでは個別およびグループワークで課題に取り組むバランスを取り、授業に対しての予習復習の習慣がさらに身につくよう計画的に取り組める環境を整え、目標の英文を読む技術と書く技術習得について実践を重視してすすめていく所存です。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]11
授業コード 11A05-030
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 24
回答数 24
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

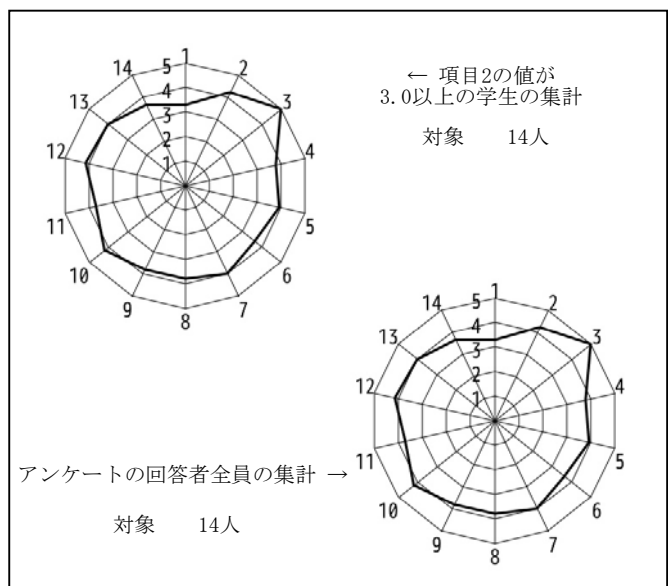
英語Iリテラシーの授業はライティングとリーディングから構成される。Q1のライティングの目標は、書くための準備としてmind mapの技術を使えるようになること、Writing about yourselfという自分に関する内容についてエッセイの為のGrammarのルールを理解した上で150語以上の首尾一貫した1つのパラグラフが書けるようになること、基本的なエッセイのフォーマットが使えるようになることの3点であった。Essay Writingの基本を理解した上で各ドラフトを書くよう繰り返し説明した結果、上記3つのゴールについて到達できたと考える。Q2ではWriting about your activitiesとWriting about your dayという2つの内容で、複数のパラグラフから成るライティングを練習し、Essay Writingの基本知識の定着を図る。

Q2のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburayの知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が良く、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

Q1はまだ導入部分の内容であるのでこのコースの全体像が把握できず、授業に興味を持てなかった学生もいた為、Q2では授業の展開の仕方をさらに工夫したいと考える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]12
授業コード 11A05-031
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 16
回答数 14
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

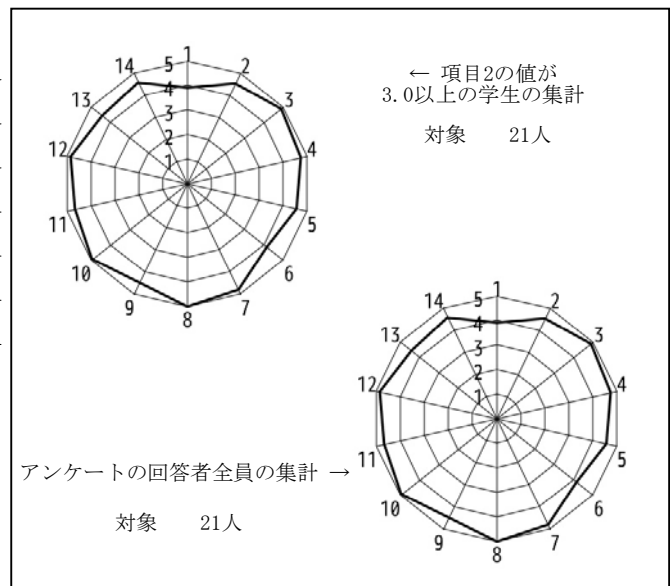


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目的は概ね達成できたが、アンケートのほぼすべての項目で2あるいは1と答えた学生がいたことは反省し、今後善処していきたい。特に、設問14で1の回答者が2人いたことは今後の課題となろう。今年度は、[B]も含めてスタート直後から、一部の学生とかみ合わない感じがぬぐい切れなかったが、そのギクシャク感がアンケートの結果に表れたものと受け止める。ただ、年々すそ野の広がりを痛感している昨今、どのように学生の学ぶ意欲を維持して、英語力向上につなげていくかはかなり難しい課題である。AIの進化、特にチャットGPTが容易に利用可能になった今、writingで単にcopy/pasteしただけの提出物を少しでも減らし、どうしたら自分の力で取り組もうという意欲を育ていけるのか？AIが主役ではなく、補助的なものであり、考える主体はあくまで学生一人一人だということを気づかせるために、何ができるのか？今すぐこれらの問いへの妙案は思い浮かばないが、学生一人一人の持つ長所、伸ばしたらもっと輝きを増すであろうよいところに着目しつつ、よりよい関係性の樹立に努めていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J]
授業コード	11A09-041
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

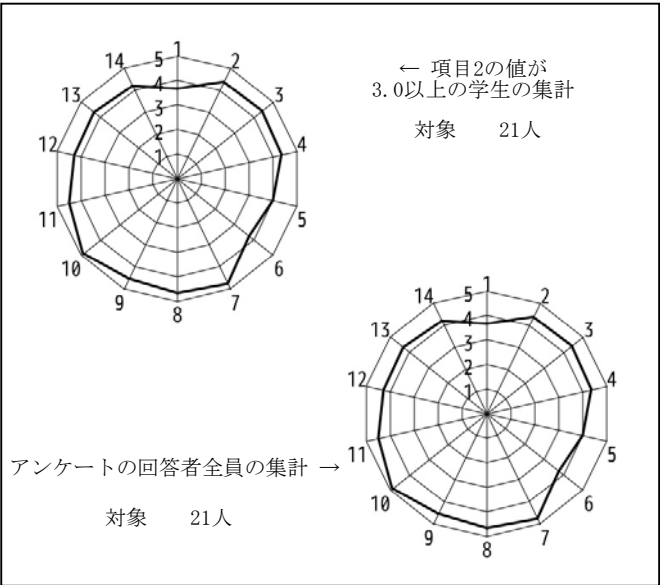


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①スピーキングの目標は、発話の機会を増やすこと。様々な形態のコミュニケーションを経験すること。スキルを身につけること。友だちを増やして楽しい時間を持てること。リーディングの目標は、読むことのみならず、語彙の増強、増強の仕方の学習、文法を正確に使える形を指導する。大切な内容を読み取るスキルを身につけること。②今回は、学生のコメントが大変多かったことがうれしかった。高評価の振り返りばかりで、この授業をうけて良かったと感じてくれていることが伝わる。授業内容には刺激をうけて、学習をしているという実感はあるが、質問（6）の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」という設問は4.14と低かった。まだまだ、成長半ばで、もっと学習して伸びたいという意欲があるというふうに、解釈したいとの同時に、指導者としては、毎回のゴール設定を明確にして現状の力ですこし頑張れば達成できるようなゴール設定で指導していくとよいと思った。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 7
授業コード	11A09-043
教員名	PALISADA Eloisa
教員コード	055830
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

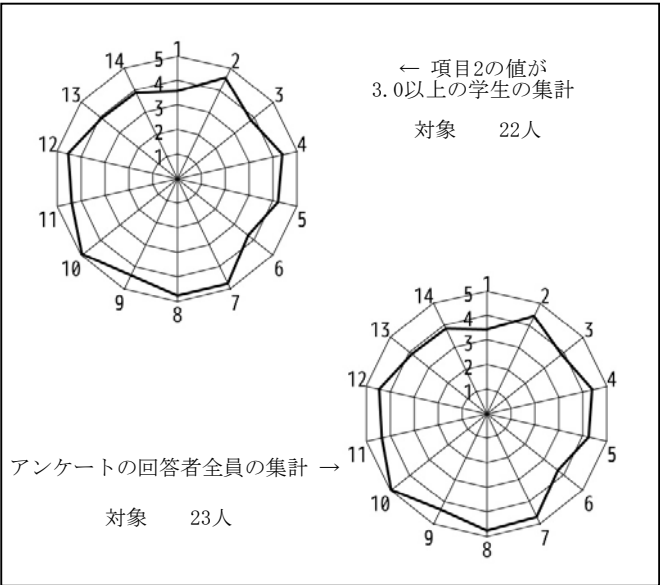


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aims to help students improve their overall ability to use English. Various activities and topics assist them in becoming more confident and proficient communicators. The survey showed they have achieved this goal by 88%. Students spent their time learning vocabulary, interacting with classmates, and reading. The course has a reading component where they improve their reading strategies, comprehension, and speed skills. Rated top among the items evaluated were classroom management, 98%, the teacher's sincere approach in class, 85%, and apt guidance motivating them to be active and independent at the same time. Although 75% noted little interest in the class content before the class began, now they have shown significant changes in their attitude, performance, and communication skills for the better. To cite some of their feedback: "It was perfect and enjoyable that we had many chances to talk with everyone, changing conversation partner daily... Although tough, it was helpful to have dialogue presentations, reading summaries, and discussions... I've learned to give longer answers and appropriate reactions and use conversation strategies... Assignments were given regularly so I got into the habit of reading and studying English." Some students asked for Japanese explanations, especially with homework instructions. It was satisfying to have this teaching and learning experience with this class.

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[J] 10
授業コード	11A09-046
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	23
回答数	23
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



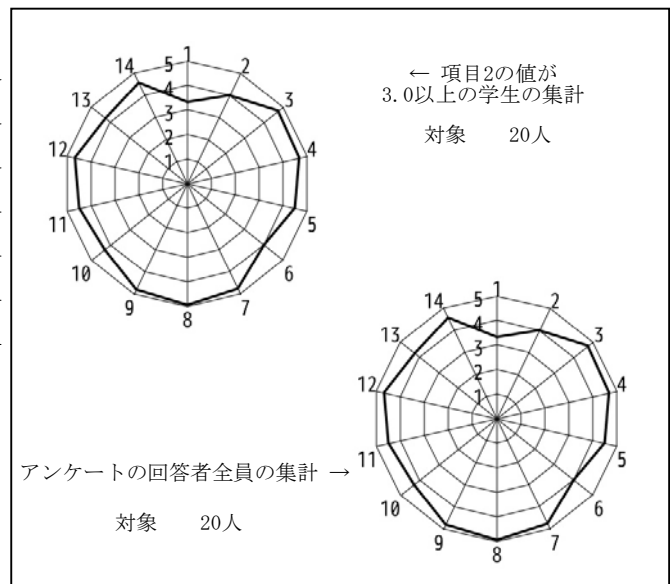
授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度までの生徒の様子を鑑み、今年度は授業コンテンツを2割程度削り授業ペースを落とす思い切った変更を行いました。それに併せて課題や家庭学習への取り組み方がより明確になるように配布書類を追加作成し、また課題を忘れた生徒に個々に声を掛けるようにして、授業についていけない生徒が出ないように気をつけながら進めて行きました。その結果生徒の課題達成率は大幅に改善され、全体的に小テストの点数も上がり、積み重ねた改善の効果が様々な場面で見られました。加えて欠席や遅刻をする生徒も減り、概ね順調なペースで授業を進めることができました。

成績点の平均は大きく上がり、成績評価分布も上方にシフトした点は期待以上でした。しかしコメント欄を見ると、同じ事柄を良かった点とする生徒と改善すべき点として挙げる生徒の両方がいたりして、全ての人の満足を引き出すことの難しさを改めて感じます。改善点として挙げられた内容を精査し、来学期以降の改善の礎にしたいと思います。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[T] 10
授業コード	11A09-058
教員名	山本 菜美
教員コード	104968
登録人数	21
回答数	20
回答率	95.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

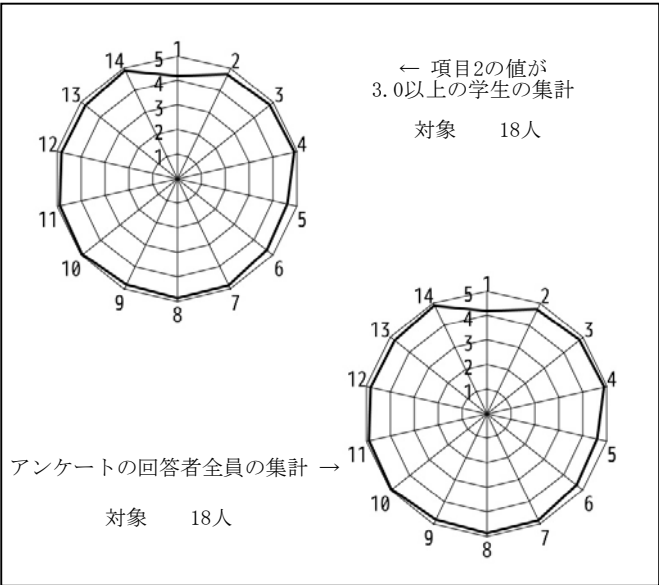


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Although the content of the classes focused on 4 skills + 1 was only slightly difficult for the students, in the first quarter it became clear that the students didn't have positive feelings about learning English. As we finished the first and second quarters, I felt that the students' motivation to learn was a little bit increased, and I no longer noticed any students complaining about the situation of practicing speaking English.
- (2) I had the impression that almost all of the students in my class entered Nanzan with the preconception that they were not good at English or that studying foreign languages was difficult. I also want to improve students' motivation to learn and help them practice areas of they are weak (especially English conversation and presentations) without causing any powerful stress so that they can reach their goals.
- (3) Since there are not too many students in the class, I would like to work more closely with each student and contribute to improving their English skills. First of all, I want to help students think of studying English as just learning a language for a daily grind tool.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ＜全＞7
授業コード	11A13-030
教員名	JONES William M.
教員コード	100263
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The instructor was once again blessed to have a wonderful group of students, varying as always in motivational levels and abilities. The use of playing cards has repeatedly been proven to be not only enjoyable but highly effective in language learning. Most importantly, the physical and mental activity required for group competitions forces students to interact as a team, thus building class cohesion. Most importantly, Ss were able to enjoy classes, even though they were challenging.

Unfortunately, as per one comment, I could not change the sun's intensity coming from the West. When classes occasionally ended early, it was Ss's opportunity to complete their required reading assignments. They were allowed to stay in class and read or leave the classroom and read. Thinking ahead to the following term, I am already modifying several prints to make them more effective.

However, this is quite a challenge and time-consuming. Almost all students and the instructor were satisfied with the course and made significant progress.

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング<全・T>4
授業コード	11A25-026
教員名	PENDELL, Patrice
教員コード	104625
登録人数	21
回答数	3
回答率	14. 3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Goals have been achieved. The majority of student earned A or A+ grades. The approach including summarizing, which students are mostly unfamiliar. However, with guided practice and repeated activities, student learn and acquire not only better listening skills and summarization concepts.

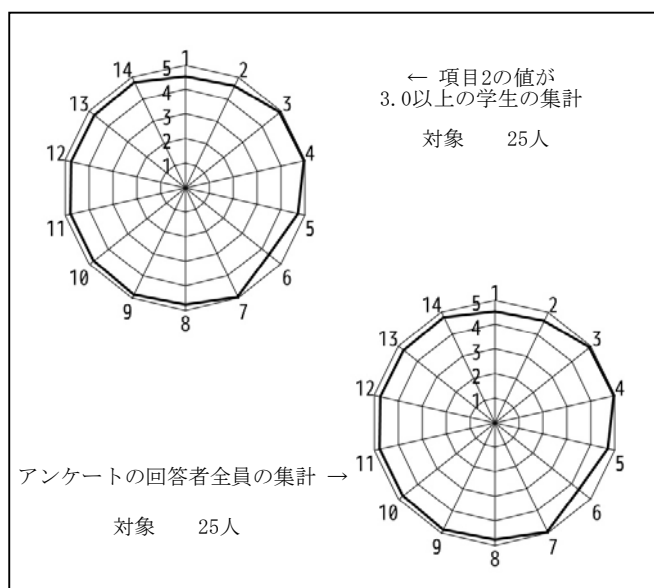
Overall, students did well and enjoyed class. Class reviews are written in the last class to offer suggestions and feedback on the class.

Class will continue with clear expectations and schedule. Class plans are clearly and fully posted to all students via WebClass.

Additionally, communication is clarified and repeated in class. Students commented they like the book and conversation activities. Class will continue using same approach, listening, answering questions in the text book; listening with summarizing; and student-pair communication activities.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]2
授業コード	11A02-002
教員名	ELLIOTT, Darren
教員コード	101579
登録人数	27
回答数	25
回答率	92.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



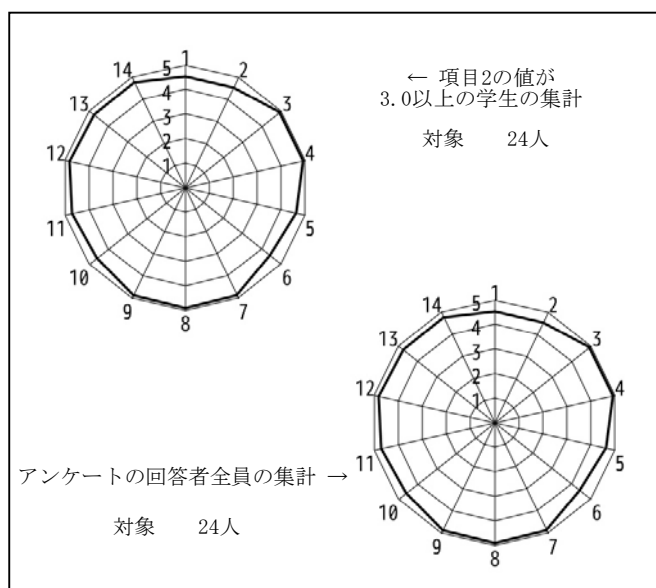
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The feedback for this course was very positive, so it is hard to address any specific points that came up in the evaluations themselves. I have been teaching this course for a number of years now, and know what to expect from the learners. I have also been able to continue developing materials which engage and challenge the students, and it is gratifying to see that they enjoy the course content. My work is made easier because students in this department are generally motivated to learn English, and are fairly proficient at English before joining the class.

Something which was not raised in the evaluations, but which I am slightly concerned about, is a level disparity between the students. The classes in this department are not streamed in the same way that they are in other departments, which means that some students in each class are at a lower level of proficiency. Some find that motivating, and work harder to keep up. Others do not, and may pull back their more capable classmates. I have a sense that some of the stronger students feel that, so I am mindful that I must not let such feelings cause friction. Something to work on for the remainder of the year.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]3
授業コード	11A02-003
教員名	HOWREY, John
教員コード	100371
登録人数	28
回答数	24
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

English II: Oral Communication introduces skills and practice for developing conversation, discussion, and presentation skills. Students also develop note-taking skills from listening exercises inside and outside of class. This course also used COIL so students interacted with peers in the US at the University of North Georgia.

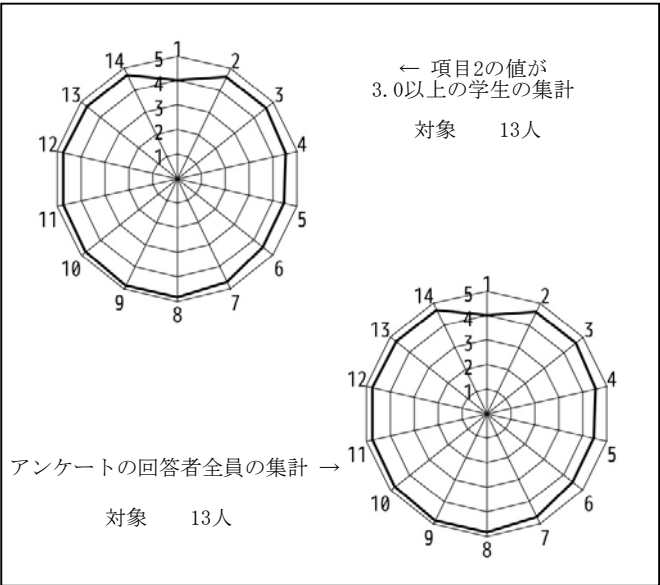
Student feedback was positive. They liked that they could talk and discuss with native-English speakers each week. Comments include:

- The teacher's English was easy to understand, and the class was easy to do. In addition, there was a lot of group work, and I think the students got to know each other better.
- I had the opportunity to interact with students from overseas, where I could gain various communication skills and new knowledge.
- The teacher cared about the students and determined the amount of assignments and the speed at which they were progressing.
- We did a lot of group work and the teacher always came to each group to answer our questions. His English is easy to understand.

This course could meet the course objectives and I will continue to use COIL in the future.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]4
授業コード	11A02-004
教員名	FLORES, Ana Maria
教員コード	102899
登録人数	27
回答数	13
回答率	48.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



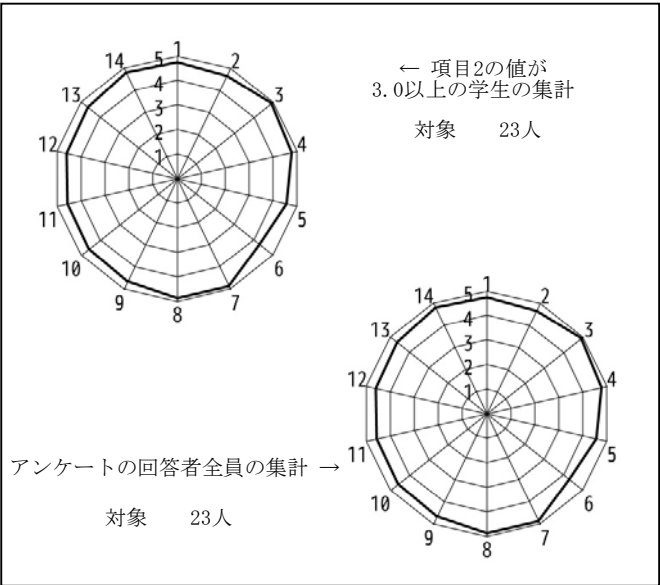
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Self-Reflection Report

- (1) Goals and Achievement: The primary goals were to improve students' English communication skills, encourage critical thinking on social issues, and boost class participation. Most students showed notable progress in their speaking abilities and active engagement which demonstrated that the goals were achieved.
- (2) Self-Assessment and Evaluation: Student feedback and class data are positive, with students noting engaging content and active participation.
- (3) Looking Forward: Next quarter, I will focus on improving students' listening, speaking, and reading skills through structured activities, focused instruction, and targeted feedback. My goal is to achieve a balance among these skills and provide a more comprehensive learning experience.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]7
授業コード	11A02-007
教員名	PEO, Jared
教員コード	104673
登録人数	26
回答数	23
回答率	88.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

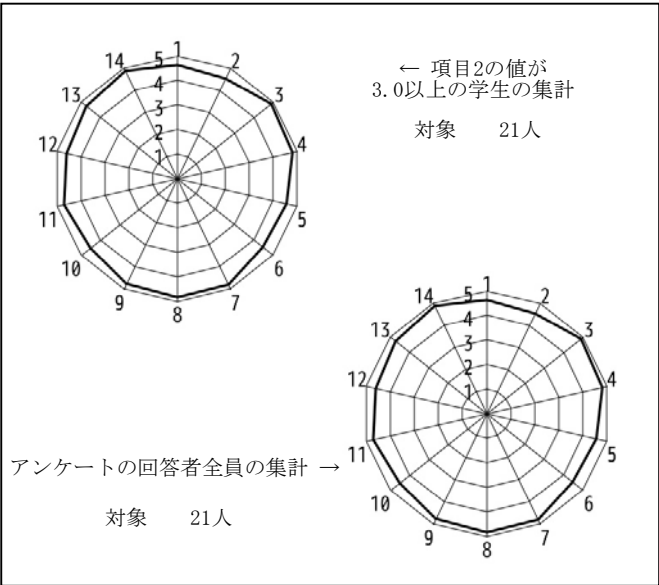
The course goals of this class are centered around speaking and listening. Because the students had good rapport with each other, they easily met the conversation goals (3-7 mins) and the presentation goal (3-5 mins on an academic topic).

Overall, the evaluation was relatively high, and this matches my experience with the students. The lowest score in the class comes from understanding and working towards the class goals. Part of this is that many students don't read the syllabus carefully. Despite going through it in class each quarter, many ask questions later that are answered in the syllabus. In addition, on a survey in Q1, I had a student claim that a listening activity was more suited for Academic Skills than Oral Communication. Some students may think Oral Communication is only for speaking.

Going forward, I will improve my communication of the course goals by pointing out which course goals are the basis for tasks. In addition, I need to find a way to challenge each student at their level while also helping them work together without getting irritated or frustrated. This is due to the diverse proficiency levels in the class.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]1
授業コード	11A02-020
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	22
回答数	21
回答率	95. 5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



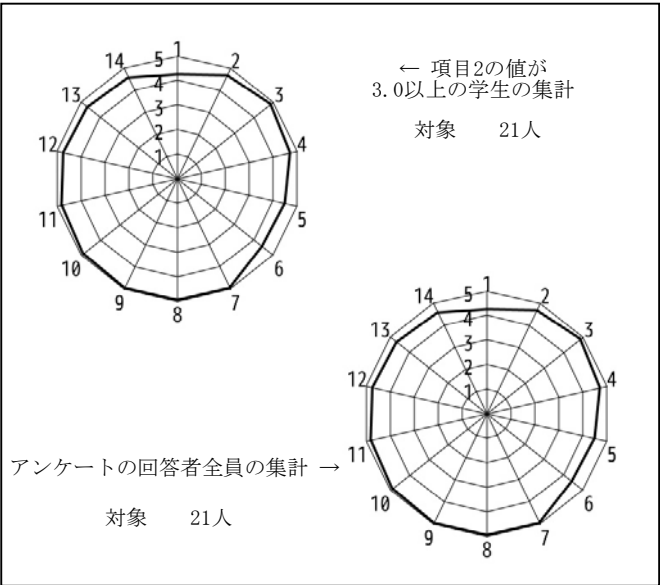
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a class of Oral Communication. Included in the goals of this course is: making comparisons, suggestions, requests, complaints, and speculations; give a two minute self introduction; dictate or take notes from a 1- to 3-minute listening task. Also included as a goal for this course is to be able to express one's opinions in a clear and coherent way. These goals were met during Q2. Students rated the class highly, with an overall satisfaction average of 4.72 from a question rubric of 5.00. Comments from the students included: a(ただ聞くだけの授業ではなく、自分で考えて発言することが求められる授業であったため、英語力が身についた点。; b) teacher always use familiar example for us, so his explanation is easy to understand.; and c) 楽しく授業ができました。

I asked my students to send me suggestions for future class activities, and received a wide variety of ideas which I intend to implement in Q3 and Q4.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]5
授業コード	11A02-024
教員名	MILLER, Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



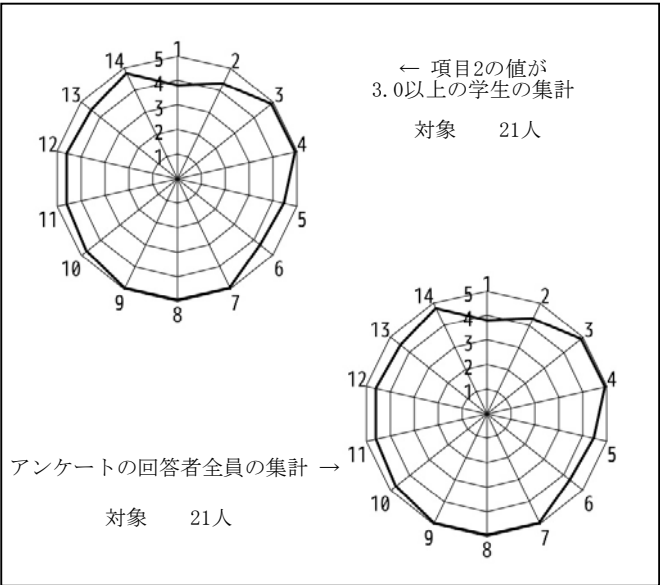
授業評価結果を踏まえた点検・評価

. The students have worked extremely hard over quarter 1 and 2, I am very happy with their progress. Public speaking can be a very difficult course, especially for new students who may not be used to the university learning environment, but all of the students have presented very well. One area we may need to focus on is responding to questions with one or two word answers, which can bring a conversation to a halt; I will work to improve the students' fluency so that they have more opportunity to talk with one another in more informal settings, which will hopefully build their confidence in using English.

I'm very glad the students reacted positively to the class, and I will continue to make sure they find the class as fun as it is challenging.

2024年度Q 2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]11
授業コード	11A02-030
教員名	LANGLEY, Patrick
教員コード	104288
登録人数	24
回答数	21
回答率	87. 5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

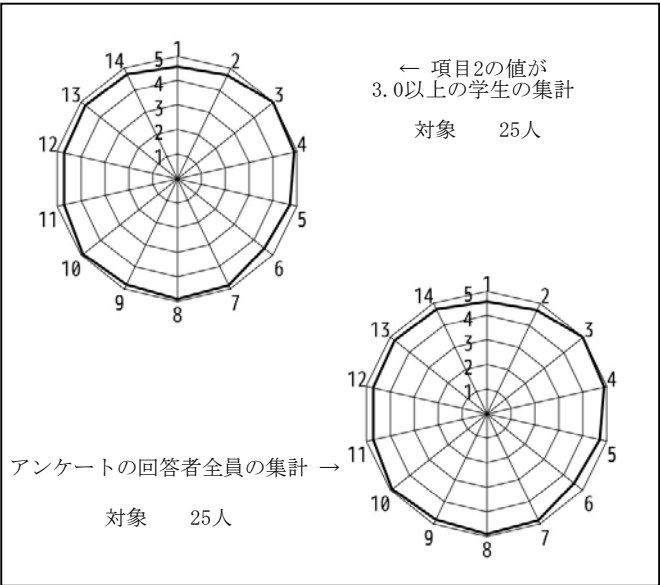
I am comfortable that the main speaking and listening goals for this class were understood and the students have made progress towards them.

Overall, I am pleased the the feedback and scores from this class. Apart from Q1 the results are above average in every question. I am comfortable that the goals that were set, reset and reviewed were met and look forward to renewing and resetting them in quarter 3.

I hope to encourage students to become more interested in acquiring English as a spoken language and for them to have a more positive outlook on language learning in the future.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[FB]2
授業コード	11A06-002
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	28
回答数	25
回答率	89.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

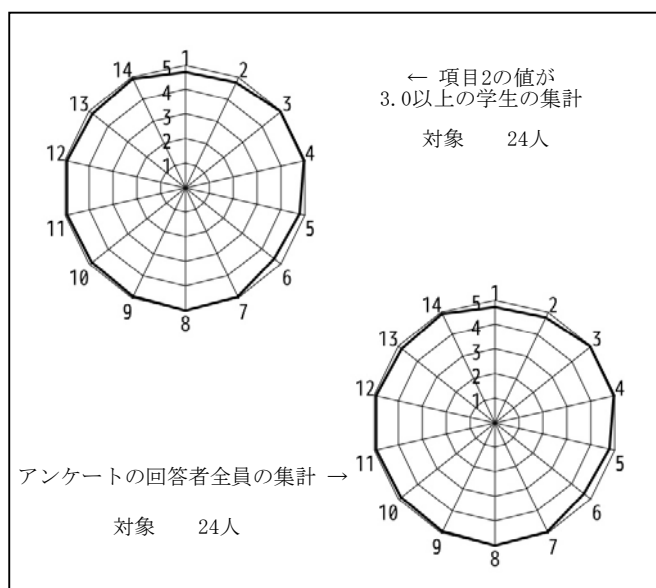
The goals of this course included completing two writing projects, reading 8,000+ words or more a week of graded readers, and passing a vocabulary quiz at the end of this term. Almost everyone was able to reach all of these these goals successfully this term.

We will continue working with partners and in small groups frequently to complete our reading and writing activities.

Next term, I will be sure to draw everyone's attention to the guidelines in the syllabus, including the scoring for M-Reader quizzes and the extensive reading project (which is not an all-or-nothing assignment as described in a comment here), several times throughout the term so it is fresh in our minds. We will also begin working on more challenging writing assignments and referring to outside sources using APA style.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]5
授業コード 11A06-005
教員名 ZONI UPTON, Jessica
教員コード 104815
登録人数 26
回答数 24
回答率 92.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



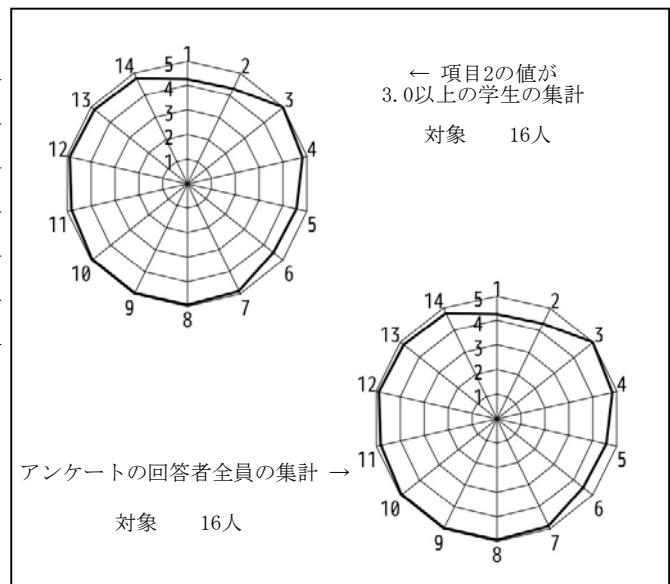
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course goals focus on improving students' writing and reading abilities. As reported in multiple students' comments, essay feedback and weekly writing practices in particular have been helpful to achieving the first goal: "essayについてのフィードバックがとても丁寧である点。"

初めは全く知識がなく不安だったが、書き方について詳しくわかりやすい指導を受けたため、スムーズに課題を進めることができた", "数日に1回 writing noteをとる時間が20分自分の英語力を試すことができました". Students also had multiple opportunities to discuss and work together to understand reading contents in more depth, which students appreciated, and ultimately helped them reach the second goal: "みんなで話し合ったりして、意見をシェアできたこと". Furthermore, the statistical data shows a 4.87 average, which shows that students have found the course useful and satisfactory. For the following quarter, the course will continue as before considering the satisfactory student evaluation, with minor changes to reflect students' comments for improvement, specifically making sure that all students are comfortable with the room temperature, and allowing for further discussion time when possible considering the available class time.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[T]7
授業コード	11A14-015
教員名	加藤 尚子
教員コード	103630
登録人数	24
回答数	16
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

英語での発話と読解力の向上を通して。語彙を増やすのを目標といたしました。学生の中には英語での発話を恐れているのを感じましたので、授業の中で常に発話をしやすい環境づくりに努めました。結果、学生にとって「自分の言葉を英語化する力がついてきていると思う。」や「コミュニケーションをする機会が多かった点。」という声があったように、英語で自分の考えを述べる力がついてきたように思われます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

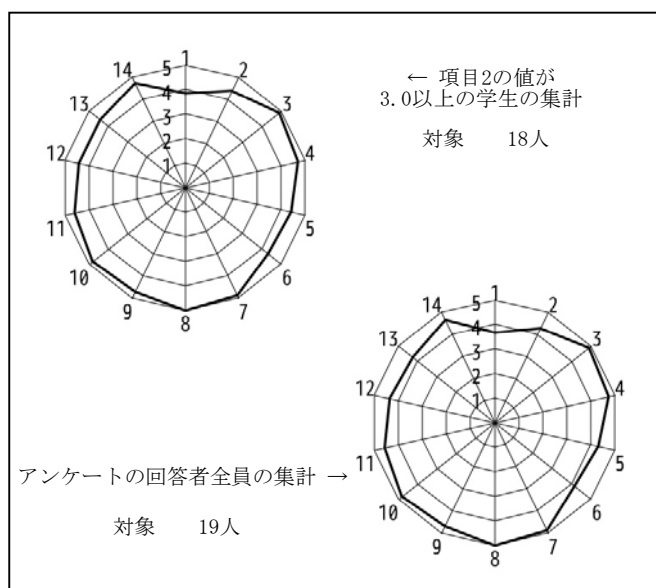
今回は、英語に少し興味を持っている学生が例年よりも多く感じました。そのため、授業での参加も熱心だったように見受けられます。また、進行速度も適度だったようで、これからも学生の理解度を見ながら授業を進めていきます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後の抱負では、「Speakingをもっと増やしてほしい」という声もありましたので、後期では更に英語でディスカッションなど論理的思考力を向上させるアクティビティを中心に行っていきたいです。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリーディング<全・T>13
授業コード	11A24-013
教員名	石崎 保明
教員コード	102444
登録人数	24
回答数	19
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

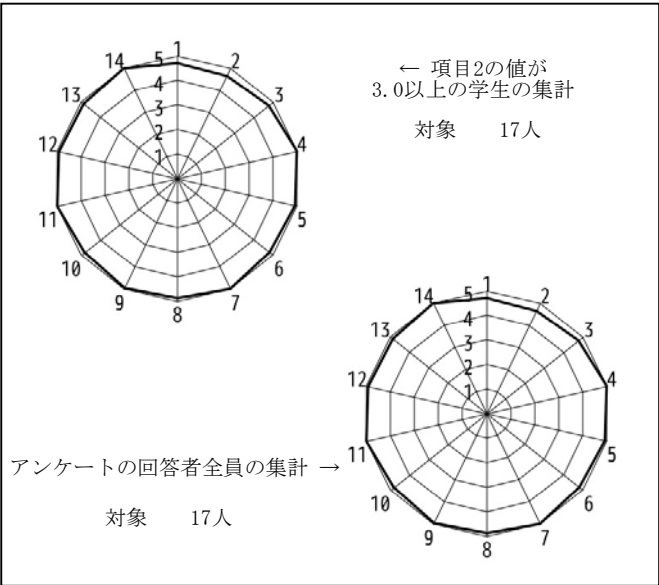
今回授業評価を受けた科目は、英語読解力を育成する選択必修外国語科目です。英文を楽しく読み他者に口頭と英文の両方で伝えることを実践する多読課題と、学術的文章の特徴を押さえて読み進めることを目標とした精読課題、を両輪とした授業を計画・運営しました。同科目は、受講生の約7割が同一学科に集中していたものの異なる学科の学生もあり、個々の受講生に目を配りつつ、テキストの内容だけでなく英語の豆知識的な話題も交えながら、丁寧な説明を心がけました。

項目4-14のうち12を除くすべての項目で回答者のおおむね90%以上から5または4の評価を受け、多くの受講生に受け入れられたと考えます。しかしながら、受講生の1名の学生が項目5, 6, 13において1または2の評価をつけていたこともあり、直近となる2022年度Q2で授業評価を受けた同趣旨の科目と比べると、0.13ポイント下回る結果となりました。当該の学生については、他の項目1, 2, 14についてもそれぞれの項目最低点をつけており、これらの項目のいくつかが到達目標とそれに基づく達成度（満足度）に関わるものであることから、当該学生はもう少し高度の授業を求めている印象があります。ただ、そのような受講生がいることも念頭に、到達目標の設定とその遂行をより徹底することで対応していきたいと考えております。

自由記述欄では、授業内でのペアワークの豊富さなどについて概ね好意的な意見が大半でした。他方、授業冒頭の英語によるディスカッションのスライドでの課題指示がわかりにくいことがあったという指摘もあり、この点は改善の余地があると考えています。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語III[FS]2
授業コード	11D03-006
教員名	MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel
教員コード	104658
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

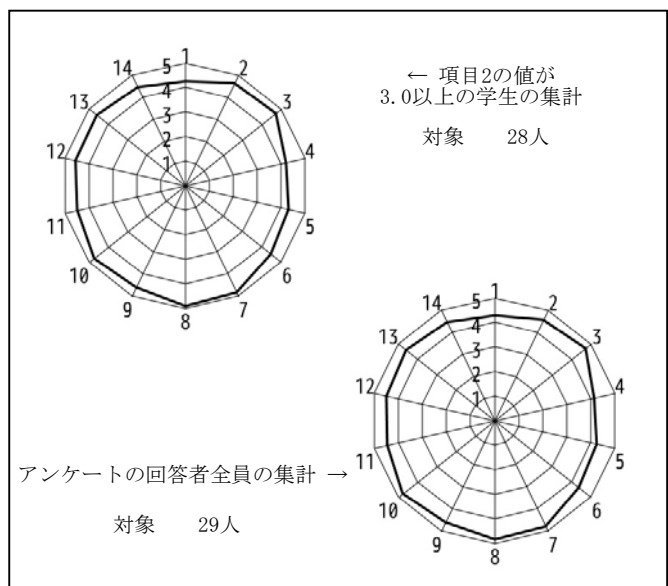
The goal of an introductory conversation course to Spanish for speciality is to give students a general idea of how the language works, learn a sufficient amount of vocabulary and structures and allow students to practice in a relaxed collaborative question open classroom. I think this year we have achieved these goals and we have create an open athmosphere where students ara allowed and encouraged to ask questions and the teacher , through them, was able to help students language developement individually.

The results of the survey have been really good and I am happy about it, but I would like to keep my senses allert to improve areas I couldn´t cover well enough in my opinion. (more oral practice, more autonomous learning, more focus on form exercises for example)

When you create an open learning environment you know where the lesson starts, but you never know where the flow of the lesson will lead it. I will complement the exercises I sacrificed during this term with similar practice during the next term.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語II<E・B>1
授業コード 11G02-004
教員名 陸 心芬
教員コード 101225
登録人数 34
回答数 29
回答率 85.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

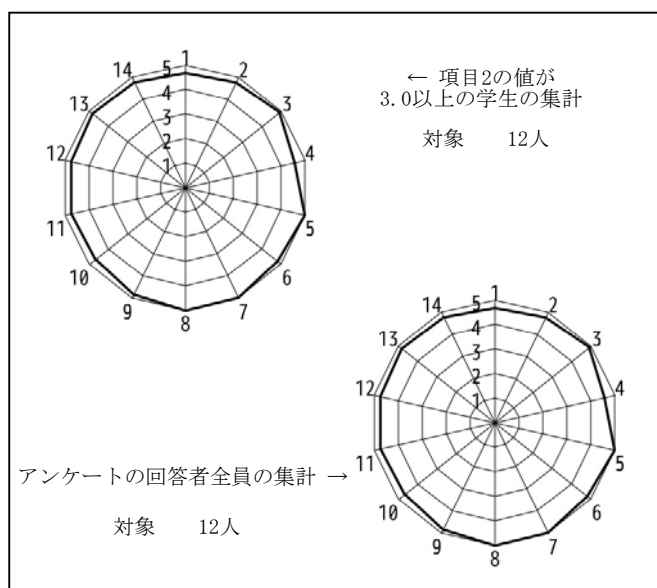
Q2の授業目標であった基礎文法及び基礎会話の習得について、学生による授業評価の設問項目の平均値が4を超えており、おおむね達成できたと考える。

授業の良かった点について22名のコメントがあった。その中「プリントがまとまっていて学習しやすい、親切、質問しやすい環境、分からない所の解決、友達と関わる機会が多くあり学習内容を深めることができた、きちんと学べているか毎回確認しながら進めてくれる、生徒一人一人と向き合う教え方、定期的な小テストで知識が定着、復習の時間を多くとって理解が深まる、音読を重点的にやるので頭に入りやすい、授業の進み方もとても円滑」などが書かれており、全体的に学生の学習がスムーズに行われていたと考える。今後も良い点は生かして進めていきたい。

授業の改善点について10名のコメントがあった。「難しい文法などを教える時に限って進行速度が速い」「分からない人向けにもっと質問の時間が欲しい」「日本語で説明が少しわからないところがあった」「授業プリントが2枚だと少し量が多い部分があった」「席が固定ではないのだが、初回でほぼ決まってしまうので、席替えが必要だと思った。隣の人と相性が合わないこともあると思うし、席替えをした方がコミュニティも広がると思う」などがあった。席替えについてはQ3から取り入れるつもりである。他の改善が必要なところは改善していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)1
授業コード 11L17-001
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



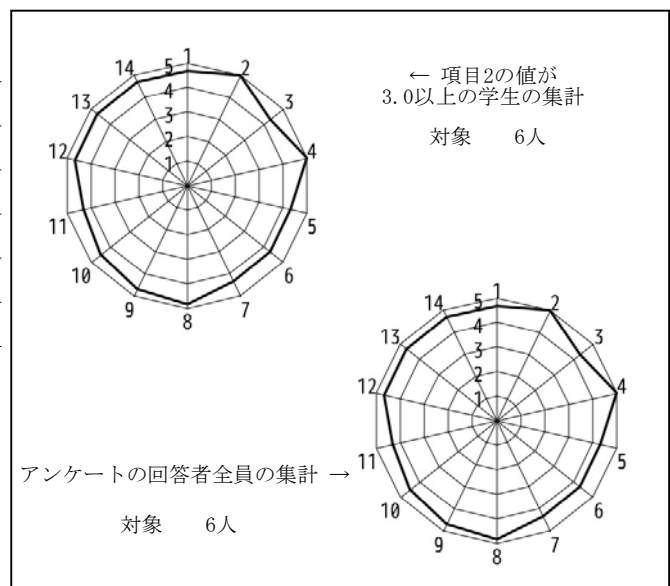
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、文法の時間に習った文型や表現を活用して、留学生が日本語で書かれた文章の内容を正確に読み取れるようになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ（4.83）から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問6（到達目標に向けて力がついてきているか）、設問7（担当教員の授業に取り組む姿勢）、設問9（学生の理解度への配慮）、設問13（新たな知識や技術の獲得、理解の深まり）などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「授業はとても楽しく、わかりやすかった」「このクラスに出て、日本語が上達した」「教え方も説明の仕方も適切だった」「新しい言葉や日本の文化を教えてくれた」「読み物があまり好きじゃなかったが、だんだん好きになった」などの評価が多く、受講生たちの満足度の高かったことがうかがえる。

一方、今回の各設問の平均値の中では、設問4（授業の構成や進行速度の適切さ）の項目への評価が最も低かった。日本語をゼロから始めた学生や非漢字圏の学生などにとっては、進行スピードが速く感じられたかもしれない。来学期からは、学生たちの様子をよく観察したり理解しているかどうか質問し確認したりすることにより、より一層学生の理解度に配慮しつつ授業を進めていきたいと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(作文)1
授業コード 11L18-001
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

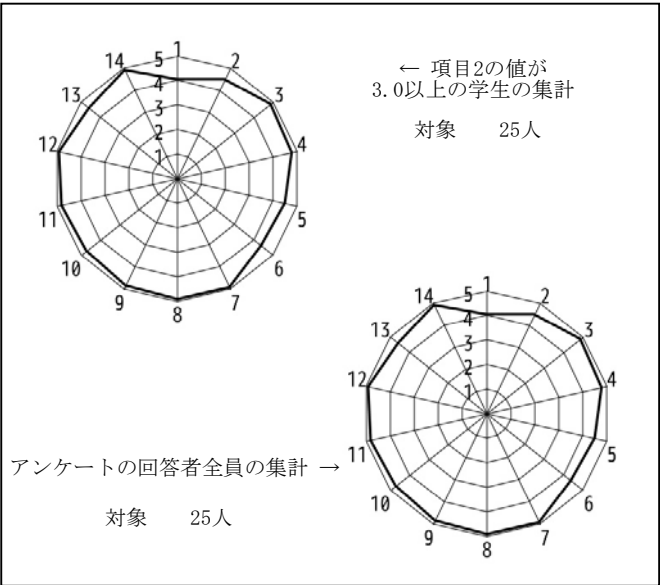


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期の状況は①開講目標に全員が到達し、そのための運用能力の練習にはほぼ全員が毎回熱心に参加してくれたので、教員側も能力の伸長度合いを確認しながらそれに対応した課題を考案することができ、良い意味でのコミュニケーション教育ができた。②数値データは質問2（主体的）、質問4（毎回の授業構成と進度の適切さ）に全員5点回答の他、すべて平均4.3を上回り、質問14の高い満足度（4.67）や質問9（学生の理解度に配慮した進行）質問12（十分な質問の機会）質問13（この授業による知識技能の獲得）質問8（教員の声がよく聞き取れたか）はいずれも満足度が高く、これらの項目が「個々人の取り組みをもとに、教室内でのやりとりを重視した授業展開」を反映している。③学生の質とくに教育への期待は近年流動的で、与える刺激や情報量によって大きく変動するものであると実感しており、今年は学外授業へも引率し、そこでの学びを授業内展開するなど、教室内に加え社会コミュニケーションも意識したことが学生の意欲を引き出したと考えられる。一方で、既習かつ高い言語能力を保持していたり、出身国で能動的学習を経験したことがないなどの問題が発見される学生もあり（今回は1人の学生が質問5, 6, 7に1を回答しているが、この学生は日能検2級を学外でも学内でも超え大学院レベルの授業受講が可能であるので、他の学生を配慮した現行の授業進行に満足できないのは致し方ないと考えている）、この問題は履修直後にすでに顕在化していたが特別対応を要望したものの配慮されなかった事例である。こうした履修配置（プレイスメント）に加え、文化適応の点から日本語能力レベルに関わらず本職の授業を受講したいと考える学生も一定数いることが分かっている。それら外部要素による教室内多様性を考慮しながら、あくまで主たる課題を持つ学生を対象とした授業展開を重視していくことが肝要と考え、次年度以降も幅広い学生が学習動機を高める課題を選定しながら「能動的に学ぶ」実践を深めていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B 19
授業コード	11A02-016
教員名	MCCANN, Albert
教員コード	104969
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It seems that the students had many positive remarks. They were able to work in groups and pairs. Many opportunities were provided for self expression, but without pressure. The motivation to speak increased and many students had fun. There were different activities and presentations that improved their confidence and ability. The students largely achieved the class goals.

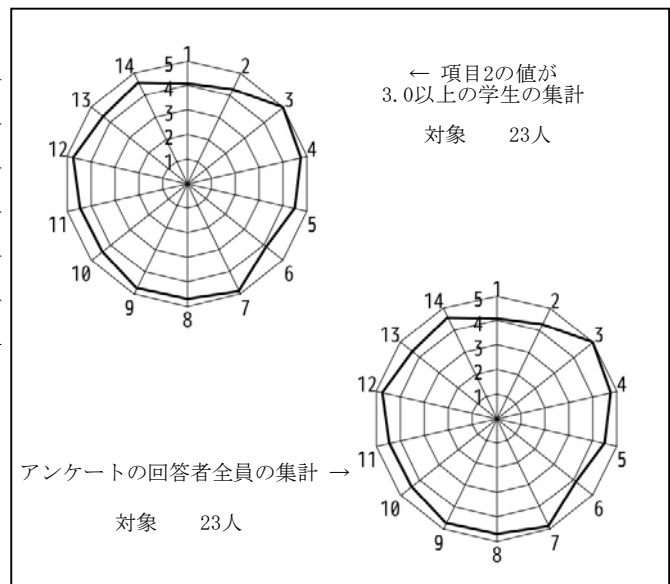
I believe, based on what the students said, that I was able to create a safe environment for them. The data provided in the survey shows improvements in learning outcomes. In almost all important measurements, the Oral Communication class was successful.

In the next term, I will keep providing novel ideas and fun activities for the students. It was satisfying to see almost all students engaged. This class belongs to them, not to me. My role is to guide them to their goals, but at a reasonable pace. In the next 2 terms, we may move more quickly and attempt difficult learning objectives.

Albert McCann

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]
	11
授業コード	11A02-018
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	25
回答数	23
回答率	92.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリスニング力及びスピーキング力を高めることを目標としている。具体的には会話やインタビュー、モノログやビデオ教材など様々な教材を視聴して、内容を把握し、要約できるようになること、また、スピーキングについては、トピックについて2分程度話すことができるようになることを目標にした。授業では、会話のストラテジーを学習し、ペア、またはグループで発話練習をする。学生は3回のオーラルプレゼンテーションを通して成果を発表する。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.61、学生の授業に対する全体的な満足度については4.57であった。今期は特にペア・グループワークを通して発話練習に重点を置いた。そのことは、実際に「英語を話すことでコミュニケーション能力が向上した」との回答からも良かったのではないかと考える。ペア・グループワークを頻繁に取り入れたことを多くの学生が評価した。授業については「分かりやすい」「質問がしやすい」「楽しい授業」「発音方法が理解できた」など複数の高評価がある一方、「もっと主体的に学べるようにした方がいい」との記述も一つあった。第3クォーターでは、スピーキング練習の更なる工夫と学生の自律学習を促すことのできる授業を心がけたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G12]
授業コード	11A02-033
教員名	DOIRON, Heather
教員コード	101990
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

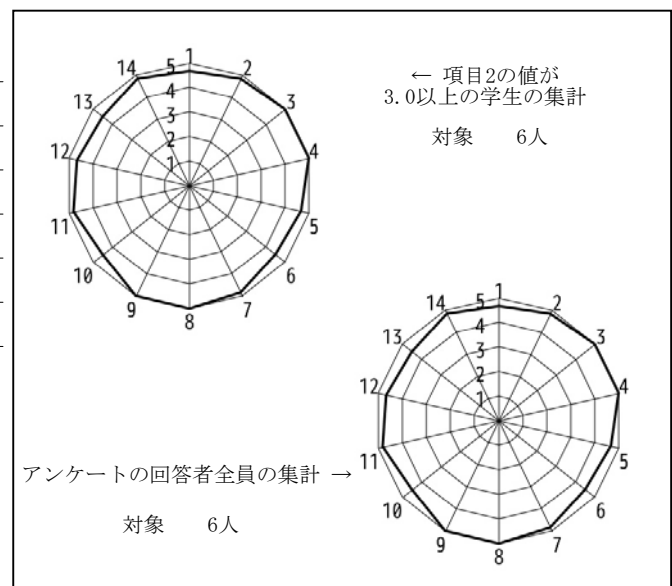
The course met all of its objectives. The interactive and diverse teaching methods effectively engaged students, although there is room for improvement in addressing individual needs, particularly for advanced grammar topics.

For the next quarter, the following measures will be implemented:

- Enhanced Support: Introduce targeted workshops or additional resources for complex grammar topics to provide more tailored support.
- Increased Interaction: Incorporate more interactive activities and real-life scenarios to further engage students and apply their skills practically.
- Regular Feedback: Implement more frequent feedback sessions to better understand individual student needs and adjust teaching methods accordingly.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G 18
授業コード	11A02-039
教員名	木下 薫
教員コード	104328
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

- (1) 学術的および社会的な文脈でのコミュニケーション能力を高める→達成できた
- (2) 授業のテキスト等の内容を批判的に探求し分析する→達成できた
- (3) 自分の意見を論理的かつ適切に表現する→達成できた
- (4) さまざまな問題に関して意見や視点を整理し、発表する→達成できた
- (5) TOEFLまたはIELTSのテスト対策の学習を始める→導入のみにとどまった

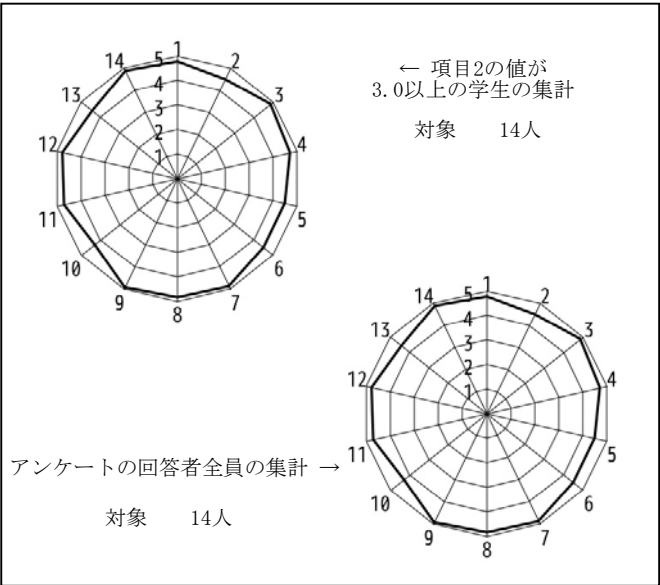
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業の構成や進行速度、教員の授業に取り組む姿勢などについては、おおむね良好な評価を得られたと思う。同時に、授業の到達目標の理解が十分でないと感じる学生もいることがわかったので、めざすべき学習者像をわかりやすく示す必要があると感じる。授業の内容への興味や理解、学習意欲に関する自己評価は相対的に低い。大学では勉強は自発的にするものなので、学生は受け身にならず、自分に合った方法で英語の学習を続けてほしい。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
引き続き、ペアやグループで実践的な内容について意見交換し発表する機会を多く設けていく。また、課題の説明を早い時期におこない、学生が準備時間を十分確保できるようにする予定である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]1
授業コード	11A06-008
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	22
回答数	14
回答率	63.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

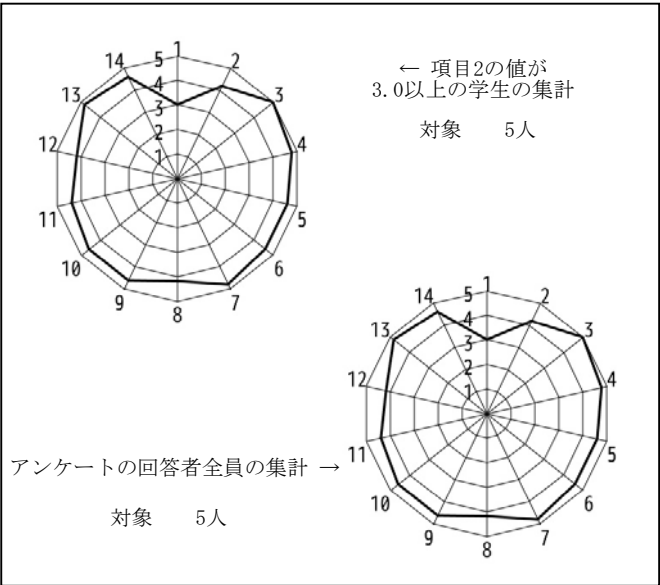


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the student evaluation but must tighten up and improve in certain areas. The students said they would like more speaking practice and enjoyed weekly short writing exercises. In the future, I will give students greater autonomy in choosing subjects for discussion. The students enjoyed the presentations but found it difficult to use PowerPoint. The balance between the four skills was about right, but I will add extra speaking to the syllabus in future classes. I will learn more about the students and alleviate their problems. Judging how much assessment is made in Web Class is an area that will be monitored.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]2
授業コード	11A06-009
教員名	BLOWER, Luke
教員コード	104287
登録人数	25
回答数	5
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

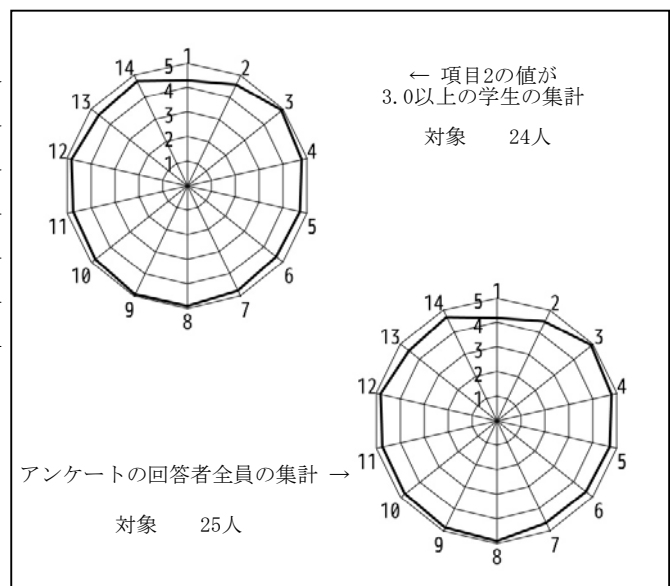
The main aim of the course this quarter was to integrate some elements that I thought were lacking in the students' writing and communication skills from observing quarter 1. These elements were writing for a specified audience, integrating AI tools into writing and employing critical thinking in their writing. To this end, I directly sought to weave these into the material and tasks we covered in class.

When we looked at these skills, it became clear why the students were not proficient in them; for example, the majority of the class had never used generative AI tools in their education. As AI will be something that will be essential in pretty much any employment in the future, I was happy that I was able to introduce it to them. The results were mixed and it seemed as the students were not entirely positive toward using AI. This whole process must be ongoing and I will revisit it in the next quarters.

For critical thinking, there were some great results and it will be interesting to tackle some more 'thorny' issues as we go forward.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]9
授業コード 11A06-016
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 26
回答数 25
回答率 96.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

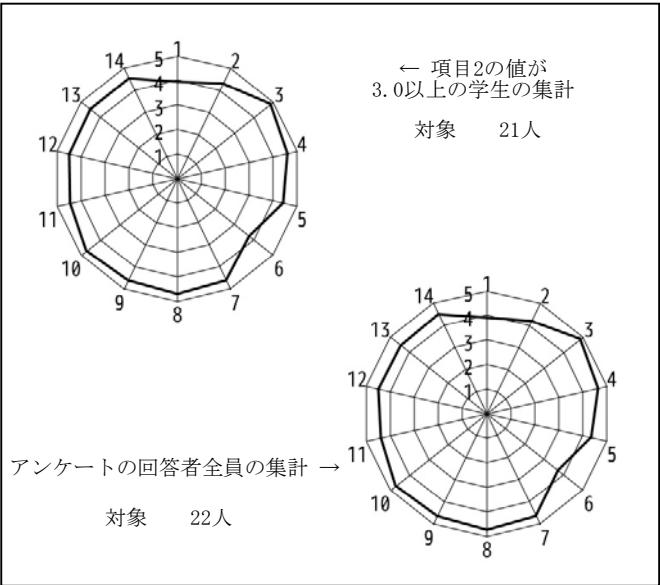
シラバスに提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、開講当初に設定した目標は概ね達成できた。

数値データについては全般的に良好な結果であった。最も平均値が低かったのは、履修前の興味を問う項目1 (4.20) で、次いで予習復習を含む主体的な授業参加を問う項目2 (4.48) であった。授業中は個別の活動にもペアやグループで行う協同学習にも主体的に取り組む学生が大半であったが、授業時間外の課題の取り組みには個人差があった。まず、英語の本を読む多読活動であるが、26名中6名 (23%) は目標語数を達成することができなかった。授業の中で多読の効果や取り組み方を再度説明したり、学生間で活動状況を共有する機会を増やしたりして改善を図りたい。また、ライティング課題では最終稿を宿題としているが、初稿と最終稿を比較してみると、この取り組みも個人差が大きいことがわかる。今後は、最終稿の作成段階で検討したことや修正・改善を行った点を記述させ、評価の対象とすることで改善を図る。

項目4、5、6、11の平均値がいずれも高いことから、授業構成と進度、教材の内容とレベルなどは学生に適していたと考える。自由記述の回答にも、理解しやすかったというコメントや、特に英作文の書き方が学べたというコメントがあった点は良かった。また、グループワークや発言の機会が多いことに好意的であることが示されたので、今後も継続していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[P]2
授業コード	11A06-021
教員名	NICKSICK, Thomas
教員コード	102113
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students improve reading proficiency with extensive and intensive reading tasks. They also learn how to write clearly and effectively by developing skills in planning, organizing, and developing ideas.

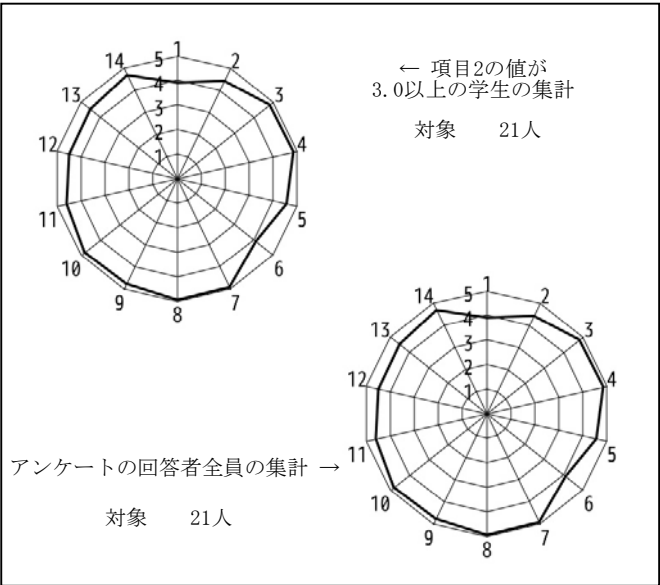
The instructor was relatively successful in some areas. Ratings of 4.64 showed the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course and took into account the students' degree of understanding.

However, the instructor needs to improve other areas of the course. A rating of 4.36 showed the instructor did not help the students understand the course attainment target. Also, he was not as successful in motivating students to learn, encouraging active participation, and providing sufficient opportunities for questions and consultation. A 4.45 rating showed that the instructor must help students gain more knowledge and deepen their understanding of the class content. In addition, the overall satisfaction with the class rating was only 4.50.

The instructor must find better ways to motivate students to learn and participate in class. They also need more time for questions and consultation.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[P]5
授業コード	11A06-024
教員名	CHOLEWINSKI Michael
教員コード	100613
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was happily surprised by the evaluation responses. I feel that I “mostly” met my goals for this quarter, but fell short of focusing on specific reading skills, which is reflected in the slight dip in #6. I plan to remedy that in Qs 3 & 4 with an adjustment of skill priorities in the content and activities.

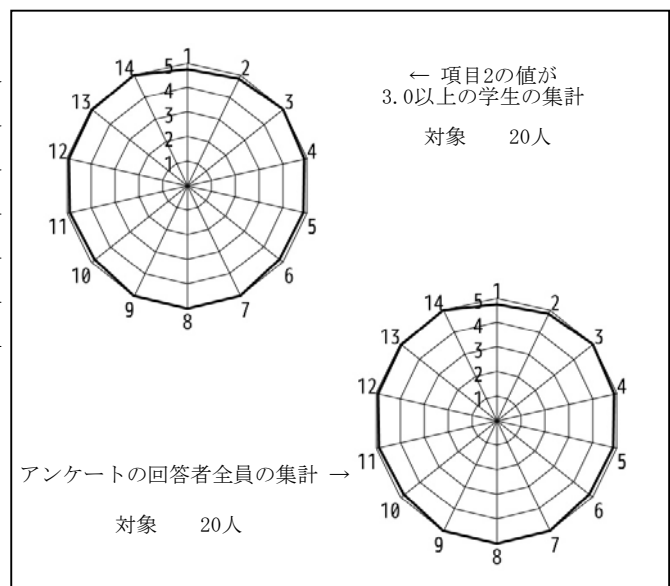
*comments on non-evaluated courses:

The Communication Skills course was enjoyable, but a bit challenging as the general student level was a bit lower than I expected. I feel that I will need to continue to re-tool my activity offerings in Qs 3&4 to meet their needs more adequately. I would imagine, given the chance, that they would evaluate my offerings at “too challenging.”

The Writing I courses: Because the course material and goals are predicated on practical writing skill development, I felt that I was able to offer something of value and use to the wide range of majors in the courses. These students impressed me the most of all three courses...and I felt that we had a pleasant, workable relationship.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名 水野 眞紀
教員コード 101981
登録人数 21
回答数 20
回答率 95.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

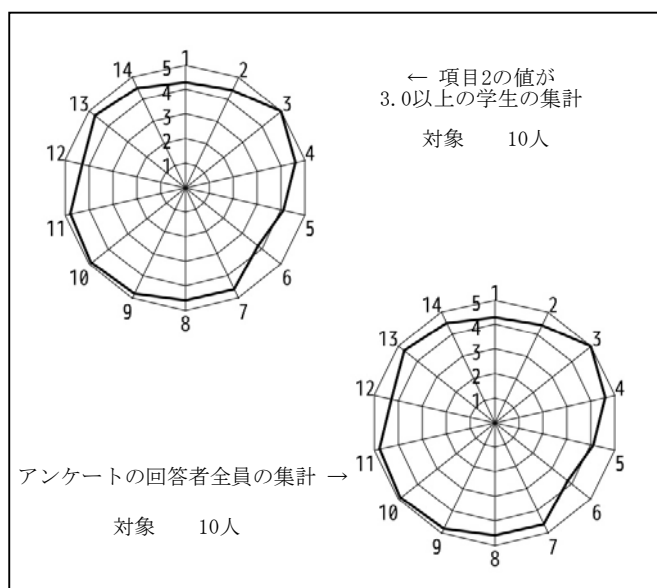


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標はおおむね達成できた。今期は言語能力と総合的なコミュニケーション能力の高い学生が多いクラスであったことに因る。リーディングとライティングを同一テーマで扱いCLILを効果的に実践できた。授業の教科書に加え、課外が多読教材やウェブ記事でインプットし、フリーライティングで流暢さを向上させ、3種の構成を学びながら各2稿ずつエッセイを書き、期末には5段落450語からなるエッセイを書けるまでになった。また教員とクラスメートのフィードバックからメタ認知能力も発達し、読み書きが相互に関連していることを理解できるようになった。
- ② 数値データは実際より高めに出ていることは否めないが、熱心な学生が興味を持ち続けさらなる成長を遂げたことを示している。「当初は10分かけても数行しか書けなかったが、200語も書けるようになった」のようなライティングに関する多くの自由記述と「到達目標に向けて力がついたか」の数値も高い。またフィードバックとアクティブラーニングについても「グループ活動で楽しく学べた」、「質問がやすい環境であった」など好意的なコメントも見られた。
- ③ ライティングの評価割合が半分以上を占めるため、リーディングにも注力する必要を感じている。補助リーディングを差し込んだが、表層的理解が精いっぱいであった。語彙や文法の指導も丁寧に行い定着させる。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]5
授業コード	11A06-036
教員名	石田 理可
教員コード	104495
登録人数	20
回答数	10
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

エッセイを書くための基本を学ばせることが第1目標だった。内容を膨らませる材料をどのように探せばいいのかわからない学生がほとんどだったので、それらを得て使用できるように授業にした。エッセイの内容を充実させるために、多くの映画、本を活用した。

「様々な視点から物事を考える重要性に気づき、様々な異なる視点や文化を理解がエッセイの内容を豊かになり、深みを増すことに役立った。映画や本、それらに関するディスカッションを通じて英語力を飽きずに向上させることができ、リスニングやスピーキングのスキルも自然と向上した。また、映画の中で使われる生きた英語表現を学ぶことで、実践的な英語力が養われた。授業では生徒との距離が近く、毎回楽しんで参加でき、先生とのコミュニケーションも取りやすく、質問や意見交換が活発に行われたため、学びが深まった。さらに、正しい文法やエッセイの書式についてももっと学びたいと思う。」

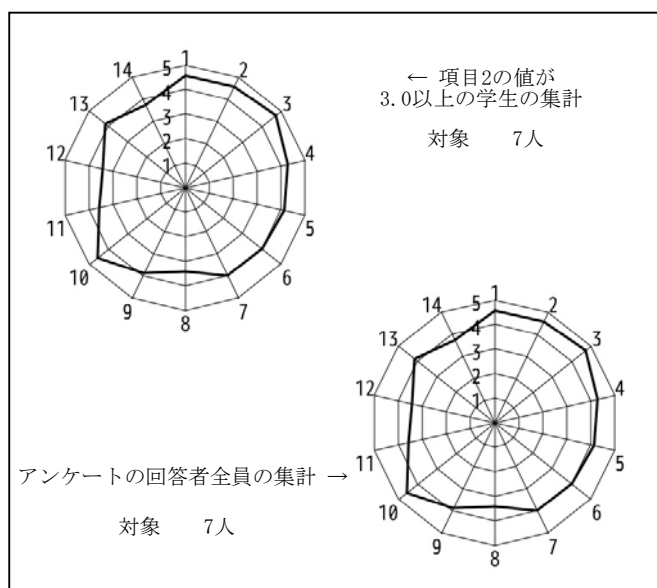
エッセイを書く際には、文法の正確さや構成の整った文章が求められるため、これらのスキルを向上させることが重要である。

「課題はwebclassで送ってはくれましたが、教室内では一度しか言われなかったため、ホワイトボードにも書いてほしいと感じました。」

とあったことが改善点だと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]6
授業コード 11A06-037
教員名 クマイ 恭子
教員コード 101131
登録人数 22
回答数 7
回答率 31.8%
休講回数 2 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講では英語エッセイライティングの基礎を学ぶと共に、情報をエッセイの構造に沿ってまとめる思考能力および読解力（語彙力強化を含む）習得および向上を目標としている。学生は第一クォーターよりも先述の力が伸びた学生が多かった。特に英語エッセイは構造の基礎および執筆の際の要領を掴めたのではないかと思う。

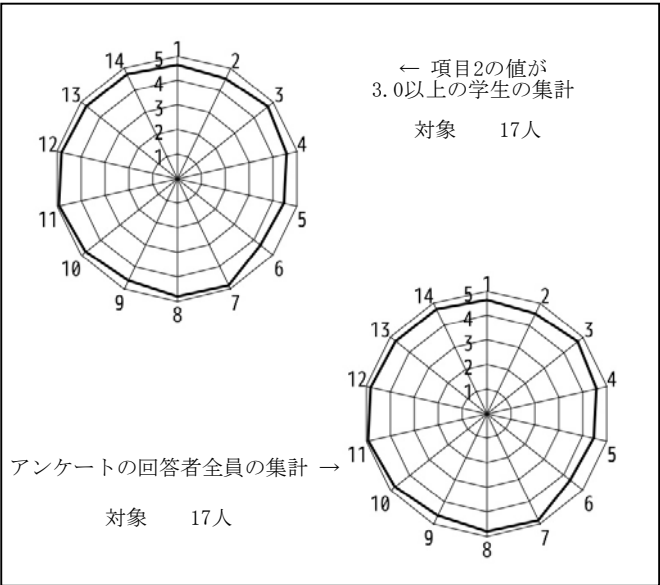
学生側の反応となると、上記とは逆に全体的に満足しないという回答が多かったようで、教員側にも反省すべき点があったように思われる。模範解答が欲しいという要望がみられたが、エッセイについては作成者個人によって主題や論旨の展開が異なるため、モデルを提示することで「エッセイとはこういうものである」という雛形を与えてしまうことに危惧があり、今後もモデルエッセイ配布はしない方向である。むしろ、学生の側から個人的に質問していただけるとありがたいと思う。ただし改善策として、エッセイを返却する際に学生が自分のエッセイと教員のコメントを読み、それに基づいて質問できる時間を儲けるようにするつもりである。

グループ活動は概ね積極的に取り組んでいたようで、これについては今後も継続する。

次クォーターでは上記に気を配りつつ授業運営を行なっていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]7
授業コード	11A06-038
教員名	SKEATES, Colin
教員コード	104779
登録人数	22
回答数	17
回答率	77.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

As this was my first time teaching the course, I was quite uncertain how the course would go. With this in mind, I decided to simplify and make the course aims quite unambitious.

1. Students would read a lot and then talk about what they read.
2. Students would learn about writing conventions found in higher education.
3. Students would write at least two essays.

Given the relatively low bar, the course was a success; we were able to achieve all three objectives.

In the future, I would like to provide more feedback on student writings. To do this, I will change when we do writing. By this I mean I plan to cover the first four units in quarter 1, and then solely focus on (essay) writing in quarter 2.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー<再>1
授業コード	11A06-042
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	21
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

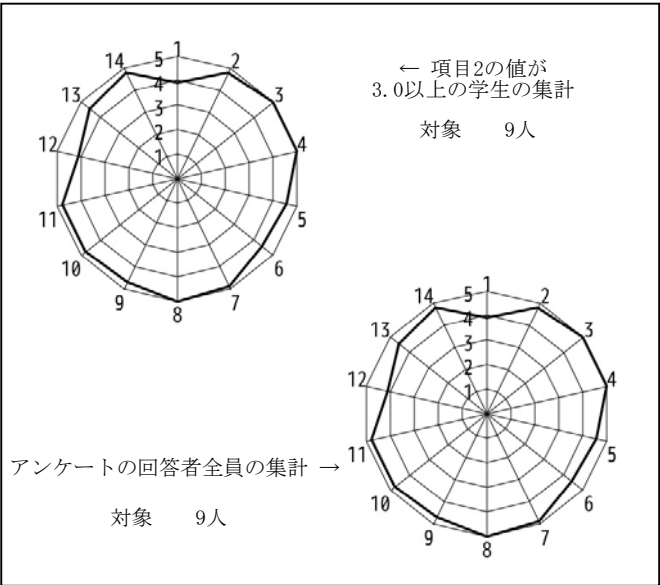
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1/ The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. 2/ The results are good, but I wonder about the following. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department. 3/ Nanzan could do some specific things to make teaching easier. For example, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.
--

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]8
授業コード	11A10-008
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	22
回答数	9
回答率	40.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

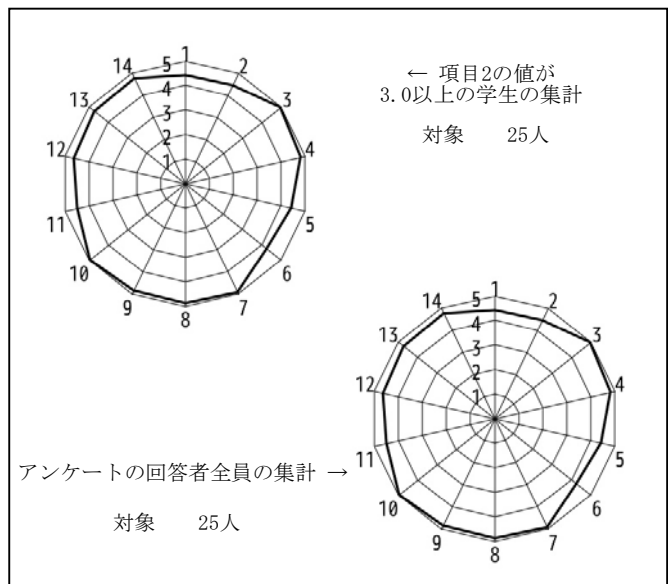
At the start of the course, the primary goals were to enhance students' speaking skills, improve comprehension, and encourage active participation. These goals were largely achieved. Most students demonstrated notable improvement in their speaking abilities and displayed better comprehension of English texts. Classroom activities and communicative exercises were instrumental in fostering a more engaging learning environment.

Based on class observations and student attitudes, the overall performance of the course was positive. Students were generally motivated and participated actively in discussions and exercises. Their enthusiasm and willingness to communicate in English contributed to a dynamic classroom atmosphere. While numerical data from surveys was not available, qualitative feedback indicated that speaking goals were met, with students showing increased confidence and proficiency in using English.

Looking ahead to the next quarter, the focus will be on increasing student speaking time and helping them use English more accurately and expressively. Specific measures will include integrating more structured speaking activities, offering targeted feedback, and incorporating peer review sessions to enhance communication skills. Additionally, refining lesson plans to include more varied and challenging topics will help sustain student interest and promote continuous improvement in their language abilities.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]6
授業コード	11A10-020
教員名	伊藤 実里
教員コード	045542
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1~Q4の通年必修科目であるため、シラバスでは最終的な到達目標を示している。したがってQ2終了段階では履修者にとっても達成具合を実感しにくいのはやむを得ない。ここでは自由記述を中心に自己点検・評価、および本年度後半に向けての改善点と方針を記す。コミュニケーションクラスの基本である、クラスメートと話をし知り合うという第一の目標は十分達成できている。毎回異なる人とペアになって話すことがメリットとして複数挙がっている。これは毎年好意的に受け取られているので今後も継続していきたい。板書ではなく天井からのスクリーンにプロジェクターでスライドを見せる説明もいつも好まれる。これについては、それが可能な教室を使用させていただいていることに感謝している。教科書で日常会話や話し合いで普遍的に利用できる表現を学習していることが役に立つと感じている人たちも多い。それに加えて後期は、トピックをもう少し深く考えること、およびアカデミックな語彙に注目したい。高校の英語の授業よりも英語で話す機会が多いことを楽しいと感じている人も多いことがわかる。それは継続しつつ、後期は説明などにも英語の割合をもっと増やしていく予定である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]8
授業コード	11A10-022
教員名	KHONDAKER, Taslima
教員コード	103598
登録人数	27
回答数	4
回答率	14.8%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

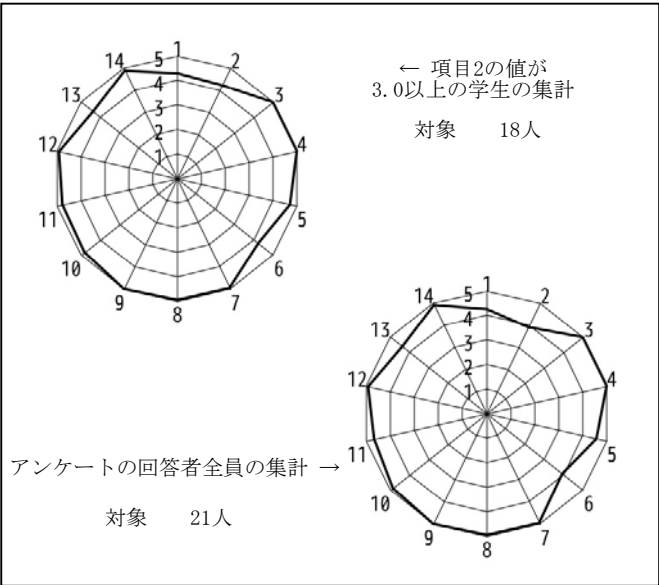
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to help students to be exposed to a wide variety of reading topics where they come across different types of vocabularies in the text and practice using them when communicating with people. Students are also being guided to express their thoughts by working in groups. As planned, I took twelve out of fourteen classes and for two classes missed I gave two reports to write. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were achieved. On the other hand it is my regret to inform that the turnout of students who evaluated this class were only four as such scores of questions 1 to 14 are not possible to state. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores 3.86 and 4.07, I do not have average scores because only four students evaluated. It is the same with Q3 to Q14. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17) were not bad. I hope to improve my way of instructing.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[E]4
授業コード	11A10-028
教員名	鈴木 愛
教員コード	103596
登録人数	25
回答数	21
回答率	84.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

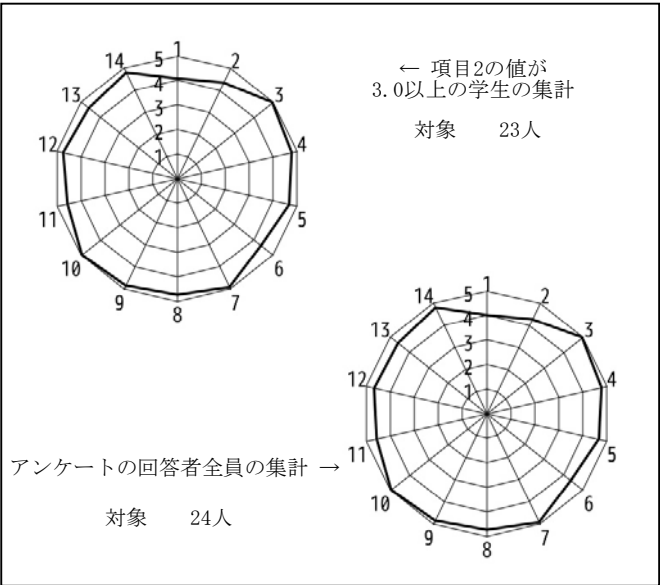
I have set a couple of goals for the course in Q2. Some of the goals for reading skills are fact/opinion, cause and effect. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. For speaking and listening, they were introduced to various conversation strategies. They seemed to understand the notion of it and tried to use it.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed discussing the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for Q3. Since they seemed to get the idea of different kinds of conversation strategies, I would like to have more practice time for them. Same for the listening, they will need more chances to listen to English conversation and monologues.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J14]
授業コード	11A10-040
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	24
回答数	24
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

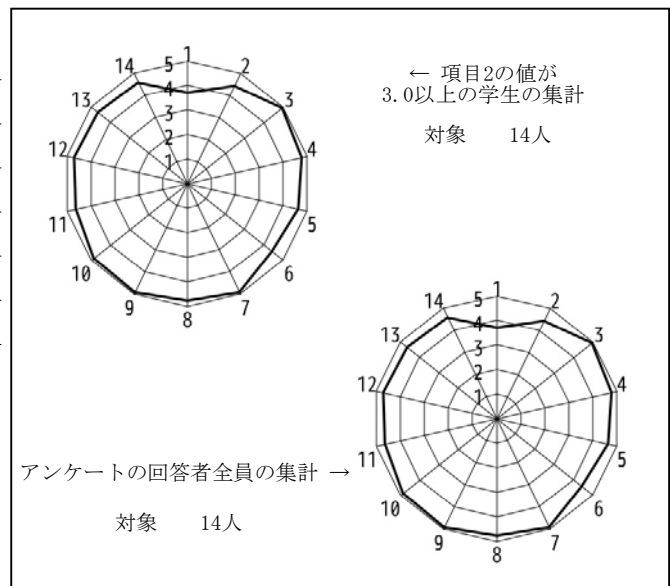
I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. I would still like to have more reading done outside class, but I always find it difficult to find a solution that does not require over-policing and/or cajoling. I am pleased with the number of activities provided by the speaking textbook, and feel that students have responded well to the structure and variety provided.

The evaluations were very positive in tone. There were a larger amount of comments than usual, with the remarks being almost all positive, and the small number of criticisms did not seem to contain any major concerns. I will work to maintain classroom harmony in the fall.

In the future, I will probably use a similar lesson plan. I will also try to make sure that students have enough time to answer questions and complete discussions (I think that we sometimes moved too quickly between activities).

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J] 16
授業コード	11A10-042
教員名	VIADO Cora
教員コード	100553
登録人数	23
回答数	14
回答率	60.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

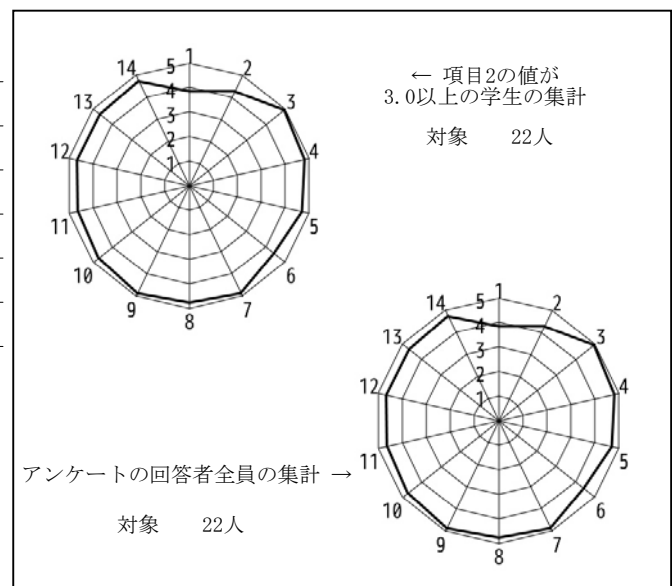
The main objective of this course is to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics. The overall positive evaluation (4.74) indicates students' general satisfaction with the content covered and the instructional methods used. Most of the students are contented with the class (4.57). The students' comments show that having opportunities to work with different classmates were stimulating and fun, and using English as much as possible helped improve their English skills.

It should be noted that the only question that had a value less than four (Question 1: 3.71) pertains to students' interest in the subject matter prior to taking the class.

More effort will be made to check on students' understanding and comprehension of the course objective and required work for assessment. Students will also be given more chances to interact more actively with one another.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[T]8
授業コード	11A14-016
教員名	酒井 美納江
教員コード	046060
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1、Q2を通して、リスニングの知覚ディコーディングプロセスの自動化を強化するシャドーイングの練習や、ブックレポートを音声ファイルで提出させる課題を与えることでリスニングの練習に重点を置いた。その上で、Q2ではReader's Theaterや短めのプレゼンテーションを行うことで「相手に伝える話し方」を意識したスピーキングの練習を行った。リーディングの教材においても口頭で使われるような語彙については、自己流の発音ではなく正しい発音ができる様指導した。自由記述では「スピーキングの力がついた、語彙力がついた」とのコメントが見られたので、目指すところには向かっていると思っている。授業運営に関しては、対象の学生たちが必ずしも英語に興味があるとは限らないので、各レッスンの予定や課題で何を行わなければならないか、などを分かりやすく説明したり例示することに神経を使った。この面に関してもコメントを見る限りでは肯定的に受け止められているので、今後も「分かりやすさ」に心を配っていくつもりだ。ただ、項目16には「もっと英語でトークしたい」というコメントがあり、もともと英語の学習に前向きな学生にとっては物足りなさを感じさせてしまっていることが分かったので、Q3Q4ではもう少し自由度の高いスピーキング活動ができる様準備していくつもりだ。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全・T>2
授業コード	11A18-008
教員名	HUSTON, Adam David
教員コード	104956
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

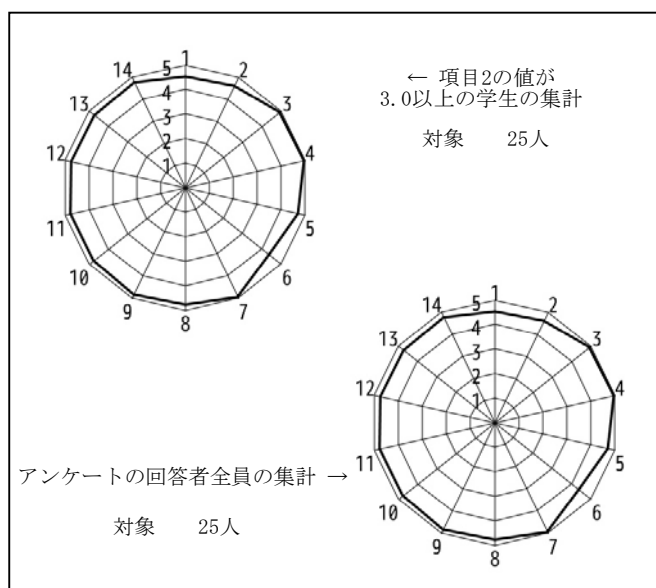
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The primary goal was to maximize both student-created and text-created listening exercises to enhance listening skills. Active participation was encouraged through brainstormed listening exercises, where students created and presented mini speeches in every class. This required other students to engage in various personalized listening exercises. A fun, student-created assessment was conducted at the end of the course. I provided many personal, fun short stories for students to practice intonation, rhythm, and stress of regular speech, as well as distinguishing minimal pairs. Additionally, students took notes on many 2-4 minute listening exercises, created their own listening exercises, and learned a variety of new vocabulary. I believe the course goals were achieved, as students were very engaged and active in every lesson. They enjoyed the class and learned about each other, which was especially beneficial for first-year students. For next year, I aim to improve time management for class activities. Despite this, I think the course went well. Using the same text series but at level 2 instead of level 3 might be more suitable.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]2
授業コード	11A02-002
教員名	ELLIOTT, Darren
教員コード	101579
登録人数	27
回答数	25
回答率	92.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



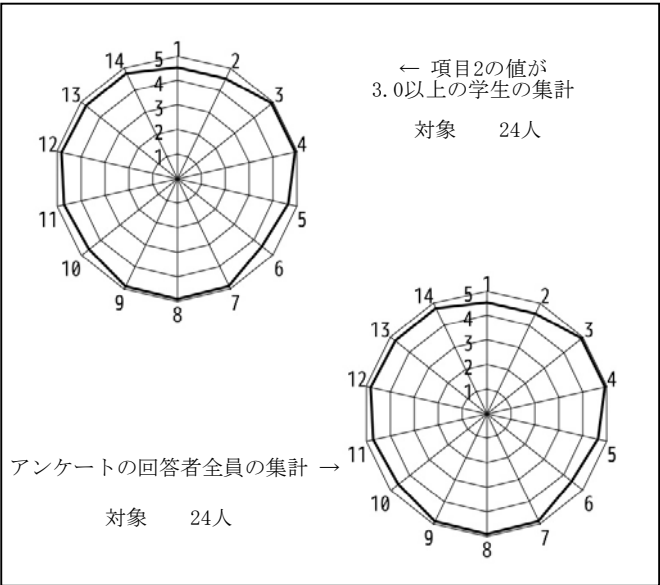
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The feedback for this course was very positive, so it is hard to address any specific points that came up in the evaluations themselves. I have been teaching this course for a number of years now, and know what to expect from the learners. I have also been able to continue developing materials which engage and challenge the students, and it is gratifying to see that they enjoy the course content. My work is made easier because students in this department are generally motivated to learn English, and are fairly proficient at English before joining the class.

Something which was not raised in the evaluations, but which I am slightly concerned about, is a level disparity between the students. The classes in this department are not streamed in the same way that they are in other departments, which means that some students in each class are at a lower level of proficiency. Some find that motivating, and work harder to keep up. Others do not, and may pull back their more capable classmates. I have a sense that some of the stronger students feel that, so I am mindful that I must not let such feelings cause friction. Something to work on for the remainder of the year.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]3
授業コード	11A02-003
教員名	HOWREY, John
教員コード	100371
登録人数	28
回答数	24
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

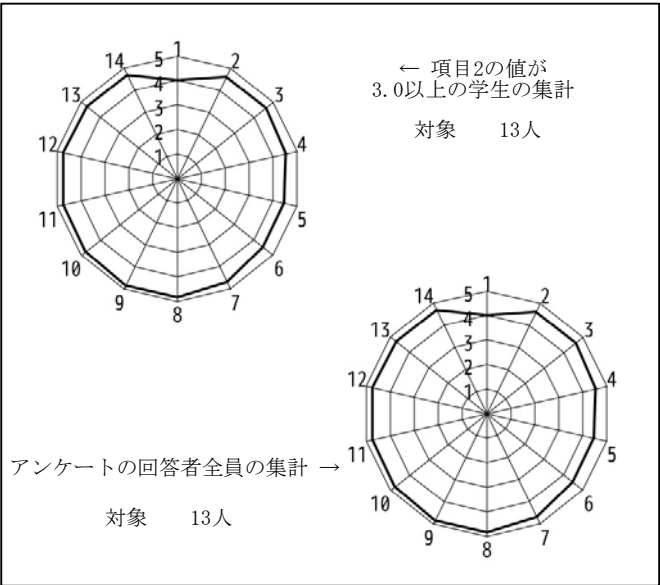
English II: Oral Communication introduces skills and practice for developing conversation, discussion, and presentation skills. Students also develop note-taking skills from listening exercises inside and outside of class. This course also used COIL so students interacted with peers in the US at the University of North Georgia.

- Student feedback was positive. They liked that they could talk and discuss with native-English speakers each week. Comments include:
- The teacher's English was easy to understand, and the class was easy to do. In addition, there was a lot of group work, and I think the students got to know each other better.
 - I had the opportunity to interact with students from overseas, where I could gain various communication skills and new knowledge.
 - The teacher cared about the students and determined the amount of assignments and the speed at which they were progressing.
 - We did a lot of group work and the teacher always came to each group to answer our questions. His English is easy to understand.

This course could meet the course objectives and I will continue to use COIL in the future.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]4
授業コード	11A02-004
教員名	FLORES, Ana Maria
教員コード	102899
登録人数	27
回答数	13
回答率	48.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



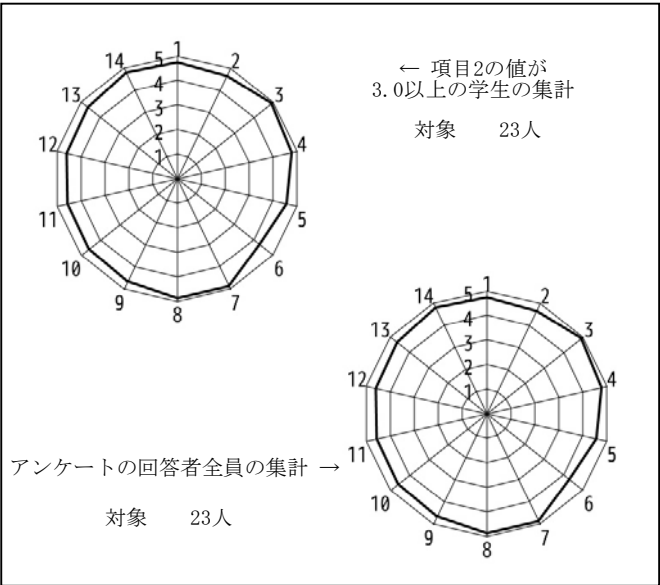
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Self-Reflection Report

- (1) Goals and Achievement: The primary goals were to improve students' English communication skills, encourage critical thinking on social issues, and boost class participation. Most students showed notable progress in their speaking abilities and active engagement which demonstrated that the goals were achieved.
- (2) Self-Assessment and Evaluation: Student feedback and class data are positive, with students noting engaging content and active participation.
- (3) Looking Forward: Next quarter, I will focus on improving students' listening, speaking, and reading skills through structured activities, focused instruction, and targeted feedback. My goal is to achieve a balance among these skills and provide a more comprehensive learning experience.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]7
授業コード	11A02-007
教員名	PEO, Jared
教員コード	104673
登録人数	26
回答数	23
回答率	88.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

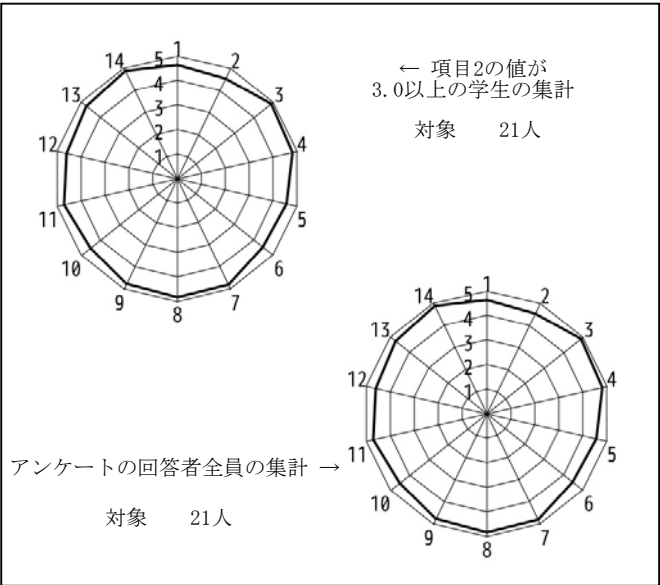
The course goals of this class are centered around speaking and listening. Because the students had good rapport with each other, they easily met the conversation goals (3-7 mins) and the presentation goal (3-5 mins on an academic topic).

Overall, the evaluation was relatively high, and this matches my experience with the students. The lowest score in the class comes from understanding and working towards the class goals. Part of this is that many students don't read the syllabus carefully. Despite going through it in class each quarter, many ask questions later that are answered in the syllabus. In addition, on a survey in Q1, I had a student claim that a listening activity was more suited for Academic Skills than Oral Communication. Some students may think Oral Communication is only for speaking.

Going forward, I will improve my communication of the course goals by pointing out which course goals are the basis for tasks. In addition, I need to find a way to challenge each student at their level while also helping them work together without getting irritated or frustrated. This is due to the diverse proficiency levels in the class.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]1
授業コード	11A02-020
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	22
回答数	21
回答率	95. 5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



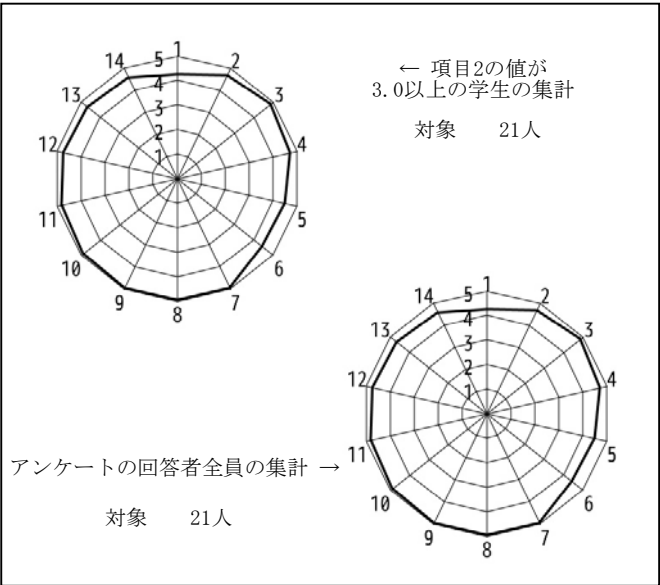
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a class of Oral Communication. Included in the goals of this course is: making comparisons, suggestions, requests, complaints, and speculations; give a two minute self introduction; dictate or take notes from a 1- to 3-minute listening task. Also included as a goal for this course is to be able to express one's opinions in a clear and coherent way. These goals were met during Q2. Students rated the class highly, with an overall satisfaction average of 4.72 from a question rubric of 5.00. Comments from the students included: a) (ただ聞くだけの授業ではなく、自分で考えて発言することが求められる授業であったため、英語力が身についた点。; b) teacher always use familiar example for us, so his explanation is easy to understand.; and c) 楽しく授業ができました。

I asked my students to send me suggestions for future class activities, and received a wide variety of ideas which I intend to implement in Q3 and Q4.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]5
授業コード	11A02-024
教員名	MILLER, Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



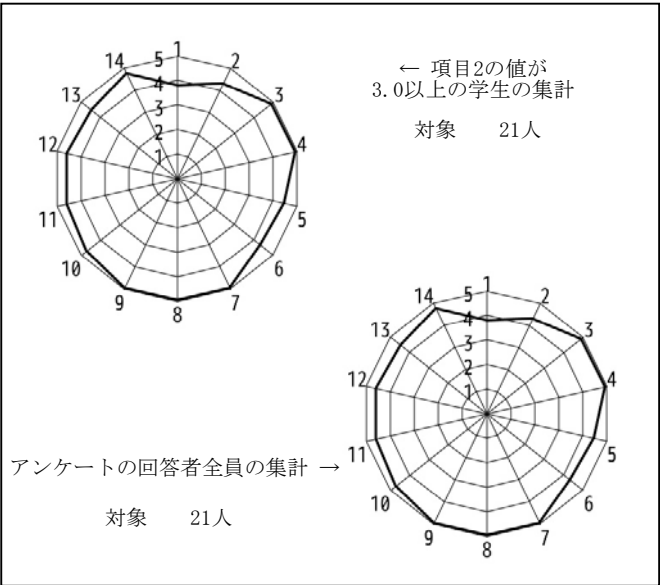
授業評価結果を踏まえた点検・評価

. The students have worked extremely hard over quarter 1 and 2, I am very happy with their progress. Public speaking can be a very difficult course, especially for new students who may not be used to the university learning environment, but all of the students have presented very well. One area we may need to focus on is responding to questions with one or two word answers, which can bring a conversation to a halt; I will work to improve the students' fluency so that they have more opportunity to talk with one another in more informal settings, which will hopefully build their confidence in using English.

I'm very glad the students reacted positively to the class, and I will continue to make sure they find the class as fun as it is challenging.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[P]11
授業コード	11A02-030
教員名	LANGLEY, Patrick
教員コード	104288
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

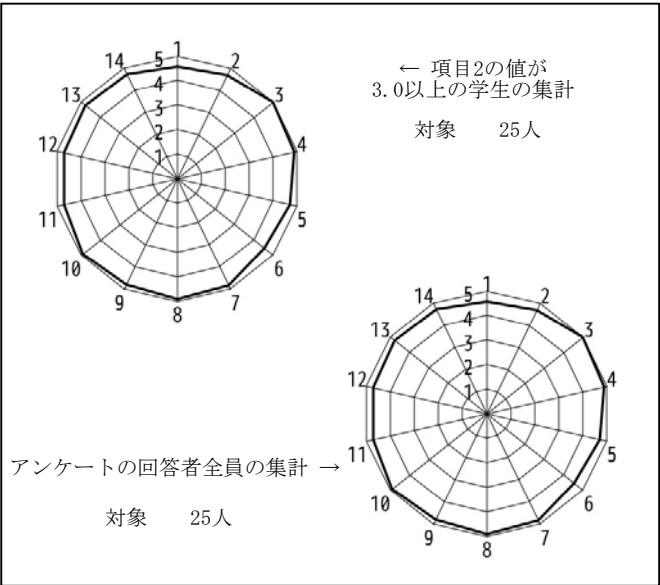
I am comfortable that the main speaking and listening goals for this class were understood and the students have made progress towards them.

Overall, I am pleased the the feedback and scores from this class. Apart from Q1 the results are above average in every question. I am comfortable that the goals that were set, reset and reviewed were met and look forward to renewing and resetting them in quarter 3.

I hope to encourage students to become more interested in acquiring English as a spoken language and for them to have a more positive outlook on language learning in the future.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]2
授業コード 11A06-002
教員名 TAYLOR, Jamie
教員コード 104100
登録人数 28
回答数 25
回答率 89.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

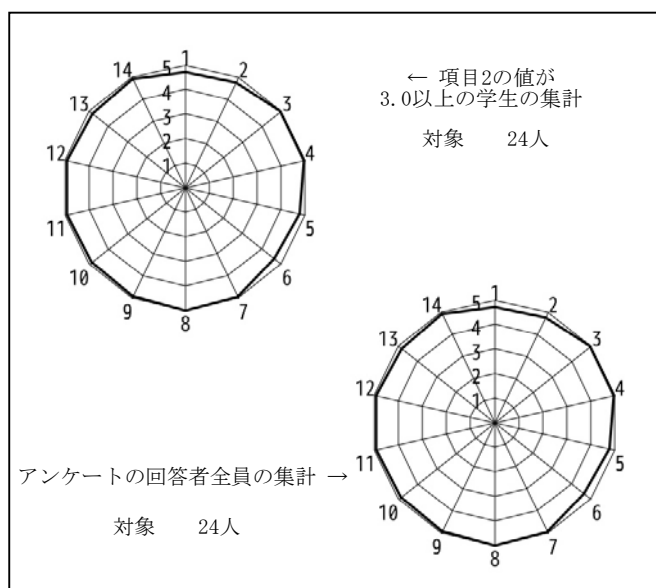
The goals of this course included completing two writing projects, reading 8,000+ words or more a week of graded readers, and passing a vocabulary quiz at the end of this term. Almost everyone was able to reach all of these these goals successfully this term.

We will continue working with partners and in small groups frequently to complete our reading and writing activities.

Next term, I will be sure to draw everyone's attention to the guidelines in the syllabus, including the scoring for M-Reader quizzes and the extensive reading project (which is not an all-or-nothing assignment as described in a comment here), several times throughout the term so it is fresh in our minds. We will also begin working on more challenging writing assignments and referring to outside sources using APA style.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]5
授業コード 11A06-005
教員名 ZONI UPTON, Jessica
教員コード 104815
登録人数 26
回答数 24
回答率 92.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



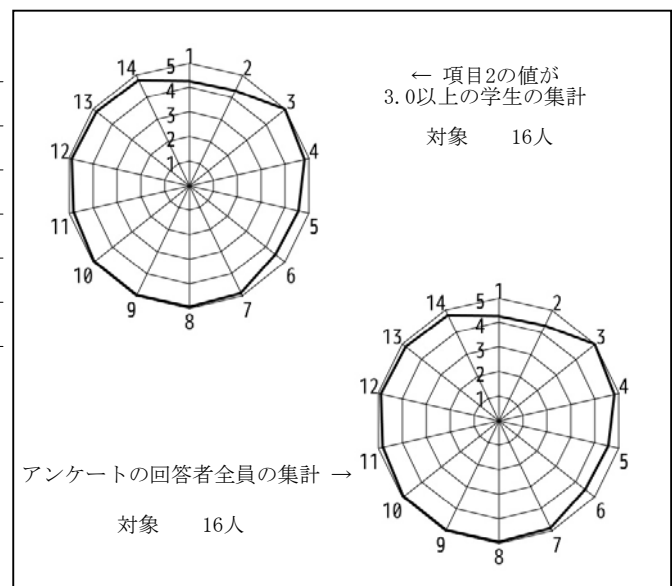
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course goals focus on improving students' writing and reading abilities. As reported in multiple students' comments, essay feedback and weekly writing practices in particular have been helpful to achieving the first goal: "essayについてのフィードバックがとても丁寧である点。"

初めは全く知識がなく不安だったが、書き方について詳しくわかりやすい指導を受けたため、スムーズに課題を進めることができた", "数日に1回 writing noteをとる時間が20分自分の英語力を試すことができました". Students also had multiple opportunities to discuss and work together to understand reading contents in more depth, which students appreciated, and ultimately helped them reach the second goal: "みんなで話し合ったりして、意見をシェアできたこと". Furthermore, the statistical data shows a 4.87 average, which shows that students have found the course useful and satisfactory. For the following quarter, the course will continue as before considering the satisfactory student evaluation, with minor changes to reflect students' comments for improvement, specifically making sure that all students are comfortable with the room temperature, and allowing for further discussion time when possible considering the available class time.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[T]7
授業コード	11A14-015
教員名	加藤 尚子
教員コード	103630
登録人数	24
回答数	16
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

英語での発話と読解力の向上を通して。語彙を増やすのを目標といたしました。学生の中には英語での発話を恐れているのを感じましたので、授業の中で常に発話をしやすい環境づくりに努めました。結果、学生にとって「自分の言葉を英語化する力がついてきていると思う。」や「コミュニケーションをする機会が多かった点。」という声があったように、英語で自分の考えを述べる力がついてきたように思われます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

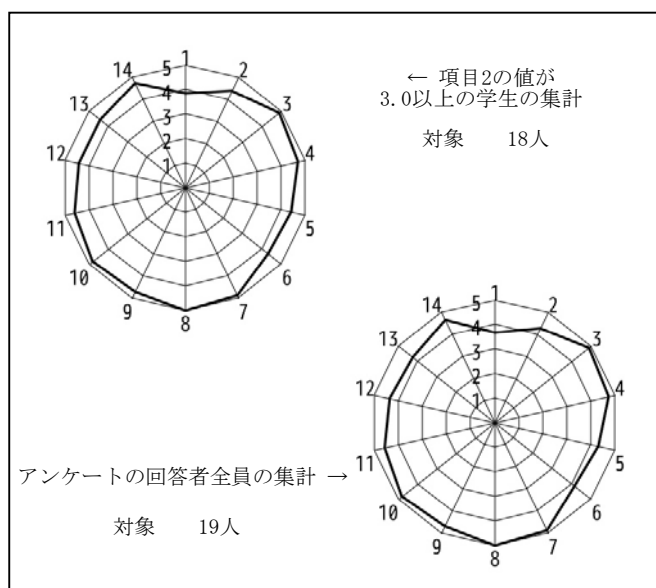
今回は、英語に少し興味を持っている学生が例年よりも多く感じました。そのため、授業での参加も熱心だったように見受けられます。また、進行速度も適度だったようで、これからも学生の理解度を見ながら授業を進めていきます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後の抱負では、「Speakingをもっと増やしてほしい」という声もありましたので、後期では更に英語でディスカッションなど論理的思考力を向上させるアクティビティを中心に行っていきたいです。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリーディング<全・T>13
授業コード	11A24-013
教員名	石崎 保明
教員コード	102444
登録人数	24
回答数	19
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

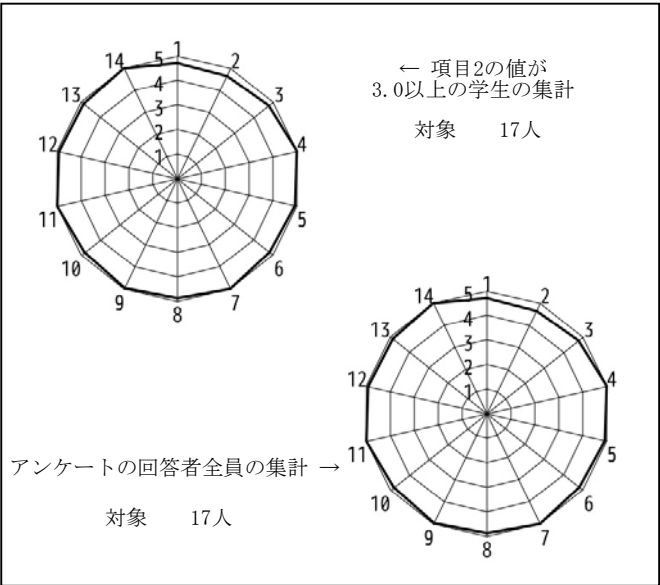
今回授業評価を受けた科目は、英語読解力を育成する選択必修外国語科目です。英文を楽しく読み他者に口頭と英文の両方で伝えることを実践する多読課題と、学術的文章の特徴を押さえて読み進めることを目標とした精読課題、を両輪とした授業を計画・運営しました。同科目は、受講生の約7割が同一学科に集中していたものの異なる学科の学生もあり、個々の受講生に目を配りつつ、テキストの内容だけでなく英語の豆知識的な話題も交えながら、丁寧な説明を心がけました。

項目4-14のうち12を除くすべての項目で回答者のおおむね90%以上から5または4の評価を受け、多くの受講生に受け入れられたと考えます。しかしながら、受講生の1名の学生が項目5, 6, 13において1または2の評価をつけていたこともあり、直近となる2022年度Q2で授業評価を受けた同趣旨の科目と比べると、0.13ポイント下回る結果となりました。当該の学生については、他の項目1, 2, 14についてもそれぞれの項目最低点をつけており、これらの項目のいくつかが到達目標とそれに基づく達成度（満足度）に関わるものであることから、当該学生はもう少し高度の授業を求めている印象があります。ただ、そのような受講生がいることも念頭に、到達目標の設定とその遂行をより徹底することで対応していきたいと考えております。

自由記述欄では、授業内でのペアワークの豊富さなどについて概ね好意的な意見が大半でした。他方、授業冒頭の英語によるディスカッションのスライドでの課題指示がわかりにくいことがあったという指摘もあり、この点は改善の余地があると考えています。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語III[FS]2
授業コード	11D03-006
教員名	MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel
教員コード	104658
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

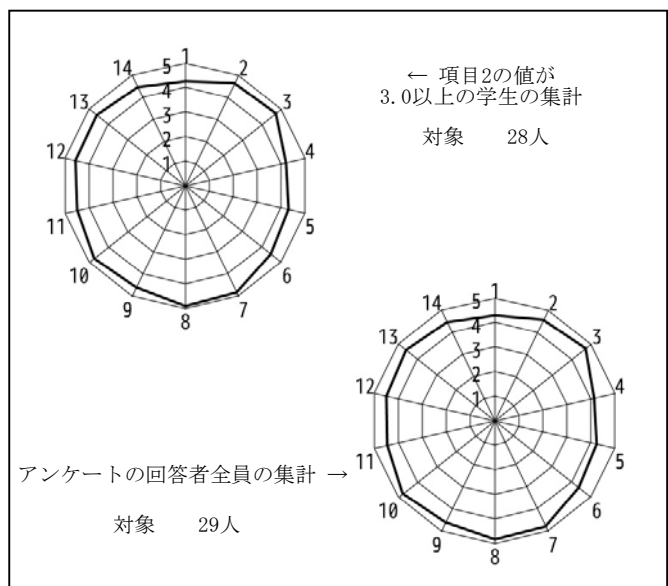
The goal of an introductory conversation course to Spanish for speciality is to give students a general idea of how the language works, learn a sufficient amount of vocabulary and structures and allow students to practice in a relaxed collaborative question open classroom. I think this year we have achieved these goals and we have create an open athmosphere where students ara allowed and encouraged to ask questions and the teacher , through them, was able to help students language developement individually.

The results of the survey have been really good and I am happy about it, but I would like to keep my senses allert to improve areas I couldn't cover well enough in my opinion. (more oral practice, more autonomous learning, more focus on form exercises for example)

When you create an open learning environment you know where the lesson starts, but you never know where the flow of the lesson will lead it. I will complement the exercises I sacrificed during this term with similar practice during the next term.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語II<E・B>1
授業コード 11G02-004
教員名 陸 心芬
教員コード 101225
登録人数 34
回答数 29
回答率 85.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

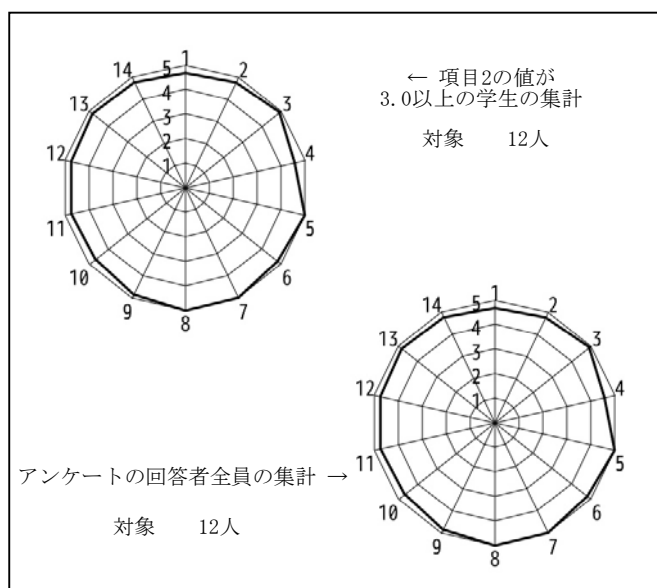
Q2の授業目標であった基礎文法及び基礎会話の習得について、学生による授業評価の設問項目の平均値が4を超えており、おおむね達成できたと考える。

授業の良かった点について22名のコメントがあった。その中「プリントがまとまっていて学習しやすい、親切、質問しやすい環境、分からない所の解決、友達と関わる機会が多くあり学習内容を深めることができた、きちんと学べているか毎回確認しながら進めてくれる、生徒一人一人と向き合う教え方、定期的な小テストで知識が定着、復習の時間を多くとって理解が深まる、音読を重点的にやるので頭に入りやすい、授業の進み方もとても円滑」などが書かれており、全体的に学生の学習がスムーズに行われていたと考える。今後も良い点は生かして進めていきたい。

授業の改善点について10名のコメントがあった。「難しい文法などを教える時に限って進行速度が速い」「分からない人向けにもっと質問の時間が欲しい」「日本語で説明が少しわからないところがあった」「授業プリントが2枚だと少し量が多い部分があった」「席が固定ではないのだが、初回でほぼ決まってしまうので、席替えが必要だと思った。隣の人と相性が合わないこともあると思うし、席替えをした方がコミュニティも広がると思う」などがあった。席替えについてはQ3から取り入れるつもりである。他の改善が必要なところは改善していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)1
授業コード 11L17-001
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



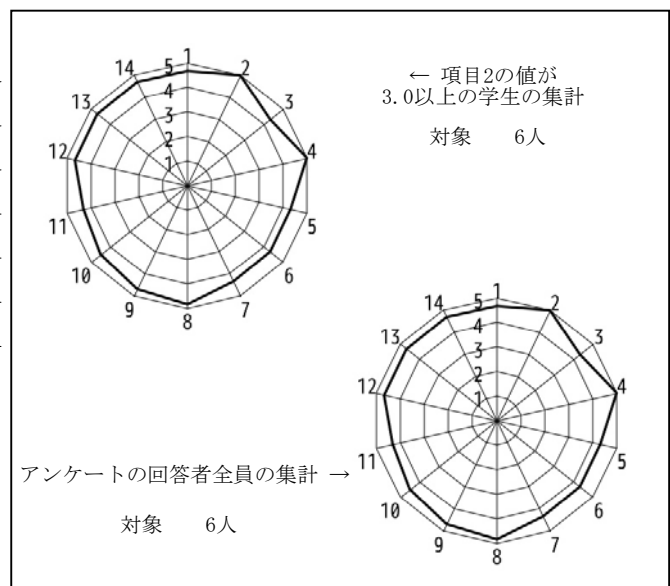
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、文法の時間に習った文型や表現を活用して、留学生が日本語で書かれた文章の内容を正確に読み取れるようになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ（4.83）から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問6（到達目標に向けて力がついてきているか）、設問7（担当教員の授業に取り組む姿勢）、設問9（学生の理解度への配慮）、設問13（新たな知識や技術の獲得、理解の深まり）などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「授業はとても楽しく、わかりやすかった」「このクラスに出て、日本語が上達した」「教え方も説明の仕方も適切だった」「新しい言葉や日本の文化を教えてくれた」「読み物があまり好きじゃなかったが、だんだん好きになった」などの評価が多く、受講生たちの満足度の高かったことがうかがえる。

一方、今回の各設問の平均値の中では、設問4（授業の構成や進行速度の適切さ）の項目への評価が最も低かった。日本語をゼロから始めた学生や非漢字圏の学生などにとっては、進行スピードが速く感じられたかもしれない。来学期からは、学生たちの様子をよく観察したり理解しているかどうか質問し確認したりすることにより、より一層学生の理解度に配慮しつつ授業を進めていきたいと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(作文)1
授業コード 11L18-001
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

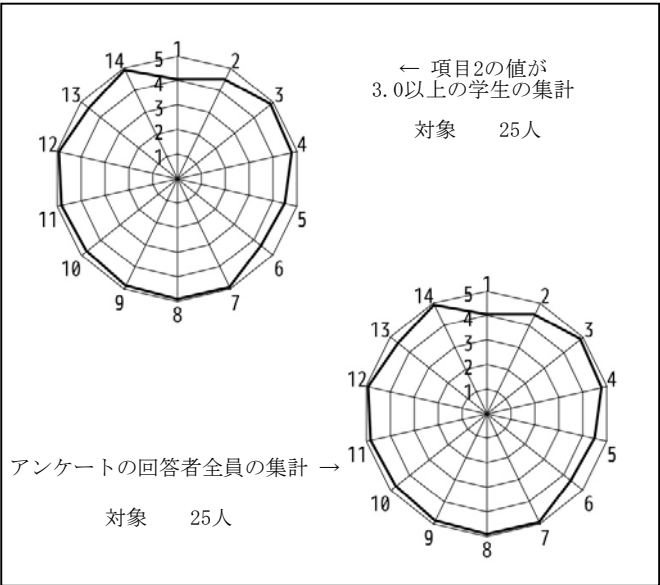


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今学期の状況は①開講目標に全員が到達し、そのための運用能力の練習にはほぼ全員が毎回熱心に参加してくれたので、教員側も能力の伸長度合いを確認しながらそれに対応した課題を考案することができ、良い意味でのコミュニケーション教育ができた。②数値データは質問2（主体的）、質問4（毎回の授業構成と進度の適切さ）に全員5点回答の他、すべて平均4.3を上回り、質問14の高い満足度（4.67）や質問9（学生の理解度に配慮した進行）質問12（十分な質問の機会）質問13（この授業による知識技能の獲得）質問8（教員の声がよく聞き取れたか）はいずれも満足度が高く、これらの項目が「個々人の取り組みをもとに、教室内でのやりとりを重視した授業展開」を反映している。③学生の質とくに教育への期待は近年流動的で、与える刺激や情報量によって大きく変動するものであると実感しており、今年は学外授業へも引率し、そこでの学びを授業内展開するなど、教室内に加え社会コミュニケーションも意識したことが学生の意欲を引き出したと考えられる。一方で、既習かつ高い言語能力を保持していたり、出身国で能動的学習を経験したことがないなどの問題が発見される学生もあり（今回は1人の学生が質問5, 6, 7に1を回答しているが、この学生は日能検2級を学外でも学内でも超え大学院レベルの授業受講が可能であるので、他の学生を配慮した現行の授業進行に満足できないのは致し方ないと考えている）、この問題は履修直後にすでに顕在化していたが特別対応を要望したものの配慮されなかった事例である。こうした履修配置（プレイスメント）に加え、文化適応の点から日本語能力レベルに関わらず本職の授業を受講したいと考える学生も一定数いることが分かっている。それら外部要素による教室内多様性を考慮しながら、あくまで主たる課題を持つ学生を対象とした授業展開を重視していくことが肝要と考え、次年度以降も幅広い学生が学習動機を高める課題を選定しながら「能動的に学ぶ」実践を深めていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B 19
授業コード	11A02-016
教員名	MCCANN, Albert
教員コード	104969
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

It seems that the students had many positive remarks. They were able to work in groups and pairs. Many opportunities were provided for self expression, but without pressure. The motivation to speak increased and many students had fun. There were different activities and presentations that improved their confidence and ability. The students largely achieved the class goals.

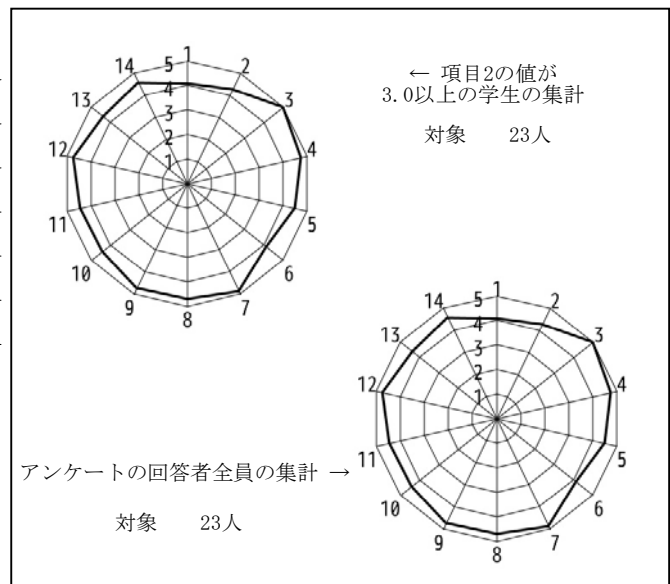
I believe, based on what the students said, that I was able to create a safe environment for them. The data provided in the survey shows improvements in learning outcomes. In almost all important measurements, the Oral Communication class was successful.

In the next term, I will keep providing novel ideas and fun activities for the students. It was satisfying to see almost all students engaged. This class belongs to them, not to me. My role is to guide them to their goals, but at a reasonable pace. In the next 2 terms, we may move more quickly and attempt difficult learning objectives.

Albert McCann

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]
	11
授業コード	11A02-018
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	25
回答数	23
回答率	92.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリスニング力及びスピーキング力を高めることを目標としている。具体的には会話やインタビュー、モノログやビデオ教材など様々な教材を視聴して、内容を把握し、要約できるようになること、また、スピーキングについては、トピックについて2分程度話すことができるようになることを目標にした。授業では、会話のストラテジーを学習し、ペア、またはグループで発話練習をする。学生は3回のオーラルプレゼンテーションを通して成果を発表する。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.61、学生の授業に対する全体的な満足度については4.57であった。今期は特にペア・グループワークを通して発話練習に重点を置いた。そのことは、実際に「英語を話すことでコミュニケーション能力が向上した」との回答からも良かったのではないかと考える。ペア・グループワークを頻繁に取り入れたことを多くの学生が評価した。授業については「分かりやすい」「質問がしやすい」「楽しい授業」「発音方法が理解できた」など複数の高評価がある一方、「もっと主体的に学べるようにした方がいい」との記述も一つあった。第3クォーターでは、スピーキング練習の更なる工夫と学生の自律学習を促すことのできる授業を心がけたい。

2024年度Q 2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G 12
授業コード	11A02-033
教員名	DOIRON, Heather
教員コード	101990
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

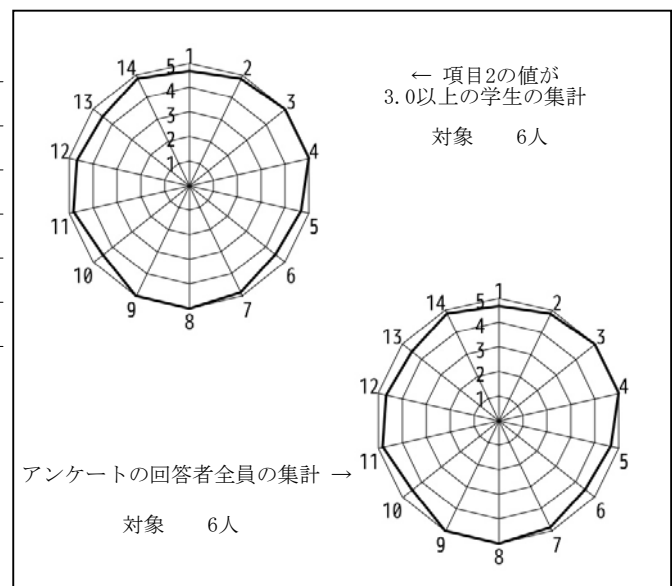
The course met all of its objectives. The interactive and diverse teaching methods effectively engaged students, although there is room for improvement in addressing individual needs, particularly for advanced grammar topics.

For the next quarter, the following measures will be implemented:

- Enhanced Support: Introduce targeted workshops or additional resources for complex grammar topics to provide more tailored support.
- Increased Interaction: Incorporate more interactive activities and real-life scenarios to further engage students and apply their skills practically.
- Regular Feedback: Implement more frequent feedback sessions to better understand individual student needs and adjust teaching methods accordingly.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G 18
授業コード	11A02-039
教員名	木下 薫
教員コード	104328
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

- (1) 学術的および社会的な文脈でのコミュニケーション能力を高める→達成できた
- (2) 授業のテキスト等の内容を批判的に探求し分析する→達成できた
- (3) 自分の意見を論理的かつ適切に表現する→達成できた
- (4) さまざまな問題に関して意見や視点を整理し、発表する→達成できた
- (5) TOEFLまたはIELTSのテスト対策の学習を始める→導入のみにとどまった

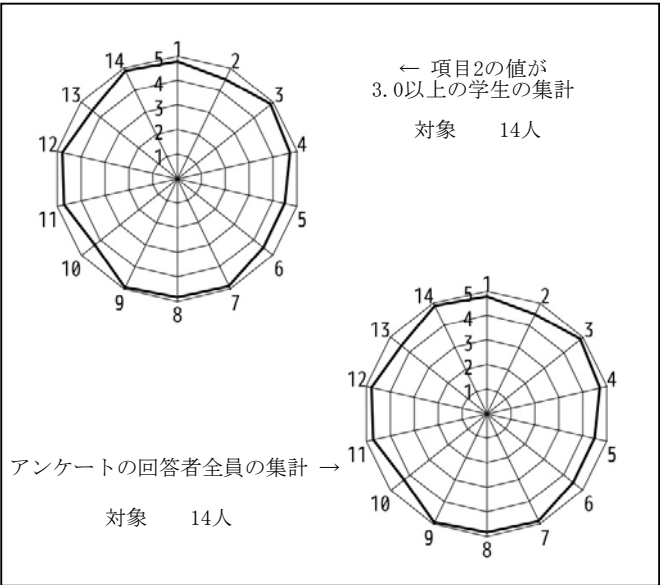
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業の構成や進行速度、教員の授業に取り組む姿勢などについては、おおむね良好な評価を得られたと思う。同時に、授業の到達目標の理解が十分でないと感じる学生もいることがわかったので、めざすべき学習者像をわかりやすく示す必要があると感じる。授業の内容への興味や理解、学習意欲に関する自己評価は相対的に低い。大学では勉強は自発的にするものなので、学生は受け身にならず、自分に合った方法で英語の学習を続けてほしい。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
引き続き、ペアやグループで実践的な内容について意見交換し発表する機会を多く設けていく。また、課題の説明を早い時期におこない、学生が準備時間を十分確保できるようにする予定である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]1
授業コード 11A06-008
教員名 SIMMONDS Brent
教員コード 103050
登録人数 22
回答数 14
回答率 63.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

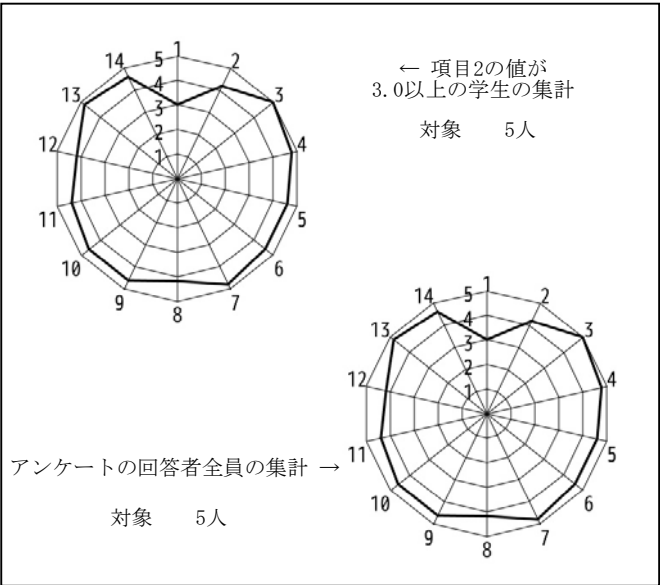


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was generally pleased with the student evaluation but must tighten up and improve in certain areas. The students said they would like more speaking practice and enjoyed weekly short writing exercises. In the future, I will give students greater autonomy in choosing subjects for discussion. The students enjoyed the presentations but found it difficult to use PowerPoint. The balance between the four skills was about right, but I will add extra speaking to the syllabus in future classes. I will learn more about the students and alleviate their problems. Judging how much assessment is made in Web Class is an area that will be monitored.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[B]2
授業コード	11A06-009
教員名	BLOWER, Luke
教員コード	104287
登録人数	25
回答数	5
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

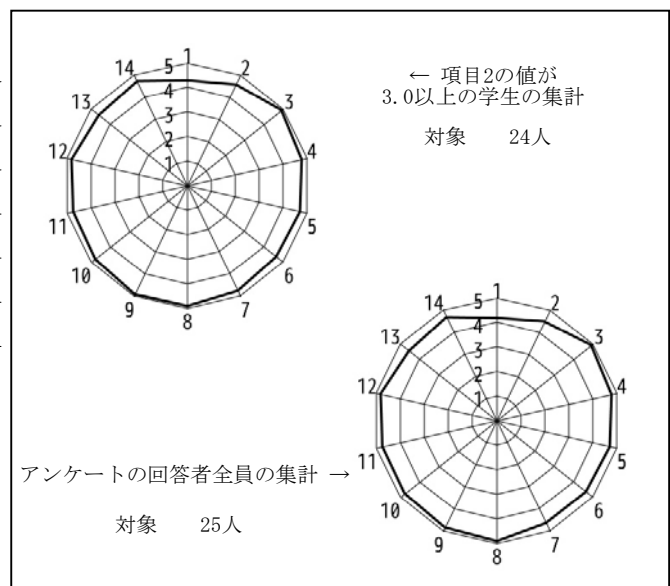
The main aim of the course this quarter was to integrate some elements that I thought were lacking in the students' writing and communication skills from observing quarter 1. These elements were writing for a specified audience, integrating AI tools into writing and employing critical thinking in their writing. To this end, I directly sought to weave these into the material and tasks we covered in class.

When we looked at these skills, it became clear why the students were not proficient in them; for example, the majority of the class had never used generative AI tools in their education. As AI will be something that will be essential in pretty much any employment in the future, I was happy that I was able to introduce it to them. The results were mixed and it seemed as the students were not entirely positive toward using AI. This whole process must be ongoing and I will revisit it in the next quarters.

For critical thinking, there were some great results and it will be interesting to tackle some more 'thorny' issues as we go forward.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]9
授業コード 11A06-016
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 26
回答数 25
回答率 96.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

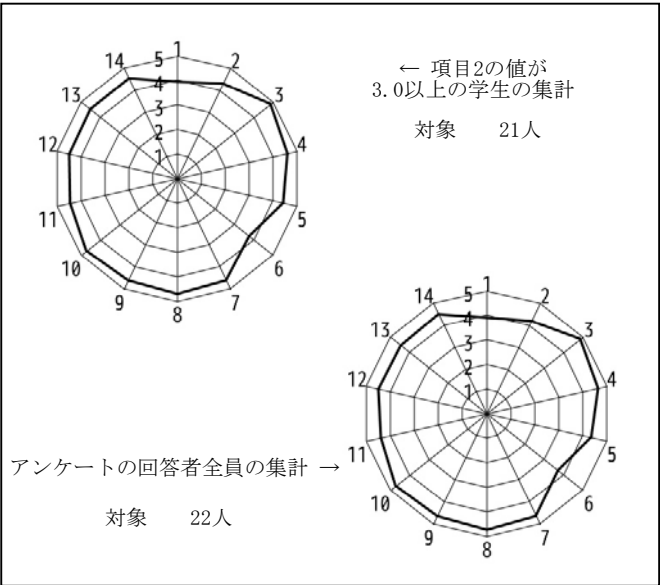
シラバスに提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、開講当初に設定した目標は概ね達成できた。

数値データについては全般的に良好な結果であった。最も平均値が低かったのは、履修前の興味を問う項目1 (4.20) で、次いで予習復習を含む主体的な授業参加を問う項目2 (4.48) であった。授業中は個別の活動にもペアやグループで行う協同学習にも主体的に取り組む学生が大半であったが、授業時間外の課題の取り組みには個人差があった。まず、英語の本を読む多読活動であるが、26名中6名 (23%) は目標語数を達成することができなかった。授業の中で多読の効果や取り組み方を再度説明したり、学生間で活動状況を共有する機会を増やしたりして改善を図りたい。また、ライティング課題では最終稿を宿題としているが、初稿と最終稿を比較してみると、この取り組みも個人差が大きいことがわかる。今後は、最終稿の作成段階で検討したことや修正・改善を行った点を記述させ、評価の対象とすることで改善を図る。

項目4、5、6、11の平均値がいずれも高いことから、授業構成と進度、教材の内容とレベルなどは学生に適していたと考える。自由記述の回答にも、理解しやすかったというコメントや、特に英作文の書き方が学べたというコメントがあった点は良かった。また、グループワークや発言の機会が多いことに好意的であることが示されたので、今後も継続していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[P]2
授業コード	11A06-021
教員名	NICKSICK, Thomas
教員コード	102113
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students improve reading proficiency with extensive and intensive reading tasks. They also learn how to write clearly and effectively by developing skills in planning, organizing, and developing ideas.

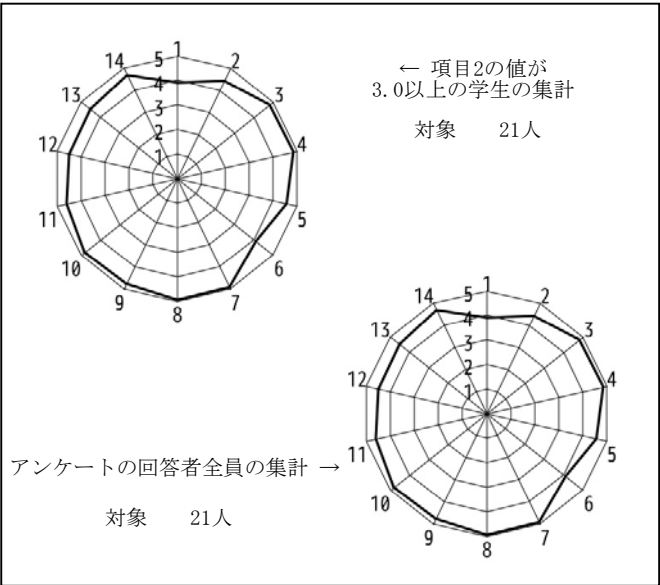
The instructor was relatively successful in some areas. Ratings of 4.64 showed the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course and took into account the students' degree of understanding.

However, the instructor needs to improve other areas of the course. A rating of 4.36 showed the instructor did not help the students understand the course attainment target. Also, he was not as successful in motivating students to learn, encouraging active participation, and providing sufficient opportunities for questions and consultation. A 4.45 rating showed that the instructor must help students gain more knowledge and deepen their understanding of the class content. In addition, the overall satisfaction with the class rating was only 4.50.

The instructor must find better ways to motivate students to learn and participate in class. They also need more time for questions and consultation.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[P]5
授業コード	11A06-024
教員名	CHOLEWINSKI Michael
教員コード	100613
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was happily surprised by the evaluation responses. I feel that I “mostly” met my goals for this quarter, but fell short of focusing on specific reading skills, which is reflected in the slight dip in #6. I plan to remedy that in Qs 3 & 4 with an adjustment of skill priorities in the content and activities.

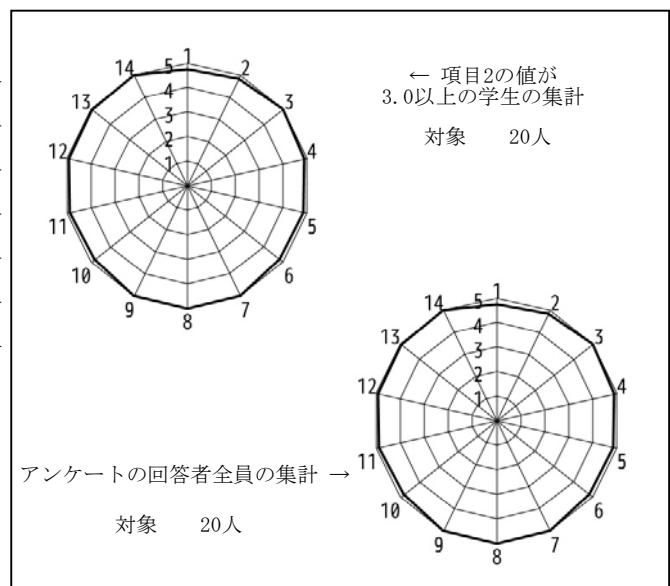
*comments on non-evaluated courses:

The Communication Skills course was enjoyable, but a bit challenging as the general student level was a bit lower than I expected. I feel that I will need to continue to re-tool my activity offerings in Qs 3&4 to meet their needs more adequately. I would imagine, given the chance, that they would evaluate my offerings at “too challenging.”

The Writing I courses: Because the course material and goals are predicated on practical writing skill development, I felt that I was able to offer something of value and use to the wide range of majors in the courses. These students impressed me the most of all three courses...and I felt that we had a pleasant, workable relationship.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名 水野 眞紀
教員コード 101981
登録人数 21
回答数 20
回答率 95.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

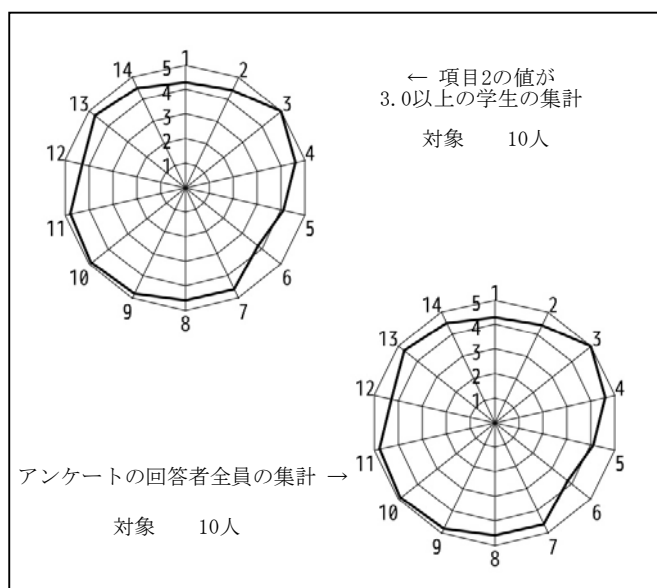


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標はおおむね達成できた。今期は言語能力と総合的なコミュニケーション能力の高い学生が多いクラスであったことに因る。リーディングとライティングを同一テーマで扱いCLILを効果的に実践できた。授業の教科書に加え、課外が多読教材やウェブ記事でインプットし、フリーライティングで流暢さを向上させ、3種の構成を学びながら各2稿ずつエッセイを書き、期末には5段落450語からなるエッセイを書けるまでになった。また教員とクラスメートのフィードバックからメタ認知能力も発達し、読み書きが相互に関連していることを理解できるようになった。
- ② 数値データは実際より高めに出ていることは否めないが、熱心な学生が興味を持ち続けさらなる成長を遂げたことを示している。「当初は10分かけても数行しか書けなかったが、200語も書けるようになった」のようなライティングに関する多くの自由記述と「到達目標に向けて力がついたか」の数値も高い。またフィードバックとアクティブラーニングについても「グループ活動で楽しく学べた」、「質問がやすい環境であった」など好意的なコメントも見られた。
- ③ ライティングの評価割合が半分以上を占めるため、リーディングにも注力する必要を感じている。補助リーディングを差し込んだが、表層的理解が精いっぱいであった。語彙や文法の指導も丁寧に行い定着させる。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]5
授業コード 11A06-036
教員名 石田 理可
教員コード 104495
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

エッセイを書くための基本を学ばせることが第1目標だった。内容を膨らませる材料をどのように探せばいいのかわからない学生がほとんどだったので、それらを得て使用できるように授業にした。エッセイの内容を充実させるために、多くの映画、本を活用した。

「様々な視点から物事を考える重要性に気づき、様々な異なる視点や文化を理解がエッセイの内容を豊かになり、深みを増すことに役立った。映画や本、それらに関するディスカッションを通じて英語力を飽きずに向上させることができ、リスニングやスピーキングのスキルも自然と向上した。また、映画の中で使われる生きた英語表現を学ぶことで、実践的な英語力が養われた。授業では生徒との距離が近く、毎回楽しんで参加でき、先生とのコミュニケーションも取りやすく、質問や意見交換が活発に行われたため、学びが深まった。さらに、正しい文法やエッセイの書式についてももっと学びたいと思う。」

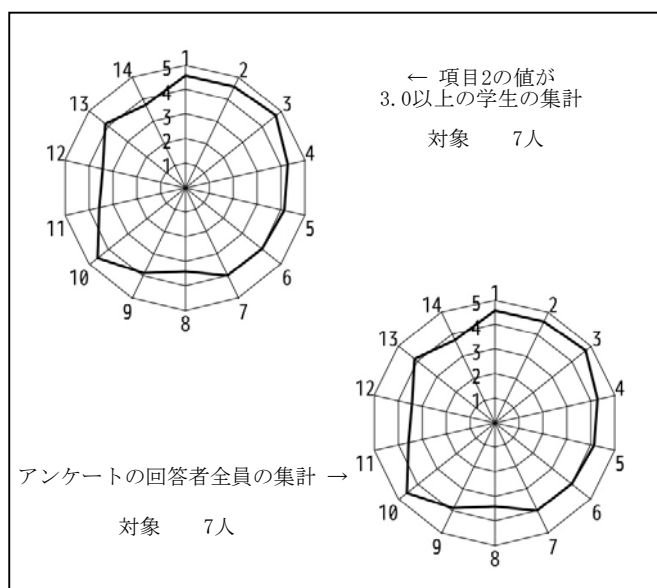
エッセイを書く際には、文法の正確さや構成の整った文章が求められるため、これらのスキルを向上させることが重要である。

「課題はwebclassで送ってはくれましたが、教室内では一度しか言われなかったため、ホワイトボードにも書いてほしいと感じました。」

とあったことが改善点だと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー[G]6
授業コード	11A06-037
教員名	クマイ 恭子
教員コード	101131
登録人数	22
回答数	7
回答率	31.8%
休講回数	2 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講では英語エッセイライティングの基礎を学ぶと共に、情報をエッセイの構造に沿ってまとめる思考能力および読解力（語彙力強化を含む）習得および向上を目標としている。学生は第一クォーターよりも先述の力が伸びた学生が多かった。特に英語エッセイは構造の基礎および執筆の際の要領を掴めたのではないかと思う。

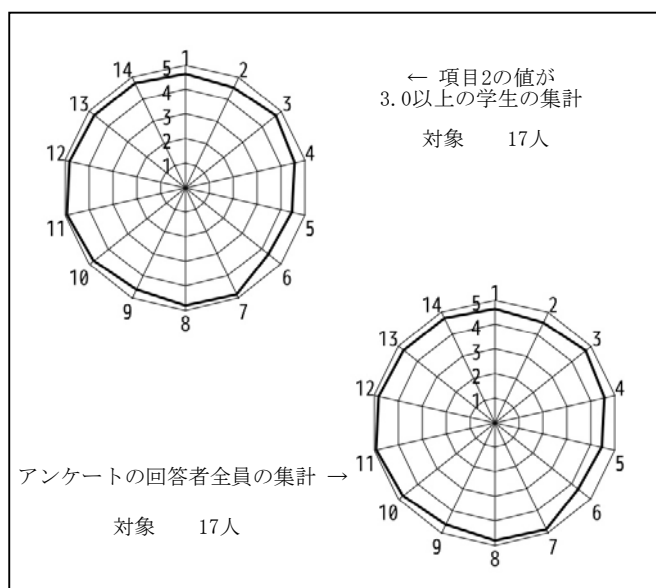
学生側の反応となると、上記とは逆に全体的に満足しないという回答が多かったようで、教員側にも反省すべき点があったように思われる。模範解答が欲しいという要望がみられたが、エッセイについては作成者個人によって主題や論旨の展開が異なるため、モデルを提示することで「エッセイとはこういうものである」という雛形を与えてしまうことに危惧があり、今後もモデルエッセイ配布はしない方向である。むしろ、学生の側から個人的に質問していただけるとありがたいと思う。ただし改善策として、エッセイを返却する際に学生が自分のエッセイと教員のコメントを読み、それに基づいて質問できる時間を儲けるようにするつもりである。

グループ活動は概ね積極的に取り組んでいたようで、これについては今後も継続する。

次クォーターでは上記に気を配りつつ授業運営を行なっていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]7
授業コード 11A06-038
教員名 SKEATES, Colin
教員コード 104779
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

As this was my first time teaching the course, I was quite uncertain how the course would go. With this in mind, I decided to simplify and make the course aims quite unambitious.

1. Students would read a lot and then talk about what they read.
2. Students would learn about writing conventions found in higher education.
3. Students would write at least two essays.

Given the relatively low bar, the course was a success; we were able to achieve all three objectives.

In the future, I would like to provide more feedback on student writings. To do this, I will change when we do writing. By this I mean I plan to cover the first four units in quarter 1, and then solely focus on (essay) writing in quarter 2.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー<再>1
授業コード	11A06-042
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	21
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

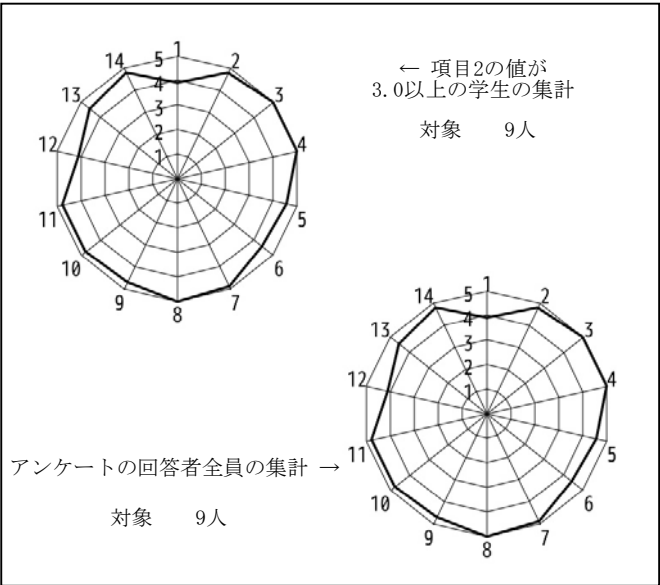
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1/ The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. 2/ The results are good, but I wonder about the following. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department. 3/ Nanzan could do some specific things to make teaching easier. For example, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.
--

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]8
授業コード	11A10-008
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	22
回答数	9
回答率	40.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

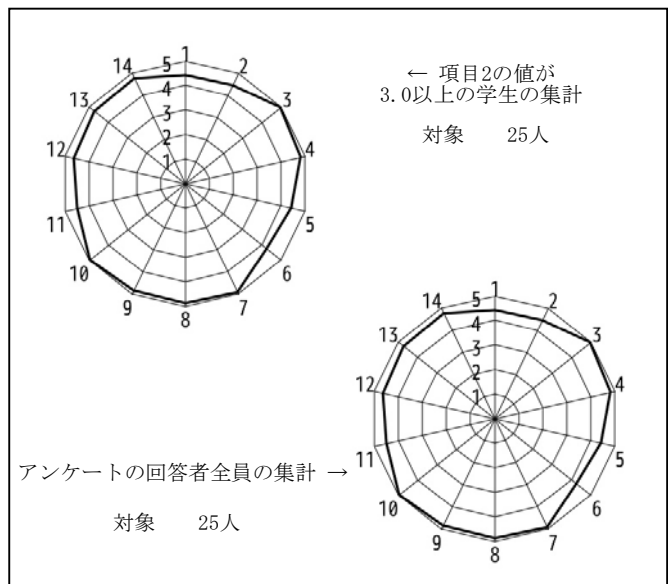
At the start of the course, the primary goals were to enhance students' speaking skills, improve comprehension, and encourage active participation. These goals were largely achieved. Most students demonstrated notable improvement in their speaking abilities and displayed better comprehension of English texts. Classroom activities and communicative exercises were instrumental in fostering a more engaging learning environment.

Based on class observations and student attitudes, the overall performance of the course was positive. Students were generally motivated and participated actively in discussions and exercises. Their enthusiasm and willingness to communicate in English contributed to a dynamic classroom atmosphere. While numerical data from surveys was not available, qualitative feedback indicated that speaking goals were met, with students showing increased confidence and proficiency in using English.

Looking ahead to the next quarter, the focus will be on increasing student speaking time and helping them use English more accurately and expressively. Specific measures will include integrating more structured speaking activities, offering targeted feedback, and incorporating peer review sessions to enhance communication skills. Additionally, refining lesson plans to include more varied and challenging topics will help sustain student interest and promote continuous improvement in their language abilities.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]6
授業コード	11A10-020
教員名	伊藤 実里
教員コード	045542
登録人数	26
回答数	25
回答率	96.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

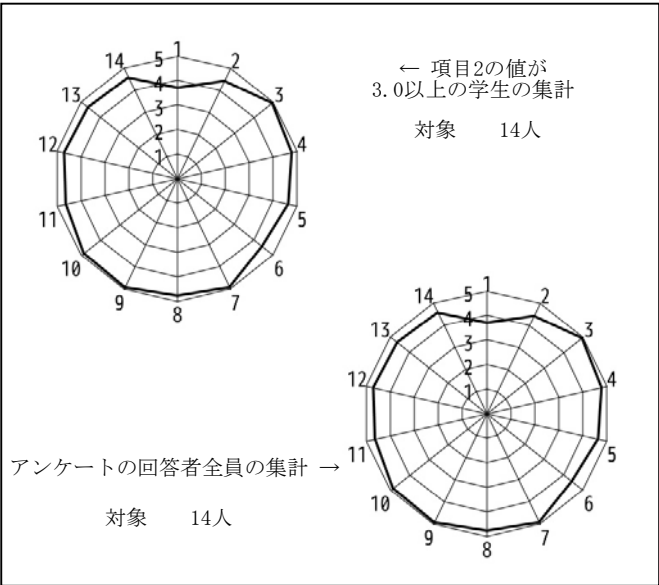


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1~Q4の通年必修科目であるため、シラバスでは最終的な到達目標を示している。したがってQ2終了段階では履修者にとっても達成具合を実感しにくいのはやむを得ない。ここでは自由記述を中心に自己点検・評価、および本年度後半に向けての改善点と方針を記す。コミュニケーションクラスの基本である、クラスメートと話をし知り合うという第一の目標は十分達成できている。毎回異なる人とペアになって話すことがメリットとして複数挙がっている。これは毎年好意的に受け取られているので今後も継続していきたい。板書ではなく天井からのスクリーンにプロジェクターでスライドを見せる説明もいつも好まれる。これについては、それが可能な教室を使用させていただいていることに感謝している。教科書で日常会話や話し合いで普遍的に利用できる表現を学習していることが役に立つと感じている人たちも多い。それに加えて後期は、トピックをもう少し深く考えること、およびアカデミックな語彙に注目したい。高校の英語の授業よりも英語で話す機会が多いことを楽しいと感じている人も多いことがわかる。それは継続しつつ、後期は説明などにも英語の割合をもっと増やしていく予定である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[J] 16
授業コード	11A10-042
教員名	VIADO Cora
教員コード	100553
登録人数	23
回答数	14
回答率	60.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

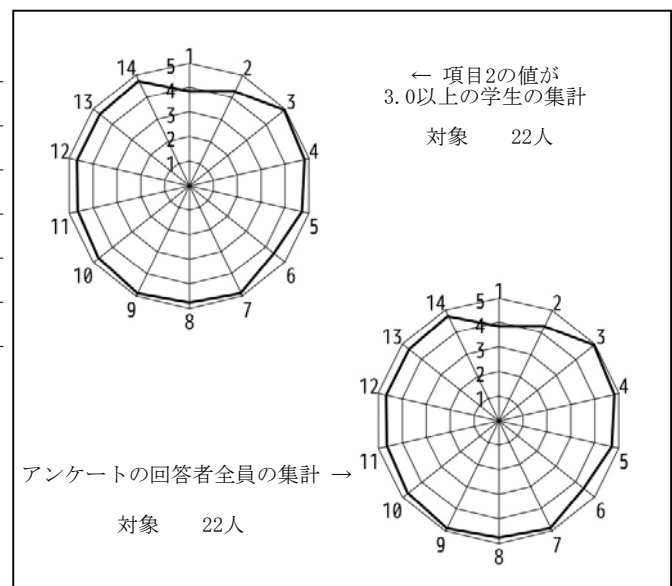
The main objective of this course is to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics. The overall positive evaluation (4.74) indicates students' general satisfaction with the content covered and the instructional methods used. Most of the students are contented with the class (4.57). The students' comments show that having opportunities to work with different classmates were stimulating and fun, and using English as much as possible helped improve their English skills.

It should be noted that the only question that had a value less than four (Question 1: 3.71) pertains to students' interest in the subject matter prior to taking the class.

More effort will be made to check on students' understanding and comprehension of the course objective and required work for assessment. Students will also be given more chances to interact more actively with one another.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[T]8
授業コード	11A14-016
教員名	酒井 美納江
教員コード	046060
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1、Q2を通して、リスニングの知覚ディコーディングプロセスの自動化を強化するシャドーイングの練習や、ブックレポートを音声ファイルで提出させる課題を与えることでリスニングの練習に重点を置いた。その上で、Q2ではReader's Theaterや短めのプレゼンテーションを行うことで「相手に伝える話し方」を意識したスピーキングの練習を行った。リーディングの教材においても口頭で使われるような語彙については、自己流の発音ではなく正しい発音ができる様指導した。自由記述では「スピーキングの力がついた、語彙力がついた」とのコメントが見られたので、目指すところには向かっていると思っている。授業運営に関しては、対象の学生たちが必ずしも英語に興味があるとは限らないので、各レッスンの予定や課題で何を行わなければならないか、などを分かりやすく説明したり例示することに神経を使った。この面に関してコメントを見る限りでは肯定的に受け止められているので、今後も「分かりやすさ」に心を配っていくつもりだ。ただ、項目16には「もっと英語でトークしたい」というコメントがあり、もともと英語の学習に前向きな学生にとっては物足りなさを感じさせてしまっていることが分かったので、Q3Q4ではもう少し自由度の高いスピーキング活動ができる様準備していくつもりだ。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全・T>2
授業コード	11A18-008
教員名	HUSTON, Adam David
教員コード	104956
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The primary goal was to maximize both student-created and text-created listening exercises to enhance listening skills. Active participation was encouraged through brainstormed listening exercises, where students created and presented mini speeches in every class. This required other students to engage in various personalized listening exercises. A fun, student-created assessment was conducted at the end of the course. I provided many personal, fun short stories for students to practice intonation, rhythm, and stress of regular speech, as well as distinguishing minimal pairs. Additionally, students took notes on many 2-4 minute listening exercises, created their own listening exercises, and learned a variety of new vocabulary. I believe the course goals were achieved, as students were very engaged and active in every lesson. They enjoyed the class and learned about each other, which was especially beneficial for first-year students. For next year, I aim to improve time management for class activities. Despite this, I think the course went well. Using the same text series but at level 2 instead of level 3 might be more suitable.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語II翻訳<全・T>1
授業コード	14A06-001
教員名	加藤 普由子
教員コード	101654
登録人数	9
回答数	4
回答率	44.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

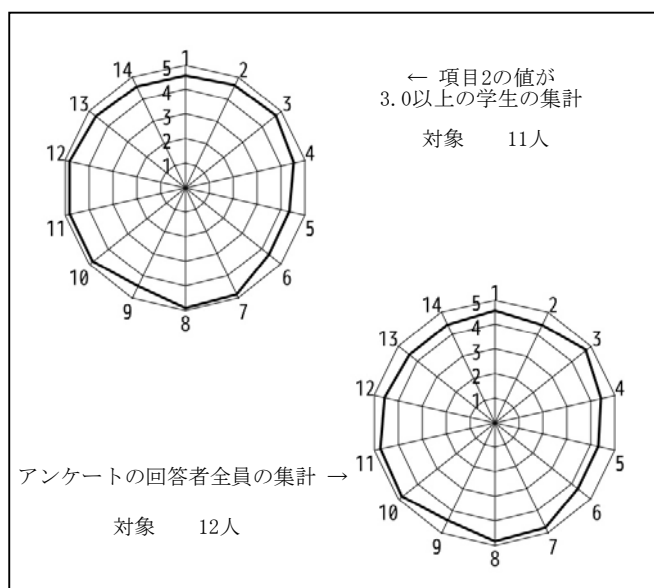
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ2は登録人数が少なく、そのなかの4名による回答のためレーダーチャートがなく、設問項目と学生毎回答結果との照合での確認になる。全体的な評価に関する設問、新しい知識、技術や能力の習得と理解の深まり、そして授業への満足度は全員から5評価をもらった。関連する問3～7で確認すると、到達目標の理解では4評価を2名、5評価を2名から。問6の到達目標に向けて力がついているかどうかに関しては、1名から4評価、3名から5評価となった。4評価をつけた1名は問9も同評価であったことから、学生の理解度へのさらなる配慮、板書や配布資料等の効果的で適切な活用に関して工夫が必要と考える。問6と問9とは異なるが、問10と問12でも同一学生から4評価をもらっており、想像の範囲になるが、遅刻や欠席等による事後指導が不足していたのかもしれない。最後に、自由記述に「質問がないか都度確認してもらえて丁寧な授業でした」「自分で訳をする時間と、学生同士で検証する時間と先生の解説の時間をゆっくり取ってもらえたので、とても理解が深まったと思います」とあり、学生の習得に貢献できたことは喜ばしい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language C
授業コード	31C13-001
教員名	SAYENKO, Tetyana
教員コード	104929
登録人数	25
回答数	12
回答率	48.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

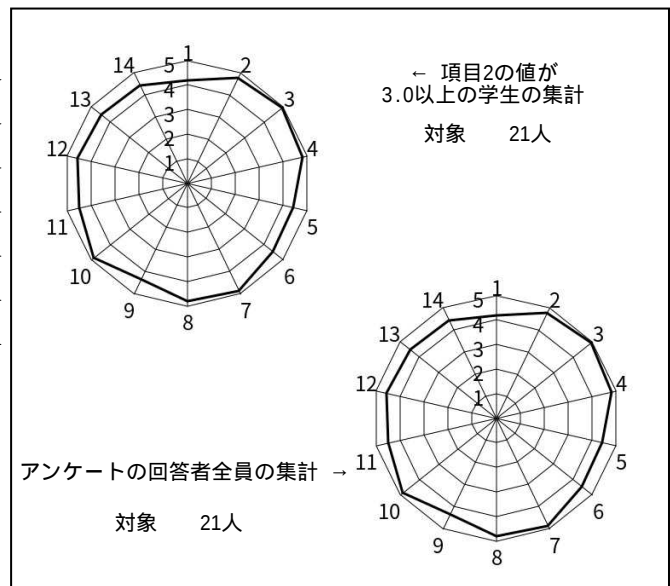
(1) The main purpose of this course was to provide students with a basic knowledge of the sound and intonation system of English, with particular reference to Japanese students' problems in learning English pronunciation, so that the students could use phonetic theory to improve their pronunciation and intonation skills in English. This class was delivered in lecture and training style. Lecture notes and video materials were prepared for each class and posted to Google Classroom for review and practical application in speaking. Intensive methods of teaching pronunciation (articulation exercises with contrastive pairs of phonemes, gestures, tapping the rhythm, tongue twisters, speech shadowing, speech recording, etc.) were used to enhance student learning. All the topics planned for the course were covered, and all the teaching goals were met by the end of the course.

(2) The average numerical data are in the range of 4.33 to 4.83. Based on the Final test and Final presentation results, most students significantly improved their pronunciation skills both on segmental and suprasegmental levels. Students were happy to practice many times to polish their pronunciation skills. They said it was satisfying to see the progress they made in English pronunciation.

(3) There were many things in this class that the students learned and did for the first time. Next year, I plan to introduce more group work and group tasks to intensify student learning and provide more opportunities for shy or less prepared students to actively participate in classroom discussions.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]4
授業コード	11A11-004
教員名	TAKEUCHI , Rebecca
教員コード	104947
登録人数	23
回答数	21
回答率	91.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Thank you for all your valuable feedback. I'm truly impressed by your dedication to achieving many of the yearly reading and speaking goals in the past quarter, including already meeting your extensive reading goals. Your hard work and commitment are commendable.

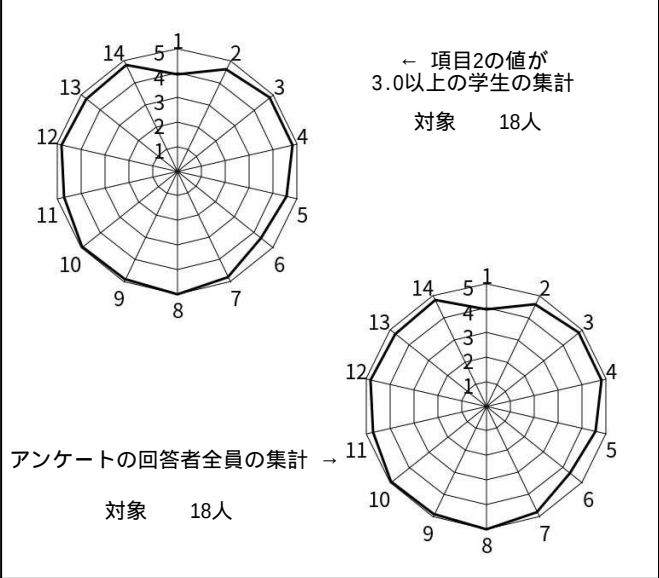
In the upcoming quarter, we'll shift our focus towards applying the skills we've learned to more practical, real-world scenarios. This includes conducting interviews, providing critiques, and delivering group presentations to solicit money for a fictional NPO. These tasks are designed to foster active English language engagement and boost your confidence in using the language.

To further enrich our learning experience, we'll continue to use relevant TED Talks and other media to reinforce the lessons in each unit. As always, I remain committed to accommodating any students who may have difficulty reading handwritten material on the board. Please don't hesitate to let me know if you need any assistance or have any questions.

I'm excited about the opportunities that lie ahead and look forward to working together to achieve even greater success in the coming quarter. If there is anything else that you think would improve the course, please let me know.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[FA , FF, FS, FG]2
授業コード	11A13-002
教員名	DAVANZO , Christopher
教員コード	101653
登録人数	22
回答数	18
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

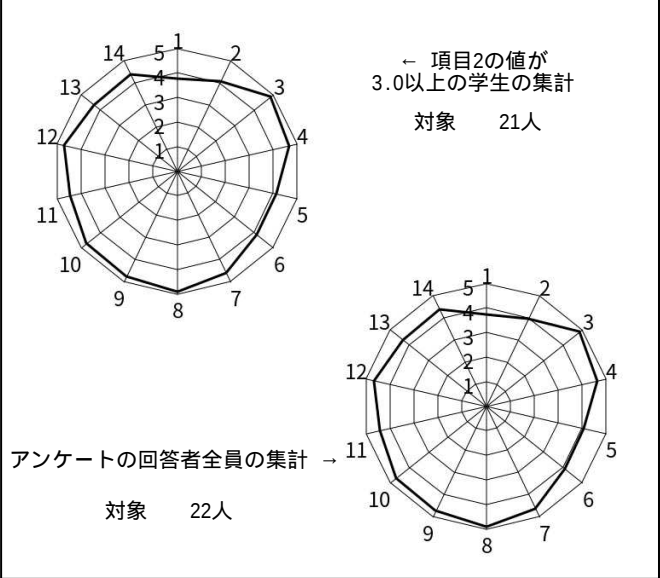


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In general, the students achieved the class goals which included learning new academic vocabulary, being able to discuss various topics, understanding authentic English texts, and making small group presentations to classmates and leading discussions. In the third quarter, they did very well in their discussions of the class topics. First, they engaged in everyday small talk, and after that they introduced the main topic. In addition, they had to ask follow-up questions and comment on their partner's responses. Students also completed academic vocabulary sheets on a weekly basis, and they were tested on 25 words per week. Additionally, the class engaged in regular vocabulary review activities, and they performed well, retaining a high percentage of the vocabulary they had studied. Their reading fluency and comprehension was quite high and they could handle authentic texts with the help of dictionaries. For next year, I would like to expand on the variety of topics that I introduce to the class and build up their conversation skills even more. I also want to create some new small group activities for them. Overall, I was pleased with the high numerical numbers in the radar chart and the positive comments from the students. I will strive to continue improving the content.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIコミュニケーションスキルズ[T]2
授業コード	11A15-002
教員名	PEO, Jared
教員コード	104673
登録人数	23
回答数	22
回答率	95.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

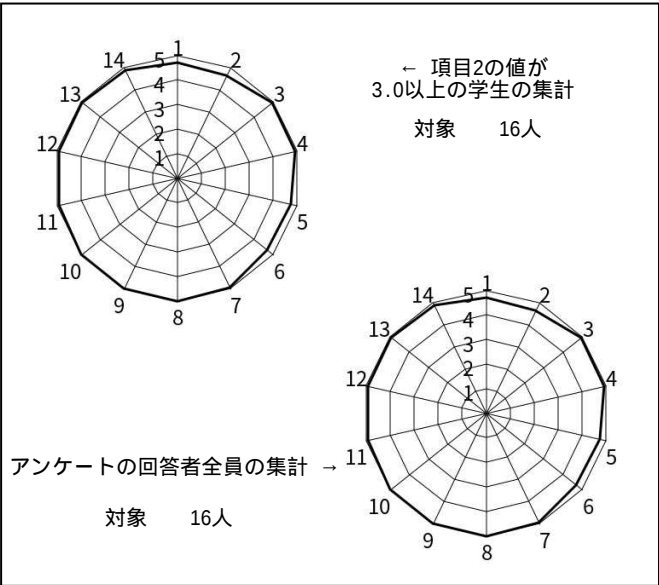
The goals of this second year course are to further help students improve their overall ability to use spoken English. While I believe that most students in the class are motivated and reaching these goals, the lowest scores on the evaluation were about not understanding the goals of a class or activity and not improving towards the goals of the class. As a result, I will try to offer more clarity in the purpose of what we are doing and how it will help students reach the course goals.

As for the specific goals in the course, students are able to have 5-minute conversations, pass vocabulary quizzes, and give presentations. The main issue is students are relying too much on notes or scripts rather than learning the skills and using the vocabulary spontaneously. Despite developing their speaking skills, motivation to be active in class remains low. In Q4, I will make an effort to boost interest in the topics.

On an extra question about whether I should bring back in-class extensive reading time, the students split about 50/50. I plan to bring it back in Q4 because the students who requested it had trouble meeting the reading goals.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iライティング<全・T>3
授業コード	11A17-021
教員名	HOWREY, John
教員コード	100371
登録人数	23
回答数	16
回答率	69.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to help students communicate effectively and clearly in writing in English. Students wrote a description paper, a comparison paper, and an evaluation paper. Each essay was 300-350 words. Students also practiced ways to combine sentences to improve their grammatical competence.

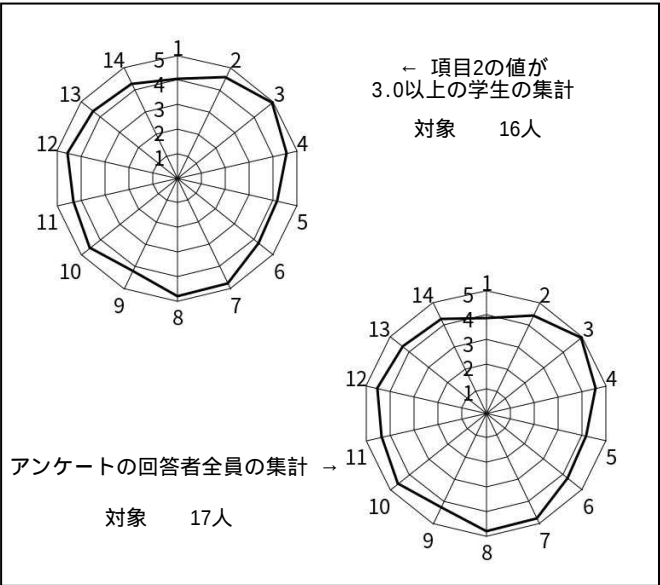
I was very pleased with the results of the questionnaire. I asked students if they felt I should collect the ten-minute timed writing in class or on WebClass. Most students liked doing the timed writing in class but preferred submitting it later on WebClass as a way to improve their writing and get more writing and typing practice. They also liked sharing their work with peers and listening to what others wrote.

Students wrote that they could improve their writing skills in the class, that they appreciated the written feedback on their rough drafts and the quick responses to their mail or in returning their work, and that there was a good environment for asking questions. Several students wrote that they did not were not confident in English, but could understand my instructions and feedback.

I have no plans to change the dynamics of the course.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iディスカッション2
授業コード	11A19-002
教員名	MILLER , Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	24
回答数	17
回答率	70.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

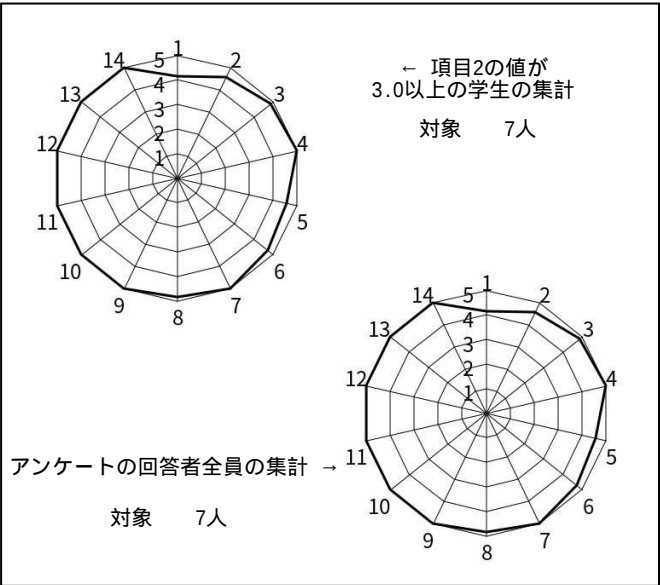


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class was very interesting, but a little challenging for the students. Many of them had been with me for a Listening class in quarters 1 & 2, and I noticed at the time that some of them were not so keen to discuss in English, which I pointed out to them would make quarters 3 and 4 very difficult for them. With a little time, every student was able to form and share their opinions, but this did mean that each lesson did cover less of the textbook than I anticipated, so in the future, I may select fewer aspects of the textbook to use, and focus more on other activities. The class also welcomed some new students, which was brilliant, but there was a wide range of English ability, and I worried the students with less English speaking ability sometimes felt nervous or embarrassed to speak in English and make mistakes, so I relied more on students talking in small groups rather in front of the entire class.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリーディング<全・T>2
授業コード	11A23-002
教員名	ELLIOTT, Darren
教員コード	101579
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



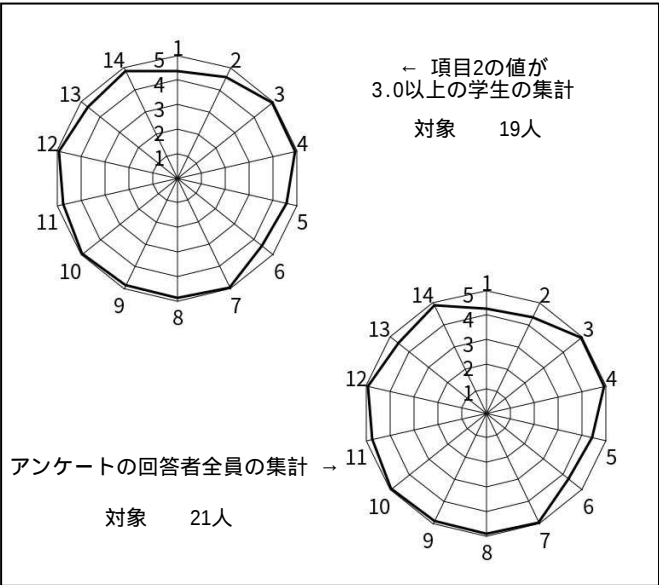
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, the students seemed satisfied with the course. In general, I was too. It was my first time to teach this particular elective course and I had to adjust as I went - some of my planned tasks would have been beyond the students' proficiency level. I focused more on skills than I would in other (higher level) classes I teach with a reading component, and the work we did on summarising longer texts seemed to go especially well.

For Q4, I will streamline the assessment activities and I am thinking of switching from a written report (which is more of a test of writing skill than anything else) to a reading examination.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリーディング<全・T>4
授業コード	11A23-004
教員名	ZONI UPTON, Jessica
教員コード	104815
登録人数	24
回答数	21
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



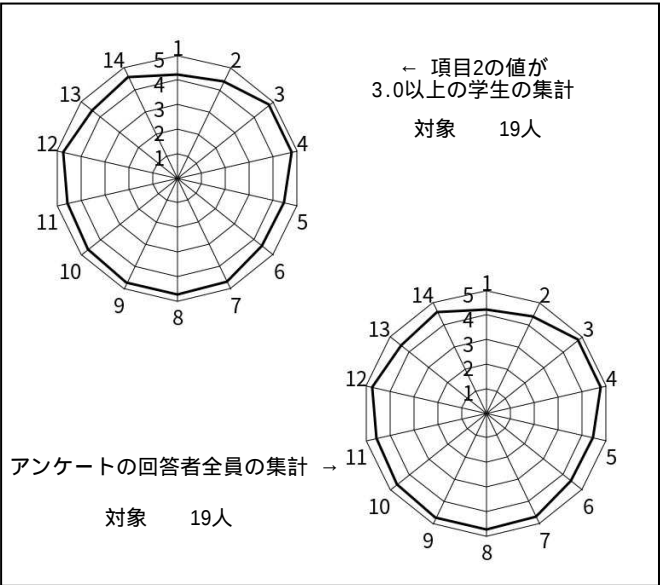
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were to use academic texts on a variety of subjects to increase reading skills, vocabulary and critical thinking skills. The % show that students had a positive experience and experienced growth during the course, achieving these goals. Comments such as these highlight that: "英語をもっと沢山学びたいと思えるような言葉がけなどが多かった", "失敗を恐れずに発言できる空間". Students also had many opportunities to discuss in English in order to use the vocabulary that they had learned and achieve the critical thinking goal: "教員が英語を話す機会を適切に設けてくれた", "教員が英語を話す機会を適切に設けてくれた".

Taking into consideration the only criticism I received from 2 students ("google classではなく、web classで課題を出してほしい"), in quarter 4 I will make the assignment content available on both platforms so that students can submit it where it is most convenient. While that might make that a little more troublesome for my grading, I understand that students can be troubled by having to learn many different systems depending on the class. I will also add an instruction video that they can use to understand how to submit.

2024年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング<全・T>7
授業コード	11A25-033
教員名	TAYLOR , Jamie
教員コード	104100
登録人数	23
回答数	19
回答率	82.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

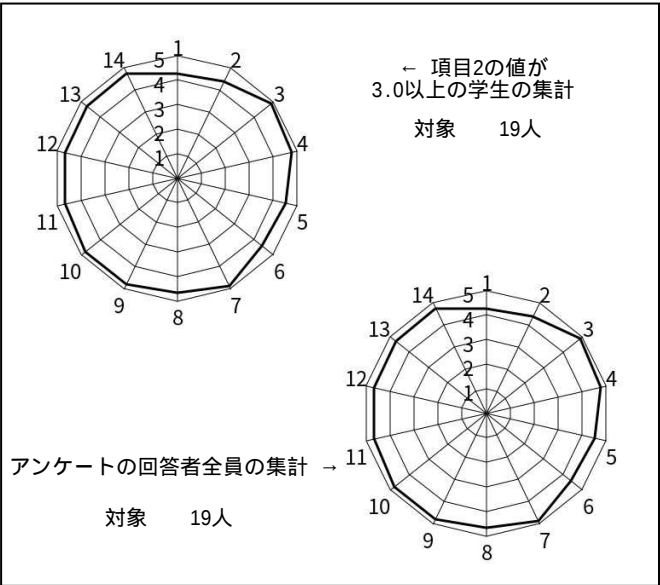


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals in this course included improving overall English listening ability including understanding and taking notes from several minute lectures or short conversations or understanding naturally produced English. Overall, the goals for this course were largely met, and most students attended regularly, worked well with classmates, and worked hard during in-class practice and homework. In the future I would like to focus more on understanding reductions in fast speech and recognizing common chunks of spoken language. I will do so by devoting more class time to practice with these topics.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語リスニング<全・T>12
授業コード	11A25-038
教員名	LANGLEY, Patrick
教員コード	104288
登録人数	22
回答数	19
回答率	86.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

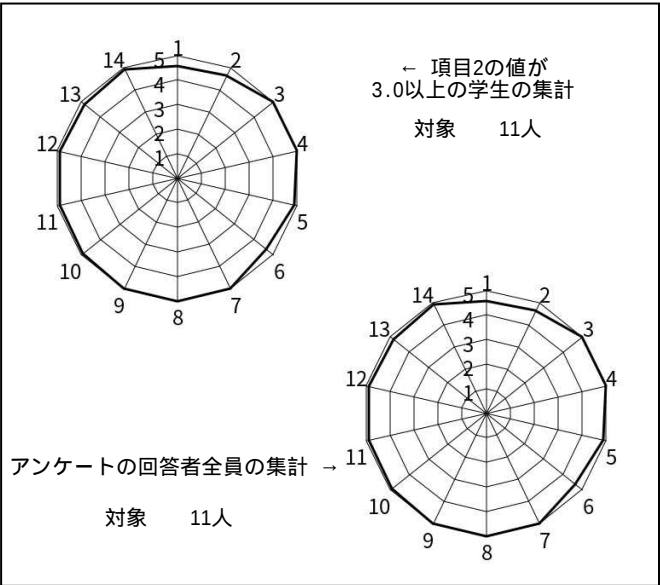


授業評価結果を踏まえた点検・評価

.I am comfortable that I achieved the goals set for this course and the feedback/numericaql data is within an acceptable range. I hope to focus on more concrete measures to help with student motivation, language retention and using a wider range of activities and materials in the future.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語VII <全>1
授業コード	11C07-001
教員名	KOISEGG, Karl
教員コード	103972
登録人数	22
回答数	11
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



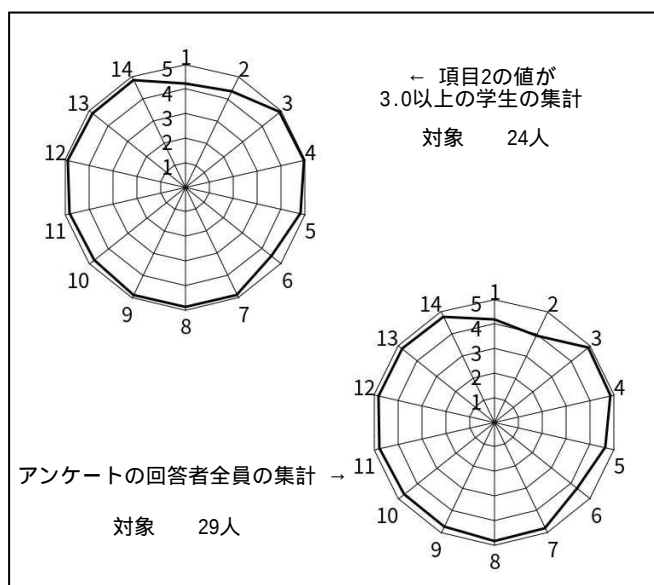
授業評価結果を踏まえた点検・評価

My goal for this class was to make the class more communicative by creating various communicative activities. Unfortunately, the textbook I am using lacks somewhat in giving students the opportunity to speak, so I've tried to use it in a more practical manner. I was especially pleased to read the comment of a particular student who found the lessons helpful for real practical communication. That is exactly what I was trying to achieve.

Overall, I believe the lessons in Q3 worked out quite well and the energy in class was very good. In this class, I sometimes use English to explain certain things and points, which make it easier for me. In Q4, I will try to keep up the positive vibes and continue to do my best to teach communicatively.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III<E・B>1
授業コード 11D03-009
教員名 MAYORAL MUNOZ , Miguel Angel
教員コード 104658
登録人数 34
回答数 29
回答率 85.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of the subject is to give students of Spanish as second language a basic knowledge of the language on which they can rely in the future in case they want to learn the language in deep. The amount of vocabulary is restricted to words that are used in daily conversation, avoiding unnecessary translation of written texts into Japanese. The lesson flow is built in activities the students have to fulfill combining listenings, videos, pair work and explanations to give coherence to the lesson, unit and whole year. Students seem to be happy with the way the lesson is taking place, anyway I will be working harder to improve the lesson quality in the future, in particular trying to give more weight to the oral/aural input compared to writing and reading.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語III<F>

授業コード 11G03-003

教員名 陸 心芬

教員コード 101225

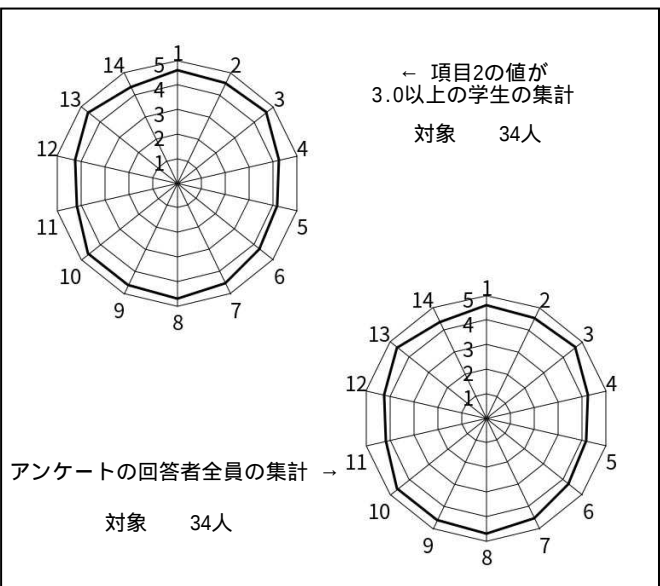
登録人数 36

回答数 34

回答率 94.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4の授業目標であった基礎文法及び基礎会話の習得について、学生による授業評価の設問項目の平均値が4を超えており、おおむね達成できたと考える。

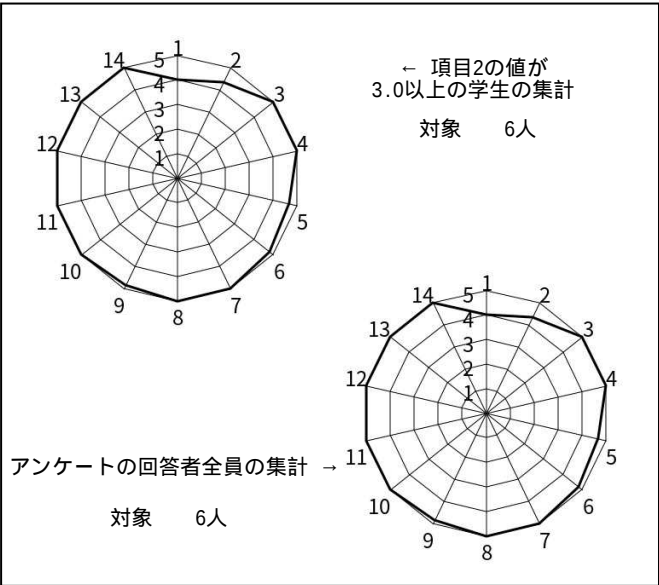
授業の「良かった点」においては「前回の復習で授業内容が理解しやすかった」「授業は難しいけど、席を回ってわからない人にはマンツーマンで教えていたりしてよかった。早くできたらチェックしてくれて褒めてくれたのがよかった」「細かく教えてくれる」「毎回のプリント学習、単語に重点をおいた学習」「韓国語を授業内で話させることで定着を図っていた」「質疑応答がしっかり」「計画通りに授業が進められた。熱心に教えてくださる」「先生が一方向的に講義するのではなく、きちんと実際にペアで会話練習するなど、アクティビティが盛り込まれていてよかった」「スライドを使った説明が分かりやすかった」「時に厳しく時には笑顔でメリハリのある授業になっている」「プリントや教科書、先生のおかげで授業が分かりやすかった。小テストがあることで自分の実力を知ることができて役に立った」などがあった。

「改善点」においては「1人の生徒に集中攻撃で答えさせるのは良くないと思う。負担が大きい。次の授業で習う範囲を予習してこなくてはいけないのは授業の価値が薄れてしまうと思う」「小テストがもう1人の先生のものとは比べて難しすぎる」「授業がすすむのがはやかったり、テストが難しすぎる時がある」などがあった。遅れが出る学生に対して過剰な行動があったのであれば反省し、今後改善していきたい。小テストはペア先生と調節するつもりである。

今回はじめて指定席にして授業を行ったが、遅れが出る学生には友達に頼らず主体的に勉強する様子が伺えた。また授業に対する学生の集中力が向上していた。その反面、学生の積極的な授業への参加度は以前よりは低かった。これらを参考にQ4でもう一度席替えして指定席を続け、授業への参加度向上のために工夫していきたい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ワークショップC<全・T>1
授業コード	14A03-001
教員名	GAGNON , Greg
教員コード	103474
登録人数	10
回答数	6
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

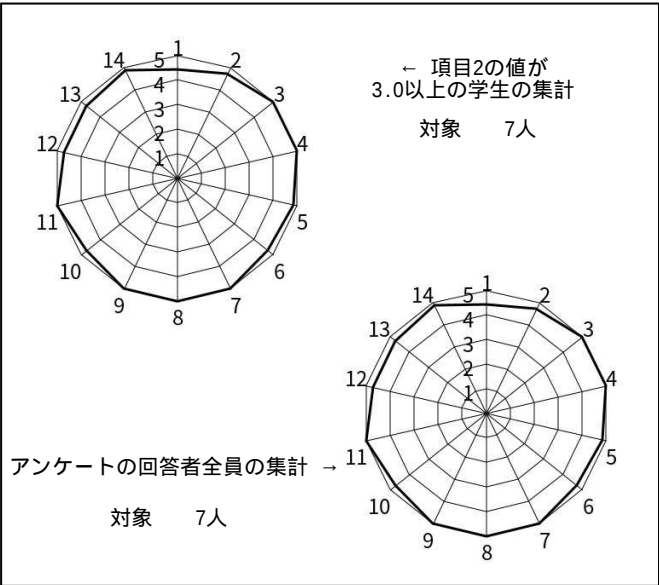


授業評価結果を踏まえた点検・評価

As always, I endeavor to create a positive, forward looking educational environment for my students. The goals of the course include the reading of authentic material in class, and we read two short stories which were not adapted for English language learners: Rescue Party, by Arthur C. Clarke, and The Masters, by Ursula K. Le Guin. Critical thinking was encouraged by the asking of original questions about Science Fiction, and the stories we read, in class. Furthermore, we worked together as a class and in groups to discuss issues and problems in contemporary society, using the lens of Science Fiction. I improved the class based on previous students' input concerning the course material, and made adjustments to make it more accessible. I intend to continue this when I next teach the course. Students' evaluations were positive, with an average of 4.94 on questions 3-17. Typical responses to question 15 were: 物語に絡めて、自分の意見をしっかりと持つことができたこと; 他の方の意見を聞くことができたこと; and 生徒が発言する機会が多かったし、先生も生徒の言うことを否定しなかったこと。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践英語IC<全・T>試験対策IELTS2
授業コード	14A11-002
教員名	TROY, Henry
教員コード	104616
登録人数	9
回答数	7
回答率	77.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

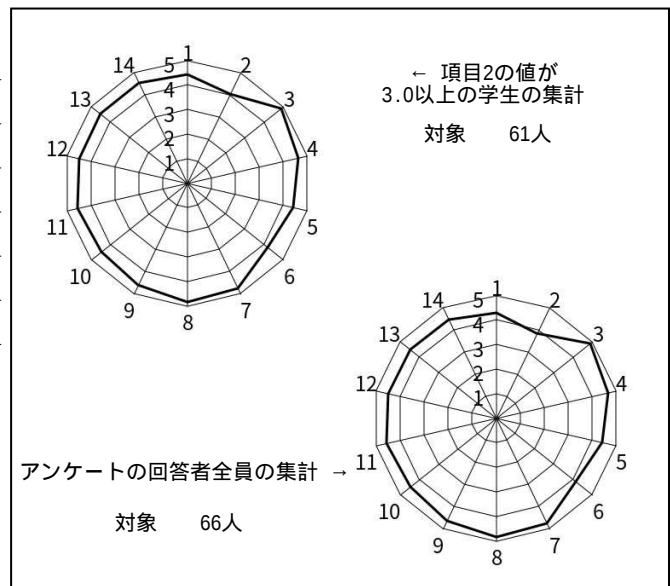


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal of this course is to prepare students for the IELTS exam, with a focus on speaking and writing proficiency in particular. I do feel this goal was achieved during the course as students learned in detail about IELTS writing and speaking tests, and completed one of each themselves.
2. I am happy that the feedback from this class was positive, although it was a small group of students. There are no negative comments and scores given are overwhelmingly high. Nevertheless, there are two 3 scores, the second of which relates to how much students feel they gained new knowledge. That means one student felt they didn't learn a great deal from the course.
3. I will continue to try and ensure that all students taking my class IELTS benefit, and if they aim to the exam itself, are prepared for it. I have more experience in teaching IELTS than anything else, but I will stay up to date with developments in this area so that my materials remain up to date.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育入門
授業コード	24C05-001
教員名	六川 雅彦
教員コード	101221
登録人数	131
回答数	66
回答率	50.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

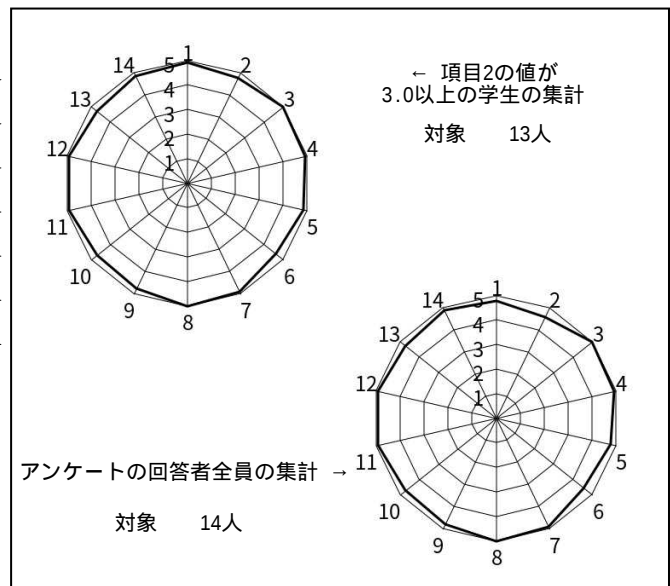
授業評価アンケート結果のレーダーチャートと自由記述を基に判断すると、開講当初に設定していた目標は概ね達成でき、学生の満足度も高かったと考えられる。そう考えられる理由は以下の2点である。

まず、前回本科目で実施されたときの授業評価アンケート結果と比較すると、項目2と項目12以外の全ての設問で平均値が改善されていた。また、全回答者の約4割から「この授業の良かった点、評価できること」についてのコメントが得られた。特に、「日本語について改めて見つめ直す機会を得たこと」「留学生について深く知れたこと」についての評価が高かったようである。開講当初に設定していた目標の一つとして「日本語について自分で考える方法を知っている」ことを設定していたが、これについては特に達成できたと考えている。

これも前回よりは改善されたが、アンケートの回答者が受講者の約半分と少ないことが気になる。次回以降もこの点の改善を考えたい。また、今回評価された点を更に改善し、評価も改善していきたいと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]3
授業コード 11A07-034
教員名 木下 薫
教員コード 104328
登録人数 21
回答数 14
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アカデミックエッセイの構成と形式、比較・因果関係のエッセイ、英語のメール、多読精読、500語以上のエッセイ、APAスタイルによる引用 → 到達できた

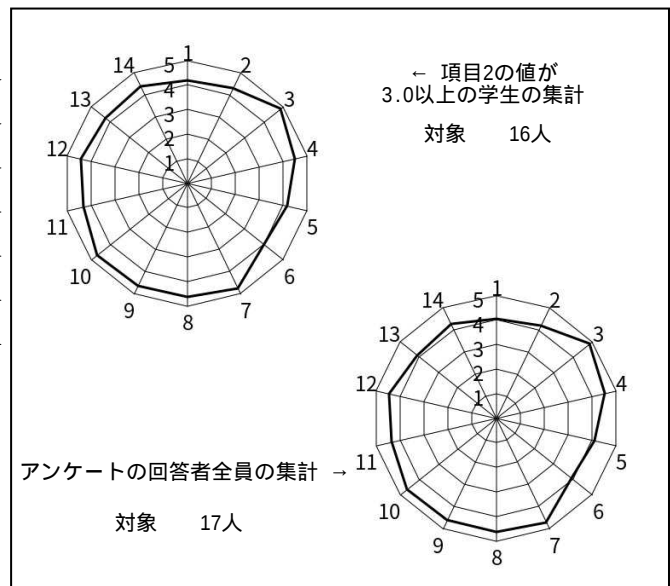
語彙の理解、推測と分析 → 個々のレベル向上

授業の構成や進行速度、教員の授業に取り組む姿勢、エッセイへの個別フィードバックなどについては、おおむね良好な評価を得られた。一方で、授業の到達目標が理解できなかったり、内容についての疑問が解決しないまま学期が終わってしまったと感じた学生もいたようであった。めざすべき学習者像をわかりやすく示すとともに、疑問点を個別に質問できる時間を確保するようにしたい。授業の内容への興味や理解、学習意欲に関する自己評価は相対的に低い。大学では勉強は自発的にするものなので、学生は受け身にならず、自分に合った方法で英語の学習を続けてほしい。

引き続き、個々の学生の習得レベルや進捗状況に配慮し、エッセイのフィードバックを柔軟に行う予定である。また、エッセイのループリックについての説明を早い時期におこなうことで、学生が採点基準を明確に理解し、ライティングに生かせるようにする。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIリテラシー[G]8
授業コード	11A07-039
教員名	水野 眞紀
教員コード	101981
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

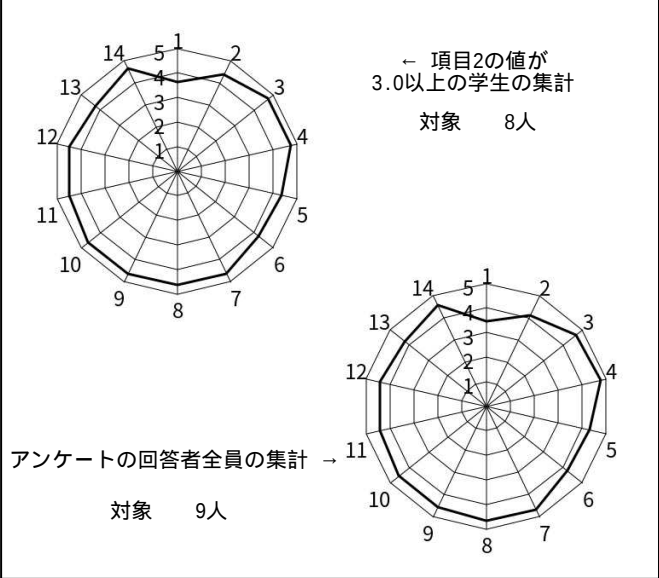
目標はおおむね達成できたと思う。後期からの新規クラスであったため、学生との信頼関係を築き、前期の習得状況を把握することを優先した。ネイティブ教員から日本人教員になり、指導方法や評価ポイントも異なっていたため、学生にも戸惑いが見られた。課題も増え、7週間だけで目標のすべてを到達することは正直難しい。

数値データが低い原因として、1と5から、もともと授業自体に興味関心が少ない学生が多いことが考えられる。また で述べた理由から、6と13も低く、まだ十分に力がついた、理解が深まったことを実感できていない。対して授業の進め方、学生の理解度への配慮、全体としての満足度の項目は高めであり、自由記述からもシラバスがわかりやすく、フィードバックが適切であるとの好意的なコメントがある。ライティングの形式やトピックの制約が厳しいとの要望もあったが、昨今のAIアプリの使用を踏まえ、各種構成を学びつつ、オリジナリティを出すためである。

今期もライティングの評価割合が半分以上を占めるため、リーディングに注力する必要を感じている。一人一人が自分の選んだテーマに関するインプットを増やし、集大成であるの論述文を書き上げ、達成感を得られるよう全力でサポートする。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[HA, HP, HJ]11
授業コード	11A11-011
教員名	DOIRON, Heather
教員コード	101990
登録人数	23
回答数	9
回答率	39.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



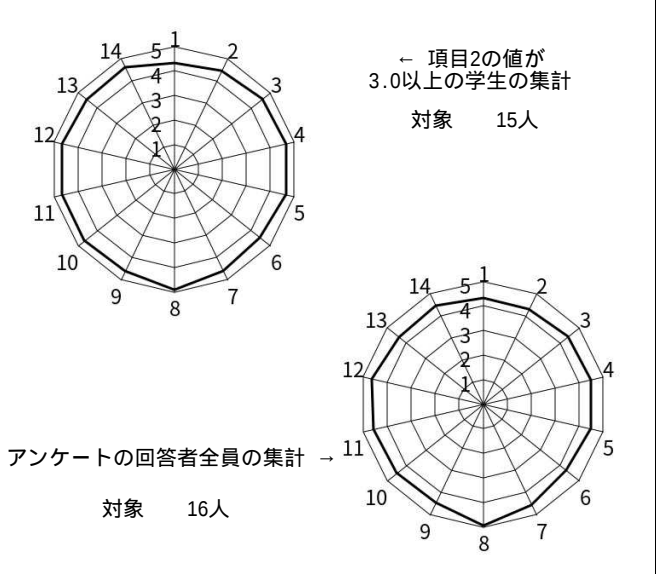
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The following comment is based on Question 3 from the Fall 2024 semester of English III: Communication Skills [HA, HP, HJ] at Nanzan University. The class goals for this semester were successfully achieved, and students consistently demonstrated a responsible and proactive learning attitude throughout the course. Additionally, the students showed commendable dedication, as reflected in an impressive regular attendance rate of 95%, which significantly contributed to the positive learning environment.

All student feedback from this semester has been carefully reviewed and will be thoughtfully considered to enhance the teaching approach and classroom activities in the second semester. Looking ahead to Quarter 4, the curriculum aims to further enrich the students' learning experience. This will include incorporating more opportunities for in-depth discussions, collaborative projects, and interactive activities based on student interests and classroom participation. By building on the foundation established in this semester, the next phase of the course will focus on fostering deeper engagement, critical thinking, and effective communication skills, ensuring students continue to grow both academically and personally.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8
授業コード	11A11-022
教員名	KHONDAKER, Taslima
教員コード	103598
登録人数	27
回答数	16
回答率	59.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

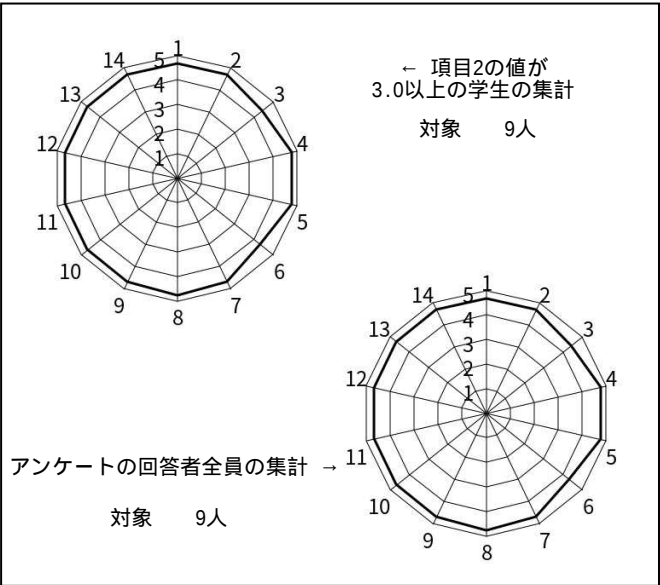


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course is to help students to be exposed to a wide variety of reading topics where they come across different types of vocabularies in the text and practice using them when communicating with people. Students are also being guided to express their thoughts by working in groups. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 4.25 and 4.40, the scores of this course were 4.31 and 4.31. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.86, 4.74, 4.48, 4.38, and 4.79 for all courses, the scores for this course were 4.44, 4.50, 4.50, 4.31, and 4.56. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.82, 4.73, 4.75, 4.61, and 4.68 for all courses, the scores of this course were 4.94, 4.44, 4.50, 4.56, and 4.63. Regarding “overall evaluation” (Q13 to Q14), compared with scores 4.61 and 4.63 for all courses, the scores of this course were 4.38 and 4.44. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. I hope to improve more so that students are more motivated and I can achieve my goal in full. I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming quarter.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]1
授業コード	11A11-037
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	21
回答数	9
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Once again, this class had the following goals: improve oral communication, daily vocabulary, the usage and origins and history of idioms, develop effective reading strategies, explore both intensive and extensive reading and to develop advanced vocabulary through the serious study of Greek and Latin prefixes, suffixes and roots.

This quarter we used the National Geographic graded readers instead of the usual classic novels and that proved to very popular. Partly this is the case because the books are shorter with more color photos and we all know that because of the smartphone culture the students' concentration time is shorter and shorter so these books fit them very well. We will use these more in the future.

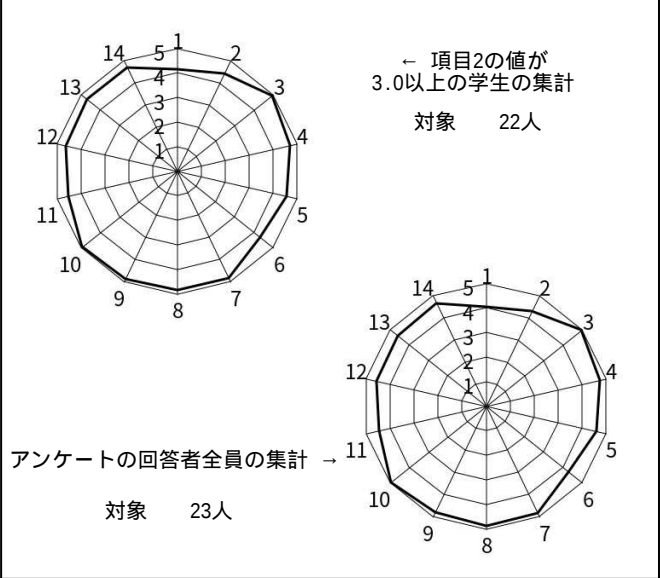
We must find more effective ways to have them remember all the Greek and Latin roots. We are working on changing our methods.

The class, as always, was pleasant to teach and I believe that the students attempted to improve their skills. I believe that the students that showed a high level of motivation and participated actively would agree that the goals of this class were met.

As always, this class is very challenging and very worthwhile. I look forward to Q4.

2024年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]4
授業コード	11A11-040
教員名	LANGER Daniel
教員コード	101438
登録人数	24
回答数	23
回答率	95.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

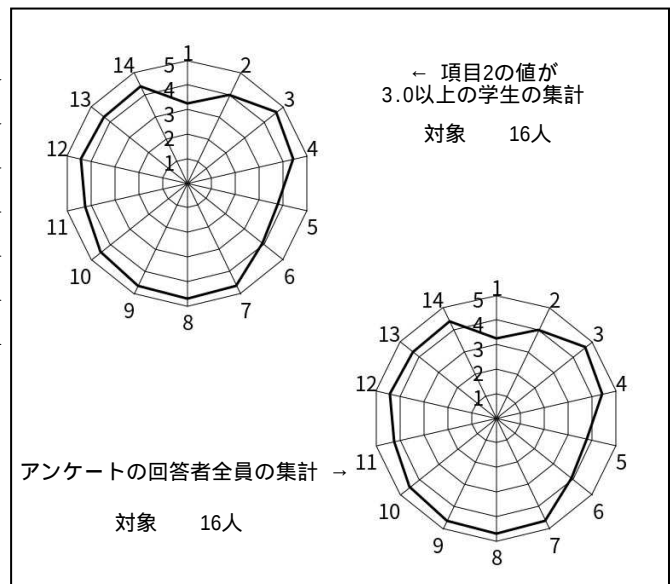
I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. We tried to have a balance of various skills, and the students did well managing the different activities.

The students recognized that I was sincere in my attempts to provide opportunities for interaction. Some comments indicated that the students enjoyed the class content and my teaching style. However, one contrarian vote indicated that the classes seemed repetitive. It is difficult to please everyone, and I recognize some students like knowing what to expect from class structure, but I will try to remember to vary activities and provide more supplements to avoid the danger of monotony.

In the final quarter, I will maintain a relaxed approach, but still encourage students to give their best efforts.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]12
授業コード	11A11-066
教員名	橋爪 真理
教員コード	104272
登録人数	16
回答数	16
回答率	100.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは英語に苦手意識を持ち、英語学習に対して興味や意欲が低い学生が多いと思われたため、英語学習を基本的な内容を中心に引き上げ、発話の機会を多くし、人との意思疎通に英語を使用するという感覚を養うことも授業の目的の一つとした。グループ学習を中心とし、クラスメイトとのインターアクティブを多く導入したので、楽しく交流できたという振り返りがあったので、今後もさらに工夫していこうと考えている。また、TOEICで自分自身の英語能力を確かめてみることも進め、授業内でも試験に対応できるような取り組みも実践したが、その一つとして、読む領域としてWPM130以上を目指し、基本的な読書の技巧に基づき英文に親しみより早く深く読む能力を伸ばせるように授業展開を行った。

“英文を読み、理解し、英語で自分自身を表現する。また他者とのコミュニケーション力を伸ばす”ことを目標と設定し、適宜小目標を設定し授業展開を行った。発音、他者との会話、プレゼン、英語面接など、他者の前で英語を使って表現することに慣れるような機会を多く設け自分自身を表現するとしたので、自主的な活動であったという回答も多かった。授業で掲げた数値目標（WPM130）に達せられる生徒は少なかったようだが、苦手感を克服し当初の目標の英文を読む技術と話す技術についての実践を重視して今後も授業をすすめていこうと考えている。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ <再>2
授業コード	11A11-069
教員名	BLOWER , Luke
教員コード	104287
登録人数	24
回答数	2
回答率	8.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Despite prompting the students to complete the survey, there were very few responses. This is something I must address in the future.

The goals for the repeater class is always to create a learning environment that will allow the often varied levels of competency among the students to study in comfort and at ease to allow maximum communication output. This means focusing on clear goals and coherent learning processes.

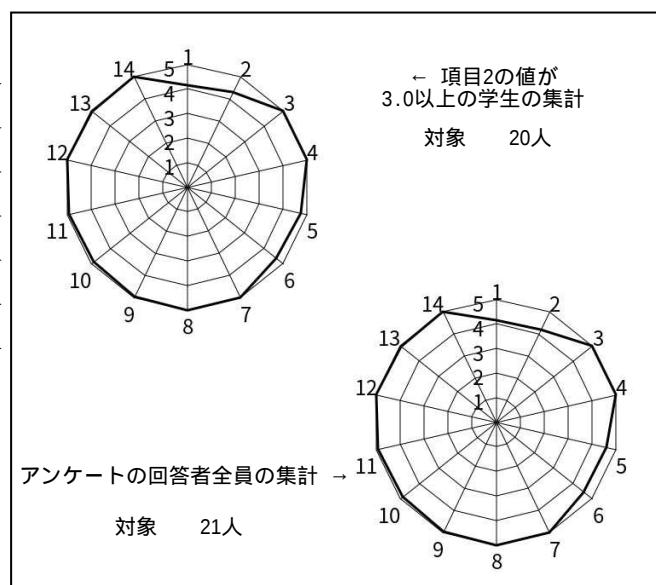
For this course, I started using just the reading text for both Monday and Thursday's classes. This meant that the themes across the two weekly classes would tie in better and allow more reinforcement. I also adopted Howrey-sensei's book reports for the extensive reading.

The results for Q3 were impressive - the students' attendance was far better than previous guises of this course and their class work was focused and largely to the point.

For Q4, I will continue to use the same single textbook and the variety of story reports.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]9
授業コード	11A13-026
教員名	山田 秀子
教員コード	103595
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

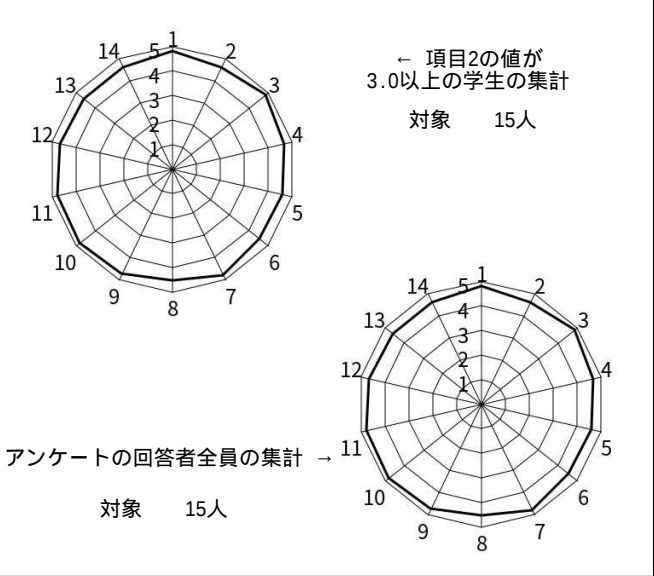
シラバスで提示した学習範囲および課題をすべて終え、開講当初に設定した目標は概ね達成できたと考える。

数値データでは、履修前の興味を問う項目1(4.14)が最も低く、予習・復習を含む主体的な授業参加を問う項目2(4.19)がそれに次いだ。授業はグループワーク中心でアウトプットを重視した。自分の意見をまとめて英文にする時間を設けることで、ほとんどの学生が積極的に発言することができた。授業時間外には单元ごとの宿題(10回)、プレゼンテーション(2回)の準備、多読、ブックレポートの4つに取り組んでもらった。宿題の提出率は89%で、プレゼンテーションの準備とブックレポートの取り組みについても特に問題はなかった。しかし、多読は目標語数の達成率が68%で、なかには大幅に語数不足の学生も2名(9%)いた。次学期以降は、授業の中で多読の効果や取り組み方を再度説明したり、学生間で活動状況を共有する機会を増やしたりして改善を図りたい。

項目4、5、6、11の平均値がいずれも高いことから、授業構成と進度、教材の内容とレベルなどは学生に適していたと考える。自由記述の回答からは、グループワークで意見交換の機会が多い点や、語彙・スピーキングなどの技能を練習できる点が好意的に受け止められていることがわかった。今後も引き続き学生の発言機会を多く取り入れた授業構成にしていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]10
授業コード	11A13-027
教員名	加藤 普由子
教員コード	101654
登録人数	21
回答数	15
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

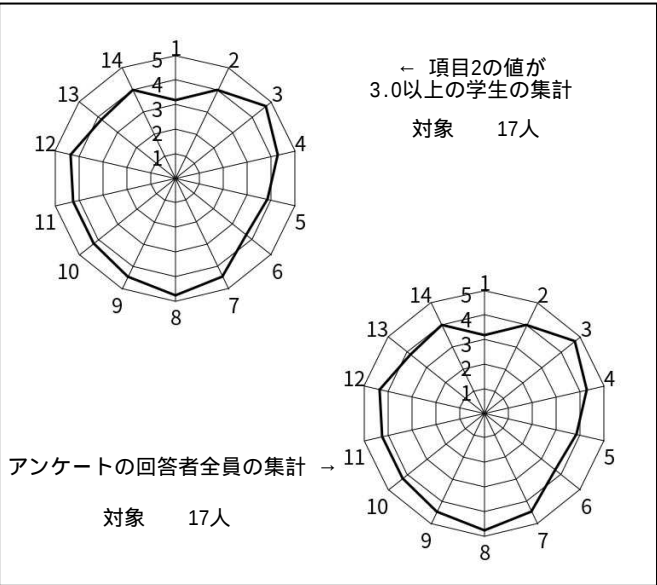


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数20名のうち回答者数は15名であり、75%の評価である。学生の授業への関心度の平均が4.80、自身の姿勢への評価が4.60といずれも高い。教員や授業に関する項目3—14の平均が4.68であり、期待に大きく外れた授業ではなかった様子で安堵している。一方で、設問4の回答に2を選択した学生が存在することにQ4では留意したい。一般的にコミュニケーションスキルズという科目名から予想される内容は、平たくいうと英会話であろうか。しかし、学生にトピックを提供し、学生が持つ情報量にのみ依存し、その場でコミュニケーションを求めるのは難しくないか。故に、リーディングとアウトプット準備にもかなりの時間を配分した。テキストには語彙や文法に関する問題もあり、特に形態や統語に関する説明には素早い理解度を考慮して日本語を利用している。学生がコミュニケーションに必要な総合力を身につけられるように授業を組み立てている。自由記述では「先生が生徒をよく見てるので、私は手を挙げて質問するのが苦手ですが目が合うとすぐに来てくれて質問に答えてくれたりしてすごくありがたかったです」「英語でなんと云えばわからない時はフォローをしてくださって答えまで導いてくれました」とコメントをもらい、大変に喜ばしい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIコミュニケーションスキルズ[T]10
授業コード	11A15-012
教員名	鈴木 愛
教員コード	103596
登録人数	21
回答数	17
回答率	81.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have set a couple of goals for the course in Q3. Some of the goals for reading skills are summarizing, making inferences, etc. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. For speaking and listening, they were introduced to various conversation strategies. They seemed to understand the notion of it and tried to use it.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed discussing the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for Q4. Since they seemed to get the idea of different kinds of conversation strategies, I would like to have more practice time for them. Same for the listening, they will need more chances to listen to English conversation and monologues.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIコミュニケーションスキルズ <再[S・T]>1
授業コード	11A15-014
教員名	MOORE , Douglas
教員コード	100954
登録人数	26
回答数	2
回答率	7.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

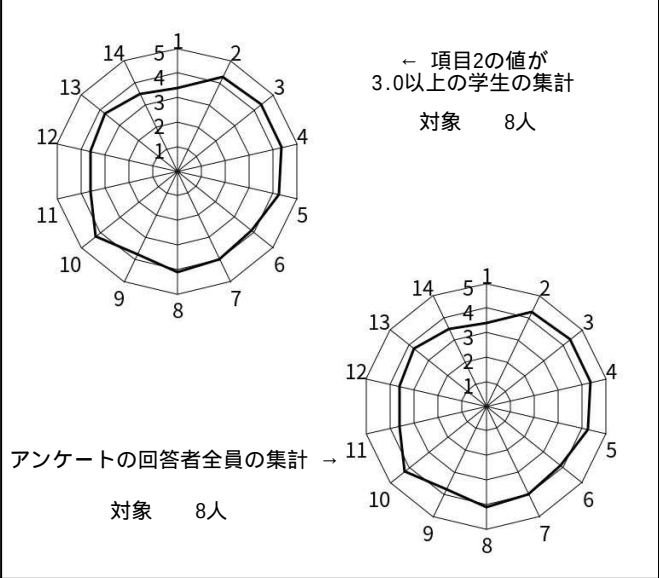
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

One of the main goals of this class, being a repeater class, was to encourage students to do the necessary work and lay down clear guidelines for what the students needed to do to pass the class. This was overall accomplished but due to some poor attendance and a few students failing to submit final reports, there was not full success in all the students successfully completing the course. According to the results, the students had mixed views of the course, its contents and the instruction quality. Unfortunately many responses were apparently with little thought as many numbers were overused, there were some messages from the students. Overall for the next class more updated materials and perhaps more rigid deadlines for work would be beneficial as the students tended to wait until the last possible second to finish any work.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIコミュニケーションスキルズ[T]12
授業コード	11A15-015
教員名	PALISADA Eloisa
教員コード	055830
登録人数	15
回答数	8
回答率	53.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

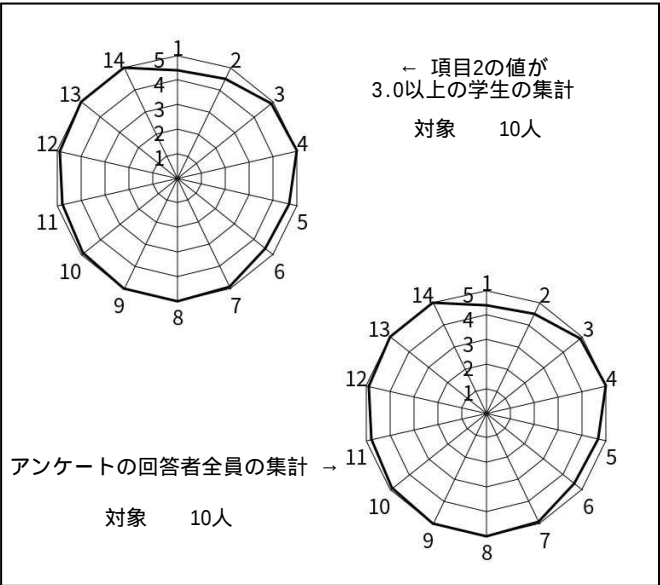


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The same group of second-year students in Q1 responded to this survey. Since only 9 out of 19 or 47% answered, the result may not reflect the whole picture of the class pulse. However, 85% noted an understanding of class objectives, i.e. to improve their overall ability to use English confidently and fluently. Among the other highlights are: punctuality: 88% proactive participation, understanding class objectives, and managing disruptive behaviors are all 85%. They value the teacher's sincerity and seriousness, 80%. As for the lowlights, about 78% noted progress toward achievement of goals; their opportunities for questions, and experience of guidance and motivation was 73%. They had already low interest (68%) in content before joining the class. The overall satisfaction is only 70%. The percentages provide a clear view of areas where students felt positively and those that may need improvement. Significantly, in their customized class reflection paper, the majority appreciated the increase in fun and easy-to-understand activities such as lots of conversation opportunities, new speaking partners each session, speed reading, vocabulary quiz games, group discussions, etc. This student's comment reflects the class climate and experience. "I think my conversation and English reading ability has improved after taking this class; the field of reading has become very high and I felt the growth. This term's class was also meaningful."

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iライティング<全・T>7
授業コード	11A17-017
教員名	ADRIANOWICZ , Zbigniew
教員コード	103868
登録人数	12
回答数	10
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

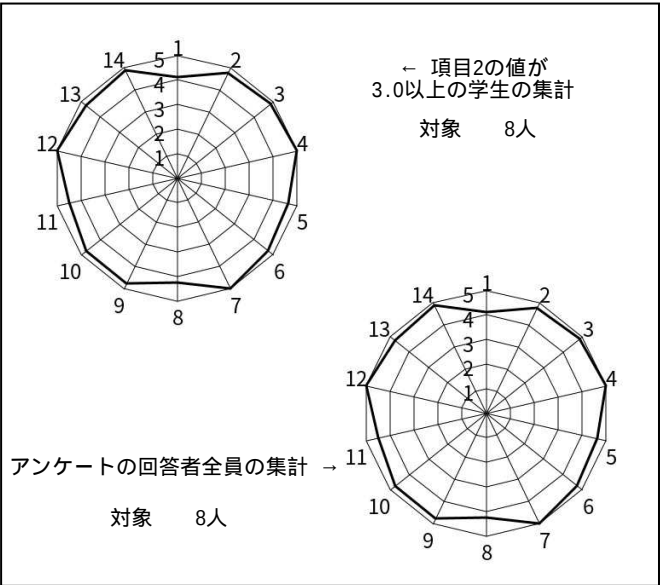
In this quarter, the writing class was relatively small. This allowed me to progress with the materials easier than in other classes, since I was able to give more time to each individual student. As a result, I think the students could comprehend the material faster.

Since the class was small, I think I was able to make a certain relationship with more students, and that allowed me to enjoy the class even more. I had less work, so in turn, I was more cheerful during classes, which then helped the students enjoy the class as well.

A writing class is quite difficult in a large class like 20 students. I wish the number of students per writing class was up to 16, for example. However, since this is not up to me, I will try to make more preparations before each quarter, so that during the actual work, I will be able to devote more time to the students, rather than to the “ teacher ’ s work. ”

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iライティング<S・T>3
授業コード	11A17-025
教員名	CHOLEWINSKI Michael
教員コード	100613
登録人数	14
回答数	8
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



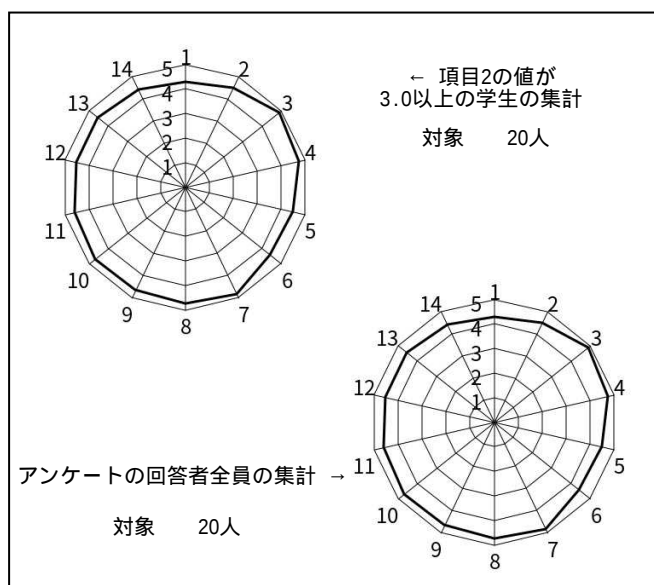
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I'm satisfied with these results. I think they reveal that students understood and worked toward the goals.

Results for Qs #8 and #11 were a bit disappointing in that (#8) I know I speak with a loud voice and I make it a point to confirm instructions by walking around the class. If students prefer to sit in the back of the classroom, that's their choice, but I think it impacts their ability to hear. Also, regarding #11, I provide both print and digital materials (that I explain in class). If students sit in the back of the room, they (a) can't hear well, and (b) cannot see/connect well with the guide (presentation) materials. I think I am providing enough detailed (and digestible) guide materials. As this is an English writing course, and I am a native English speaker, I hesitate to provide the bulk of my instruction in Japanese as it kind of defeats one of the experiential purposes of the course. That said, I will endeavor to better address these results in Q4.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iディスカッション<全>3
授業コード	11A19-007
教員名	都築 千絵
教員コード	103924
登録人数	23
回答数	20
回答率	87.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

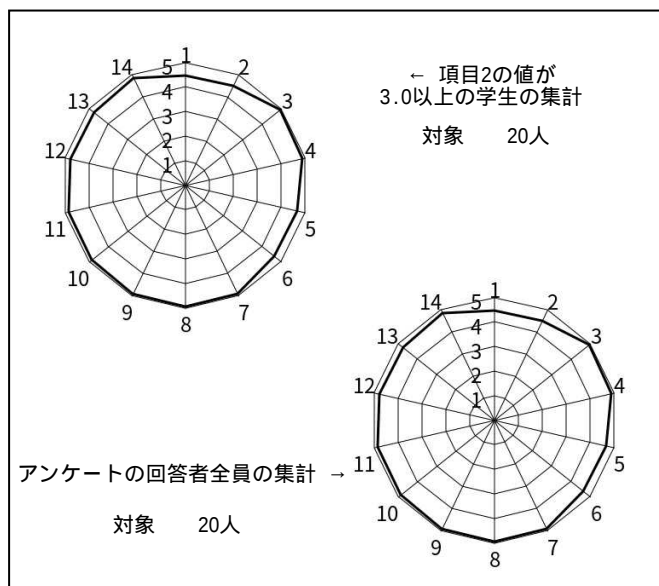
このクラスは全学部を対象にした選択科目で、英語でディスカッションをするために、意見、理由、例をスムーズに話すスキルや、ディスカッションに必要なその他のスキルを伸ばすことを目的にした。最初から履修生の英語レベルに大きな違いがあったため、目的達成レベルにも差があったが、英語が苦手な学生も基礎的なディスカッションスキルを身につけることができた。

今回のアンケート結果で一番注目しているのは、見覚えのない2を2人の学生がつけていることだ。一人は最後の項目の満足度に、もう一人は同じ満足度と項目9の教材などの効果的使用につけている。満足度に関しては、英語に対する苦手意識のある学生と得意な学生が混在するクラスで、苦手意識のある学生寄りの授業になっていたのではないかと反省している。これは自由記述で「苦手なスピーキングに向き合うことができたのは良かった」など、苦手という言葉を入れて良かったことを3人が書いていることから伺える。項目9の方は、2をつけた学生にとっては、全てが簡単すぎて、効果的な授業になっていなかったことが予想される。

選択科目では避けられない学生間の英語スキルの違いに関して、積極的に取り組んでいこうと思う。英語が苦手な学生に目が行きがちだが、英語が得意ですでに高いスキルがある学生に対してもコミュニケーションをとり、ニーズを吸い上げていきたいと思う。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリーディング<全・T>10
授業コード	11A23-010
教員名	酒井 美納江
教員コード	046060
登録人数	24
回答数	20
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



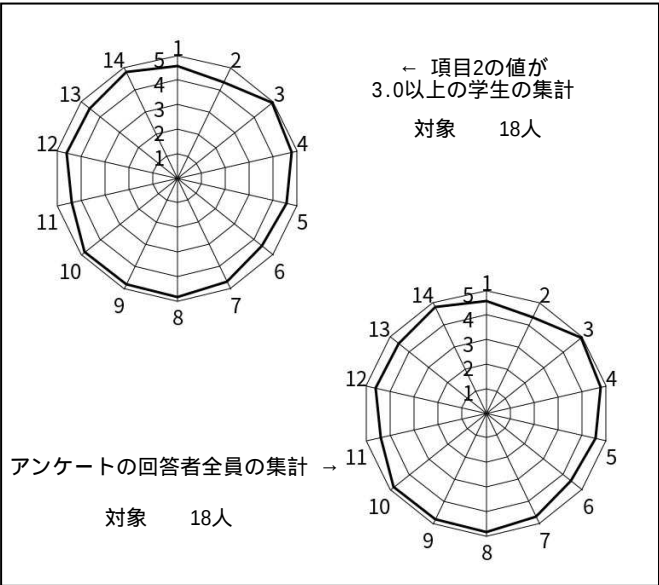
授業評価結果を踏まえた点検・評価

効率よく全体の概要を把握する読解力をつけることを目標に、語数が少なめの文章を短時間集中して読む練習を行った。さらにテキストの内容から発展して考え、自分の考えを話すことで、トピックへの理解を深めるようにした。

Extensive Readingでは、昔の物語を読んでもらい、現代に通じる身近な問題点について考えることもした。さらに、一人一人興味のある話題について簡単に発表する機会を設け、人に伝わりやすく話す工夫をすることで読みやすい文章に使われている工夫を認識してもらった。「分かりやすさ」にこだわった授業内容にしたので、自由記述にもそれを評価するコメントがいくつか見られた。英語に苦手意識を持っている学生には、気持ちのハードルを下げてもらえることになったのではと思っている。ただ、「分かりやすさ」を貫きすぎたかもしれない、という印象もあり、段階的にやりがいのある課題を投入できればさらに良かったのでは、という反省もある。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践英語IA<全・T>試験対策TOEIC2
授業コード	14A09-002
教員名	MCCANN , Albert
教員コード	104969
登録人数	20
回答数	18
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

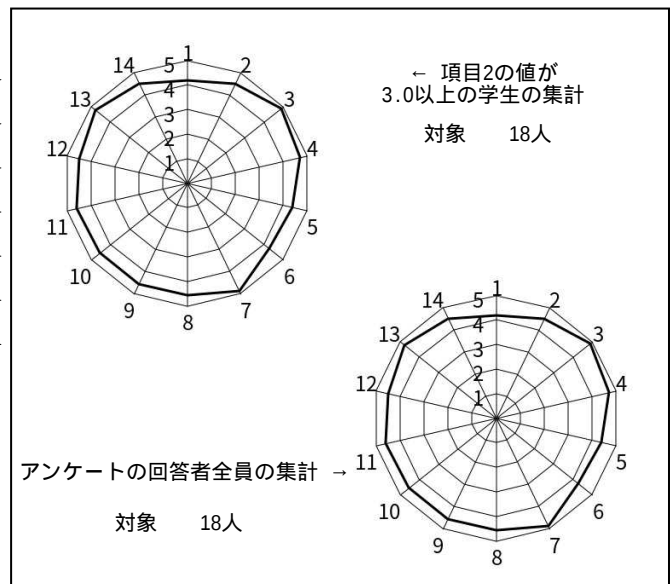
The student feedback indicates that the goals of the class were achieved. Students were given ample time and opportunities to ask questions. Almost all students made progress and improved their listening and reading scores.

The data provided by the students confirms that the pace of this class is correct. It is my conclusion that I should be consistent with my teaching methods. Students have a good learning environment and support system.

In the next semester, more time will be spent on reviewing tests and quizzes. Students who are reluctant to ask questions would benefit by this.

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	実践英語IA<全・T>試験対策TOEIC4
授業コード	14A09-004
教員名	伊藤 実里
教員コード	045542
登録人数	22
回答数	18
回答率	81.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

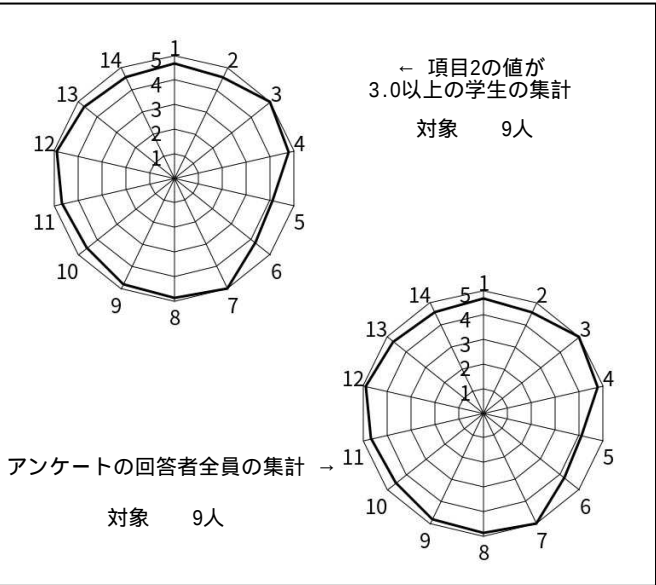


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業内および自由記述を中心に自己点検・評価、および本年度後半に向けての改善点と方針を記す。試験対策としてリスニングセクションの得点を上げるための実践的な練習はシャドーイングなので、毎回の課題としている。シャドーイングが難しかったという感想が複数あったので改善したいと思う。まずTOEIC初級とはいっても、その先に就職活動で役に立つ点数を目指すためのスタートラインである600点が目標のクラスなので、履修者の心づもりによっては難しいと感じたかもしれない。ウェブシラバスに記してはあるが、登録変更期間中は繰り返し強調しておきたい。もうひとつはシャドーイングの音声の聞き取りづらさだが、音声そのものはボリュームをもっと上げることは可能である。一斉に行うので周りの人たちの声で聞き取りづらくなる点については、授業中の座席とは別に、（それが可能な広さの教室であれば）シャドーイングを録音するときだけでもっと散らばって着席するというのを次回はやってみようと思う。市販の問題集を使用するが、一般に問題集を購入しても徹底的にやり尽くすことはなかなかないので、勉強になったという感想もあったことは良かったと思う。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIIライティング2
授業コード	42G06-002
教員名	VIADO Cora
教員コード	100553
登録人数	9
回答数	9
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using a combination of lecture and seminar styles. Students learned the important aspects of the process of writing, such as writing clearly and simply, writing transparently, and editing for accuracy. They also practiced browsing advertisements, and exploring company websites and business media websites. Other activities incorporated in the class included extensive reading, learning new vocabulary, typing exercises, and timed writing on a variety of topics. Working in pairs was done in every class.

The overall significantly positive results of the students' evaluation (No.14=4.56) indicate the students' general satisfaction with the content and dynamics used in class. The students' comments express appreciation for the time given for instruction and clarification, the instructor's manner of relating with students, and the opportunities given to work in pairs or groups. The lowest rating (No.5=4.11) pertains to students' understanding of the objectives of the class.

There is a need to have a better understanding of the different topics that students are studying in other classes so as to integrate them in the lesson or activities.

2024年度Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語ビジネス・ライティングA
授業コード	42G12-001
教員名	高野 洋子
教員コード	104147
登録人数	25
回答数	4
回答率	16.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

当初目標はビジネスライティングのための語彙学習を支えながら各活動をクラスですることでしたが語彙力がある学生が多くて書く活動をたくさんすることができました。ビジネスシーンで異なる内容を書くことが学生にとって知的好奇心を満たすことになったようです。書体、返信のルールなども確認できたのですべての学生が責任をもちライティングをしました。

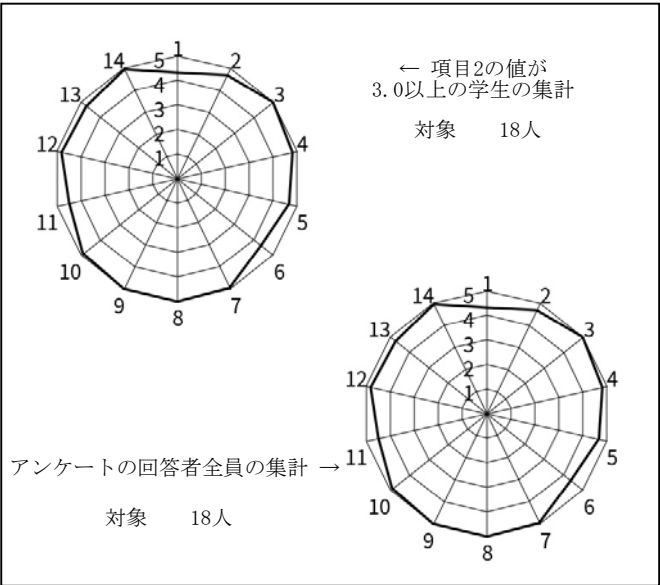
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

生徒に自主性を伸ばしグループワークの中でライティングをしてもらうためには学生中心の授業をしました。一方的に教員の私が用語などを伝えるのではなく、自分たちが使用したい語彙BANKを先に準備して取り組みました。このことが自主的な学びに続くことになりました。総合的に授業全般を振り返ると現在のビジネスシーンについて触れることが足らなかったことがありました。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年も同じ科目を担当するため、現実社会でのビジネスWRITINGのサンプルを見せて仕事を実際にするさいに困らないように指導する所存です

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]1
授業コード	11A12-001
教員名	LOTT, Danielle
教員コード	103593
登録人数	19
回答数	18
回答率	94.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

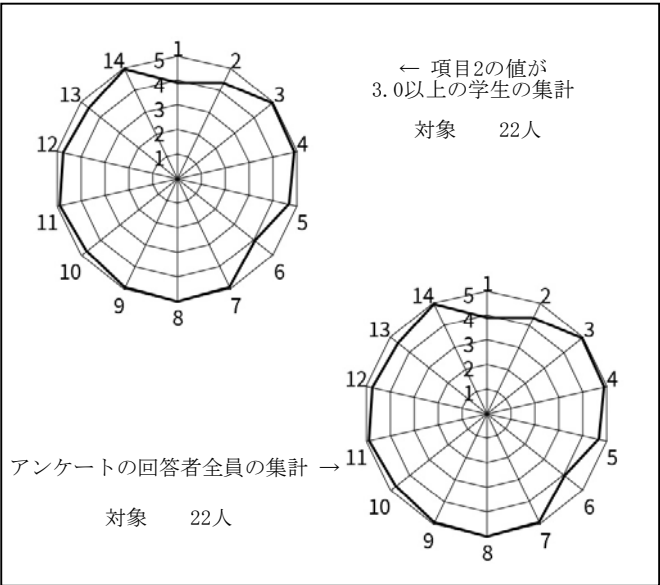


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. My goals were to continue teaching communicatively, to scale back formal assessment and increase self reflection, and to use a more challenging textbook for students at this major and level. I also continued the assignment of writing out an ideal conversation using target conversation strategies for review at the end of each unit. Finally, I continued to work on my approach to disciplinary issues like chatting and tardiness. I sent messages to students about continued tardiness or consecutive absences.
2. Based on the numerical data, they seemed to think I dealt with issues appropriately and were satisfied with the textbook. As for the comments, I was happy that students mentioned that they liked the atmosphere of the class and that they felt comfortable asking me questions. Overall, I received some of the most positive numerical scores and comments I have ever received, so according to these numbers, I feel that the course was a success. Most of the students responded so I was happy that so many students in the class felt so positively.
3. In the future I'd like to supplement the textbook with more strategies, structured debates, and authentic reading materials.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]5
授業コード	11A12-005
教員名	KUMAI William N.
教員コード	000204
登録人数	23
回答数	22
回答率	95.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

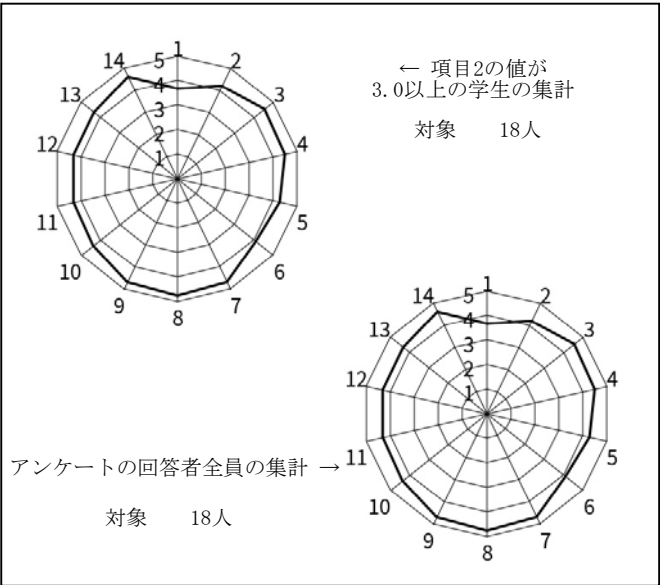


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for this quarter was to understand and practice persuasion and debate. Through various activities the students were able to approach persuasion and debate in English. Except for a few exceptions, the class evaluation is high, nearly 5 for all items. The most important item in the numerical data is Item 14, 全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。These students are engineering students who usually do not like English and other humanities classes (see the answer for Item 1). Yet, Item 14 scored 4.95, almost perfect. Unfortunately Item 6, あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか, registered a low value. In the future it should be made clearer how class activities are connected to class goals. In the responses for Item 15, most responded "fun" and one responded it was different from the normal English conversation class. Indeed, I am not satisfied by how other classes are conducted and tried to implement a more experiential-based class. One student responded "とにかくたくさん英語を喋ることができた" which is a major goal for a conversation class. Q16 had no substantive responses that I could understand. Q17 had no substantive responses, which may be a result of rearranging all chairs to fit each activity.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ [T]3
授業コード	11A16-003
教員名	CAPITIN-PRINCIPE, Abigail
教員コード	102955
登録人数	26
回答数	18
回答率	69.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



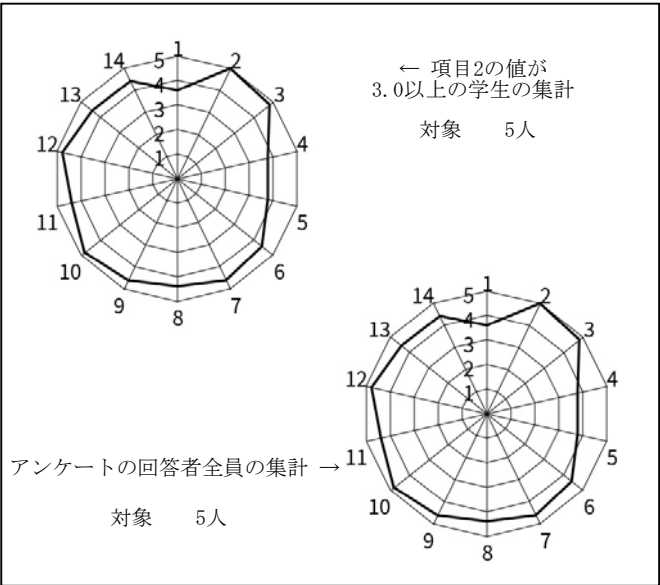
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class showed a successful progression towards its intended learning outcomes. The primary objectives, focused on fostering students' ability to utilize English across reading, speaking, listening, and writing, were largely achieved. Assessments indicated a consistent level of student engagement, suggesting that the learning process was both active and effective in expanding students' English language abilities. Students improved their English skills and acquired new knowledge.

Looking ahead, the learning experience could be further optimized. Introducing collaborative activities that promote communication and cooperation among students would be advantageous. Incorporating more tasks that simulate real-world English usage would bridge the gap between classroom learning and practical application. Establishing a clear, detailed class plan at the beginning of the quarter would provide students with a roadmap, while maintaining the flexibility to adjust the plan based on ongoing student assessments and progress. This dynamic approach, grounded in observed student abilities, would ensure that the curriculum remains responsive and tailored to the learners' needs.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<HA, HP, HJ>1
授業コード	11A18-001
教員名	FLORES, Ana Maria
教員コード	102899
登録人数	18
回答数	5
回答率	27. 8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

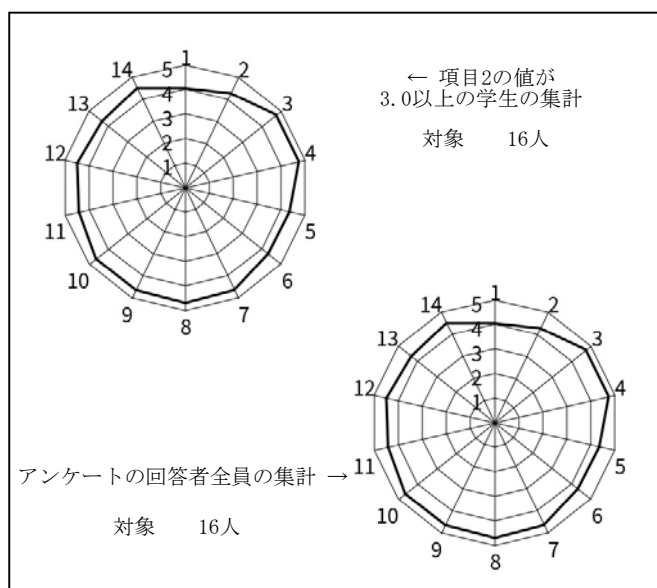


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Based on the numerical data from student evaluations and performance, the course objectives for English Writing II have been successfully achieved with students showing clear improvement in essay structure, coherence, clarity, and the ability to express complex ideas in written English. For the next academic year, the course will integrate technology-driven tools like Online dictionaries and Google Docs to enhance feedback and collaboration. There will be a stronger focus on genre-specific writing to cove various academic and creative styles. Structured peer-review activities and group writing projects will be incorporated to foster collaboration and critical feedback skills. Additionally, targeted workshops on thesis development, coherence, and citation will be offered, along with the introduction of a writing portfolio to help students track their progress and reflect on their learning journey.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全・T>8
授業コード 11A24-008
教員名 中田 晶子
教員コード 055624
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この授業は全学向け選択科目で、高度な英語の読解力を身につけることが目標である。文や段落の内容を適切に理解することとアカデミックな語彙を増やすことを目指した。「到達目標の理解」は4.38、「到達目標の達成」は4.31だった。最終成績からは、欠席過多で失格となった数名を除いた全員がおおむね目標に達したと判断される。

② 項目1から14の平均が4.49、項目3から14の平均が4.54、項目13「知識・理解の深まり」が4.31、項目14「全体としての満足度」が4.50となり、学生にとってある程度満足感が得られる授業となったようである。

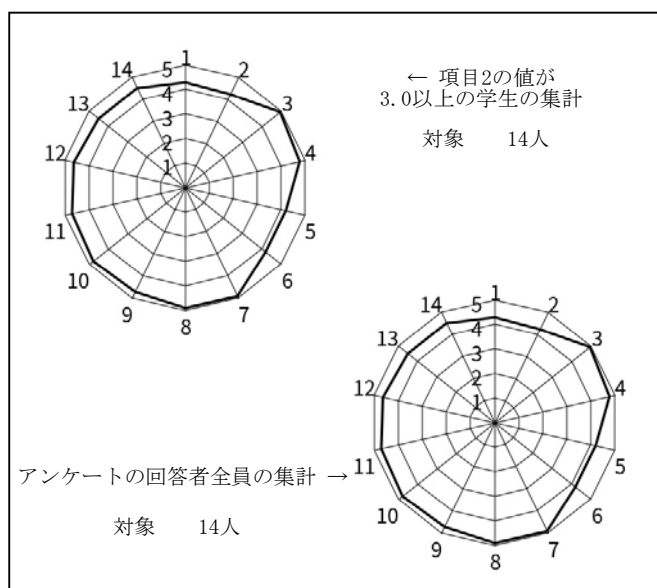
自由記述では、良かった点として、テキストに使用されていた難解な語彙が身についた、文法や語彙に関する説明がわかりやすかった、リベラル・アーツ的なテキストが興味深かった、各章のテーマ（言語学、人類学、文学等）を担当者の解説や資料によって深く学べた、マイクの使用により常時講義が明瞭に聞こえた、があげられた。

③ 問題点の自由記述はなかった。前回の評価で担当者の言葉に違和感を感じたというものがあったが、時代感覚の差に留意した成果か、今回は無かった。

担当するReading科目では、定期試験レポートが未提出のため単位取得がかなわない学生がこれまで数名出ていたため、早い段階から定期試験レポート提出の必要性について注意喚起した。今回は、失格となった数名以外の全員がレポートを提出し、単位取得に至ったことは喜ばしい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリーディング<全・T>14
授業コード	11A24-014
教員名	石崎 保明
教員コード	102444
登録人数	21
回答数	14
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

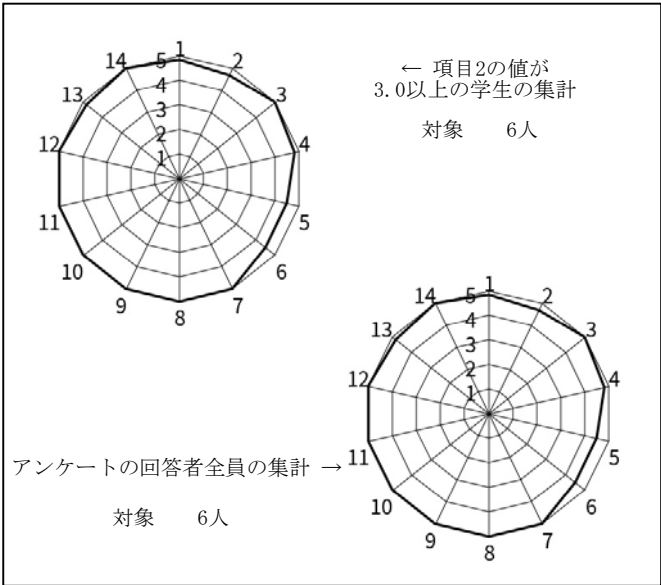
今回授業評価を受けた科目は、英語読解力を育成する選択必修外国語科目です。この科目では、英文を楽しく読み他者に口頭と英文の両方で伝えることを実践する多読課題と、学術的文章の特徴を押さえて読み進めることを目標とした精読課題、を両輪とした授業を計画・運営しました。同科目は、異なる学科の学生が集まっており、個々の受講生に目を配りつつ、テキストの内容だけでなく英語の豆知識的な話題も交えながら、丁寧な説明を心がけました。

Q2と同じ名称の科目であり、受講者数の関係で回答総数が前回より5名減りましたが、項目3-14の平均を比較すると0.04ポイントの上昇（4.65）がみられました。このことから多くの受講生に受け入れられたと考えます。他方、受講生の満足度を尋ねる設問項目14については、Q2の結果よりも0.13評価を下げる結果となりました。今回の回答者数が前回より少なかったことで、3を付けた1名の割合が影響した形となりましたが、その3を付けた回答者は設問5と6にも3を付けていることを鑑み、到達目標の設定とその遂行をさらに徹底していくことで満足度を高めてもらうよう、努力したいと考えております。

自由記述欄では、改善を求める意見はなく、説明のていねいさ、授業内での主体的な学びやペアワークの豊富さなどについて評価する意見をいただきました。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	フランス語VIII<全>2
授業コード	11B08-002
教員名	DARMON, Christophe Mitchito
教員コード	104948
登録人数	27
回答数	6
回答率	22. 2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

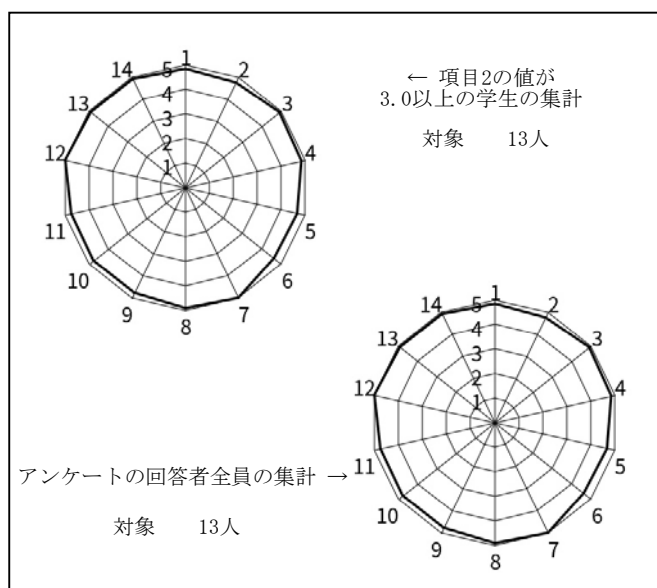


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) This course intended teach the entire content of the textbook Maestro 2 and make students acquire A2 (CEFR) level.
- 2) Overall, it seems the students enjoyed the class. They appreciated that I, as the instructor, did my best to make sure everyone understood. The only minor problem that could be raised from the data is that students may not had a clear understanding of the goals to achieve. This might be related to the fact that strickly followed the textbook and may not have been clear enough on the goals to achieve at every step of the course progression.
- 3) From my first year in Nanzan University as a language instructor of French, I intend to enhance the way I teach by empasising the key points of the course in accordance to the textbook and further explain each step and goals more often.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	日本語I(読解)2
授業コード	11L17-002
教員名	山口 薫
教員コード	019406
登録人数	14
回答数	13
回答率	92.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



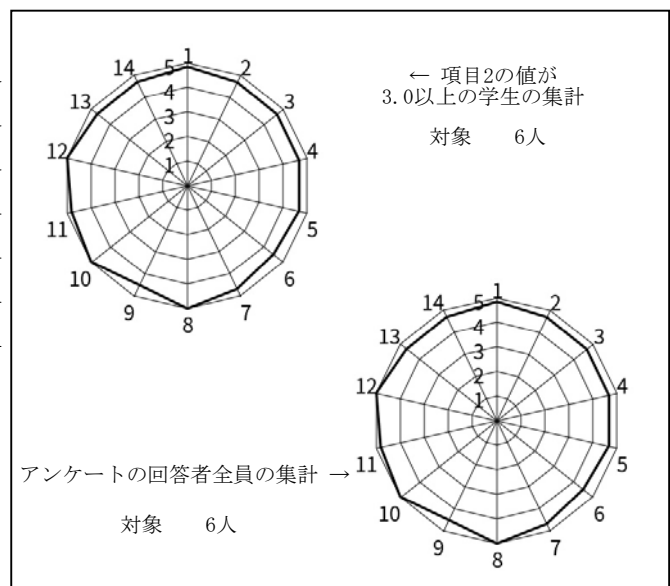
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、留学生が文法の時間に習った文型や表現を活用して、日本語で書かれた文章の内容を正確に読み取れるようになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ（4.85）から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問7（授業に取り組む姿勢）、設問12（質問の機会）、設問13（知識や技術の獲得）、設問14（満足度）などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「クラスのみんなが楽しく参加できる雰囲気を作ってくれた」「日本語の読解力が高まり、新しい語彙や文法が身についた」「文章が面白くて、知識が増えた」「ビデオや実際の例を使った授業で、内容がもっとわかりやすくなった」などの評価が多く、受講生たちの満足度の高かったことがうかがえる。

一方、設問16（改善点）についての自由記述では、「漢字がわかりづらい」「授業中の説明が速い」「もうちょっと詳しく説明したほうが良い」などのコメントもあった。確かに一部の留学生にとっては、漢字を理解するのに時間がかかったり、授業の進行についていくのが精一杯だったりしたことはあっただろうと思われる。来年度からは、難しい漢字の説明や内容面での重要ポイントの解説により多くの時間をかけ、これまで以上に留学生の理解度に配慮しつつ授業を進めていきたいと考えている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(作文)2
授業コード 11L18-002
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 10
回答数 6
回答率 60.0%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

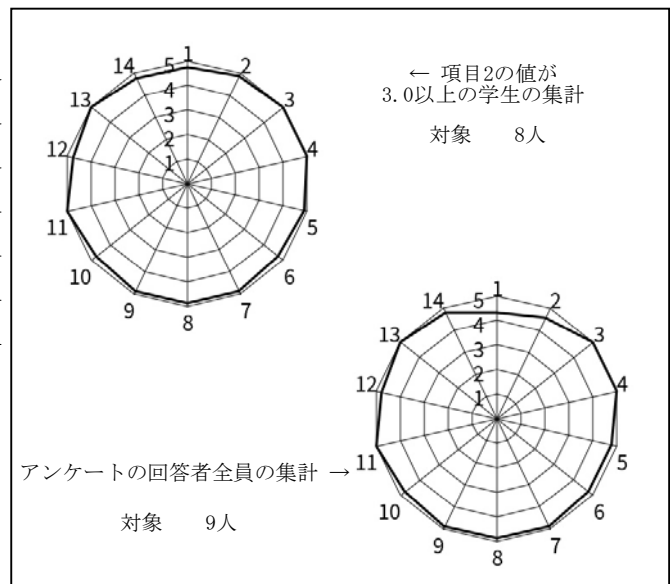


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)生活文化とアカデミック文化という「二つの文化適応」を果たしつつ、基礎的な言語運用能力に支えられた「コミュニケーション能力の育成」という目標に対し、ほぼ全員が着実に到達した。自由記述（項目15）にある「日本語を使う能力を鍛えることができます」という評価は、この開講授業に関して最も核心を突いており、実際この点を重視して自律的な学習を支えるべく「教員＝ファシリテーター」が教室内活動をアレンジしてきた。その点で語学学習は、単なる情報提供教育ではなく、実地のトレーニングを見守り助けるという点で「スポーツ教育」に非常に類似するものである。学生らはメタな部分での教育観の転換を順調になしとげ「受け身学習から自律学習へ」移行できたと考えられ、それこそアカデミックライフへの適応であると評価できる。(2)学生中心の教室活動を形成するファシリテーション型教育は、アジアで一般的な「教員中心の教室運営」と異なる。それを誤解する学生も前期アンケートで存在したため、今期は語学における「練習」の重要性を説明してきた。今学期はそれにより教育効果が高まったと感じていたが、数値にもそれが表れた形となった。学生らはレベル問題だけではなく、漢字圏出身者と非漢字圏出身者など、母語の違いによる学習課題をそれぞれに異なる形で持っており、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」が5点満点（項目12）であったことは、コミュニケーション教育の成果としては高く評価できる。今後も学生主体の設営を維持し、事前事後の指導を充実していくことで、多様性ある学生の課題に寄り添った教育をしたい。(3)学生の関心は、従来の伝統文化から大きく変化しており、特にアニメや若者文化への関心・知識の高さはほぼすべての学生において入学当初から顕在化している。こうした年々の関心推移、日本文化のグローバル化に合致した形での教材選定・フィールドワーク開発が、教室活動の魅力のみならず、継続的な留学生確保という点からも重要課題であると考えている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language E2
授業コード	31C15-002
教員名	加藤 尚子
教員コード	103630
登録人数	19
回答数	9
回答率	47.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この講義ではPoliteness Theory の基本的なコンセプトを学び理解し、politeness 技法が円滑なコミュニケーションを促すために、どのように使用されているかをグループディスカッションを通して再発見するのが目標でした。学生は自分で実際にデータを収集し、それらをグループで分析を行いました。それによって、politeness 技法が、円滑なコミュニケーションでどのように有効な機能としての役割を果たしているのか、より深く理解するということことができました。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

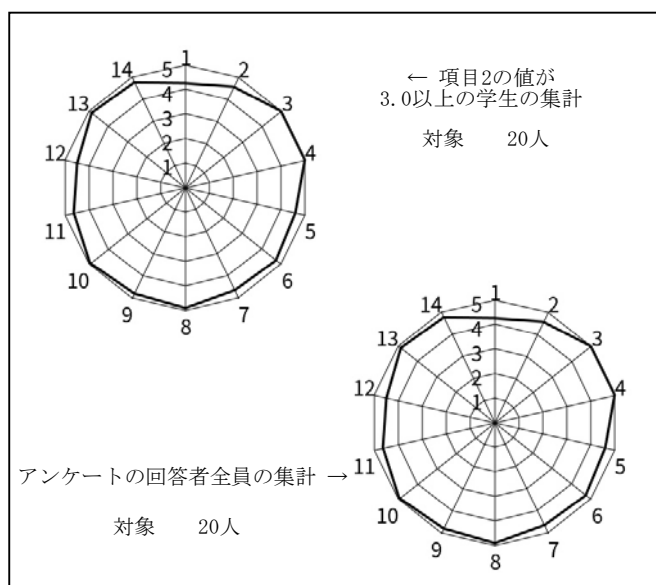
学生は内容の難しさを示唆していましたが、概ね学生にとって意義のある授業だと思える評価と見受けられます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーターでは、宿題やレポートの内容を伝える時、日本語で説明を加えてほしいなどの要望がありましたので、そのことを踏まえ、もう少し明確な説明を加えます。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B 12
授業コード	11A04-009
教員名	岩城 奈巳
教員コード	049601
登録人数	24
回答数	20
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

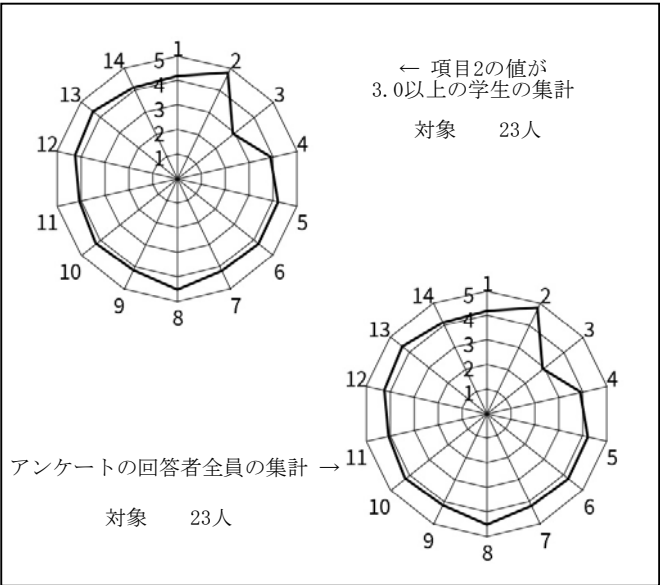


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1冊の教科書を柱に、サプリメントとして発音・リスニング教材、資格試験教材を取り入れながら講義を実施した。教科書に沿ったテーマを基に、冒頭で授業内での目標を伝え、授業後に達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の高い満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。役立つ英語表現をまなび、それらを必ず講義内で実際に練習して身につけさせることを心がけ、本講義の年間を通しての目標である「実践的な英語でのコミュニケーション能力向上」も概ね達成できた。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、就職活動の際必要になるであろうTOEICは、実際の試験問題を解く練習をおこなった。答え合わせも工夫し、教員が答えを読み上げるのではなく、学生になぜその回答になったのか解説をしてもらい、全員納得してから次の問題の答え合わせをする形をとった。学生からは答え合わせの方法も含め、試験対策もとても役立った、とのコメントも多く見られた。全体の満足度も高く、しっかりと学生の興味、やる気を引き出しながら授業を実施できたと感じる。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオーラルコミュニケーション[B]4
授業コード	11A04-011
教員名	HERSCHLER, Brian
教員コード	100552
登録人数	27
回答数	23
回答率	85. 2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students were quite happy with the amount of speaking practice (conversations and presentations) they were given, and largely felt they had improved both in confidence and ability. I was happy to see so many students making such comments. They also did not feel they were overburdened with work.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVリテラシー[B]6
授業コード	11A08-013
教員名	BONDOC, Jeffree
教員コード	103469
登録人数	26
回答数	4
回答率	15. 4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

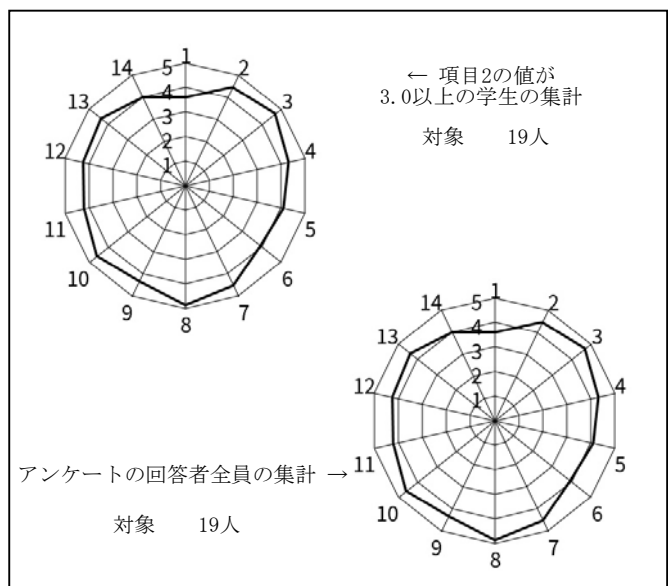
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Classes for quarter 3 went well. The reading goals were achieved. Students were engaged with all the topics each week. They completed the vocabulary, reading, and comprehension activities. Students also works well in groups and contributed to the conversation topics at the beginning of each unit. Students were able to read in a small voice in pairs. Also, students performed well in there Vocabulary/Reading Exam. Lastly, almost all the students completed the Mreader requirement.

The writing goals were largely achieved. Students completed all the major project of this quarter. They did their bests in the writing tasks. Also, students did very well with the timed writing activities and could share their thoughts and ideas with the class very well. However, some of the writing activities, namely grammar, was very challenging at times. Even though students tried their best to understand the complex writing techniques, it was far too difficult for them to fully grasp the ideas. This lead to some students being demotivated with the writing component.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]11
授業コード 11A08-018
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 25
回答数 19
回答率 76.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

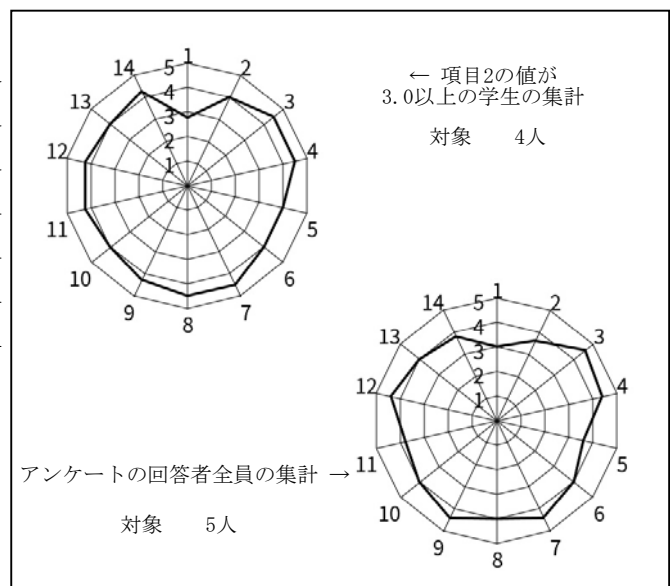
Q4におけるWritingの目標は、Opinion paragraphにおいて250語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになることであった。その際、自分の意見の根拠となる客観的理由を複数述べることに数値データを含むことを求めた。また、文末にはAPA Styleによる参考文献のリストの記載も求めた。

Q4におけるReadingの目標は、読んだ英文のSummaryとListを作成すること、Listをパワーポイントで作成し発表をすることを目標とした。

データ数値から目標に十分到達したと考えられる学生が多かったが、最後まで授業内容を理解できなかった学生も数名存在したと振り返る。その原因は、トピックが客観的であり自分たちの興味が持てない内容であったことが一因と推察する。来年度に向けては、特にWritingのトピックをより吟味し難易度高い部分をさらに繰り返し練習出来るよう授業構成を見直すつもりである。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]12
授業コード 11A08-019
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 22
回答数 5
回答率 22.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



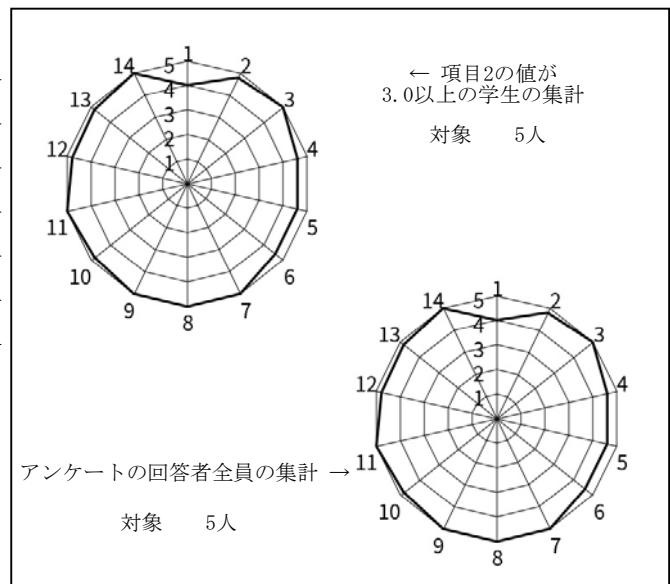
授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ね当初の予定は達成されたが、アンケート回答者が5名しかいなかったことは意外だった。アンケートから聞える声以外にも声以外に、授業中よくコミュニケーションをとってきたクラスのため、どのように英語に向き合い感じてきたか、私なり把握しているつもりだ。生成AIの出現に伴い、writingの指導は全く新しいフェイズに入った。以前私の担当するクラスでは英語そのものが何を言いたいのか解読不能なものが多かったが、昨今、文そのものは分かるがwriting全体として何を言いたいのか不明瞭、つまりessayの基本構成(thesis/body/conclusion)が理解できていない学生が目立つようになった。尤も一文ごとの英文も生成AIに頼りっきりで、本人も英語では理解していない学生が多いようだ。「ここで何を言いたい？」と学生に聞くと、ほとんど英文そのものではなく、「ちょっと待ってください」と和訳アプリを使って日文を見て漸く答えが戻ってくる。

英語という学生の大半にとって苦手なものにチャレンジしたこの1年、今後彼らが本当にやりたいことを見つけ、それに英語が間接的であれ関わってくる日が訪れるようなことがあった時、この1年に蒔いた種が芽を出すことがあれば、この上なくうれしい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]14
授業コード	11A12-014
教員名	山本 菜美
教員コード	104968
登録人数	23
回答数	5
回答率	21.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The targets were a bit lower for the students, especially in the last quarter.

At the beginning of the course I thought the targets were too difficult for them, but day by day they got used to reading books, communicating with their classmates and talking in class.

Only a few of the students seemed to be struggling with their homework, but they were really trying hard to catch up.

(2) Some students were using their mobile phone or PC as a dictionary, but I only saw them using Chat GPT sometimes and I told them to stop. So I'd have to make a class rule about their use.

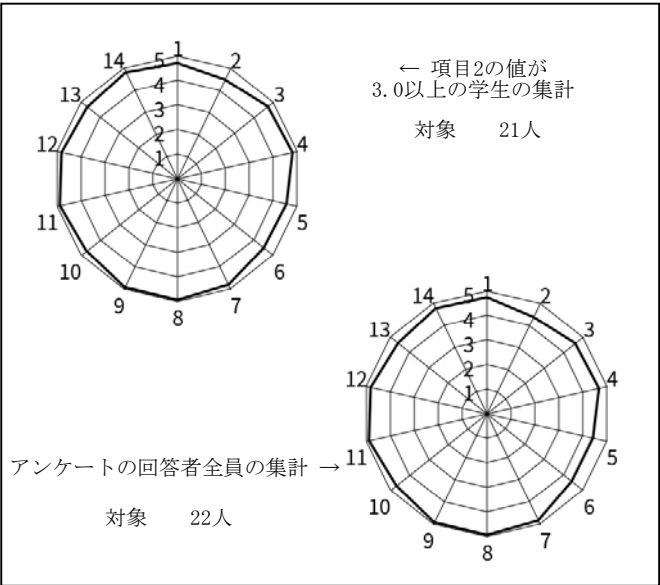
The first quarter looked extremely difficult for the students because they said they didn't like English at all or had a negative feeling about learning English, but in the end they did their best for the class.

(3) I would like to try to create a more comfortable atmosphere in class and take more time to check on each student to make sure they are all good.

I'd also like to keep the students motivated to speak English, so I'd like to give more positive feedback and more simple advice to the students.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]4
授業コード	11A12-018
教員名	SIMMONDS Brent
教員コード	103050
登録人数	26
回答数	22
回答率	84.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



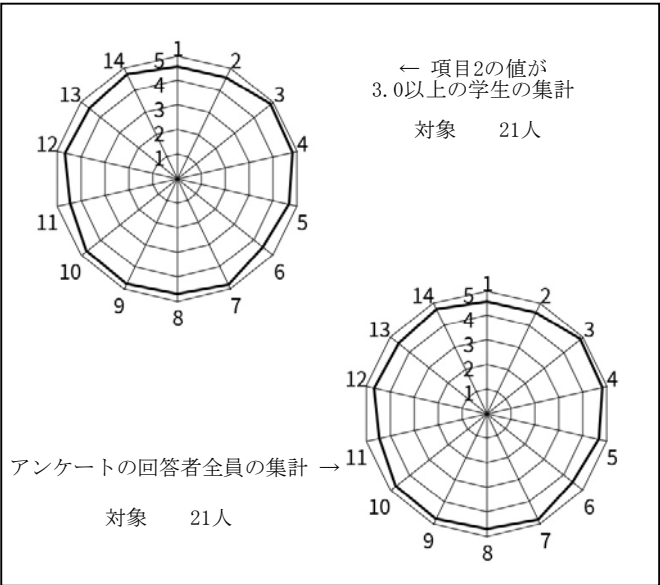
授業評価結果を踏まえた点検・評価

It was a pleasure to teach the class during the year, and the students' feedback is an invaluable resource for the future. I will give the students time at the start of each lesson to speak about topics that interest them at the beginning of each lesson and give more time for class discussion. As well as more speaking time, I will provide students with more feedback on writing tasks and be more specific regarding tasks that need to be completed both in class and in WebClass.

During the new academic year, I would like to build on the previous year's work and explore ways to connect context to the student's majors, and I am looking forward to meeting new students in April.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]7
授業コード	11A12-021
教員名	NICKSICK, Thomas
教員コード	102113
登録人数	27
回答数	21
回答率	77.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

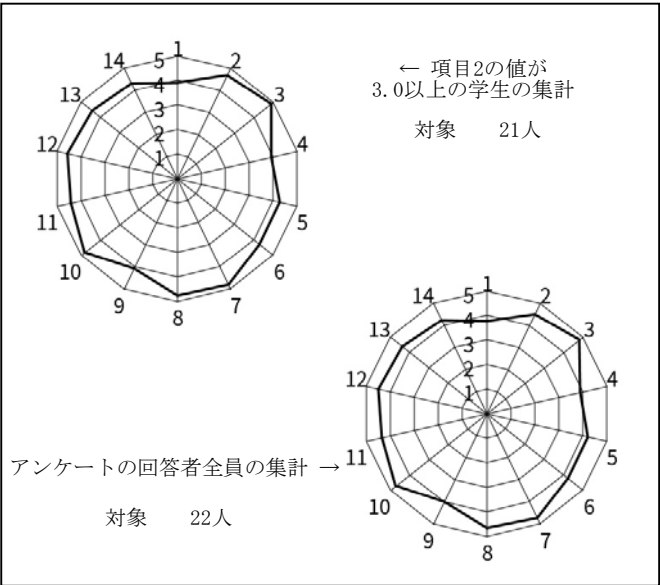
The purpose of this course is to help students become more confident and proficient English communicators. Some of the goals include using vocabulary for contemporary topics, giving opinions on general topics, and asking questions for clarification.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.81. Regarding the instructor's sincerity in teaching the course, the rating was 4.81. Regarding overall satisfaction for the class, the rating was 4.86.

However, the instructor was not as successful in other areas. Regarding students making solid progress towards achieving the course targets, the rating was 4.48. Regarding the instructor providing appropriate guidance and information to encourage the students to want to learn, the rating was 4.48. The rating was 4.57 when the students were asked if they acquired new knowledge. The instructor must improve these aspects of the course. The instructor should remind the students of the goals of the course at the beginning of each quarter. Also, finding more ways to motivate students should be considered.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E11]
授業コード	11A12-025
教員名	SKEATES, Colin
教員コード	104779
登録人数	24
回答数	22
回答率	91.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

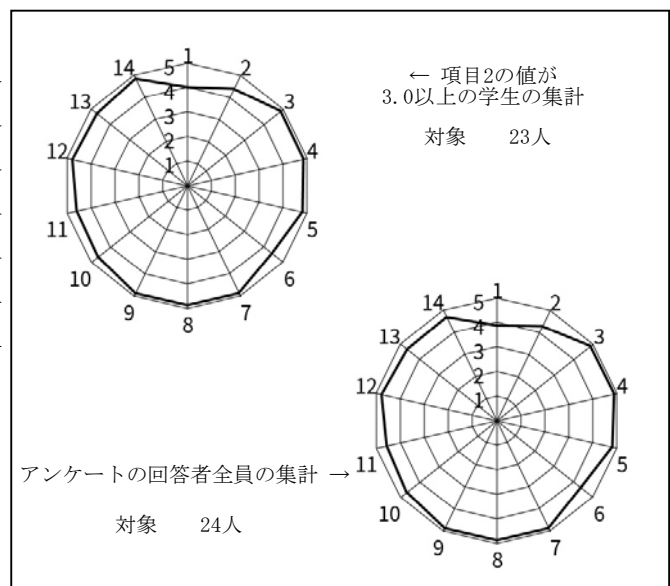


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aims of this course were to help students to improve in their speaking and reading skills. More specifically, by quarter 4, I was looking for students to be able to work in a medium that they were familiar with; I wanted to provide students with a pressured situation in which to communicate something that they were very familiar with. I understand that for some, this made the course difficult but I also know that students will not always be able to communicate in a situation where they have all the time in the world; I wanted to simulate a situation in which students were pushed to communicate quickly and effectively. For this class, I believe the activities we did in class were both within their abilities and competence. Good luck in the future!,

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E]5
授業コード	11A12-029
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	26
回答数	24
回答率	92.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

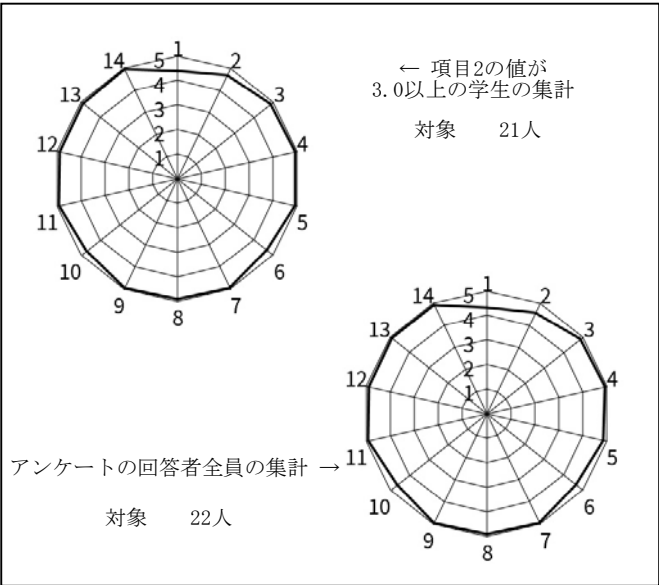


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①英語が苦手と感じている学生も、積極的に伸ばしたいと考えている学生も、共に楽しみながら、たくさんのインプットとアウトプットを繰り返せるうに工夫を繰り返した。まずは学生同士が仲良くなること、リラックスした状態で学習することで積極的に自分らしく学習に取り組む様子がたくさん見られ、学生の個別のフィードバックにもそのような表記が目立ったので、目標は達成できたと思う。とくに、話す活動に関しては十二分に機会が持てた、読む活動や文法活動は、第3, 4クォーターを中心に集中して仕上げることができました。
- ②履修前には興味を持ててない、もしくは興味意欲の低い学生が比較的多いと思ったので、最初の数回は特に、モチベーションを上げつつ、こちらに学習予定を知らせていく必要があると思った。
- ③来期は、リーディングに関しては、文法、語彙増強、精読活動にも、力を入れて行きたい。今期はTOEICの教材を使用したけど、解説的になりやすく、量が多かったので再考したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E11]
授業コード	11A12-035
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	25
回答数	22
回答率	88.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、発音やイントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、様々なジャンルの読み物の内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。教材は全て小冊子（Class Book）にまとめて配布し、WebClassにリスニング教材やリーディング教材の練習問題をアップした。多読学習の目標は1週間に少なくとも1冊を読み終えることとブックレポートの提出の課題を設定し、毎授業、ディスカッション時間を設けた。目標は概ね達成できたと考える。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.81、学生の授業に対する全体的な満足度については4.82であった。授業の良かった点、評価できる点として、「授業内容が理解しやすく楽しく学べる」点、「授業のスピードが丁度良い」、「丁寧な解説」や「話し合いなどを通じて主体的に考える時間があつた」などが自由記述にあつた。学習者中心の授業を心掛けた点が評価されたと考える。Class Bookに関しては、「先生オリジナルの教科書では、発音、リスニング、手紙は公的文書などさまざまな英語に触れることができた」との意見もあり、満足度は高かったと考える。来年度も学生が互いに学ぶ環境作りを心がけると同時に、授業時間外にも積極的な課題取り組みを促していきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E12]
授業コード	11A12-036
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	25
回答数	4
回答率	16.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

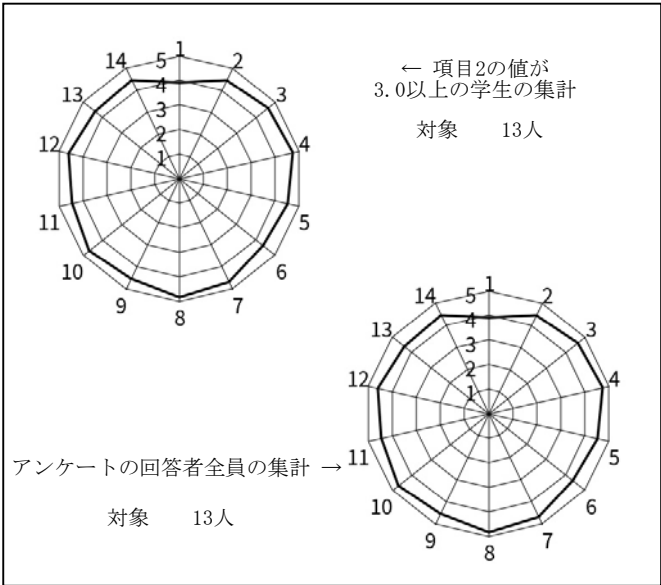
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won' t consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[J] 110
授業コード	11A12-046
教員名	内川 元
教員コード	101922
登録人数	23
回答数	13
回答率	56.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

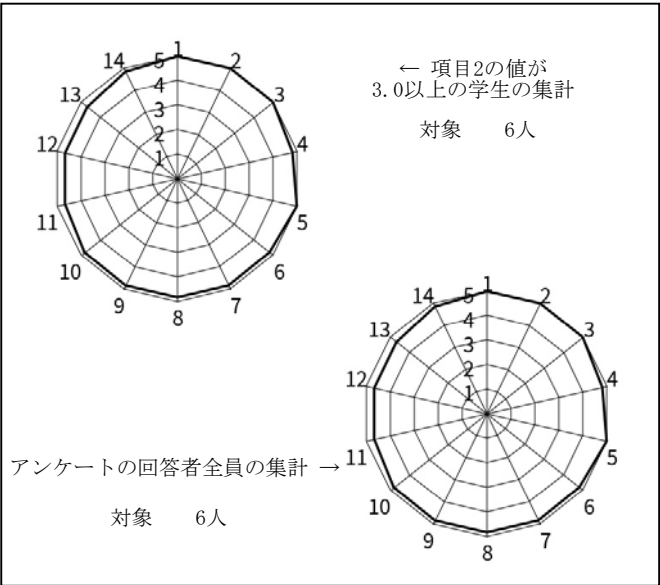
1学期から4学期まで、学期が進むにつれ各評価項目の平均点が上がっており、
普段の授業の様子からも生徒の力が伸びていることが実感できました。本年度
に向けて行なった授業内容改善の成果が感じられ幸いです。

その反面、季節柄体調不良による欠席者の数が増え、おそらくその影響もあっ
て1学期から3学期までは問題なく単位を修得していながら、今学期は未修得と
なってしまった生徒がいることが残念です。病欠の生徒を対象に小テストの追
試を行っており、配布書類にて周知していますが、病院の受診記録がなく追試
の要件を満たさないケースも散見され、病欠に関する対応方針の周知を徹底す
る必要性を感じました。

授業評価の数値データは概ね良好で、自由記述欄も前向きなコメントが多く嬉
しく思います。履修者全員が評価に参加したわけではないため、この結果が
クラス全体の総意とは言えません。来年度は授業評価への取り組みを繰り返し
促すなどして、より多くの生徒の声を聞けるようにしたいと思います。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]6
授業コード	11A14-006
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	23
回答数	6
回答率	26.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

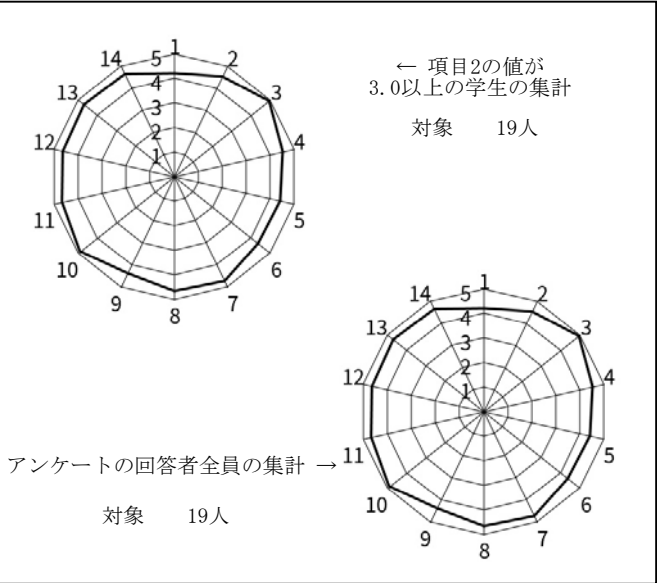
The EFL communication course was a highly successful learning experience. The students demonstrated notable progress in their ability to express themselves in English, meeting the course goals effectively. Throughout the term, they became more confident in speaking, listening, and engaging in conversations on a variety of topics, which was a key objective. Their ability to handle both structured exercises and spontaneous discussions improved steadily, reflecting the progress made in fluency and vocabulary acquisition.

However, while the course was a success, I recognized areas where my feedback techniques could be further refined to enhance learning. In particular, I plan to focus more on providing specific, actionable advice during individual feedback sessions. For instance, instead of offering generalized comments, I will pinpoint particular pronunciation or grammar issues, followed by practical exercises to address those areas. This approach should help students see clearer paths for improvement.

Overall, I was truly pleased with the progress and positive attitude of the class. The students remained motivated and engaged throughout, creating a dynamic and supportive learning environment. Their consistent effort and enthusiasm were a joy to witness, and I look forward to continuing to refine my teaching strategies in the future.

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]7
授業コード	11A14-028
教員名	JONES William M.
教員コード	100263
登録人数	24
回答数	19
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was truly blessed to have an excellent class of various language majors. I believe our (teacher and students together) most significant success as a class was to have the German, French, Spanish and Asian language majors interact for the first time (starting in Q3) regularly. Regarding question 1: Before taking this class, were you interested in the content of the class? This was the lowest rating of 4.21, and I am unsure how to improve this as the students were required to take the course. Question 4: Overall, were you satisfied with this class? This was a 4.63, so I'm satisfied with this. I've always believed that the overall question accurately indicates a quarter or semester. The greatest success of the course was to turn various language majors who rarely interacted previously into a unified class where not only did everyone interact with everyone, but all the students learned each other's names and interests.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全・T>8
授業コード	11A18-009
教員名	HUSTON, Adam David
教員コード	104956
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

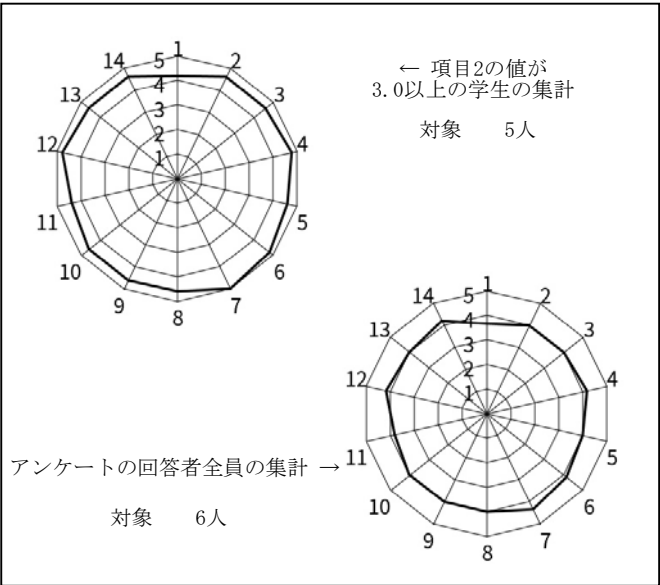
The writing course was much stronger the second time teaching it. I made better use of the textbook and supplementary materials, which helped students grasp key writing concepts more effectively. Teaching how to write strong openings, closings, and main idea sentences was especially beneficial.

I also added materials on how Japanese speakers misuse English words, which students really enjoyed and found useful. Providing more controlled feedback during in-class writing also made a big difference, as students appreciated the structured support.

No major changes are needed for the future, but I’ ll continue refining my teaching techniques. One improvement for next year could be adding more speaking activities since students engaged well with them and had fun.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリスニング<全・T>2
授業コード	11A26-015
教員名	PENDELL, Patrice
教員コード	104625
登録人数	24
回答数	6
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

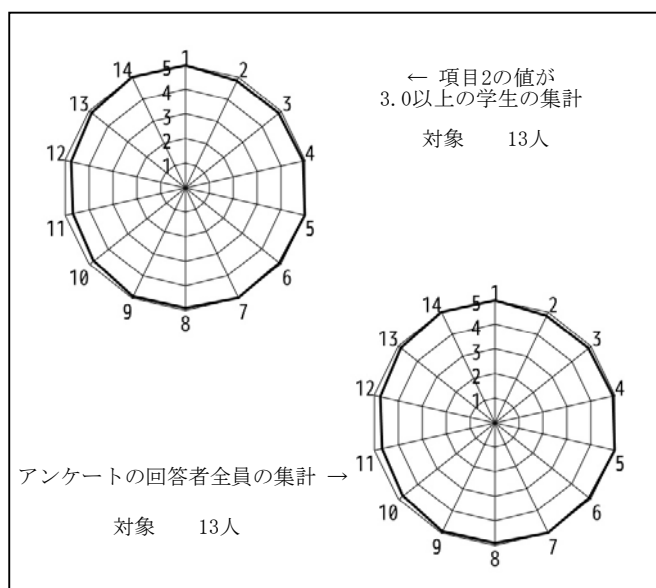


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the class are to improve English listening skills as well as confidence. Listening is a challenging skill, consequently it is important that students have material that is both within their ability and challenges them in order that their skills improve. The goal is to provide a mechanism of progress that the students can feel confident as well as approach listening with a positive attitude. Students listen to English (textbook and TedTalks), then answer questions and write summaries. A variety of topics within the textbook are received positively and expose students to concepts and ideas they may not be familiar with and/or they enjoy. The TedTaks activities provide short (2-4 minutes) and interesting English topics. Additionally, students work in pairs for English conversation dependent on listening and responds which balances textbook activities. Pair-work rotations provide social interaction as well as improving listening and speaking skills. Evaluations of the class include student work and feedback for the students, including a self-reflective summary report. Class will continue with clear expectations and plans allowing students to progress with confidence.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)卓球
授業コード 14E01-005
教員名 伊藤 奨
教員コード 104830
登録人数 24
回答数 13
回答率 54.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業の目標としていた、「1. 卓球のルールを理解している。」、「3. 生涯スポーツとして卓球を楽しむことができる基礎的な技術と体力を身につける。」については達成できたと考える。「2. 様々な状況に応じた打球・返球方法を選択できる。」については、特定の状況に応じた返球方法選択できるが、「様々な」というほど多くの種類の返球方法が身につけられなかった学生も見受けられた。これは、担当者自身の指導技術の未熟さも一因だと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

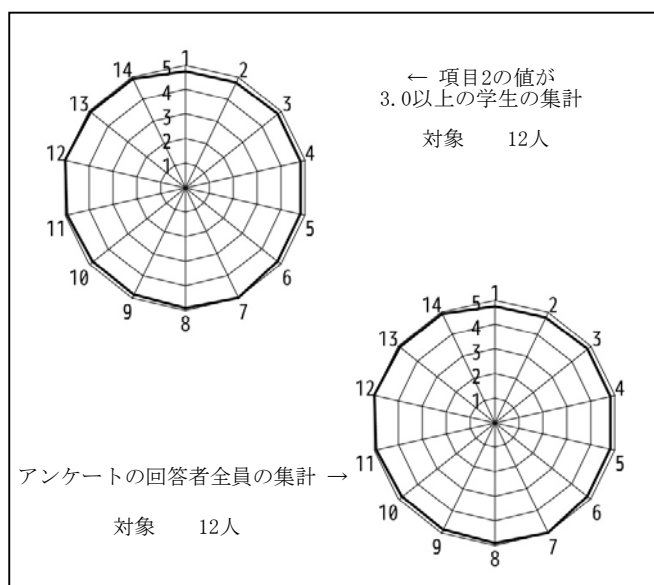
開講初年度で手探りな部分もあったが、全ての項目において、おおむね高い評価が得られたことから、授業内容や運営方針は適切であったと思われる。また、自由記述回答に「経験者や初心者も、楽しく運動できる空気をつくってくれたこと。」というコメントがあった。卓球という競技特性上、経験者と初心者の競技レベルに大きな差が出てしまうが、グループワーク等で学生同士で教え合う機会を作ったことが楽しく運動できる雰囲気につながったと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回の結果から、授業概要や運営方針に大きな修正が必要ないことが分かった。今後は、より細かい技術を、できるだけわかりやすく教えられるよう、担当者自身のスキルアップが必要だと感じている。試行錯誤しながらより良い授業を目指していきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)フィットネス
授業コード	14E06-003
教員名	加藤 孝基
教員コード	104117
登録人数	34
回答数	12
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

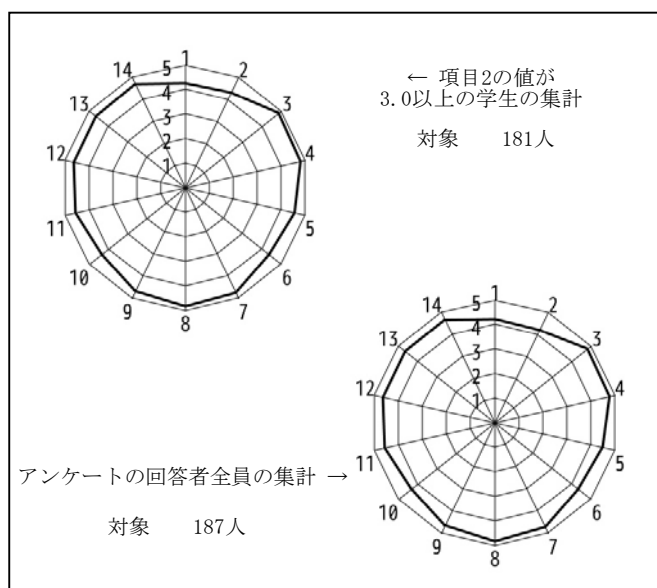


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本実技科目では、トレーニングルームでの有酸素運動・筋トレマシーン等によるトレーニングに加え、上半身・体幹・下半身の様々なトレーニングを、体育館およびグラウンドを広く用いて行った。当初設定した目標のひとつである、「トレーニングの目的と効果の理解」について達成できたと感じている。また、種々のトレーニングについて、筋・神経等の組織や力学的な観点からも十分に理解できたと考えている。
- ②受講者の要望を聞き、臨機応変に対応しながら授業展開した。具体的には、授業の後半では受講者が実施したいと思うスポーツを取り入れ、その種目に関連したトレーニングを各授業の前半に実践した。これらの形式が学生にとっては好評であったと捉えている。また、終始明るい雰囲気を作るだけでなく、学生一人一人とコミュニケーションを密に図ったため、それらの意見が自由記述欄に反映されていると感じる。
- ③評価結果からは、概ね授業に満足している学生が多かったと感じているが、スポーツ関連科目では、得てしてこのようにポジティブな印象を持つ受講生が多いとも考えられる。それらも踏まえ、現状に留まらず今後も授業内容を創意工夫していきたい。大学教育は、知識、情報および教養における集大成の場であると同時に、学生一人一人と社会とをつなぐ最も重要な役割を担っている。今後も、体育教育を通して、学生各々のコミュニケーション能力や、豊かな人間性を育てることが出来るよう、努めていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	健康科学論
授業コード	12D09-001
教員名	畑山 知子
教員コード	101969
登録人数	293
回答数	187
回答率	63.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

グラフをみると、受講を決めた当初は興味の薄かった学生もいたようであるが、最終的な満足度は高めだったようでうれしく思っている。到達目標に関する項目でやや低めの得点（4.35）であったが、下記のことから概ね目標は達成できたのではないかと考えている。

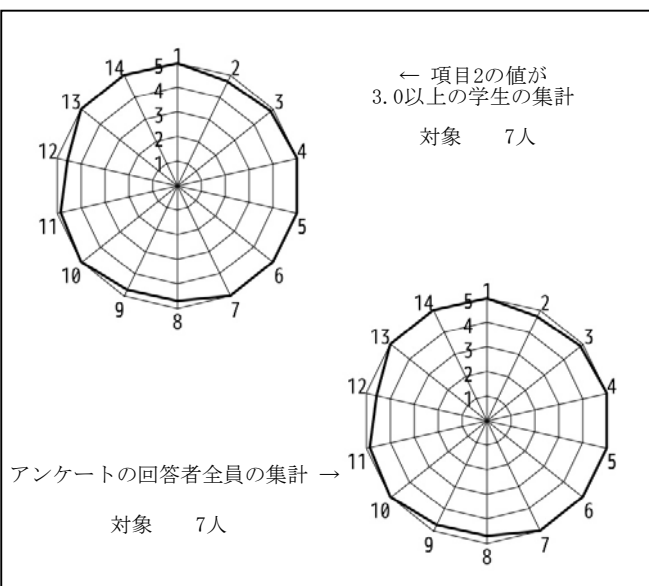
このクラスの到達目標の一つは「自らの肥満度や生活習慣を振り返り、健康づくりのための基礎的な知識を身につけること」である。これは、課題と授業内容を通して実践的に取り組んでいくものであるが、提出レポートやWebclassでの記述から多くの学生が真摯に取り組む理解を深めたことが伺えた。また、自由記述の「よかった点」として、他学部・異学年の学生たちと自身の生活や大学生の健康について話し合うミーティングセッションについて多く言及されていた。レポートでも刺激的であり視野が広がると同時に自身をよく知る機会となったことが報告されており、引き続き試みていきたいと思っている。

今年度は学生とのやりとりから、健康の概念や公衆衛生について当初予定よりも深く掘り下げることとなったが、この回の資料や議論から自身の見方や枠組みが変わったとのレポートが多く、有意義であったようである。これからは学生とコミュニケーションをとりながら、健康に関するトピックをいかに自分事として捉え考えを深めることができるか、発問の工夫を重ねたい。

私語の注意については控えてほしい旨を複数回呼びかけたつもりであるが、一部のおしゃべりが止まらなかったようである。次年度は様子を見つつ、もう少し厳しい対処を考えたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(健康スポーツ)バスケット型スポーツ
授業コード	14E04-005
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	26
回答数	7
回答率	26.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の目標の1つは「3x3、ネットボール、コーフボールのルールを理解し、プレイを楽しむことができる」であった。どの競技も正式に準じた形でのゲームを実施できたため、受講性は概ね目標に到達できたと考えている。もう一つは「各種スポーツの特性などを理解し、自身への適性を認識できる」であった。受講生はそれぞれの種目特性を理解した上で自身にあったポジションや役割、そして自身に向いている種目を認識できていた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データは全項目で高い評価が得られており、満足度が高い授業内容が実践できたと考えている。自由記述では外部講師を呼んだ回へのポジティブな回答もあった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回初めてバスケット型のスポーツのみで授業を構成したが、学生のモチベーションやそれぞれの種目の比較の面で非常に良い試みであったと考えている。今後はさらに授業内容の改善や適正種目の開拓に努めていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(健康スポーツ)テニス
授業コード	14E04-007
教員名	金 興烈
教員コード	102721
登録人数	13
回答数	4
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

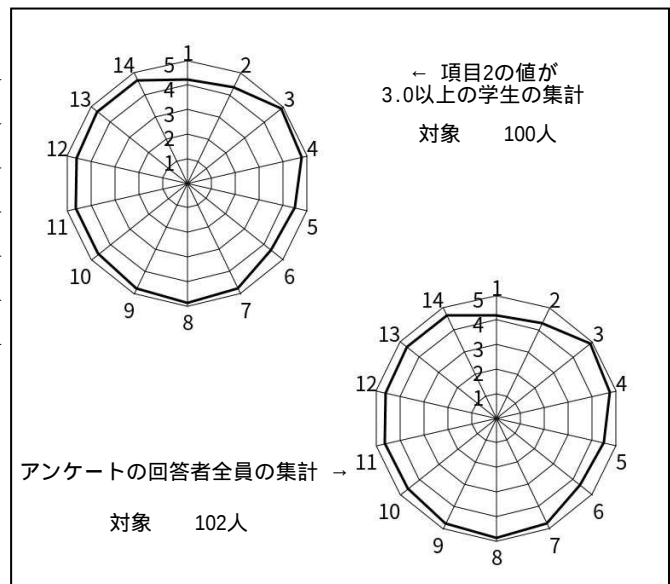
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.8点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかと思います。今回は、開講当初に「①テニスに関する理論的背景(歴史と道具の進化によるプレイスタイルの変化)を理解すること、②テニスを通じた生涯スポーツに向けた基礎体力の獲得と他人との対話能力や協調性などの社会的適応の基礎を獲得すること」という目標を一人一人に設定させた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。今回の受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業にも積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、テニスの機能面でも高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけではなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。一方、開講クォーターにおいては、7月から平年より猛暑が続く中、熱中症対策による授業時間(練習や試合)を十分取れなかったことは、今後の改善すべき点である。次年度の授業においては、開講クォーター(Q1またはQ3)を変更するなど熱中症の対策について考えていきたい。これからもテニスの学習意欲が高まるような授業展開と指導法を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学論2
授業コード 12D08-002
教員名 飯田 祥明
教員コード 103610
登録人数 294
回答数 102
回答率 34.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の目標は「トレーニングによる身体の適応について理解・説明できる」「身体機能を向上させるのに有効な食事・休養などの生活習慣について理解・説明できる」「人間の運動の仕組みについて筋骨格的なメカニズムを理解・説明できる」「適切な方法でスポーツ科学知識を獲得し、得た知識を活用できる」であった。トレーニング、バイオメカニクス、生活習慣についての内容は、重点的に紹介でき学生からのフィードバックも良好であったため、概ね達成できたように感じている。また、最終レポートの取り組み方も例年よりも適切な文献引用が多く、適切な方法で知識を得て活用するという面でも改善できたように思う。

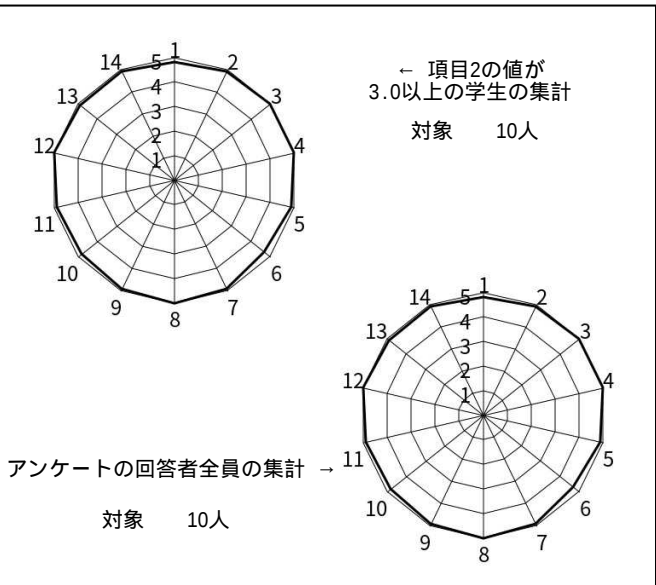
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データの特徴として、受講前はそれほど興味を持っているわけではないが、受講後の評価が良いことから、学生の興味を引き出し深める内容が提供できたと考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など私の専門とする種目の説明が多かったという指摘があったため、今後は多様な種目を例とした説明を心がけて行きたい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学演習A
授業コード 12D10-001
教員名 伊藤 奨
教員コード 104830
登録人数 25
回答数 10
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

私自身、初めて担当する科目ということもあり、学生の知識・技能の状態を適宜把握しながら授業を進めた。コーチングに関して興味関心の強い受講者が多かったこともあり、おおむね当初の予定通りに授業が展開できた。コーチングに関する3つの目標を設定したが、アンケート結果と最終レポートの内容から、おおむね目標が達成できたと考えている。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

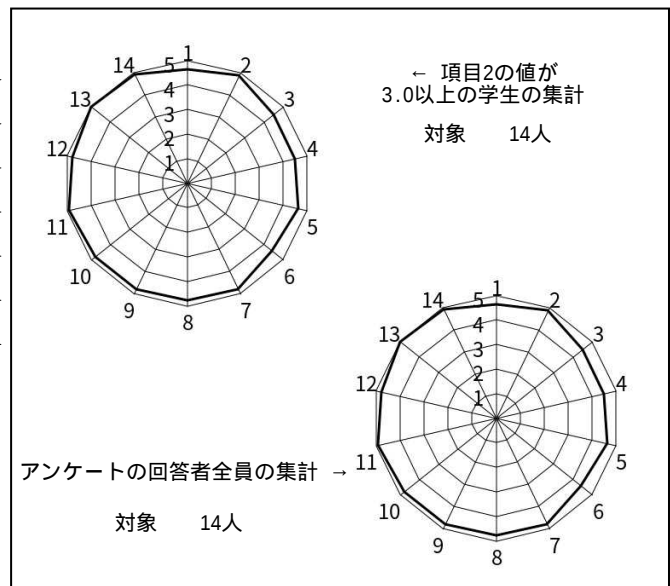
演習形式ということで、授業後半は学生たちが主体となるような授業展開を意識した。この点に関して、好意的なコメントが多かったことから、次年度以降も同様の形式で進めていきたい。その他の項目もおおむね5点に近い評価であったため、満足度が高い授業であったことが推測される。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年は手探りの状態で授業を進めていったが、次年度以降は今年度を踏襲する形式で進めて問題ないことが分かった。内容については、まだまだ改善できる点があるように感じたため、授業内で提示する資料を改善し、実習の内容・実施形式についてもより学生の学びが多くなるよう改善したい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求5
授業コード	13E03-005
教員名	畑山 知子
教員コード	101969
登録人数	32
回答数	14
回答率	43.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



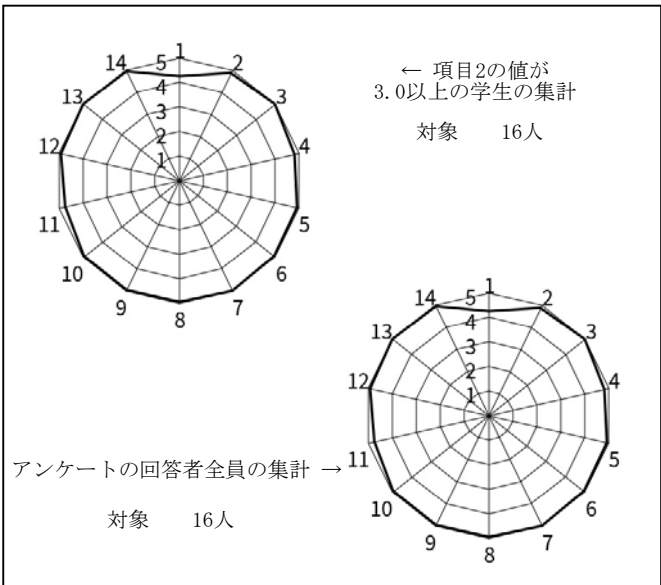
授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答数は受講者の約半分であったが、一項目を除き4.5以上の評価を得たことは、概ねよい評価であると受け止めている。クラスでは、身体の構造や五感など、既知の知識に体験をベースとした新しい視点の提供を試み、自身や世界（環境）、そのかわりを捉えなおすことを主眼に置いていた。設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」で5.0点満点をいただいたことや、自由回答よりこのクラスの良かった点として「教授が普段意識することない点を意識させるように促していたところ」などの回答をいただいたことから、このクラスの目的を達成できたといっている。

一方、レポートや課題への取り組みから、到達目標のひとつであった「日常生活における「からだ」への感じ方を深めている」については、もう少し日常生活における身体への意識を高められるよう工夫が必要とも感じられた。また、握手など接触を伴う実習もあったため、組み合わせなどについて配慮を求める声があった。次年度以降は、受講者との対話を重ねながら工夫していきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ科学演習B
授業コード	12D11-001
教員名	笹川 慶
教員コード	103190
登録人数	19
回答数	16
回答率	84.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

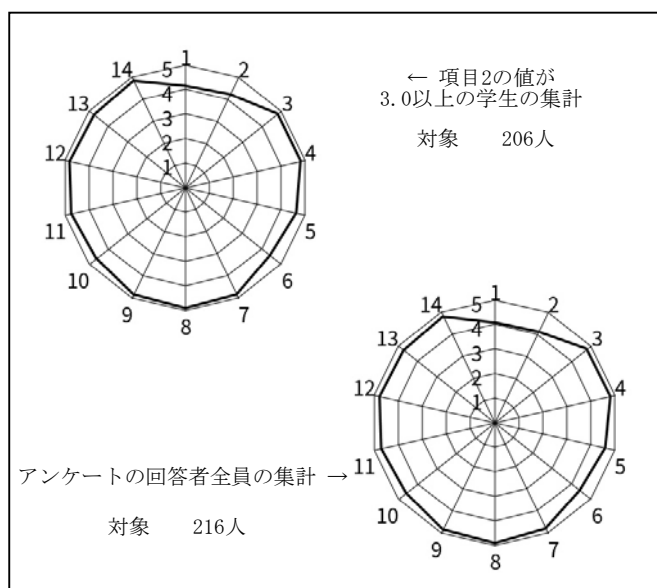


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①設問項目番号5と6の評価はそれぞれ4.94ポイントと高く、また学生によるプレゼンとレポートの内容から、到達目標に対する理解は概ね深まったと評価できる。
- ②設問項目番号3～14までの評価平均が4.93ポイントと高い値を得られた。昨年度の授業内容から更に学ぶべき内容を明確にしたこと、学生のプレゼン資料の作成に対する支援の改善・強化、および積極的なコミュニケーション、以上について昨年度の授業よりも意識的に改善したことが好ポイントの要因と思われる。そのため、自由記述では本授業に対する肯定的な内容・意見が多かった。
- ③今回改善できたことは継続していきたい。設問項目番号11は4.75ポイントと本授業の中では最も低い値を示した。本授業は演習形式のため、学生の主体的な学びを促すように構成され、学び合う環境づくりを心掛けている。そのため、教員からの情報提供が一部の学生にとっては物足りなかったのかもしれない。次回は、一度に多くの情報提供を行うのではなく、Webclassや対面でこまめにコミュニケーションを図ることで学生の状態を確認しながら、各学生の進捗状況にマッチした情報提供を行うとともにその回数を増やすことを心掛ける。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人間と環境3
授業コード	13D02-003
教員名	加藤 孝基
教員コード	104117
登録人数	364
回答数	216
回答率	59.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、学際科目として幅広い知識を身につける場と位置づけ、授業を展開した。講義全体を通じて、ヒトに関する多様な知識や環境問題について一方的に教授するのではなく、学生が興味を持ちやすい授業構成となるよう工夫した。例えば、学生が主体的に考える場を設けたり、自らの人体を用いた実験を授業内で行ったりすることで、学習への関心を高める工夫を施した。

また、授業内で生じた疑問には、毎回リアクションペーパーを活用し、次の講義で多くの質問に回答する形式を採用した。課題レポートの内容からも、設定した到達目標である「運動に関わる身体メカニズム」「運動学習の過程」「発育・発達」について、多くの学生が概ね理解していると考えられる。また、アンケート結果からも、授業に対する概ね好意的な意見が得られた。

一方で、「資料のWeb Classへのアップロード」を要望する学生が数名いたが、実際にはほぼすべての資料をWeb Classで閲覧可能にしていた。このことから、学生への周知が不足していたと考えられる。

次年度以降も、より学生にとって有意義な講義となるよう、引き続き工夫と改善に努めていきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	博物館実習2
授業コード	15M06-002
教員名	高柳 ふみ
教員コード	105020
登録人数	20
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

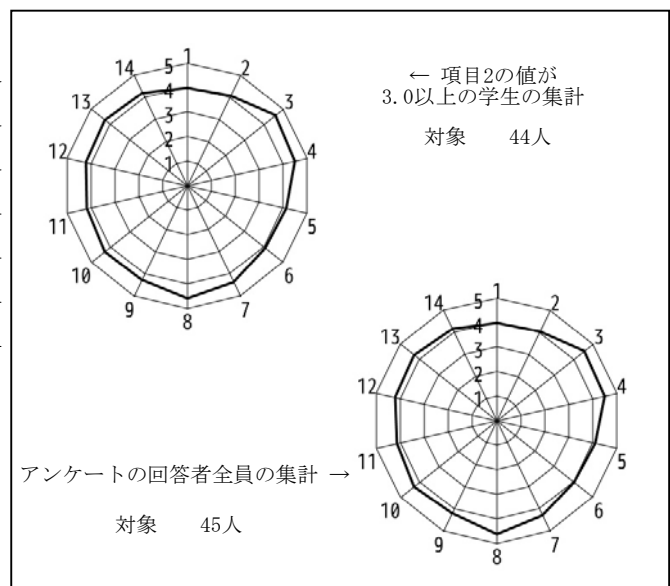
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
通年の前期で博物館企画の展示の製作、後期で自主企画展を行うという大きな目標は達成できたと思う。またその過程で博物館学芸員に必要な知識や技術を実践を通じて学ぶという目標も達成できたと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
毎回の授業で日誌を提出してもらった。振り返りを読むと、こちらが各回で伝えたことが理解され、授業で学んだことの定着が出来ていたように思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今年度は、長年の実習講座の経験のある共同担当者と授業を一緒に行った。来年度は新任用者との共同担当になるので、今年度の経験を活かし、また一緒に新たな授業を作っていくというようにしたいと思っている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	東洋史B
授業コード	12B06-001
教員名	西江 清高
教員コード	019356
登録人数	144
回答数	45
回答率	31.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

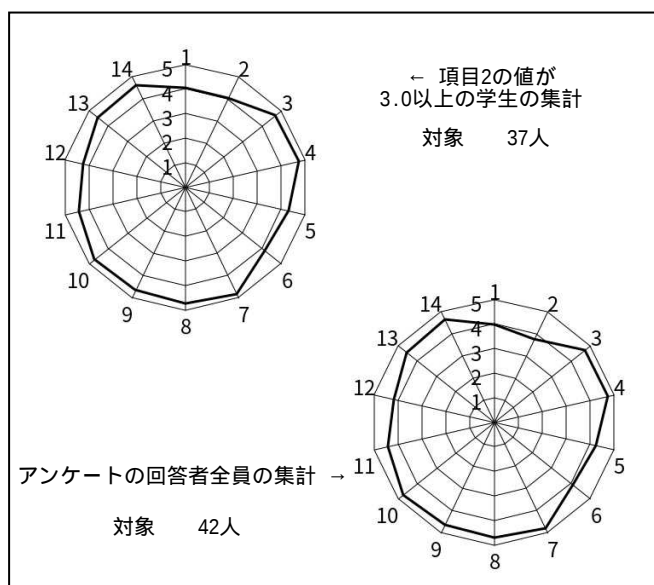


授業評価結果を踏まえた点検・評価

東洋史Bは、考古学と文明史の視点をまじえながら古代から現代にいたる中国とユーラシア東部の歴史について、大掴みではあるが具体性のある歴史のイメージをもつことを目標としている。アンケート項目のうち評価が低調だったものとして、①項目1～2および6：学生の受講まえの準備状況と到達目標に関する項目。②項目11および14：学習意欲の引き出し、および全体としての満足度の項目。以上があげられる。「全体の満足度」は私としても注意を払っているところであり、やや残念な結果であった。共通教育科目である本講義であるが、以前にもまして全学部の幅広い学生が受講するように変化している。あるいは授業の内容において、そうした受講生の多様なバックグラウンドについてさらに配慮すべきであったかもしれない。本講義では小レポートを3回提出することを求め、レポート作成に当たっては関連図書や文献を「調べる」ことを要求した。調べるという姿勢が歴史を学ぶ第一歩であるという考えによるものである。そしてレポート作成を通じて、アンケート項目6の到達目標に近づくことを期待したが、受講生は必ずしもそのように自覚してはいないようであった。さらに授業の狙いについてさらに丁寧に説明する必要があるようである。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(オセアニア)
授業コード	22C46-001
教員名	後藤 明
教員コード	101380
登録人数	84
回答数	42
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は観光地とされることの多いハワイの歴史、とくに先住民文化、ハワイ王国、また開国以降の先住民の苦難の歴史とその復興活動という視点から、観光地のイメージとはかけ離れている実態を伝えることを目的とした。同時にハワイの日系移民の歴史や文化の特徴を講義し、ハワイを総合的に、多角的な視点から見ることでハワイ通になることではなく、「自分ないし日本人にとってのハワイ」という問題意識をもつことを目的とした。授業評価をみると、講義の主旨の理解に関して相対的に低いポイントであった。講義の主旨を講義の最初ないし最後に繰り返し強調する必要性を感じた。また予習や復習の面であるが、今回は詳細なレジメないし資料を講義の前にアップしておいたが、若干詳細すぎた感があり、それが予習・復習の質問項目で相対的に低かった理由と推察される。詳細な資料の前に、その講義ごとのポイントを列挙するなどの工夫が必要であると感じた。講義に対して、こちらが驚くほど踏み込んだ質問をした学生がいおり、講義の意図を十二分に理解していた学生もいたものと判断されるが、理解度に差があったようなので、上記のように毎講義ごとにポイントを強調するなどの改善をしたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論

授業コード 23C19-001

教員名 伊藤 修毅

教員コード 103837

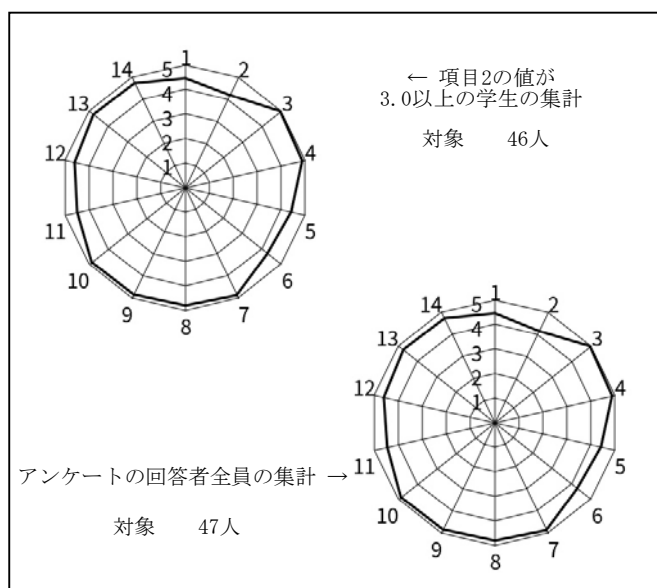
登録人数 76

回答数 47

回答率 61.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

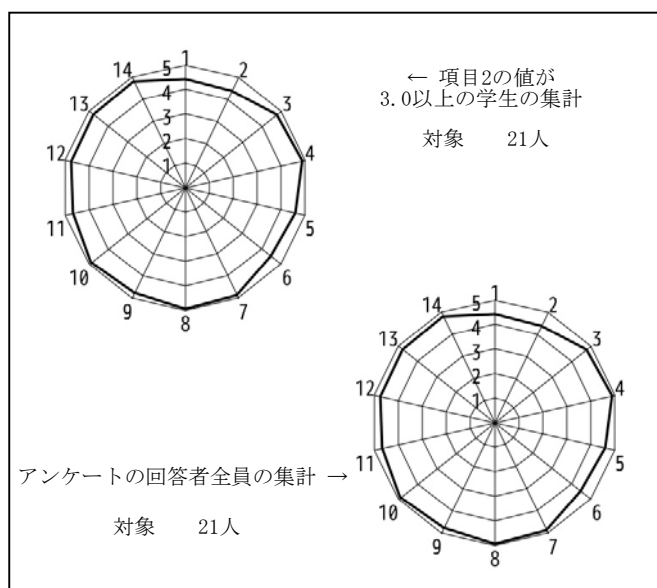


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①教職課程科目との合併開講科目であり、教職課程を強く意識した講義内容を設計したものの、今年度は、教職課程の履修者が少なく、その意味では目標の設定が多くの履修者にとって妥当ではなかったかもしれない。しかし、教職課程の履修者もいらっしやったので、大きな軌道修正はせずに講義を行った。
（来年度からは、教職課程との合併がなくなるとのことなので、この点は、シラバス段階で改善した） という状況ではあったが、おおむね目標を到達することはできたと考えている。
- ②数値データを見る限り、ごく一部の学生には不満が残っていたようだが、おおむね良好な評価を頂くことができ安心している。自由記述では、私語への対応を好意的に捉えていただけており、これは継続したい。教室環境については、私自身も感じているところであり、大学側に改善をお願いしたい。
- ③①にも述べたように、来年度から科目の性質が変わるため、シラバスを大きく変更した。新シラバスとなり、講義内容も、前年度踏襲というわけにはいかないので、しっかり練っていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 フランス語アトリエA
授業コード 33C07-001
教員名 七條 めぐみ
教員コード 103896
登録人数 38
回答数 21
回答率 55.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

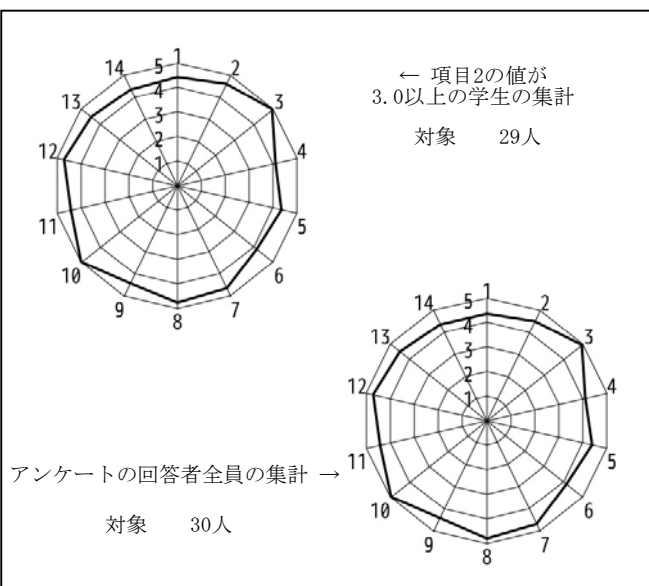


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目では17～18世紀フランスのオペラに関して、（１）歴史や作品の特徴を理解する、（２）声楽・舞曲作品に関する資料読解の基本的な知識を得る、（３）声楽およびダンスの実践を通じて、フランス語と芸術作品との結びつきを体感することを目標とした。（１）（２）に関しては各回のコメントシートおよび期末レポート、（３）に関しては授業後半で行った実践的な取り組みから、十分に到達されたことが確認された。
- ②今回のアンケートでは項目全体の評価が4.72という、全学平均・学科平均と比べても高い評価を得られた。本科目は西洋芸術音楽の歴史という、一般大学では触れることの少ない分野を扱うものである。そのため、音楽の専門知識に頼るような説明は避けるとともに、受講生の広範な関心を刺激するような講義づくり、質問への十分なフィードバックに努めた。その結果、高い満足度につながったと思われる。
- ③今期は時間割の関係で、昨年度までに比べ受講生が倍増した。そのため、コミュニケーションを活発に取ることのできる受講生は一部に限られ、すべての受講生に対して能動的な学びを促すことができたと言い難い。今後は期末レポート以外にも各講義内容に関する小テストを設けるなどして、受講生が授業内容を積極的に学ぶことのできる仕組みを検討したい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語V<H (Q2海外プログラム参加者用)・F>
授業コード	11D05-006
教員名	浅香 幸枝
教員コード	000165
登録人数	30
回答数	30
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

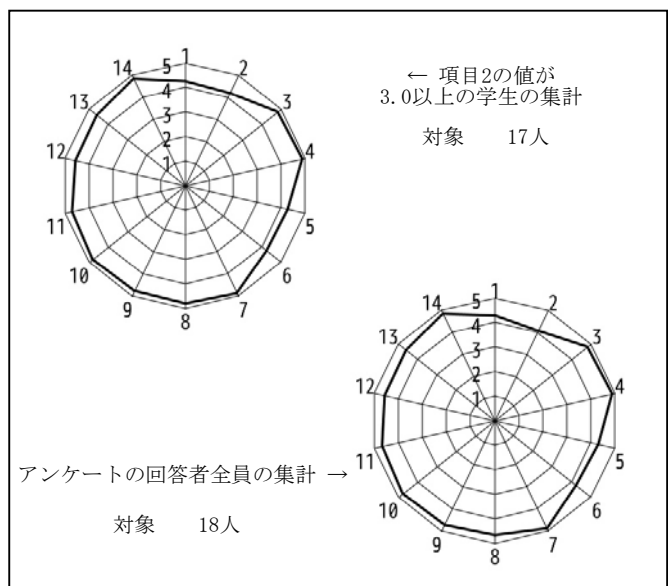
項目1～14の平均値は4.52であり、項目3～14の平均値は4.54であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、7項目に亘っている。1番高い4.97は、私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされていた。2番目の4.93は授業の開始と終了の時間が守られていた。3番目の4.80は授業中の音声はよく聞き取れたである。4番目の4.73は質問や相談の機会が十分に設けられ、指導が十分であったと回答している。5番目の4.67は授業に取り組む教員の姿勢に誠実さ真剣さを感じたと答えている。6番目に高い4.50は二つあり受講に際して主体的に授業に参加し理解しようと努力し、この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと回答している。

一番評価が低かったのは、4.10毎回の授業の構成と進行速度の適切さと4.17のこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかである。自分が将来使用することを前提として自分を主人公として授業で学習したことを基礎として、応用で使用可能性を想定してHPなどからも情報を得て、シナリオを作成しなければならなかったのが、生じた不安だと考えられる。しかし、昨年度の4.04から4.17に上昇したのは、うれしいことだった。30名全員が分かるように丁寧に教えたことは、学生と教員双方に満足感を与えたが、文法の難易度に応じて、進行速度が遅くなったのは仕方なかったように思う。スペイン語VはCEFRのA2に対応しているので、より表現が緻密になるからである。

今後も双方向の授業で学生の能力を伸ばしていきたい。

2024年度Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中国語I発音・聴力1
授業コード	35A01-001
教員名	山本 未英
教員コード	101130
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

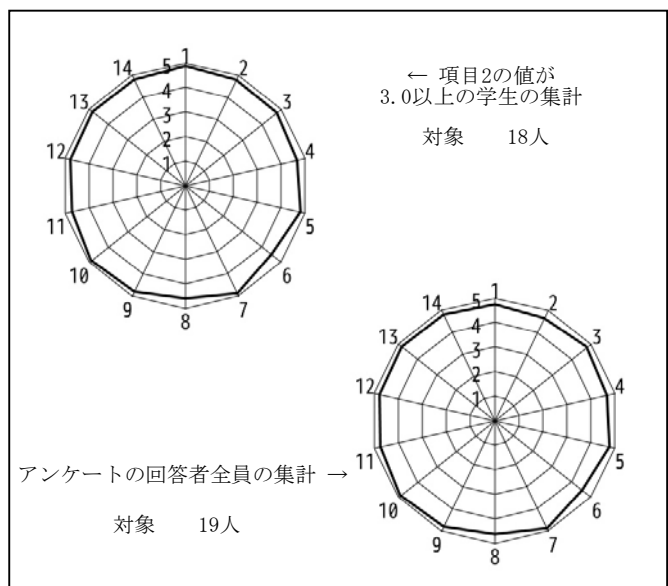


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、中国語と日本語の音節構造の違いを理解した上で、中国語において基本となる単音節語、二音節語を中心に発音とリスニングの練習を徹底するという内容でした。たった二か月で中国語の音節構造を理解して耳で聞いた中国音をピンインで表記できるように指導するのはとても大変なことです。中国語の四声の聞き分けが苦手な学生は、最初から落ち込んでしまう場合も少なくありません。20名弱の少人数のクラスなので、なるべく一人ひとりの状況を理解して全体の練習だけでなく個人チェックの時間も設けました。また、100分集中して練習するのは集中力が持たないので、途中で中国に関するクイズを学生に考えてもらったりして頭をリフレッシュできる休憩時間を設けたのがよかったようです。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語I読解2
授業コード	35A09-002
教員名	虞 萍
教員コード	101432
登録人数	23
回答数	19
回答率	82.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

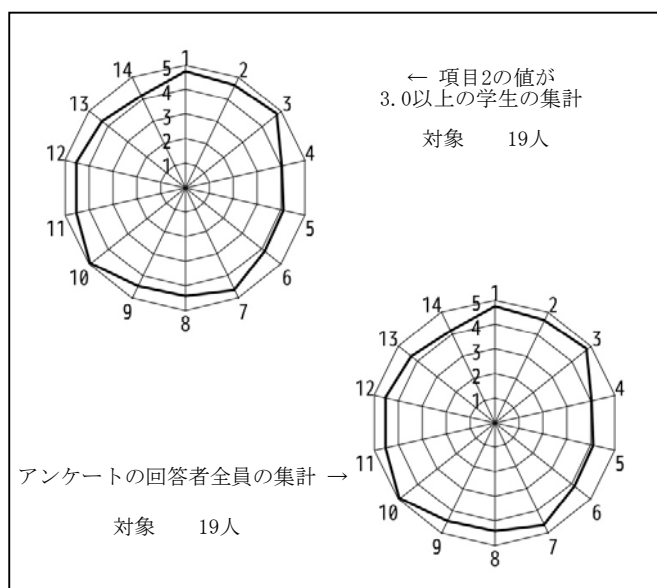
今期も開講当初に設定していた目標を達成することができました。学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「教科書に書かれていること以外の中国文化の背景を教えた。」「中国の文化などを知ることができました。」「一人一人の発音を聞いてアドバイスをくださった。適時重要なポイントの説明があり、小テストの対策がしやすかった。予習を徹底しなければならなかったのも、身になった。」「丁寧でわかりやすい。」「文法の説明が分かりやすかった。」「中国語の文法以外にも、中国の本場の文化や生活の一面を知ることができた点。」「教科書に基づいた中国の文化や現在中国で起こっていることなども含めて授業を展開していた点がよかった。」「本文の内容だけでなく、出てくる単語を使ってたくさんの文章を教えた。」など多くのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきました。

また、学生が中国語の勉強に興味を湧くように、授業では時間が許す限り、中国語の勉強と共に、中国の文化や中国人の習慣、日中文化の差異などのことについても紹介しました。多くの学生は興味津々に耳を傾けてくれました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を模索したいと考えています。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語III読解
授業コード 35C03-001
教員名 陳 志平
教員コード 049346
登録人数 22
回答数 19
回答率 86.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、私にとって初担当となり、今学期は言わば試運転であることから、指導方針や授業内容について、慎重に手探りしながら授業を進めてきたが、何かと配慮が足りず、至らぬ点があると思う。評価結果を見ると、十分に満足できるとは言えないが、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。

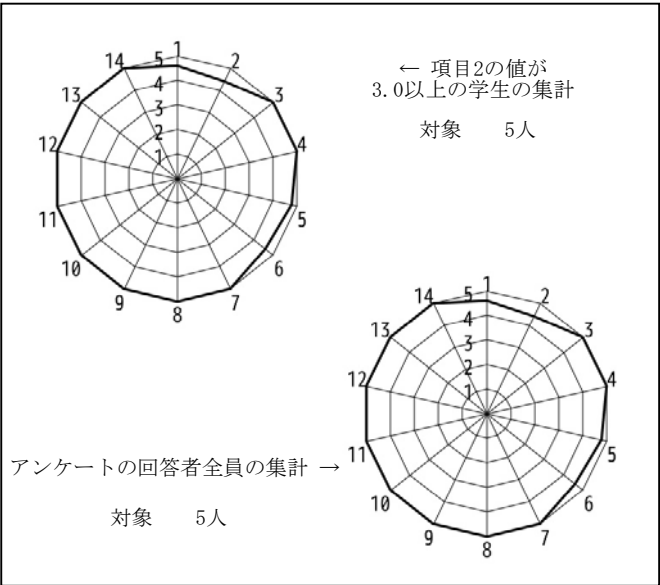
今学期の試みとしては、特に下記3点において熟慮を重ねて努力した。

(1) 文法演習：中国語読解は多くの文に触れて、体で覚える感性からの習得が可能であるが、語句や文法知識を踏まえた理性による学習も重要であると考え。読解の手がかり（コツ）として、トピックの内容に関連した書き言葉や虚詞（副・介・連・助を中心に）、多重複文を授業計画に組み入れた。(2) 進度調整：学生より授業の進む速度が早いという意見を聞いて、全体でアンケートを取り、皆さんのレベルに合わせて進度を調節した。(3) 情報提供、質問・相談を含めた事後指導などにも細心の注意を払うように心がけた。受講者からは、「学生の力がより伸びるように追加問題を出して私たちの能力向上につながった」；「文法解説が細かくて分かりやすい」；「授業の進行度を臨機応変に変えて対応してくださったので、余裕を持って予習に取り組むことができた。」；「分からないと質問したところは私が分かるまで解説してくれた」と言ったような有難きコメントを頂いた。

これからも学生の状況を正確に把握し、実力に即したバランス調整や学習意欲の喚起を課題として、学生に寄り添った質の高い授業が提供できるよう、授業運営の一層の改善・充実に向けて適切な対応を図る努力を重ねて参りたいと考えている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy8
授業コード	48A11-008
教員名	PURNAWAN, I Kadek
教員コード	104129
登録人数	14
回答数	5
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

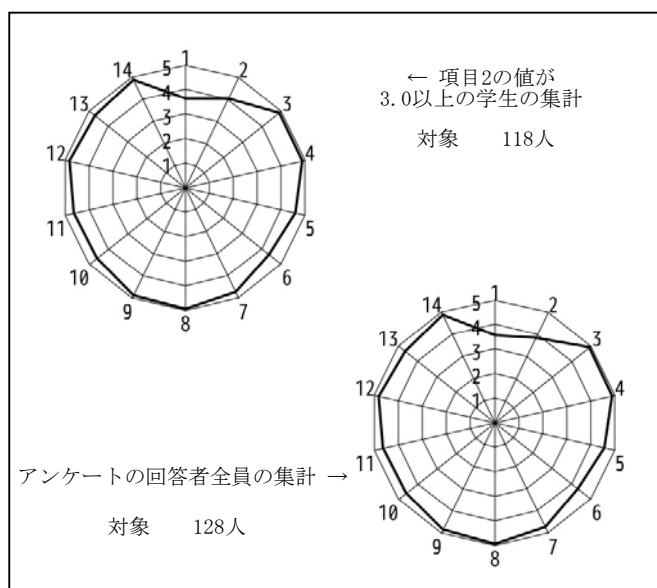


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The instructor established five learning objectives at the beginning of the course. By the end of the course, all five learning goals were successfully achieved. All participants successfully completed a full 4-5-page research paper, analyzed 4 articles centered around the subject of sustainability, and demonstrated their knowledge through 4 vocabulary tests.
- (2) Overall, students expressed their satisfaction with the course content. A score of 4.40 was assigned to question #2, which assessed the students' preparedness for the course. One of the comments made in the students' assessment was the importance of allowing students to relax before the learning process commenced.
- (3) There are some rooms for improvement. First, it is crucial for students to possess the necessary skill of writing research papers with a focus on utilizing key academic phrases. The instructor should provide those academic phrases in the future. Furthermore, it is essential to create additional opportunities for students to showcase their ideas in front of their peers. Students should engage in a debate, providing data to support their opinions.

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[FS・FA]
授業コード	10A01-006
教員名	荒田 啓示
教員コード	104840
登録人数	150
回答数	128
回答率	85.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について

カトリックの大学とはいえ、学生たちのほとんどは宗教の基礎知識もなく、むしろネット上に広がる宗教の誤った知識から来る先入観の方が強く持っていると思定し、高校倫理で学ぶ範囲を中心に講義を行うことで、宗教への見方をフラットにする作業が必要であると思い、シラバスと学習目標を設定したが、概ね目標は達成できたと感じている。

②について

授業評価からは、自分が思っていたよりも、学生たちには講義を楽しんでもらえたように思える。私は研究者ではなく、他の教授陣に比べ専門知識も乏しいため、その分、一人の教育者として、多くの学生たち一人ひとりに向き合いながら授業を作っていくことを大事にした。結果として、宗教という括りの授業においても、学生たちに興味を持たせることができたと思う。これは私自身の宣教活動としても良い実りであった。

③について

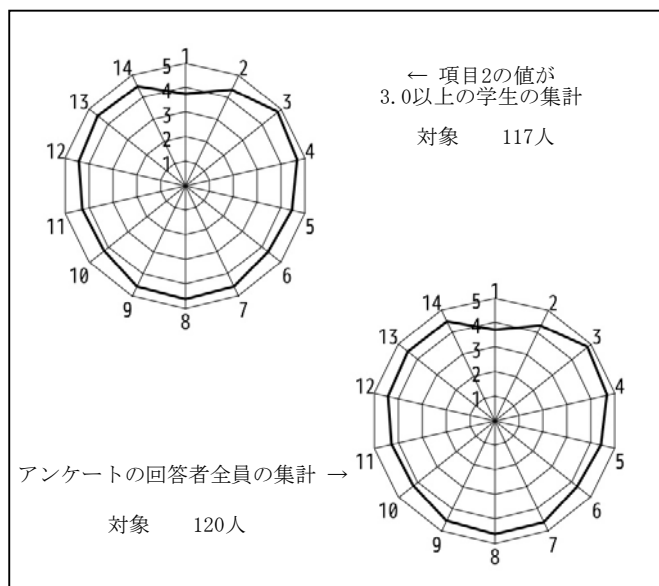
教室が少し暑い日が多かったが、5月初旬にはクーラーが入るようにしてくれたため、対応ができた。

シラバスに掲載していた授業予定は、休講の関係で一部変更せざるを得なかったが、この部分については次年度の改善すべき点であると言える。

今年の学生たちは人間的にも良く教育された素晴らしい子たちであったが、同じような学生への向き合い方で、次年度も上手くいくとは限らないのが教育の現場である。今年の評価に満足せず、更にわかりやすい言葉遣いや資料の作成、更に興味を持たせられるような講義の準備を整えていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]5
授業コード 10A51-020
教員名 ADRIANUS Leingere Hayon
教員コード 104958
登録人数 150
回答数 120
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1 Qを振りかかって、感じたことや気付いたことを下記にのべます。

1. 授業中に学生の聞く態度が真剣であったことを感心しました。

2. 授業中に写真や動画を使いながら学生にとって分かりやすく、教えることを心がけました。

3. 授業に遅刻する学生はほとんどいなかった。

4. 学生の集中力を考えて、休憩の取り方を工夫する必要を感じました。

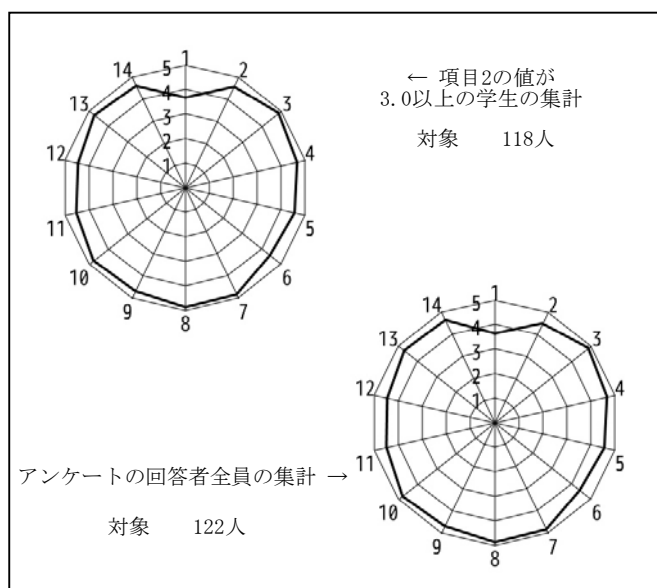
さらに、学生より、「授業中に私語をする学生に注意するように」と、進言されたので次回の反省点として活かしたいと思います。

最後に、学生たちに教えたキリスト教的価値観が、将来彼らの精神を支え、強化することができるように大切に教えていきたいと思っています。

以上ですが、今後ともよろしくお願い致します。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳2
授業コード 10D03-002
教員名 山口 宏
教員コード 101552
登録人数 159
回答数 122
回答率 76.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まずは、全体的な満足度（問14）がまずまずの数値でよかった。

授業の到達目標について授業内で明確に伝えていたわけではないので、到達目標に向けての力がついた実感（問6）はとくに高い値でもないが、新しい知識や理解の獲得（問13）については高い値となっており、社会学や現代社会の問題への視角を身につけるという目標は、毎回のリアクションペーパーからの感触も含めて、達せられていたかと思う。

また、声などの聞き取りやすさ（問8）や、授業への真剣な姿勢（問7）などは当然のこととして、質問・相談の機会の有無（問12）が若干低くなってしまった。毎回の感想や質問へのコメントも次回授業の冒頭でしていたが、大講義の限界もあったかと思う。

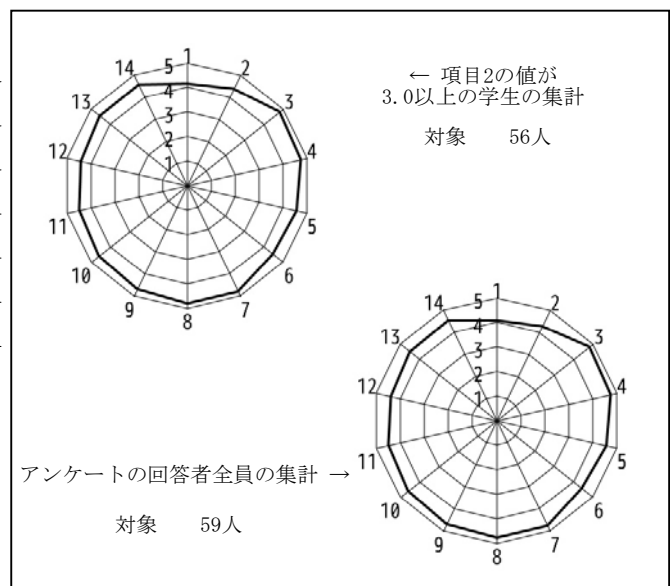
自由記述では、「面白かった」といった声が多くありがたいのと、授業では様々な短い映像を多く挟みながら進めており、それも有効であったかなと感じる。また、授業に集中してもらうため、毎回の授業内で詳細な内容まとめと感想を書いてもらっており、自由記述の範囲内では、否定的意見も散見されつつ、肯定的意見のほうが多いかなという感触である。

全体として、がんばって取り組んでくれた多くの学生のおかげで、良い授業にできたと感じている。

次年度も、基本的にはこのままで、さらに内容に磨きをかけていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳2
授業コード	10D06-002
教員名	大橋 真砂子
教員コード	100233
登録人数	166
回答数	59
回答率	35.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

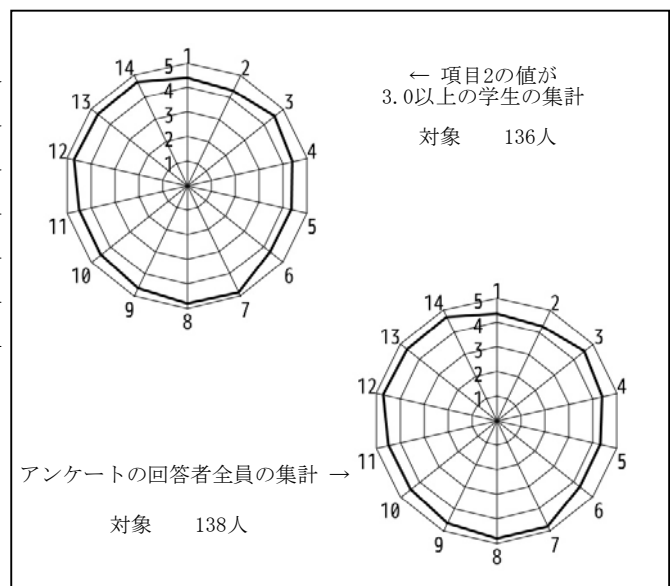


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から近代にかけてのヨーロッパの大まかな歴史を辿りながら、それぞれの社会における性の問題や人々の生き死に、病気や差別といったテーマに焦点を絞って、いかにして様々な場面で「人間の尊厳」が毀損されてきたか、またそれらが現代社会における諸問題とどのように関連づけられるか、といった内容を紹介した。授業の目標（1「人間の尊厳について自分なりに考えをまとめ、文章で表現できるようになる、2 ヨーロッパの歴史の流れを大まかに理解している）はほぼ到達できたと感じている。学生からの評価は、数値データと自由記述を総合すると概ね良好であった。特に予習を前提としたWord資料と、予習の答え合わせを兼ねたPowerPoint資料とそのWebClassへのアップは、学生にとって授業への参加を促すという点でも好評だと感じた。今後は、それらの評価を踏まえながら、ヨーロッパの歴史についてそれほど知識を持たない学生にとっても取り組みやすくかつ理解しやすい、また「人間の尊厳」という重要なテーマについてそれぞれの授業内容に応じて各自が考えを巡らせることができるような資料作りをしていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治学A1
授業コード 12C04-001
教員名 大園 誠
教員コード 102910
登録人数 226
回答数 138
回答率 61.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

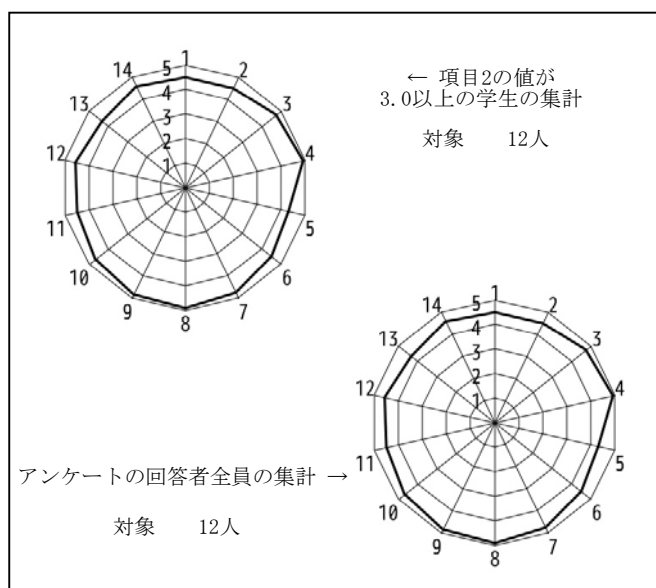


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：今年度も対面方式で実施。この授業の目的は、ひとつは、大学で初めて「政治学」に出会う受講生を念頭に、「政治学の基礎概念」と「戦後国際政治史」という2つのテーマについての「基礎知識」を伝えること。もうひとつは、「政治学」に限らず広く社会科学において大切な「時事的な関心」を持ってもらうこと。この2つの目標を達成するため、出来る限り「政治学」の魅力や面白さが伝わるための工夫（分かりやすさ）と、いま現実には起きている政治現象に関心を持ってもらうための工夫（ニュース・コメント）を実施。前半と後半ではテーマも視角も異なるが、授業評価を見る限り、所期の目的は達成されたのではないかと。②：全体の平均値は4.53で、今期も一定の肯定的評価が得られた。良かった点として今期最も多く好意的コメントが集中したのが、「講義冒頭の受講生の質問に対して担当講師が答えるコーナーがあったこと」。これは一方向的な講義にしないための工夫だが、今期は特に好評だった。また、「レジュメの分かりやすさ」「映像資料の活用」も好評。改善点としては、「ホワイトボードのペンのインクが薄いことがある／字を大きく書いて欲しい／教室の後ろの方から見えにくい」などの指摘と、少数ではあるが「授業進度が遅く感じて最後に急いだ」「授業配分としてフィードバックに時間がかかり本体部分が短くなることがあった」との指摘があった。前半は大教室であるがゆえの難しさはあるが、改善に努めたい。後半の指摘はもっともであり、授業進度や授業配分についてはつねに気をつけていきたい。③：今期の受講生は226名で大人数であった。受講生が多ければ多様な学生が集うことになり、みな個性があるため、全員が一様に満足する講義を展開することは至難の業であるが、あきらめず粘り強く、今後も、現実の「政治」や学問としての「政治学」の両方に対する導入的講義としての役割を意識しつつ、ひとりでも多くの受講生の皆さんの知的好奇心や探究心を喚起するような授業となるよう、精進したい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	物理学A
授業コード	12D01-001
教員名	本村 扇仁
教員コード	102685
登録人数	19
回答数	12
回答率	63.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

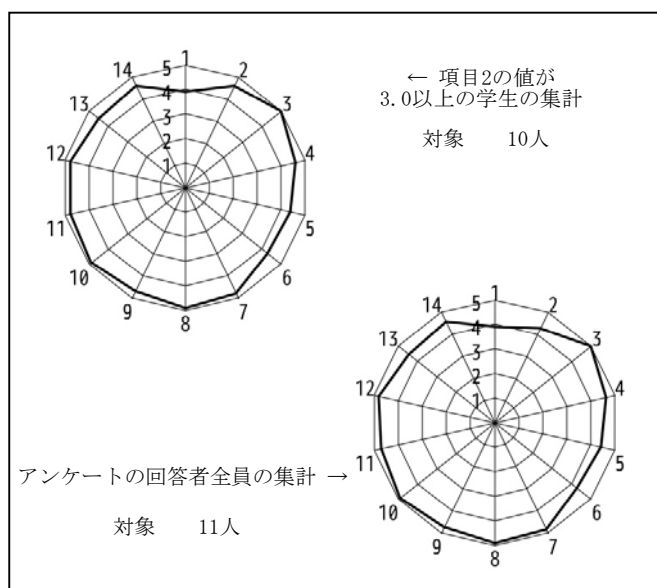
説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。また実感を伴った理解につながる効果が期待される映像資料を要所に取り入れた。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられる。教材内容、進めかたについて、アンケートに寄せられた声を参考にしながらさらに工夫し、より良いものにしていきたい。

学生がPCを準備していることから、計算についてエクセルを利用した。自分の手で数値的な面を把握するという点で有意義と考えられ、さらに展開していきたい。今後のエクセルの利用のひとつとして、教室内で簡単な実験を行い、測定結果および不確かさを計算してみるという取り組みの再開を検討したい。物理学で実験が果たす役割を実感できる機会になるものと考えられる。

不明な点や疑問点は理解をより深める大切な機会と考えられるので、質問を授業内外でしやすくするという点に留意し工夫したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介、資料の提示などに常に工夫を加えていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 化学1
授業コード 12D05-001
教員名 沢邊 恭一
教員コード 102686
登録人数 13
回答数 11
回答率 84.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標は、(1)身近な製品や現象の化学の理解、(2)環境とエネルギー問題の化学的理解、(3)化学知識を用いた判断力育成である。アンケート項目13の点数が4.45であることから、(1)と(2)の目標は達成された。また、提出レポートでは6割の点数を取った学生が13名中6名だったことから、半数の学生が(3)の目標を達成できた。

②数値データおよび自由記述等をふまえた総合的な自己点検・評価

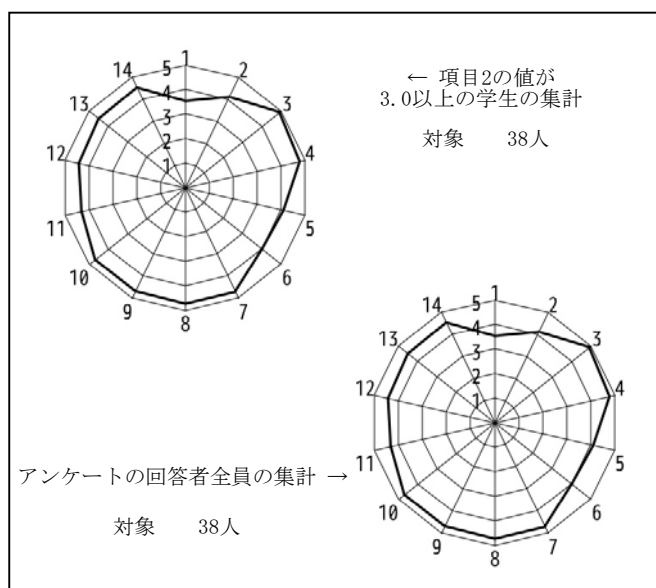
項目14の点数は4.55だったことから、講義内容は学生に理解されている。今年から講義のやり方を変更し、(1)教科書の音読と適宜説明、(2)スライド解説と直後の演習、(3)毎回の小テスト、を採用した。項目1の点数が3.91であるのに対し、自由記述には「理解しやすい」「非常に興味深い内容だった」という意見があったので、新しい講義方法は好評と判断した。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

不合格の学生が2名いた。これらの学生は、必須レポート要件を満たしていないレポートを提出した。レポート要件については講義で説明し、講義資料室にもアップロードしていたが、不合格の学生はこれらを全く見ていなかった。次回から、レポート要件を満たさないと不合格になる可能性を明言する。また、講義目標(3)の達成度が上がるように講義中のテストを工夫する。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地球科学A1
授業コード	12D06-001
教員名	三野 義尚
教員コード	102236
登録人数	77
回答数	38
回答率	49.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

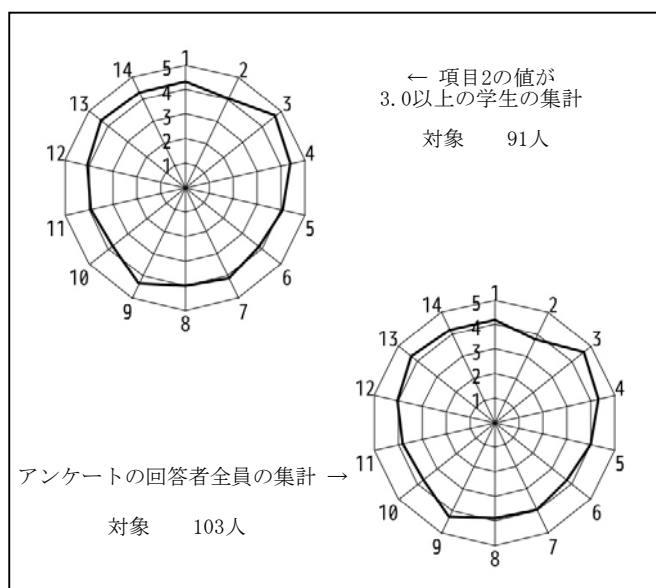


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計12回実施した。項目3-14の平均値は4.43であり、基盤科目平均（4.33）を上回った。比較的低いスコアは設問#5と#6であり、到達目標の理解と実感に関する評価だった。昨年度もスコアが低かったので、今年度の目標設定をより具体的に変更したが改善につながらなかった。次回は、小テスト以外にアウトプットの場を設けることを検討したいと思う。設問#15の回答を見る限り、授業運営に関しては、映像資料と講義を組み合わせるスタイルが学生さんに好意的に受け入れられたようだ。分かりやすい言葉を用いた解説は、今年度の講義で特に意識した点であり、この点を評価されたのは良かった。一方、資料については、もう少し分かりやすくまとめて欲しいという要望があったので（設問#16）改善したいと思う。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触2
授業コード 13A02-002
教員名 三木 誠
教員コード 101621
登録人数 197
回答数 103
回答率 52.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

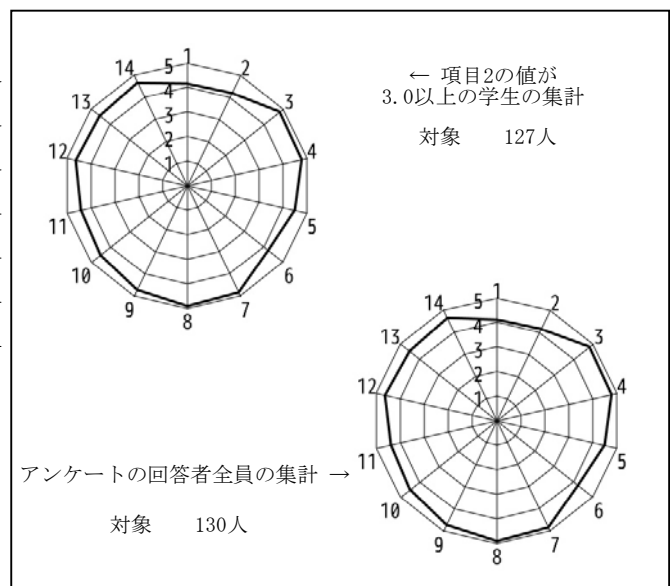


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスにおいて開講当初に設定していた目標のうち、2の文化の多様性の理解、3の民族社会、民俗社会の現実の状況、4のある特定の社会になぜそのような習俗が存在しているのか？といった点に関しては、提出されたレポートを吟味する限り、かなりの程度達成できたと感じている。一方で、1の人間と文化との関係の本質の理解という点に関しては、授業内で人間と動物との比較等を用いて解説はしたものの、やはりレポートでは具体的事例に則した記述が圧倒的に多くなるため、どの程度達成できたのか明確に判断できなかった。
- ②全体的にはほぼ予想通りの数値分布であった。木曜日3、4限の100分2限続きの授業なので、3限を解説、4限を映像資料鑑賞・解説というスタイルにしたが、どうしても集中が途切れる学生は出てくる。私語や遅刻、途中退出に対する注意もほとんどしなかったので、学習意欲の高い学生からの批判的意見は謙虚に受け止めねばならない。自分としては授業スタイルに関しては妥当。授業運営に関しては改善すべき点が多いと考えている。
- ③この授業はとにかく映像資料による異文化の現実、変化、存在理由の理解、という点が最大のキモであり、自由記述においてもその点は高く評価されているので、授業スタイルの変更は必要ないと考えている。授業運営に関しては、出席の取り方、私語に対する注意などに留意する必要性を感じている。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解2
授業コード	13C01-002
教員名	堀江 未央
教員コード	104284
登録人数	270
回答数	130
回答率	48.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

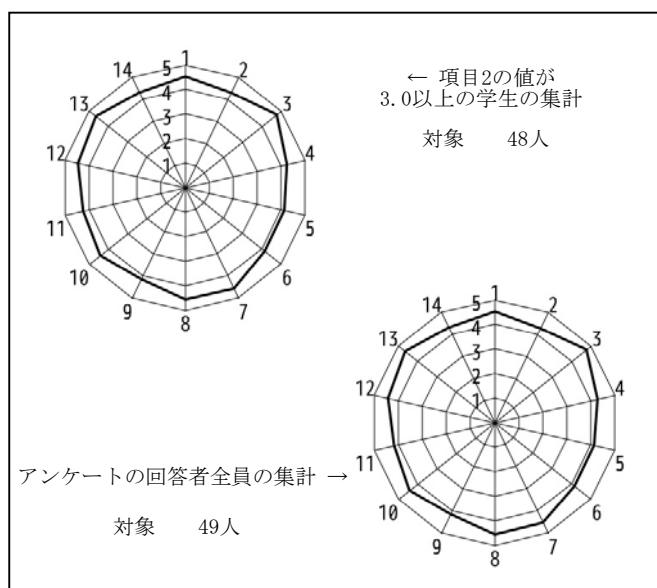


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標「異文化理解のための基本的な姿勢について学ぶ」については、到達することができた。毎回課すコメント課題のなかで、自文化中心主義的な意見が出た場合は、匿名化して次の授業で紹介し、それへのフィードバックを付すことで、異文化理解のための姿勢を繰り返し説き、またレポート課題への相談と回答を通して基本的な姿勢を教示できたと考える。
- ②数値データについては、おおむねとても高い数値を維持することができた。今年度は期末レポートの事前相談とフィードバックを重視したため、双方向性を前年度より高めることができた。他方、予習の必要な類の講義ではないため、予習復習に関する数値が他の項目に比べてやや低かったことが課題と言える。
- ③次のクォーターに向けて、予習復習の可能な内容をもう少し盛り込めるよう検討する。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題1
授業コード 13C02-001
教員名 三枝 有
教員コード 100468
登録人数 153
回答数 49
回答率 32.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

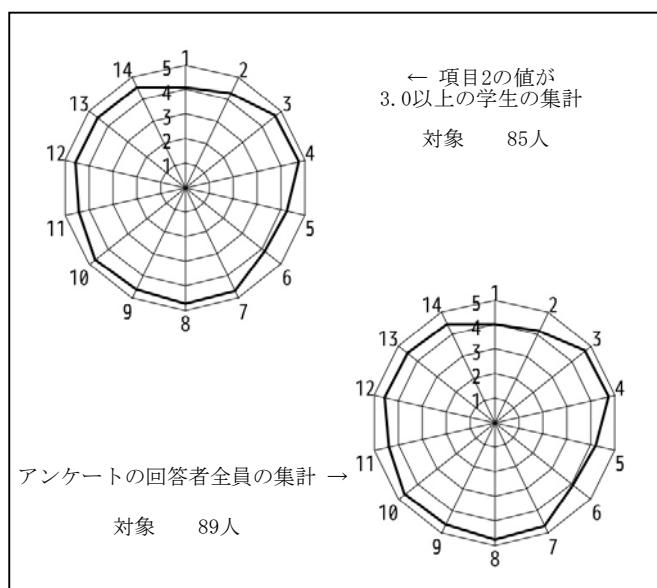


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前回の授業評価から総平均値4.5を目標値として設定していましたが、達成できなかったことは誠に遺憾である。項目番号では個人的には4, 8, 9について評価を上げるように学生指導など配慮を充実させたい。また、全科目との関係からは11, 12の評価を上げるための努力の必要性を感じた。自由記述については、講義上の配慮について多くの高評価をいただき今後もこれらの点については意識して講義をおこないたい。逆に、話が回りくどいというご指摘については繰り返すことで印象付ける狙いであったことが逆効果となった点で、度合いを再検討するつもりです。字が読みにくい点等については、もう少しゆとりをもって思考順序に従い記述したいと思います。不快感をもつような話し言葉としての使用については、受け取る学生により反応が真逆になることがあるため、できるだけ講義の途中で申し出てほしいのですが、この点については更なる配慮の仕方を検討したいと思います。最後に、使用やマイクノイズについては、教務課の方がご対応いただけるかと思っています。この点についてはできるだけ講義時に科目担当者ないしは教務課の方にお申し出いただければ迅速な対応ができるのではないかと思います。様々なご意見等をありがとうございました。特に、講義中に質問をして頂きました学生諸氏には、大変興味深い質問が多く有り難く存じます。十分な回答ができておればよいのですが。ご意見等ありがとうございました。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相6
授業コード	13C04-006
教員名	松野 正太郎
教員コード	104285
登録人数	148
回答数	89
回答率	60.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

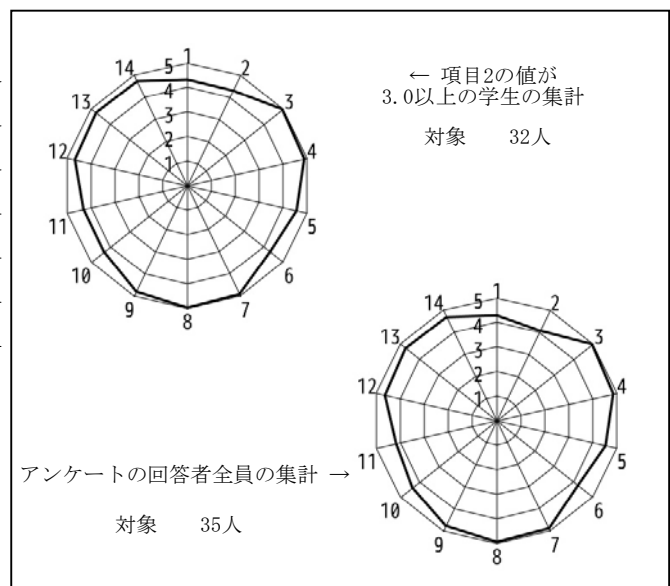


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート結果全体を概観すると、ほとんどの間で開講主体の平均値を上回っており、講義への満足度は高かったと考えられる。まず、開講当初の目標と到達度については、予定通りに達成できた。また、授業の構成や速度、質問への対応については評価が高かった。一方、私語への対応は都度行ったが、目の届かないところで対応しきれなかった点があったようである。また、今年は150人を超えた大講義であり、教室も大きかったので、板書が見にくいとの指摘もあった。この点は受講者数のバランスを見ながら、対応策を考える。昨年度に引き続き、毎回関連する新聞記事を配って、解説することを試みた。このことに関する反応は良く、継続する。2コマ続きの長丁場なので、適宜休憩を取ったのは、学生にとっても良い効果があったようである。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生命観と環境観の変遷
授業コード 13D05-001
教員名 加藤 義和
教員コード 104944
登録人数 73
回答数 35
回答率 47.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

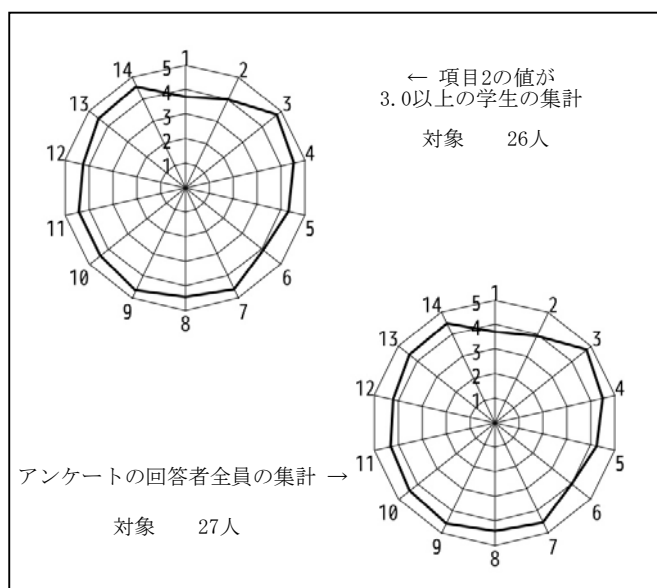
開講当初に設定していた目標は「『生物の進化』とはどのような現象か、説明ができること」および「現代社会において、生態学や進化学がどのような役割を果たしているか、説明できること」であった。小テスト（講義期間中に3回実施）および定期試験の成績、さらにアンケートの数値データ、自由記述を見ると、講義内容に興味を持ってよく理解し、目標に到達した学生が多数であったと思われる。また、授業内容や自身の興味に合わせて、講義後に直接、熱心な質問に来てくれた学生が（少数ではあるが）いたことは、教える側にとって非常に励みになった。

この授業では、各回の内容を説明するPowerPointファイルを作成し、教室でこれを映写しながら講義を行った。内容の理解を助けるため、このファイルを、①当日、ハンドアウトとして出席者全員に配る、②講義後、WebClass上に掲載する、という二つの試みを行った。アンケートの結果から、これら二つの試みは、「講義を聴きながら理解する上での補助」「講義後の復習資料」「小テスト、定期試験の対策資料」として大いに役立ったようである。一方で、「授業の予習」につながるような試みを行うことができなかったのが、今後の課題としたい。

この授業では、一回分の講義にさまざまな話題を盛り込んだため、口調が速くなりがちだったという自覚がある。学生の理解を助ける上では、もっと丁寧に説明をしていくよう努力したい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論
授業コード 15M08-001
教員名 市橋 芳則
教員コード 100763
登録人数 93
回答数 27
回答率 29.0%
休講回数 3 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標については、生涯学習の概要から現代の生涯学習が抱える課題、新たな技術について具体的事例を交えながら講義することにより達成できた。

講義は、基本的にパワーポイントを使用したプレゼンテーション形式で実施している。講義資料については、パワーポイントに用いた基本データをDLサーバーに提示することにより補完している。また、講義で用いる動画については、北名古屋市歴史民俗資料館のオリジナル動画を始め、博物館および図書館などで公開されている動画を活用することでより具体的な活動を伝えるようにしている。こうしたことが学生の理解につながっていると考えている。

講義に関する予習については、参考とする博物館、図書館の情報をWEB上で確認する、関連動画を視聴するなど関連情報を提供することで理解につなげることができた。

学生による評価において理解しやすいと示された事項について来年度以降についても維持し、より生涯学習についての理解を深める講義としていきたい。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報資源概論

授業コード 15P06-001

教員名 伊藤 真理

教員コード 101182

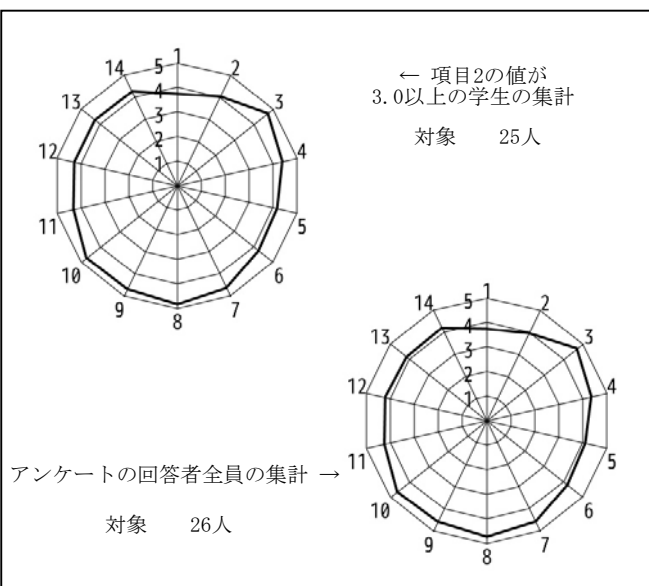
登録人数 66

回答数 26

回答率 39.4%

休講回数 2 回

補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当該科目は、司書課程における基本的な科目群のひとつであり、その中でも初期に履修することが求められる内容を学修することになっている。そのため、一般的な知識で理解可能な内容も多く、その点では履修者は学修が進めやすかったと思われ、到達の程度についても深刻な問題とならなかったと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

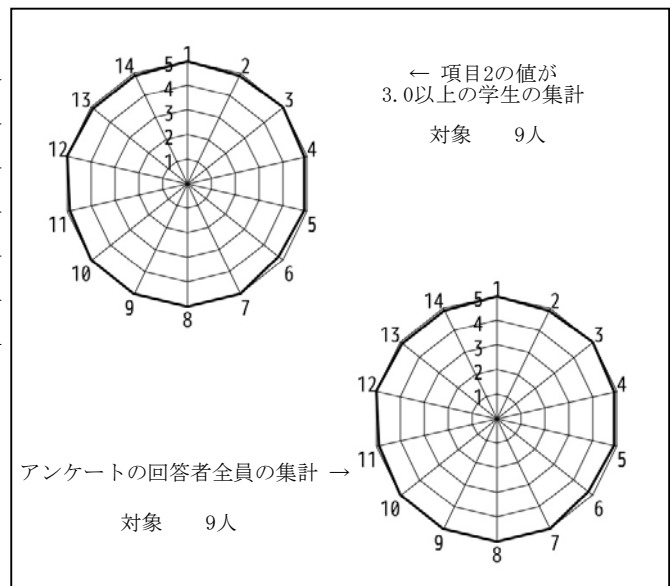
数値データを見る限り、授業運営や対応について概ね良好であることが分かり、今後も留意していきたい。また、資料をテーマにしているため、Show and Tellの手法を用いて理解を深めるとともに図書館サービスでの関連性の説明を行っいる。こうした工夫が効果的であることが自由記述からわかり、可能な場合には積極的に取り入れていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上記の通り、当該科目は基本科目であるため、ここでの内容の理解が司書課程での他科目の履修にも影響する。また、科目間での内容の関連が非常に深いため、そのことを念頭に置いて授業での説明を工夫していきたいと考える。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	韓国・朝鮮の言語と文化III
授業コード	35C28-001
教員名	金 由那
教員コード	101171
登録人数	37
回答数	9
回答率	24.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

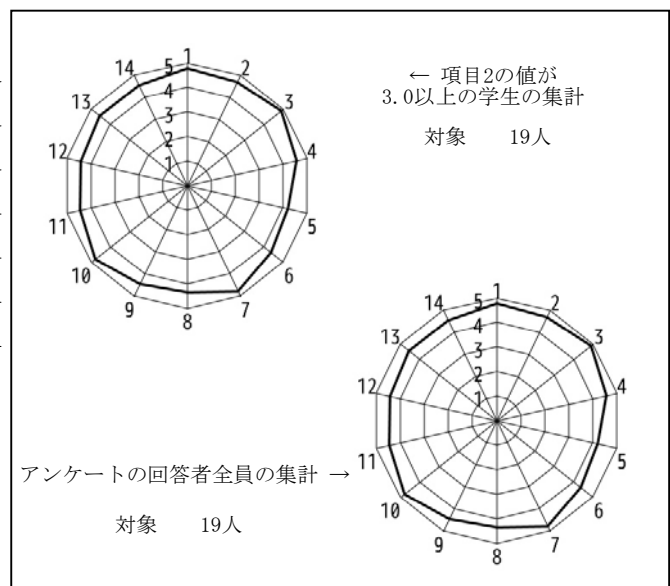
この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、会話の練習や小テストによる内容理解の確認が適度にあったのが良かった。

先生が一人一人の文章をチェックしてくれるので自分は何が違うのかなどが分かりやすかった。先生が可愛らしく、親しみやすい人柄で良かった。たまに挟む韓国に関する小話も面白かった。丁寧に教えようとする姿勢がとても伝わり、韓国語を上達させることができた。先生が毎回笑顔で元気に授業をしてくれたので、楽しかったです。あと、先生が毎回くれるプリントがとてもわかりやすいです。などのコメントがあった。楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]4
授業コード 11D03-008
教員名 VILLALOBOS Antelma
教員コード 101011
登録人数 19
回答数 19
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good evaluation from the students and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

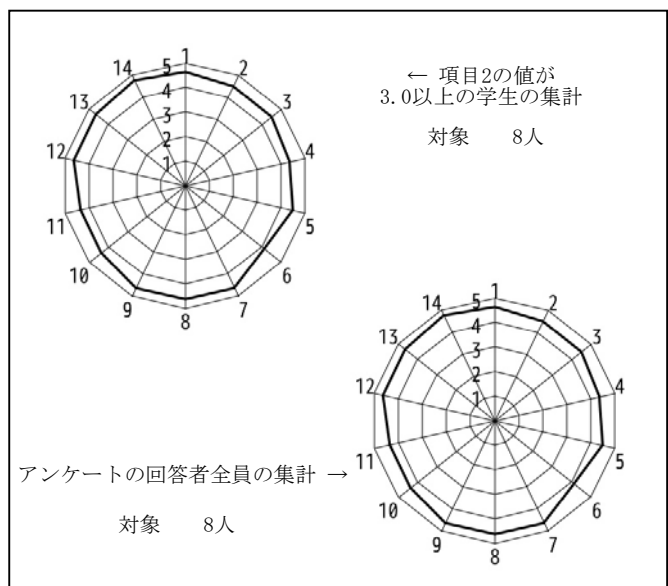
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<全・T>
授業コード 11F02-028
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 38
回答数 8
回答率 21.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

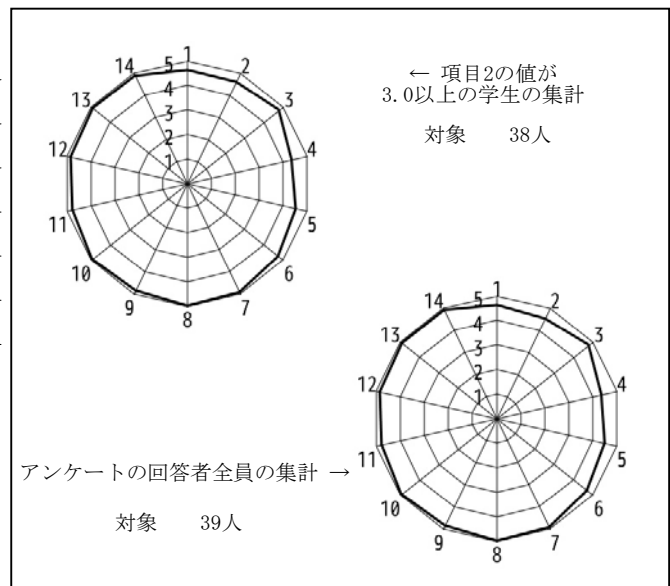
受講生の殆どがピンインをしっかりと身につけ、正確に音読が出来、初級レベルの文法を理解したうえで、簡単な会話が出来るといいう目標に近づいていると思います。特に中国語の学習に強い意欲を持っている半数以上の学生におきましては、その頑張る姿勢と習得結果に毎回驚きと喜びを感じました。

5限目の授業であり、再履修生の多いクラスなので、学生がいかに中国語に興味を落とさず、単位取得だけでなく、中国語の学習を楽しむ心持ちで授業に臨めるよう、担当教員として工夫をしています。各課の発音チェックを必ず全員に行い、文法習得の確認として日本語の短文を中国語に訳す練習を行いながら口頭で発表してもらったりします。ほとんどの学生が正確に発音できるようになっています。

今後よりピンイン知識をしっかりと定着させるため、習得した文法項目を確認するため、毎週プリントを用意し、ピンイン、単語、文法応用の練習をし続けたいと思います。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<G>
授業コード 11F02-031
教員名 中野 麻里子
教員コード 102125
登録人数 43
回答数 39
回答率 90.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

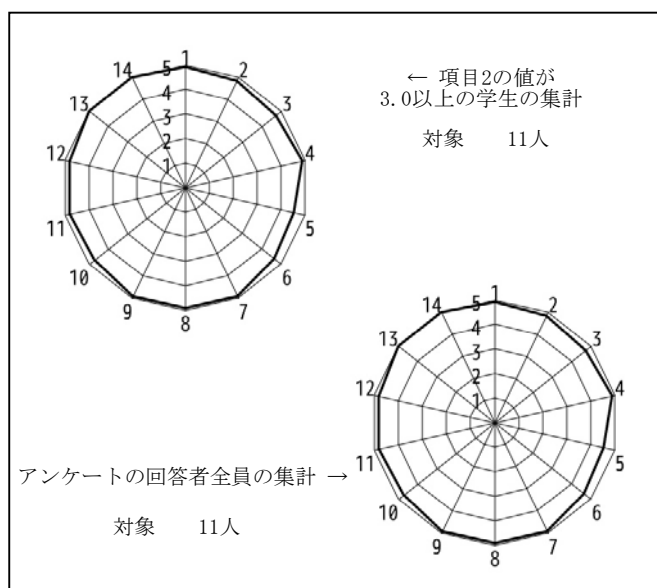


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度はおおむね達成できた。ただ、またコロナやインフルエンザが流行していた時期もあり、欠席の学生が多いときは進度をゆっくりにしたたり、復習を多めにしたりして、シラバス通りに進まなかった回もある。
- ②例年よりもかなり進度はゆっくりなのだが、まだ早いと感じる学生が一定数いるようだ。その学生の欠席回数も聞いてみたいところだが、試験前にもう少し復習・練習を多めにして理解ができていない部分を補充するような形にしてもいいかと思う。また理解が追いつかない学生のために補助的な解説資料などをwebclassにアップするのもいいかもしれない。また学生たちの意見を聞きつつ進めたい。
- ③検定試験についてももう少しきちんと紹介する時間を取るつもりだ。小テストや発音練習の時間をしっかりとっているという点は学生たちのためになっているので、引き続き継続したい。第3クォーターになると表現できることが増えて来るので、より会話練習を取り入れる予定だが、学生たちの反応もしっかり確認しつつ、知識の定着につながるように工夫して取り入れたいと考えている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)1
授業コード 11L09-001
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 15
回答数 11
回答率 73.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

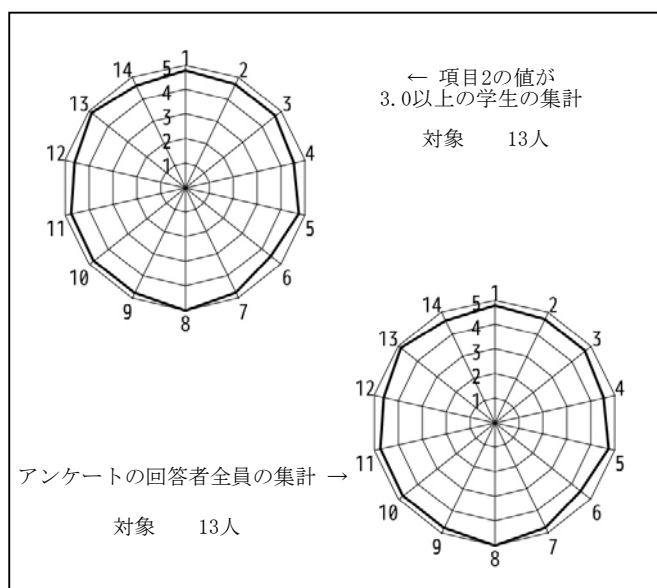
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材やグラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

コース開始時には初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られたが、授業が進むとともに積極的に参加する姿勢が増し、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、読解文を理解して適切に要約することができるまでになった。学生自身も日本語の上達や理解の深まりを実感しているようである。(設問6平均値4.64、設問13同5.00) しかし、同時に設問6、11では3という回答もあり、授業への参加に困難を感じている、上達が感じられないという学生もいたことが窺える。

これらを踏まえ、次学期は今学期の授業内容を中心に、学生が興味を持ち積極的に学習に取り組める内容を組み込み、個々の理解度に合わせつつ、学生の様子にさらに気を配りながら、授業を運営していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)1
授業コード 11L11-001
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 16
回答数 13
回答率 81.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

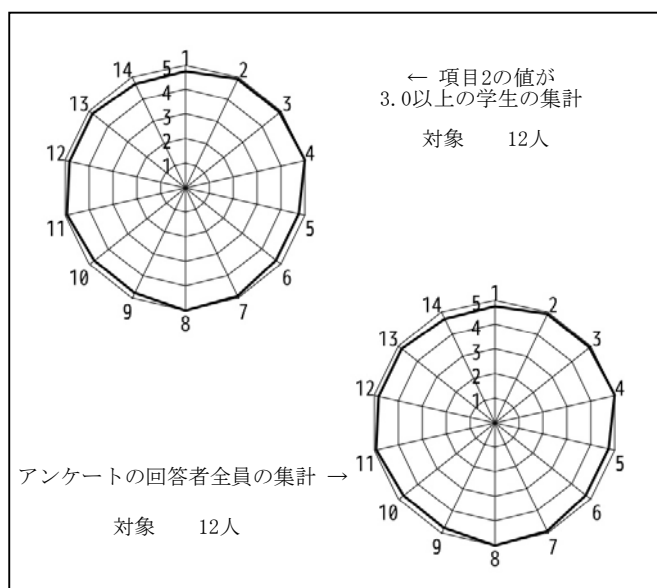


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、今後の助けとなるよう図書館での講習やレポート執筆の基礎力を高める表現演習を取り入れている。また、先学期の反省を踏まえて理解しやすいよう教材を改善し、毎回の課題で定着を試みた。ほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の1つである「レポートの構成を整える、出典を明らかにして引用する、客観的な表現でレポートを執筆する」ことに関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、最終課題の期末レポートでは、実質的な文章表現の運用や生の資料の引用と出典の示し方、レポートの内容に関して個人差が顕著に表れた。②学生からの授業評価では平均値がほぼ4ポイント後半～5ポイントであり、授業内容に関しては概ね評価できると考えられる。自由記述にクイズが難しすぎるとの指摘があったため、さらなる改善を試みたい。③今学期は、期末レポートを提出しなかった学生が1名と欠席過多の学生が3名も出た。うち2名からはストレスによる体調不良だと本人から連絡があったが、これまで以上に心を配り、個別対応に力を入れたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術A)1
授業コード 11L14-001
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 12
回答数 12
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

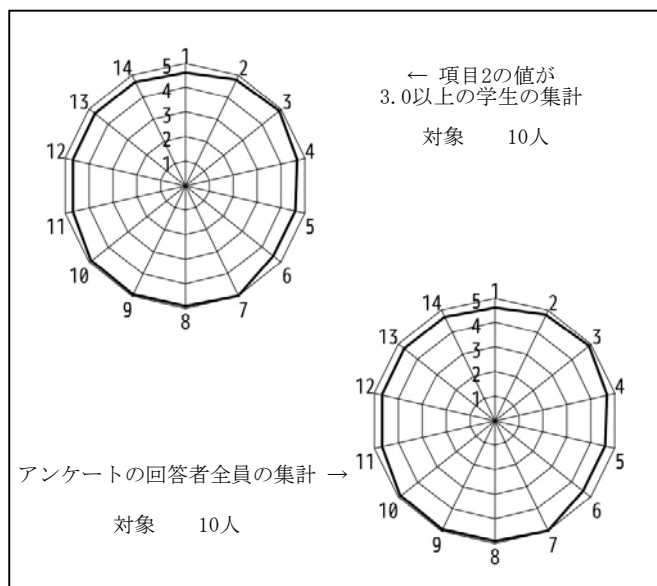


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は留学生を対象とした口頭表現のクラスで、聴解と発表の力をつけることを目的としている。聴解については、1. プレゼンテーションを聞いて1度で内容の重要ポイントを理解する、2. その理解を基に穴埋めの形でハンドアウトを作成する、3. 自身の理解できていなかった部分を確認したうえでもう一度聞き、ハンドアウトに追記するという演習を行った。発表については、1. 一度聞いたプレゼンテーションの重要ポイントを自分の言葉でまとめる、2. 発表の構成と表現を確認した後、自ら発表することを想定して発表原稿を作成し、自身の音声を録音する演習を行った。これらの演習を通して、学部の授業で聞き取れない箇所があっても聞き続け内容を理解する力と、構成を意識したわかりやすい発表をする力を養うことを目標とした。序論、定義、分類、研究目的、様々なデータの説明・解釈、結論や研究成果、今後の課題といった表現や、構成を学ぶ中で、聞いたものをただ真似るのではなく、発表の改善点を話し合うことも行った。毎回多くの課題に苦労したと思うが、ほぼ全員がすべての課題に真摯に取り組んだ。提出されたレポートは様々で、学生の考えた表現をなるべく生かす形でFBを行ったので、1つとして同じFBはなかった。そのためか、自由記述にあったように、正解を望む学生にとっては不安があったのかもしれない。全体的には4.67～5.00の評価になっており、「力がついた」という感想も見られたので、学生自身が成長を感じられたのではないかな。提出課題を見ても、徐々に表現がよくなっていく様子が窺えた。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)1
授業コード 11L15-001
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 11
回答数 10
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

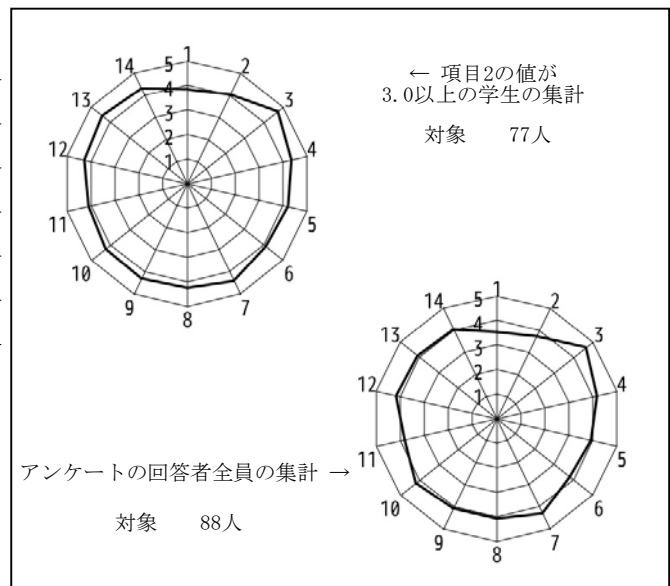
授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。目標である文章力の向上のため、多くの作文課題を課したが、提出率も良く、作文の修正や文法・表現の練習を通して少しずつ力を伸ばした学生が多かった。そうした学生は、これから履修していく授業で提出するであろうレポートを作成するために必要な、基本的な文型・表現を身につけることができおり、授業の目標におおむね到達していると言える。

予習プリント、作文、添削済み作文の修正の3つを家での学習課題として毎回求める授業となっており、自由記述に「授業前、準備しておくことが大変だった」と書かれていることは納得である。そうした課題にまじめに取り組んだ学生は、自分でも日本語力の成長を実感できたと思われる（設問6、13、14）。

授業の進め方については全体および学科の平均値を上回る評価を得られた（設問3、4、7、8、9、11、10、12、14）。自由記述等から、課題の修正に関するフィードバックをより丁寧にするという改善点が見つけられたため、限られた授業時間内に十分な対応ができるよう工夫していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳4
授業コード 10D01-004
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 183
回答数 88
回答率 48.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、授業評価の結果がほどほどに良かった。これは、私が授業中に感じていた感触とも合っていた。学生はまじめに授業を受けてくれて、ほどほどに勉強してくれたと思う。シラバスに記載した到達目標をほどほどに達成できた考える。

学生が自由記述で指摘した個別的な点について対応を考える。

1、「リアクションペーパーの返答時間が長い。」→たしかにこれは長い傾向があって間延びしたかもしれない。とはいえ、リアクションペーパーへの返答から自然に授業に入っていくことも多いので、どこまでがリアクションペーパーへの応答でどこからが授業なのかの境界線がないことも多い。それでもリアクションペーパーへの応答が間延びしたこともあったと思うので、次回からは、もう少し簡潔にする。

2、「スライドがもう少しあったほうがいい。」→これはどこがそうなのか、思い当たらないので、応答のしようがない。

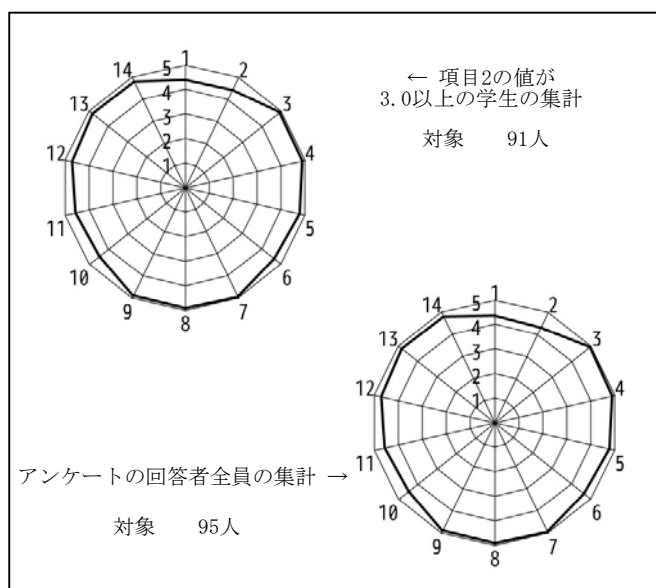
3、「何を言っているのか聞き取れないし、ずっと大きな独り言を聞いている気分だった。もう少し学生に向き合ってほしい。」→大変申し訳なかった。次回以降、もっと学生との対話を心がける。

4、「要約をするレポート課題の資料の量に対し要約する文字数が少なすぎる。」→なるほどと思うので、次回から文字数を増やす。

5、「暑すぎて体調悪くなっている人もいて今の時期は危ないなと思いました。」→同感です。M2の教室は暑くて問題でした。M2教室は使わないようにする。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳4
授業コード	10D06-004
教員名	三谷 竜彦
教員コード	102441
登録人数	187
回答数	95
回答率	50.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



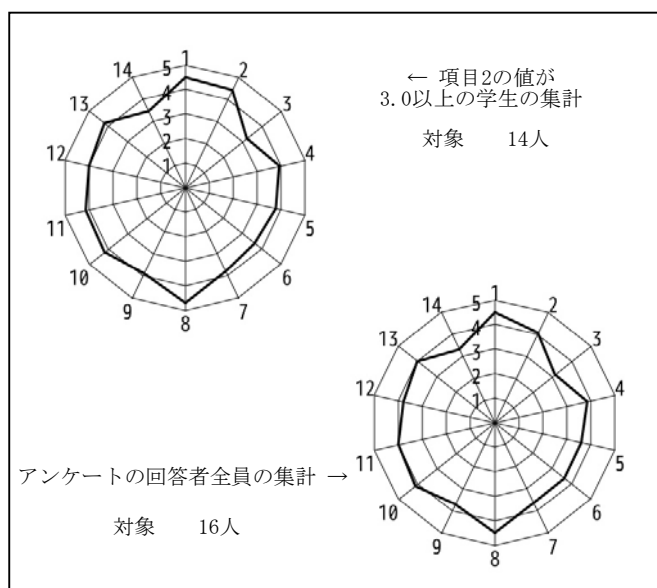
授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は187名で、回答者数は95名（回答率51%）でした。設問3～14の平均値は4.78で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.47）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、いずれも4.80で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.44および4.42）を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していったよいのだろうと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には配布資料・プレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化や、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後ともたえず取り組んでいきたいと思っています。

なお、厳しいご指摘をいただいた、空調に関する問題については、私からも、関連部局に訴えておこうと思っています。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	哲学B2
授業コード	12A02-002
教員名	星 揚一郎
教員コード	100986
登録人数	61
回答数	16
回答率	26.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

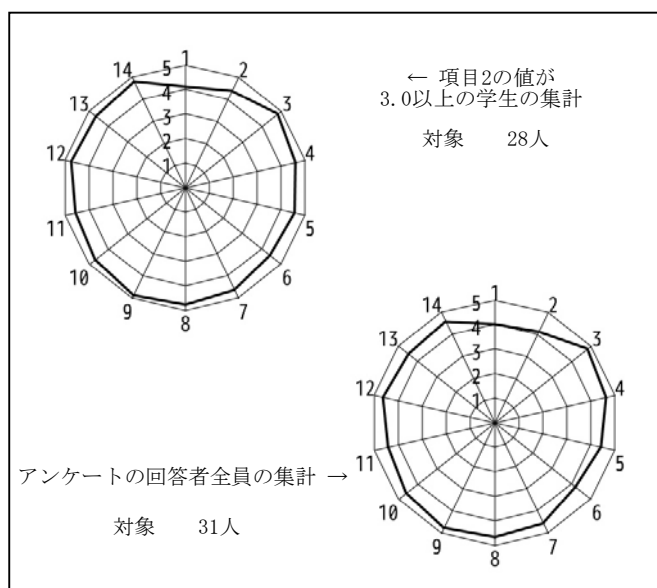


授業評価結果を踏まえた点検・評価

熱心に受講してくださり、ありがとうございました。授業では、シラバス通りに、二十世紀以降の社会哲学の要点を紹介し、それを現代の身近な問題と絡めて学生と議論しました。その結果、「自ら問題を立てて、根拠をもって主張を論述する」というテーマの期末レポートでは、それぞれが、各人の頭を使って自ら哲学することができました。このところ論述のルールを学ぶ機会がないようで、かなり慎重に指導していますが、それでも徹底しませんので、提出後、コメントをつけて再提出してもらい指導しています。集計結果のほかにも、個人的に、「対面で言葉のキャッチボールをする機会は、確実に減っているように感じています。とても貴重な時間を過ごせたと感じています。また【他の科目を】履修したいと考えています」といった感想を複数いただきました。これからも、中学・高校の暗記重視の詰め込み式の勉強とは異なる、真の学びが実践できるように努めてまいります。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 美術B1
授業コード 12A06-001
教員名 井上 瞳
教員コード 104795
登録人数 137
回答数 31
回答率 22.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

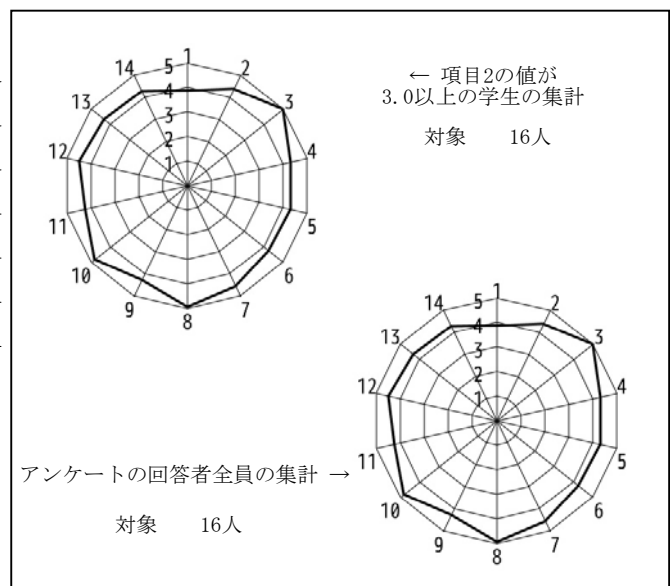


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目は理系の学生も受講するため、高校までに日本史の選択の有無を問わず理解できる内容とするよう努めてきた。そのため、授業の導入は時代の概略からは始めてその時代を大まかにつかみ、徐々に細部へと理解を促す構成とした。
- ②受講当初は興味がある学生ばかりではなかったが、授業後のアンケートでは理解が深まったという回答が増えており、効果のある授業形態とすることができたと思う。授業での定着を図るため、毎回問題を出して授業のポイントを押さえることができるようにしたことが効果的であった。また、パワーポイントの画像だけでなく、配布資料や映像を用いて多角的な理解を促すように努めたことも学生にとっては理解を促す効果的な利用法であったことが分かる。私語に対しては厳密に対処したが、これを評価する学生がいたことは好ましい。
- ③学生の理解度も、取り組みに対する意欲もまちまちであるため、基礎から押さえて発展に導く方法を今後も検討していきたい。今後も私語に対して厳しく対処していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 政治学A2
授業コード 12C04-002
教員名 海川 能理子
教員コード 104654
登録人数 26
回答数 16
回答率 61.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

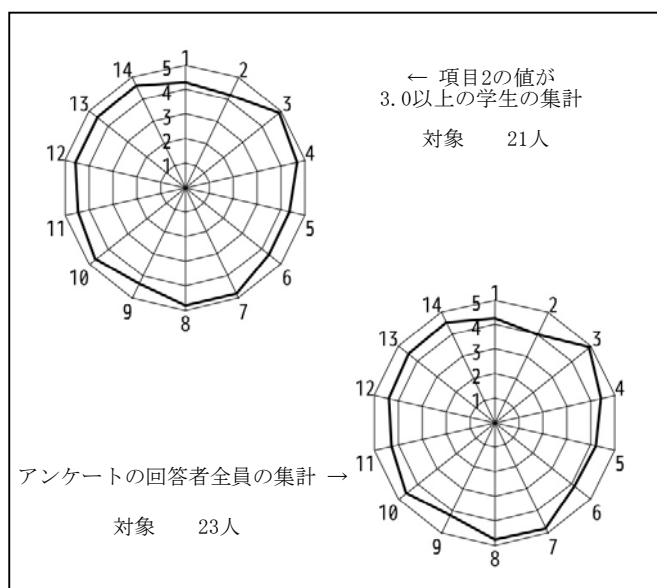


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「政治学の概念、理論を理解し、政治現象を政治学的に理解することができる」という目標に対しては、毎回提出する小レポートと定期試験の結果から、全体的に高いレベルで到達していると評価できる。「現実の政治現象を論理的に考え、自らの言葉で説明できるようになる」という目標に対しては、毎回授業の冒頭で、予習テーマについて自分の考えを全員が述べる時間を設けたが、回数を重ねるごとに知識が定着し、論理的に述べるようになっていくと評価できる。「福祉国家の成立過程を学ぶことで、日本の福祉国家化を説明できるようになる」という目標に対しては、定期試験の結果から、多くの学生が時間を割いて復習し、意見をまとめていたことから高いレベルで到達していると評価できる。「民主政における統治システムの違いを学ぶことで、現代政治の状況や課題を理解する」講義の終盤に集大成としてこのテーマを取り上げたが、予習・復習を通じて政治学の基礎的な力がついてきているため、高いレベルで到達していると評価できる。
- ②毎回の授業では、ほぼすべての学生が真摯に取り組んでいることが感じられ、言葉が届いていると実感した。授業の準備や進行の工夫が理解を促したと自己評価する。
- ③自身の信念から、理解を深化させるために手書きでメモをとったり、ノートに纏めることを推奨しているが、PCを活用することに慣れている学生からの不満もある。多くの学生は「手書き」の効果を実感しているが、今後も説得力をもたせるよう教員としてのスキルを向上させたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	生物学A
授業コード	12D12-001
教員名	石黒 啓司
教員コード	104940
登録人数	31
回答数	23
回答率	74.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



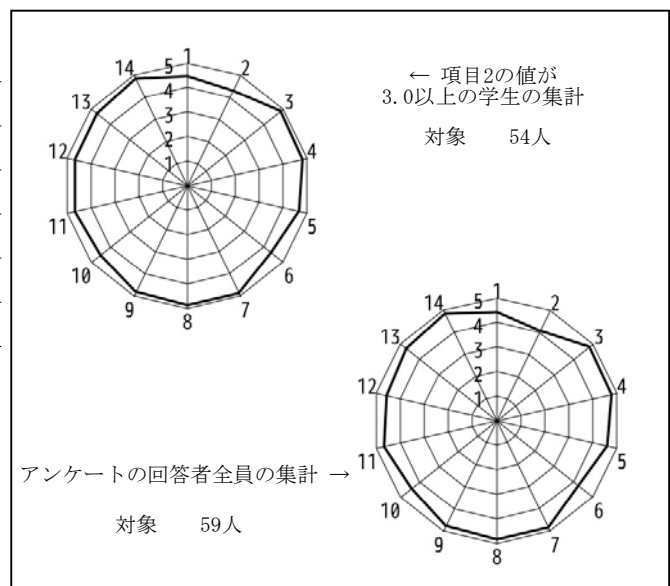
授業評価結果を踏まえた点検・評価

最終講義時間中にアンケートを実施したにも関わらず、登録学生数が31名に対して、有効回答者数は23名であった。設問項目1から14の平均は4.43、設問項目3から14に平均は4.48で、受講前の準備学習の内容を含めると0.05ポイント低かった（設問1と2は、4.13）。

到達目標については、記述式試験において3つの目標（生物の基本構造、人体の構造と疾患、健康）全学生が到達しており、学生の評価（設問5，6）の平均は4.20であった。人体と病気を中心に生物学を展開しているため、難解な言葉が多く出てくることから、文章資料を授業前に配布し、授業中の資料を授業後に配布した。しかし、学生からすべての資料を授業前に配布してほしい希望があったため、今後は使用する授業資料（電子ファイル）を授業前にWebClass上に掲載して、学生の学習意欲を高めることを実施する。学生は、授業中に種々のテーマについて考える時間があつたことが良かったとの意見があることから、今後も「覚える生物学」から「自分の意見がまとめられる生物学」を進めたい。本教科の教員は、学生に対して社会で活用できる生物学を学んでもらいたい希望を持っているので、今後も「使える生物学」を授業の柱として実施したい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	文化の比較1
授業コード	13A01-001
教員名	山田 幸代
教員コード	101367
登録人数	198
回答数	59
回答率	29.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



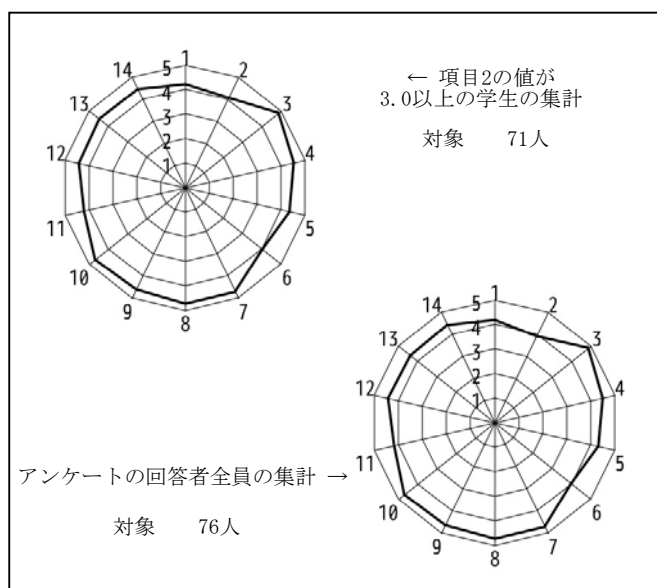
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価を概観すると「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。自由記述欄には「アイルランドはもともと興味のある人は少ないと思うが、興味を持ってもらうために視聴覚教材を用いてくれた」といったコメントが寄せられていた。特に映画を使用することについて「授業を淡々と進めていくだけでなく、途中に授業内容に関わる映画を見る時間が設けられており、縦置き授業という長時間にわたる授業であったが、最後まで集中力が途切れないような工夫がされていた」というように、全体的に好意的な評価が得られた。

今回は200名ほどの階段教室での講義であったが「とても暑くて授業に集中できない」という感想があったので、受講環境への配慮が足らなかったと反省している。今後は空調など、毎回気をつけたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって3
授業コード 13A04-003
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 126
回答数 76
回答率 60.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

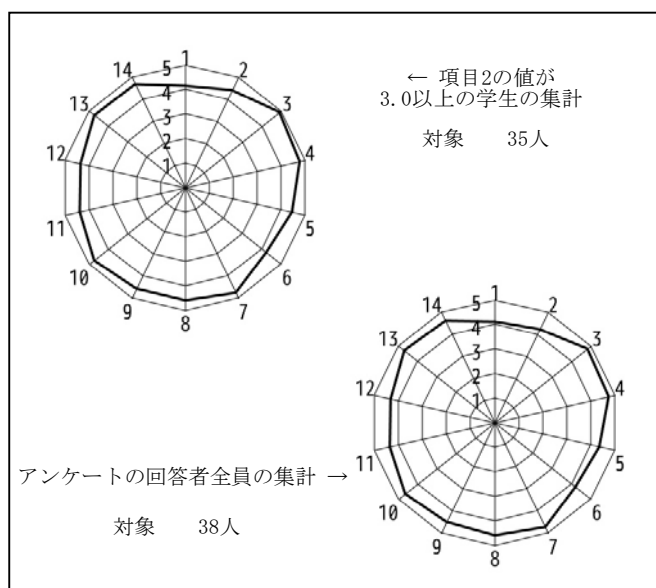


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均が4.43、項目3～14の平均が4.49。昨年度のQ4の時のアンケートよりも数値は上がっているが、まだ4.5には届いていないので、とりわけ設問2や設問6に関する課題（主体的で積極的な授業参加への促し、力がついてきたという自覚の向上）の改善に力を入れたいと思う。自由記述については、レジュメがわかりやすく見やすかったこと、補足説明やCD、DVD、ピアノの使用によって授業内容の理解が進んだこと、授業の最初に前回の出席カードに記された質問への回答があり、前回の授業を思い出すことができたこと、などが挙げられていた。今までどおりのやり方が評価されているようなので、さらにブラッシュアップする形で今後も授業を行いたい。私語などの授業妨害に対する自由記述には、「しっかりと注意していたのがよかった」の一方で、「もっと厳しく対応すべき」「授業に関係のある会話はしても良いことにしてほしい」という声もあり、受け止め方はさまざまである。厳しさの匙加減は難しいが、授業環境を保つためいっそう細やかな目配り、気配りが必要なのだと感じている。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い3
授業コード 13B04-003
教員名 山田 亮子
教員コード 104283
登録人数 97
回答数 38
回答率 39.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

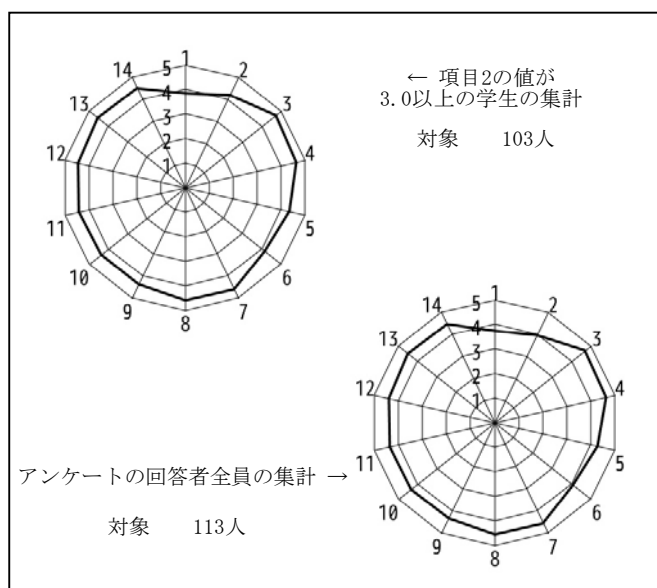


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当授業では、毎回の提出課題、3回実施する小テスト、期末レポートを総合して成績を評価している。小テストで高得点を取る者は、授業内容をよく理解していると考えられる。小テストもレポートも素晴らしい内容というケースもあるが、小テストの結果がレポートの内容に結びつくとは限らない。小テストで高得点を取りながら、レポートでは授業内容を理解していないことが露呈するケースもある。反対に、殆ど理解できていないと思われる程小テストの点数が低いにも拘わらず、素晴らしい内容のレポートを書いているケースが今回は多かった。一面だけ見ていたら、その人の能力は測れないと感じた。よいレポートは1つの流れがあり、読み手を引き付ける力がある。参考資料を写しただけでは、そのような流れは生まれない。小テストの点数が低くても、その人なりの見方や感じ方が直に伝わってくるレポートが多かった。授業内容を深めるために調査をしたり、更に発展させて独自の見方を展開しているものがあり、思いがけない新たな見方に気付かされたりした。授業内容を聴いて、そこからその人なりの見方に発展させていくには、関心の持てる内容を取り入れて、触発できる授業にすることが必要と考える。今後は、より多くの学生が授業を聴いて、更にその先を調べてみたい、という意欲を引き出せる内容にしていきたい。レポートの内容から殆どの受講生がヨーロッパ統合の意味と目的を理解していることが読み取れ、到達目標を達成できたと考える。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 生活環境と物質
授業コード 13D03-001
教員名 片山 詔久
教員コード 104953
登録人数 197
回答数 113
回答率 57.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 「化学物質」を取り扱う必要があるのですが、文系の履修生に対しても興味を持ってもらえるように、配慮した。アンケートの設問1と2（授業参加にあたって…）での評価平均値が4未満（すなわち、3を選択した学生が多かったということ）であることは、想定範囲内であるし、一方で、アンケートの設問13と14（全体的な評価。新たな知見を得た、満足した）で、評価平均値が4.5を超えていることは、この授業を履修するきっかけが必ずしも講義内容への興味ではなく単位取得等の理由があったとしても、結果として学生自身の糧になったものと解釈される。

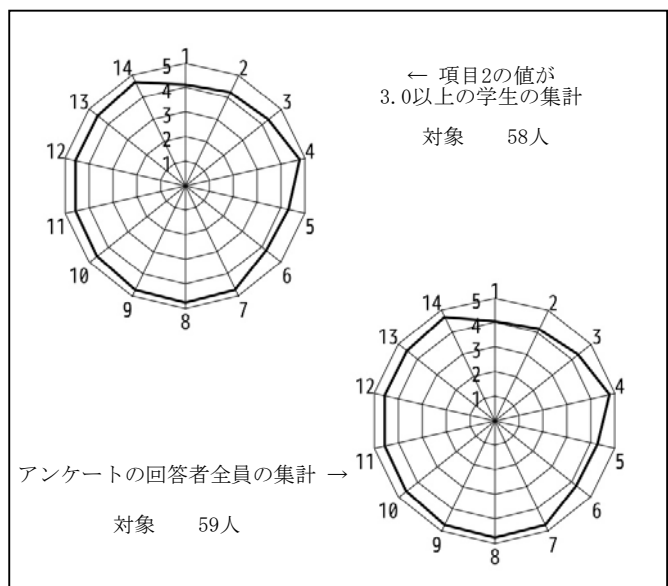
② 自由記述欄に、「理系でなくてもわかりやすい解説だった」「専門的に学んできているわけではない生徒でも興味を持ちやすい内容が多く、化学に抵抗感を持つことなく学ぶことが出来た」「科学的な視点から物事を見る機会の提供」と書かれていたことは、文系理系が混成している教室での講義内容で苦労したが受け入れていただけて良かった。また、一方的な講義にならないように、化学で俳句を作るという課題を取り入れたり、自分で調べて考えることの大切さが、学生さんに伝わったのは良かった。

③ 講義方針に従って、頼りすぎることを避けるために、あえて講義資料を配布しなかったが、要求が高かったので抜粋をサイトに掲載するなどして、さらなる学習のきっかけとして本気で必要としている学生さんには対応したい。

学生同士でのディスカッションの時間をさらに設けて、学生自身の学習意欲を高めるきっかけにしたい。これは、今年度は「俳句」をきっかけにして実施した際に、教員としても感じた点である。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは2
授業コード 13E02-002
教員名 成瀬 翔
教員コード 103262
登録人数 151
回答数 59
回答率 39.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講時のシラバスの【到達目標】には以下の2点を掲載しました。

1. 19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
2. 人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

当初のシラバスの計画通りの授業運営が行えたことから、おおむね目標を達成できたと考えています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

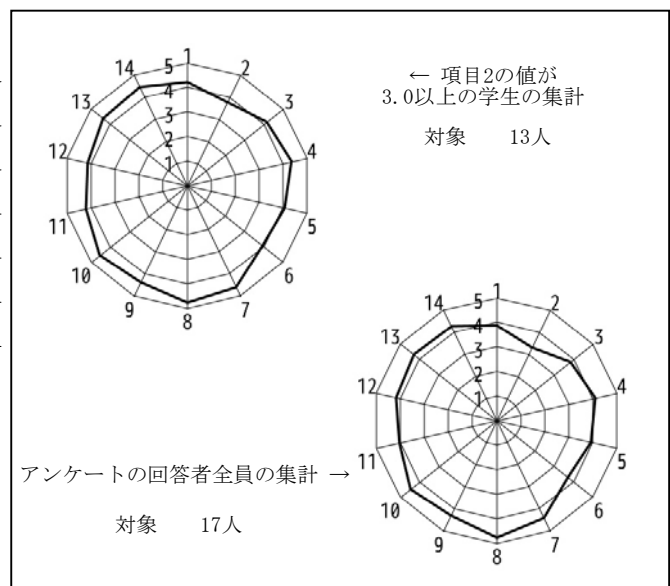
数値データおよび自由記述を踏まえると、おおむね受講者の興味や関心にそった授業運営ができたと考えています。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次学期にむけて、映像資料の導入など学習効果の向上に取り組むとともに、課題に対するフィードバックや個別の対応により力を入れていきたいと考えています。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械4
授業コード 13E04-004
教員名 久保田 進一
教員コード 104075
登録人数 22
回答数 17
回答率 77.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

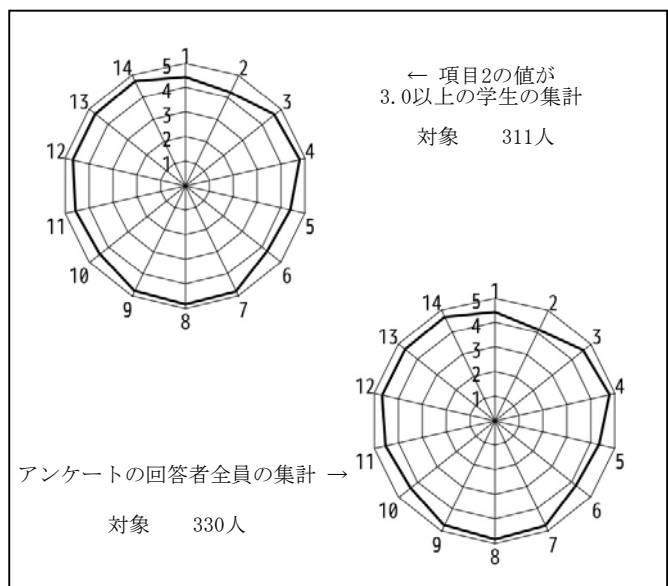


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度については、試験の採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないと思われる。この授業では人間と機械を対比させることによって、「人間とは何か」という問いを深めることを目標としており、その目標は基準としては達成されたと思われる。そして、今後の人間と機械との関係についても考察してもらえたと思う。
- ② 学生のアンケート結果から概ね高評価を得たと思う。いろんな学部の学生が受講していた。学生とのコミュニケーションも概ねできていたと思う。学生との距離も近くてわかりやすかった、と自由回答にも指摘されていた。また、プリントを中心に授業を行ったのが、今後も続けていきたいと思う。
- ③ 今後の授業の改善点としては、映像資料についてもう少し使っていきたいと思う。今回は映像資料を2回ほど使ったが、学生の要望としてはもう少し使って欲しいということがあった。それから、一昨年度から100分授業になったということで、学生もかなりしんどいと感じ、小休憩を入れた方が集中力ができるという意見もあった。そうなると、内容を少し削る必要も出てくるのではないと思うので、学生の様子を見ながら授業を進めていきたいと思う。今後もより一層、学生とのコミュニケーションを通して、授業に全員が参加しているという実感を持てる授業を行なっていきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報社会の構造1
授業コード	13E06-001
教員名	井上 寛雄
教員コード	102683
登録人数	505
回答数	330
回答率	65.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

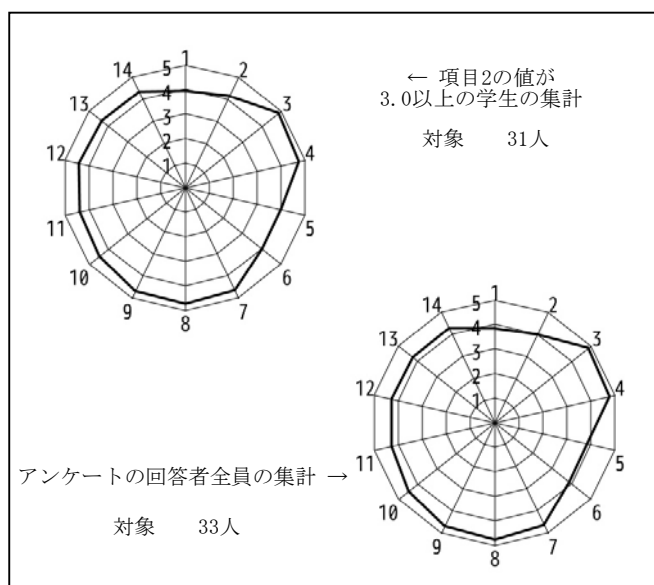


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度は例年よりもさらに学生が多い中、大教室での講義ゆえに学生が気軽に質問が難しい点を、WebClassのチャット機能を利用して質問を募ることで、うまくコミュニケーションを取ることができた。総じて学生からの講義の満足度は高く、内容や進め方についての不満はなかったのであるが、到達目標の達成といった肝心な項目での評価が伸び悩んだ。講義内容が学生の関心を引きやすいものであるため、楽しんで受講してもらえているようであるが、それが学問のレベルに結びつけるという点で不足するところがあった。とりわけ、「映画などの娯楽メディアについても、思索を巡らす習慣を持てるようになる」という到達目標に関して、具体的な指示が足りておらず、結果自らの実践に活かしきれなかったようである。本講義の到達目標を確認し、講義内容が、どのような学際的な意味を持ち、自分の学習分野と関係付けることができるかを積極的に示し、また学生自身でもそのような学習態度を持てるよう、訓練をする場を、レポートを通して設ける工夫をしていく。また、大教室での対面講義ゆえに、学生の私語な受講態度に対し注意が十分ではなかった。学生同士で対話する時間と講義に耳を傾ける時間のメリハリを付け、適切に注意できるようにする。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	科学の諸相2
授業コード	13E08-002
教員名	大野 波矢登
教員コード	100625
登録人数	87
回答数	33
回答率	37.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

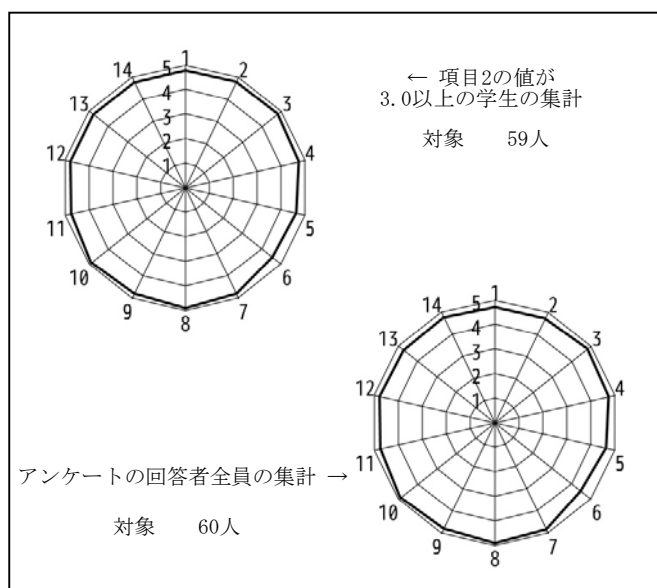


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業の目標は、17世紀の西欧における科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼす影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、2回の小テストおよび定期試験の合計の平均が75.3点であったことから、75%程度であると思われる。
- ②アンケート結果については、項目番号3、4、9以外の設問の値が学際科目の平均値と比較して低く、多くの部分で改善が必要であることが分かる。特に、設問5が3.88、設問6が3.88となっており、授業の到達目標の説明が十分ではなく、また学生の方でも目標を意識した学習や、目標に向けて力がついてきているかを確認しながら学習を進めていくことが十分にはできていなかったといえる。
- ③今後の改善点として、到達目標や受講の意義について丁寧に説明すること、そして、自分の目標達成度を各授業回において点検できる方法を工夫し実施するようにしたいと考えている。また、自由記述回答の中に「この授業の内容的に、期末テストではなくレポートにしたほうが良いと感じた」という意見があった。この点についても、次年度の授業計画を立てるに当たって参考にしたいと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	就業実践研修I2
授業コード	14B06-002
教員名	樋口 貴子
教員コード	101484
登録人数	109
回答数	60
回答率	55.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

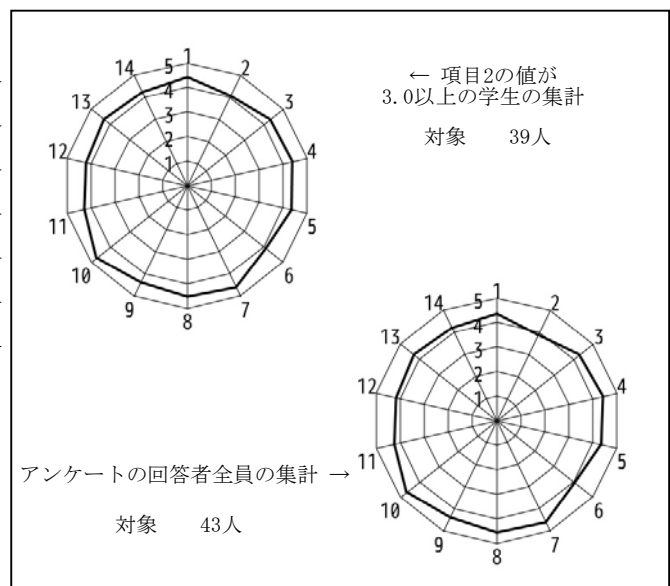


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業の履修者は、授業に対する目的意識ならびに参加意欲が高く、かつ大変熱心であり、授業内課題の取り組みも期待水準を満たす学生が大半で、当初の目標は概ね達成することができました。
- ②毎回、座席がランダムに振り分けられる形式を取り入れ、ペアセッションやグループワークを行います。その際、学生同士でフィードバックや質問を取り入れて展開していきますが、その際、初対面の学生であっても臆することなく、積極的にセッションやグループワークに取り組んでいただけるよう、安心して全員参加できる場づくりに尽力しています。学生同士の尊厳を大切にした関わり方ができる学生たちの協力があってこそ成り立つ授業です。学生一人一人の主体的なキャリア形成をより深めるためにも、お互いのオープンなシェアリング（共有化）が新しい観方を拓げる一助になったと思います。
- ③担当教員とキャリア支援課の情報共有・連携について、欠席者のレジュメを渡すタイミングに関するご意見を自由記述にいただきましたので、今後、担当課と協議していきます。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 博物館学B
授業コード 15M02-001
教員名 成田 朱美
教員コード 104648
登録人数 64
回答数 43
回答率 67.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①実習を交え、その実習で作成した調書と、定期試験を学生の理解度を確認する術とした。

定期試験では、穴埋め問題とレポートを出題していたが、レポートからもっとも理解度の優劣がよくわかった。

これらから、想定していた目標に概ね到達したといえる。

②概ね好意的な評価を得た。

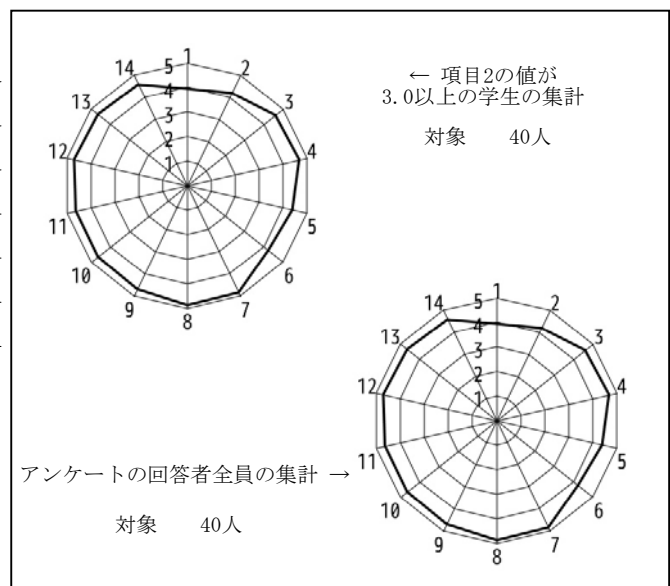
もう少し講義内容に則した雑談（実体験）も交えて説明ができれば、実感として知識を習得することがよりできたのではないかと考える。今期は講義すべき内容に対し、時間がギリギリであり、必要最低限の知識の説明となってしまったと感じている。

求められる改善点は環境や設備上のものが多かったので、初日にのみ「モニターが見えづらい場合、空調の暑い寒いがあればいつでも声かけてください」とアナウンスしたが、初日に来ていない学生もいることから、毎回アナウンスを心掛けるようにしたい。

③現在は一方向的に講義をする形であるが、人数が多いからと模索するのを放棄せず、対話型の授業を試みたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 図書館サービス論
授業コード 15P04-001
教員名 小曾川 真貴
教員コード 104927
登録人数 46
回答数 40
回答率 87.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めての講義のため不安も大きかったのですが、今回のアンケートで他科目の平均に達していたことに胸をなでおろしました。

講義の内容自体は、おおむねシラバスの内容に沿って進めることができたと感じています。

ただし、到達目標については、提出された課題を見ているとうまく講義内容が伝わっていなかったと感じることもあり、次の講義で解説はしたものの、個別のフォローまでは至らない部分があり、それがアンケートの数値に反映されているのではないかと反省しています。

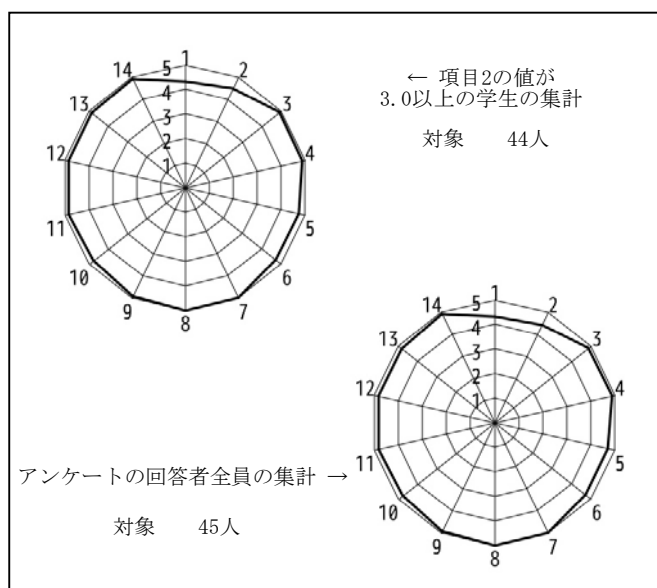
実際に、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の数値が低かったので、次回から課題の設問やフィードバックについて、より明確に理解が進んでいることが客観的に分かるようなものを増やすなど、工夫していきたいと考えています。

次年度はスライドの内容をより伝わりやすく改善するとともに、教室の空調についても意見があったので、環境にもより気を配っていきたいです。

なお、教室がやや狭く感じられるという意見もありましたので、こちらについては教育企画・研究推進課の方へ連絡いたしました。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	児童サービス論
授業コード	15P09-001
教員名	青木 文美
教員コード	104273
登録人数	63
回答数	45
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

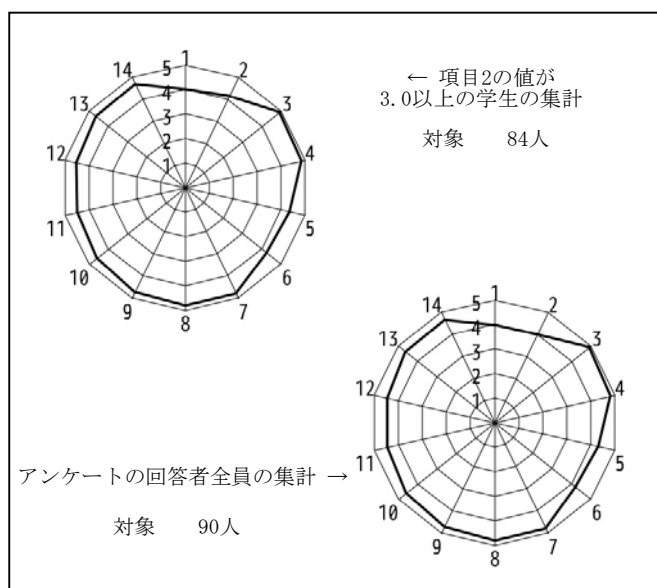


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は4点あり、乳幼児期から18歳までの発達と読書の役割を理解した上で、具体的な児童サービスの方法と選書力の育成を目指した授業を構成しました。今期は、実践的な演習を取り入れたため、より具体的な考察とともに目標に到達できたと推測しています。目標の到達度は、「この授業の到達目標を理解することが出来ましたか」で5及び4を選択した学生が100%で、自由記述を確認しても、「きちんと生徒のことを見てどんな点が良かったかということや改善点などが具体的に述べられていた点」、「実習を通して、児童サービスについて考えることができた」など、学生自身が非常に前向きに活動に取り組み、意欲的に学ぶ姿勢で参加し、授業で解説した内容以上に多くのことを学び取ってくれたと考えています。ただ、演習のため、準備した内容の発表当日に体調不良で欠席する学生もあり、当日出席した学生から「実際の発表時には参加していないのに、演習に参加したと評価されるのはなんだかモヤモヤしたのを感じ」たとの意見もありました。評価については、欠席者は当日点の減点対象となっています。また、「課題の提示から提出までの時間」が短いと感じた学生もいたようです。今期は、2週間前からアナウンスするようにはしていましたが、うまく意図が伝わらなかったと考えられるため、今後は伝え方を工夫しようと思います。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	典礼音楽II
授業コード	21C81-001
教員名	吉田 文
教員コード	102447
登録人数	140
回答数	90
回答率	64.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 個人差はあるが、リアクションペーパーの記述と期末レポートからは、意欲的に授業に臨んでいた学生に関しては目標に多いに到達できたと考える。多声音楽の成立を、作品の成立背景や歴史的背景、思想、同時代の建築・美術等との関連性を説明することにより、典礼音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考える。
- ② かなり専門性の高い内容をいかに学生に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。
一般教養科目であり、多くの学生が受講していることから、全ての学生が興味を持った上で受講することは前提とできない環境で、予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが自由記述等からも読み取れた。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生の評価では5、6の設問で比較的低い値が出ているが、振り返り用紙や期末レポートの答案を参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。また、基本的に授業に参加する意欲のない学生から学修意欲を引き出すこと、そして講義中に学生が集中して参加できる様、授業運営に関して改善していきたい。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語II<全・T>
授業コード	11G02-007
教員名	李 芝賢
教員コード	104621
登録人数	32
回答数	3
回答率	9.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

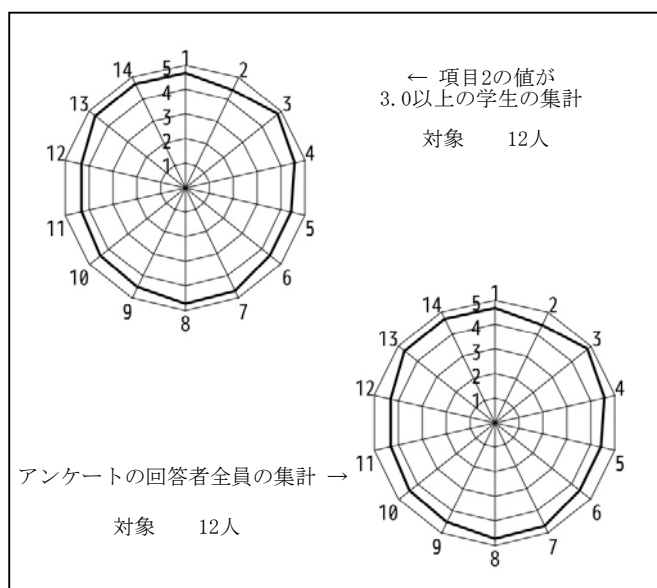
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では文字習得以降の基礎的な文法及び会話の習得が達成できることを目標としたが、達成度に個人差はあるが概ね7割ほどの受講者が最低限の達成目標をクリアできたと判断している。ただ最低限の自己学習をこなしていない層は目標到達ができていなかった。すべての科目がそうであると思うが、韓国語もまた授業時間外の学習が必要であることを覚えていただきたい。今年度は例年同様、授業評価アンケート実施期間中、時間的余裕がある回の最後に差し掛かったところでアンケート対象科目であることを周知させ、回答してから帰宅するよう指示したが、回答率が非常に低かった。何か指示方法に不備があったかもしれないので改善したい。本授業は(一年生対象の同科目と比べ)受講生に例年比較的多様性がみられ、再履修の4年生から趣味で独学を続け、ほとんどの受講者より一回りも二回りも高いレベルに達している受講者もいた。シラバスは韓国語教育のための既定のものであり、受講者も了解した上で参加しているわけではあるが、シラバスに充実である範囲で、様々な需要を最大限満たすやり方を工夫し続けたいと思う。

2024年度Q2 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語II<E・B>2
授業コード 11G02-008
教員名 白 明学
教員コード 103287
登録人数 34
回答数 12
回答率 35.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

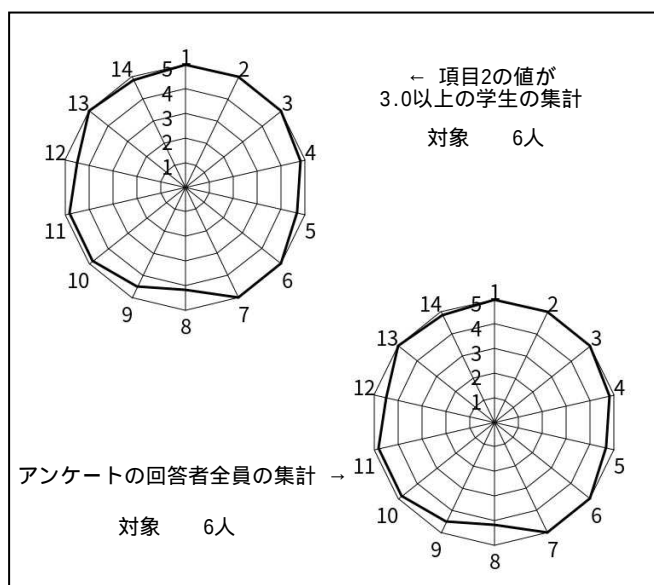
2024年度Q2の授業目標はおおむね達成できたと言える。最初の授業の時にQ2授業の目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、韓国語の文字と発音を習得し、自己紹介や簡単な挨拶表現の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.55で、最低限の満足度は得られていると言える。

第1クォーターは、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないかと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「わかりやすくて楽しい、間違っていたら正しいことを教えてくれた」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。

ただし、受講生の中には中・高校の時から独学で勉強しているという学生が近年増えてきており、そういう学生のための授業スタイルの工夫をしていかなければならない。来期の課題である。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIIB2
授業コード	32A13-002
教員名	VILLALOBOS Antelma
教員コード	101011
登録人数	26
回答数	6
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a good evaluation from the students and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the

fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語III <全>1
授業コード	11F03-027
教員名	李 香善
教員コード	103871
登録人数	38
回答数	3
回答率	7.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

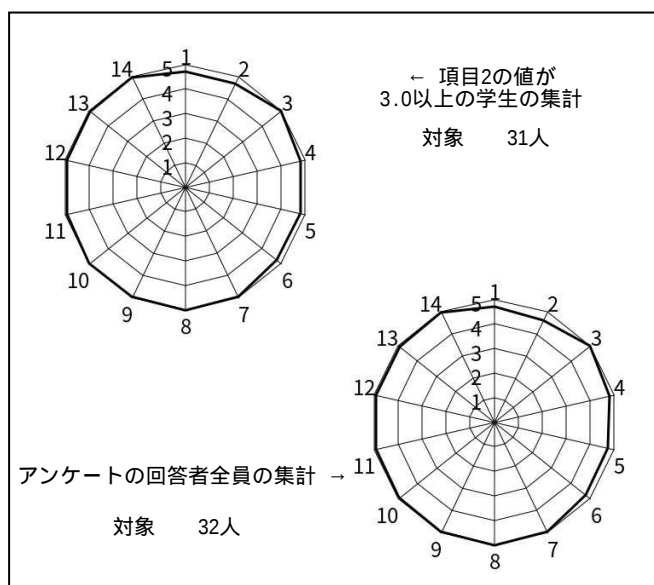
授業評価結果を踏まえた点検・評価

5限目の授業であり、再履修生の多いクラスなので、学生がいかに中国語に興味を落とさず、単位取得だけでなく、中国語の学習を楽しむ心持ちで授業に臨みめるよう、担当教員として工夫をしています。各課の発音チェックを必ず全員に行い、文法習得の確認として日本語の短文を中国語に訳す練習を行いながら口頭で発表してもらったりします。ほとんどの学生が正確に発音できるようになっています。

よりピンイン知識をしっかりと定着させるため、習得した文法項目を確認するため、今までの通り毎回プリントを用意し、ピンイン、単語、文法応用の練習をし続けたいと思います。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語III <G>
授業コード	11F03-031
教員名	中野 麻里子
教員コード	102125
登録人数	43
回答数	32
回答率	74.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

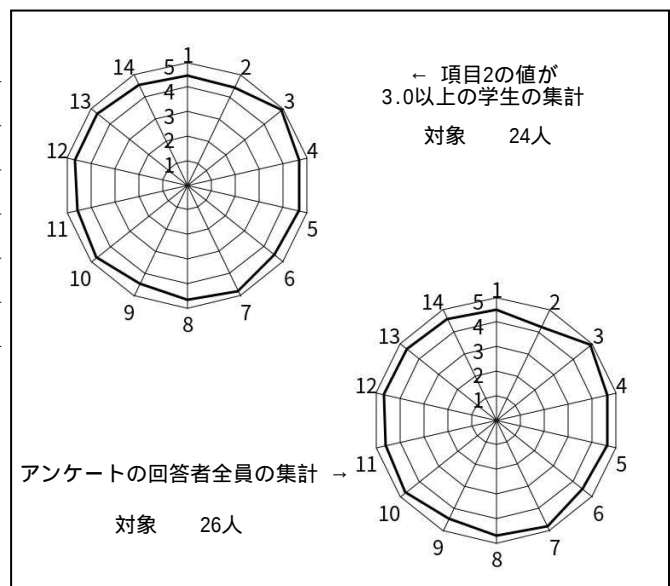


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、おおむね達成できたが、途中インフルエンザ等の流行により欠席者が増えた週は進度を遅らせる、復習を多めにするなどの処置をしており、そのためにシラバスの予定学習進度より若干遅れてしまった。ただ、学生たちは非常にまじめに取り組んでくれており、中国語の発音・文法的の基礎は身についており、どう学んだらいいのか、どう復習したらいいのか、どう予習したらいいのかなどは第3クオーターまで来て、どの学生もわかっていると思う。そのため学習内容の遅れを各自でいつでも取り戻せるような基礎は身に着けられた。授業の進め方などは学生たちにもおおむね満足してもらえるものだったようだ。が、それもやはり学生たちの努力あってのこと。小テストをこまめにしたり、宿題・課題を出したり、ひとりずつ単語・文を発音してもらったり、かなり大変な授業内容だったにも関わらず毎回多くの学生が投げ出さずに努力していた。その努力に応えるように進めた授業なので、学生たち自身がいい授業を作り上げてくれたと言える。これからも学生たちの様子・意見・雰囲気などをしっかりと受け止めつつ授業を進めて行きたい。授業の進度についていけなかった学生も何人かいる。今回のアンケート結果には出ていないようだが、中には授業が分からなくてつらかった学生もいると思う。40人を超えるクラスで全員に配慮するのはなかなか難しいが、出来るだけ細かいところまで配慮できるよう心掛けたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力1
授業コード	35A02-001
教員名	虞 萍
教員コード	101432
登録人数	27
回答数	26
回答率	96.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

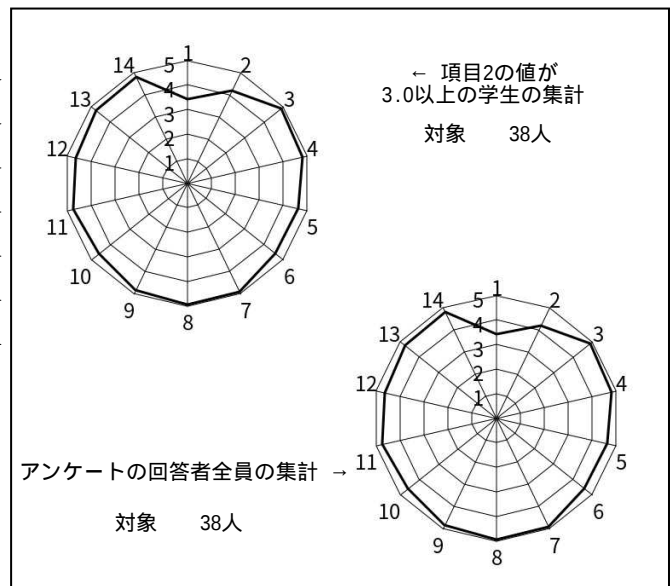
開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと言えよう。学生から高い評価を得ています。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、学生から「たくさんの例文を自分で考えて作ることによって理解が深まった。」「積極的に発音する機会があった。」「生徒側の主体性が確保されていた。」「一対一の会話練習があった。」「ポイントなどをホワイトボードで説明してくれたり、中国語を発音させてアウトプットをしてくれたりなど、理解ができたその理解が深まった。」「先生が細かく分かりやすく文法や構文を教えてくれたのでとても良い勉強になった。」「文法の説明がわかりやすかった。」「教科書に書いてある構文についてしっかりと説明してくれる。また、連想できる単語などに触れてくれるため、単語量が増えた。」「（説明が）分かりやすかった」「応用問題をたくさん出してくださるので、語彙や文章力がついたと思います」など多くのコメントをいただきました。普段から真剣に授業に取り組む姿勢の誠実さは学生に感じていただきました。

E24教室を使用した但、一部の学生より、「授業で使う際の机が小さく、教科書やノートが乗り切らない点はとても不便だと感じた」という意見がありました。

今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を模索したいと考えています。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[H・F]5
授業コード	10A51-006
教員名	暮林 響
教員コード	102624
登録人数	100
回答数	38
回答率	38.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

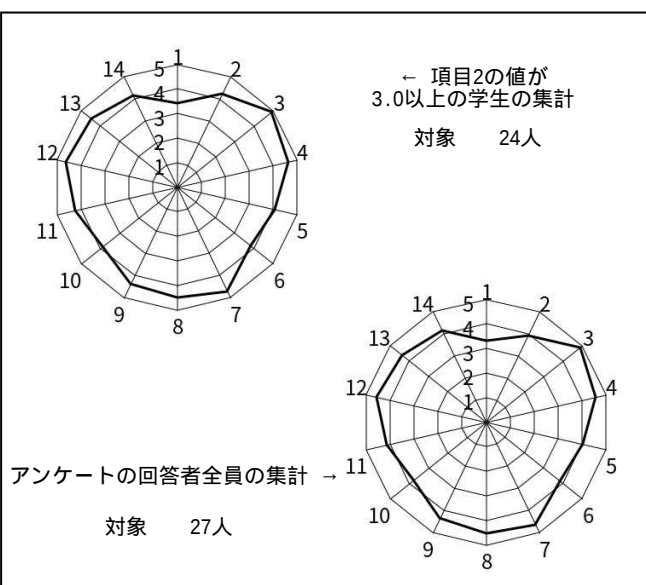
キリスト教概論として設定した目標に対し、最終講義まで、準備したレジメはまんべんなく、特にこれと言った過不足なく抗議することができたと思う。

たいへん高評価をしていただいて、恐縮である。これまで積み上げてきた講義内容に一応目は遠し、最小限のアップデートはしているものの、ほとんど手を加えていないため、こちらとしては申し訳ないが、好んで講義に臨んでいただけたようで満足である。

に関しては、次はないので、遠慮させていただきます。ただ、文字数がこのままでは400に届かないため、一言コメントさせていただくとすれば、大人数の授業ではリアクションペーパーでのやり取りだけがまともな血の通ったやり取りだったので、是非とも、教授たちが教育者である以上、どんなに忙しくても、20歳の多感な青年たちには、考えを拾って、しっかりコメント返しをしてあげることは大切だと思いました。特にこうした魂に触れる内容を扱っているため、丁寧な対応は必須だということを他の先生方とも共有したいと思います。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[P]3
授業コード	10A51-016
教員名	KONDI, Nikolaus
教員コード	104807
登録人数	132
回答数	27
回答率	20.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の内容を理解するために、学生たちにはレアクション・ペーパーと最終レポートを書いてもらいました。これらを通じて、彼らは基本的にキリスト教の知識を深めることができましたと思います。さらに、書いてもらったレアクション・ペーパーと最終レポートを通じて、学生たちの今後の人生に良い影響を与えることを信じています。

この授業を担当させていただいて、本当に良かったと思います。特に、それぞれのテーマが日常生活にどのように関連のかを教えることができました。また、毎回の授業でパワーポイントを使用したことも良かったと思います。さらに、授業中にビデオを見せることで、学生たちが授業をより深く理解できたと思います。

次回の授業に向けて、さまざまな動画を工夫して学生たちに見せることができれば良いと考えています。

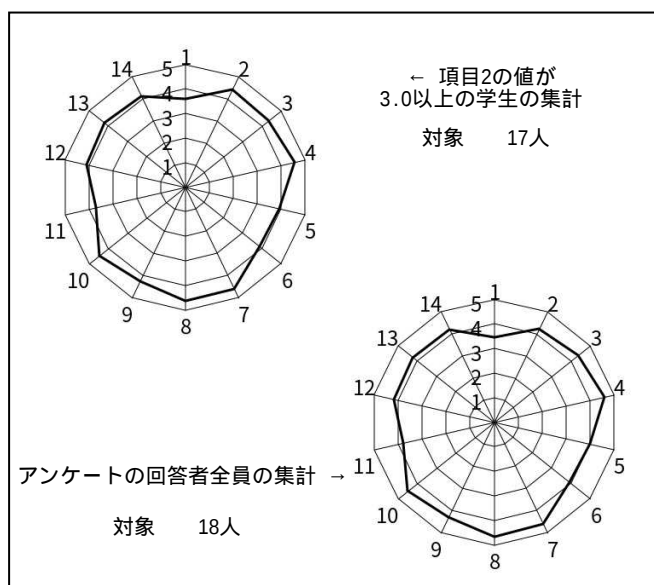
「しかし、授業中に数人の学生が話す態度は、他の学生にとって迷惑になることがあります。

この点については、しっかりと注意をする必要があると思います。また、授業に遅刻する学生もいたため、その点についてももっと注意すべきだと感じています」

以上の点を踏まえて、今後の授業をより良いものにしていきたいと思っています。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教に見る人間の尊厳3
授業コード	10D01-003
教員名	長澤 壮平
教員コード	102718
登録人数	64
回答数	18
回答率	28.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

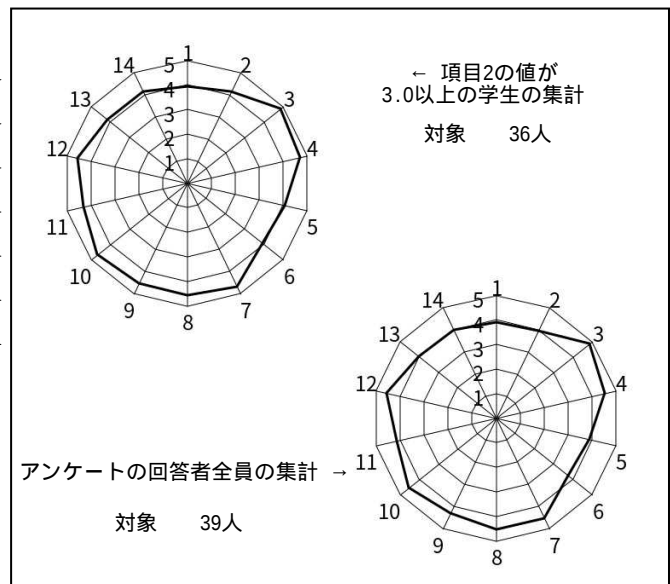


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体として、授業に対する満足度は高く、目標達成度も高かったように思われる。しかし、数値データから、まず事前事後学習への指示への不十分さが読み取れた。授業の中で講義に関わる参考文献を頻繁に紹介してきたつもりではあるが、これだけでは足りないように思われるため、今後は事前事後学習の具体的方法などを検討し、これを授業にとりいれるよう、検討してみたい。また、相互のやりとりにも若干の不満があるように感じられた。コメントペーパーに対してリプライするなどの工夫をこれまで以上に増やしてきたつもりだが、この方法だけでは足りないように思われた。今後は、質問を受ける機会を増やしたり、質問の受け取り方法を拡充するなどの工夫を加えるなどして、インタラクティブな側面を強化していきたい。また、本講義は理論的側面が強いため、学生の理解度にかなりばらつきがあるように思われ、これが数値データにも反映されているように思われた。こうした難解な特徴をなるべく緩和するよう、今後はさらにわかりやすい授業を心掛けたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	思想史に学ぶ人間の尊厳1
授業コード	10D03-001
教員名	浦 英雄
教員コード	101166
登録人数	86
回答数	39
回答率	45.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

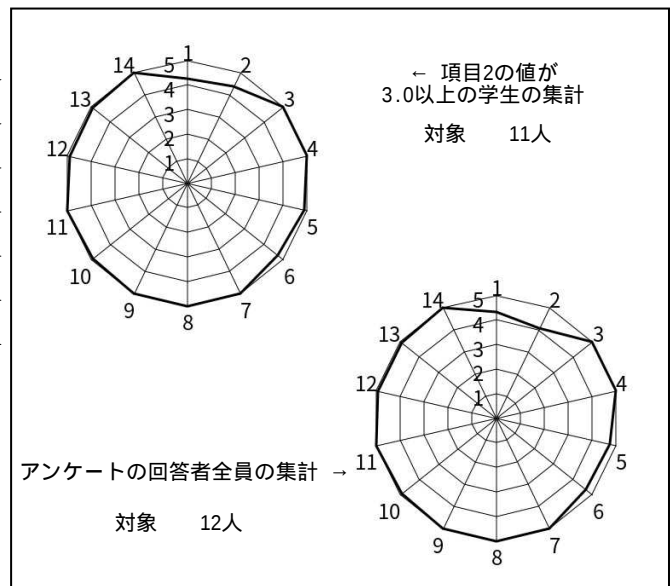


授業評価結果を踏まえた点検・評価

論理的に考えることが出来るようになるためには、紹介した無数の本を一冊でも多く読むしかないが、講義中にこちらがいくら促しても、実際に学生が本を手にしなければ、永遠に力は身に付かない。「反ワクチン、近藤誠医師への崇拜がすごくて毎回言及していた」と言うが、ひたすら真実を伝え続けた近藤氏を紹介し、リアクションペーパーの質問に答えた回以外は、話題にしたことはない。「教員の思想がかなり偏っていて、授業として行っていいものか分らなかった」そうだ。メディアやネットの情報とは異なる真実を語れば、耳障りに聞こえるだろう。逆に学生の方こそ、あり触れたゴミのような情報側に偏っているのではないのか。「かなり古い情報」なのは、問題が未だに改善されていないからだ。「根拠があいまいな情報」は、紹介した文献を読めば根拠が分かるはず。「考え方が偏っており、あまり勉強になった印象がない」のは、聞く側が頑迷に自身の考え方にしがみついているからで、勉強の意味を知らず、勉強したくないのだろう。哲学とは考えが偏っているものだ。私はソクラテスのような真の哲学者として、いわゆる常識とは異なる耳障りな話を、論理的に語り続ける態度を、今後も変えるつもりはない。演習ではないから、「出席で評価」などしないし、そもそも出席して当然なのではないのか。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳5
授業コード	10D06-005
教員名	三谷 竜彦
教員コード	102441
登録人数	26
回答数	12
回答率	46.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

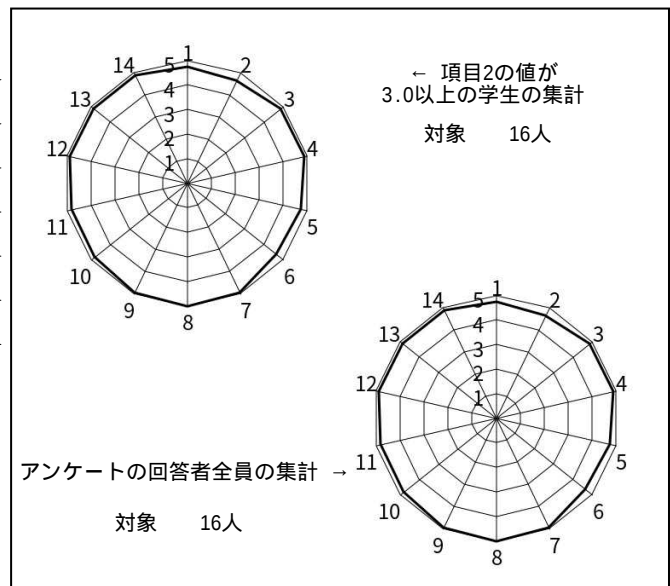


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生数は26名で、回答者数は12名（回答率46%）でした。設問3～14の平均値は4.93で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.63）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「...新しい知識...」）および設問14（「全体として...」）の数字は、いずれも4.92および5.00で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.49および4.44）を上回りました（受講生数・回答者数の少なさも、影響あると思いますが）。これらのことから、開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって 今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだと思っています（南山大学における私の授業は、今年度が最後となりますが）。体調不良に悩まされながらの授業で、ひどい授業だったと思いますが、学生の皆さんには温かい授業評価をしていただいたようで、誠にありがとうございます。今年度を持って退任させていただくこととなりましたが、南山大学の学生さんは、やはり総じて学力が高く、教師としてもとてもやりがいを持って、ある意味楽しみながら、授業をさせていただきました。私自身もとても成長できたと思います。感謝しかありません。ありがとうございました。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文学A1
授業コード	12A03-001
教員名	市川 遥
教員コード	104794
登録人数	31
回答数	16
回答率	51.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

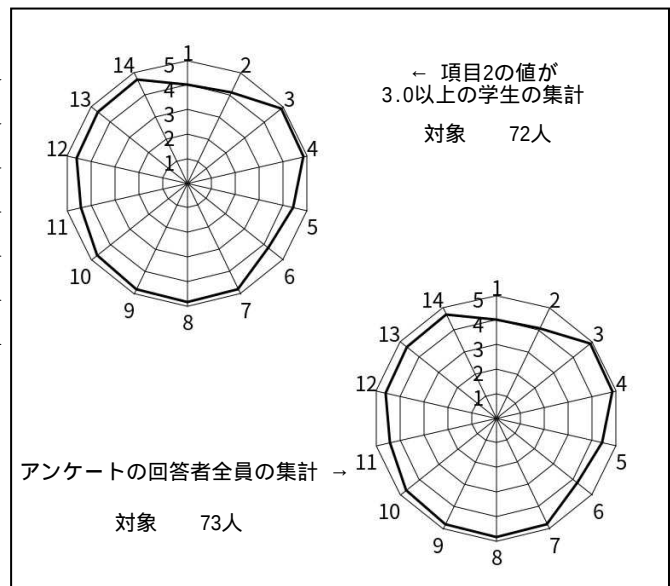
開講当初に設定していた目標については、最後まで講義に出席した学生については、おおむね達成できたと思われる。文学を専門としていない学生も多く受講していたが、リアクションペーパーを見る限り、文学と日本社会との関わりについて次第に考えを深めていく様子が観察できた。

数値データを見る限り、授業の構成や内容について問題はなかったように思われる。自由記述からは授業中の学生相互のグループディスカッションに対する関心・満足度の高さがうかがえるため、学生の能動的な学びへの参加・アクティブラーニング的観点からも、実施をしてよかったと感じている。

次回以降も学生にとって充実した授業になるよう心がけたい。先述の通り、受講者には各自の専門によって事前の知識に差がある。初めて文学に触れる学生のために、基本的な用語から丁寧に解説することはもちろん、一方で、発展的な学習がしたい学生のために資料に読書案内を掲載するなど、より広く対応できるように考えていきたい。主な改善点としては、ディスカッションするグループのメンバーが固定化する傾向にあったため、うまくシャッフルできるように工夫したい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽A2
授業コード	12A07-002
教員名	吉田 文
教員コード	102447
登録人数	111
回答数	73
回答率	65.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

個人差はあるが、リアクションペーパーの記述と期末レポートからは、意欲的に授業に臨んでいた学生に関しては目標に多いに到達できたと考える。ミサ曲をただ紹介するだけではなく、作品の成立背景や歴史的背景、同時代の建築・美術等との関連性を説明することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。芸術作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと考える。

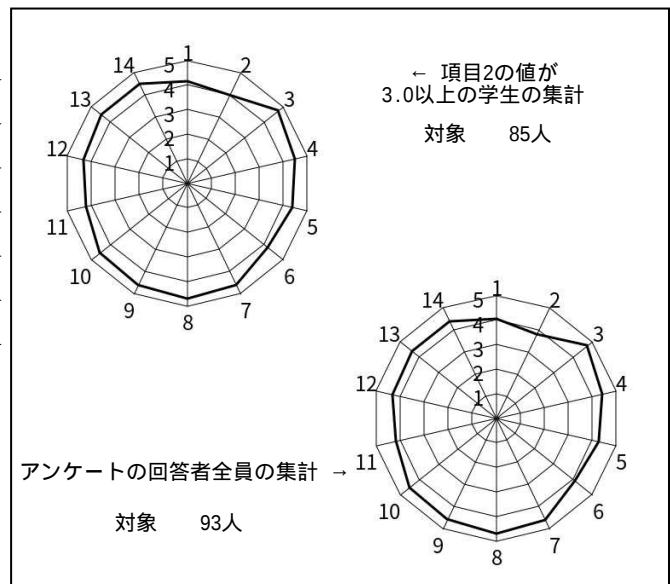
かなり専門性の高い内容をいかに学生に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。

一般教養科目であり、多くの学生が受講していることから、全ての学生が興味を持った上で受講することは前提とできない環境で、予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが自由記述等からも読み取れた。

学生の評価では5、6の設問で比較的低い値が出ているが、振り返り用紙や期末テストの答案を参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。また、基本的に授業に参加する意欲のない学生から学習意欲を引き出すこと、そして遅刻・早退者のより詳細な把握など授業運営に関して改善していきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	音楽B2
授業コード	12A08-002
教員名	小沢 優子
教員コード	101168
登録人数	126
回答数	93
回答率	73.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

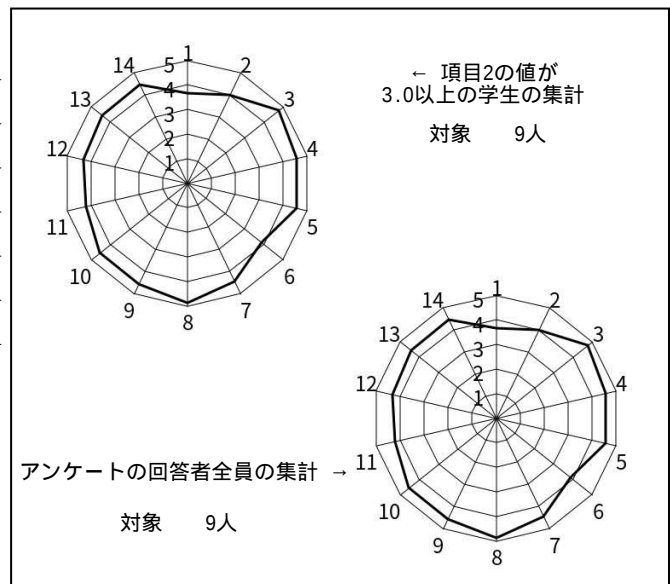


授業評価結果を踏まえた点検・評価

西洋の芸術音楽を3つの視点から論じるという授業である。一般的にはクラシック音楽と言われる音楽が対象なので、学生の音楽学習歴の違いによって授業の理解度がかなり異なるのではないかという心配が以前からあったが、今回のアンケートでは「音楽の基礎知識がなくても理解できるように説明してくれた」「音楽初心者に対しても丁寧に解説してくれた」「音楽が好きな人もそうでない人も受けやすい授業だった」という自由記述があり、音楽の専門的な知識や音楽体験のない学生にとっても等しく内容が伝わる授業だったのではないかと安堵している。自由記述ではこの他、授業の良かった点として、教材がわかりやすかったこと、CDやピアノによる実演によって音楽が身近に感じられたことなどが挙げられ、基本的には今までどおりのやり方で良いのだろうと思っている。アンケートの設問については、設問3～14の平均値と、設問13、設問14の値がこれまでのアンケートよりも少し低くなっているのが気にかかるが、課題としていた授業の到達目標に関する設問5、設問6の数値は少し上がっている所以多少は改善されていることがうかがえる。来年度は授業の満足度をより高めるためにどうすればよいのか、改めて考えていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史B1
授業コード	12B04-001
教員名	関口 哲矢
教員コード	103639
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義で受講生に身につけてもらうべき学習目標はつぎの通りである。

- ・史料をもとに、基本的な史実を理解することができるようになる。
- ・歴史的な事柄を、文章だけではなく図や表なども使用して自分の言葉で説明できるようになる。
- ・複数の歴史的な事柄を相互に関連づけて考えることができるようになる。
- ・歴史的な事柄を現代の問題として考えることができるようになる。

コメントにあるように、多種の資料を準備し、質問には丁寧に応じ、課題をコンスタントに行うことで、最後まで講義の質を保つ工夫がはかられた。

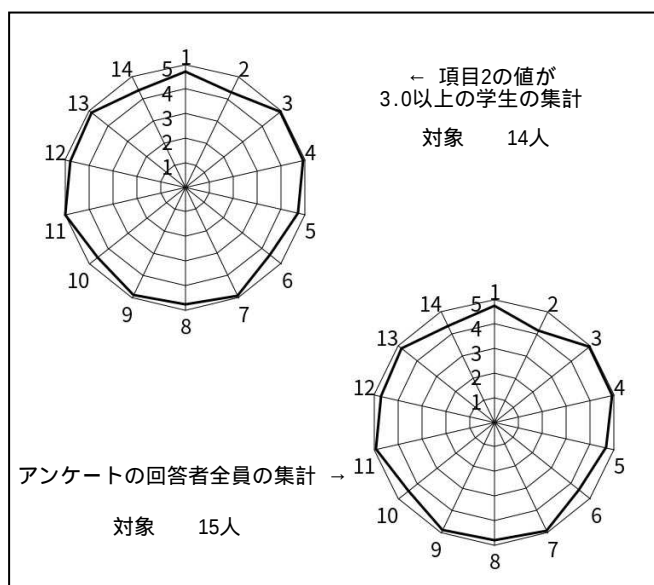
質問は原則、自主的な挙手制としている。予復習を行っているという前提であり、その過程で基礎的な知識を身につけていると考えるからである。自身の考えを問うものは、多面的な考えを受講生同士で共有するのが目的ゆえ、強制力を伴わないかたちで応じてほしい。

全チームに話しあいの結果を問わないのは不平等とのコメントがあった。教員は話しあいの様子をつぶさに観察している。活発なチームもあれば、すぐに話しあいを止めてしまうチームもある。話しあいを深めるのは学生の意識如何であるため、教員は声かけはするが強制はしない。ただしチームの結果紹介は、活発に話しあいが展開され、他チームに刺激となるであろうチームを選定している。あるいは、話しあいの結果を集約する必要があるであろうチームを選定する場合もある。単に時間的な都合で全チームに聞かないわけではないため、これは不平等な対応とはいえない。

大学の講義は探求型であると考え。この方向性は今後も踏まえていく。学生には、綿密に準備し、積極的に質問し、自身の興味を開拓していけるよう、積極的な受講を期待したい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学A1
授業コード	12C01-001
教員名	長尾 良子
教員コード	102081
登録人数	21
回答数	15
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

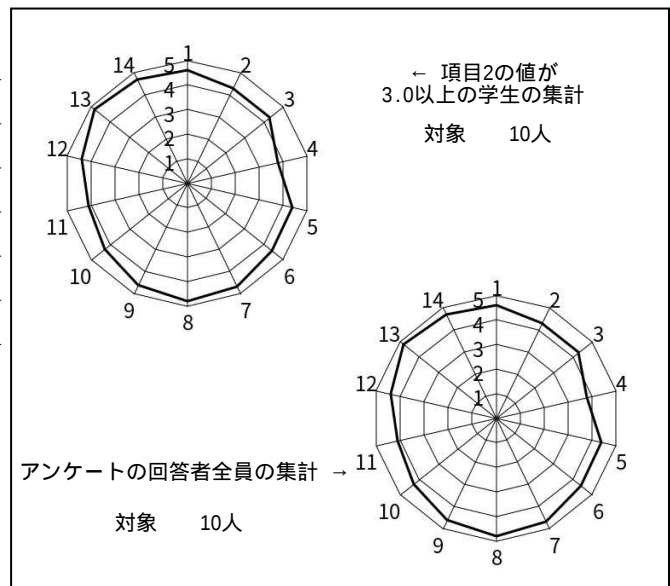
2024年度のQ3の「法学」は、共通教育科目で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われます。

授業評価の設問項目2、6、10、14の平均は各種集計値の平均をやや下まわりましたが、それ以外の設問項目の平均はおおむね集計値を上まわりました。設問項目15の自由記述回答では、良かった点として、法廷教室での模擬裁判員裁判(4名)、予復習が行いやすい(1名)、質問への丁寧な回答(1名)、平易な言葉での解説(1名)などの回答がありました。他方設問項目16の改善点としては、特になし(3名)、グループ・ディスカッションの時間の延長(1名)他との指摘がありました。

次年度は、到達目標、課題内容の明示やパワーポイントのスライドの表記、学生の理解度への配慮、音声、学習環境へのへの対処など改善できる点については改善していきたいと思います。今後も学生の様々なニーズ・要望を前提に、「法学」の授業全体の満足度と理解度を高める工夫と努力を、一つ一つの改善を重ねて続けていきたいと考えます。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学B1
授業コード	12C05-001
教員名	大園 誠
教員コード	102910
登録人数	26
回答数	10
回答率	38.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

：本講義のテーマは「戦後日本政治史」。敗戦後から現在までが対象のため、毎年確実に1年ずつ内容が増えていくので、数年前から全過程を扱うべきか悩んでいる。今回も現在まで取り上げたが、特に2000年代以降については、身近な過去ではあるが、歴史的評価がまだ定まっていない、巨視的に眺めることが困難、などの理由で取り上げ方について苦慮するのは、例年と同様であった。

：全項目の平均値は4.44であり、昨年度よりも低い。全項目のうち項目4のみが3.80（唯一4.0以下の数値）を示しており、それがひとつの要因ではないか。自由記述では、「この授業で良かった点、評価できること」は以下の6点。政治学を面白く、分かりやすく解説されており、とても良い授業だと感じた／単なる歴史の授業ではなく、裏話的なものもあって講義に引き込まれた／ドキュメンタリービデオを授業の最後に視聴することで、授業で学んだ知識の補強ができた／質問に対する返答時間がじっくり取られていた点／話が詳しく面白かった点／説明がとてもわかりやすかったところ。一方、「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったこと」は以下の3点。授業の進行が遅い／授業の終了時間があまり守られていないと感じたので、改善すべきだと感じた／ペース配分をしっかりと欲しい。聞きたい授業回が駆け足で少し寂しかった。総括すれば、授業内容については、面白さ、分かりやすさ、引き込まれる魅力、質問への丁寧な応答、視聴覚教材の活用、について好評価が得られた一方で、授業進度、終了時間、ペース配分、については改善する必要があると考えられる。

：来年度（2025年）は、「戦後80年」という歴史的な区切りを迎える（ほぼ人の一生に近い）ため、これまでの講義内容をさらにブラッシュ・アップして、日本独自の「政治の歴史」の取り上げ方について、さらなる工夫や試行錯誤をしていきたい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学B
授業コード	12D02-001
教員名	本村 扇仁
教員コード	102685
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

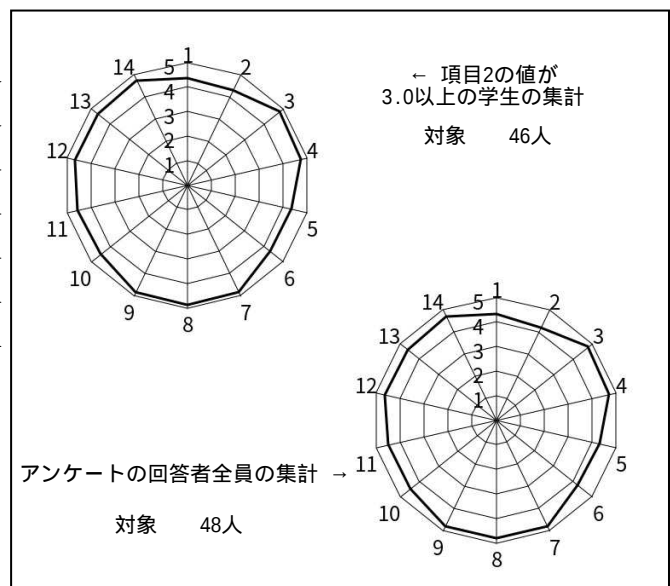
説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。また実感を伴った理解につながる効果が期待される映像資料を要所に取り入れた。このような展開について、説問4、9の数値から概ね成功であったと考えられ、今後継続し工夫を加えていきたい。

学生がPCを準備していることから、計算についてエクセルを利用することを試みた。自分の手で数値的な面を把握するという点で有意義と考えられ、今後さらに展開していきたい。

不明な点や疑問点は理解をより深める大切な機会と考えられるので、質問を授業内外でしやすくするという点に留意し工夫したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介、資料の提示などに常に工夫を加えていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B1
授業コード	12D07-001
教員名	藤波 初木
教員コード	102077
登録人数	148
回答数	48
回答率	32.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

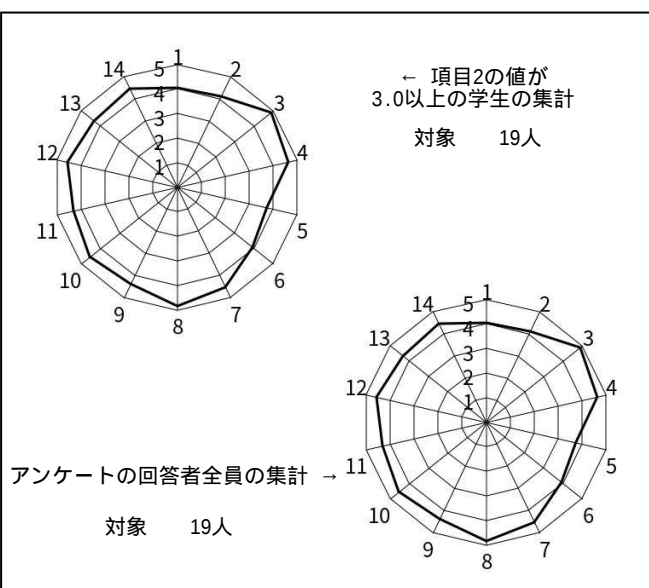


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。学生評価では、この授業全般に対し良好な評価を得た。アンケートの任意解答でも「授業資料がわかりやすく、丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を多く得た。教養科目の自主的な予習・復習は難しいと思われるが、授業の中で復習ができるように工夫した。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけるように努力した。授業が行われる週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を、動画や天気図などを用いて解説し、授業の内容がどのように気象・気候の理解に結びつくのかがわかるように資料を作成した。また、私のフィールド(海外)の観測風景などの映像も増やし、研究者が何を行っているか等も授業内容に関連づけて話題提供した。これらの点は自由形式のアンケート結果から好評であった。一方、文系の学生から専門用語などに対してもう少し丁寧な説明がほしいとのコメントがあった。授業内容を少し詰め込み混みすぎ、その点が犠牲になった可能性がある。少しゆとりをもった授業構成になるように改善したい。また、受講人数が多くなるとおしゃべりを始める学生も散見された。その都度口頭で注意はしたが、きちんと受講したい学生からは改善してほしいとのコメントがあった。学生さんが気持ちよく授業が受けられる環境を保てるように努めたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B3
授業コード	12D07-003
教員名	古澤 文江
教員コード	103906
登録人数	31
回答数	19
回答率	61.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

予定していた講義はすべて実施することができた。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で対応した。マイクを持って席の間を歩き回り、質問に答えてもらったりすることで、学生との距離感の近い講義を行った。

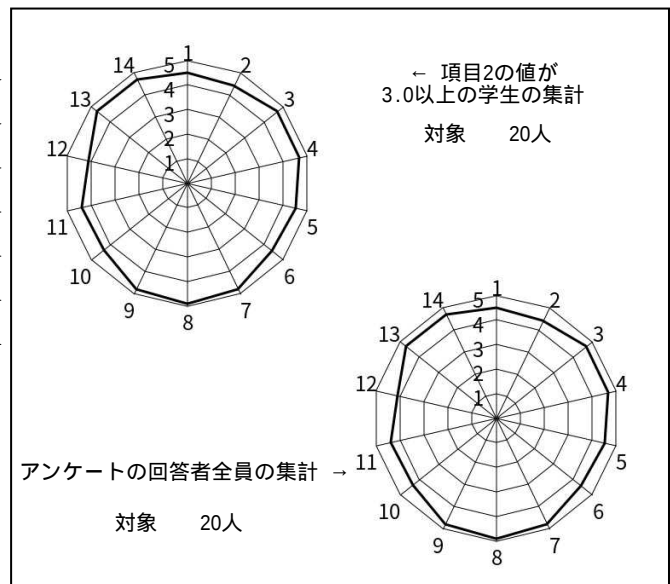
平均値が0.2以上変化していた設問が3個ある。1番が+0.2と、授業内容に興味を持っている学生が昨年度より多く受講していた。5番は-0.23で、授業の到達目標が理解できなかった事が解った。毎回授業の最初に説明しているが、授業の最後にもう一度説明する必要があるかもしれない。8番は+0.32と大きく増加した。声がよく聞き取れたことを示す。人数が少なく、静かに授業ができたと思われる。また、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という設問14に対して4.47という高い数値となり、68.4%の学生から評価5があり、昨年より多くの学生に満足がいく授業となっていた。

自由記述の良かった点には、たくさん図を使っていること、スクリーンで示す資料が見やすいこと、などがあげられていて、良かった。リアクションペーパーについても「毎回の授業の質問に次の授業でまとめて答えられていて、分かりやすかった」、「毎回質問に答えて疑問を解消していた」とあった。また、「文系でも分かりやすく内容が入ってくる」という意見があり、時々式が出て来るので心配だったが、安心した。文系の学生さんから「理系の分野を学ぶということはなかなか無かったので面白かったし、自分自身では調べないことを、この授業を受けて色々な科学的な知識をつけることができ嬉しいです。」という意見があり、私も嬉しい。物理分野の様々な科学を広く伝えていきたい。

今後も、マスクをした上で、学生との距離感の近い講義を行っていきたい。リアクションペーパーを活用して双方向のコミュニケーションを心掛けていきたい。また、デジタルの方の資料だけでも多くのスライドを載せるかどうか検討したい。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学A1
授業コード	12E03-001
教員名	小澤 良
教員コード	103091
登録人数	61
回答数	20
回答率	32.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価を総合的に見ると、全体的に高い評価を得ることができた。特に、7番：4.80，4番：4.70，13番：4.70，14番：4.70など、多くの項目で4.70以上の評価を受けており、学生にとって有意義な授業を提供できたと考えられる。また8番：4.90も非常に高く、環境面での配慮が功を奏したことがうかがえる。このことから、開講前の目標は十分到達したと思われる。一方で、12番：4.10）や10番：4.35，11番：4.40に関しては、他の項目に比べてやや低めの評価となった。これは、学生とのコミュニケーションの機会や、授業内での指導方法について、さらなる工夫が必要であることを示唆している。加えて、自由記述回答には課題の指示や期限が曖昧な時があったとの指摘を受けた。よって、今後の授業改善に向けて、以下の点に重点を置きたいと考える。

- ・質問や相談の機会がやや低めであったため、オフィスアワーの周知を徹底するとともに、授業中に質問を受け付ける時間をより明確に設けるようにする。また、オンラインの質疑応答やアンケートを活用し、学生が気軽に質問できる環境を整備する。

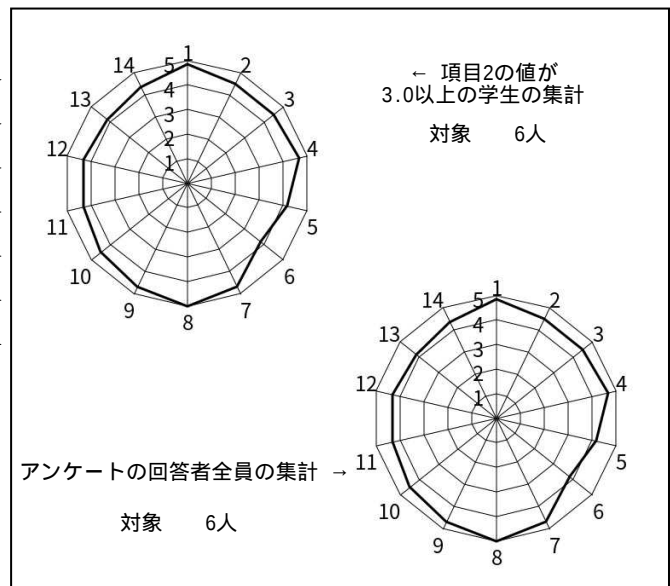
- ・私語や遅刻などの授業の妨げとなる行為に対する対処が十分でなかった可能性があるため、授業のルールを冒頭で明確に伝え、必要に応じて注意喚起を行うことで、より良い学習環境を維持する。

- ・明確なスケジュールの事前周知

今後も、学生の理解を深め、学習意欲を高める授業を目指し、改善に努めていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	芸術をめぐって1
授業コード	13A04-001
教員名	山本 宗由
教員コード	104809
登録人数	21
回答数	6
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

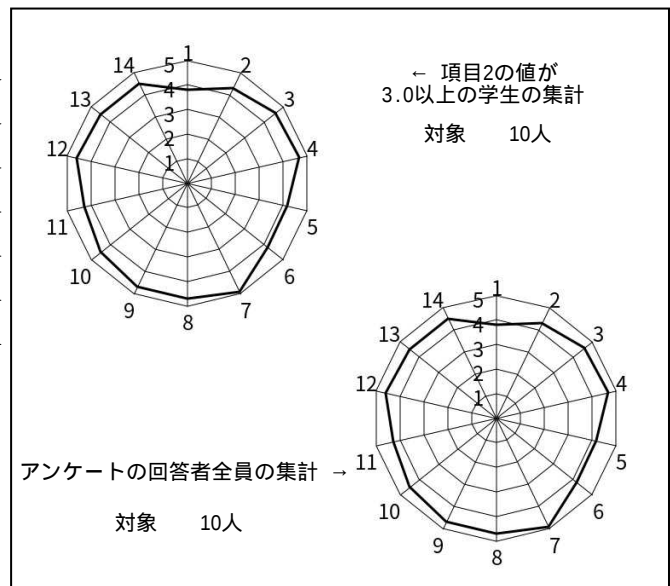


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、芸術との関わり方を知るをテーマに掲げ、学生が多様な芸術に触れる機会の提供を目的とした。開講当初に掲げた、芸術への関心や鑑賞力の向上という目標について、数値評価も高く、自由記述においても「よく考えさせられた」との意見が寄せられるなど、十分な到達が確認されたと評価できる。授業内でも講義ごとにフィードバックシートを提出させたが、どの回においても学生にとって新しい体験が提供できたことが観察された。講義はグループワークを中心とした実践的なアート体験を取り入れ、学生間の意見交換が活発に行われた点が教育効果向上に大きく寄与したと考えられる。次回以降は、現状を踏襲しつつ、今回の反省もふまえて学生がより主体的に芸術に触れ議論できる環境を整えたい。また、継続的なフィードバックを積極的に活用し、グループワークの質の向上や多角的な視点から授業を行うことで、今後も学生に新たな体験を提供できればと考えている。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史の諸相3
授業コード	13B06-003
教員名	岡田 宏太郎
教員コード	102261
登録人数	30
回答数	10
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

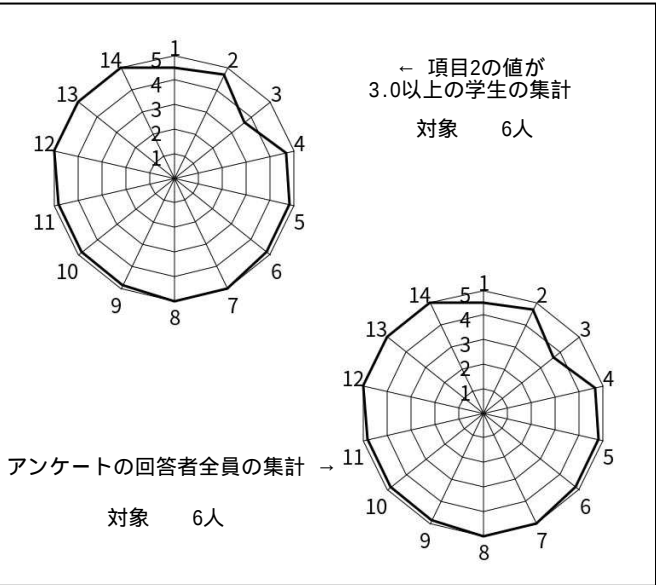
今回の授業評価、期末試験の結果、授業中に回収した質問、意見、感想から、この授業の到達目標については、おおむね達成度されたと思われます。現代日本の政治の、昭和期、平成期のそれぞれの特徴が焦点でしたが、全体の基礎となる昭和期の特徴についての達成度が、特に高かったと考えられます。授業の冒頭で映像資料を用いましたが、授業内容の理解にかなり役立ったようで、おおむね好評であり、授業の目標達成に貢献したと考えられます。

こちらで把握している受講者の声では、受講前は、授業内容にさほど興味がなかったが、受講して興味が持てるようになったというのが幾つかありましたが、アンケート結果からも、そのような傾向が示されていると思われます。ノートすべき内容の提示に関してですが、分かりやすかったという声があった一方、説明と提示のタイミングが合っていない場合があり、反省点です。また、参考文献の選定や紹介の仕方をさらに工夫し、自学自習を促進することも、今後の課題と考えています。

真面目に受講してくれたみなさんには、どうもありがとうございました。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と法律問題2
授業コード	13C02-002
教員名	三枝 有
教員コード	100468
登録人数	32
回答数	6
回答率	18.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

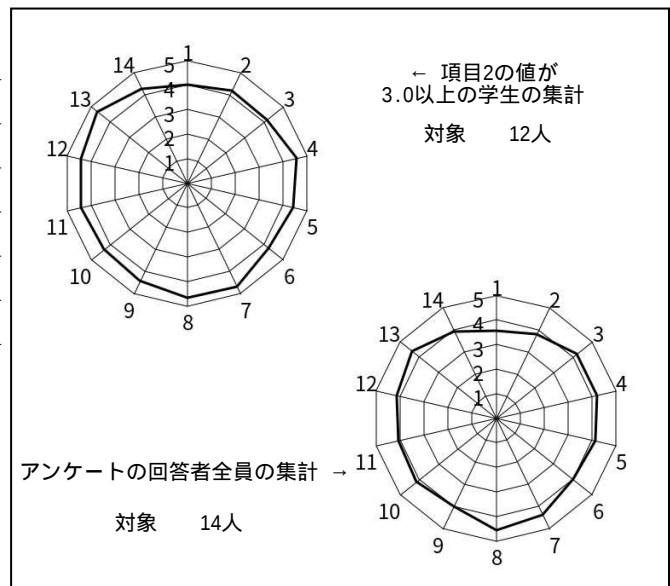


授業評価結果を踏まえた点検・評価

については、5つの項目について平均値が5.0であったことは予想できなかった高評価である。第1クォーターと異なり受講者数が少なかったことが個々の学生の嗜好性に対応した講義進行ができた要因であると感じる。その結果として項目14の授業満足度は5.0の評価を頂いた。「生命と法律問題」というかなり深掘したテーマ科目の講義には、ある程度少数で演習形式に近い講義の方が十分な理解を得られることを証明していると思われる。講義テーマ自体がそれぞれの学生諸君の専門性と直結しないことが多かったと思われるが、学生自身の積極的取り組みが講義内容の理解に大いに寄与したことは間違いない。講義担当者として大いに感謝申し上げます。については、自由記述を見る限り講義担当者の目的はすべて達成されたものと感じられました。学生諸氏の講義への参加度の高さと理解力に深く感謝申し上げます。講義への改善点の自由記述がなかったのは、この講義が南山大での最後の講義であることを知っていたからでしょうか。いずれにせよ学生諸君の講義への積極的参加には心より感謝申し上げます。なお、につきましては、この講義が南山大での最終講義ですので、次回への抱負は、他大学での講義に反映させて頂きたく存じます。最後まで熱心に受講していただきました学生諸君にはお礼申し上げます次第です。ありがとうございました。三枝

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相7
授業コード	13C04-007
教員名	松野 正太郎
教員コード	104285
登録人数	55
回答数	14
回答率	25.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



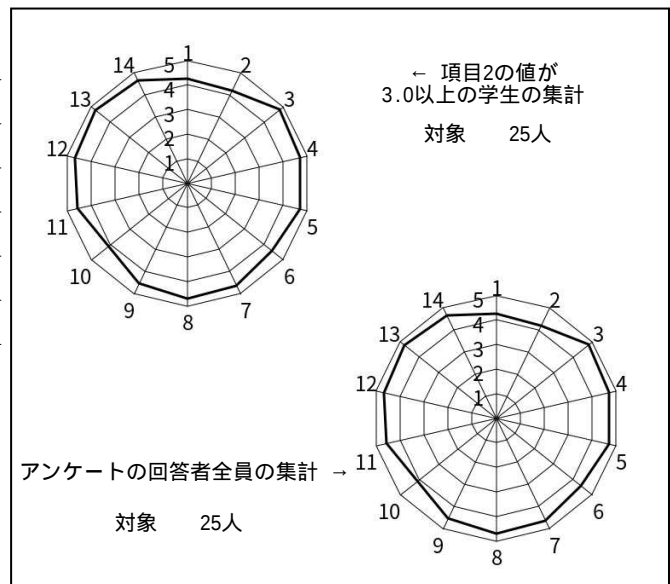
授業評価結果を踏まえた点検・評価

持続可能な社会の実現に向けた、特にSDGsの推進にむけた知見と動向の理解と日常生活における行動の実践ができるようになるという点について、できるだけ多くの具体例を用いたことが学生の理解を促進したと考えられる。また、講義中に環境問題やSDGsのみならず、持続可能性に関して幅広く扱ったことから、学生の視野の拡大に寄与することができた。講義全体としては目標を達成できたと考えられるが、必ずしも受講生の満足度が高まったことにつながったとは考えにくい。2コマ続きの長丁場であったので、50分毎くらいに小休憩をはさみ、集中力が途切れないように努めたことも学生からは好評であった。講義の中盤から、板書からスライド投影に方法を変更した。こちらは、図表等が見やすく概ね好意的にとらえられた。

そもそも、一部の学生は最初から寝ていて講義を聞く気がなく、今年度は特にそれが目立った。担当者としても例年とは異なるやりにくさを感じながら、厳しい指導を行ったが、講義の評価への回答が5と1と両極端であることから、これが評価を下げたきらいがあると考えられる

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と倫理問題3
授業コード	13D01-003
教員名	加藤 義和
教員コード	104944
登録人数	160
回答数	25
回答率	15.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

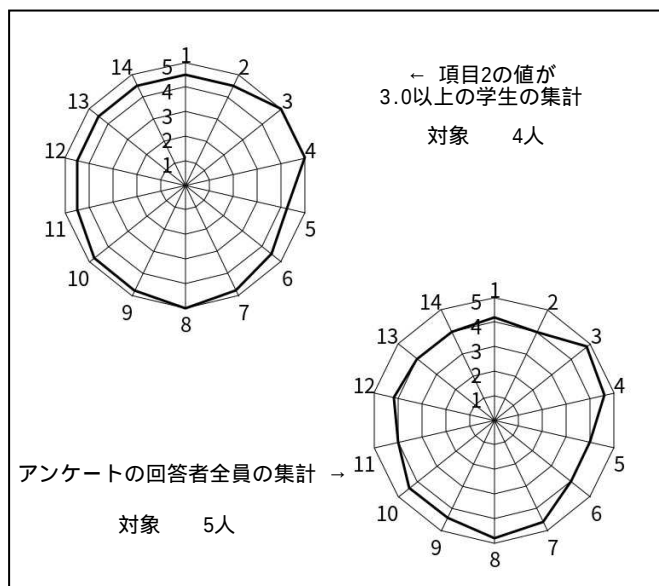
開講当初の目標は、「自然界の仕組みと人間活動がもたらす影響について、理解を深める」「ディスカッションを通じて自分の意見をまとめ上げ、発表することができる」の二点であった。授業にはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、毎回の講義の前半では学生が興味を持ちそうな環境問題、自然と人間の関係などに関するテーマの解説を行い、後半では、そのテーマについてチームごとに調べてきた内容を、2チームに絞って発表してもらい、他の学生との質疑応答、ディスカッションを行ってもらった。発表に向けた準備を熱心に進めてくれたチームが多く、教室の前に立っての発表も堂々とする学生が多かった。当初の目標はおおむね達成されたと思われる。

今回のような構成の授業を行うのは私にとっては初めてだったが、学生の多くはチーム間の競争も意識しながら、集中して課題に取り組んでくれたと思う。聴き手からは碎けた内容の質問が出ることもあり、大人数でのディスカッションが明るい雰囲気に進んだことはとても良かった。

受講者が160人を超えていたため、やる気のある学生からは「発表の機会が少なかった」との意見が出た。来期も同様の授業を予定しているが、受講人数の上限を設け、受講者の希望に沿えるように進める予定である。授業の難易度や進むスピードについての意見もあったので、授業登録前の講義では、講義の進め方や内容について、より丁寧な説明を心がけたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械3
授業コード	13E04-003
教員名	大野 波矢登
教員コード	100625
登録人数	39
回答数	5
回答率	12.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

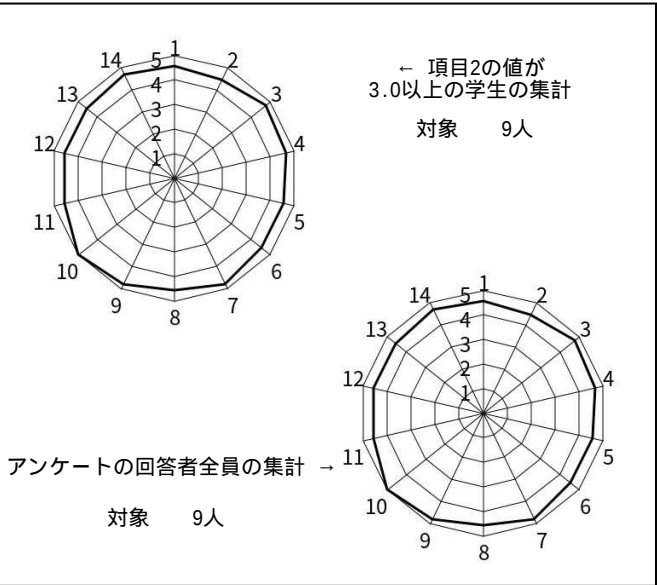
人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらについて考え、討論できるようになることがこの講義の目標である。目標達成度は、アンケートの項目3~14の平均が4.29であったこと、小テストとレポートの合計点の平均が81.1点であったことから判断して80%程度と思われる。

アンケートの結果については、項目3、4、7、8の値は4.6以上だが、項目2、5、6、11、13、14の値は4.00となっており、この結果から、授業の進め方等については特に不満はないが、授業の内容面で十分な満足を得られなかったと感じた受講者が少なからずいたように思われる。

今後の改善点として、授業の内容を、新しい知識を獲得し、到達目標に挙げられたことについて理解が深まり、自分自身でさらに学習しようという意欲を持てるようなものにすることが必要である。人工知能とロボットの哲学・倫理学に対する学生の興味は高まりつつあるようだが、この授業では第三次AIブーム以降の話題が全授業内容の3分の1程度であり、学生の期待に十分に答えることができていないように思われる。次学期ではアンケートを実施し、学生の関心のある話題を聞いたうえで授業内容に追加したいと思う。

2024年度 Q 3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	博物館学E
授業コード	15M05-001
教員名	可児 光生
教員コード	102475
登録人数	30
回答数	9
回答率	30.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

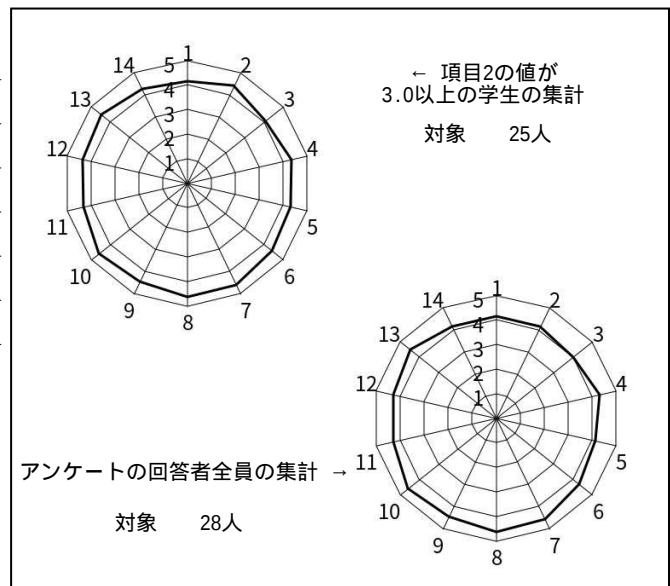


授業評価結果を踏まえた点検・評価

博物館学E「博物館経営論」は現在の博物館の社会的存在意義やこれからのあるべき姿など自発的に考える場である。設問6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の評価点が4.56とあり、設定した目標の到達に近づいていることを示していると考ええる。設問11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」の評価点が4.56であったことは、授業に対する学生の一定の評価が得られたと思われる。授業の中で、新聞や雑誌の記事などを通して最近の博物館の動向を紹介し、また実際に近くのミュージアムを訪ねる課題を出して自分の観点で調査をするなど、一方的な講義だけでなく主体的に問題意識を高めるよう心掛けた。積極的な授業参加によって自主的な学びがさらに促されるよう今後も努力したい。また、配布資料の提供の内容や方法についてもより効果が上がるように考えていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の哲学
授業コード	22C09-001
教員名	久保田 進一
教員コード	104075
登録人数	58
回答数	28
回答率	48.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

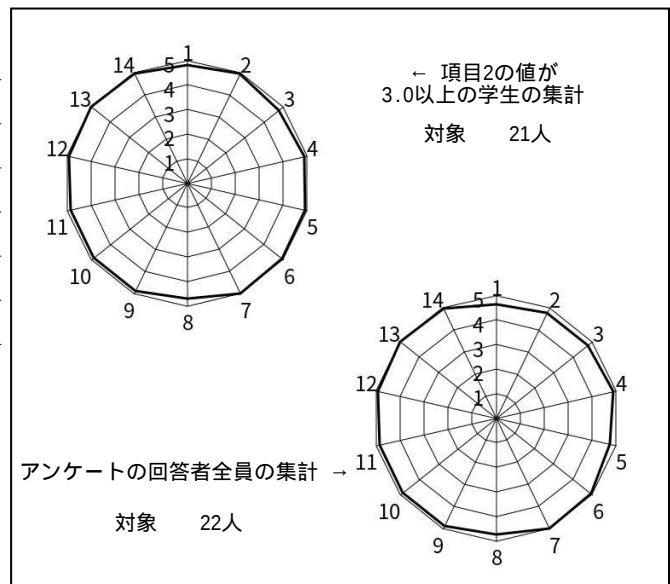
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、試験の採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないと思われる。この授業は、今回数年振りであったが、「言語哲学」と「心の哲学」を中心に現代の哲学について、理解してもらうことを目標としており、その目標は基準としては達成されたと思われる。そして、合理的な思考法としての哲学的議論を理解してもらえたと思う。

学生のアンケート結果から概ね高評価を得たと思う。受講生はそれなりに多かったが、学生に質問をし、学生にも考えさせる授業ができたと思う。また、身近な例を出してもらい理解できたと自由回答にも指摘されていた。また、アナログではあるがプリントを中心に授業を行ったのが、良かったという学生もあり、今後も続けていきたいと思う。

今後の授業の改善点としては、講義での脱線が多いという指摘もあり、時間をもう少し有効に使っていききたいと思う。履修変更後の学生の名簿が反映されていなかったということなので、履修していない学生については、今後は新たな名簿を用意し確認していきたい。次年度も一方通行だけの講義ではなく、学生とのコミュニケーションを通して、授業に参加しているという実感を持てる授業を行なっていきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)バドミントン1
授業コード	14E05-001
教員名	伊藤 真博
教員コード	103257
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講時に設定した目標は種目に関する知識・技能の習得、ゲームを通してのマナーおよび仲間とのコミュニケーション能力の涵養、自己の健康増進の3点である。この目標に対する指標は設問13が関連するが、平均で5.00ポイントを得ており、目標には到達したと考える。

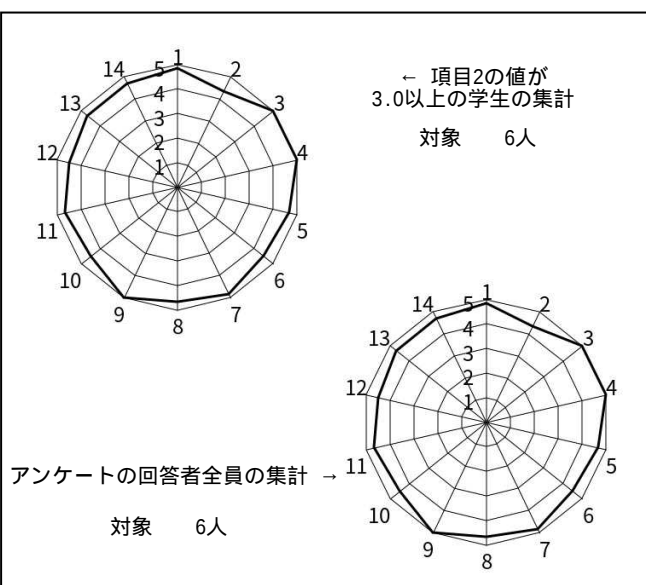
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

今クォーターは履修者28名中19名が4年生であった。彼らは部活動やサークル活動をすでに引退しており、仲間と運動をする機会がなく運動欲求が高かったようである。このことが動機づけとなり、積極的な授業への参加につながったと考えている。授業満足度に関する設問14では4.95ポイントを得ており授業運営は概ね成功したと考える。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
教員の声の聞き取りに関する設問8が4.73ポイントとやや低評価であったのは集合・説明時に学生との間に距離があり説明が聞きづらかったためだと思われる。毎回ホワイトボードがよく見える位置まで近寄ってくださいと声掛けをしているものの学生は前にでることを恥ずかしがる傾向があるようである。今後はさらに積極的に声掛けを行い、集合・説明時には声の聞き取りやすい適切な距離にまで近づくように促していきたい。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語III<E・B>2
授業コード	11G03-008
教員名	白 明学
教員コード	103287
登録人数	34
回答数	6
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

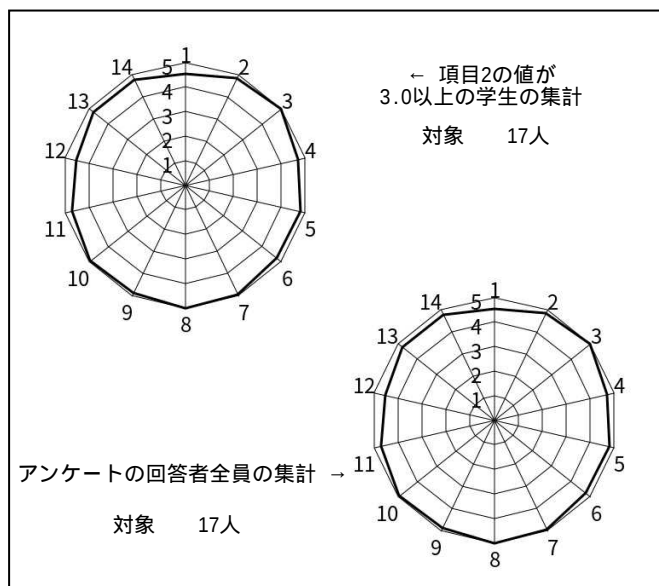
2024年度第4クォーターの授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時にQ4の目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、初級会話に必須の様々な文末表現や複文の作り方などをマスターし、会話表現のバリエーションを増やすことが出来た。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.72で、ある程度の学生の満足度も得られたと言える。

Q3はQ1・2同様、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「例文が流れてきて時間内に読むのが自然な早さで読む練習になってよかった」「一つ一つ丁寧に説明して下さったので、わかりやすかった」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。

ただし、一部の学生にとっては進度が少しはやかったようなので、そういった学生をケアできるツートラック・アプローチを工夫していかなければならない。来学期の課題である。

2024年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国・朝鮮の言語と文化I
授業コード	35C01-001
教員名	金 由那
教員コード	101171
登録人数	49
回答数	17
回答率	34.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なった。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「初心者の状態で心配することもあったが、全体的にスピードも適切で授業プリントもわかりやすくとても良かった」、「韓国語を学ぶだけでなく、映画などを見て、歴史を学ぶことが出来た点」などのコメントがあった。楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語実践演習G
授業コード	34D19-001
教員名	梶浦 直子
教員コード	102557
登録人数	13
回答数	3
回答率	23.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

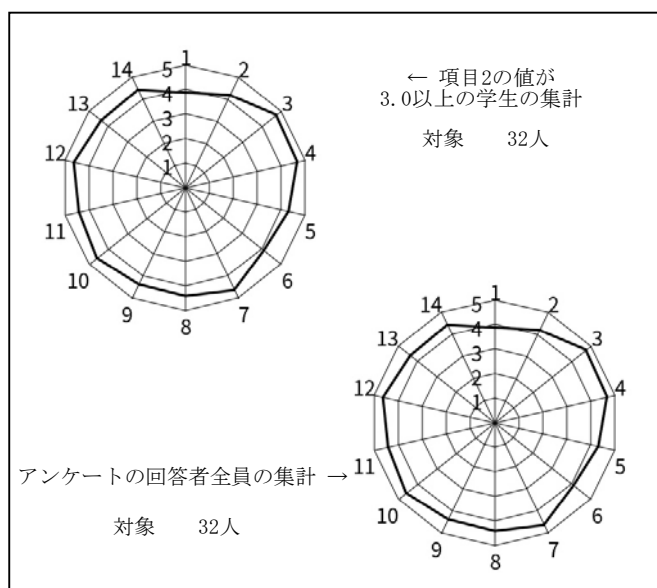
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的はドイツ語を学ぶのではなく、ドイツ語を運用する能力を高めることを目的とした。具体的には、学習者が自分自身の意見を他の学習者と交換する、さまざまなテーマについてディスカッションする、他の学習者と協働的に課題に取り組む、取り組んだ課題について紹介する、ということをドイツ語でおこなうことが求められた。

授業のガイダンスにおいて、ドイツ語のみで授業を進めることを説明したが、受講者の想定とシラバスに書かれていることに大きな乖離が見られた。そのため日本語で話す時間を限定的に設けるなど、受講者の要望を取り入れた。また、課題に取り組む際には、履修者にどのくらいの作業時間が必要であるかを受講者自身が決められるようにし、問題を抱えていた履修者には個別に声をかけるなどの対応をおこなった。毎回の授業における振り返りでは、履修者が自身の学習方法と向き合いながら課題に取り組み、少しずつ目標に近づいていることが伺えた。しかしながら、一部の履修者には配慮が十分でないと受け取られた点は、今後改善しなければならないと感じている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 南北アメリカとの出会い2
授業コード 13B05-002
教員名 浅香 幸枝
教員コード 000165
登録人数 141
回答数 32
回答率 22.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

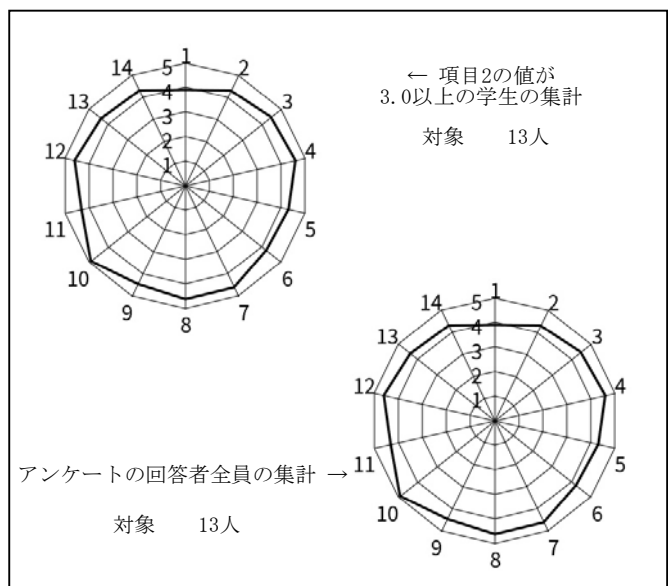
項目1～14の平均値は4.42、項目3～14の平均値は4.48であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.5以上の設問は、5項目に亘っている。授業の開始と終了の時間が守られ、毎回の授業の構成や速度が適切であり、担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができ、私語などの授業を妨げる行為に対して適切な対応がなされ、質問や相談の機会が十分に設けられ、課題や実習に対する事前・事後の指導が十分であったと回答している。

3.88と一番低い項目は、履修前、授業の内容に興味を持っていたかである。それ以外はすべて4以上の評価で、学生たちは受講前の期待が低かったにもかかわらず、毎回の授業の予習・復習をし、主体的に授業に参加し、授業の到達目標に達し、新たな知識も得て満足したと回答している。

南山大学と上智大学のラテンアメリカ研究センター（研究所）の共同研究の成果物であるアカデミックでありながら、学生たちに先生たちが伝えたい研究成果である著書を1冊読み込む授業であった。主体的な本の読み方や関心を持った資料の集め方、また討論の仕方、ポートフォリオやレポートの書き方を双方向の授業で教えた。これが学生の意欲につながった。将来の活躍が楽しみな毎回のリアクションペーパーや、ポートフォリオや最終レポートであった。今後もこの方式を続けていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	東アジア特殊研究
授業コード	35C18-001
教員名	廣澤 裕介
教員コード	104639
登録人数	32
回答数	13
回答率	40.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

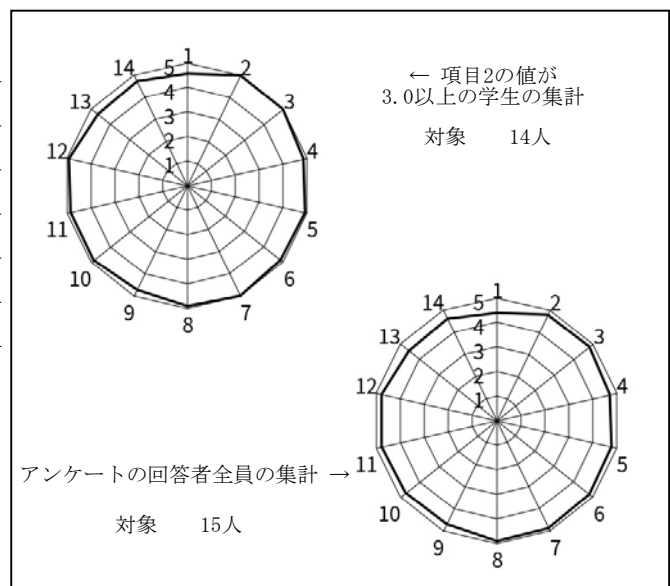


授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本の中学高校での学習教育やふだんの生活では触れることができない、中国文学、特に白話小説の世界を学生たちに紹介することができ、そのおもしろさを伝えることができたと考えている。授業の内容を確認するウェブ課題に意欲的に取り組み、充実した内容のすぐれたレポートを提出した学生も多かった。資料には難読漢字も多いが、日常的に使う漢字もおぼつかない学生がおり、日本語力の向上という意味でも、漢字を読む力を指導してゆきたい。改善点としては、授業内で講読する作品のセレクションである。学生たちがより共感するのは、歴史小説よりもヒューマンストーリーであったと思われる。自分の感情や生活により近いヒューマンストーリーをより充実させ、その説明をもっと詳細にして、中国古代の社会文化への理解を深められるような内容に行きたい。むしろ歴史小説の魅力もより理解できるような講義に行きたい。また白話小説と日本文化との関連についてもう少し取り上げたいところであったが、授業中におこなう作品の音読に予想以上の時間がとられてしまった。その学習をより拡充してゆけるよう、授業の進め方をスムーズになるよう考えてゆきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2
授業コード 11L09-002
教員名 鈴木 照
教員コード 103293
登録人数 17
回答数 15
回答率 88.2%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

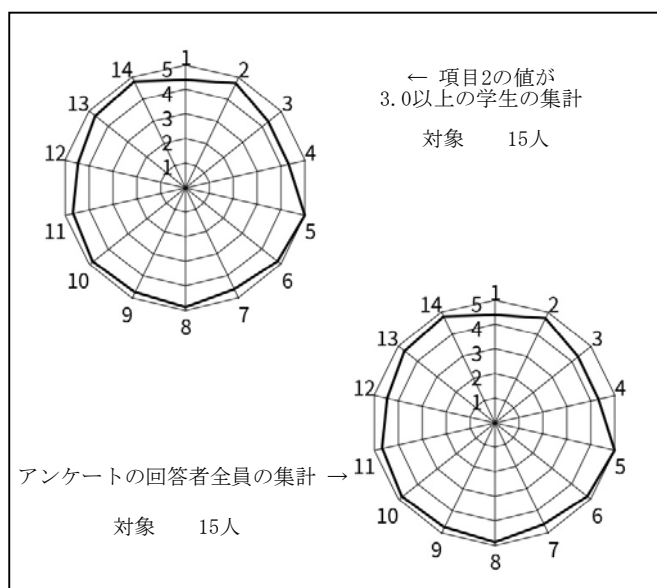
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材やグラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

コース開始時には初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られたが、授業が進むとともに積極的に参加する姿勢が増し、合格点に達した学生は、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、読解文を理解して適切に要約することができるまでになった。学生自身も日本語の上達や理解の深まりを実感しているようである。（設問6平均値4.80、設問13同4.53）一方で、設問9で2、設問13、14で1と回答した学生もあり、授業についてこれず困難を感じている、上達が感じられないという学生がいたことが窺える。

これらを踏まえ、次学期は今学期の授業内容を中心に、学生が興味を持ち積極的に学習に取り組める内容を組み込み、個々の理解度に合わせつつ、学生の様子にさらに気を配りながら、授業を運営していきたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術A)2
授業コード 11L10-002
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 18
回答数 15
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

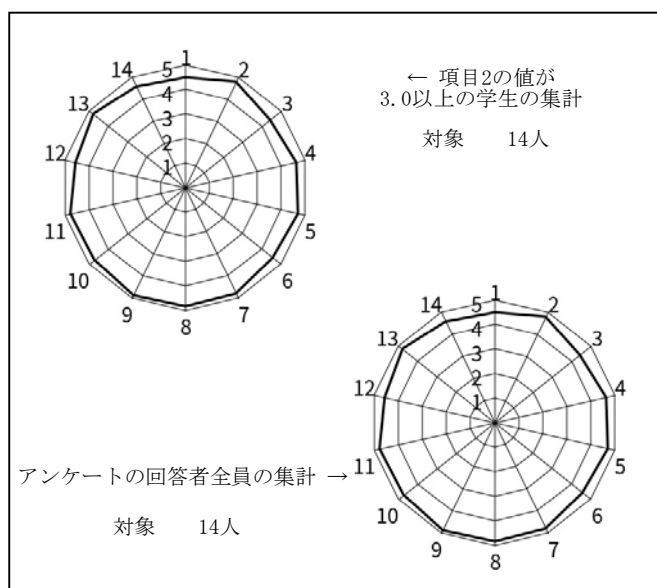


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、基礎的な日本語学習を終えた留学生の口頭表現の向上を目指すものである。与えられたトピックから社会的な問題をテーマとして設定し、現状や問題点、原因、現行の対策など、調べたことをまとめ、発表するなかで、日本語の客観的な資料や図表を基に説明をすることが求められる。授業の構成は以下のとおりである。第1段階：グループで1つのテーマについて調べてまとめる演習を行う。第2段階：図表の読み取りや使い方について振り返りながら整理する。第3段階：グループ発表を踏まえて個人でテーマを設定し、発表する。授業評価の「受講前には内容に興味を持っていなかった」ものの、「授業目標を理解し」、「主体的に授業に参加した」という学生の姿勢と、「到達目標に向けて力がついてきている」「この授業に満足した」という点で高い評価が得られたことから、目標は概ね達成できたものとする。自由記述では「ちゃんとわからないことが説明される」、「評価（発表へのコメントや修正点のアドバイスのことだと思われる）は分かりやすい」、「発表の情報を正しく探す方法や発表の方法を勉強した」という評価の一方で、「クラスに学生がたくさんいるのであまり相談できない」、「準備時間が足りない」という意見もあった。授業時間外でも個別に相談の時間を設け、サポートの体制は整えていたので、それを使用できない学生がいたことを今後の指導に役立てたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2
授業コード 11L11-002
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 18
回答数 14
回答率 77.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

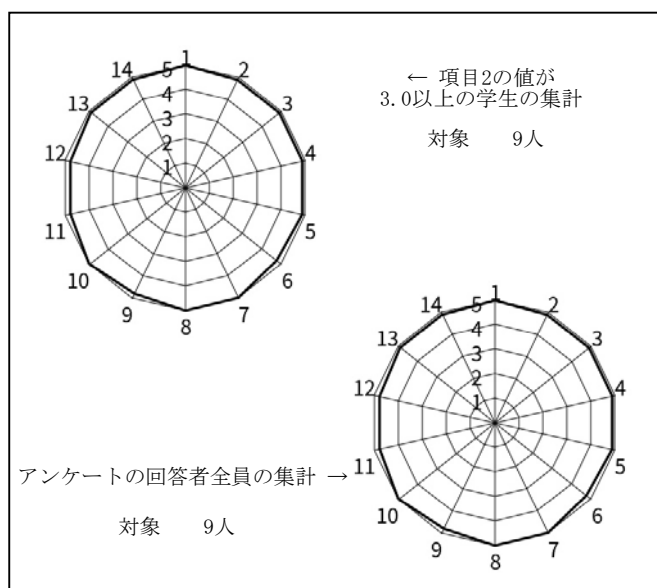


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、今後の助けとなるよう図書館での講習も取り入れている。また、先学期の反省を踏まえて理解しやすいよう教材を改善し、クイズで確認を行ったり、毎回の課題を課したりして定着を試みた。ほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の1つである「レポートの体裁を整える、客観的な表現でレポートを執筆する」ことに関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、最終課題の期末レポートでは、実質的な文章表現の運用、生の資料の理解度、引用と出典の示し方、レポートの構成内容に関して、個人差が顕著に表れた。②学生からの授業評価では平均値がほぼ4ポイント後半であり、また、学生からの自由記述にも能力が向上した、学びがあった等の記述が見られ、授業内容に関しては概ね評価できると考えられる。③一方で「宿題の内容が難しく、理解できないことがあった」との記述もあったため、来学期は課題説明を更に丁寧に行いたい。今学期はストレスによる体調不良の学生を初め、毎回1人1人学生に声をかけ個別対応に力を入れたが、来学期も継続して個々の学生に注意を払いたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2
授業コード 11L15-002
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 11
回答数 9
回答率 81.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



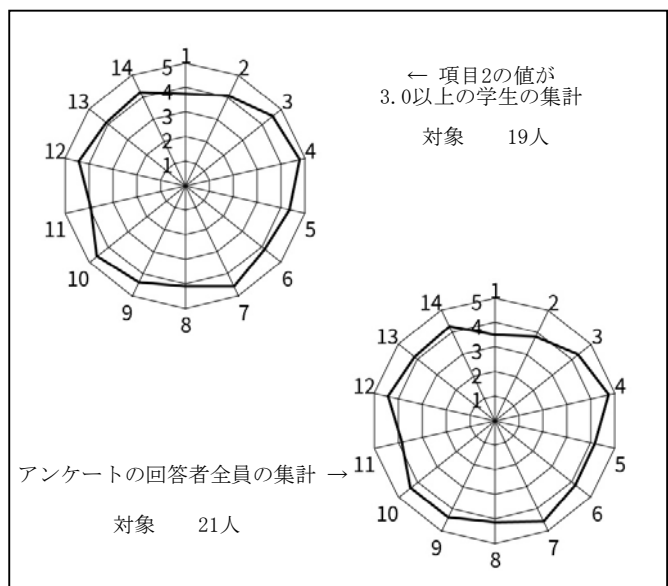
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。目標である文章力の向上のため、多くの作文課題を課したが、それらの課題及びその作文の修正や文法・表現の練習にまじめに取り組んだ学生は、少しずつ力を伸ばして、レポートを作成するために必要な、書く力を身につけ、授業の目標を達成したと言える。しかし、残念ながら不合格になった学生もあり、書く力と同時に、資料を読む力および論理的に思考する力をいかに伸ばすかがこの授業の今後の進め方の課題であると感じている。

設問6、13、14への回答を見ると、自身の日本語力の成長を実感している学生が大半であると思われる、自由記述も授業方法に好意的な意見が書かれた。しかし、設問9、11、12の回答率がやや低いことから、課題の提示の方法や、課題の修正に関するフィードバックなどをさらに丁寧におこなっていく必要があると思われる。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5
授業コード 10D01-005
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 72
回答数 21
回答率 29.2%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

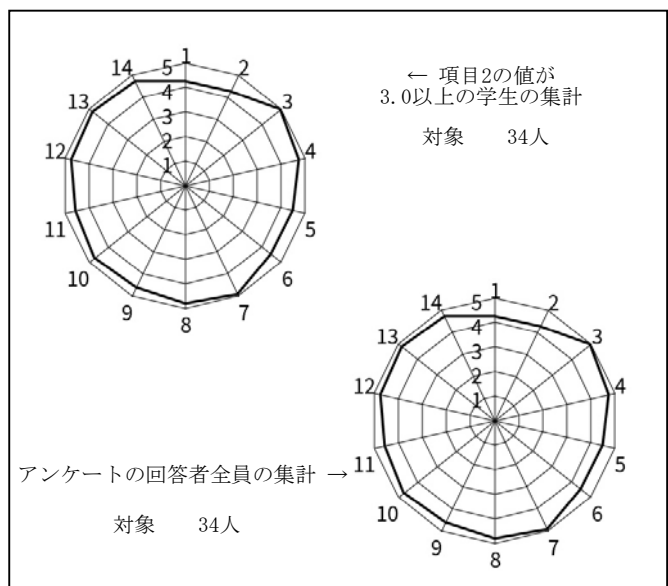
前は「一人語りのよう」という指摘を受けたので、今回は学生に向きあい、学生に問いかけ語りかけるように授業をした。シラバスに書いた目標はおおむね達成できたと思う。授業評価の数値は非常に良いのでもなく非常に悪いのでもなく、ほどほどであった。

授業評価の中で一番数値が低い項目は、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供がありましたか」という箇所である。たしかに私の授業は講義が中心だった。次回からは、私の講義ではない学生の授業参加の機会を導入し、また授業外でも学生が学習できるよう情報提供をより積極的に行いたい。

自由記述の中に、「たまに聞きづらいつと感じたので、もう少しゆっくりと喋っていたらとありがたい」とあった。たしかに、自分でもかなり速く喋ったという自覚があり反省している。次回から、もう少し意識的にゆっくりと話すようにする。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 美術A1
授業コード 12A05-001
教員名 井上 瞳
教員コード 104795
登録人数 58
回答数 34
回答率 58.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

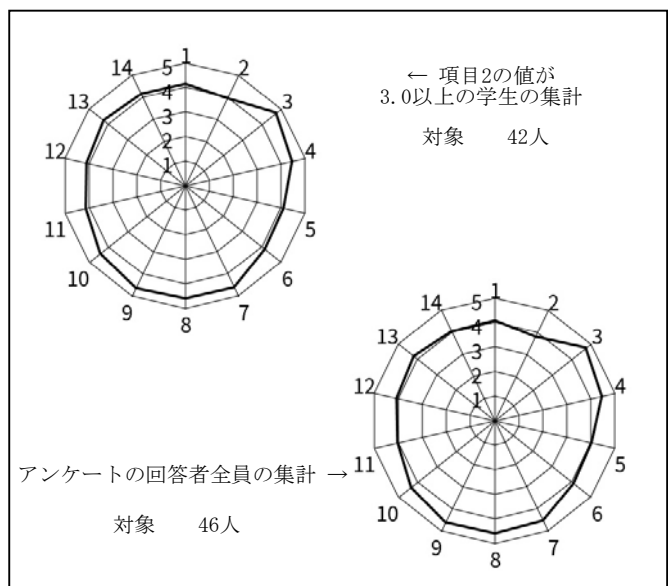


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①日本美術に対する理解が深まっており、よく達成できた。
- ②設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」に比べて設問2～14の数値が上がっているため、授業前より理解が深まり、当該学問分野への関心が高まったといえることができる。
空調について寒かったという意見があったが、こちらも寒いので空調をマックスの温度設定、風力設定にしていたが、それでも寒かった。地下教室のためか、空調のききが悪いように感じた。こちらは、教室の改善をお願いしたい。
「テストの持ち込みを許可しない理由が分からない」との回答があった。授業内で問題と回答を簡潔に説明しているため、持ち込みだとするともうテストの意味がなくなる。また、小テストであるため、それほど大きな負担はないと思われる。
- ③次クォーターに向けて、初回にシラバス・授業内容・評価方法を説明する時に、小テストの持ち込み不可である旨をしっかりと確認したい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	西洋史A
授業コード	12B07-001
教員名	大橋 真砂子
教員コード	100233
登録人数	116
回答数	46
回答率	39.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

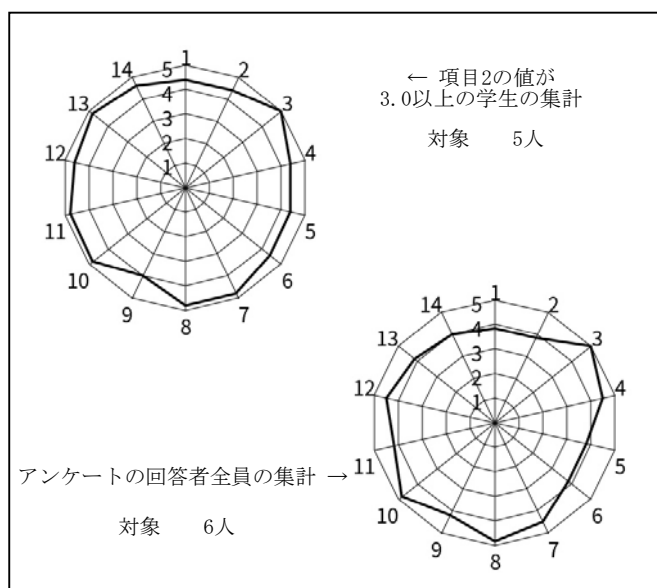


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、アルファベットの起源から始めて、教育の在り方や書物の複製など、文字文化に焦点を当てながら西ヨーロッパの歴史を古代から近世まで扱って紹介した。授業の到達目標（「古代から近世までのヨーロッパの歴史の大まかな流れを理解している」「現代における文字文化の起源と歴史的な経緯を理解している」「歴史に関する特定のテーマについてわかりやすい説明文を書けるようになる」）についてはおおむね達成できたと考えている。評価の数値データから、学生による評価はおおむね良好だととらえている。また、自由記述に複数あった解答から、具体的な手で触れることのできるサンプルを提示することが、授業内容の理解を促進できるということも確認できた。今後の授業では、PowerPoint資料についてもより分かりやすい図像などを加えた形で改良をおこない、様々なバックグラウンドをもつ学生に広く理解できるような授業を心掛けていきたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 化学2
授業コード 12D05-002
教員名 沢邊 恭一
教員コード 102686
登録人数 14
回答数 6
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

到達目標は、(1)身近な製品や現象の化学的理解、(2)環境とエネルギー問題の化学的理解、(3)化学知識を用いた判断力の育成である。アンケート項目6の点数が3.83で項目1の平均値と一致していることから、意欲のある学生は(1)と(2)の目標をある程度達成できたと示唆される。また、項目13が4.17であることと提出レポートの内容から、(3)の目標も達成できたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

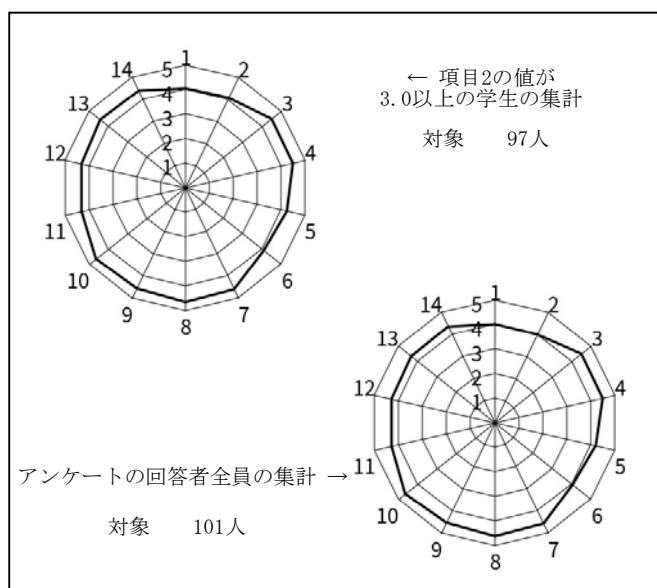
項目14の点数は4.00で、前期比0.55ポイント減少した。しかし、自由記述では「高校の授業よりも化学を身近に感じられて良かった」「科学について多くの具体的な説明がなされており、非常に有益な授業だった」「説明が分かりやすかった」「質問に真摯に回答し、前回のアンケート結果を現在の授業に活かしていた点良かった」など好意的な意見があり、一部の学生には満足してもらえたと判断できる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義初回に化学への興味の有無と疑問点を質問し、講義終了時にそれらの疑問が解消されたか確認する試みを検討している。また、AIによって作成された可能性のあるレポートへの対策として、レポート提出後の口頭試問実施を検討する必要があるかもしれない。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地球科学A2
授業コード	12D06-002
教員名	三野 義尚
教員コード	102236
登録人数	178
回答数	101
回答率	56.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

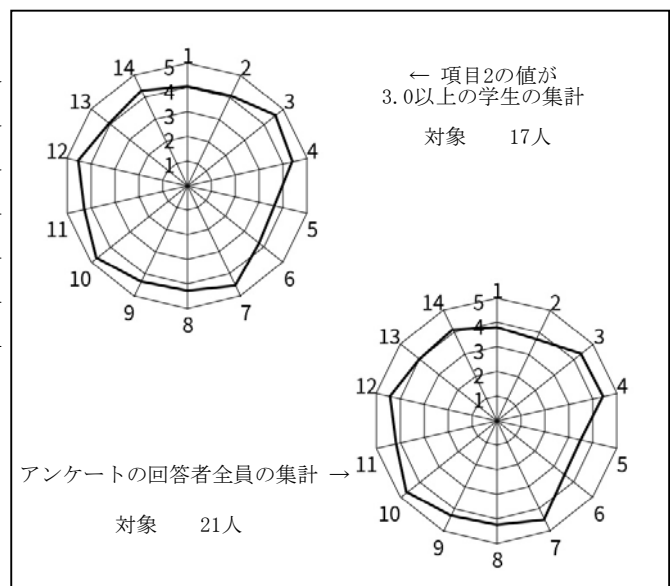


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を計12回実施した。項目3-14の平均値は4.41であり、基盤科目平均（4.45）とほぼ同じだった。比較的低いスコアは設問#5と#6であったが、こちらも基盤科目平均と同程度であった。到達目標の理解と実感に関する設問であり、前回から目標設定の変更を試みているが評価に繋がらない。授業内容も合わせて、大幅変更を検討する予定である。基盤科目平均よりも相対的に低いのは設問#12であり、小テストや欠席者用の課題の事後指導が足りなかったのかもしれないので、こちらは改善したいと思う。設問#15の回答を見る限り、授業運営に関しては、映像資料と講義を組み合わせるスタイルが学生さんに好意的に受け入れられたようなので、続けて行きたい。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	地球科学B2
授業コード	12D07-002
教員名	福富 慶樹
教員コード	104993
登録人数	97
回答数	21
回答率	21.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

講義はシラバスの内容でほぼ予定通りだった。大学教養課程の科目ではあるが、理科系の専門基礎課程(理学部等)で講じることも可能な水準にした。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

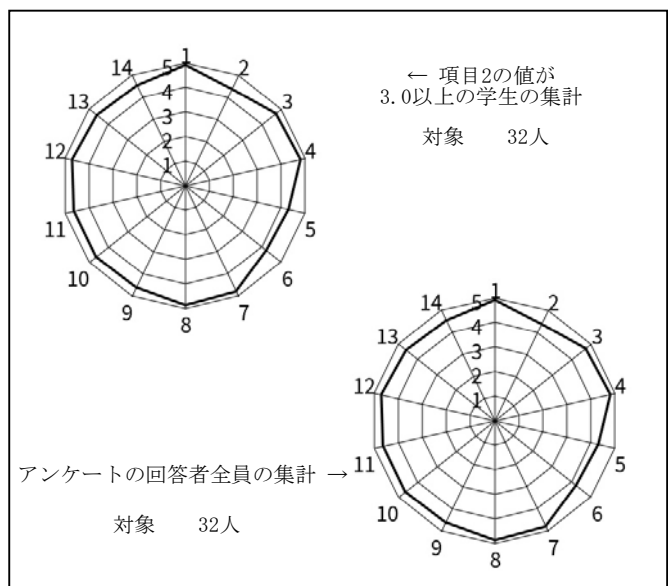
講義資料は専門的資料から引用したため、受講者は高等学校地理の知識があり、高等学校地学の内容をできる素養を必要とした。また、大学教養地学の内容を理解可能な基礎学力を要求した。数理科学的理解の素養に欠いた学生のため、数式の使用は最小限にした。レポートは国立大学入学試験科目の地理の論述問題の水準である。講義は専門基礎知識を伝達することを重視した。文字を読ませることより、図表から現象・事象の理解を促す事を重視した。一つ一つの資料をじっくりと解説する必要があったが、早口になり時間配分が不適当な場合があった。自主学习用補助教材の配布や参考文献の紹介は十分に行った。担当者は公的機関において研究専従であったため、大学教育に携わるのが初であり、要領を得ない事も多かったが、高等学校教員免許地理・歴史を保有するため、文科系の理解を有する利点はある。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

2025年度の講義内容はほぼ同様の内容になる予定だが、引用する学術資料はより良いものに差し替えていく予定である。また、一つ一つの資料をもう少し丁寧に解説することを心掛けたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1
授業コード 12E04-001
教員名 齋藤 菜月
教員コード 104282
登録人数 85
回答数 32
回答率 37.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

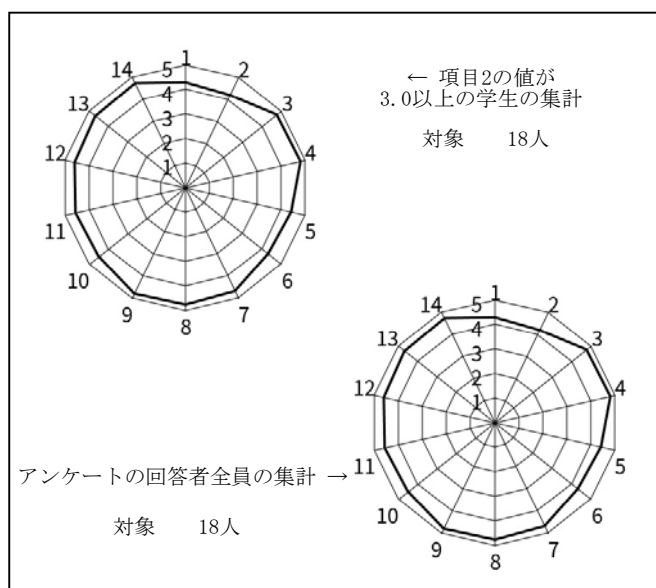


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標として、「心理学における多様な話題について、専門外の学生にも深く理解してもらうこと」があった。初回には学生の関心をヒアリングし、シラバスに従いつつも学生の関心事に注目して授業を進めた。さらに、心理学の専門外の方によくある誤解を取り扱うことで専門外の方でも聞きやすい授業を目指した。さらに、毎授業のはじめに質問対応を丁寧に行うことで理解度をあげる工夫を行った。これにより、目標は達成できた。
- ②数値データをみると、基本的には4.5点を超えており、4点を下回る項目はなかった。今後も環境に気を配り、分かりやすい授業を目指していく。自由回答において特に学生がよかったと報告した点については、質問をしやすい環境づくりや興味をもって質問をした場合に丁寧なフィードバックが返ってくるといった点であった。インタラクティブな要素を取り入れることで、自分に関連のあるものだと捉えてもらうことができたのだと考えられる。
- ③次クォーター以降については、引き続き興味関心を引きつつ、最新の文献紹介を行い、インタラクティブな関係を維持する。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	文化の比較2
授業コード	13A01-002
教員名	山田 幸代
教員コード	101367
登録人数	70
回答数	18
回答率	25.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

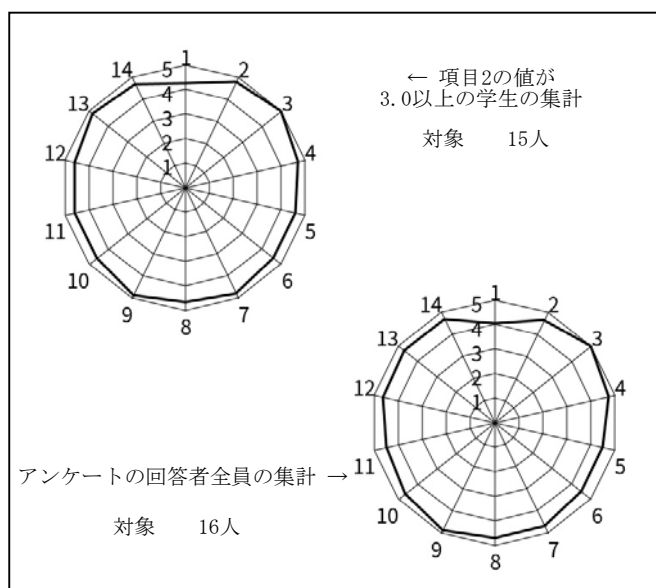


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価を概観すると「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。自由記述欄にはこの授業の評価できる点として「映画の視聴や、教員の実体験に基づくちょっとしたエピソードなど、学生の興味を引く工夫がなされていたと思う」といったコメントが寄せられていた。特に映画を使用することについて、全体的に好意的な評価が得られた。さらにこの授業アンケートのみでなく最後の授業でもWebClassから全体の感想を求めたところ、アイルランドに関する予備知識がほとんどない状態からでも興味を持って楽しく学ぶことができた、という意見が複数あったので、たとえば中高で日本史を選択したため世界史に関する知識が比較的少ない受講者にもわかりやすく説明できていたことに安心した。また毎回授業の最初にWebClassで集めた前回の感想をピックアップして読み上げつつこちらからのフィードバックを述べていたが、その点も自分の感想が読まれると特別に感じて良いというコメントがあったので今後も続けていきたいと思う。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	異文化の理解3
授業コード	13C01-003
教員名	杉尾 浩規
教員コード	102055
登録人数	75
回答数	16
回答率	21.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

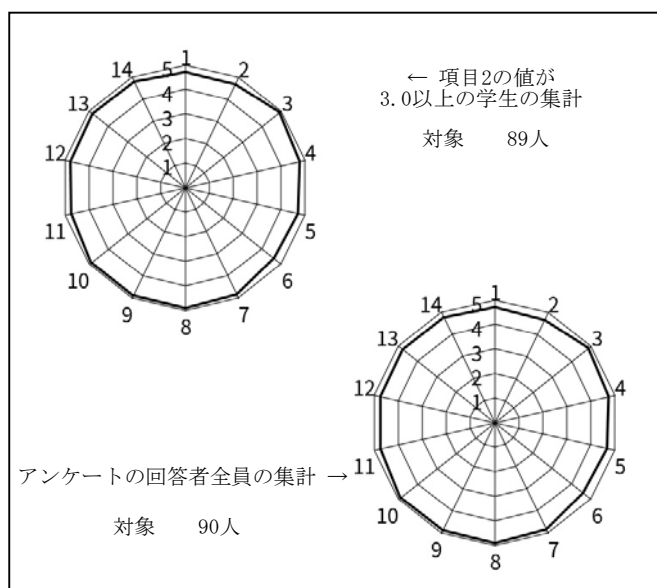


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「集団主義」と「個人」をキーワードとしながら「日本における異文化理解のあり方」を検討しました。特に注目したのは、臨床的視点からの日本における文化と人間の理解です。現在の文化研究は文化及びその中に生きる人間の問題を価値観の問題として捉える傾向があります。そして、文化と人間の多様性を価値観の多様性として捉える傾向があります。対して、本授業では、日本のセラピストの議論に依拠しながら、一人の人間という意味における「個人」として、「集団主義」とされる日本文化を生きることの必要性を強調しました。同時に、欧米的「個人」の視点から日本の文化的現実を安易に否定することが「否定したつもりになっているに過ぎない」可能性にあるという危険性を確認しました。本授業では、「独断的・独善的な感情論に流されることの危険」と「自分の意見を他者に伝えることの大切さ」を重視し、「考えること」の意義を強調しました。対応して、毎回の授業で提出を求めたリアクションペーパーでは、授業内容に関連して上記二つのポイントを評価基準としました。全体的な傾向としては、深い自己分析を伴う丁寧なリアクションペーパーを作成し続けてくれた人が一定数いました。アンケート自由記述欄の例えば「今まで受けた講義の中で一二を争うほど充実した面白い講義でした。痒い所に手が届くような内容ばかりで、夢中になって聞くことも多かったです」「通常の授業では学ぶことのできない、人間の内面に焦点を当てた講義であり、実践的である点」などのコメントを作成した人は、「考える」という本授業の環境設定を自覚し、その中で真剣に学ぶことができたのだと推測します。これらハイレベルなリアクションペーパーや授業満足度の高いコメントの存在を踏まえると、「考える」ことの意義を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。来年度は、「考える」という環境設定を維持したまま、毎回の授業内容をバージョンアップするつもりです。履修してくれた皆さん、ありがとうございました。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 就業実践研修I3
授業コード 14B06-003
教員名 樋口 貴子
教員コード 101484
登録人数 135
回答数 90
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度：

毎回提供するレジュメ等の情報量が多い中であっても、履修学生のほぼ全員に当該授業への履修目的をもって意欲的に取り組む姿勢が履修学生のほぼ全員に見られました。よって、設定していた目標を概ね到達できたと思います。

②数値データおよび自に由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

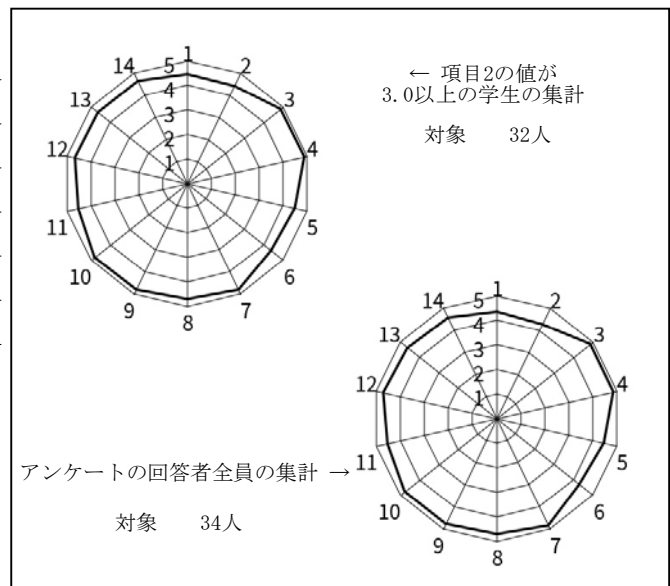
『設問6. あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか?』の回答は、他の設問の中で最も低い「4.60/5.00満点中」でした。履歴書&自己紹介書を含めた応募書類の書き方などは即実践できますが、その他の授業内容は、全7回の授業期間中に力が付くというよりは、履修後に授業で学んだことを一つずつ行動に移して実践することにより、おのずと力が付いてくるものと思います。履修学生の今後の具体的行動に期待したいと思います。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針：

大学生を取り巻く就職事情は毎年変化をしている昨今、官民間問わず人的資源管理の最前線の情報と、一人一人の学生が自分らしい未来を拓くキャリアプランニングの方策を常に意識して展開していきたいと思います。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	視聴覚メディア論
授業コード	15M09-001
教員名	宮下 十有
教員コード	103580
登録人数	123
回答数	34
回答率	27.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。開校当初に設定していた目標は「学芸員資格取得に当たって、博物館・美術館における情報・メディアの意義と活用方法とその課題を理解し、解決できる。」「博物館・美術館、および学校教育における視聴覚メディアの活用方法を理解し、活用できるようになる。」「博物館・美術館での情報提供方法、メディア活用方法についての提案ができるようになる。」である。最終的に到達目標について理解している平均値が「4.47」であった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。全体の満足度が「4.56」となっており、おおよそ満足できる内容となっていたと考える。

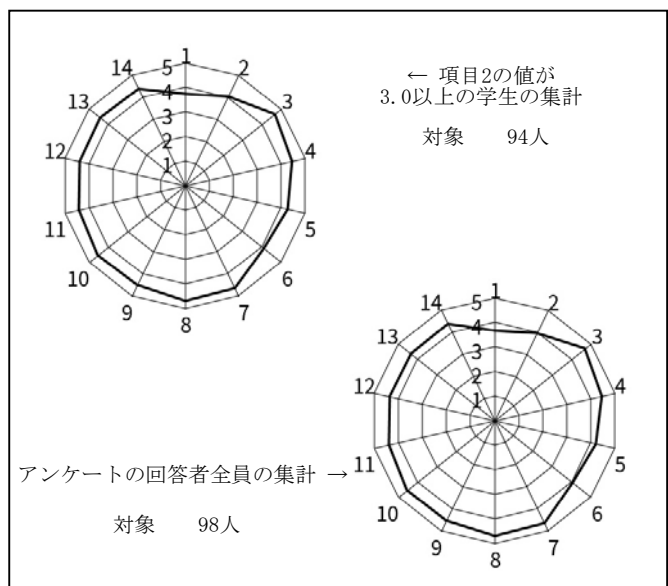
また、学生のコメントからも、「博物館のメディア利用について、実際の事例をたくさん用いて授業を行っていたので分かりやすかった。展示企画を作る期末課題が実践的なもので良かった。」「博物館学芸員の資格取得を目指しているため、展示の企画を行えたことが、とても貴重な経験となった。」など、授業と学生自身が取り組む課題、到達目標についての理解がなされていることが見て取れるコメントがあり、多くの学生にとって充実した内容となっていたと考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など理解度が「4.47」であった一方で、学生自身が力がついてきているかと思うかの平均値が「4.29」であった。身につける力が自己評価できるような自身の振り返りについての改善を進めたい。

また、自由記述にて「授業を学校に来て受けた人のみ、出席したとして認められるような出席のとり方がなされていけばよかった。」とのコメントがあった。授業内容との齟齬がある回答については授業時での確認をもとめて対応していたが、今後はより不公平感がないような対応をとることで改善を進めたい。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	生涯学習論
授業コード	15P08-001
教員名	河野 明日香
教員コード	102729
登録人数	275
回答数	98
回答率	35.6%
休講回数	4 回
補講回数	4 回

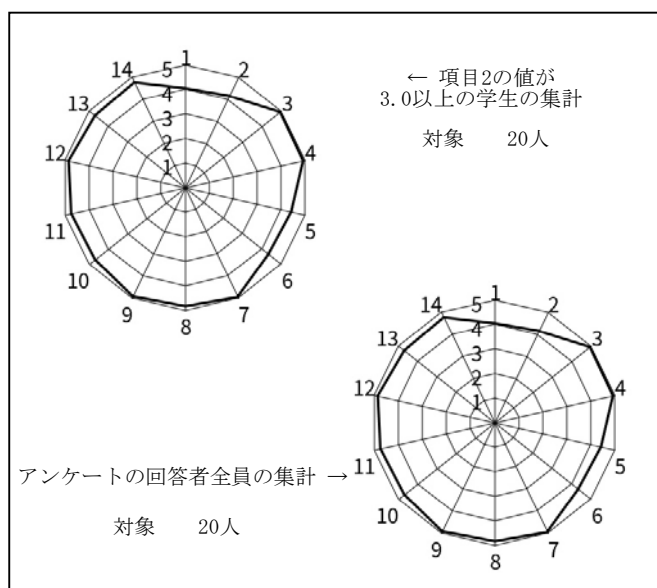


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考えている。授業評価の結果を踏まえて、今年度の受講生の評価がよかった点、改善点がはっきりしたため、来年度の授業ではさまざまな工夫をしたい。今年度の授業でも実施した配布資料の印刷については、受講者の人数も加味しながらではあるが、記入しながら受講できる点がよかったようであるので継続を検討したい。また、視聴覚資料の活用についても、授業内容の理解が深まったとの声があるため、より工夫し受講者の興味関心に合致するような資料を使用できればと考えている。課題、改善点については補講のフォローについて丁寧に、複数回にわたって行いたい。また、授業進度についても全体の理解の状況を踏まえながら検討したい。今年度は受講者数がかなり多かったため、教室環境についてのコメントも複数見受けられた。教室の規模や暖房の状況に関する指摘については、適宜担当者と相談しながらよりよい環境をつくっていきたいと考えている。

2024年度Q4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	情報資源組織演習II1
授業コード	15P11-001
教員名	小嶋 智美
教員コード	104494
登録人数	33
回答数	20
回答率	60.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、講義と演習を通して「各種情報資源の特性と特性に応じた組織化の基礎知識の習得」および「情報資源の組織化、特に主題目録に関わるツールの使い方の理解」である。全14回の講義と課題として提示した演習の内容、また履修者の演習への回答や質問内容により、本目標は到達できたと考える。

数値データについては、設問1と2を除くすべての項目が当講義の含まれる資格課程および評価対象授業全体の平均値より上であり、うち設問3, 4, 7, 9は4.9以上であった。なお、設問1は履修者自身の興味について回答する項目、設問2は当授業がシラバスで不要と明示していた予習に関する項目であることを考えると、数値データから見た評価は極めて高いと判断できる。

自由回答についても、講義での話し方や演習の進め方、配布資料、講義時間中・時間外の対応に関して好意的なコメントのみが記されていた。また、図書館以外の業種が内定している学生からは、その勤務先でも役立てることができる知識を得たとの記述があった。

本授業は演習ということもあり、常にその時点での図書館をとりまく社会状況や情報環境に応じたアップデートを行い、教員自らが新しい知見を習得し、ツールの検証を行うことが必須となる。来年度も引き続き変わらぬ姿勢で授業準備や学生への対応を行う所存である。

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(大陸哲学)
授業コード	22C67-001
教員名	星 揚一郎
教員コード	100986
登録人数	21
回答数	2
回答率	9.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

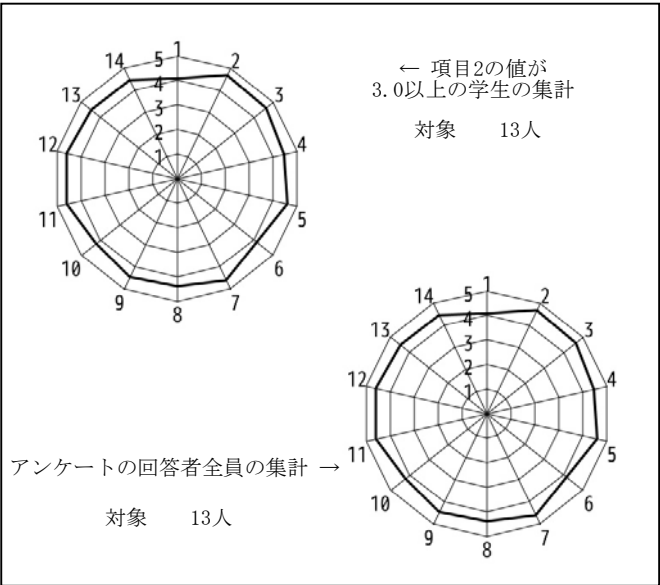
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今期の大陸哲学は、シラバスに沿って、その中心であるフッサールやハイデガーら「現象学」の基礎とハーバーマスの「生活世界の植民地化」など現代的な応用について詳しく検討しました。そのさい、多様な受講生の問題関心や具体的な時事問題など、身近な話題を織り交ぜて分かりやすく扱いました。シラバス通りかという数値については、シラバスに「学生の関心・理解度、時事的な話題により、シラバス以外のことも扱う。それを了承のうえ、受講してほしい」と書いていますので、それをふまえて回答していただきたいと思います。

期末レポートの書き方と条件も、授業のはじめにwebclassで提示して、事前に書いてきた方には個別に指導しました。個別の質問や意見にも、授業で時間をとって丁寧に答えつつもりです。それにもかかわらず、期末のレポートの出来に差がついてしまいました。人文学部以外の学生が、課題を自分のものとして引き受け、授業の核心を展開してくれたのに対して、専門に近い学生のなかに、十分に深めることができずに終わってしまった方がわずかにいました。また「自他の意見を区別し、引用には出典を明記する」ことが指導しても徹底しません。この授業は3年生以上が受講可能です。また日常的に使うAIの原語が何か分からないなど、基礎学力も低下傾向にあります。そうした基本的なことから大学ぐるみの取り組みが必要かもしれません。

2024年度Q1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語I4
授業コード	46F01-004
教員名	HAYNES Louise
教員コード	100372
登録人数	38
回答数	13
回答率	34.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

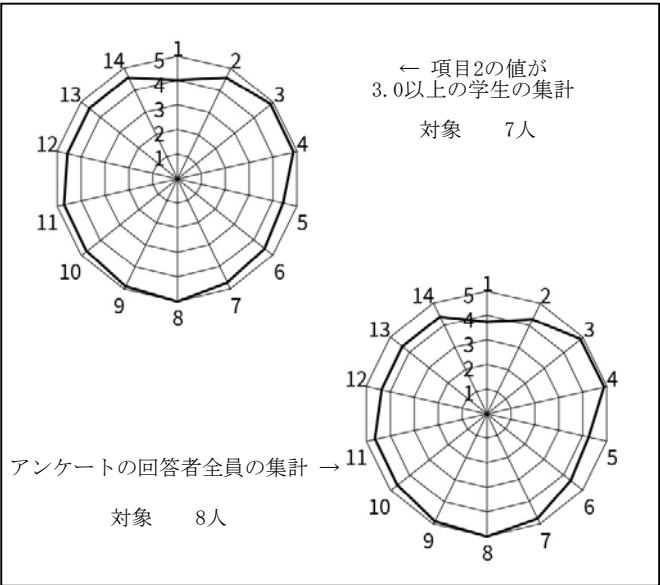


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring topics such as education and gender and diversity. The students chose which country they wanted to focus upon and each week researched about that country. In the first week, students read a book about their chosen country. From the second class, each week a different sociological theme was explored: education, health, population change, and gender and diversity. In the final class, each student gave a 10-minute presentation to two other students about the country that they had researched about. The results of the student feedback were positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, students wrote that they enjoyed learning about different countries. This year, I have incorporated discussion questions at various points in the course. More advanced students were about to engage with the topics at a deeper level. I intend to continue this in the next course. The group worked well with each other, and the students were an enjoyable group to teach.

2024年度Q 4 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語III5
授業コード	46F03-005
教員名	HAYNES Louise
教員コード	100372
登録人数	41
回答数	8
回答率	19. 5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth and the basic concepts of sociology through exploring topics such as education and gender and diversity. The students chose which country they wanted to focus upon and each week researched about that country. In the first week, students read a book about their chosen country. From the second class, each week a different sociological theme was explored: education, health, population change, and gender and diversity. In the final class, each student gave a 10-minute presentation to two other students about the country that they had researched about. The results of the student feedback were positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. In students' written comments, students wrote that they enjoyed learning about different countries. Perhaps the discrepancy between English abilities (advanced with basic) could be addressed in future classes by seating those with more advanced skills together and giving them specific questions about the content that they could discuss. Overall, teaching this course was an enjoyable experience.

南山大学「学生による授業評価」のまとめ
2024 年度

発 行 日 2025 年（令和 7 年）6 月 1 日

編集・発行 南山大学内部質保証委員会
問い合わせ 教学企画課
(kyogaku-kikaku@nanzan-u.ac.jp)

*2021 年度から本冊子の学内配付をとりやめ、大学 Web ページからの閲覧のみとする。

「学生による授業評価 まとめ」はこちら：<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyogaku/jugyohyoka/matome/>